

# 「宗教2世」当事者の実態調査

1131人の回答分析から見えてきたもの

2022年11月1日公表  
社会調査支援機構チキラボ

## 1. 調査の目的

本調査は、「宗教2世」当事者を対象に、「その体験がどういったものだったのか」「その後の人生をどう生きたのか」「いま政治に求めるものは何か」などを幅広く聞くことで、社会が「宗教2世」当事者の視点取得を行うとともに、社会で議論が必要な論点を共有することを目的としている。なお、同データを持って、宗教2世、及び宗教全般に対するスティグマを強化するようなデータ利用は控える必要がある。

## 2. 調査手法と調査対象

2022年9月9日から9月19日のあいだに、宗教2世に関するアンケート調査をウェブ上で行った。調査ツールとしては「Google フォーム」を使用。フォームを URL を拡散してもらい、当事者にリーチさせるという「スノーボールサンプリング」で行った。

調査対象は、「宗教2世当事者であると自認している人」となる。なおこの場合の「宗教2世」とは親が信仰してきた宗教・教団への入信・入団を求められた子ども世代のことを差し、3世以降の方も含んでいることをフォームでは明示している。

スノーボールサンプリングのメリットは、一般的な統計調査では回答を集めにくいような人にも、参加してもらえることだ。また、自由記述欄と組み合わせることによって、回答者の経験などを具体的に把握することが可能になる。

他方でデメリットとしては、どうしても回答者の偏りが存在することから、「日本の宗教2世」を代表させるようなデータにはならないことだ。特に参加者のなかには、「より強い被害に遭った人」や、逆に「自分の宗教には問題がないと思わせたい人」など、強い動機を持つ人がアンケートを拡散し、回答する可能性がある。

そのため本データを取り扱う際には、「日本の宗教2世のN%がこう答えた」といった、代表サンプルとしての取り扱いはできない。本報告書を報じる場合にも、「(2世)回答者のうち何割が/何人が」といった書き方が求められる。

10日間の調査では、1158件の回答が寄せられた。そのうち、アンケート文を読んだ上で回答しているかどうかを確認するために盛り込んだ項目（サティスファイサー）に対し、適切な回答を行えていなかった27件を除く、1131件の回答を分析対象とした。回答者は回答項目ごとに、「答えたくない」という選択肢も選ぶことができた。そのため、項目ごとに集計数が異なる場合がある。

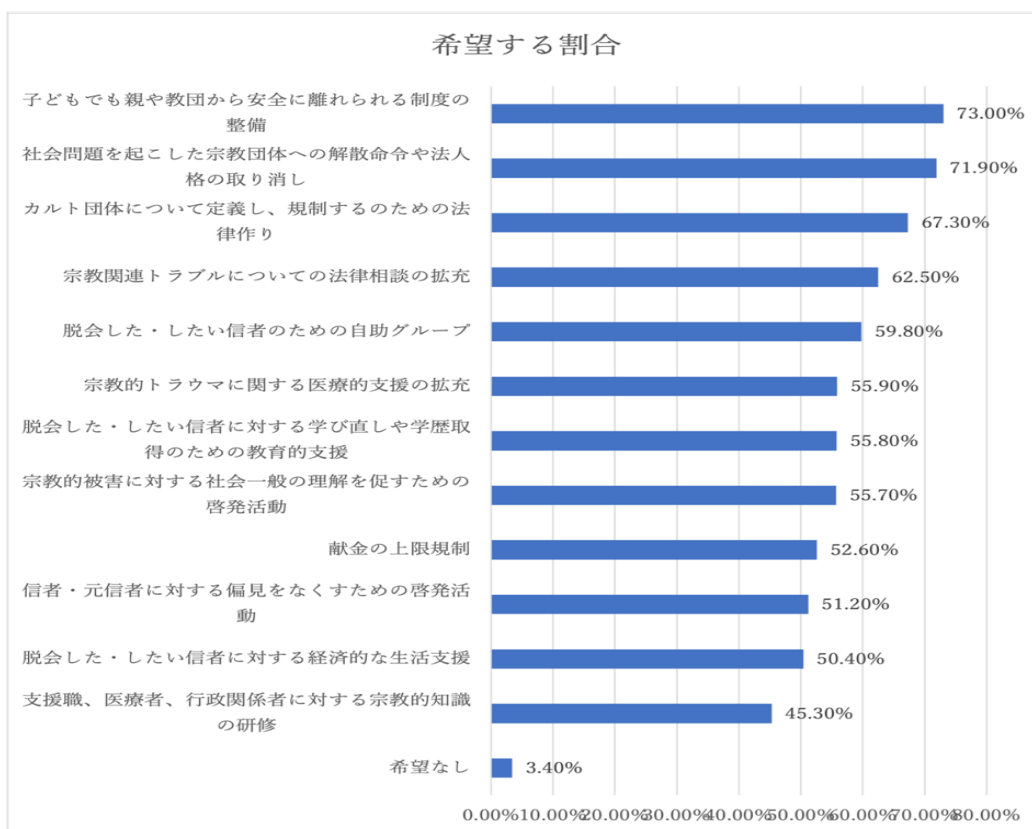
## 3. 主な回答者割合

以下の表は、回答者の分布割合である。「仏教系」「神道系」などは、複数の選択肢の中からの自己申告で入力してもらった。そのうち、上位3つを占めていた「創価学会」「エホバの証人」「旧統一教会」に関しては、任意の自由記述項目に対し、記入された団体名をアフターコーディングして集計した。この3つの団体は特に解答が多かったので分析しているが、特段、これらの団体をこそ問題視したいわけでもなければ、他の団体は問

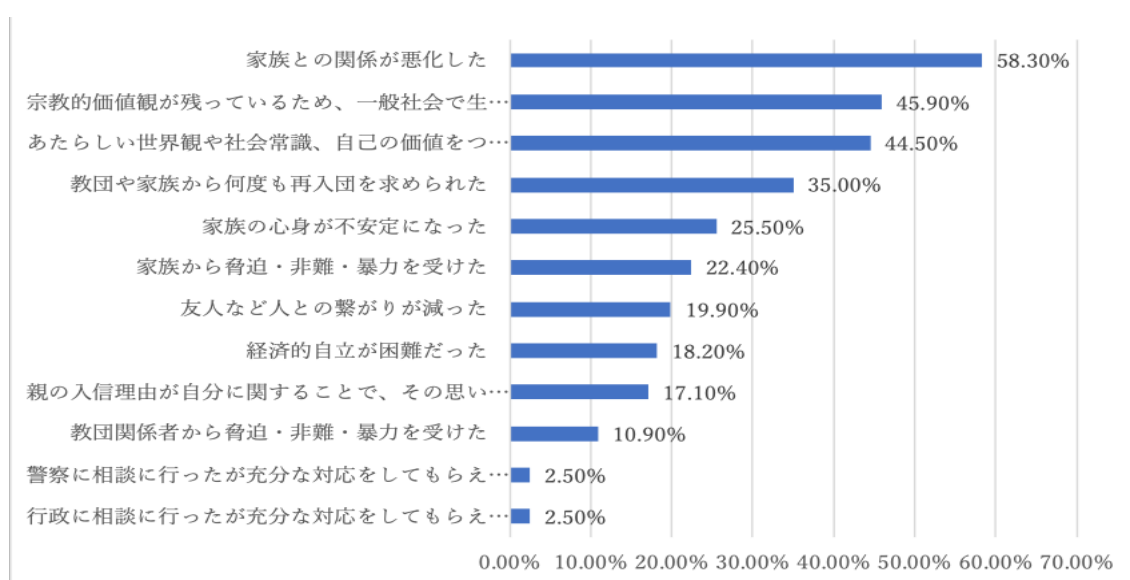
題がないと主張したいためでもないことを付言しておく。また。本報告では、特別な記述がある場合を除いては、「2世回答者」という言葉に「3世以降」も含むこととしている。

男性	女性	X ジェンダー	その他
343	741	20	12
仏教系	神道系	キリスト教系	
611	100	345	
創価学会	エホバの証人	旧統一教会	その他
428	168	47	335
2世	3世	4世以上	
604	431	65	

#### 4. 得られた主な知見・全体



・2世回答者の多くが、宗教をめぐる社会的な改善を求めている。多い順に、「子どもでも親から教団から安全に離れられる制度」(73.0%)、「社会問題を起こした宗教団体への解散命令や法人格の取り消し」(71.9%)、「カルト団体の定義と規制法」(67.3%)、「宗教トラブルについての法律相談」(62.5%)、「脱会した・したい信者のための自助グループ」(59.8%)、「宗教的トラウマに対する医療的支援の拡充」(55.9%)、「脱会した・したい信者に対する社会一般の理解を促すための啓発活動」(55.8%)、「献金の上限規制」、「信者・元信者に対する偏見をなくすための啓発活動」(51.2%)、「脱会した・したい信者に対する経済的支援」(50.4%)など、回答者の5割を超えていた。



・脱会2世回答者のうち、約6割が家族関係の悪化を経験。また4割以上が、社会生活への適応面で困難を感じた経験があった。また、多くの脱会2世回答者が、宗教的価値が残り続けていることに苦しみや違和感を抱いていた。

## 5.得られた主な知見・宗教や宗派ごとなど

・所属する宗派や宗教団体によって、「教団から要求されたこと」「家族から要求されたこと」「脱会後も残っている価値観」などは異なるが、総じてキリスト教系(旧統一教会やエホバの証人)は、性に関する規範意識やタブー意識、マイノリティに対するネガティブな体験・価値観が高かった。

・エホバ2世回答者と統一教会2世回答者の恋愛・交友関係の制限が目立った(両者とも8割以上)。旧統一教会2世回答者は大人になっても、恋愛・交友関係を制限された傾向が強い。

- ・エホバの証人2世回答者のうち、8割以上が、家族からの体罰を経験していた。またエホバ2世回答者は、他の2世回答者と比べ、大学進学率が低かった。6割以上のエホバ2世回答者は、学業や就業の面で、制限を経験していた。
- ・エホバ2世回答者は「母親のみの入信」率が最も高く、創価学会2世回答者及び旧統一教会2世回答者は、「両親ともに入信」率が高かった。
- ・エホバ2世回答者は、9割近くが「戸別訪問の勧誘」などを、教団や家族から求められていた（何度も／たまにの合計）。
- ・旧統一教会2世回答者は、「暮らしむき自己評価」が、他の2世回答者と比べて両極化していた（高所得者がターゲットになりがち or 献金で低所得となりがち or 極端な自己評価をしがちなど、理由は調査だけでは分からない）  
「献金要求」については旧統一教会2世回答者の高さが目立った。教団から要求されたという回答率は70.2%（何度も／たまにの合計）、家族から要求されたという割合（何度も／たまにの合計）は63.9%であった。
- ・多くの2世回答者は、教団や親から、さまざまな「宗教的声かけ」を受けていた。旧統一教会2世回答者は、「あなたは神や教祖に選ばれた特別な子だ」と何度も言われた経験を持つ者が多かった。このような選民意識喚起系の声かけは、ほかの「キリスト教系」一般よりも著しく高いものであった。
- ・「信心のおかげで成功できたんだね」と何度も褒められた経験は、旧統一教会2世回答者が最も少なく、逆に「不信心だから、思ったような結果にならなかったのだ（受験や就職の失敗など）」と何度も言われた経験は、旧統一教会2世回答者が最も多かった。なお「信心のおかげで成功できたんだね」との頻繁な声かけ経験が最も多かったのは、創価学会2世回答者であった。
- ・「教義に反することはしてはならない」という声かけは、エホバ2世回答者、旧統一教会2世回答者のいずれも高かった。
- ・宗教儀式、献金、活動への参加要求度合いは、全体としていずれも女性の方が男性よりも高かった。女性の方が教団、家族双方からの要求にさらされやすく、家族がその要求を高めている場合もある。
- ・宗教行事・行為への参加は全般的に要求が高めであるが、キリスト教系はよりその傾向が強い。また、キリスト教系は教団からの要求よりも家族からの要求が高い点も特徴の一つとなっている。
- ・社会から理不尽な経験を受けた割合は、どの宗教でも相応に存在するが、とりわけエホバ2世回答者において高い割合であった。
- ・政治活動への関与要求度合いは創価学会で高かった。要求度合いは教団・家族双方で高いが、特に教団からの要求が家族の要求よりも上回っている点が特徴である。
- ・9割ほどの回答者が、12歳以下の段階で「2世信者」となっていた。

・脱会時の困難や脱会後の困難、価値観での困惑（宗教の残響）は、エホバ2世回答者と統一教会2世回答者において高かった。総じてどの宗教も、家族関係の悪化と、新しい世界観を身につけることへの困難が報告されていた。

## 6.提言に関わるまとめ

・事件後、さまざまな当事者が声を上げているが、それらは決して特殊なケースでもなければ、個別家庭の問題にとどまるものでもなく、多くの2世が共有しているものであった。また、そこで求められている対策（虐待対策や自立支援他）には、多くの当事者が求めているものと重なっていることが確認できた。

・信仰の自由を奪い、信仰を口実に行われる「宗教的虐待」から、子供が離脱できる権利を確保すること。そのために、「宗教的虐待」の存在を前提とした福祉ネットワークの再構築が必要となる。

・また、問題のある宗教団体に対しては、こども救済の観点からの社会的対応が必要であることが確認された。教義に立ち入ることは信仰の自由の侵害となるが、虐待行為、及びその推奨については、反社会的行為としての介入も必要となると考えられる。

・虐待定義の拡張、消費者被害の救済、子供コミッショナーや子供シェルターの確保、教育ネグレクトなどへの介入、宗教トラウマへの広範な保険適応、社会適応プログラムなど、現代日本において不足している支援パートの拡充が必須であると考えられる。

・あまり論じられていない問題としては、しつこい再勧誘などの「宗教的つきまとい」などから、適切に距離を取れる手段を持つこと。「脱会」手続きの透明化なども重要であると考えられる。

・「2世問題は旧統一教会だけではない」「宗教法人だけではない」「いつきの問題で終わらせないでほしい」という自由記述が多かった。他方で、宗教2世問題にクローズアップされることで、宗教全般へのスティグマにつながることを懸念する自由記述も多かった。宗教全般、2世体験全般をネガティブに語るような発信には、くれぐれも注意が求められる。

## 7.項目ごとの詳細分析

### 教団から求められたこと

調査では、「家族や教団から求められたこと」として、次のようなものを聞いている。「儀式や集会、研修などの教化・教学活動への出席」「教団への献金」「社会奉仕活動への参加」「教団の関連団体への所属、就労、奉仕」「選挙集会への動員や選挙ボランティアへの参加」「選挙時における友人や知人への投票呼びかけ」「街中や個別訪問による勧誘」「友人や知人への勧誘」「毎日、祈りや読経の時間を確保すること」「自分の身体を酷使する修行（例：冷水を浴びる、火の上を歩く、長時間同じ姿勢をとる）」といったものだ。

これらの項目それぞれについて、「何度も求められた」「たまに求められた」「あまり求められなかった」「まったく求められなかった」の4件法を用いて教団と家族それぞれの要求度合いを把握している。

性別や宗教などを分けず「何度も求められた」「たまに求められた」を合算して集計したものが、図2のとおりである。なお、「無回答」「覚えていない」の件数は、分析から除外している。

### 教団から 家族から

儀式等への出席	84.2	89.9
教団への献金	42.8	34.2
社会奉仕活動への参加	36.0	30.3
教団関連団体への所属等	43.0	39.5
選挙集会への動員	31.8	22.8
知人への投票呼びかけ	35.8	27.3
街中や戸別訪問の勧誘	34.9	26.9

友人・知人への勧誘	48.2	33.4
祈りの時間確保	76.9	81.0
自分の身体を酷使修行	11.9	13.1

<図2> 「教団から求められたこと」「家族から求められたこと」の回答割合

注) 値は%。各項目「無回答・おぼえていない」を分析から除外しているが、各項目の「無回答・おぼえていない」のケース数が異なる。おおむね分析対象のケース数は1100件前後となっている。

こうしてみると、興味深い点がいくつもある。たとえば「選挙集会への動員」「知人への投票呼びかけ」「友人・知人への勧誘」は、教団が行うほどには家族は求めている。一方で「祈りの時間の確保」については、日常をともに過ごす家族のほうが、より求める傾向があるようだ。

では、性別や宗教、教団ごとの違いはどうだろうか。いくつか特徴的な傾向を列挙していこう。

まず、性別ごとに見てみる。

宗教儀式への参加、献金の要求、活動への参加を高い頻度で求められる割合は、いずれも女性のほうが男性よりも割合が高かった。また、女性のほうが教団、そして家族双方から、高い頻度の要求にさらされやすかった。多くの教団では、女性は男性ほど指導的地位を与えられない傾向があるが、その一方でさまざまな「献身」は、男性以上に参加を求められている。

次に、宗教ごとに見ていくが、このレポートでいう「仏教系」「神道系」「キリスト教系」の分類は、回答者の申告によるものであること、そして伝統宗教一般の「仏教」「神道」「キリスト教」の各宗派を代表するものではないことは、重ねて注意しておく。さらに「イスラム系」がデータにないのは、該当する回答者が1人しかおらず、分析可能な量が確保できなかったためだ。

「儀式等への出席」や「祈りの時間の確保」といった宗教行事・行為への参加は、全般的に要求頻度が高くなる傾向がある。特にキリスト教系は、その傾向が強い。またキリスト教系は、教団からの要求頻度よりも家族からの要求頻度のほうが高いのも特徴のひとつだ。

政治活動は仏教系で要求頻度がかかなり高い。これは後述するように、創価学会の割合が高いこともあるだろう。政治活動は、家族よりも教団からの要求頻度が強い様子がわかる。



献金への要求頻度については、キリスト教系で高めにしている。また、「街中や訪問での勧誘」についても、キリスト教系の要求が圧倒的に高い。「友人への勧誘」の、教団からの要求頻度については、仏教系とキリスト教系とで同程度である。ただし、仏教系のほうが、教団からの要求頻度が、家庭での要求頻度よりも高めにしがちであった。教団は「教えのために頑張れ」と鼓舞するが、家族は「ぎくしゃくしてまで友人を勧誘する必要はない」と遠慮するという構図が見て取れる。

教団ごとの結果はどうだろうか。

宗教行事、行為などへの関与要求頻度は、エホバの証人が高かった。一方、「献金」と「身体を酷使する修行の要求」については、統一教会の要求頻度が教団においても、家族においても、他教団と比べずば抜けて高い。特に教団からの要求頻度は、他教団よりも40ポイントほど高かった。

一方で、政治活動への関与要求頻度は、創価学会がかなり高かった。教団・家族ともに高いが、特に教団からの要求頻度が、家族の要求頻度よりも上回っている点が特徴だ。

勧誘活動の要求頻度については、エホバの証人が圧倒的に高い。一方で、友人への勧誘については、エホバも高いが創価も高かった。そして両者ともに、家族よりも教団からの方の要求頻度の方が高めにしている。

こうした要請を、家族や教団から受ける期間はどの程度か。調査では、「信仰に関連する行事などへの参加」について家族が強要した期間について「0-5歳」「6-9歳」「10-12歳」「13-15歳」「16-19歳」「20歳以降」「強要されたが時期は覚えていない」「強要されたことはない」という選択肢を用意し、複数回答をしてもらうかたちで、その期間も調べている。

行事への参加強要は、約半数の人で幼少期からスタートするが、その経験率は概して、男性よりも女性の方が、年齢が上がっても高くなる傾向があった（「16-19歳」時点の強要経験率は男性で29.4%だが、女性では41.3%）。

エホバは幼少期から行事への参加を強要する傾向にあるものの、成人以降の強要が減少する（「16-19歳」時点44.6%→「20歳以降」23.2%）。その一方で、旧統一教会については、成人後の強要経験率が高いままで維持される傾向が強い（「16-19歳」時点40.4%→「20歳以降」31.9%）。

このように、宗教、教団によっても、性別によっても、「宗教2世」としての体験には、共通点もあれば差異もあることが分かる。また、これはあくまで回答者の傾向であって、個人ごとの体験にも大きな違いがあることにも留意が必要だろう。

### 体罰や価値観の強要

さらに調査では、先ほど言及した「信仰に関連する行事などへの参加」以外にも、家族に強要されていたことについて、いくつかの項目を尋ねている。

具体的には、「信仰を理由にした体罰」「信仰を理由とした恋愛や交友関係の制限」「信仰を理由とした学業や職業選択の制限」の3つ。これらについて、家族が強要した期間を「0-5歳」「6-9歳」「10-12歳」「13-15歳」「16-19歳」「20歳以降」「強要されたが時期は覚えていない」「強要されたことはない」という選択肢で該当する期間に回答してもらう（複数選択可能）方式で把握した。全体の結果は、図3の通りであった。

図3 > 信仰を理由とした理不尽体験の年齢分布

	行事参加強要	体罰	恋愛・交友制限	学業・就業制限
0-5歳	49.7	14.4	11.5	6.4
6-9歳	67.1	18.2	17.6	8
10-12歳	65.9	14.3	20.2	9.9
13-15歳	55.6	8.7	21.4	13.3
16-19歳	37.8	4.7	20	16
20歳以降	22.9	1.9	14.9	6.4
時期を覚えていない	1.7	1.7	2.4	1.9
強要されていない	17.9	75	66	76

※注) 値は%。「無回答」を分析ケースに含めている。N=1131

全体としてキリスト教系は、ほかの宗教と比べて、体罰をはじめ、各種の強要経験が多かった。ただ、仏教系などでも、一定の経験率があるのは見逃せない。体罰を教団として強く勧めているわけではない宗教であったとしても、「宗教を理由とした体罰」が信者や家族の中で行われる可能性はあり、それを体験した2世も間違いなくいる。

年齢ごとに見てみよう。どの宗教も、「行事参加強要」および「体罰」については、6-9歳をピークに減少していく。教団ごとに見ると目立つのが、エホバの証人の体罰経験率

の高さであった。なお、体罰経験について、男女間で大きな差はなかった。一方で、行事参加の強要は、女性の方が年齢が上がっても強要され続ける可能性が示唆された。

学業や就業の制限についても、エホバの証人が最も多い。エホバの場合、高等教育を受けることなどに、否定的な価値観を伝えられることになる。他方で、制限が少ない創価学会の回答者でも、「創価系の学校に入りなさい」と繰り返し求められたことがプレッシャーであったという記述も多くあった。恋愛制限については、後で触れることとする。

<図4> 「信仰を理由にした強要」を受けた経験の宗教間比較

		仏教系 n=611	神道系 n=100	キリスト教系 n=345
行事参加強要	0-5歳	43.5	48	62.6
	6-9歳	64	69	74.8
	10-12歳	62.0	67	73
	13-15歳	52.0	57	62
	16-19歳	37.0	39	38.3
	20歳以降	23.4	30	19.4
	時期を覚えていない	1.8	3	0.9
	強要されていない	21.3	16	12.8
体罰	0-5歳	3.9	3	35.9
	6-9歳	5.9	7	43.8
	10-12歳	5.2	6.0	32.2

	13-15 歳	3.4	4.0	18.0
	16-19 歳	2.9	3.0	6.7
	20 歳以降	2.0	1.0	1.4
	時期を覚えていない	1.3	1.0	2.0
	強要されていない	89.0	88.0	48.1
学業・就業制限	0-5 歳	2.3	0.0	15.9
	6-9 歳	2.9	1.0	18.8
	10-12 歳	5.2	1.0	20.9
	13-15 歳	7.0	6.0	26.7
	16-19 歳	8.2	14.0	27.5
	20 歳以降	3.6	2.0	12.5
	時期を覚えていない	1.1	0.0	3.5
	強要されていない	85.6	79.0	58.0

※注) 値は%。「無回答」を分析ケースに含めている。

<図5> 信仰を理由にした強要」を受けた経験の教団間比較

	創価学会 n=428	エホバの証人 n=168	旧統一教会 n=47

行事参加強要	0-5 歳	45.3%	70.2%	51.1%
	6-9 歳	68.2%	87.5%	61.7%
	10-12 歳	65.7%	85.1%	61.7%
	13-15 歳	52.6%	78.0%	48.9%
	16-19 歳	35.7%	44.6%	40.4%
	20 歳以降	22.2%	23.2%	31.9%
	時期を覚えていない	0.9%	0.0%	4.3%
	強要されていない	20.1%	4.2%	17.0%
体罰	0-5 歳	4.2	63.1	12.8
	6-9 歳	7.0	75.0	12.8
	10-12 歳	5.6	52.4	10.6
	13-15 歳	3.7	29.2	6.4
	16-19 歳	3.7	8.9	4.3
	20 歳以降	2.6	1.2	4.3
	時期を覚えていない	1.6	1.2	4.3

	強要されていない	87.9	16.7	72.3
学業・就業制限	0-5歳	2.3%	25.6%	6.4%
	6-9歳	3.7%	29.8%	6.4%
	10-12歳	6.3%	33.9%	6.4%
	13-15歳	7.2%	43.5%	8.5%
	16-19歳	8.4%	45.8%	8.5%
	20歳以降	2.8%	20.2%	6.4%
	時期を覚えていない	1.6%	4.2%	4.3%
	強要されていない	84.6%	33.3%	87.2%

※注) 値は%。「無回答」を分析ケースに含めている。

### 差別や不適應の体験

調査ではさらに、「信者であることが理由で、学校や友人、恋人や会社・職場などから、理不尽な対応をされたと感じたことはありましたか」という問いを設けている。それに対する回答は図6の通りである。

男女差に目立ったものはなかったが、「Xジェンダー」の場合、理不尽体験が多く報告されていた。また、宗教ごとに比較した場合、キリスト教系が最も多く理不尽な思いをしたという経験を報告していた。さらに教団ごとに見ると、「エホバの証人」2世回答者が、社会との軋轢を最も多く感じていた。

社会との摩擦は、2世当事者に対し、さまざまな緊張や葛藤を与え、世界観を揺れ動かせるイベントとなる。信仰を続けるにせよ脱会するにせよ、そうした不適應体験によってメンタルヘルスを悪化させることがないように、さまざまなケアを提供できる社会であることが求められる。

また、2世問題を論じる場合は、宗教そのものへのスティグマを強化するような仕方ではないように配慮が必要となる。そうしたスティグマは、さまざまな2世の相談なども困難にさせる。

<図6> 「信者であることが理由で、学校や友人、恋人や会社・職場などから、理不尽な対応をされたと感じたこと」の経験比率

	全体	男性 (n=343)	女性 (n=741)	Xジェンダ ー(n=20)	仏教系 (n=611)	神道系 (n=100)	キリスト 教系 (n=345)
頻繁に あった	6.7	7.3	6.1	20.0	4.7	2.0	11.3
たまに あった	24.7	26.8	23.5	20.0	24.2	18.0	28.4
あまり なかつ た	21.7	22.4	21.2	25.0	21.8	21.0	23.8
まったく なかつ た	35.3	35.6	36.0	20.0	37.8	50.0	26.1
おぼえ ていな い	8.9	6.1	10.3	5.0	8.8	6.0	8.1
無回答	2.7	1.7	3.0	10.0	2.6	3.0	2.3

※注) 値は%。

<図7> 「信者であることが理由で、学校や友人、恋人や会社・職場などから、理不尽な対応をされたと感じたこと」の教団間比較

\*質問：信者であることが理由で、学校や友人、恋人や会社・職場などから、理不尽な対応をされたと感じたことはありましたか。

		創価学 会 n=428	エホバの証 人 n=168	旧統一教 会 n=47
Q32 周囲からの理不尽な 対応	頻繁にあった	5.1	19.0	10.6
	たまにあった	27.1	36.9	21.3
	あまりなかった	23.6	25.6	12.8
	まったくなかつ た	33.2	11.9	36.2
	おぼえていない	9.3	4.8	10.6
	無回答	1.6	1.8	8.5

※注) 値は%。

宗教はさまざまな体験の積み重ねで、身体化されている。それは宗教リーダーの説法や、経典の熟読、信じがたい神秘体験だけではない。2世たちは、信者集団からの声かけや家族からの宗教教育などにより、世界観や価値規範を身に付ける。

そこでチキラボの調査では、家族や教団から行われる、さまざまな「声かけ」を想定し、声かけ頻度を「何度も言われた」「たまに言われた」「あまり言われなかった」「全く言われなかった」の4件法を用いて調査した。そのうち、「何度も言われた」と答えた割合を、図8に示した。

それぞれの教義の違いなどは、宗教を研究する専門家により、さまざまに比較検討することが行われている。他方で「実際に教団や親からどのような声かけをされたのか」という調査は、宗教実践の中で何が重視され、とりわけ2世にどのような世界観が埋め込まれているのかを理解する助けになる。

旧統一教会2世回答者は、教団や家族から、「あなたは神や教祖に選ばれた特別な子だ」と何度も言われた経験を持つ者が多かった。このような選民意識喚起系の声かけは、ほかの「キリスト教系」一般よりも著しく高いものであった。



また、「信心のおかげで成功できたんだね」と何度も褒められた経験は、統一教会が最も少なく、逆に「不信心だから、思ったような結果にならなかったのだ（受験や就職の失敗など）」と何度も言われた経験は、統一教会が最も多かった。なお「信心のおかげで成功できたんだね」との頻繁な声かけ経験が最も多かったのは、創価学会だった。

2世への声かけは、「賞賛的な誘導」と「非難的な誘導」という、相補的な手段が用いられていた。こうした手段は、飴とムチのようなものである。これに対し自由記述では、「頑張らなければ自分のせいで、頑張ったら神のおかげ。自分の努力が軽視されているように感じた」といった声もみられた。

また現世利益を追求する宗教の場合、「賞賛的な誘導」が多用され、原罪の払拭や来世利益が重視される宗教の場合、「非難的な誘導」が多用される可能性もあるだろう。こうした声かけのあらわれ方は、教義や教団風土とも根深く関わっていそうだ。

このほかエホバの証人は、「教義に反することはしてはいけないと言われた」「科学的知識や学校で学んだことは間違っているとされた」「教義を理由に、特定の学校行事に参加してはいけないと言われた」といった、「非適応を促す声かけ」の頻繁な経験が著しく高かった。また「不信心なままだと、あなたが不幸になる」といった、恐怖心の刺激頻度も高かった。

こうした行動制限を招く声かけは、社会生活を営む上で、さまざまな葛藤を2世に体験させる。たとえば友人や教員から言われたことと、教団や家族から言われたことの間には板挟みとなり、時には双方からの攻撃の矢面に立たされることになる。

ほかにも2世は、さまざまな声かけを、若い頃から浴び続ける。そこで形成された価値や世界観が、脱会後などにどういう影響を与えるかは、Session 3で読み解いていきたい。

**<図8> 「教祖や教団の信者から言われたこと」「家族から言われたこと」についての比較**

	仏教系 n=611	神道系 n=100	キリスト教系 n=345	創価学会 n=428	エホバの証人 n=168	旧統一教会 n=47
Q21_A (教団の声かけ) 信者でない人々よりもあなたは優れているのだと言われた	21.8	11.0	35.7	24.5	47.0	59.6
Q21_B (教団の声かけ) あなたは神や教祖に選ばれた特別な子だと言われた	12.3	15.0	22.3	13.8	16.1	70.2

Q21_C (教団の声がけ) 他の信者も頑張ってるから君もがんばれと言われた	28.6	17.0	34.5	32.0	53.0	40.4
Q21_D (教団の声がけ) 教義に反することはしてはいけないと言われた	32.6	25.0	64.3	35.0	88.7	76.6
Q21_E (教団の声がけ) 科学的知識や学校で学んだことは間違っているとされた	3.9	12.0	42.0	3.3	66.1	31.9
Q21_F (教団の声がけ) 教義を理由に、特定の学校行事に参加してはいけないと言われた	5.6	2.0	47.8	6.3	89.3	4.3
Q21_G (教団の声がけ) 「信心のおかげで成功できたんだね」と褒められた	50.9	45.0	39.4	54.7	53.0	42.6
Q21_H (教団の声がけ) 「不信心なあなたのせいで、家族が不幸になる」と言われた	17.7	22.0	19.4	16.1	26.2	36.2
Q21_I (教団の声がけ) 「不信心なままだと、あなたが不幸になる」と言われた	26.7	27.0	31.0	26.9	46.4	38.3
Q21_J (教団の声がけ) 「不信心だから、思ったような結果にならなかったのだ(受験や就職の失敗など)」と言われた	21.1	20.0	16.5	20.8	21.4	29.8

Q22_A (家族の声かけ) 信者でない人々よりもあなたは優れているのだと言われた	15.2	12.0	24.9	16.4	31.0	48.9
Q22_B (家族の声かけ) あなたは神や教祖に選ばれた特別な子だと言われた	8.8	14.0	19.1	9.3	13.1	57.4
Q22_C (家族の声かけ) 他の信者も頑張ってるから君もがんばれと言われた	22.9	21.0	29.9	25.5	44.0	29.8
Q22_D (家族の声かけ) 教義に反することはしてはいけないと言われた	31.1	27.0	66.4	33.4	86.3	74.5
Q22_E (家族の声かけ) 科学的知識や学校で学んだことは間違っているとされた]	4.9	15.0	38.6	4.7	59.5	23.4
Q22_F (家族の声かけ) 教義を理由に、特定の学校行事に参加してはいけないと言われた	9.5	6.0	48.1	11.2	87.5	4.3
Q22_G (家族の声かけ) 「信心のおかげで成功できたんだね」と褒められた	42.6	38.0	30.1	46.5	38.7	34.0
Q22_H (家族の声かけ) 「不信心なあなたのせいで、家族が不幸になる」と言われた	17.0	14.0	18.6	16.8	25.0	31.9
Q22_I (家族の声かけ) 「不信心なままだと、あなたが不幸になる」と言われた	29.0	26.0	29.9	29.4	43.5	34.0

Q22_J (家族の声がけ) J, 「不信心だから、思ったよう な結果にならなかったのだ (受験や就職の失敗など)」 と言われた	24.5	23.0	17.7	24.8	21.4	25.5
--	------	------	------	------	------	------

※注) 値は%。「無回答」を分析ケースに含めている。

### 信仰に疑問に抱いたタイミング

調査ではさらに、回答者が「2世信者」になった時期、初めて教団の教えや活動に疑問を抱いた時期、初めて家族や他人に教団への疑問を口にした時期、初めて信仰をやめようと思った時期、そして脱会した時期を尋ねた。選択肢としての時期は「12歳以下」「13-18歳」「19-22歳」「23歳以上」「あてはまる時期はない」としたが、このうちあてはまる時期を1つだけ選択してもらった。

ほとんどの回答者は、12歳以下という若い時期に「2世信者」となっている。そして成人になるまでの間に、信仰に疑問を持つという経験を持ち、それを口にするという経験をもっている。

2世信者の脱会プロセスには、「2世信者として宗教教育を受ける→疑問を抱く→疑問を口にし、不満を募らせる→実際にやめようとする→脱会」という大まかな流れがあることが確認できる。ただこれはあくまで傾向であり、順番は人によって異なる場合もある。

他方で回答者の中でも、脱会していないという人の割合は相応に多い。内実は教団ごとの分析で細かく見てみよう。

### <図9>教団との距離に関する年齢分布

Q34_A 「2世信者」になった時期	12歳以下	88.9
	13-18歳	4.0
	19-22歳	1.1
	23歳以上	1.1

	あてはまる時期はない	3.6
	無回答	1.2
Q34_B はじめて疑問を抱いた時期	12 歳以下	34.0
	13-18 歳	35.5
	19-22 歳	12.1
	23 歳以上	8.2
	あてはまる時期はない	8.8
	無回答	1.3
Q34_C はじめて疑問を口にした時期	12 歳以下	18.9
	13-18 歳	33.8
	19-22 歳	16.3
	23 歳以上	13.1
	あてはまる時期はない	14.9
	無回答	3.0
	12 歳以下	14.5

Q34_D はじめて信仰をやめようと思った時期	13-18 歳	29.0
	19-22 歳	15.5
	23 歳以上	16.8
	あてはまる時期はない	20.6
	無回答	3.6
Q36 脱会時期	12 歳以下	2.8
	13-18 歳	12.2
	19-22 歳	9.5
	23 歳以上	12.3
	脱会はしたが時期はおぼえていない	4.2
	脱会していない	56.3
	無回答	2.7

※注) 値は%。N=1131

疑問を抱くタイミングや脱会率について、男女差はほとんどみられない。ただし、「Xジェンダー」「その他」の性別を選んだ人については、疑問を抱いた時期が総じて早く、脱会率も高かった（疑問を抱いた時期「12歳以下」43.8%、「13-18歳」40.6%：脱会率56.3%）。

創価学会、エホバの証人、旧統一教会それぞれの2世回答者を比較すると、初めて疑問を抱いたタイミングはエホバの証人が最も早く、5割近く（47.6%）の2世が12歳以下

で疑問を持っていた。他方で旧統一教会は、13-18歳で疑問を抱く者が最も多かった(48.9%)。エホバの場合は体罰の教義などが、旧統一教会の場合は思春期における恋愛禁止の教義などが、2世に疑問を抱かせるきっかけのひとつになっている可能性がある。

創価学会も、宗教に疑問を抱いたり、口にした割合は、ほかの宗教と大きく変わらない。ただし、実際の脱会率は、他宗教よりも大きく下がる。エホバ2世回答者の脱会率が88.7%、旧統一教会2世回答者の脱会率が57.8%であるのに対し、創価学会2世回答者の脱会率は29.8%であった。これが、宗教全体回答者の平均値を大きく引き下げていた。

「不満は抱くも、辞めない創価2世」という傾向は、特徴的だ。

戦後の新興宗教は、人口増加や人口移動を背景に、その信者数を拡大していった。他方で現代では、人口減少に加え、新興宗教に対する警戒心が高まっている。また、政治環境、経済環境、メディア環境などの変化によって、「困りごとや孤立感に対する、宗教以外の対処レパートリー」が増えている。そのようななかでは、勧誘活動による信者拡大路線には限界がある。

だからこそ宗教団体のなかには、世俗化を通じて、「ゆるい信心」を許容し、そのことで組織を維持する方向へとシフトするものもあれば(たとえば「パワースポット」「御朱印集め」などのスピリチュアル観光化といった、「ゆるい呪術ビジネス」も含む)、2世らの離脱率を下げるため、囲い込みを強化するものも出てくる。

宗教は社会を超越するような世界観や体験提供手段を持つが、いかなる宗教も、社会の枠内での共生を模索する必要がある。いかに宗教活動の自由があっても、個々人の自由や権利、とりわけ子どもの尊厳を制限する権利は持たない。2世たちに、宗教に対する積極的自由(好きな信心を持つ自由)だけでなく、宗教に対する消極的自由、すなわち「宗教への関与度を自分で選び、なおかつ好きな時に離脱する自由」が、実際に確保されているかどうか。私たちの社会は、そのことを直ちに点検しなくてはならないだろう。

### 恋愛や交友関係の制限

調査では、「恋愛・交友関係の制限」について、その経験時期をたずねている。経験時期は複数回答可能となっている。その傾向について説明したい。

「恋愛・交友関係の制限」について宗教ごとに見ると、キリスト教系が「13-15歳」、神道系が「16-19歳」、仏教系が「20歳以降」にピークを迎えていた。なぜこのような差が生じるのか。

自由記述からは、キリスト教系は、恋愛や性愛感情そのものを否定するために、思春期の頃から介入を強めるケースが多かった。一方で仏教系は、「結婚するなら同じ宗教の人と」「本気で交際するなら相手を勧誘しなさい」といった具合に、成人後の振る舞いについて介入されるケースも少なくなかった。

教団ごとに見てみよう。創価学会と比べると、エホバの証人および旧統一教会において、恋愛などの制限経験が多いことがわかる。興味深いのは、エホバの証人の場合、恋

愛・交友関係の制限のピークが10-12歳であるのに対し、旧統一教会の場合は16-19歳である。また旧統一教会の場合、ほかの教団と比べて、成人以降も介入を受ける者の比率が高い。

自由記述を見る限り、エホバの証人が、デート行為そのものに厳しく介入するのに対し、旧統一教会は婚前のセックスに厳しく介入する傾向がある。そうした教義のあり方も数字に反映されていそうだが、そのほかさまざまな「教団文化」や「教会風土」もまた、年齢傾向の影響を与えているだろう。

性別に着目した場合、20歳以降の恋愛・交友関係の制限についてはわずかではあるが女性の方が経験率が高い（男性11.1%、女性16.2%）ことから、その介入期間は男性よりも長くなる可能性が示唆される。家父長的な教義が、とりわけ女性の婚姻などに対して持続的に影響を与えるというのは、現代でも温存されているのかもしれない。

#### <図 10>

■ 「信仰を理由にして、あなたの恋愛や交友関係の制限を、家族はあなたに行っていましたか。行っていた場合、どの時期でしたか。あてはまるところをすべてチェックしてください」に対する回答比率

		仏教系 n=611	神道系 n=100	キリスト教系 n=345
恋愛・交友制限	0-5歳	2.9	1.0	30.1
	6-9歳	4.4	8.0	44.3
	10-12歳	5.7	9.0	49.3
	13-15歳	6.2	11.0	51.9
	16-19歳	6.9	12.0	46.4
	20歳以降	10.0	7.0	26.1
	時期を覚えていない	2.0	2.0	2.9



	強要されていない	83.1	79.0	32.2
--	----------	------	------	------

※注) 値は%。無回答を分析ケースに含んでいる。

<図 11>

		創価学会 n=428	エホバの証人 n=168	旧統一教会 n=47
恋愛・交友制限	0-5歳	2.8	42.9	40.4
	6-9歳	4.9	63.7	53.2
	10-12歳	6.3	70.2	66.0
	13-15歳	6.1	69.6	70.2
	16-19歳	6.8	55.4	72.3
	20歳以降	9.8	29.2	55.3
	時期を覚えていない	1.4	1.8	2.1
	強要されていない	83.9	16.1	12.8

※注) 値は%。無回答を分析ケースに含んでいる。

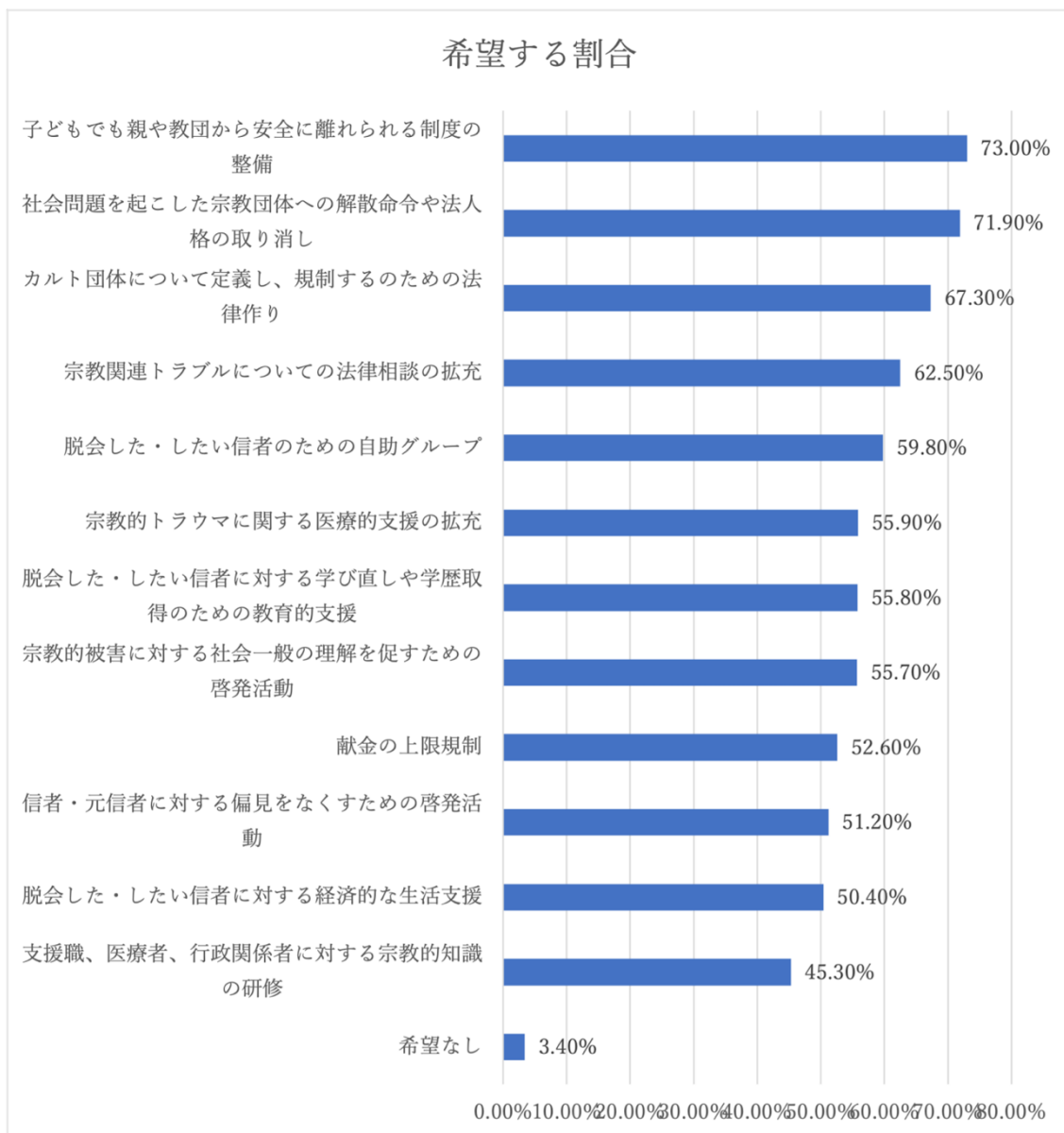
## 2世が社会に求める対策

では、2世たちはどのような支援を求めているのだろうか。図 12 によれば、多くの2世が複数の支援項目の充実を求めている。

旧統一教会に関する議論では、解散命令や献金上限などが特に注目されるが、最も多かったのは、「子どもでも親や教団から安全に離れられる制度の整備」、すなわち、宗教的虐待を経験することなく「信じない自由」を実質的に確保的できるような社会制度であった。また、法律相談、自助グループなど、宗教について相談できる、家や教団以外の場所を求める回答者の割合も高かった。

どのような家に生まれようと、「繋がり直せる社会」。そのためのライフラインを作ることは、急務であると言えるだろう。

<図 12> 「『宗教2世』やその家族のための支援や法整備について、以下のうち、あなたが必要と思うものはどれですか。希望するものすべてにチェックください」に対する回答比率



※注) 数値は%。無回答を分析ケースに含んでいる。N=1131。各項目について該当するものを複数選択してもらった。

## 宗教的声かけ

アンケートでは、性差別に関わるような教義や声かけを経験したかどうかについて尋ねている。設問は、具体的には次のようなものだ。それぞれ「頻繁にあった」「たまにあった」「あまりなかった」「まったくなかった」「わからない」「覚えていない」いずれかに回答してもらった。

教団の教えや活動のなかで、「男性はこうあるべき」「男性はこうあってはならない」と言われた、あるいは見聞きしたことはありましたか。

教団の教えや活動のなかで、「女性はこうあるべき」「女性はこうあってはならない」と言われたこと、あるいは見聞きしたことはありましたか。

回答はどのような傾向であったか。以下の図では「頻繁にあった」「たまにあった」の割合のみ示している。

まず全体として、この規範に関わる経験を記憶している人のなかでは、男性よりも女性のほうが、自身の性に関わる規範を言われた経験・目撃経験が多い傾向にあった。Xジェンダー・その他の人に関しては、ケース数が限られているものの、全体として高い数字が示された。

宗教ごとに比べると、仏教系よりキリスト教系のほうが、性的マイノリティに対するネガティブな言動の経験・目撃経験が多い傾向にある。教団別に見ると、創価学会と比べ、エホバの証人と旧統一教会のほうが、男女役割別規範を強く求められ、かつ性的マイノリティに対する否定的な表現に触れた割合が高い。

<図13>性別に対する役割意識に関する「教え」の経験率

	仏教系			神道系			キリスト教系		
	性別3区分						性別3区分		
	男性	女性	Xジェンダー・	男性	女性	Xジェンダー・	男性	女性	Xジェンダー・

				その他			その他			その他
		n=184	n=408	n=12	n=30	n=66	n=3	n=116	n=211	n=13
Q15 男らしさに関する 教団の教えや活動	頻繁にあった	10.2	16.9	57.1	7.7	23.1	33.3	42.1	52.6	30.0
	たまにあった	22.3	18.2	14.3	38.5	28.8	33.3	22.4	18.9	20.0
Q17 女らしさにかかわる 教団の教えや活動	頻繁にあった	12.3	30.7	50.0	8.0	28.1	66.7	45.9	56.7	60.0
	たまにあった	24.0	21.7	37.5	32.0	31.6	0.0	24.5	23.2	10.0
<図14>										

		創価学 会			エホ バの 証人			旧統一 教会		
		性別 3 区分			性別 3 区 分			性別 3 区分		
		男性	女性	X ジ ェン ダ ー・ その 他	男性	女性	X ジ ェン ダ ー・ その 他	男性	女性	X ジ ェン ダ ー・ その 他
		n=14 3	n=27 2	n=8	n=6 1	n=10 0	n=4	n=16	n=28	n=2
Q1 5 男ら しさ に関 わる 教団 の教 えや 活動	頻 繁 にあ った	11.7	18.3	50.0	53.6	73.3	0.0	60.0	65.2	50.0
	た まに あ った	21.7	16.8	25.0	28.6	18.6	100. 0	13.3	17.4	0.0
Q1 7 女ら しさ にか かわ	頻 繁 にあ った	11.6	29.4	40.0	58.0	79.3	100. 0	75.0	66.7	50.0

る教 団の 教え や活 動	た ま に あ っ た	26.8	21.6	60.0	30.0	15.2	0.0	0.0	25.0	0.0
---------------------------	----------------------------	------	------	------	------	------	-----	-----	------	-----

※注) 値は%。無回答は分析から除外。

査では、「教団の教えや活動のなかで、同性愛やトランスジェンダーなどの性的マイノリティについて、何か否定的なことを言われた、あるいは見聞きしたことはありましたか」という質問を行っているので、その分析を紹介したい。

なお、この質問に対しては「頻繁にあった」「たまにあった」「あまりなかった」「まったくなかった」「わからない・おぼえていない」のいずれかの選択肢に回答してもらった。以下の図では「頻繁にあった」「たまにあった」の割合のみ示している。

宗教ごとに比べると、特にキリスト教系のほうが、性的マイノリティに対するネガティブな言動の経験・目撃経験が多い傾向にあった。教団別に見ると、創価学会と比べ、エホバの証人と旧統一教会の方が、男女役割別規範を強く求められ、かつ性的マイノリティに対する否定的な言動の経験・目撃経験者の割合も非常に高かった。

<図 15> 性的マイノリティに対する否定的な教えの経験・目撃率分布

	仏教系			神道系			キリスト教系		
	性別 3 区分						性別 3 区分		
	男性	女性	x ジェンダー・その他	男性	女性	x ジェンダー・その他	男性	女性	x ジェンダー・その他
	n=184	n=408	n=12	n=30	n=66	n=3	n=116	n=211	n=13

Q19 性的マイノリティに関する教団の教えや活	頻繁にあった	0.70	1.50	28.6	0.0	10.3	0.0	50.5	57.5	60.0
	たまにあった	4.10	5.70	28.6	19.0	12.8	66.7	28.2	26.8	30.0

※注) 値は%。「無回答」は分析から除外。

<図 16>性的マイノリティに対する否定的な教えの経験・目撃率分布（教団間比較）

		創価学会			エホバの証人			旧統一教会		
		性別3区分			性別3区分			性別3区分		
		男性	女性	Xジェンダー・その他	男性	女性	Xジェンダー・その他	男性	女性	Xジェンダー・その他
		n=143	n=272	n=8	n=61	n=100	n=4	n=16	n=28	n=2
Q19 性的マイ	頻繁に	0.0	1.7	25.0	63.2	76.30	100.0	60.0	70.8	50.00

ノリ ティ に 関 する 教 団 の 教 え や 活	あ っ た									
	た ま に あ っ た	6.1	4.7	50.00	24.6	21.5	0.0	20.0	25.0	50.0

※注) 値は%。「無回答」は分析から除外。

神道系はほかの宗教と比べて、性的マイノリティへの否定的な声かけの経験率が著しく高いわけではない。ただ、かといって神道系が「性的マイノリティに支援的」であるとは言いがたいのが現状だ。

多くの神社は、地域住人や観光客が、気兼ねなく立ち寄ることができる。そして呪術的行為であるという自覚なく、文化慣習として「お賽銭」を投げ、おみくじをひくなど楽しんでいる。当然、来訪者には、多くの性的マイノリティも含まれている。

しかし、神道系の宗教を束ねる神社本庁は、関連団体として神道政治連盟を持ち、思想的右派としてのスタンスに基づいた政治活動を行なっている。そこでは、天皇の重視、憲法改正、靖国公式参拝の実現などの保守的な価値観が叫ばれるだけでなく、選択的夫婦別姓や男女共同参画社会（男女平等）の推進への反対、そして性的マイノリティなどへの攻撃も行われてきた。そして、同様の価値観を持った政治家に対する推薦も行われてきた。

性自認に着目すると、「Xジェンダー・その他」の人については、より高く、性的マイノリティへの否定的な発言を報告している。これは、当事者らが否定的な声かけを経験することに加えて、ジェンダーやセクシュアリティに関連する、日常的に行われる小さな攻撃（マイクロアグレッション）に対して敏感に察しやすいということも関わっているだろう。

なお、今回の回答者のうち、「男らしさに関する規範」「女らしさに関わる規範」「性的マイノリティへの批判的な価値観」の規範の関わりを分析したところ、それぞれの経験は相関しあっていることがわかった。「男らしくしなさい」「女らしくしなさい」といっ



た価値は、「らしくない」存在としての「性的マイノリティ」に対する否定的な態度と近接的であった。

多くの宗教は、それぞれに家父長的な価値観を持ち、同時に性的マイノリティに対する批判的姿勢も持っていた。そうした宗教教育などの結果は、脱会2世に影響を与えていると言えそうだ。

なお、チキラボ調査では、脱会後も宗教的価値が残り続けることを、「宗教の残響」と名付け、その度合いを調査した。具体的には、脱会経験回答者のうち、「実際に脱会に至ったあとに、宗教的な価値観が残っているせいで、次のような気持ちを抱くことはありましたか」という問いに回答を求めた。そのうえでここでは、「性的マイノリティや同性愛をタブー視するような感情をおぼえたこと」が「あった」と回答した者の割合を紹介する。

<図 17> 「実際に脱会に至ったあとに、宗教的な価値観が残っているせいで、性的マイノリティや同性愛をタブー視するような感情をおぼえた」経験の割合（宗教間比較）

仏教系			神道系			キリスト教系		
男性	女性	Xジェンダー・その他	男性	女性	Xジェンダー・その他	男性	女性	Xジェンダー・その他
n=19	n=65	n=2	n=9	n=13	n=0	n=63	n=131	n=9
0.0	4.6	0.0	0.0	7.7	0.0	41.3	15.3	44.4

※注）値は%。脱会者（N=464）のみ対象となった質問。無回答も分析ケースに含む。

<図 18> 「実際に脱会に至ったあとに、宗教的な価値観が残っているせいで、性的マイノリティや同性愛をタブー視するような感情をおぼえた」経験の割合（教団間比較）

創価学会			エホバの証人			旧統一教会		
男性	女性	Xジェンダー・その他	男性	女性	Xジェンダー・その他	男性	女性	Xジェンダー・その他
n=13	n=32	n=0	n=40	n=80	n=4	n=8	n=13	n=1
0.0	0.0	0.0	32.5	20.0	75.0	50.0	7.7	0.0

※注）値は%。脱会者（N=464）のみ対象となった質問。無回答も分析ケースに含む。

目立つのは、キリスト教系、エホバの証人と旧統一教会の「残響」率の高さである。また、有効ケースは極めて限られてはいるものの「X ジェンダー・その他」回答者の残響率も高いことがうかがわれる。

「宗教2世」のなかには、当然ながら、多くの性的マイノリティが存在する。社会の中でスティグマだけでなく、教義や信者集団からも否定的な価値を伝えられ続けることにより、抑うつ的な状況が作られやすいことは容易に想像がつく。

海外の研究では、宗教組織における男女差別のみならず、性的マイノリティに対する差別への注目も進展している。2022年に発表されたアメリカでのSaundersらによる研究(Saunders, et al., 2022)では、思春期から成人期初期にかけての宗教的所属などが、性的マイノリティの抑うつ症状に対してどのような関係があるのかを、全国レベルの大規模データで分析している。歴史的に宗教内でスティグマを受けてきた性的マイノリティの人々(レズビアン、ゲイ、バイセクシャル)は、異性愛者と比べて、宗教組織への所属と抑うつ症状とが関連することがわかっている。

意図的に与えられた信念により、精神的健康が害されること。差別的な宗教運動によって、個人の尊厳が傷つけられ、社会的包摂が遅らされること。私たちはその根深さを理解しなくてはならない。

## 脱会後の困難

ここまで2世たちの実相について、さまざまな角度で考えてきた。それでは、信仰から離脱した2世たちには、どのような課題があるのか。脱会経験をした回答者に対して、脱会に際して困ったことがあったかどうかを尋ねている。調査では、複数の項目を立て、該当する項目すべてを選択してもらった。

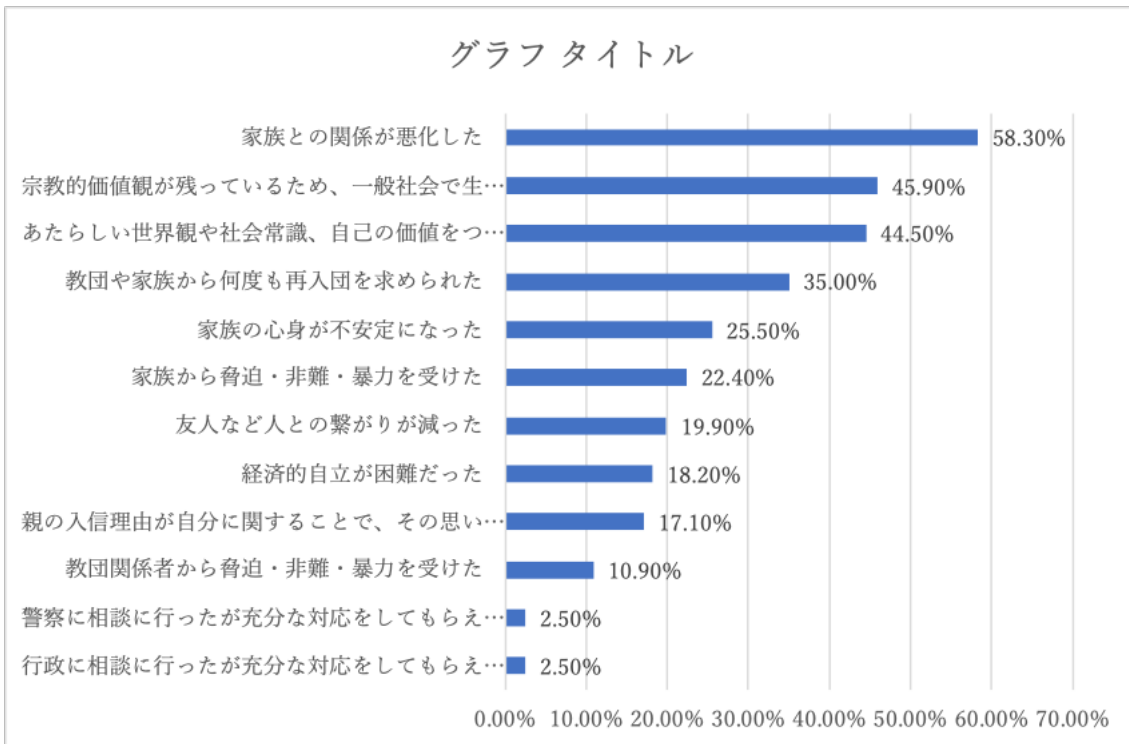
この問いに対し、8割近くの2世脱会者は、何かしらの困難を経験したと答えている。最も多かったのは家族関係の悪化で、6割近い脱会2世回答者が経験していた。また、宗教的世界観が残り、社会に適応しづらい経験をした回答者も多かった。

何度も再入団を求められた経験や、脅迫などの経験も、相応にあった。しつこく脅迫的に行われる「宗教的つきまとい」に対しても、一定のルール作りが必要となりそうだ。なお、ストーカー規制法には「恋愛要件」(恋愛感情その他の好意の感情又はそれが満たされなかったことに対する怨恨の感情を充足する目的)という限定があるため、現状では当てはめることができない。

信者コミュニティから離脱することで、友人なども失うこと。また家族ネットワークが失われることで、経済的な苦勞をするという者も多い。関連して、自由記述欄には、家族や友人と縁を切り、保証人などが見つけられないことから、さまざまな契約に苦勞をするという証言も寄せられている。

<図 19> 「実際に脱会する際に、どのような問題がありましたか」に対する回答（複数回答可）

脱会後に困ったこと	割合
家族との関係が悪化した	58.3
宗教的価値観が残っているため、一般社会で生きることにより罪悪感や背徳感を味わうことがあった	45.9
あたらしい世界観や社会常識、自己の価値をつくり出すことが難しかった	44.5
教団や家族から何度も再入団を求められた	35.0
家族の心身が不安定になった	25.5
家族から脅迫・非難・暴力を受けた	22.4
友人など人との繋がりが減った	19.9
経済的自立が困難だった	18.2
親の入信理由が自分に関する事で、その思いを裏切る気がした）親を裏切る気持ち	17.1
教団関係者から脅迫・非難・暴力を受けた	10.9
行政に相談に行ったが十分な対応をしてもらえなかった	2.5
警察に相談に行ったが十分な対応をもらえなかった	1.4



※注) 値は%。「脱会者」N=464 が分析ケース。

<小見出し>

## 2世と3世以降の違い

なお、ここまで、「宗教2世」という言葉を用いて、特定宗教への帰依を求められてきた子どもたちの状況を分析してきた。このなかには、3世、そして3世以降など、さまざまな世代の信仰体験者たちが存在する。

最も回答者が多かった創価学会の体験について、2世と3世とで比較してみると、総じて2世と比べて三世のほうが、家族からも教団からも、「儀式などへの参加」「教団への献金」などの要求頻度が下がっている。また、さまざまな宗教的声かけの頻度も、体罰などの理不尽な経験も減少していた。ただし、選挙集会への参加や友人への投票の呼びかけなどを、教団から要求された割合には大きな差がなかった。

一方で「男らしさに関わる教団の教え」を受けた割合は変わらず、「女らしさにかかわる教団の教え」を受けた割合は増加していた。これらは、若い世代の方が、男女役割意識への違和感に気づきやすくなっている事情が背景にある可能性もある。

このように2世と3世とでは、家族の関わり方、教団のスタンス、集団風土、時代背景などが変わることによって、宗教体験が変わることもありそうだ。なお、2世よりも3世の方が、「脱会後の苦労」経験がより低い状況でもあった。

## 宗教の「残響」

宗教2世は、家族や信者コミュニティから、集団的、継続的、一貫的な仕方で、「特定の信念」を、意図的に教育されることになる。そこで築かれた信念、態度、価値観、慣習などは、「脱会」を宣言すればすぐさま失われるというものではない。脱会してなお、さまざまな信念や態度が残り続けること。そのことを本書では、「宗教の残響」と呼んでいる。

先行研究では、「認知的離脱」と「組織的離脱」とに分けた上で、どちらが先になるかは人によって異なるし、片方だけになるケースも存在することも指摘されてきた（猪瀬2002）。たとえば「既に心は離れているが、形式上は信者として所属している」というケースもあれば、「教団から脱会し、信者とも距離を取っているが、信心そのものは捨てていない／捨てきれていない」というケースもあるということだ。

他方でどのようなケースにおいても、「宗教の残響」は起こりうる。形式的にも離脱を果たし、信仰などを持っていないつもりでも、すべての価値から離脱することは困難であろう。そこで、その経験について尋ねるため、脱会者に対してのみ「実際に脱会に至ったあとに、宗教的な価値観が残っているせいで、次のような気持ちを抱くことはありましたか」という問いを設け、いくつかの項目から選択してもらった。その結果、宗教の残響は、宗教や教団によって、表れ方も異なることがわかった。

残響の度合いの低さとして目立つのは、創価学会の「性的マイノリティへのタブー視」や、エホバの証人の「団体が勧めていた政党への共感」である。創価学会は特段、性的マイノリティへの攻撃は主張しておらず、支持政党の公明党は同性婚にも前向きである。一方でエホバの証人については、そもそも政治活動が禁じられており、特定の政党を勧めるといったこともない。そうしたことが、残響率の低さに影響を与えていそうだ。

逆に残響として高い度合いを示したのが、キリスト教系、エホバ、旧統一教会2世回答者の、恋愛や性に関わる項目である。恋愛をすること、性意識を持つこと、そして性的マイノリティへのタブー視。これらの残響について、相応の高さで報告されている。すなわち、恋愛や性的マイノリティに対するタブー意識が、教団の活動や教えの影響を強く受けている様子がわかる

さらに分析では、「男らしさ」「女らしさ」「性的マイノリティ否定」に関する教団活動に触れたかどうかと、性愛規範の性規範に関わる残響率との関係を調べた。結果、ジェンダー分業やマイノリティ差別に関する教えに触れていた人の方が、自身や他者の性愛行動に関する規範の残響がある傾向が読み取れた。

また、創価学会および旧統一教会の2世回答者は、教団が勧めていた政党や政治観への共感が残りやすかった。一方で、異なる宗教行事への抵抗感は、創価学会とエホバの証人で高かった。選民意識の高さは、神道系が目立った。

宗教の残響を感じることはなかったと答えた回答者は、28.4%であった。とりわけ創価学会では、脱会後の残響率の低さが目立った。一方で、エホバの証人、旧統一教会については、全体の残響率の高さが目立った。

世界観への執着を取り除くことは、骨の折れる作業であることは想像できる。依存症研究の文脈では、買い物やセックスなどへの依存を「行動依存」、たばこや酒、薬物などへの依存を「物質依存」と区別するが、宗教伝承は、特定の世界観やコミュニティへの依存状態を作り上げる。特定の信念に対し、精神的な依存をおこなっている場合もまた、認知行動療法やスキーマ療法などのセラピーが必要となるが、心療内科などへの心理的距離が一般に遠い状況では、その改善もまた重要な課題となるだろう。

2世に限らず脱会後には、さまざまな喪失感に伴う「脱会後後遺症」が発生するとされる。もし、家庭内布教に対して、義務感に基づいた演技として応じていたのだとしても、家族環境や宗教コミュニティの影響は少なくないだろう。

一世の場合は、もともとの世界観や信念を再獲得することが求められるが、2世の場合、一から社会通念そのものを学ばなければならない。その支援として個別のオプションがあればいいというわけではない。経済的支援、心理的支援、避難シェルター、社会定着支援など、複合的な支援の形を、私たち社会はかたち作っていく必要がある。

<図 20> 「実際に脱会に至ったあとに、宗教的な価値観が残っているせいで、次のような気持ちを抱くことはありましたか」に対する回答（複数回答可）（下記のように棒グラフをお願いします）。

	仏教系	神道系	キリスト教系	創価学会	エホバの証人	旧統一教会
自身の性意識や性行動に対し、罪悪感や背徳感を味わうことがあった	10.2	18.2	56.6	10.6	58.7	63.6
恋愛をすることに対し、罪悪感や背徳感を味わうことがあった	3.4	13.6	41.0	2.1	43.7	50.0
恋愛関係、夫婦関係などの性的な関係を含む人間関係のつくり方に難しさを感じたことがあった	21.6	22.7	55.1	14.9	62.7	50.0
性的マイノリティや同性愛をタブー視するような感情をおぼえたことがあった	3.4	4.5	25.4	0.0	27.0	22.7
宗教団体が勧めていた政党や政治観への共感をおぼえたことがあった	14.8	13.6	4.9	23.4	1.6	18.2

「自分は選ばれた人間だ」という感情をおぼえたことがあった	12.5	18.2	8.3	10.6	8.7	9.1
異なる宗教の行事（クリスマスや神社の参拝、おみくじや占いなど）に抵抗感をもったことがあった	38.6	36.4	60.5	55.3	70.6	4.5
宗教的価値観が残っていると感じることはほとんどなかった	45.0	40.5	13.5	52.5	15.4	18.5

(宗教的残響分析ケース数) 仏教系 n=88, 神道系 n=22, キリスト教系 n=205, 創価学会 n=47, エホバの証人 n=126, 旧統一教会 n=22 ※注) 値は%。

#### 【参考文献】

- 猪瀬優理「脱会プロセスとその後 ものみの塔聖書冊子教会の脱会者を事例に」宗教と社会、2002
- 猪瀬優理『信仰はどのように継承されるか』北海道大学出版会、2011
- 川橋範子「ジェンダー論的転回が明らかにする日本宗教学の諸問題 ウルスラ・キングとモーニィ・ジョイを中心に」宗教研究、2019
- 櫻井義秀「世俗化過程におけるカルト宗教の位置づけ」北星学園女子短期大学紀要、1989
- 櫻井義秀「カルトからの回復: 境界 (バウンダリー) の再構築」日本脱カルト協会会報、2006
- 櫻井義秀「『宗教』と『カルト』のあいだ」宗教研究、2009
- 櫻井義秀・中西尋子編『統一教会 日本宣教の戦略と韓日祝福』北海道大学出版会、2010
- 櫻井義秀『カルトからの回復 心のレジリエンス』北海道大学出版会、2015
- 佐藤典雅『ドアの向こうのカルト ---9歳から35歳まで過ごしたエホバの証人の記録』河出書房新社、2013
- 高杉葉子「カルト脱会者と脱会者の家族における家族関係の認知変化に関する検討 カルト勧誘前と脱会後の比較を中心として」立教大学大学院博士論文
- 塚田穂高『宗教と政治の転軸点』花伝社、2015
- 塚田穂高「小説・映画『星の子』が描く宗教・家族・学校 —『宗教2世』問題の理解と考察のために—」上越教育大学研究紀要、2022

- 塚田穂高 「『宗教 2 世』問題の沸騰は何を問いかけるか」 『現代用語の基礎知識 2022』自由国民社、2022
- 塚田穂高 「今こそ学ぶ宗教と政治の関係」 『session の本』 TBS ラジオ、2022
- 西田公昭 「ビリーフの形成と変化の機制についての研究 (4): カルト・マインド・コントロールにみるビリーフ・システムの強化・維持の分析」 社会心理学研究、1995
- 西田公昭 『なぜ、人は操られ支配されるのか』 さくら舎、2019
- 日本脱カルト協会 『カルトからの脱会と回復のための手引き《改訂版》 〈必ず光が見えてくる〉 本人・家族・相談者が対話を続けるために』 遠見書房、2014
- 山口智美・斉藤正美・荻上チキ 『社会運動の戸惑い フェミニズムの「失われた時代」と草の根保守運動』 勁草書房、2012
- 山口広 『検証・統一協会=家庭連合』 緑風出版、2017
- 幸重忠孝 「マインドレイブ被害者への社会的支援制度: 自己啓発セミナー被害から」 法政論叢、2001
- 李賢京 「信仰の深化過程における 「他者」 の影響 韓国天理教の 「3 世信者」 に注目して」 現代社会学研究、2010
- Patricia Homan and Amy Burdette, 2021, "When Religion Hurts: Structural Sexism and Health in Religious Congregations," *American Sociological Review*, Vol. 86(2), pp. 234-255.
- Priest, N., Esler, M., Ransome, Y., Williams, D., & Perry, R., 2021, July 15, A 'dark side' of religion?' - Associations between religious involvement, identity and domestic violence determinants. <https://doi.org/10.31235/osf.io/9hf6d>
- Saunders, R. K., Burdette, A. M., Carr, D., & Hill, T. D. (2022). Religious Transitions, Sexual Minority Status, and Depressive Symptoms from Adolescence to Early Adulthood. *Society and Mental Health*, 0(0). <https://doi.org/10.1177/21568693221111847>



## 8. 自由記述一覧

※以下、各設問に記入された自由記述を掲載していく。掲載した記述は、個人や教団が特定されそうな名前や用語など、一部文言を修正している。各項目は、回答者の体験や視点に基づき記入されたものであり、掲載した意見の全てに、本報告書が同意するものではない。

### Q16 教団の教えや活動のなかで、「男性はこうあるべき」「男性はこうあってはならない」と言われたことや見聞きしたことについて、可能な範囲で具体的に教えてください。無回答も可能です。

- 男女二分論で語られるので、LGBTの存在は否定されていました。
- 男性は一家の長となるべきなので、しっかりしていかなければならない。
- 家父長制を重んじている所があり、間接的にそうした鑄型に信者を誘導する節があった。
- 髪は伸ばしてはいけない等
- 同性愛はしないように
- 性欲を捨てるように言われた
- 父親が家庭の柱になるようにと。男尊女卑の考え。また、会衆(地域ごとの組織の群れ)を仕切るのは男であり、教壇で話すのも男性です。長老や監督と呼ばれる人も男性。
- 神は男性を女性よりも上位に創造された。家族の長である、といった男尊女卑思想
- 男性が家族の頭(かしら)である。信者を教える立場になれるのは男性のみである。
- 頭として模範的であるべき
- 父親は家族の頭。男性信者は礼拝(集会)で一人で演説可能。男性信者のみ要職につける。
- 男性は女性を愛するべき。同性愛者は魂に問題がある。ゲイの著名人は地獄に堕ちている。同性愛者は地獄で釜茹でにしてやる、ボコボコにしてやる等。
- 聖書では立場上の書かれ方だったので、精神的に強くあれ的なこと教わった
- 15~35歳の男性と未婚の女性の集まりがあり、その中で信条に「男性は男性らしく、女性は女性らしく」とありました。集まりの祈り合わせ時や起床時と就寝前に唱える様に指導がありました。
- 家父長制的、昔は一夫一妻で今は一夫多妻OKと同性愛×
- 女性は家で家事をして夫をサポートする

- 信心は一人前、仕事は三人前やって、世の中で実証を示せ。
- 家族の頭たれ。
- "全体的に男尊女卑の傾向が強い教理なので男性が必ず上の立場になり、自分の母親であっても女性を従わせるようにと教えられる。
- 私自身も成人後、未成年の弟から勧誘活動において指示を受ける事もあった。"
- 女性は男性を集団(宗教組織、会衆、家族)の頭として敬わなければならない。男性は女性に仕えなければならない。
- ジェンダーレスが増えた事に対して、生物学的には成り立たないという発言があった。
- 神は男性を先に創造し、その補助として女性を後から追加されたので、男性としてしっかりと責任をもって信仰をもたなければならない、という思考
- 祖父、父など男の言う事は絶対
- 具体的に教義として存在はしていなかったが、内部の組織が男女別に分かれており(成人女性は女子部、同男性は男子部など)、その組織形態がかなりジェンダーロールに基づくものだった。公式の大きな会合になると服装規程があった。例えば女性は髪の毛をまとめてチーク濃いめに華やかに見えるようお化粧をし、パステルカラーのスーツ着用、男性は髪の毛を硬めのワックスで固めおでこがしっかり見えるような髪型、など。会合では教団歌を歌うこともあり、代表数名が壇上にあがって音頭を取るのだが、それも男女で音頭の取り方が異なる(男性は勇ましい音頭、女性はたよやかに見える音頭)など。
- 現在の状況は出席していないのでわからないが、月に一度の一番大きな会合(本部幹部会)で会長が話す時も、男性、女性別に語りかけることもあり、その内容も具体的なことは覚えていないが、男性は強く勇ましく、女性は優しく柔らかく、のような内容もあったと記憶している。"
- 入信者の体験についての発表の場で一人は入信によって気持ちを切り替えてこうあるべきだと納得している方がいた。
- 男性論とは直接関係ないかもしれないが、軍歌(同期の桜)を元にした宗教歌があり、大会場で知らない人と肩を組んで歌わされるのがとても嫌だった。
- 男性は髪を短く切るべき。女性の上にキリスト、夫の順番で支配する権威を持つ者。女性の服装や髪型を真似てはならない。
- 男性は頭(かしら)でありリーダーシップをとるべき

である

- 男性は家族を治める立場
- 男性は頭の権を持っている
- 男性は「主体」として常に中心的な立場でなければならない。逆に女性は「相対」として常に男性よりも下、男性を支える存在だとされていた。
- 家族や教団の中で指導する立場になることをすすめられた。女性よのうな容姿は禁じられた。
- 妻に優しく
- 男性は上に立つもので、妻は夫に従う、子は親に従うもの、という教えでした。
- 家族の頭として敬われる存在であること
- 自慰行為の禁止、異性交遊の禁止
- "LGBTQ は病気だから治療しなければならない。
- 男は主体者で、女は相対者でなければならない(宗教用語で男尊女卑の言葉です)"
- 男だけが無駄に持ち上げられていた。長男教感が強かった
- キリストの教えに従うべき
- 聖書の教えにもとづく性別役割分業
- 団体の集まりで食事が振る舞われる際は、準備は女性信者のみが行っていました。
- 家族に対して、また組織の女性に対して指導する立場である。組織の指導者、管理者は男性のみが従事すべきとする。
- 地域の大黒柱として地域を守っていきましょう、のような表現
- 結婚は男女のもの。同性愛、同性婚は間違っている。
- 男性でないと前に立って話してはいけない、結婚して子どものいる男性でないと集会の運営に関われない
- 活動に勢いをつける目的で男らしさを刺激するような内容だったと記憶している。
- 男性の性質とか神性についての説明
- 男性は女性より立場が上であり指導的立場であるべき
- 集まりの食事の時に配膳などは女性のみやっていた。
- 働き家族を養う。家長である。
- 女性は弱い器であり守ることが男性のすべきこと。と教えられた
- 同性愛を否定(罪深い)と教えていました
- "夫は妻を自身のように愛すること、妻は夫を敬うこと。
- 女性との物理的な接触に慎重であるべきこと。
- 女性を守る、たくましく、などのことが言われていた気がします

- 女の頭は男(なので必ず従わなければならない。)コリント第一 11 章 3 節
- 聖書の中で、アダムとイヴの子供たち(カイン●アベル)の話があります。次男のアベルは神に愛されていて、その事に嫉妬した長男カインがアベルを殺害してしまうという話なのですが、そこから転じて長男はサタンの誘惑を強く受けるから、より宗教の教えに厳格に従うように。との話は小さい頃から受けていた記憶があります。
- 声は大きくあるべき(受け応えや読経の導師の際も)
- 宗教を発展させるために、社会に貢献できる人になるために社会に根ざした、社会に認められる人になる事は大事、という理念が強くある。さらに社会人の中でもある程度の地位があることに賞賛と尊敬の眼差しが強い。会社員であること、会社での地位、結婚してることが組織でも認められる存在であるのは今でも潜在意識の中にあり、芸人や舞台人を目指してる人を一見応援しているようですが、どこか下に見ている
- 家族の権威は父親にある、妻は夫に従うべき など
- 「男性はこうあるべき」という規範とは少し違いかもかもしれませんが「信者は全員、死んだら二十歳の青年(男性)の姿にしてもらえ」と聞かされていました。女性でも全て。そこに男性優位を信じている姿勢を感じていました。
- "男性はジェントルマンであるべき。
- 女性との関係に気をつける。"
- 礼拝の補佐は、兄弟はできたが、女の私はすることができず、これは結構つらかった
- 会長の書籍を基に、男性は…など、色々言われていましたが、団体から離れて数年、洗脳から自分から抜け、いざ、書こうとすると、すぐに言葉が出てこないです。
- 大学に行った方が良い。誠実に女性を守っていく存在になるべき。
- 壮年部●青年部を勇ましい動物に例えたり、婦人部を花に例えたりして活動を形容したり、励ましたりすることがあった。
- 教団の要職は、必ず男性でなければならない。
- 家族の柱となり家族を守ること
- 女性を大切に
- 女性についていわれるのでその反面として
- 教団が配布しているカレンダーの教祖の格言として家父長制を体現するような文言が書かれていたのを覚えています。
- 男性は柱として表に出る働き(社会貢献的な?)を

するべき。

●男は家族の頭(かしら)であるべき。夫は妻を自分の体のように愛するべき。男は頭であるキリストに倣い、会衆や家族の頭であるべき。

●教える立場になる。教える技術を磨く向上させる。

●男子部と女子部に分けられ、男子部は肉体的にも強くなければならない。それで、家族や信者の中の肉体的な弱者を守りなさい。

●封建的。権威的。男根主義が垣間見得ました。会合がある場合に、外に立って道を誘導したり車を誘導するのは男。建物の中で誘導するのは女。マッチョイズムが男子部、青年部には根付いていて、外部から守れと何度も言われました。

●家族を養えない男は信心が足りないとか言ってるの聞いた時には笑ってしまいました。"

●男性と女性に分けて年齢毎にセクションが作られていた

●男児は、活発で、時にはケンカし、正義感が強いものとお説教で聞いた。

●家族の頭として行動する。家族を神に導くように治める。他の成員を教える。

●男性、特に父親は家族の中で最も偉く尊敬される対象である。週末に宗教活動に参加する為公務員になるのが望ましいとされていた(女性は専業主婦、平日昼間も布教活動をするように言われていた)

●土地柄が男尊女卑も酷いから、それが宗教の影響かは分からない。

●男だからこれをする、女だからこれをするといういろんな行事のたびに、男女の役割分担は頻繁にあったと思う。"

●教理の中に、男は天、女は地というコンセプトがあり、天から落ちてきたものは地は不平不満いわずすべて受け止める、という教えがある。

●"女の頭(かしら)は男、妻の頭は夫である。と言う聖句に基づいた指導がある。

●教団の中で、人の上に立てる(長老、僕、監督など)のは男性のみ。

●男性は家庭をよく治めるようにと言われていた。"

●男をたてること 教育勅語などの明治からの家族の在り方を正解としていた

●男は仕事を頑張る

●そもそも組織が男女別々で、しかも年代ごとで分かれているので、その年代の男性だけの空気感が構築されやすく、「(男性)の(青年)組織に所属する人間はこうあるべき」という教えもあったし、それを共有、

達成しようとしていたように思います。※カッコ内は他の性別、年代もあてはまります。それぞれの性別、世代でそれぞれの「こうあるべき」ということがあるように思います。

●性交渉について、婚外婚前交渉の禁忌があった

●男性は頭(カシラ)なので女性を指導するものと教えられ、男性がいる場では、どんな些細なことであっても、女性が物事を決めることはできなかった。

●男性は家庭を持ってこそ一人前であり、妻子と共に教団に貢献することで世界平和を実現するべき。

●頭の権を行使するべき(家族の頭として導くべき)

●女性に対して淫りに欲情してはならない。性的な感情を持つな。男性は男性と性的接触を持つてはいけない、男と寝るな。また、団体において長老、奉仕の僕などの役職がありますが、それらは男性が担います。

●女は男に従う。同性愛は自然に反するから神に忌み嫌われる。男しか責任ある立場につけな。

●そもそもの教えが男性は男性らしく、女性は女性らしくとありますので、折に触れてそういう話は出ます。

●女性を教え導く存在

●教団内の幹部役職、儀典の長などは必ず男性という不文律がある

●一家の大黒柱になり家庭に責任を持つ。子育てに積極的になるう。

●男性は家庭の「頭(かしら)」であるべきと教えられる。

●会衆のリーダーになるのは男性。

●男性のみ集会で講演を行うことを求められる。

●賢い女性と結婚して、子どもを良い学校に入れることが、大黒柱の役割。

●男は外で働くもの等

●思春期でも性的なことから距離をおくように強制されていた。

●男性はリーダーシップを取るべきだ、家族の頭として家族を養いながら、会衆のリーダーシップも取るべきだ。

●「男性は家庭を(外から)守るもの」「女性は家庭を(内で)守る」という趣旨のことを、教団トップが度々映像の中で口にしていた。教団が所有する会館で行われる集会で大きな画面に映し、多いときには200人くらいで見ていた。映像の中で出席している信者たちが「ハイ！」と元気よく挨拶すると、次第に現実の会場にいる信者たちから同時に「ハイ！」という声が出始める。自分も小学生低学年くらいから記憶にあるが周囲に合わせなければと気がつけば「ハイ！」と言っ

ていた。

●集会で読経する際には、縦3m 横4m くらいの大きな仏壇の前で代表者が一人出て、読経の指揮を取る形になるが、その役割は男性のみだった。「集団を率いるのは男性」というイメージが固定化されていた。

●集会よりも小さな地域単位の信者の集まりでは、宗教指導者と弟子のやり取りから現代にも通じる学びを得るといふ勉強会が行われていた。その教師役は男性のみだった。「知識を教えるのは男性」というイメージが固定化されていた。

●男性は女性に優しくなければならない

●男性は神の分身、強く勇敢であるべきという教えだった。男性が主体で、女性より前に出るべきという男尊女卑的な教えを子どもの頃から聞かされた。

●あまり具合的には覚えていないが、見させられる映像がそのような内容だった気がする

●父性性や、母性性などが強調されたり、同性愛などトランスジェンダーなどについては異常で教義として許されないものであるという教育がされていた

●男性は女性を守るべき

●聖書に書かれている男性と女声の役割の違いについて。

●男として地域およびその支部を活性化せよとの叱咤

●相手は全く悪気なく、男なら、という枕詞をつかって、励ましていた。嫌な気持ちにはならないが、考えが古いなと感じることはたまにあった。

●男性は女性の上の立場で、リーダーシップを取らなければいけない。

●男性同士で関係を持つこと、同性愛の否定。

●男性は堂々と。女性は男性を立てる。

●男性というより父親は仕事に打ち込む姿を見せること、または布教活動や集会活動を行うことにより妻や子から敬われる立場（妻や子の上）に立たなければならない、または自然の摂理でなるように決まっている。というもの。

●実家が教会なので、兄がきょうだいの中の唯一の男の為、兄が教会を継ぐべきという空気が、自然にあった。

●家族の頭として、家族の霊的な福祉に気を遣うこと、家族を養うこと

●妻は夫に仕え、夫は神に仕える というようなもの。間接的な男尊女卑の様にも取れます。

ただし我が家は父は信仰しておらず、必ず神→夫→妻という関係性で仕えなければならないという感じではありませんでした。

●男性は働いて家庭をまもり、女性は家で家庭と子供を守る

●聖書にある教えで、男性は女性の頭と言われる。逆に女性は黙っているように言われる。

●開祖によって決められた女性と結婚して家庭を築き、子供を育てるよう求められた。性衝動などはすべて悪だと教えられた。

●家の頭となる

●堂々とあれ、みたいな歌がありました

●男性のことを男子部、壮年部等とまとめる呼称があり、組織がまとまり円滑に機能するように呼びかけがあったと思います。時間的拘束でもあるし、無報酬での活動を促すもの。女性の場合は女子部、婦人部という呼称で役割は男女それぞれ違いますが拘束具合は同じです。

●家族を霊的に教えるべき。

●家族に必要な物を備える責任を持つべき。

●会衆内の特権を捉えるために努力すべき。

●会衆内で教える役目を果たすのは男性だけ。"

●男性が、というより女は仕えるべきという教え

●男性が稼ぎ手で女性は主婦かパート、が標準とされている感じはありました。

●性別がわからなくなるような格好をしてはいけない

●封建的●保守的●イエズス会的だったので、基本的に教義自体がそういった概念が前提になっていた。どちらかといえば、女性の方が教団の仕事が多く、抑圧されている。

●男性、女性の役割が決まっていて、男性は家族の頭と教えます。組織内の重要な立場は全て男性が割り当てられます。女性はひたすら従うのみです。

●家族の頭として経済的、精神的に、また信仰において一家の中心となる事。

●男性は所帯をもったら家族の主人として、妻子はそれを尊重し付き従わねばならない など。

●同性愛は存在しないなど

●仕事に励むべき ことも、女性を守るべき

●マスターベーションの禁止、純血、同性愛禁止

●女性は男性に従属し、男性は女性に従属させられるように振る舞わなければならない。

●強くあるべき

●組織の中でさらに上の立場を目指すべき。男性らしい髪型や服装をすべき。家庭内で指導的な役割を父親

●夫は果たさなければならない。

●教える能力を身に付けること

●戦い、勝利、亭主関白的な指導だった気がします

●聖書から「夫は妻の手本となり、妻は夫に付き従いなさいと言われていました。

●服装について男性は主にスーツだったので、カッターシャツの色が淡いピンクやブルーの人を長老が注意していました。白が好ましいそうです。同じく聖書を引いて「男同士で寝てはならない」など同性愛(ゲイ)差別がありました。こちらは「女同士～」の項目はありませんでしたが、そちらも禁じられていました。

●質問の意図とは少し違うかもしれませんが、集会の講演の際、男性はひとりで聖書を朗読し、女性はふたりで会話形式のやりとりをするというもので、男女差がありました。"

●男子部や壮年部などといった分け方や、男性だから〇〇の役職をやってほしいと言われている信者を見かけたことがある。

●神様がアダムに家族を治めなさい。と言われたので男が家族の長であり父親の言う事には従順であるように教えられました。

●父親は家族を養い守るべき

●男性は、という言い方はありませんでしたが、女子部男子部の活動内容や分担など求められるものは性別によってはっきり分かれていました。

●男性は女性の頭(かしら)、男性は女性を守り、女性は男性に従うことが本来、神が創造した形

●男子部、女子部、壮年部(中年以上の男性)、婦人部(婚姻している女性)、それぞれ生まれた時に決められた性別により所属が分けられた。男子部●壮年部に所属していなかったのでざっくりとしか覚えていないが、男子部●壮年部は「強くあること」「リーダーシップを持つこと」「女子部●婦人部を敬うこと」など、「男らしさ」のステレオタイプに基づいて求められていたと思う。

●生計を立てること、女性と家族を服従させること

●組織の長たれ

●最初にある男性女性の像を押し付けられる

●男は働いて家庭を持って子供を作って、その子供たちも連れてくるようにと言われていた。

●奥さんは理解ある人をめとるように。外国人はダメ。

●私はゲイで英国留学しました

●男性は教会のリーダー的役割を担うべき。同性愛は罪であり、HIVは神がゲイ男性に下した天罰である。

●壮年は一家の黄金柱であれ、男子は勇しくなどの表現は多用されていた。

●私は小児気管支炎だったため、幼児期から病弱で幼

稚園へは半分ほどの登園日数、小学校も低学年のうちは病欠がちでした。「男性であるからには、健康で強い身体を手に入れるために剣道か柔道をやったほうが良い」と母は教祖や母の叔母からよく説諭していました。

「体の健康が精神の健康を作る」と言われることも多く、マンガや本ばかり読んでいた私は「男のくせにだらしがない」「心が曲がってしまうよ」とよく言われました。

●「頭の権(男性が女性より優位に立つという考え方)」を侵してはならない、と教えられた

●男子部、壮年部など性別で活動を分けていた。発言のようなものは無くても女性との役割の違いのようなものを感じていた。

●身銭を切る

●女性より精神面でも上の立場にあるのだから、常に模範でなければならない。

●社会で活躍しろ、人の3倍仕事しろ、女性を立てる

●社会通念と特にへただりなし。お兄ちゃんなんだから～など。ただし、父方の祖父が亡くなったときに、母に対して「あなたにしかできない慰め方がある」という声かけをしたのが気になった。私の曲解かもしれないが性的な響きがあった。

●実家の寺は男性が継ぐべき。男子がいない場合は婿を連れてくる。そうでないと実家(寺だが住居でもある)から親族全体が追い出されるという脅しがある

●日本の古風なジェンダー規範と基本的に変わり無し

●男性が主体となり、女性は対象の立場であること。

●頭の古い幹部が、良き妻良き母であるべきだと繰り返し説教した。

●族を守ること。女性●子どもを大切にすること。

●夫は妻を守り、妻は夫に付き従うべきという教えでした

●男性全体というより「青年部は元気よく、バリバリ活動してください！」等の、教団内部での男性グループに対しての声かけは聞いたことがある

●男性の方が女性よりも寛容だ

●私は精神疾患もあり、アバウトな性格で、随分適当でしたが、相対者がかなり男尊女卑に傾倒していて、奢ってはくれていましたが、会話の内容が時代錯誤も甚だしい内容でした。

●結婚しないとね、子どもをなすこと、服装。「同性愛は神が禁止している」等も。

●"すべからく男性は良い会社に入って家族を養うべき"という観念が無意識の段階にまで染み込んでいたと思う。言葉の端々から滲み出ていたし、彼ら彼女ら

の基本原理になっていたと感じていた。特に「きちんと祈れば良い仕事に巡り合える」のような言い回しに端的に表れていた。

●男性は一家の主であるため一番尊重せねばならない。また、男性の同性愛を批判していた。

●男性は生ます性、女性は生む性として生きるべしと経典にある

●凛々しさ、頼もしさ、快活さ、元気、大黒柱、積極的、行動的、みたいな物を携えている人を模範的青年や男性として示された

●男性は、というよりも、父親は立てるべきという方針があった

●父は家庭を養い家庭の模範とならねばならない。離婚は浮気以外の理由ではではない。

●男性は主体。女性を守り、愛を与える。

●社会で一般的な話（働きましよう、家族を守りましよう）という範囲。特別な内容はなし。時代的に一般的な範囲かと思えます。

●女性蔑視 人権侵害 セクハラ パワハラ 性的暴力 金銭的な搾取

●競争社会のなかで勝利することを求められていました。

●男とはしっかり働いて家族を養うべきという価値観がやはりあるように感じた。

●邪な考えを抱いてはならない

●40歳以下の就業者は男子部●女子部に分けられ、男子部の中でも活動家は運営グループに入ります。直接的に「男性はこうあるべき」との発言はないですが、男性だけの集まりでの発言なので、「男たるもの」みたいなニュアンスになります。"

●男性の方が本質的に優れている、家長となる人であり、女性はそのサポート的存在と言われたような記憶。

●ジェンダーに特化されていた訳かは分かりませんが、進学する必要はない、この世界での成功は悪であると叩き込まれたように思います。妹を見ていると自分以上に家に縛られているように感じますので女性はどうあるべきという教えがあったのだらうと感じます。

●長老となり女子供を導く

●頭の務めにふさわしくあるように

●基本的には男性が外で働き、女性は家を守るべきだと神が教えていると言われた

●「酒●タバコは罪」

●家族の長、女性より優れており、女性を導く存在である

●集会や勧誘活動ではスーツなどきちんとした服装で

ある事。

●聖書からの教えなのでその範囲で

●男性というより、女性が男性に仕えるべきと教えられた

●言い訳をしない

●男性は女性の意見をよく聞き、大切にしなければならぬ。女性に対して威張ったり、下に見るような言動をしてはならない。

●男性だけが就くことができた役職があったように思います

●教えの中では性別の特性の話をしているだけなのに、それを所謂男尊女卑的な「男（女）はこうあるべき」という話にして教団の偉い人たちが講話をするし、それを聞いた一般信者も同じような考えになって日常的にそんな話がされていました。

●忘れてしまったが、女のための17訓というのがあった記憶。男性は一家を支えるというようなことは言われたようなことがあるような。女性に対してのほうがかつてが多かったように思う。男性の方は割りとソフトにこうあってほしいという感じだったかもしれない。

●男は仕事を、女は専業主婦という家族形態が推奨されていた。細かいところでは髪型まで指定されていた。

●男性は男らしく振る舞うべき

●妻を大切にするとか家族を守り導くとか(自分が女なのであまりよく聞いてない)

●男性は女性の意見をよく聞くべきだ、女性を決して叱ってはいけない、等。男尊女卑を否定する方向での指導が行われていた。但しそれは代表が指導者として健在であった時に限る

●男性に生まれただけで徳が高い。女は前世で罪を犯した

●具体的には忘れてしまったが、夫と妻の役割についての記述は多くあり、どれもが男性中心的な考え方だった。

●親を立て、家族を守り、社会に奉仕する

●こちらに当てはまるかわかりませんが、同性への恋愛感情は気の迷い、というようなことは教えの中で言われていました

●男性と女性の役割が古典的な性役割に依存している

●魂を見ると、男性のほうが女性より上なので、男性は女性から立てられるべき。

●女性は男性の主張を黙ってうけいれることで男性は成長するので、成長に水をさすようなことは言ったりしたりしてはならない。現実がうまくいかないのは女

性が分をわきまえないからであるという、教えらしきものが、嫌でしたが、わきまえない！と説教されるのも嫌であわせて我慢していました。

●現実がうまくいかない人に対して親切な助言、自分が変わればすむ実際の助言は、ある意味現実的で短期的には効果もあるから信じる人もいるのですが、現実の世知辛い不平等を追認するだけ、宗教倫理にすらはずれた外道の教えです。ほんとうに新興宗教は宗教のつら汚しですよ。"

●男子部女子部、壮年部婦人部と分けられそれぞれに社会奉仕や勧誘の役割を求められていたと感じた。

●男性は家族の頭なので弱い器である女性をリードし守らなければいけない

●寺を継ぐ、という前提

●男性は一家の長である。女性は保護すべきで性犯罪は御法度。

●同性愛は罪である。

●頭の権という言葉をよく聞いた。

●男性は、女性に対しいばったり厳しく叱ってはいけないと教えられており、母の日などのイベントにはしっかりとお母さんや奥さんに日ごろのお礼をするようにと言われていました。

●もし、強姦にあったら舌を噛み切って自殺しなくちゃいけないと教えられた。祝福結婚するまで純潔を絶対に守らなければいけないと教えられた。異性と付き合い合っちはいけない。人を好きになっちはいけない。

●頭(かしら)の権と言われ、家庭でも 宗教団体の中の小さい単位「群れ」の中でも男性は上に立ち指導的な立場をとることを求められたと思います。

●指導的立場に立つこと、女性の上に立つこと

●指導的立場になるのは男だけ

●「やのはしることは弓のちから、くものゆくことはりゅうのちから、おとこのしわざはめのちからなり」  
(男女の役割の区別)

●女性(婦人部に感謝)といわれるが、こと政治の話題では女性蔑視があると感じた

●活動、組織人事は、性別で分けられる(男子部、女子部)

●中高は教団の学校で男女交際禁止

●それはないけど、女性は教会で給仕とかすべき

●教団の大学に進学し、卒業後はOBのいる企業に入る事。

●"家族の頭(かしら)、会衆の頭と権威やリーダーシップを強調。女性は服従すべき存在という教えで男尊女卑が酷かった。

●男性らしい身なり(女性らしい身なり)のルールも厳しく、活動の際は女性は絶対にスカート着用でパンツスタイルを好む人が新しく入ってくるとスカートを強制されていた。

●髪型も男性は襟足に髪がかかると注意され、すぐ散髪に行かされていた。女性の短すぎる髪型も好まれなかった。"

●具体的なところは覚えてないですが、父性的な愛を持つべき的な話でした

●女性を大切にと言いながら男尊女卑だった。男性は威張ってはならないといいながらも、女性は夫を立てると言われた。

●男性はかしらとして家族をおさめ、女性は服従するものとされていました。パウロ書簡をもとに。

●家族の頭(夫、父)としてふさわしく、家族を霊的に養うようにと言われます。

●日本社会一般と同じです

●家族にしろ宗教組織にしろすべての活動が次の聖書の言葉に沿って組み立てられていました。「男性の頭はキリストであり、女性の頭は男性であり、キリストの頭は神」コリント第一 11:3

●「弱音を吐かない」といった程度の比較的軽度を感じる男性くらいでした。

●体として家族を導く

●夫は家庭を治めるべきである

●男は女よりも弱いから、女は男よりも強いから…といった形の構文を一方向的に思想を押し付けられた。男性は弱いから女は尽くさなければならぬ…女はバカで男は賢いから女は従うことが決まりなんだ…そういうものなんだ…それら全てが気持ち悪かった。男はこうあるべき…よりも、女性を顎の先で使うこと、自分の欲望を正当化するためにジェンダーを悪用しているところが…男性の優位性を正当化、拒絶しているのに無理にねじ込まれることが多く、気分が悪かった。女は身体的に強いと前置きをされ、医療的なネグレクトを正当化…入管問題によくあるような仮病の扱いなども受けた。その結果、病気の発見が遅れ重病化したり死にかけたりした。それらを精神論で片付けようとする様が、醜悪だった。

●女性は純粋な信心なので、騙されないように守らなければならない。一般的な優しさは「弱い優しさ」だ。これに対して「強い優しさ」というのは騙したり脅したりして教団に従う人間になるように誘導してさしあげることだ。

●教団内で資格有る奉仕者(指導的立場)になるという

目標を持ち努力しなければならない。

●男は純真ではない。狡賢く損得で物事を考える。勇気がない。これらの弱さに打ち勝って信仰に臨むべきである。

●女性に対して性的関心を持ってはならない。中学生の時に異性と付き合うなどしてはならない。

●男は女のような服装をするのは相応しくない

●男性と女性は異なる存在として造られた。男性はリーダーシップをとる(べき、より向いているのニュアンス)

●男性は、礼拝中に神父を補佐する「侍者」という役割を与えられた(現在は女性も担当可能だが、30年前は男性のみ担当可能だった)。カトリックでは、男性は神父になれるが、女性はシスターにしかなれない点で、極めて男尊女卑的だと感じる。自慰を含む婚前交渉を禁じられるらしい(男性信徒から聞いた話)。

●まず同性愛が御法度。男性は女性を愛するように神に造られたと教わった。

●少年部や集会の際、子供うちで年上の男女の方から正座している時の手の置き方をボヤッと教わった。男はこう女はこうと。

●神権者になるように。性的なものを避けるように。

●一人の女性を愛しなさい

●90年代までは「男らしくあれ」と言われたが、現在は教義も時代とともに変化し「自分らしくあれ」と言われるようになった。教義も自体とともに変わる柔軟性があるんだなと思う。

●男は中学は中学生になると丸刈りにしなければならなかった。"

●"基本的に女性優位のスピーチが多かった印象です。その中で、「男性(夫、父)が、活動に奔走してくれているのは婦人部(当時)なのでそれを全力で支えなければならぬ、感謝しろ、言うことを聞け」と言ったようなことをたびたび指導者が本部幹部会と呼ばれる大きな会合のスピーチで冗談交じりもありましたが頻繁に述べていたことを記憶しています。

●神は男女を別の目的や能力を持つ存在として創造して。男が家庭や教会を治める。

●"家父長制が根本の教えであり、一家の統治者、管理者となるよう備えなくてはならない。

●同性愛者は神の教えに背くので、神様の愛を求め、変われるように祈らなくてはならない。また、周りもそれを助けなければならない。

●男性のピアスは許されない。化粧や女装も同様である。

●死後、神の国は一夫多妻制なので、それが可能となるような人格を備えなくてはならない

●頭であるべき

●教義に基づき、男性として与えられた役割の通りに生きなさいと教えられます。

●具体的には、「力仕事を率先して行う」「誰かを守れる強さを身につける」「愛の主体として1人の女性を愛する」「女性の裸などみだらなものは絶対に見てはいけない」「ヤンキーのような奇抜でチャライ格好をしてはいけない」などがありました。

●「夫」や「父親」としての役割が重視され、ジェンダーロールに従って生きるよう求められます。"

●男性以外が指導的立場に立つてはならない教義であった。

●模範的であるべき

●よく覚えていませんが、夫唱婦随を美德とするような意識は言外にあったと思います。

●男性は家族の頭、付き従いなさいとの教義があり、男尊女卑が基本でした。

●"男性だけが壇上で話せる。

●一家を支える。まとめる。"

●純潔を保つこと

●成人したら、期間は2年間、生活費を含めた諸費用は自己負担の布教活動をするように(することが当然と)求められていた。

●"男性は女性に対して「頭(かしら)」である。

●男性が髭を伸ばすのはふさわしくない。



Q18 教団の教えや活動のなかで、「女性はこうあるべき」「女性はこうあってはならない」と言われたことと見聞きしたことについて、可能な範囲で具体的に教えてください。無回答も可能です。

- 家を守るべき
- 女性は男性を立てる役割だということをしきりに強調する。
- 家庭を守るべき存在にならないとおかしい。
- 女は不浄であり、男より劣ると教えられた。生理は汚いものという教育をされた。
- しっかりと家を守るべきだ
- 家父長制を重んじる所があり、間接的にそうした思想に誘導する傾向があった。
- 男を立てる、等。
- 夫に付き従うように
- バプテスマを受け、幸せな家庭を信者である男性と築くこと
- 主の花嫁となること。母としての使命を果たすこと。
- 女性に生まれるのは穢れているからだ。修行が進めば生理は上がる。女性らしさを無くせ、化粧をするな等。
- よく覚えていないけど、男尊女卑。集会には女性は長めのスカートと決まっていた。
- 女性は男性につき従わなければならない。夫の不倫以外の理由で離婚はできない。女性は組織内で教える立場にはなれない。
- 男性を立てるべき
- 教団の教学試験を受けるために女性役職者の講義を聞いた際、女性も女性のまま成仏できるというのが優れた経典と言いつつ、でも本来女性は嫉妬深くで劣った存在と言うので、その人に抗議して空気が悪くなった。
- 妻は夫を支えるものである。慎み深く夫の後ろに立っていないなければならない。
- 男に従うべき、女は馬鹿、DV や性被害を受けても許すことを求められる
- 頭の指示に従う
- 淑女であれとか、母は偉大なり、とか母は太陽、とか。本部に行くときはパステルカラーのスーツを着用、ピンク色の頬紅（チーク）を「足りない!」と塗りたくられた。屈辱的だった。
- 露出の多い服は着てはいけない
- 女性は男性に従順であるべき。
- 聖母マリアについて「御身は女の内にて祝せられ

と女性が下である事が前提の祈りの文言。

- 女性は男性を立てるべき。（「アゲマン」という言葉も使用。）女性は家にいて家庭を守るべき。現代は女性が男性よりも多くの割合で地獄に堕ちているが、その理由は女性が社会進出をして間違った自己実現をしているから。
- 普段はズボンが好きで着ていたが、教会に行く時にスカートを履くように求められた。
- 旦那さんには従えと、でもたぶん今は変わってるとは思う
- 通っていたカトリック系ミッションスクールでは、道徳の授業がなく代わりに宗教という授業があり、その授業で、男性を誘惑するような服装、ふるまいを慎むようにという話があった。
- 教団内のあるグループの女性は、結婚したら卒隊します。早く結婚したいと言うのを「早く卒隊したいわ」というふうに話していました
- 母親として子供を育てること、家事をやって家庭を円満に保つべきという感覚が、男性よりも女性に求められる空気があった
- 貞淑、純潔、多産で、父家長制を支える母であれ的な感じ。昔から一妻多夫x、同性愛x
- 夫を尊敬し服従する。華やかではいけない
- 母は一家の太陽。夫を支え、子育てに集中して取り組み、家庭を円満に回すのは、女性の役割。女性は宿業が深いから、宿命転換の為、信心を頑張らないといけない。一家の宿業を切るのは、女性の役割。女は男に不幸を左右されるから、女子部のうちから福運を積んでいきなさい。
- 女性は結婚したら専業主婦になり宗教活動に専念した方が良いとされている風潮があり、実際にそのようにしている知人もいた。親には言われなかったが、周りから子供が産まれたら仕事を辞めた方がいいと言われてたり、子どもにも入信させるのが母親として子どもを幸せにすることだと言われてたりもした。
- 教会の雑務担当は「婦人会」の人がやっていることが多かった。
- 男性を教えたり指導するな。柔順
- 男性は女性の頭（かしら）であり、女性は男性を超えてはならない
- 化粧をしない、家事育児は全てやる、男性の言うことには従う
- 教団の指導者が説話の中で母のような優しさと言うようなことを何度か言っていた
- 全体的に男尊女卑の傾向が強い教理なので、夫(父

親)の言う事には必ず従うようにと教えられる。モラハラを助長するような環境である。

●母親の役割に対する押し付け。「母は家族の太陽」「母は朗らかに」といった言葉が度々使用されていた。

●女性は慎み深くあるべき。女性は男性を敬い従うべき。女性が男性のように振舞ってはならない。

●男性の後ろをついて歩いていく、男性に献身的であれ、我慢が大事など

●母親は家族の太陽である、というような考え方。特に女性を蔑むような考えはなく、女性の活躍を期待した考えが強かった。

●(マイナス的な意味では無いが)女性らしく教団を強く牽引して欲しいというのは、常日頃の集会でも問われていた。

●女性は男性に比べ(結婚すれば仕事せず?)貢献出来るから、男性より積極的に活動を行え。

●そもそもお互い呼び合う時「○○兄弟」「○○姉妹」と呼び合うので男女しか選択肢がありませんし、服装もフォーマルでないといけないので女性がパンツを履くのはタブーのような空気がありました。

●神は先に男性を創造し、その補助として女性を後から創造された。夫婦では妻は夫に逆らってはならない、という思想。宣教活動において女性は帽子をかぶらなければならぬ。それは女性が男性よりも一段下の創造物であることを示すため、という思考

●男の先祖、家系を重視する事、墓の掃除や法事など。

●内部組織が年齢●性別によって以下のように構成されているため、組織構造がかなりジェンダーロールを強化していると感じる。また、35歳(少し曖昧ではあるが)を過ぎると未婚女性は「女子部」から自動的に「婦人部」での活動に移行され、その点でも「女性は結婚しなくてはいけないもの」という内面の規範が強化される。小学生；未来部(男女一緒に会合を行う)、中学生；中等部(男女分かれて会合を行う)、高校生；高等部(//)、大学生；学生部(//)、成人女子～未婚かつ約35歳までくらい；女子部、成人男性～未婚かつ約35歳までくらい；男子部、既婚もしくは35歳以上；婦人部、既婚もしくは35歳以上；壮年部など

●聖書に「妻たちよ。主に従うように、自分の夫に従いなさい。キリストが教会のかしらであり、ご自分がそのからだの救い主であるように、夫は妻のかしらなのです。教会がキリストに従うように、妻も全てにおいて夫に従いなさい。」と書いてあるので、しばしばこの箇所から引用して語られることがありました。

●会場での奉仕作業上の役割分担や子供だけの会合の

場で少しあった。

●はっきりと言われていないが、子守や食事準備をするのは女性が多かった。特別な行事で、女の子が極彩色のドレスを着て歌や踊りをするお遊戯会があった気がする。自分が参加したかどうかは記憶にないが、スカートが嫌いな子どもだったので、もし参加させられていたらそれだけでも苦痛だったと思う。(それよりお遊戯会の雰囲気全体の、独特の気持ち悪さのほうに印象に残っているが)

●男性は女性にとっての頭(かしら)であり従うべきであるという教えがあった

●独身の場合は開拓奉仕と言う布教活動の奉仕を中心にした生活をするように強く要求をします。昔なら月90時間が要求されていました。今は70時間に減っていますが、それでも働きながらの時間要求はなかなか厳しいです。同様に専業主婦の人達にも開拓奉仕を強くすすめてきます。

●集会や宣教活動にズボンを履いて出席する事を禁止。男性の前で公に祈る事や教える事を禁止。会衆の中で発言権はなく役職に付けない。本部●支部で働くにも単独では難しかった為、誰かの配偶者としてのみ認められた。

●内部で「未来部(子供)」「青年部」「女性部」「壮年部」「婦人部」など、性別や年齢などで分けた組織に分かれていて、それぞれならではの役割などもあったため、教えとして強制されることは無かったと思いますが、当たり前のように価値の押し付けはあったと感じます。

●友人が、何かの集会の際に黒のリクルートスーツを着て行ったところ、「華やかな色のものを着た方がいい」といった趣旨のことを言われたと聞いた。

●男が頭(かしら)なので従うこと、慎ましい服装をすること、目立つ立場で特別な任務に就く時は被り物をする事

●女性は補い手(おぎないて)であり常に男性を支えなければならぬ

●女性は家族の中で治める立場となってはならない、組織の中でも管理者にはなれない

●男女で活動が分かれるため、女性だけの中の同調圧力で、周りとは違っていると、変わってる人と思われるので、女らしい格好をしろと言われた。地域の代表は男なので、女がお手伝い役を自然とやる。

●男性の上に立たない、リーダー的存在にならない

●バザーやミサ後のパーティーでは食事担当はいつも女性だったし、結婚講座では「夫を支える」的なこと

を講義された。

- 女性は教団内で出世できない 女は黙っている。
- 教団の活動参加時はスカートを履かなければならない
- 女性は働くべきではない。家にいて家族に尽くすのがしあわせである、など。
- 女性は、主体である男性を「相対」として支える立場である。女性は常に男性よりも下である。聖書において女性は最初に罪を犯した人間であるので、男性よりもより罪が重い。
- 女性らしい服装の強調
- 家族や教団の中で男性に従うべきとされた。男性のような容姿は禁じられた。
- 女性は男性に敬意を払わなければならないので、宗教での勉強中男性が同席しているのに祈りを女性がする場合、ハンカチを頭に掛けて祈っていました。教会での立場も女性は謹み深く従順である事が求められています。夫婦であれば夫が性的暴力をしても離婚は許されません。相手が不倫した場合のみ離婚できます。
- 夫に従え
- 夫に従うもの
- 女性は従順に尽くすもの、組織内で主導権を握ることがあってはならない
- 自慰行為の禁止、異性交遊の禁止、男が主体で女が相対だから女は男に尽くすべき
- 女性は男性を立てて家庭を守らねばならない。必ず子供を産まねばならない。
- 月並みですがいわゆる良妻賢母的な内容です。見慣れた風景だったので高校生ごろまで違和感なく過ごしていましたが、集会時奥様方やお姉さん達はいつも食事の支度や男性の身の回りの世話をして小学生の頃から私もそれを求められるようになりました。兄たちは遊んでいました。
- 女性は華であれ的なことが教団トップの教えであった。夫を支える的なことも。婦人部(既婚女性)はかなり持ち上げられていたが、それは宗教勧誘が得意だから。
- 貞淑であるべき
- 女性は結婚して家庭を持って子供を産むべき、中絶はしてはならない等
- 何かや誰かに従うべき
- 聖書にもとづく性別役割分業
- 妻は夫に従うべきである。男性の決定を待つべきである。
- 家庭や地域の太陽としてどんな時も朗らかにいること

- 男性の場合と同様。
- 活動に時間をかけられるよう結婚後は専業主婦がよいとされていた。
- 女は台。男を立てる
- 女性は前に立って話してはいけない、男性を教えるはいけない、夫に従わなければいけない
- 女性の性質とか神性についての説明
- 女性は男性に従うべき。男性のいる場で祈ったり教えたりしてはならない。夫の権威を認めて夫の言うことに従わねばならない。
- 女性というか、妻は…と教えられました。妻は夫に従うべき。意見を言ったとしても最終的には夫の決定に従うよういわれていました。
- 配偶者であるうがなかるうが、男性に従い、支える。子育てをする。教会の人たちをケアする。
- 教団というより、父親の思想かもしれませんが、"女性は太陽のような存在感で、家族を照らさないといけない"というようなことを言っていたのが、心地悪かった記憶があります。
- 女性らしい服装をするべき、派手で華やかな格好はしてはならない
- 生理中の女は穢れている 人のあばら骨から造られた女は、女であって人ではない
- 妻は夫を敬うこと。肌の露出を避けること。慎みを是とすること。未婚の男女が二人きりになるのを避けること。
- 女性は元来男性に従属するものとして神に造られたため、積極的な主張や意見表明は慎むべき。教団内でも要職に就くことはできない。
- うる覚えですが教団の新聞で、婦人部(現在は女子部と合わせて女性部ですが)が「一家の太陽」等称揚されていました。私の思い込みかもしれませんが、「女性は家を守るもの」という認識がなければこういった言葉は出てこないのかな、と思います。
- 女らしい服装であるべきと言われた。女は群れの長になれないと言われた。男は壇上に立って信者を教え導くスピーチの練習ができたが、女は他人に寄り添うような未信者向けの宣教の練習ばかりやらされた。
- 働いちゃだめ
- 女性は明るく、太陽のように、あたたかく、などを聞いたことがあるような気がします
- 女性は会衆の中では黙っててください。話すことは許されていないからです。コリント第一 14 章 34 節
- 女性は幸福になるべき、不幸になってはいけない、

といったような、女性を大事にするニュアンスが強かったように思います。家父長制を強固化するようなものではなかったです。

"聖書の中にアダムとイヴの話がありますが、団体の教本では、聖書の内容に解釈を加えています。<聖書原文>イヴは、蛇の誘惑に負けて善悪を知る木の実を食べてしまった事で、自分が裸である事に気づいた→<団体教本>イヴはサタンの性的な誘惑に負けてサタンと肉体関係を持ってしまったことで、女性が人類最初の墮落をした。なので、人類最初の墮落をした女性にサタンは近づきやすい為、より教えに忠実に従うようにとの教えがありました。この教えはかなり根本だったと思います。

●法人職員は、髪の色や服装の決まりがありました。  
●まず、奥さんになったら会社を辞めて家庭に入る事を15年くらいまで推奨されていました。教団本部で働く女性は結婚したら辞めなければいけない。働いていた女性に聞いたが仕事ではなく「訓練」であるからだとか。相当意味がわからないが同じ宗教者同士の方が価値観があうとの言説により本部内で幹部カードを付き合わせて結婚相手が決まると、仲の良い職員が半ば冗談で言っていた。この文だけ見れば統一教会と変わらないと見えるが、擁護ではないが一応人となりを知って合っているのではないかとこの検討の上本人に話し合ってから判断できる。そういう私も地域組織の方に紹介してもらって結婚し今に至る。ジェンダーの問題は宗教というより社会の流れでもあったように思う。ただ、今の一連の歴史を見ると政治の力や裏にある統一教会の思想、そこに組織を運営するにいたり女性の力は絶対に必要だったので、そこら辺がマッチしてしまったように思う。女性の存在意義を見出すには組織活動はぴったり。そこで置き去りにされた家庭や子供たちは今の二世問題に結びついている一つではないかと推測している

●女性は男性を助ける役目。女性は教会に派手な格好をしていてはいけない、など

●女性は清楚な佇まいであるべき。

●妻は夫の意見を尊重しなさいと、いわれていた

●女性は黙っているべき、男性が指導する立場になるべき、などの男性優位な教え。ただし、その言動をしている人が教派のマジョリティなのかは疑問がある。

●女性は家庭に入る前提

●聖書の文面には女性差別の記述があるので、非常に違和感があった

●書籍を基に、女性とは…質素であれなど、集会や女

子部の会合で、言われていましたが、それも思い出せません。未入信の相手と付き合ってもいいけど、入信を必ずすることを求められてそれがプレッシャーでした。未入信の相手と付き合ったら猛信の親から反対されて結婚できない先輩、後輩もたくさんいました。不倫…離婚はダメなど、常識的なことも言われていました。

●結婚したら働かずに活動に専念すべき

●ミニスカートを履かない、化粧をしない(結婚適齢期になったら身綺麗にすることを求められる)、肌を出さない、異性と2人きりにならない、異性と連絡を取らない

●旦那さんを世界で一番素敵な人だと尊敬していく

●服装(からだのラインを強調したり肌を出すような服装の禁止)

●婦人部はよく花に喩えられたり、「しなやかに」などという言葉で活動を励まされたような気がする

●家庭の中でも「男性」をあがめなければならなかった

●"女子部"は家族の太陽であらねばならないなどの理想の女子部像を語る言葉。※主に未婚の女性が所属するもの。現在は女性部へと名称変更。婚姻の有無などの区別もなくなる。

●家庭を守り、亭主と子供に尽くす母親は素晴らしい、内助の功のような内容で女性を讃える風習がありました。しかし近年では女性の立場もいろいろなので、色々な女性にフォーカスされていると感じていることも事実です。

●直接的に「こうありなさい」という言葉は使われなかったが、女性もしくは母親は太陽であると、事あるごとに語られていた。私自身は押し付けがましさを感じていた。

●淑女として立ち振る舞うこと

●女性が仕事をするのを歓迎されなかった

●離婚してはならない、夫をたてよ

●常に妻は夫を支えるべきである

●教団が配布しているカレンダーの教祖の格言として家父長制を体現するような文言が書かれていたのを覚えています。具体は忘れましたが、妻は夫の言うことを聞き貞淑であるべきとか、井戸端会議するとか細かいことが書いてあった気がします。

●子どもを育てる上で賢くあること。

●女には女の親の先祖の罪が付いているのでそれを浄化するというニュアンスのこと。主に献金

●母という存在に言及する書籍、教え、新聞記事が多

くあったと思われる。母を花や太陽に例え、賞賛するものだった。男性部は無いが（青年部はある）女性部は最近新設された。

●例えば研究の司会をすることになった母が髪を隠していたことがあった。あまり女性がそうした立場に立つことは少ない。

●女性は結婚したら家庭にはいる

●女性は男性を支える役割、土台となる役割を果たすべきときいた。

●女性はいつも笑顔でいなければいけない、家庭の太陽であるべき

●妻は夫に服するべき。身だしなみを整え、よく働いて夫を支え、謙遜であるべき。

●聖書の教えの中で女性は男性につき従うようにというものがあり、教団内でのリーダー的な役割は男性信者（長老）が担っていた。ただ男性も女性に対して姉妹のように敬意を払うようにという教えがあり、日本の家父長制のように抑圧されているようには感じなかった。信者の女性は集会や伝道の場ではスカートの着用を求められていたと思います。作業時やプライベートではズボンも可だった。

●地味な服装が好ましいという風潮があった。

●妻は夫を支え、夫に従順であるように。慎み深くあるように。

●服装は、教団トップの好きな派手な色のスーツ。

●女性は結婚し子どもをもうければ母親になるので、教養や善悪を見抜く力を身につけるよう努力すること。大黒柱の夫を生かすも殺すも妻の振る舞い次第という内容の指導。

●役割分担が分かりやすく女性はこう。というふうに別れていたと思う。（たとえば食堂で働いているのは女性だったように記憶）

●男性に従う。男性を支える。

●家事をこなさい。男を助けなさい。最後に家族を守るのは女です。女こそ強かで、母性があり、全てなのですと、聞きました。

●おとなしく、落ち着いて、やさしく、周りを気遣うのが「女性の本性」というお説教を聞いた。

●男は女の頭（かしら）であり、これに服すべきであるという聖書の言葉を基に、家庭内、宗教団体内で男性に批判的な事を言うてはいけなかった

●慎み深くあること。よく従う妻であること。

●家庭の中では男性より立場が低く常に男性を立てなければならぬ。家族の為に尽くさなければならぬ。専業主婦となり平日昼間から布教活動を行うのが望ま

しいとされている。

●男性の時も書いたけどそれと同じようにあると思っていたけど、女だからより頻繁にあったかもしれない。笑って愛想良くせんね、気が利かない、お母さんみたいに子供たくさん産みなさい、などなど "

●前回答同様、男は天、女は地というコンセプトに準じて、男から言われたことは絶対、というふうな教えがある。

●女は黙っていなさいと言う聖句があり、あまり主張をしすぎると、男の長老に、その聖句を持ち出して黙れ、と言われる。

●妻は夫に服しなさいと言われる。

●女性は教団の中で、人の上に立つことはない。"

●家を守る 夫をたてる

●飲食の準備や給仕を当然女性がするものとして言われる

●女性はズボンを履かない。忌むべき存在だから帽子は被ったまま。純潔を守ること(男性も)。長老等立場上にはなれない。日本の家父長制度と魔合体した状態。

●女性は宗教的活動において活躍すべき、という価値観

●新聞や、月一回に教団施設に中央の会合を中継する時に、女性の代表者などがそのようなことを喋っていたように思います。(それ以外はそもそも組織が別なので、知りうる事が出来ません)

●女性のための17訓というものがあり、古い良妻賢母型の考え方を押し付けられていた

●男性と同様

●女性は業が深い。かかあ天下の根性を改めなさい。など

●女性は男性を支えるもの。弓となって矢となる男性を飛ばす。女性らしくするのは素晴らしいこと。会合にはスカートで参加するのが正装。寒くてもズボンはだめ。ストッキングを履く。靴下はだめ。一家和楽の為に尽くしなさい。母は太陽でいなくてはならない。いつも明るく母の祈りで家庭を包もう。

●女性は賢くあれ。

●女性は慎ましくなければならぬとされ、スカートの着用が義務付けられ、その丈の長さも決められていた。

●輝いて色々なことに挑戦して行こうという感じ

●父が幹部をしていました。今となっては父個人の主義と教団の教義が混ざり合っていたと思いますが、女性は男性の指示通りに動くことが当然の環境でした。家庭ではもちろん、勉強会や集会の場でもとにかく出

しゃばらないことが求められました。

- 男に絶対的に従うべき。でしゃばってはならない。男（男の子でも）がいる場で女が司会等をする時は、頭にハンカチを乗せていた。
- 女性というか、母親としての事を、会館の同時中継で、教団トップがよく、話していた気がする。
- スカートを履く 男性の車に乗らない
- 女は男に従う
- 女性は女性らしくという教えがありますので再々聞きます。私は女性なので、親元から離れる必要はないと言われましたし、結婚すれば家のことをして子どもを育て教団に奉仕するようというようなことはしょっちゅう言われていました。
- 性的な興味は害悪、男性に教えられ導かれるよう
- 肌の露出を控える
- 「女性は男性を支え立てるべきで、夫の問題は全て妻の責任」「一家の問題は全て母親の責任」「女性は男性より宿業が重く命が汚れている劣った存在である」という教義。そのくせ教団トップは「女性は偉大だ」「女性を大切に」などと口先でおだてる。それを真に受けた女性たちは、組織運営上の煩雑な実務が全て女性に押し付けられているにも関わらず、ヒーヒー言いながら全てを引き受けている。
- （純潔を教義としているため、）清楚でいよう
- 女性は、台となる。目立たないが、家族を支えているのが女性。
- 人前に出る時は高い声で話すべき、良妻賢母になれ、結婚したら仕事をしてはいけない
- 家庭で起こるトラブルは全てあなた(女)が悪いから起きるので、あなたが本を売って広めたり、集会に参加して学ぶなどして精進する必要がある
- 夫や男性に従うべき 身なりに気を使いすぎるべきではない 慎み深くあるべき
- 女性は夫に従うべきだと教えられる。
- 夫を支えて、子どもを良い学校に入れることが、良妻賢母の役割
- 女は家を守るもの、女は穢れがあるので(生理など)そのままでは極楽へ行けない等
- 肌の露出は避けるなど性的なことに関する
- 女性は会衆内で黙っている、夫や男性の幹部に従順でいる、女性がやむを得ず集会で司会をするときは、頭を覆うベールを被れ
- 教団トップが映像や出版物に出る際は、常に婦人は同席していたが、発言している記憶がまったくない。「家庭内で女性は支える側である」というイメージが

固定されていた。

- 選挙活動において電話かけや友人への訪問などを積極的に行っているのは女性だった。教団の新聞、集会や地域の集まりでもそれを「女性の活躍」「女性の力」として褒め称えていた。実際に私の家族でも母のほう選挙活動に精力的に取り組んでいた。
- 住んでいる地域には支援政党の市議会議員が男女ともにいたが、両親がまずはじめに相談するのは女性の議員だった。内容は通学路に横断歩道を作って欲しいといった日常の困りごとがほとんどだった。両親からは男性議員の名前すら出なかった。「女性は細かなところに配慮できる/する役割である」とイメージが固定されていた。ちなみに市議会の中で役職についていたり、集会で前にでて話すのは男性議員だった。それについて両親も私も疑問を口にしたことはなかった。
- 25歳までは恋愛してはいけない。本部職員は結婚すると辞めなければならない。
- 女性はおしとやかであるべき、家庭に入って良き妻、良き母として振る舞うべき。主体である男性を支えるべきという男尊女卑的教えであった。
- 母性が強調されたり、男女での役割の違いについて強調されたりしていた気がする
- 家族の中でも母親、娘がしっかり信心しないと家族のためにならない。
- 指導的立場にある人が、女性は聡明であるべきという旨の発言をよくしていた
- 支える立場の印象
- 女性として教団の新聞配達で地域支部の活性化に貢献せよとの指示
- 女性は家庭の土台となるべき。男性を立てるべき。
- 男性を誘惑しないよう服装に気をつける。男性信者の前で教義を第三者に教えたり声を出して祈ったりすることは、女性より上の立場である男性に対して不敬な行いになる。
- 同性愛、シスジェンダー、Xジェンダーの否定
- 男性を立てるべき。身綺麗にしよう。夜は早く帰宅する。
- 家族の手伝いをする。働かない者には食べさせない。他の信者の子供と比べられた。
- 女性は男性を立てる。夫や息子に従う。特に妻は毎日夫に三つ指をつけてあいさつ（いってらっしゃいませなど）をすると良い。それができないと子供の育ちに悪影響を与える。子が病気になったり素行が悪くなるのは妻が夫に尽くさないせいである。
- 親に従順であるべきという教えが常にあった。上級

の教会に行かされ、花嫁修行をさせられた。

●母親は家庭内での唯一の教育者であるため（母親に育児負担が重くのしかかっている）、女性教育は重要だと教えられた。家庭が上手くいっているかどうかは母親が幸せそうかどうかで判断できるとも常々聞かされた。男性が成し得た財が母親に行き渡っていれば幸せな家庭。そうではなく、稼ぎ手の男性が経済的に妻を抑圧していれば子どもも幸せにならない。妻を見れば家庭が幸せかが分かるということをよく母親から聞かされた。

●頭である夫に謙遜に従うこと

●幸せになるべき、母親は一家の太陽

●男性側に答えたように、妻は夫に仕え、夫は神に仕える というもの。あと、仕えるだけでなく夫を支えなさいというようなものもありました。男尊女卑ではありますが、時代的に宗教以外でも同じような考えが多く、今でもそこまで以上だったとは思っていません。未婚の男性女性についてはあまりこうあるべき というようなものは覚えていません。

●女性は、家を守り、宗教活動をするべき

●男性は壇上から教える資格があるとされて縁台を一人で使ってスピーチ出来るが女性は2人の対話形式しか壇上で許されない。男性と女性の役割を分けている。女は黙っていなさいと言われる。

●家にいて、家庭を守り、家事を徹底的に行うことが女性の宿命

●集会への出席はスカート着用

●若い時は夫に仕え、老いては子に従え。

●女性は男性を支え、家族を守り、子供を育てるものだと教えられた

●夫に仕える

●結婚し母になる事を前提とし、教祖による「母は素晴らしい」という言動や母を讃えた教団オリジナルの合唱歌があった。

●結婚前の女性は「女子部」という区分けをされるが、教祖から「女性は(特に婦人部の女性は)前向きに明るく男性を支えれば上手く行く」という指導があった。

●女性のための17訓という、開祖の奥さんが遺した言葉がありました。女らしくあること、女であることを忘れないことといった抽象的な言葉もあれば、井戸端会議をしないことという具体的な言葉もありました。

●教団のえらい人が書いた本に、女性の生き方とは、のような表紙のものがあつたような気がする。実家では今も教団の新聞をとっているのですが、その広告欄で今も時々見かけます。

●女性は常に笑顔で、など感情表現の押し付けなどがあつた。

●女性は会衆で教えるはならない。男性信者を教えるはならない。夫に従うべき。夫を敬うべき。

●マリア様のように清純であるべき飾ってはならない

●女性は男性に仕えるべき存在、立場であり、また日本(妻)は韓国(夫)に対して経済的に支援しないといけな

●バリバリ働くことは推奨されず、主婦やパートで教団の活動を優先するような生き方が望ましいとされている感じはありました。

●慎み深くあるべき(身を飾りすぎではいけない、男性に従順であるべき)

●女性は一家の太陽

●男性には口答えをしないことが「当然」とされており、女性は「一歩下がる」、「大和なでしこ」、「笑って受け流す」などが美德とされていました。礼拝などはすべて男性から呼ばれます。直会(なおり)と呼ばれる食事提供などがありましたが、台所仕事や配膳は当然女性の仕事です。そうやって忙しく走り回ってニコニコしていることが「よい」と、小さな頃から思い込まされた原因だと思っています。

●服装について厳しかった。男性を喜ばせるための服を着るなと怒られた。

●家族の頭である夫に従うべきであり、会衆では僕、長老、巡回監督、地域監督…に従います。もし女性が公の場で祈ったり人に教える際には頭をハンカチのようなもので覆って男性に敬意を示す必要があります。

●愚痴を言ってはならない、辛抱しなければならぬなど

●化粧を派手にしない、身なりを整えなければならぬ、未婚時は処女でならなければならぬ、家事が出来なければならぬ、家の事は女性がすべきなど

●弱い器なので男性に従う事。慎み深い服装や行動をする事。

●父親、もしくは夫に逆らってはならず、それに付き従わねばならない など

●女性は子を産み育てることなど

●子を育てるので、信仰心に厚くならなければならぬ 常に謙虚でなければならぬ 子育てをおろそかにするような仕事をしてはならない

●母は家族や生活の太陽で、強く穏やかで家族や周りを支える素晴らしい存在だという言葉は何度も聞いたし、その考えを強化し讃えるための歌などもあつた。

●純血、男尊女卑 男女二元論、本当にひどい。

●男性に逆らうような思想を持つことすらいけないことだった。

●組織内で指導的な立場に就いてはならない。男性の指導に従順に服すべき。慎み深い服装をすべき。肌が露出した服装をしてはならない。

●強制とは少し毛色が違うかもしれませんが。女性の中でも母という立場の素晴らしさを強調しています。具体的な文章では、「お母さんの声、お母さんの手ほど美しいものはない。子どもをあやし、子どもを呼ぶ母の声。(中略)母の声が世界を結び、母の手が平和へと繋がっていきときどれほど美しい地球になることだろう」とこのように女性の母性を賛美するものが新聞に掲載されています。

●男性を立てる

●男性を立てよ、母親を立てよ

●私が「女性」なので、頻繁に言われました。服装は肌をなるべく露出しない、派手な色使いのものを着ないようにと言われました。直接に言われることもあります。たいしては「愛で覆う」という言葉によってふんわり注意されるようなことがありました(「かわいい服だね、でも神や他の人が見たらどう思われるかな?」、といったようなかんじです)。女性は男性の一步手前にいるということがベースでした。兄弟(男性)の隣で穏やかに微笑む姉妹(女性)が当然でした。そうできていないと「私たちは不完全な人間だから…」とお互いに弁護していました"

●女子部、婦人部といった分け方があった。今は女子部に統一された。

●淑やかさと従順さ

●会合に出席する際にふさわしい服装で来るようにと言われた事があります。

●自分ではTシャツにロングスカートで普段着のつもりでしたが、セクシー過ぎる等と言われました(スリットがあった為?)

●女子アナの様な見た目若い女性信者を求めているような気がします"

●男性は女性の頭(かしら)、男性は女性を守り、女性は男性に従うことが本来、神が創造した形  
夫の言うことを聞く

●教団の中では、女性は頻繁に花に例えられる。グループ名に花にまつわる名前がよくつけられ、周りも笑顔にする明るさ、朗らかさ、笑顔、ホスピタリティーを求められたり、それが女性の強みなものだから活かしなさい、というようなことをずっと言われる。また何かにつけて「乙女」「母」といったワードが教えの中で、

女性へ教えを説く際に使われた。今は社会の動きを汲んでスカートのみになったが、わたしが小学生の頃は会館や会合のボランティアはスカートの制服とスカートを着ることを求められた。また、イベントが開催のための出し物は、女子部は歌やダンス、男子部は和太鼓など、いわゆる女性らしさ●男性らしさに基づいての発想と考えられる内容だった。

●男の権威を認めること、補佐すること

●お題目を沢山あげるべき

●慎み深く

●愚痴を言わず笑顔でいなさい。

●男性を補う立場だと聞いた

●夫を支える。子どもを人材に育てる

●女性は男性を支える(夫を立てる)ようにしなくてはならない。女性はつねに(いわゆる女性らしい)節度を示さなくてはならない。女性は男性に意見してはいけない。

●女性は家庭を持たなければならない。子供をたくさん産んで、主婦であること。そして子供たちをつれてくること。おしとやか。女らしく(女々しく)いるように。

●女性は教会活動を裏方として支えるべき。炊き出しや教会清掃、生け花等、教会奉仕活動の多くは女性が担っていた。

●女子部員は男性との交際は歓迎されない。(宗教活動が疎かになるから。女子部員は数が少ないので)婦人部員は働くことは歓迎されない。(地域の責任者や新聞配達員としての責務を果たしてほしい)

●聖書ではエバ(女性)から墮落したから、墮落には気をつけるとか。化粧とかも主体者(夫)のためにするべきで、それ以外はサタンだみたいな。

●爽やかな笑顔などにこやかでいることが理想とされる。行事の運営スタッフの際、きちんとお化粧をする、スカートにストッキングという服装などは実質必須だった。

●男性より上に立とうとしてはならないと教えられた

●男性を立て、子供を産むべきと言われていた

●幼いころ、教団の制作したビデオで「女の子が髪を染めるのはいけない、親を心配させてはいけない」と話しているのを見た記憶があります。

●女性には母としての役割を重視していたように思う。

●男性より控え目に毎日行動をする。

●男性を陰で支える、家庭の太陽、母は偉大

●結婚前には絶対にセックスしてはならない。夫に従うことが妻のつとめ。はしたない格好をしてはならな



い(家の中でタンクトップ姿でいると「はしたない」と言われた)。

●得度した女性に対して当時の長が「丸坊主にせなあかんで、いけるか？」と笑いながらいい、場が笑いに包まれるという場面があった。容姿の自由に反するという問題があるが、それは別にしても「女性は髪を伸ばすべき」で「丸坊主を嫌がる」という前提を皆が共有していたと思う。そして、その前提のうえで上記のことを笑い話として言われるのは屈辱的であっただろうなと感じた

●女性は女性らしく男性を立てるべし、のようなこと

●女性は男性の対象の立場のため、男性を支える立場にならなくてはならない。

●良妻賢母であることを求められた。教団全体としても、婦人部は男子を支える存在だと位置付けられていた。ただし、現在は女性部という名前になっている。

●家で家庭を守る

●女性は業が深いから信心、活動を一生懸命しなければいけない。一家和楽は女性の信心の深さで決まる。家庭不和は女性の宿業によるもの。他の家族のせいではない。自分のせいだから家族を責めてはいけない。愚痴は福運を消すから言ってはならない。

●夫は妻を守り、妻は夫に付き従うべきという教えでした

●女性の方が強い、女性のパワーを活かそう、母は強い、女性の力で広宣流布、みたいな言葉、母親になることは素晴らしいという価値観。ポジティブな方面ではあるものの、女性は美しく力強く元気に貢献！のような型を求められているように感じた。

●スカート着用(ズボンがだめ)

●女性は家を守るべき

●精神疾患ということもありますが、経済的に我慢しても、未だに母に話すと。「働かなくていい」と言われる。子育てで全く自分にお金かけられないので、A型作業所へ通おうと思っています。

●内助の功とよく言われた

●結婚、子どもを成すこと

●夫に黙って尽くせ

●自分は男性なので、具体的な言動を目撃した記憶はないが、男性なら「青年部」「壮年部」、女性は「婦人部」と教団内グループが性別●年齢で明確に分けられており、今思えばそのような捉え方しか持っていない思想なのだと思いが当たる。また、言葉にはっきり出す場面を見たわけではないが、やはり女性は男性の後ろに控え支える存在なのだという考え方が暗黙の了解と

して通底していたように言動の端々から窺われた。

●身なり言動などは女性らしく振る舞うように教えられた

●Q16に同じ

●家事をよく手伝い、家庭的、面倒見よく、可愛く、綺麗に、社交的に、華やかに、パステルカラーのスカーとセットのスーツの着用、明るく、朗らかに、笑顔で、負けない、夫を支える、子育てがんばる、ような姿の女性が模範的だと示された。子供から大人まで。

●女性はというよりも、『家庭愛和』？という方針があって、家庭内みんな仲良く？するのが一番なので母親は一步後ろから支える、みたいな方針があった

●子どもを産むことが幸せ

●女性は相対。男性に愛で照らされ、美を返す存在。

●社会で一般的に話される範囲(他人に優しくありましょうなど)子供の頃なので、時代的に一般的な範囲の話かと思います。

●男性の回答と同じく

●妻は夫や子どもを支えなければならないとされていました。具体的にはうちの父が近所に迷惑をかけたとき母が代わりにお詫びに行くなどしてました。妻は夫を支えると教団から教えられているからと母が話してくれました

●今はなくなりましたが、50年前は教会の祭壇に女性は上ってはいけないとされていました。

●女性はちゃんと結婚して子供を産んで育てるべきという価値観があるように感じられた。信者の女性有名人が独身ネタを自虐してるのも。

●異性関係

●女性は教える立場に無いとのことで、皆の前で教えることはありませんでした

●女性は家庭を守る大事な立場で、女性が元気じゃないと家庭が暗くなる、だから元気でいてほしい、みたいな事はよく聞きました。

●男に従え。目立つな。控えめなおしゃれ

●フリーセックスはいけない

●邪な考えを抱いてはならない

●結婚関係にない男性と二人きりになってはいけないと言われました。二人で一緒に遊ぶのも良い顔はされません。

●母の歌とかあった。

●男女は性として役割が違うといった教え？があった

●女性は男性を支えるべき

●前記の通り、女性の活動家グループもあるので、パステルカラーのユニフォームを着て信者に接遇をする

ので、女性的な行動を求められます。

男性のサポート役であり、男性の上の立場となるようなことはあってはならないと言われた記憶。女性がズボン姿で宗教活動に参加することは無意識のうちにNGと刷り込まれていた。

●指導者夫婦を模範として頑張ろう、という風潮があります。

●儒教に近い感じなので、夫を盛り立てて。的なことを？

●異性との関わりをもつことに対して厳しかったです。結婚は教会の人とすることが当たり前であるし、それ以外は考えられなかった。異性との交遊することはサタンがいると言っていたと思う。

●時代的な背景もありますが、女性は家族の母として生きるという姿が理想だと言われました

●母親として常に明るく朗らかな存在として家庭を支えること。

●結婚するまでは処女。

●訓示に「男性には男性の、女性には女性の道がある」と明記されていました。

●大きな会合の時、女性はパステルカラーのスーツにショートカットの方がほとんどに見えました。子供だったのでなぜ皆同じ服なのか質問したところ、会長婦人の服装をお手本にしているのだと言われ、大きくなったらあなたもそうするんだよと言われました。女性は月ではなく太陽とか、母は家庭の希望、等のフレーズもよくききました。

●妻の頭は夫であり、敬虔で夫を支えるように。妻にとって、夫に服することが難しく思えるときがあるとしても、服するように。伝道の時の服装は、パンツではなくスカートを履くように。監督や長老に任命されるのは男性だけ。

●基本的に男性が外で働き、女性が家を守るべきだと神が教えていると言われた。

●今考えると“教え”ではなく、大人たちの間に風土的に「着飾る事(決して派手ではなくても)に対する嫌悪感」があった。「質素でいる」「外見などくだらないことに気を取られるな」とは言われた

●女性らしい服装、たとえば膝丈のスカート、肌色ストッキング、ピンクやローズの口紅などが推進されていました。

●神が人間を創造した際に女性は男性から作られた、故に女性は男性より劣っており、男性に付き従わなければならない。

●集会や勧誘活動では膝が隠れるスカートを着用。ノ

ースリーブなど肌の露出はしてはいけない。夫に逆らわない。髪の毛を派手な色に染めてはいけない。

●聖書からの教えなのでその範囲で

●男に仕えるためアダムの肋骨から作られたので、神、父、兄には従順にせよ

●母は偉大で、家族の太陽であるべきだ。教えられています。

●当番が婦人会と青年会に分かれていて、台所仕事は女性、経理は男性など性別役割分業がハッキリしていた。

●女の人は業が深いから男性よりも精進しろ など

●選り好みせず結婚し、子どもを2人以上産む。などはよく言われていたと思います

●一般的に言われる温和でいつもニコニコとした典型的な女性像

●家庭を守る良い妻であるべき、みたいな教えがあったように思います

●Q16の回答と同じ。とにかく「女はでしゃばるな」という感じです。男性から言われることもありましたが、ほとんどは女性、「婦人会」の偉い奥様方からです。

●覚えていないですが、女のための17訓というのがあった。

●人口減少を踏まえ、こどもは三人以上生むことが望ましいとされていた。

●女は結婚して子供を産むべき

●女は夫に従う、組織の中の上位者(全員男)に従う、慎み深くあれ、スカートをはけ(なんでだ)

●Q16の回答に矛盾しない内容だったとおもう

●「女性は太陽」「母は強い」

●貞淑な服装、言動、また専業主婦になり子どもを産むことがよいとされた。

●妻は夫に敬意を払うようにとの教えはあったが、その逆はなかった。女は慎めとよく言われていた。

●夫を立て、親を立てる。すべてを「ハイ」と受け入れなければならない。夫と親に逆らってはいけない。母として妻として家庭を守ることを第一義とする。

●慎み深い服装、男性に従う

●女性は美しくいるべきということが教えの中にありました。

●女性は従うものであって男性の上に立ってはならない。集まりの司会など男性を指示する立場に立つ時は頭を覆う(帽子などで髪の毛を隠す)ことが求められていた

●先と同じで、古典的な性役割に依存している

●女性は男性のことを素直に聞くべき

●男性の話を聞くべき従うべき。男性には大義があり女性はその受け入れるとカラダの構造からも造られている。男性の性的加害は好意ゆえという男性弁護。電車で痴漢にあうのは日頃の行いが悪い。夏でも露出高い服装してはならない性行為を誘っているサインと同じ。集会では女性が飲食準備お酌などせねばならない。男性は酔って暴言暴力もおとがめなし。胸いじられたりお尻を触られても挨拶がわりとされる。公衆の面前での強姦でもされないかぎり性的被害を口にできない空気感。嫁にやるだのもらうだの家父長の所有物としか見なされない。学校の成績がよいと可愛げがないと批難される。枚挙にいとまなしで書ききれません。

●夫を立てる、色事を慎む、前世よりの業で女に生まれてきたため男よりも徳を積まなければならない

●男性は導いてくれる存在なので敬わなければいけない。ただし教義に反することは従わなくて良い。

●女性である事を忘れない、自分本位であってはならない、ほかのことを言う時はまず自らを反省、など、女性というより人としてこうありたいというような事でした。

●男性に逆らってはならない。

●夫に刃向かわない

●妻は夫に従うべし。

●女性は男性を支え従うもの、とよく言われた。女性に割り振られない仕事があったり、長老や奉仕の僕など、役職には男性しかつかなかった。

●古いものだと、(結婚したら女性は)朝は母のように、昼は淑女のように、夜は娼婦のようにふるまいなさいと言われていたと思います。

●女子部、婦人部宛の指導としては、自分の夫や父親など男性のプライドを傷つけないよう、大きな心で大切にしようという方向性の指導がされていました。"

●男をたてる、大人しく言うことを聞くなど

●はつらつと華やかであることを求められた

●もし強姦にあったら舌を噛み切って自殺しなくちゃいけないと教えられた。祝福結婚するまで純潔を絶対に守らなければいけない。異性と付き合ってはいけない。人を好きになってはいけない。

●服装や髪型についてはそれぞれの性別で厳しく「信者らしさ」の基準によって女性らしさ●男性らしさを求められました。家庭の中では夫を立てる●頭として主導権を明け渡すようにと繰り返し指導されました。宗教の中ではでしゃばらない、長老や奉仕の僕という壇上で話されるような「上の立場」には女性は就くこ

とができません。

●夫や男性に従うこと、慎み深くあること、従順であること

●未婚女性は「女子部」、既婚女性は「婦人部」に立て分けられていた近年までの組織体制や、家庭や組織活動よりも仕事を優先する女性信者への疎外意識に、前時代的な性差や、明白ではないにせよ「産めよ殖やせよ」的な眼差しを感じるがあった。女性の本部職員や系列の団体、学校の職員には結婚すると「寿退職して家庭に入り、組織活動に専念する」のが不文律であり、時代錯誤だと感じている。

●夫に仕える 美の対象なのでキレイにする

●男性にさからわず、うまくコントロールするのが女性の賢さ。専業主婦になって、教団活動に存分に時間を使えるのがよい境涯(きょうがい)。(↑世代による、いまはそうでもないが個人によって意識差がある)。耐えて祈れば旦那が理解してくれたという信仰体験談。

●女性は家庭を守る、お母さんが笑顔でいることで自然とお父さんと子どもが笑顔になる

●女性が守るべき、心に留めておくべき心得的なものがあった。女であることを忘れるな、優しく強くあれ等とても保守的な内容であったと思う。女性のみにもこのようなことを言うのはおかしいのではないかと母親に意見したことはあるが、男性にも適用されるものだと言っていた。しかし、男性に言われているのは見たことがない。

●男性は動かず、女性がお茶をいれるなど

●前述の通りスカートの強制、短い髪型への否定。教える立場に就くことは許されず「服する、従順」を強調される。教団の中で女性が活躍するには模範的な男性信者と結婚して、夫婦単位で行動するしか方法がない。女性が目立つことはことごとく牽制されていた。

●母性的な愛を持つべきという話でした

●結婚するまで処女でいる事

●妻は夫に服しなさい

●朗らかに、笑顔で、前向きになど強要された。

●慎み深い服装、行動。頭の権に従順であること"

●聖書の中に「女性は黙っていなさい」等男尊女卑的な言葉があることから、男性は団体内で特権(グループのリーダーになったり、グループの前で講演をしたり)を得ることができですが、女性には一切できません。男性のいるところで、他人に教義を教えることがあまり進められておらず、例えば既婚女性が、これから信者になろうとしている人を自宅に招いて教えるときに、同じ場所に夫がいる場合は頭にスカーフなどを被って

夫に敬意を示す必要があります(わかりにくくてすみません)。

●日本社会一般と同じです

家族にしる宗教組織にしるすべての活動が次の聖書の言葉に沿って組み立てられていました。「男性の頭はキリストであり、女性の頭は男性であり、キリストの頭は神」コリント第一 11:3

●女性は男性に口出しは一切認められない。すると謙遜さが足りないと指導の対象になる。

●主婦には『一家の太陽であれ』。教団トップの配偶者である夫人をまるで女性の模範であるかのような扱いをし、書籍を買わされた。夫人は活動に奔走する夫を文句も言わず笑顔で(ここ大事)支え続け、子育ても一人でこなした、とされている。尚且つ、信心は強盛。

●男性(夫)を謙虚に支える存在でなくてはならない。男性に比べて、生まれながらに徳が低いので、より励まなければならない。

●女らしく、結婚して、子どもを産む。

●家の主人を支えるといった昭和的な女性感。

●父親や夫をたてて家庭を円満にすべき。

●教団の教えなのか日本の慣習か定かではないが、法事や行事では必ず女性が食事の支度をはじめとして男性を支える仕事をするのが当然と言われ、手伝わされたことが複数回ある。

●相対として家族を支える

●結婚したら退職する

●化粧、服装

●派手な服装をしてはならない。スカートを履け。妻は夫に従うべきである。

●女はどうせ、女だから、女のくせに…属性、社会階層によらず、身体性が女性であることを理由に見下され、馬鹿にするための言葉を多数、投げつけられたと思う。また、男は女よりも弱いから、女は男よりも強いから…といった形の構文を一方向的に押し付けられた。男性は弱いから女は尽くさなければならないというそれら全てが気持ち悪かった。男子は何もしなくても許されるが、女子は何かしていないと責められる状態だった。

●女は子供を産むために身体的に強く生まれてきたのだ…と前置きをされ、医療的なネグレクトを正当化…入管問題でフラッシュバックを起こす。入管と宗教2世の状況は近い気がする。

また、「女はどうせ結婚する」と進学が認められない、夢や願望を抱くことができないだけでなく、結婚出産育児介護の(金銭面を含めた)世話のためにしか存在

を認められていないようで嫌だった。そのための諸条件から外れると途端に「無能」「役立たず」「出来損ない」「扱いづらい」「バカ」だった。入試で男子よりも高い点を取らないとならないニュースを見て思ったのは、これこそ、内面化された宗教の影響なのではないか?この辺りのニュースもフラッシュバックを起こす要因で、気持ちが悪くて仕方がない。

●宗教2世の生育歴に基本的人権はいつだって成立していない。家族という言葉自体にある種の宗教性を感じるが、名前のついた宗教…中でも名前を出すことを嫌う宗教の醜悪さは文字にしづらい。一体、それらをどこに相談して、失われた権利の回復をしたらいいのだろうか?とずっと疑問に思っている。「女」と前置きをするレイシスト構文全部が気持ち悪い。"

●女性は男性信者である夫が活動に出掛けるときは三指をついて送り出さなければならない。

少なくともそういう心構えでなければならない。

●女は愛嬌。毎日ひまわりの様に常にニコニコして男には逆らうな。

●化粧や服装を慎ましくしその分の時間や金銭を神に捧げるように。男性がいる場で研究司会をする時は頭を覆って(帽子をかぶるなど)敬意を示すべき。女性は代表で祈りを捧げてはいけない。

男性がいる場で代表して祈る時は女性は頭を覆わなければならない(スカーフとか帽子とかで)、女性の「頭(かしら)」である男性に敬意を表すために。

●女性は純真であるが故に騙されやすい。賢くあれ。純真に信仰に臨むべし。

●男を立てて女は控えめに。女性らしい服装(必ずスカート着用)

●女は男の服装をするのは相応しくない

●学生時代、恋愛についての指導は割とあったように思います。今は信心の原点(福運をつけるときのな)をつくる大事な時だから、恋人をつくってはいけないといったような指導というか。(主に女性の幹部から懇談会等でいわれる)。女性は引き出しはひとつしかないのだからといったような指導というか。とはいえ、みんななんだかんだ恋愛はしていました。この辺、うまくタメエでやれる人はいいいのですが、真面目な人は結構悩んでいたと思います。一方で、男子学生は「恋愛してはいけない」といった指導は全くなかったそうで、その違いに仰天した思い出があります。懇談会や大きな会合の後に女性側が決意して「ごめん、別れたい」と突然お相手の男性に伝えてびっくりさせてしまうというエピソードはよくありました(その後しばらく

くしてやっぱりつきあってるじゃん！までお約束の流れです)。女性は太陽、笑ってるだけでいいんだよ、という雰囲気は当時感じました。夫の信心は妻の信心で決まる。

●直接「べき」と言われるところはあまりないが、実際女性が裏方や細かい作業をしがち。また、女性は脳のつくりとして感情的、解説ではなく共感を求めることが多い、などは言われる。

●婚前交渉を禁じられた(はっきりと指示された記憶はないが、噂的に聞かされる。また、ミサ(礼拝)のおとめマリアから生まれ)などと、処女性の重要性を刷り込まれたと感じる)。ただし、若者はあまり気にしていなかったように思う(割合は不明)。

●カトリックでは、男性は神父になれるが、女性はシスターにしかなれない点で、極めて男尊女卑的だと感じる。

●教団の中で女性は長老などの地位につけない。スカート履かなければならず、パンツスタイルはNG。

●男性に従順であるべき

●先ほどの正座のことは覚えていた。

●女性を無償労働力として利用するために事あるごとに持ち上げ母性神話をもとにした家族観を押し付けてきていた。私は小学生の頃所属させられていた合唱団で「母」という指導者の使った曲を母親たちの前で合唱させられてた。私を怒鳴りつけて包丁で切り付けてきた母に向かってこの曲を歌った。

●創世記でエヴァがアダムを唆した事から、女性の方が罪深いという話を聞いていた

●肌の露出はしない。神殿結婚を目指すように。子供を産むように。

●90年代くらいまで「女らしくあれ」と言われたがその後は「自分らしくあれ」と言われるようになった。教義も時代とともに変化するんだなと思う。これについては信仰に無関心の妻の方がむしろ「女らしくあれのままでもいいじゃん」といっていた記憶があり、それに対して私の方が時代とともに変わらなければいけないこともあるんだよと答えた記憶がある。

●幼稚園～小学校低学年の時、親戚の集まりでは男の子だけ遊びに連れて行ってもらい、「女は来るな」と言われていた。高学年になると「女は手伝いをしろ」と言われ台所にいたりお茶出しをしなければならなかった。普段は神棚にご飯とお水をお供えするのは女がしなきゃならないのに「生理中の女は汚いから神棚に触るな」と言われていた。女は「子供を3人産まなければ非国民」と言われていた。前に結婚した時に「神棚

を持って行け。この神さんは女が継がなければならない」と持って行かされそうになった(断固拒否はしたけれど、お札を送りつけられた。妹は持って行かされた) …など。

●家庭を守る 純潔

●結婚して子どもを産むことが大切など

●表に立たない 男性をたてるべき 言動を慎む

●女性は男のリーダーシップに従うべき。節度ある装いや振る舞いを心がける。

●女性は男性の管理に置かれる。女性の仕事は家庭にある。結婚をしないと女性は救われない。女性の第一の仕事は家庭にあるので、教育は男性が働けない時の緊急時の備えとして必要であり、女性への高等教育は仕事をするためには必要ではない。女性は男性に従わないといけない。

膝や肩が出る服は着てはならない。男性を誘惑する存在とならないため、貞淑な女性である必要がある。女性は教会において神権(神のようになれる権力や力)が与えられないので、一人では救われない。女性が救われるためには男性が必要である。よって、天国は一夫多妻制であり、女性は一人の男性(神となった存在)を他の女性と共有することを受け入れる謙遜さが無ければ救われない。

●聖母マリア崇敬に重ねてよく言われる

●男性に対してへりくだるべき。代表して祈りを捧げる際は頭を覆うものが必要。

●女性も男性と同じように、与えられた役割の通りに生きなさいと教えられます。女性らしい気配りをする、人の心がわかる優しさを身につける、良き妻として主体者である夫に侍る、などです。特に女性は身だしなみについて守るべきことが厳しいです。(これは女の子に対しての制限であって、大人の女性にはどう教えているのかはわかりません) 髪を染めない、爪を伸ばさない、ピアスやイヤリングをしない、ミニスカートなど肌が大きく露出する服は着ないなどです。女性も「妻」や「母親」としての役割がとても重視されています。教祖のみ言には「女性は女性としての責任を負わなければなりません。女性の胸が大きいのは、赤ちゃんを育てなければならない責任があるからです。(中略) 赤ちゃんを生めないような女性は、半分不具者なのです」と「女性は産む機械」ともとれる差別的な内容もあります。

●女性是指導的立場に立ってはならず、家庭での役割を重視する教義であった。離婚は男性が不倫をした場合のみ認められており、このため、家庭内暴力を受け

続けても離婚できず苦しい状態に置かれていた女性信者を複数見た。

●夫を立てて尽くすべき

●若いうちの恋愛はブレーキのない車に乗っているような物なので溺れてはいけない、というような。女性に対してだけではないが、特に響いていたのは女性だったように思う。

●「未婚の女性信者は、外部から『清純』だと思われる(だから、そうあらねばならない)」といったことは何度も聞きました。そのような教義があったのか、それを言った年配信者個人の持論なのかは分かりません。

●男性の役割を代理で行う場合は被り物をする

●淫行してはならない。恋愛してはならない。

●夫や一家の長に従う。常に清楚な服装。家事。

●スカートを履く、男性に従う

●純潔を保つこと

●男性より女性の方が業が深いのでより研鑽して修行に励まないと功德を積めないと言われた。また、末端の支部の長を務めるのが女性であってもその支部の代表者名は夫である男性とされる場合が多かった。

●女性は男性に従うべき存在である。教団内で教える立場になれない。宗教活動中はスカートを履くべきである。

●派手な服装をしてはならない(幼稚園の頃から言われていた)、恋愛をしてはならない、化粧をしてはならない

Q20 教団の教えや活動のなかで、同性愛やトランスジェンダーなどの性的マイノリティについて、何か否定的なことを言われたことや見聞きしたことについて、可能な範囲で具体的に教えてください。無回答も可能です。

- 男女二分論を強調するので、LGBTは靈障ということにされていました。
- 憑依している、悪魔、社会のごみ等
- 同性愛は悪
- ソドムとゴモラの話は度々出てきた。
- 「悪霊が<sup>が</sup>付いている」
- 愛の形は「女性と男性だ」みたいな話はよく聞きました。
- 同性愛は聖書の中で明確に否定されている。自然ではない。
- 靈障(靈に操られている状態)と教えられた。浄まれば治るという考え。
- 神は同性愛者を憎まれる
- 教団は言及していないが、親族の同性愛への忌避が強かった
- 同性愛について否定的な教え
- LGBTは神様が望んでいないので許容すべきでないという趣旨の発言があった。
- 同性愛は罪である。旧約聖書のソドムとゴモラは同性愛がはびこっていたため神に滅ぼされた。
- 快楽主義 不道德 ワガママ 悪魔
- 経典にホモセックス及びフリーセックスはいけなとありました。
- 同性愛は重罪に相当する。
- (上でも述べたが)同性愛者は魂に問題がある。ゲイの有名人は地獄に堕ちている。同性愛者について、釜茹でにしてやる、金棒でボコボコにしてやる等。同性愛者は悪霊に憑依されているとも。
- 牧師が性的マイノリティはチェルノブイリの事故の後に頻発したという発言をしていた。
- 1番印象的でショックだった事です。同年代の二世の子に、大人になってからゲイだとカミングアウトした男性がいました。それが分かると幹部から「道場には来るな」と言われたと男性の姉から聞きました。誰でも受け入れる優しい人たちの集まりだと思っていた教団が、まるで犯罪者を扱うが如く対応していたのがショックでした。このゲイの男性の家族は親戚みんな熱心な信者で、本人もすごく純粋で素敵な人なのに、、、。だいたい7年前くらいの出来事で詳細はかなり端折

てます。この件で「なんだかおかしいぞ?」と思い始めました。

- そういう人達は地獄と波動が繋がっていて良くない事
- いけないことだと教えられた
- 同性愛者を憎むのではなく同性愛というものを憎め。現在、同性愛であっても、信仰により克服できる。
- 同性愛は不道德であり、ハルマゲドンで滅ぼされると教えられていました
- ソドムとゴモラの話っすね
- 「病気だから、将来治る」と話してるのを聞いた事がある。あと教団の記事で同性愛の方が自分を抑制して生きている姿を美談として語っているのを見た事がある。
- 同性愛は罪とされていました。
- 教団の教えでは同性愛は忌むべきものとされています。
- 性的マイノリティと生理学的男女との対比と言うか、ジェンダーレスの人が増える事はおかしい、という発言はチラホラ見受けられた。
- 同性愛は自然の摂理に反するものと教えられた
- 神は聖書の中で、「男同士で寝る者」を滅ぼすと述べている、という教え。神は男性と女性を創造したが、それ以外の性は創造しなかったという教え
- 同じ教団の友人の話で、本人から直接聞いた話です。彼女(以下、Aさんとする)は団体の下部組織で地区副リーダーを務めていたそうです。Aさんには、同性パートナーのBさんがおり、そのBさんは同じ地区のリーダーだったようです。つまり、AさんとBさんはカップルでありながら、師弟関係にありました。最初は関係性を隠して活動を続けていましたが、Aさんの母親にBさんとの関係性がばれてしまい、Aさんはかなりきつく問い詰められ、別れるよう強く迫られたそうです。Aさんの母親は同性愛にかなりの嫌悪感を示しており、問い詰める内容も「気持ち悪い」「信じられない」など人間性を無視した発言を繰り返していました。Aさんへの圧力だけにとどまらず、Aさんの母親は二人を別れさせるべく、幹部に相談をしたようです。その結果、Bさんは別の地区へと異動させられ、Aさんも幹部から「お母さんが心配しているから、慎重なきゃね」ということを言われたそうです。Aさんの母親の行動は、紛れもなく第三者へのアウティングで許されることのない行為です。それが教団ではまかり通るばかりか、Aさんの母親の訴えが受け入れられ、異動という形で処罰を受けてしまいました。直接的に

幹部から同性愛について否定的な言葉があったか定かではありませんが、異動という処遇を受けたということは紛れもなく同性愛は許され難いものというメッセージ他なりません。これは地方の話なので、都市部では異なるかもしれませんが、人間性を無視したアウトティングと教団の対応に唖然とし、怒りが湧いてきました。

●同性愛は好色であり、なるべく避けるように言われていました。(20年ほど前の話なので今は違うかも)

●私の教会では、性的マイノリティを否定する言葉は聞いたことがないですし、割とオープンな方だと思えます。残念ながら、レアな方だとは思いますが、性的マイノリティをメインテーマに教会全体で話し合うことはまだしたことがありません。近い将来の大事な課題だと思います。"

●教団が発行していた雑誌にときおりそうした記述があったように思う

●聖書の教理で同性愛は神から許されていない非とされる事

●親によれば、同性愛は神の教えに背いているとのことだった。

●「ゲイやオカマは神からみて不自然な人間で、サタンに影響されている。神の自然の摂理に反していて、滅ぼされる。男性同士、女性同士でのパートナーはハルマゲドンで死ぬ。神から憎まれる行為ですぐにやめるべきで、立派な信者にはなれない。排斥され滅ぼされる」などと繰り返し学んだ。

●同性愛は明確に禁止、トランスジェンダーについては言及しない

●神が定めた性別をこえてはならない

●信者同士で結婚すると頻繁に言われた。まず、LGBTは、存在すらしてない前提。

●同性愛やトランスジェンダーを完全否定。破った人は排斥される。

●神は同性愛を禁じている

●同性愛やトランスジェンダーの権利を「行き過ぎた権利主張」としていた。また、同性愛やトランスジェンダーなどは「行き過ぎた個人主義」であり「文化共産主義」的な考えで、彼らは家庭を壊すことを策略しているというようなことを言われていた。

●同性愛は汚れたもので罪とみなされる。

●はっきり罪と言っていました。最近が変わってきていて「病気」という事になっているようですが、滅ぼされる(死ぬべき)忌まわしい者という扱いです。

●男と男は寝てはいけない

●罪であると認識しています。

●同性愛者は病気である、トランスジェンダーは信仰により克服できる、その経験談を美化して語る

●いわゆるオカマタレントについて気持ち悪い、人間ではない等言われた

●病気だから治療して、治らないのであれば男女別の島に閉じ込めて絶滅するのを待たねばならない。

●そこに当事者が居たとしても面と向かって糾弾したりはしませんが、集会の講義?の中で教義としては人間の基本はあくまで“夫婦”で子どもを産み育てることが使命、同性どうしではそれは叶わないでしょう?と遠回しに刺す感じです。

●ポリアモリーなど比較的新しい概念への否定

●罪深い行為で、ハルマゲドンで滅ぼされる

●組織内では、そもそも「同性愛は罪である」と教えられていて、例えば自分が同性愛者であるなどと告白などしようものなら、即時、強制的に脱会させられていました(組織内では「排斥」と呼ばれていました)。

●教義として同性愛は、許されざる不道徳とされています。

●宗教の規則が、同性愛、同性愛行為を非とする規則である。同性愛行為が発覚した場合は、追放、また宗教の成員は、そのものと関わってはならず、無視するようにとの教え。トランスジェンダー、性的マイノリティについては知識が浅く、存在しない前提で規則が作られている。

●墜落した性的思想

●同性愛は聖書で禁止されていると言われた、いわゆるオネエ系の芸能人についてああいう人たちは地獄に落ちると言われた

●同性愛は有り得ない●人間には男女しか居ないことが前提で話が進む

●同性愛は穢れた習慣で忌み嫌われる、滅びに値する習慣。トランスジェンダーも同じ

●そのようなマイノリティは、教えに従えば自ずと無くなるというニュアンスでした。性別に反するものは神に従っていけばあり得ないという感じです。

●気持ち悪い。聖書的ではない。(自分で知って話題に出すまで、LGBTQの方々がこの世に存在することすら教えられなかった。メディア視聴を制限されていたので知識がなかった。)

●聖書に書いてある事に違反している、穢らわしい、楽園にはいけない、

●不道徳の象徴であり最も忌むべきものの1つ。後天的なものであり矯正が可能



- 同性愛は自然の(神の)摂理に反する
- 同性愛者は罪深い人間で地獄に落ちる
- 同性愛はそもそも大罪で、同性愛者は排斥される。
- いわゆる一般的な性自認をしていない人間は、聖書の記述を参照して神の目から見て望ましくないものとされており、存在を否定されていた。
- 信者が皆「同性愛はあり得ない、穢らわしい」というスタンスなので、その話題すら忌避する感じだった。トランス、その他マイノリティに関しても概ね似たような反応。
- 前世での悪因縁により、ちゃんとした男性、女性として生きられなくなっている。と教祖は言っていた。
- 聖書は同性愛行為を非としています、同性愛者を憎んだり偏見の目で見たりすることは容認していません。(聖書 Q & A)
- 聖書の中で神が「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、そして全てのものをおさめよ」という言葉があったので、子供を産むのが難しい恋愛(同性愛やトランスジェンダー)は神の教えに反するとして、とても不潔で良くないものとして扱われていたと思います
- 同性愛は罪である、といった言動。ただし、その言動をしている人が教派のマジョリティなのかは疑問がある。
- LGBT は気持ち悪い。頭がイカれている。と言っていた。
- 同性愛は誤り
- 同性愛は絶対的な悪。滅ぼされる対象になっている。
- 同性愛は産めよ育てよに反する
- 同性愛の禁止
- 男同士で寝る者は、神の王国に入ることはありません。(実際、聖書の聖句にそう書いてある為)
- 本来の姿ではない、というような言い方をしていました
- 同性愛は不道徳なもの、として扱っていたと記憶しています。
- 同性愛は神の教えに反している。
- 偏見をもたれたことがある人が身近にいた
- 同性愛は神に禁じられた由々しき悪行。不道徳。
- 理解は無かったですし、学ぼうという姿勢がそもそも教団には無かった。カミングアウトした信者は告白してくれてありがとう、辛かったよねー、なんて言われて泣かれていました。排除は無いですが、例えば会館は明確に男女だけで分けて座る事も多々あります。教えが無いし、そもそも学ぼうとしない方が多いので理解は無いですが、排除は無いです。

- 同性愛は憎むべき忌まわしい淫行とされていた
- 人そのものを否定はしないが、同性愛行為は重罪であるとして、批判、糾弾される。忌むべきものという扱い。
- 同性愛は忌むべきもの、自然の情愛では無いから、認められないとされていた。同性同士で付き合うなどは認められず、そのような嗜好のある人は、病気のだから治すようにと、言われていた。
- 男女の役割が決まっている 子供をたくさん産まないのは罪なのでそもそも無視してる
- 教えとしてではなく個人的な差別意識がそのまま垂れ流しになっている感じ
- 同性愛は無し(聖書に基づく)
- 前世で罪を犯した人だと教えられた
- 聖書の中の神の命令「産めよ増えよ」に反しているという言及があった。
- 自認が女性の信者が、女性の会合参加を求めたが認められなかった。なにか間違いがあるといけなからと言われた。県や中部の幹部まで出てきた。活動を求めているのに拒否するようなことはありえないと思った。
- LGBT の方達は悪魔なので、最後には神様が滅ぼしつくすと教えられている。
- 同性愛は忌むべきこと。悪。
- 同性愛は禁止でした。聖書自体のソドムとゴモラの記載をはじめとして、出版物には事あるごとに同性愛を批判し、男同士で寝る者を非難していました。団体の中には当然同性愛者はいませんでした。私も自分が同性愛者であることは隠していましたし、団体の外においても隠していました。未だに信者の母に対しては隠しています。もし私が教会に未だにいておそらく同性愛者であることが分かれば、相手、性行為の有無、回数を聞かれると思います。団体の中で裁く必要があるからです。噂で見たのですが、性行為が無ければ同性愛も認める、と教義を変えたとの話もあります。それでも、教義でキスや具体的な性行為まで踏み込んでくるであろうことを考えると、わざわざ同性愛をカミングアウトはしたくないです。けれど、神への信仰と不安から、愛する人が出来たら神から見捨てられる恐怖で言う人もいます。その結果、どのような扱いになるかは不明です。
- ゲイは許されなかったと思う
- 同性愛は罪だと教えられた
- 神は同性愛を忌み嫌われる
- 自然に反していると言う話がでます。

- ソドムとゴモラの例を例えに、神に背く考え
- 同性愛に対しての嫌悪感を教会や両親から感じました
- ゲイは神が許していない
- 同性婚合法化に反対する意見を何度か聞いた
- 教義として同性愛は禁じられている
- 表向きはLGBTに理解がある体を装っているが、長年存在している会内のLGBTグループはいまだに公認されていない。大半の信者は高齢化もあって一生涯的マイノリティなど理解できないような人たち。
- 「男どうして寝る者[は]神の王国を受け継がない」という教えがあるとききました。
- 同性愛は聖書で禁じられていると教えられた。
- 子どもが産めない。気持ち悪い。
- 欠陥がある等
- 同性愛やトランスジェンダーは禁止
- 教団では性的マイノリティの存在をサタンに乗っ取られている人として教えられる。教団で講義を聞いていた時、講師が冗談半分で、同性愛者はサタンに支配されているから治療しなければならない、それでも治らない時は、最終的には宇宙に捨てなければならないと言っていた。冗談だとしてもそんな事を大勢の前で平気で言ってしまうのはおかしいと思った。
- 自然ではなく異常なこと、許されないものであるという教えであった
- 不道德な対象として扱われていた。
- 同性愛はいけない、忌み嫌うべきもの
- 同性愛は救われない。病気である。信仰心によって同性愛を克服した人の例が冊子に掲載された。
- 同性愛、また同性間で性的交渉を持つことの否定。それらが悪魔的な行いで神に背くことであるということ。
- 神から与えられた性別を侮辱している
- そもそも、子育てをする親を特に対象としていて子を産まない夫婦や死別でないひとり親は認めない風潮だった。異性愛を前提としているので居ないものとされていた。
- 神の王国を受け継がない人々として、罪であるようなことを教えています
- 同性愛者にも愛を示すよう教えられるが、同性愛行為は排斥の対象になる。
- 同性愛は悪。サタンの考え、この世のクズ。
- 同性愛は禁忌とされ、ソドミー的な扱いになっていた。
- 聖書で禁じられている

- 同性婚には否定的だった。
- 同性愛は禁じられている
- 同性愛は罪である。
- 聖書に同性愛は大罪との記載があると教わった
- 男は男らしく、女は女らしくあるべき
- 聖書に書いてある。雑誌のテーマにもよくあった
- 同性愛は罪、永遠に滅ぼされる
- 基本的な教義が「男と女が結婚して、子どもを産んでこそ生まれてきた意味がある」といったものだったので、まず多くはクィアが存在が念頭にありません。一度母に「私だって彼女連れてくるかもよ」と言ったことがあるのですが、そのときは理解できないという顔で「でもあなたは違うでしょ？」と言われました。私はクィアです。
- 同性愛は認められていなかった。
- 同性愛は禁じられて、それを憎むよう教えられています。
- 本来は無いはずの存在。何か霊的な影響を受けてそうなっている。
- 結婚は神様に認められた男女ですもの、など産めよ増えよというように子孫を残すこと
- 不道德な人々の筆頭に同性愛者が挙げられていた。また、自称「同性愛を克服した人」の経験談などを出版物に載せて、あたかも好みであるかのように扱っていた。
- 同性愛は悪と教え込まれ絶対にタブーだった
- その時の牧師先生の考えだとは思いますが、神の教えに背くものだとの見解をおもちでした
- 同性愛は存在しないなど
- ジェンダーレス化していった芸能人について、気持ち悪いという話しをしていた 女性同士の恋愛についても同じ
- ハルマゲドンで滅ぼされるなど、常に
- 人間ではない。悪魔が取り付いているので近づいてはいけないなど。
- 同性愛者は聖書の中で非とされている。唯一神は同性愛者を憎むゆえに、信者も同性愛行為を憎まなければならない。同性愛者は生き方を変えなければ入信できない。信者が同性愛的行為をする場合、組織から追放される。
- 「男同士で寝るもの」は楽園に入れない人であるという認識でした。団体の冊子に、コンバージョンセラピー（という言葉はありませんでしたが）をされてなんとか集会にきている兄弟の話がありました。何度もどうしても男性を愛してしまう男性が、ようやく張り

切って二度と男性を愛しないと心に決めた人の話を何回か読みました。また、3年程前に私の母から聞いた話ですが、ある飲料メーカーがLGBT(Q)の取り組みをしていて、缶をレインボーカラーにしていたそうです。その話を会衆の人同士で共有して、奉仕活動で喉が渴いてもそのメーカーのものは買わないようにしようという話になったそうです。小規模ですが、こういう話はあつという間に広がる宗教なのでその先どうなったかはわかりません。

●同性愛は忌避するべきでソドミーな行為であると教えられました。公式な場での女性のパンツスーツも禁止だったと記憶しています。

●ソドムとゴモラは同性愛が蔓延ったから神に滅ぼされた

●旧約聖書のソドムとゴモラの滅びや新約聖書の終末論や神の裁き●滅びの対象であり、『人間がしてはならないことをするようになる』として教えている

●女子部●男子部と性別により所属が分かれるが、トランスジェンダーや性的マイノリティはその人たちの所属できる部が実はあるらしい(うる覚えのため不確か)。でもあまり公な部では無い、というように、なぜか腫れ物のように、秘密裏な感じで私が中学生の頃はその部について説明された。同性婚反対などといった明らかに差別的な発言は教えの中で聞いたことが無いが、所属がバイナリーな性別で分けられたり、女性は婚姻の有無で所属が変わったりすることから、やはりそもそもシスジェンダー、異性愛者のみ想定して団体の構成がされていることは常々感じていた。

●同性愛は神への罪、汚れ

●同性愛は変態だと言われていました

●神は認めていないと聞いた

●同性愛はもちろん、ほかいまは一般的に認知されているさまざまな性的マイノリティ性は(キリスト教的)重大な罪である。

●同性愛は憎むことである

●トランスジェンダーは変人。ホモ●レズも変人。オカマっぽいのは直しなさい。オカマと言われたら、相手に「おなべのくせに」と言い返しなさいといわれていた。

●同性愛は罪であり、HIVは神がゲイ男性に下された天罰である。

●同性愛は罪だと教えられた

●前後の話は全く覚えてないが、牧師が「だからクリスチャンにホモはひとりもないのです！」と発言、教会にいたひとたちもウンウンうなずきながら話を聞

いていた風景は、よく覚えていますし、セクシュアルマイノリティのわたしにはショックな出来事でした。また同じころ、母はわたしに「お父さんは昔おまえがオカマになってしまうんじゃないかって心配してたのよ。そんなことあるわけないのにね」と言いました。

●同性愛者については、聖書の特定の箇所に記述があり(どこだったかは忘れた)、その記述を根拠に「罪」であるとか「おかしいこと」「愚かな行為」のような教わり方をした覚えがある。それについては、当時から違和感は感じていたが、身近に当事者がいなかったので深くは考えていなかった。

●教団の教えではないものの、古代ヨーロッパで同性愛が蔓延って社会が崩壊した話を例え話として。

●教団は同性愛は絶対的な罪と教わります。神様も同性愛やトランスジェンダーを望まれていなく、悲しんでいると教わります。本来、神が人間を創造されたのは男性と女性であると学びます。

とにかく幹部の意識が低く、集会の後のお茶出しや選挙当日の炊き出しなどが女性の役割だった。近年は少しだけ改善。

●「同性愛者は逃げている。自分の宿業に向き合っていない。男性らしさ女性らしさとは逆のことをしている人(服装や言葉遣い)は狂っている。キチガイだ」など。

●祖先の霊を供養し、また自身の死後を供養するため子どもを産むべきと言われていた。

●同性愛は教義に反する。

●聖書の同性愛への禁止を厳格にとらえていますが、当時はあまり性的マイノリティに関心があるようには思いませんでした。最近はどうかわかりませんが。

●聖書では認められていない

●聖書に同性愛は禁じられている項目がある

●母親が、物凄く毛嫌いする。話も出さなと言う。

●同性愛は罪、神が禁止している、錯乱している、世にそまるとそうなる等

●自然の摂理、神の意志に反すると教えられてきました。

●決して大っぴらに蔑むわけではないが、多くの無知や偏見に無自覚な人々と同じように、冷笑したり遠ざけたりする対象だったことは、はっきり口に出してはいなくても感じ取れるようなところはあった。ただしそこはこの教団だからというより、まだ世間の大多数はそういう反応をしているから、それを踏襲するぐらいの興味の薄さと関心の低さだったのだろうと遠目から見ていて思った。ちなみにそれらは私自身が教団関

係者と接触せざるを得なかった 6~7 年前の状況だったということは付け加えておきます。

●たびたび教会で読む書物や話に同性愛を禁止することはあがっていた。また、同性愛者は本人の思い込みということも言っていた。

●聖書の中に同性愛の肉体関係の禁止とある記述の説明など

●聖書には同性愛は罪だと記されている

●ソドムとゴモラを引き合いに出しての同性愛否定

●墮落した人間が耽溺する罪な行為。そのひとつに男色がある。それは神の摂理に反する行為。

●教団内の公式冊子で否定論が肯定されてあるものがある。

●同性愛は禁止ということになっています。

●性的なものは全てタブー。祝福を受けたら全て主体者(夫)に任せなければいけないと言われた。

●同性愛行為は禁止でした

●罪

●同性愛を神は認めていない

●牧師が「異常な同性愛」という発言をしていました。

●LGBT と言われる人たちは神の教えに背く、大罪を犯しているとの教えだった。

●同性愛は認められない。気持ち悪がっていたように思う。トランスジェンダーはわからない。

●同性愛者や性的マイノリティは罪である

●性別的役割が昭和の価値観のまま、多様性や共働き世代、男性が育児をすること、女性の社会進出等、現代的な生活感に沿っていないと感じる。

●地獄に落ちる人達であり異邦人なので関係ない人達

●同性愛は禁止

●同性愛は禁止。同性愛にふける人は神の王国を受けられない。欲求が、あったとしても抑えるように。そもそも結婚の枠外の性行為は淫行。

●(「教え」というか周りの大人の解釈だったと思うが)「同性愛」=「罪」「汚れ」「滅び」と強く言われていた

●基本的に全否定でした。20 年以上前は社会的に性的マイノリティへの認知自体が低く、直接トランスジェンダーを否定する言葉は聞いた覚えがありませんが、男性が女性のような格好や言動をする、もしくは女性が同じく男性を真似る事は否定されていました。時代と共に教義が緩やかに変化していくところがあったので、今トランスジェンダーをどのように捉えているのかは分かりません。同性愛は今も昔も禁忌のままだと思います。

●同性愛は忌むべき行為と教えられていた

●同性愛は罪。ソドムとゴモラはそのため滅びた。同性愛は異性愛に飽きた変態性欲者の行い。

●神への反逆だ

●魂は男女が明確に分かれるという教義により、性別に迷いが生じることはすなわち生まれてくる段階において魂に問題が生じていた(専門用語で霊障)と位置づけられていた。

●同性同士の性行為は明確に「罪」である。性自認とか、同性を愛する気持ちについては「改善されるように祈って神に助けを求めよ」とかなんとか

●同性愛を悪としていた

●異常者であるかのような言われ方をされていた。神に対する反逆者とも。

●聖書では同性愛行為に関しては否定されているのでそれに沿って教えられてきた。ただ同性愛の行為そのものには否定的だが同性愛者に対しては他の人と変わらず親切に接するようにと教えられた。

●同性愛は罪

●当事者ではなかったこともあり、直接言われることはありませんでしたが、同性への恋愛感情は気の迷いであるのと教えに書かれていました

●同性愛やトランスジェンダーは神の創造した意図からは外れていると明言されていた

●存在しないものとされてきましたね。だれも口にできないような。女性と交わる男性、男性と交わる女性。その二つから世界が生まれる世界観ならそうでしょうね。

●同性愛は神が禁止している事柄なので罪である

●同性愛は死罪(に近いものとして扱われていた)

●聖書の箇所を引用して、同性愛は罪であるとの説教を聞いたことが何度かある。

●同性愛は死に値するものと言われていた。

●同性愛は悪

●冗談のなかでオカマやホモなんかの言葉が割と飛び交っていた。同性愛かトランスジェンダーの方が居たりしたが、周りもどう人間関係を作っていけば良いか戸惑ったまま、教団組織からはいつの間にかいなくなっていた。

●教祖が同性愛について犬にも劣る畜生の行為だと、そんな事してたら 100 年と人類がもたないと言っていました

●同性愛は宇宙を破壊する行為だ。絶対にあってはならない。

●絶対に許されないということを一遠回しに遠回しにした文章で伝え続けられました。

- 聖書の記述を根拠に、罪とされていた。治療して異性愛者になった事例などが出版物に書かれていた
- 異性愛はサタンという教えだった
- セクシャルマイノリティのグループはあるらしい。個人の偏見は、激しい（平気で差別的言辞を発する人がいる）。近年は、セクシャルマイノリティの体験動画などもでて公的には差別はない。
- アメリカの本部の方では賛否が分かれているらしい、という話を聞き、親の世代ではありえないものだ、と考えているらしい話を聞いた。
- 同性愛は罪とされていて教団の出版物の記事では激しく批判されていた。性別を超えた服装、身なり(男性の長髪や女装、女性のベリーショートやパンツスタイル等)も「ふさわしくない」と禁止。
- 「ありえない」という話がありました
- ゲイ＝性的に乱れている、サタンの力が働いている、との事
- 教義上 LGBT は不可ですが、私が所属していたのは30年前なので、それほど話題にのぼらなかったように記憶しています。
- 同性愛は罪、努力(神に祈る、教えに従う)すれば治ると教えられました。
- 次の聖書の言葉による指導が行われていました。違反した者で繰り返し同性愛行為を行うものは排斥(除名)となります。「男同士で寝る者は神の王国を受け継がない」コリント第一6:9
- 同性愛者は滅ぼされる。サタンが付いている。邪悪な者だと常々言われる。
- サタンに支配された思想
- 同性愛者は罪人
- 男女二元論が普通で、オカマやオナベは冷笑的な扱いの対象だった。そうした言論、行動(小学生がニヤニヤ笑いでバカにするような図)が常にある中で、少数派への眼差しが厳しくなるのはある種の洗脳のように感じ、ただ気持ち悪かった。
- 聖書の中に「男同士で寝る者は忌むべき者」という表現が多数あり、出版物でも「差別はしないが神に喜ばれたいなら同性愛傾向を持つ自分と戦うべき」などと書かれていた。また、同性愛を悔い改めた兄弟(男性信者のこと)は長老になれないと聞いたことがある。
- 同性愛は罪なので、同性愛者は来るハルマゲドンで滅ぼされる。
- 神は男性と女性に人間を造ったし、同性愛を非としていると教えらてきた
- 罪、という人もいれば、罪とまでは言わないがよく

- ないもの、という人もいる。同性愛やトランスジェンダーをテーマにした学び会などで取り上げられることはあっても、言及する人はごく一部で普段は聞かない。わからない、自分の考えが決まっていな人が多いのだと思う。
- 同性愛者はハルマゲドンで滅ぼされる
- かわいそうな存在。病気。
- 正座のことで、男が女のする手の置き方をしたらおかしいと話していた。
- 聖書に男色は罪と書かれているが、説教としては聞いた記憶が無い
- 外国の同性結婚出来る土地のことを悪く言われていた。世も末だと。
- 同性愛は悪である
- 否定というよりもそのこと自体が間違っているという表現でした。なので、私はそういう方に対して、差別的な発言や思想はないです。
- 基本的に「あり得ないこと」だという認識だったと思います。
- 「おかま」などの侮蔑用語で呼んでいて、「人にあらず」な物言いをしていた。
- 同性愛は罪、病気、悪魔的。同性愛はトランスジェンダー容認は神の秩序への反逆、悪魔崇拜。
- 同性愛は神によって否定されている。それはサタンの誘惑により成る。神は男と女に人を創造したので、それ以外はない。
- 身近な人というよりも悪目立ちするカトリック高位聖職者の発言がニュースで目に入る
- 汚れたもの。
- 男女が結婚し子供を産むという、異性愛とそれを前提とした家族の形に反するものはすべて神様に背くもの＝悪とされています。同性婚を認める動きや選択的夫婦別性の導入も、「文化共産主義による家族の破壊だ」と教団は主張してきました。ジェンダーギャップ指数で日本が先進国の中で最下位なのも、政治家に思想的な部分で教団が大きな影響を与えていたからだと思います。
- 同性愛は禁じられていた。  
「男同士で寝るものは神の王国に入らない」とゲイを真っ向から非難していた。
- 同性愛が律法で禁止されているという説教があった。
- 教義上、ジェンダーは神への冒涇
- 同性愛は神への冒涇と言われていた
- 聖書中に同棲愛をしてはならないと書かれていた。性同一性障害も認めなかった。

- 書籍に同性愛はいけないことと書いてあった
- うる覚えですが、身体は女性なのに遺伝子的には男性という設定のアスリートが出てくるドラマをみていたとき、母親に「ほんとにこんな人いるの？」と聞いたら、ものすごく嫌そうな顔をされて「いない」と言われた記憶があります（小学生の頃）
- 具体的なことはなかったが、20年前当時の教団は「親孝行しましょう」「良縁を得ましょう」「多くの子を育みましょう」と固定的な家族像に基づく主張をしていたので、マイノリティのことは念頭にないように感じられていた。
- 生まれついた性別に沿って生きなければならない。同性愛者は滅ぼされる。

**Q23 家族や教祖●教団の信者からの肯定的、あるいは否定的な声かけで、印象に残っていることがあれば、可能な範囲で教えてください。無回答も可能です。**

- 信者同士で恋愛をするなんて破廉恥で嫌らしい（霊友会のみ）
- コロナ禍でいうと、注射を打つな、礼拝の際にマスクを外せと言われたこと。
- 教団リーダーへの妄信
- 何か悩みや挫折を味わうと『それがあなたの業だ』と言われ、しっかり信心する様に言われた
- 中学生の頃いじめに合っていた際、祖母と母親から「前世で加害者に悪いことをしたから」とされ、加害者の魂なるものに謝罪の意を込めて読経させられた事。
- 信仰せん事で食事に薬品を入れられた
- 理不尽な理由でしつけのつもりで叱られ、地獄に落ちると言われた
- 母から「今あなたがこういう恵まれた暮らしができてるのは信心のおかげ。だからあなたも信心してほしい。」
- 公園で友達と遊んでいるときに、奉仕活動をしている熱心な女性の信者から「ハルマゲドンが近いのになんで遊んでるの!」と怒られたこと。人間不審に繋がりと、自ら離れ始めた。
- お御霊を授かったからこれで神様が守ってくれるね（大地震や他の災害、事故等）
- 題目をあげれば大丈夫と言われた
- 海外宣教への参加が積極的でなかったときに「敵前逃亡だ」といわれた
- 母親から出家する際「これで今生の親子の縁は終わり」と言われて別れた。
- 全ての根本は読経。今までの良かったことは全部ご祈念したおかげ。だからあなたにも同じようにやって欲しいとの趣旨の話を祖父から何度もされている
- うつ病の時に家の人から「教会に行っていなかったから悪魔に取り憑かれたんだ」と言われた
- 「信心しないと不幸になる」「あの政党に投票すれば間違いない」
- 小学校の頃、母の日にカーネーションを渡したら、その風習は異教に端を発するものなのでゴミ箱に捨てなさい、と言われた
- 現象は肉体を通じて見た仮の姿であり、人間神の子、病なしと病の存在に否定的。瞑想による祈りや愛行を求められ、うまくいかないと思想観や愛行が足りてい

ないからと言われた。

- 両親が夫婦喧嘩するとき、サタンがついてるなどと教会から学んできた否定的な言葉をお互いにむけていた。教会の人から私へ直接的にかけられた言葉で記憶に残るものはない。
- 政党を批判した母が近所の信者に言われた言葉ですが、「あなたの人生を見届ける(不幸になるのを見てる)」と言われた。
- 勝利という言葉が多用された
- 2世は神の子だから自分のポテンシャルを発揮すれば社会で成功すると言われた。
- 【肯定的な声かけ】献金にまつわることです。献金（「財務」という名称）は毎年一回、1万円以上の額で行われているのですが、「これを行うことで福運がつく」とか「これによって功德になる」と、地域支部のコミュニティの人から毎年言われます。否定的な声かけはされたことはありません（言動は基本柔らかく、強制はしませんが、強い意志は感じます）。「財務の有無で信仰の功德が変わるのはおかしい」と指摘しても、「いまはそう言うかもしれないけど、実際やってみるとわかるんです。福運ってあるんですよ」といった抽象的な回答を受け一方でした。家族からも財務のお願いは来ますが、これも否定的な声かけはありません。「財務は大切なことだから、もし経済的に余裕ないなら仕方ないけど、できる限りやってね」といった、やりわりとした、しかし強い意志が後ろにあるんだろうなと感じる言葉で、毎年言われます。／【否定的な声かけ】共産党についてです。毎月一回行われる集会（名称は「集会」）では、かなりの割合で政党についてのビデオ●DVDを流します。その際、地域の信者から「共産党は、自分達の党が実現した政策を自分の手柄のように訴える汚い政党だ」「共産主義は危ない」といった発言が出てきて、会場では「そうだそうだ」みたいな空気になります。子どもの頃、私も集会に参加させられていたので、共産党に対するネガティブなイメージが刷り込まれ、高校生くらいまで疑うことなく過していました。
- 祈りましょう●悪魔●あなたのため
- ハルマゲドン
- 子どもの頃、正座でお経を唱える（読経）が辛くてサボった日、母がかけていたアイロンで私がうっかり火傷をした時、母は困ったような笑顔で「ほら。サボるから罰が当たった」と言った。火傷の手当ての前に。今でも写真を眺めるように焼き付いている。
- 祝福二世は前の座席へ、信仰二世は後ろの座席に移

動して下さいと言われた事がある。二世間に差別がある。

●親の幸せは信心が全てなので、体調不良や風邪を引いても、物事がうまく行かない時でも、親自身の心配の言葉やアドバイスはなく、お題目上げないからよ。だった。他の宗教を邪教と言うと聞かされクリスマスも鳥居をくぐる事も出来なかった。

●信者仲間に失恋した時に「彼女には兄弟の様な感情を持つべき。就職したら信者同士のお見合いをしなさい。結婚できれば相手は誰でもいいじゃないか」取りに言われた。

●子供が病気で産まれた時、嫁が教団に入らなかったからや、今すぐお守りを捨てて入信するべきと言われた、悪い事が起きる度に嫁が入ってないからと言われる。結婚式、チャペルでして欲しくないと言われ自分達の式なのに、嫁はチャペルでしたかったのに出来なかった。とにかく最悪なことばかり！

●家族に「集会に参加したくない」と告げると苛烈な説得を受け、半ば強制的に連れて行かれるのにひどく傷つけられました。

●"プルーフ"と呼ばれる、信者代表が「いかにしてこの宗教に救われたか」を発表するコーナーが集会の終盤にありました。

●「大病の末、この教えにより救われた(病が完治した)」という発表もあり、間接的に治ることを仄めかしていたと記憶しています。しかしこの代表選出は、各支部の上役が人づてに選ぶシステムで、偶然そういう人が居ただけだと言われればその言い分に収まってしまうものでした。また霊能者と信者が対話する有料の修行があります。私はここで「戦争で苦しみながら亡くなった先祖の因縁が示されます」と告げられました。尚、団体は有料での先祖供養を受け付けています。いま報道されている旧統一教会の信仰内容と比べると、直接的な靈感商法を丁寧避けている印象です。

●総じて教団員よりも熱心な家族からのプレッシャーが強かったです。入信時期が幼稚園～中学生までの間だったからかもしれませんが。内容は信仰時のもので現状はわかりません。

●教祖と同時代に生まれ、教団の信者となれていることがとてつもない奇跡であるようなことをよく言われた。親には教団の設定で霊格が高いとされている人とよく比べられ、凡人扱いされた。

●祖母から小学生の時通っていたプールのテストに合格した際に、いっぱい成功するように祈ってたからだねと言われた

●自分を憎んだり、虐めてくる人のために祈りなさい。大宇宙の法則である仏法によって必ずあなたにとって一番良い結果となって現れるから。(肯定的な意味で)

●教団を抜けた人の家が火事になったから、抜けるなんて恐ろしいことだと繰り返し祖母が話していた。

●体の具合が悪い時、探し物が見つからない時、困った時に親に相談すると、内容に関わらず決まって「祈りなさい」と言われた。

●特定の言葉というより、行動原理そのものが宗教に支配されている人と会話すること自体が辛かったです。

●教会から心が離れ始めた高校生のころに、家族や教会の母の知り合い等が勝手に決めて無理やり教会の信者の赤ちゃんの代母をさせられた。その体験で改心すると考えてのことだったようで、私のために思ったのだろうが、ものすごく苦痛だった。赤ちゃんやその両親にも申し訳なく、余計に教会から離れることに。

●祈りが足りないから結婚できない、などなど。目標に達成しない時は「祈りが足りないから」というのは枕詞のように言われてました。

●神社の鳥居をくぐると蛇に生まれ変わると言われた。中学の友達と一緒に内緒で初詣に行ったところ、新聞に取材されて写真が記事に載ってしまい、教団で話題になり激怒された。

●母が事故にあったときに、信心が足りないからだと言われた。心臓の悪い近所のお子さんに、信仰しないからだ、と言った人がいた。

●魔が入ってる。波動が荒い、うるさい。等

●信者から、教団の大学に入ったらいいのにと言われた(親からは強制されず)

●神社にお参りしては行けないと言われた。

●友達からもらった十字架のアクセサリーを返品交換させられた。

●所属して組織の活動に参加する義務があると言われた。自分の意思で所属していないのに。

●とにかく祈れば叶うということをずっと言われ続けていた

●洗礼を受ければキリスト教系の難関大学に牧師推薦枠で入れる

●女々しい

●末信者は間もなくくるハルマゲドンで滅ぼされる。忠誠を保たなければならない。組織の指導層(統治体)の指示は理解できなくても従わなくてはならない

●何を相談しても話しても」神様にお祈りしなさい

●神様は見てるから



●入信の儀式は自分からやるかどうかを選択できるのだが、私はやりたくないと思ってた時期に先に妹が儀式を受けたので「次はあなたの番ね！」と他の信者に言われた。それに対して母親が「比べないで」と言った事がすごく印象に残っている。数年後に他の信者からの圧力に負けて儀式を受ける事になった私に対して母親は「あなたが受けるとは思わなかった」と言ったのも印象的だった。それだけ私は教理に縛られながらも信仰しているようには見えなかったのだと思う。

●父親が亡くなったとき「お前たち家族が不信心だったからこうなった」と父の友人の信者に罵倒された。参加したくもない集会に参加したとき、幹部から「友達と遊ぶのは疲れるし、その疲れは実りのないものだけれど、集会に参加して疲れても、それは実りある疲れだから崇高である」といった趣旨のことを言われた。他宗教に対する軽蔑(邪教であるとの考え)や排除の言葉。敵勢力に対して「○○な行為をしている○○達はいずれ地獄へ落ちる！！」といった侮蔑の言葉。信仰こそが人生の中心という言葉。

●本人の努力の賜物である事柄を「すべて神様のお陰であり私の努力ではない」と言っていた。発言者の自己肯定感が低く、恐ろしかった

●祖母、母が信者です。妹は形式的に入信しており、私自身は入信していないという状況です。妹の第一子は障害を持っていますが、その原因は妹の信仰が足りないから、と母から言われました。しかし、私には妹が社会的に成功している義弟と結婚し、子供も授かったのは信仰のおかげと母は言っています。また、私の転職がうまくいかなかった際には、私が入信していないことが原因だと母に責められました。私が入信しなければ、母が死後地獄に落ちる、とも言われたことがあります。"学校の成績が良いと、宗教のおかげと言われ続けて育ちました。努力したのは私自身だったのに。否定的な声掛けは、「世の子と親しくするとサタンの思いつぼ」。

●読経をがんばったから受験がうまくいったんだね、ご奉仕(ボランティア活動)をがんばらないと幸せになれない

●信仰しないと不幸になる●失敗する。

●大きな祭に参拝出来た信者は、次の時代を担う種人として許された人である。

●幼児期に当時不治の大病にかかり治療法もなく医師に死ぬと言われたが助かり、それは祖父母や両親の信心のお陰、お前も信心しないとまた病気になって死ぬかもしれないと言われた。

●交通事故で手術した際、母親がずっとお祈りしていたことと、手術が成功した時に「祈ったから」だの「信仰心が」だの言っていました。手術頑張ったのは医者と私なのですが。

●離婚してはいけない

●政治に関して支持している党の現実の行動と本人の認識にかなりズレがあったり、よくある野党ネガキャン●デマを信用している

●経皮毒、成功マインド

●私の父の母(かなり若くして死去)が成仏出来ずに長男である父、その長女の私を苦めて災いを起こしている

●教団に否定的な物言いをした叔母に起きたあまり良くない出来事に対して罰があたったんだという。

●教団では、活動に参加せず、教義のもとで信仰しなくなった者のことを「退転者」と言って非難します。それは、本人に直接的に向けられるというよりは、教義の中に退転者は悪であるということが刷り込まれています。具体的には、同時中継的に全国の施設で行う大規模な会合(本部幹部会)で、教団が存在を糾弾する別の団体を諸悪の根源であり、放蕩三昧のニセ坊主で、あれこそが「退転者」なんだと強く断罪します。それを聞いて私たちは「ああ(退転者)にだけはなっていない」というかなり強いメッセージを受け取ります。また、活動に参加しない者を「未活(みかつ; 未活動の意)」と呼び、「あそこの家は未活だから」などと聞くと退転者に近いくらい悪の印象を受けます。

●うちの母が思い込みの激しいヒステリー持ちで父は子育てに無関心めだったので、家族の仲を取り持つのに頑張っていた子供時代だったのですが、毎週教会でその様子を見ていた信者の人に、「えらいね」と言われたのを心の支えにしました。

●福運が大事。親孝行しなさい。

●受験勉強が捗らないのは徳が低いから、家が貧しいのは家族の徳が足りない、弟が軽い知的障害があるのは祖母が入信しないから

●人はいつか必ず死ぬのになぜ生きるのか、なんの意味もないではないか、でも仏様を信じることだけは我々人間を救ってくれる、と人生の意味をただ一つだけに決められた。仏様を信じられない人、信じたくない人はどうしたらいいの? 障害があって聴聞ができない人、人間以外の生き物はどうなるの? みんな地獄に落ちるしかないの? と親に聞いたら「そんなことを考えるぐらいならちゃんと聴聞しろ」と怒られた。また講師が祖母や叔父の葬儀や一周忌で、これも仏縁だと

人の死を利用して布教した。家庭内の一周忌では、もう一人の祖母に向かって「自分で思ってるより近いうちに死にますよ」と法話中に言い放った。

●幼少期にちゃんと集会に行かないとお母さんと楽園に行けないよというようなことを言われた。自分はやりたかったが空手など暴力的な習い事はだめだと言われてできなかった。マンガ●アニメ●ゲームなどもいい顔はされなかった。

●「もっと真剣に祈るように」や「個人研究をもっとするように」とか「信仰が強くない」など

●教団の大学を受験するだけでも功德がある

●具体的でなくて申し訳ないが、この宗教は絶対正しいという理念がひどく強かった。敵対した人間を恐ろしいほどに批判（嘘つきなど悪口に近い）して、それを拍手で賛意することが多かった。努力しても信仰がなければだめだという言葉は多かった。

●財務（献金）と布教、選挙支援が頻繁にいつこかった

●小学校の頃、同級生に吃音の子がいて、その子の親が元信者だったそうで、「信仰を捨てたからその子が吃音になったんだ」という事を自分の親が言っていたのを今でも覚えている。

●他の兄弟より信仰心がなかったのも、嫌味のように手相が見ながら「色情因縁が強い」などと、言われた。

●鬱病になった時、悪霊が取り憑いているといわれて、持ち物や洋服を沢山勝手に捨てられた。布団から引き摺り出されて奉仕に引っ張り出された。いつも監視され友達を作らない様に見張られていた。自由になるお金や時間がなく親の手伝いを一日中させられていた。大学進学を止められた。伝道活動に一生身を捧げる事を幼い頃から口に出して言う様に仕向けられ、人前で宣言するように強制された。「腕を切り落とされても信者をやめないか！首を締められても辞めないか？水に沈められても辞めないか？」など毎日毎日繰り返し、大声で質問され、「辞めない」と答えるまで何度も続いた。そう答えると母親はいつも泣いて喜んでいて、こんな幼少期でした。

●私は信心に反発していて祈ったり会合に出たりと活動をほとんどしなかったため、何か悪い事があると「祈ってないからだ」と言われ、良い事があると「お母さんがお前の事を祈っていたから」と言われました。他にも、何をするにも宗教を絡めて言われるため、何かを相談したり報告したりしないようになりました。

●小学低学年の時に遠足で山寺へ行ったのですが、後日学校でお漏らしをしてしまい、それを聞いた母親に

「山寺にお参りした罰だ」と言われ、それがトラウマになり20歳過ぎるまで神社やお寺でお参りできませんでした。

●家族：読経をしない、言うことを聞かない私（未就学児～小学校低学年ごろ）を真っ暗な部屋に閉じ込めて泣き叫んでも出して言う通りにするまでもらえなかった。／教団：母に騙され、合意なしで教団の会場に無理やり連れて行かれた時に、信者に「あなたは生まれながらにして入信されているとは私はとても羨ましい。お母上の誇りですね。」と言われた。「合意なく入信させられたのです」と言い、早く会場を出たいと言っても、信者と母に拒まれ出してもらえなかった。成人してからも騙され、無理やり会場へ拉致のように連れて行かれることがあった。／母：「あなたが私を選んだからあなたが生まれてきた」「あなたを妊娠した時に産むのをやめようとはじめは思ったけど、産んでおいてよかった」「お母さんはあなたの幸せを願って教団の活動をしている。お母さんはあなたの幸せのためだけに頑張っている。教団に来なさい、読経をしなさい。すべてあなたのため。お母さんの言うことを人生で一度くらい聴きなさい。どこまでお母さんを不幸にするの」／家族と教団：読経を拒んだり、小学校～高校時代は、成績が上がったり、何かで表彰されると必ず「お母さんが読経したから」「あなたのために信者のみなさんが読経したから」毎度何回も自分の努力で勝ち取ったと言っても、これは「ご本尊様のおかげ」「お母さんのおかげ、信者の皆様のおかげ、教団トップのおかげなのです」と何度も何度もいつこく言われ、1日だけではなく何ヶ月も何年もその話を母が思い出すたびに言うてくる。教団の信者からも同じようなことを何度も言われた。逆に何かに失敗すると、母から「お前が悪い。お前が〇〇（母がよく思わない人物）にの影響でそっくりな行動をとるんだ。全てお前の責任でお前だけが悪い」「お前が読経をしないからバチが当たった」／信者：「お母さんの言うことを聞きなさい。これ以上お母さんを困らせないの。親孝行をしなさい。」成人してから「もういい年なのだからお母さんの言うことを聞きなさい。」／信者：一人暮らし時代に母の差金で2人組の勧誘がきて「女子部へ行きましょう！LINE教えて！」「一人暮らしですよ！助け合いましょう！」と拒否するが何度も何日もいつこく勧誘された。居留守を使うと、家のまえで大きな声で「絶対に無理にでも連れて行くから！」と騒いでいた。家のポストにはいらぬと断っているのに、教団の新聞が毎日入っていた。

●父が病気で入院した時に祖父から「もうわかったでしょ？信心しないから…こうなるんだよ？」と憐れむような顔で言われた。狂っていると思ったし深く傷ついた。

●男子部の集会で、教団の新聞を何人に進めたかの発表みたいな時間に、「自分はちゃんと読んでないので、まず自分が読んでから勧めたい」と言うと、集会が終わってから近隣地域の男子部担当の人から、「読んでないとか言わない方がいい」と言われ、正直に思っていることを言わない方がいい、言うてはいけないのかのかと腹が立った。そう言うことを直接言ってきたのはその人だけで、その人は普段から教団にとって「いい子」的な振る舞いをしているけれど、親身になって話を聞いてくれたことなどもなく、人間的に信用出来ない人という認識だったので、教団自体というより、その人に問題があるんだろうと思っていたけど、結構そういう思考停止で信じたいことを信じてそれ以外は認めないみたいな人が結構いるのかな、と今となっては思う。

●バプテスマは(まだですか)？と何度も聞かれた

●神様が見てくれるね。神様が守ってくれてるね。

●神に喜ばれていますね、と言うのが誉め言葉だった

●大勝利おめでとう(なにに勝利したか意味が不明)。  
XX 教は邪宗、神社に行くな、読経しないと死んだお父さんが不幸になる、読経しないと人生の負の連鎖は断ち切れない、お父さんのためだと思って御本尊(巻物みたいなもの)を受けとれ、など

●あの人は信心が足りないから事故にあった、病気になった、不幸になった等、脅すような物言いをよくされたが、入信すらしていない大勢の人達はどうなるのかと疑問を持っていた。

●①他の宗教は、邪宗とよく言われ、絶対行ってはいけないと言われた。②修学旅行の集合写真など、神社や大仏が写ってる部分は、全部ハサミで切られた。③鳥居をくぐるなど言われた。④信心すれば何もかもうまくいくと言われた。

●商品を購入してない人は正しい情報を知らない人、化学薬品まみれ。あんな風になってはいけない。

●終末=世界の終わり、神の審判の時が間もなくおとずれ、不信心者は地獄に行き、信仰のあるものは永遠に生きられる。

●子供は親の奴隷 生んでやったんだから感謝しろ。

●初詣に行つてはいけない。選挙ではあの政党に投票しなくてはならない。

●地域宗教というか、親族間のグループで信仰していた(御堂を持つ「先生」も親族にいた)。その中で信仰に

熱心ではない家庭の方が若くして癌になったとき、親や親戚が「あそこは信仰心が薄いからこうなるんだ」と言い合っていたこと。

●以前、私が子供時代に学校でいじめられていた事を女子部の集会で告白したら、その会合に来ていた地区女子部長らに「貴方をいじめていた人にも勧誘をしてあげてね」と言われた。

●「個人の幸せを追求するものは地獄に行く」「祝福2世は原罪のない神の子なので、墮落(結婚前に性的な関係を持つこと)すれば救いがない」「神の愛を、真の父母様を知ったからには、氏族や子どもを神の道につなげる使命がある。もし彼らを伝道せずに霊界に行ったら、霊界で“なぜ真の父母様のことを私たちに教えてくれなかったのだ”と讒訴される」「子どもが墮落したら、氏族の中から道を外れた(脱会)者が出れば、氏族全員が連帯責任で地獄にいかなければならない」

●あんたを産むのじゃなかった

●否定的な声かけは一切ない。

●「浄化やね」と自分が体調不良になった時や嫌なことがあった時に言われた。これは、「くもり」(自分の中の毒素的なもの)が多いから、つまり自分自身の信心の不足などからそれらの嫌なことがもたらされたということであって何でも信仰と結びつけるのが嫌だった。

●私の母がカルトにより自殺した時に、楽園で復活するのだから悲しむべきではない。信仰が足りない。信じてないのかと言われました

●もうすぐ終わりがくる

●いつも励まされています、励まされるわ、お姉ちゃんがうちの家族を壊したんだ

●母親に女の子の友達と遊ぶならお母さん今すぐ死んで地獄に墮ちるよと言われた

●組織内の学生合唱団の指導をもっと厳しくするべきだと手紙で言われた。今の子供達は学校生活だけでも大変だと思っていたから従わなかった。

●お寺の子供は業が深い。だからその人を好きになった貴方も業が深いのね。きっと苦勞する人生を歩むのね。可哀想な子。

●公立高校受験に失敗し、滑り止めの私立に行く事になったが、両親の信心のおかげで良いところに入れた、守られたと、公立志望だったわたしにはトンチンカンとしか思えないことを言われた。

●「結婚相手を入信させるんだよ」

●テレビなどで不幸な事件や事故を目にすると、母親が「先祖供養が足りないのよ」と言っているのをよく耳にした。

- 世の人と親しくなってはいけない
- ちゃんとお題目あげてれば叶う
- 学校で教えられることより聖書が正しい
- 「この機械を使うことにより、ありとあらゆる体調不良が改善される」といったこと
- 信者の間では、信者でない人々を「世の人」と一括りにし、「世の人と関係を持ってはいけない」「世の人はいずれ滅ぼさせる」と、完全な二分論を取っていることは、当時から理解も納得もできませんでした。
- 祈ればなんでも叶うと言われて育ちました
- 大学進学には、否定的な教義であった。
- 信者による支部のリーダーから、信者である私の父親の信心が足りないと言われてたことがあります。
- 「福子（二世）だから広宣流布のために頑張れ、教団リーダーもみんなに期待している」的なことはよく言われた。
- 事件に巻き込まれて亡くなった被害者のことを「あそこは実は脱退した家だった。だからあんな目にあった」という話もよくされた
- 教団外の人付き合いについての否定的な発言。監視。
- 会合に参加していない時に、とある幹部から Facebook 経由でメッセージがあり、「逃げ回ってないで参加しろ」等と言われたことが一度だけあります。
- 就職に悩んでいる時、「信心を頑張っているのだから絶対大丈夫だよ」と励ましてもらった。他の人から見ると根拠がない発言かもしれませんが、根拠ない自信が欲しい時期だったので、助けられたなと記憶しています。
- 特になかったと思う
- 世界人類が平和でありますように
- ある幹部に相談しただろう個人の不妊の話が大勢の前で話されていた。事前に許可を得ていたとしても話すべきでないと感じた
- ある高僧の生まれ変わりだ
- 成績が良い子供だったのですが、テストで良い点を取ったり先生に褒められたことを報告するたびに母や牧師から「神に感謝だね。ちゃんと感謝のお祈りをしなさいね」と言われました。自分自身の努力や才能が褒められたことは一度もありませんでした。
- あんたは神さまにお供えした。ずーとこのお道で生きて行きなさい。(小学3年生の時 母から)。夫が脳梗塞で倒れた時、助かるには母さんと同じ事をしないとダメとお供え、お金を要求されて 100 万円渡した。
- 成功すれば「信心のおかげね」。失敗すれば「真剣に

- 信心をしないお前のせいだ」。手柄はみんな持って行かれちゃう。
- もう信仰できないと何度目かに伝えた時、母から、不幸になれば（信仰の大切さが）わかるだろうから早く不幸になればいい、といわれました。
- 前からいる人は後になり、後から来る人が前になる。と聖書に書いてあるけれど、教団では沢山清まらなきやいけない人が、先にご縁を頂くから、自分たちが偉いわけではないと、説明されました。
- 大学受験で合格した時に「信心のおかげだね」と母親から言われた。自分が勉強したから合格したのに信心のおかげだと言われて傷ついた。ショックだった。親と自分の見ている世界があまりにも違うと思った。
- 成績が悪いと「良い証言にならない」と叱責され、逆に成績優秀なことを褒められたり表彰されたりすると「(神ではなく) 自分に注目を集めている」と叱責された。
- 父の病気 (のちに認知症) を私自身の不真面目さのせいである。
- 宗教を辞めたら罰が当たるなどと言われた
- 「あの人は、まだ救われていない人」というふうに、信者がそうでないかを二分するようなことを両親が話していたのをよく覚えています。自分は中学校の途中で自発的に教会を離れ、特に親から責められることはなかったけど、あんなふうに否定的に言われているんだろうな、と思っていました。
- 私はあなたが神様から選ばれたことを知っている
- お父さんは XX 会に殺されたようなものだ
- 脱会するとき「脱会すると地獄に落ちるから」と言われました。
- トランスジェンダーは穢らわしい、奉仕時間が少ない
- 私自身への声かけではないが、祖母らが他の信者の人と話していたことです。教会に顔を出さなくなった人のことを、その人の出身地域が災害に遭ったことで「〇〇さんは信仰が浅いから」と話しているのを聞いた。
- 部屋を散らかしていると悪霊が住み着くと言われた。
- 21 世紀に活躍する人材になるう
- 信心すれば自分自身が変わる
- 学校の友人からの遊びの誘いは悪魔の誘いなので、断るべき
- 肯定的否定的かは分かりませんが「信心は一人前、仕事は三人前」という言葉があります。ここでいう仕事はいわゆる一般的な経済活動、就業の事です。あと

は、大学生の時に就職活動がうまくいかず悩んでいた時に「勧誘(友人への勧誘)が決まれば、その功德で就職も決まりますよ」と大学生二年の後輩の子に言われました。こういう無神経な事を迂闊に言う奴がいるから信仰からも離れてしまう信者が出るのだと思った事は忘れません。

●精神疾患にかかったときに、牧師から強引に悪霊祓いを受けました。

●集会の一部を休まないといけなくなるシフト制の仕事に就きたいと思った事があったが、会衆の長老兄弟が「あなたの意思を尊重する。その仕事に就いても構わないと思う」と言ってくれた事がある。

●大学進学を止めるよう教団内の指導的立場の人間から圧力をかけられた。

●20代前半の頃、不信心な私にもよくしてくれた女子部の方がいました。おそらく期間の決まった持ち回りで担当してくれてたのだと思いますが、その期間が過ぎて私のもとに来なくなると母に、「あの人が来なくなったのはお前の信心が足りなかったからだ」と言われました。私に信仰を押し付けるくせに組織がどういうシステムで動いているのか全く知らない、知ろうともしない母親のことを心底軽蔑しました。また、食事のときも、私たちが箸をつける前に仏壇に水とご飯を捧げるように言われ、うっかり私がそれより先に食べてしまうと怒鳴られました。ですが、おそらく教団の教えにそんなことはどこにも書いていないはずですが。母は私に、何を信じさせたかったのでしょうか。私からしてみれば、教団の権威を盾に、自分の言うことを聞かせたかっただけとしか思えません。それとは別で、病気で手術が決まって、それを母に報告するときも「それ変毒為薬じゃない!？」と言われました。これだけだとなんのことかわからないですよ。変毒為薬というのは文字通り毒を薬に変えるという意味で、もっと伝わりやすいように言うと「逆境を(宗教活動を頑張れるような)チャンスに変える」くらいの意味です。つまり、「お前の病気は宗教活動を怠ったせいだ。病気を期に宗教活動に励むようになれ」と言われたんですね。手術が決まった娘にかける言葉とは思えませんでした。

●幼少期は集会に参加しただけで異様に褒められた。おかげで大人の言葉を信用しなくなったけど、今思えば無条件に不特定多数に受け入れられた経験は、しておいて良かったのかもしれないと思っている。

●身体の右側を怪我したら自分のせい。左側を怪我したら他人の影響のせい。前世での悪行により本来は頭がおかしくなり一生病院にいるところを私が助けた。

だからお前は一生を私に尽くして生きなければならない。と教祖から言われ続けた。

●母からは「あなたは必ず幸せになれる。大丈夫!」とよく言われた。その母を亡くした時、教団の教えの中の「深い縁のあった人とはまた来世でも必ず縁がある」「生も歓喜、死も歓喜」などの考えに、母の死を受け止め、前向きにとらえることができた。しかし、教団の中にも私利私欲で動く悪い人を何人か見たことがある。"

●国家試験を1週間後に控えた日、お参りに行くことを断ると母親から「一度落ちるのもいい経験だね」と言われたことです。試験を目前にし、一分一秒でも勉強に充てたいと思っていた私はお参りに行く余裕がありませんでした。また、その時期はだいぶ信心が薄れていた頃で、信心がないと不幸になると思い込みどうにか自分の中の信心を元に戻すことに必死な時期でもありました。信心がなくなっていく罪悪感を感じている時期のこの母親の言葉は、「どんなに頑張っても試験に落ちるんだ」という考えに陥り、勉強が手につかなくなりました。

●私の父が亡くなった時、信者の兄弟たちから、不信心だから父は亡くなったのだと母が責め立てられたこと。そのことから私自身は教団の信仰を否定的に見るようになった。

●教団関連の大学に特別奨学生で受かったとき、「家族の祈りのおかげだね」「功德だね」と祖母(信仰一世代目)や信者の人に言われたこと

●宗教活動ができないあなたはサタン

●大学受験の成果を信心のおかげにされた

●小学校高学年の頃に感じた信仰への「合理的な」疑問に対し、知識人が陥る隘路であり、真剣に信仰に飛び込めば必ずと解消されるしそうすべきだ(そのような疑問を持つこと自体が未熟な証だ)、と回答された。教義の解説書にもその旨が書かれており、「答えられないのだな」と落胆したし、質問に正面から答えないのは不誠実だと感じた。

●祈りの効果はまだ科学的に証明されていないけど、いずれ遠い未来に証明される日が来るだろう、といった教祖の記事を読んだことがあります(ソースが不明ですすみません、内部の学生向けの新聞だったと思います)。親も信心について、頭で考えてわかることではなく、実行(祈って、結果が出ること)してわかるのだと言っていました。

●「お前の信心が足りないから周りが不幸になるんや」。父親から言われました。私の恋人1は自殺しています。

その後交際した恋人2は彼の両親が介護●入院となり、彼に介護の負担がかかった時に「このままでは彼が死んでしまいそう」と私の父親に相談したときに言われました。私は「実家にいた頃より今の方がよっぽど幸せやわ!」と言い返しました。

●「五老僧になっちゃうよ」(自分の信心や就職について話した際、論理的なことが多く感じたのか、純粋な弟子になれないというような意味でそのように言われました。その流れで法人職員に応募することになりました。)

●ダメなところは、それはあなたの一凶(いっきょう)だ!と叱られその性格を直さないの良い人生を送れないと指導があった

●母親に「あなたは一生懸命献金しているから神さまが祝福されないわけないわ」と言われた。

●私が中学2年生のとき、母親が入信した。不登校だった私に、母は私が学校を休むたびに読経をおこなうことを強いた。大人しくお経を唱えると、「もう大丈夫」と安心したように言っていた。唱えることを拒むと、「あなたのためだ」「唱えれば、学校で辛いことがあっても大丈夫(だから唱えなさい)」と泣いて訴えてきた。(不登校の原因は、宗教とは無関係です)／信者の集会に、私と妹(当時小学3年生)が何度か連れて行かれた。どの集会でも、他の信者からは「参加してえらいね」「幸せになれるよ」と声をかけられた。どちらの場合でも、私の行動には信仰はともなっておらず、母親の機嫌を損ねないために読経を唱えたり集会に参加していただけだったので、言われることがすべて気持ち悪く、小学生だった妹が、信仰を刷り込まれてしまうのではと心配した。

●霊能者から個々に教義を受ける「接心」という場では、日々の行いの中で足りないことややるべき事を懇々とと言われるのだが、いつも「誰にでも当てはまることを言ってるなあ」と思っていた(お墓参りをしなさい、勉強しなさい、毎日きちんと祈りなさいなど)。

●学生部時代の先輩「お前は肉欲の塊」

●学生部時代の別の先輩「お前の生命は餓鬼界」「お前は女に執着し過ぎる」「お前は自分に自信がないだろ。(改善策として)話し方講座を受ける。性格、容姿を変えるのは難しくても、話し方は変えられる。風俗に使うカネをそっちに回すんだ」「お前には信心があるんだ。今までも変わってきたし、これからも変わる」／男子部時代の幹部「女遊びをしまくるあなたに女子部の方を紹介しようとは思わない」「タバコ臭いです。あなたが思っている以上に」「(自分の表情改善策として)口角

をあげましょう」「(自分が好意を抱いた女子部幹部に関して)一線も二線も画してください。執着しないでください」「御本尊●御書●教団にお任せしましょう」「男性に好かれる人は女性からも好かれます」／男子部時代の別の幹部「あなたがいないと組織の雰囲気が違う」●宗教以外の人とは表面的な関係しか築けないと言われた

●失敗したときやうまくいかないときにこそ「それもまた御心なのかもしれないね」という言葉で励まされたことがあった。ただ、信者たちのコンプレックスの現れなのか、学歴や婚姻の有無などを聞かれたり、勝ち組●負け組のようなレッテル貼りをするような人もいて、居心地が悪かった。

●子宮系のトラブルで3日間嘔吐することが半年続いたことがあったとき、義父の妹2人から信心が足りないというニュアンスのことを言われたこと。(婦人科を受診し漢方薬で治りました。)

改宗した義父が亡くなったとき、義父の妹2人から葬儀に出ないと言われたこと。(結果葬儀に参列)

●「教団リーダーは絶対だ」(頻繁に言われる)、「生きて居る間は幸せになれない。来世で幸せになる為に功德を積みなさい。」(小2の時指導員から。)

●因果応報 業が深い 何かにつけて信心深さがたりないことを悪い結果に当てはめる

●かみさまの良い子になりますように

●家族、母からは「この信心は絶対だから」「私たちは選ばれた」「福運がある」肯定的に声をかけられて、選民意識もあり、現実的に絵画で賞を取る、仕事が決まるなど数々の体験も積んだが、失敗や悩んだときは「お題目が足りない」と、今思うと、追い詰められたけど、当時は自分の題目が足りないからだと思って、教団本部にお題目を上げに通った。働いたお金は、教団では献金のことを「財務」というのですが、主婦で夫が小銭貯金していたお金を財務にまわして、五万円など財務したと電話すると、すごく上機嫌で褒められた。今では、そのお金、返してほしいと真剣に思う。

●私の息子を入信させないと神から見放されると言われた

●二世は素晴らしい

●父の癌が治るといわれたが亡くなった

●退転(教団の活動から離れること)したら地獄に堕ちる

●勝手に組織の支部内で情報を回して、同じ大学の人

が突然新居に挨拶に来て迷惑だった。もう来ないでくれと言ったら来なくなった。ちなみに親は関係ありません。組織内で勝手に住所を共有されたので今でも気持ち悪く思っています。

●「仏教を超えた世界宗教を目指す」という話（なんだそれ？）と思った。

●自分が怪我や病気をした時に、日頃の「ほこり（欲張りな心などのこと）」を神様が怪我（病気）として教えてくださった。日頃の行いを改めなさいと言われた。怪我や病気に対する心配はしてもらえず、責められた。

●受験に合格した時は、「お母さんお父さんがお題目を熱心にあげたおかげ」と言われた。父が脳梗塞で倒れたときの集会では「みんなでお父さんの回復を祈って題目を上げてからね」と言われた。東日本大震災の時に、家の1階部分が津波で沈んだのですが、教団の人たちが題目をあげて10名くらいきてくれて、土砂を片付けてくれて、断水している我が家のために「うちのお風呂を使って」と言ってくれた。

●脱会(信仰をやめる)すると地獄に落ちる。

●「お題目をたくさんあげたから、うまくいったんだね」「お題目をたくさんあげたから、今日は体の調子が良い」

●十字架のアクセサリを捨てられた

●祖母からあなたは教団の大学に行けば伸びるわ。と言われた。他に、神社のお守りを買った際、捨てるよう促された。

●必ず幸せになれるよ

●自分には無限の可能性がある

●冬は必ず春となる

●いつも前向きな言葉をかけてもらっている。

●家族から、教会に行かないと地獄に落ちるよ。

●校歌を歌ってはならず、教室でそのことを宣誓しろと言われた。姉が不信心なのはお前のせいだ、不幸になるとなじられた。同世代が見ているテレビ番組（特撮戦隊モノ、バトルアニメなど）などを見せてもらえず、興味を示すとなじられた。

●人の嫌がる仕事を進んでするようにしなさいと言われた。

●神社の神様に祈ると因縁が付いてずっと信仰しなくてはならなくなるからなるべく祈るなど言われた

●特にお地藏様は祈るなど言われた

●子供の頃、ただ変わった貯金箱が欲しかっただけなのに、賽銭箱型の貯金箱を近所の仏閣名が入っているからという理由だけで信者から捨てると言われ親に捨てられた。

●親の仕事がダメになる。この宗教で助からなければ何をしてでもダメだ。

●自分の可能性を引き出す信心

●「お供え(献金のこと)は悪い縁を断つために必要」、ボーナス月には「お供え強調月間」と偉い先生が連呼していました。教団の本部施設の建設にいくらかかっているのか親に聞いたところ、「やかた(本部施設のこと)はみんなの真実の心でできている」と言っていました。パファリンではあるまいし真心って!?

●宗教は人間のためにある。宗教のために人間を手段化してはならない。

●私は今は未活動ですが、信者の人が家庭訪問に来て、「あなたのご両親の信心のお陰で今は恵まれた生活をしているが、このまま未活動のままでは福運が尽きてしまうよ」と言われた。

●良いことがあれば、それが自分の努力や他の人の親切や単なる偶然であっても、神様が導いてくださった、神様に感謝しなさい、と言われていました。悪い出来事は、サタンの攻撃であるとか、サタンが心に付け入ろうとしているサタンの罠であると言われていました。

●大学受験に合格したときや就職先が決まったときに、母親から読経をあげたおかげだと言われたこと。特に悪気もないような感じだったが釈然としない気持ちになった。

●大丈夫。その悩みは、乗り越えられるから、出てきた。

●親から、信仰心が低いと楽園(俗に言う天国のようなもので、教団だけが死んだ後に生き返って永遠の命を手に入れると言われていた)に行けないと言われていた。

●「財務で宿業を乗り越えられる。」選挙でF(票のこと)を取ってくると、「幸せになれる。宿業を転換できる」と言われる。

●第一志望校に落ちた時、それが神様が用意した道(きっとそこに通うと良くないことが起こる)と言われ、別の学校に受かったことは神様のおかげと言われました。

肯定的→「あなたにはあなたにしかできない使命がある」、「願兼於業」、否定的→「題目が足りない」

●試験などのヤマがめっちゃ当たるようになる的な体験を語られた。夢の中で越えられない壁のような場所を必死で上がるなどという場面があり、そこで手を差し伸べてくれるのが教祖やその関連の誰かしらであるという、複数人の共通っぽい体験談。

●「でも●●党がいなかったらもっとひどくなってい

る」

●信心が足りない

●信心しなかったら不幸になる

●「母親に感謝」「母親を幸せにきなさい」

●家族から他の宗教文化に触れてはいけないと言われた。(神社に行ってもいけない、神社でのお祭りに参加してはいけない。どうしても行かないといけない時は鳥居をくぐらない。キリスト教の宗教画を見て叱られた)

●世の人(非信者)と仲良くなるとはいけない。全てハルマゲドンで滅ぼされるから、お金持ちを目指してはいけない。あなたが伝道しないと、他の人に対して血の罪(ハルマゲドンが来ることを知っていたのに伝道してそれを非信者教えなかったことで、その非信者がハルマゲドンで死んだ時にその責任を負わされるという概念)を負う。

●病気で入院した際に、売店に行った母親が置いていった手帳を見たら「この病気になる人は信仰心が足りてなく心の持ちようが悪いから病気になる、〇〇先生のお言葉」というメモが書かれていた。/高校受験で合格できたのは「お祈りに行ったおかげ」大学受験に失敗したのは「お祈りをしなかったから」と言われた。/教義で恋愛が禁止されていたので、近所に住む非信者の幼馴染に恋人が出来た時に「こんな若いうちから因縁を積んで可哀想に。将来幸せになれないよ」と言っていた。

●私の両親からは、〇〇しないと××になる、というような、脅しみたいな言い方で教理を伝えられることが多かった。たとえば、金銭のお供えをしないと、子供の病気がよくなるぞ、というように。でもそれは各伝道師の言い方によるところが大きいので、そんな脅しみたいな言い方をしない伝道師の人もたくさんいて、その方たちはもっとポジティブに受け取れる言い方で教理を説いていた。

●あなたは生まれた時から真理を教えてもらえて、恵まれてるね。(信者)

●宗教の活動をしないお前に愛情などない。(母親)

●義務教育は中学までだから、中学出たら働いて欲しかった。高校行かせてやっただけありがたいと思え。(母親)

●あんたは鞭が少なかった、親から愛されてない証拠だ。(母親)

●「信仰してるから津波の被害を免れた信者の死者はいない」「そんな考え方してるから不幸が起きた」「そんな家は津波で流されてしまう家だ」「宿泊のセミナー

に参加しないのは親不孝だ」「お経をあげてないから出来事が起きた」「母親が貸した借金の返済を求めたときに、親の遺産でしょ、簡単にもらったものだからそんなことになるのよと言われた」「借入書があったので上司の支部長や複数の支部長に見せてどのような態度をとるか試したので半年後の母の葬儀後に名古屋からさらに上の支部長を連れてきて借金をあきらめさせようとした」「それまでは脅しや恫喝に近い態度だったのに泣き落としにかえてきた」「日常の些細な子どもの出来事を因縁だ業だといひ、勧誘をして会費を納めるように話をもっていく」「集まりや泊りのセミナー」「準備会合などで時間を奪われて宗教内の人間との交流のみにされて世間から浮いていく」

●(性的マイノリティの人が)「いることは自分たちが学ぶために存在してくれている」と言った女性がいて、あまりのことだったので直接「それは違うと思う」と伝えた

●題目をあげていたおかげ…と事あるたびに言われる。

●お前はハルマゲドンで滅ぼされる！

●「神様の御守護で(事故や怪我などが)軽く済んだんだね」「心の使い方が間違っていた(教えに反していた)から、上手く行かなかったんだよ」「毎日おつとめ(お祈りのような儀式)をして、心のほこりを払わないと駄目だよ」「毎日神様に感謝しなさい」「法学部には進学すると言われた。他人の揉め事を生業にすることは良くないとのこと」

●西洋医学(薬なども含めて)に対する否定的な見解をよく聞かされました。しかし私が成人後外国に渡航する際、未接種のワクチンを何本も打つことになったときは「迷惑をかけた」と何度も謝罪されました。ちなみにコロナワクチンは家族全員接種しています。教団からの呼びかけがあるかは知りません。

●7年ぶりに祖母に電話で連絡をした際に、題目をあげれば救われると延々と説得されたこと。私が海外に行く事が多いと伝えると、「そんなに危険なことばかりしているのなら、題目を唱えるのは絶対！でないと危険な目に遭うよ」と力説していました。祖母が題目によって救われたと話す具体例→「赤ちゃんだった私の母親が謝って画鋏を飲んでしまい、手術が必要かと思われたが、祖母が病院でひたすら題目を唱えたら翌日、便と共に画鋏が出てきた」「交通量の多い道を毎日自転車で通るけど一度も事故に遭っていない。そういう時は常に頭の中で題目を唱えている」など。また、祖父が亡くなる直前に伝えてきたことが「題目を唱えてくれ。」だったので、信仰していない私はどうしたら良い



のか戸惑いました。

●受験などうまくいったらまずは信仰のおかげで努力をみとめられず嫌な気持ちになった

●父親が牧師をしているので、幼少の頃は将来の献身を期待されていたと感じていた。自身の意思ややりたいことは尊重してくれていた。

●信仰を辞めた親族が病気で亡くなった時に「信心を捨てたから死んだんだ」と祖母が言っていたのを覚えています。

●基本的にボランティアで嫌ななら行かなくても問題なかったのと、いい人が多くみんな助け合っている感じだったので、何かを強制されたり、嫌なことを我慢したりということは少なかった。

●狐が憑いていると言われ水を浴びせられた。あなたのもった因縁を解決させなければ幸せにはなれないなど。

●祖父が交通事故に遭った時に、母親が支部長をしていて、毎日仏様にお経をあげているお陰で死なずに済んだ。仏様に感謝しなさい。と言われた。

●あなたはそのまま素晴らしい

●家庭内での教育に行き過ぎた側面があった。過度な体罰等

●父親から虐待(暴力、暴言)受けていた時期、そう言う間に会うのは前世で悪い事をしたからだと言われた。祖母宅での集会にて大人に混ざってお経を上げた後に祖父がお小遣いをくれた。それを見た信者の人から「功德を積んだから(良いことがあったんだよ)」と言われたどちらも幼稚園ぐらいの時です。

●特にはないが、他の宗教への参拝などは避けていた

●学校で誉められるようなことがあっても「御名を高められたわね。」と言われ、自分自身を誉めてもらえることはなかった。教えに背くことをすると「サタンになってしまう。」と言われ、ガスホースで叩かれた。

●家庭が極度の貧困状態にあった時、優しいと思っていた信者に思い切って相談した際、信心が足りないのねと言われたこと。

●知的障害と自閉スペクトラム症障害のある子供がいます。幼児の頃は本当に大変だったのですが、母が接心(仏の言葉を修行をした信者から言葉をもらう行為)でその子の母、つまり私が、信仰している母と二人でもっと熱心に信仰することでよくなると言われてきました。何か特別なものを持った子だとも言われてきています。私は信仰は否定していたので、即断りました。その後、数年経ち療育や生活の関わりで息子が落ち着いてきた頃、母より「私が熱心に祈ったからここまで

良くなった。あなたが同じく『歩んで』いたら普通になれたのに」と言われ、本当に腹が立ちました。息子は今成人し落ち着いて楽しく暮らしていますが、良くなったのは自分の信仰が役立っているといわれるのもいい加減にしてほしい。

●離れたらハルマゲドンで滅びる

●肯定的(に信者の方は思っているだろう言葉)「勝利」という言葉を良く使われているのが印象的でした。勝ち負けにこだわる姿勢が理解できなかったので言われても自分は嬉しくなかったです。

●信心が足りないから精神疾患になった。読経を毎日すれば人生が変わって勝利できる。

●神様のおかげ

●業

●母が乳がんになった時、信心してたってこうなるんだと言ったら、信心してたからこれで済んだと言われ呆れました。

●聖書の教えがあったからあなたはまともに育った

●神を信じないと地獄に落ちると脅迫され、無理やり信仰を強要された。

●大学に行ってはいけない 世の子と遊んではいけない

●「この世の人」という表現で、信者でない人を憐れむような言い方が印象に残っています。

●私は相手の方に願われて墮胎をしたことがあるのですが、苦しくて悲しくて母に相談した時に自業自得だと言われました。教団の教えでは現世で起きている苦しいことは前世で自信が侵してきた罪のせい、だから神に奉仕してそれを消してもうというのがありますが、前世で私が過ちを犯してきたからそんな辛いことが起こる、自業自得だと言われたのが温床に残っています。

たしか、功德を積めば幸せになれると、言われた気がします。

●10代は、かなり頻繁に「信じなければお前は死ぬぞ」「もうお前ら見きったからな」というような脅しの言葉を受け続けていました。「お前は神の子だ」というような言葉も言われていたように記憶しています。

●むしろ私の方が母に対して、本当の神ならば、父との結婚を誓った神は偽りなのではないかと問うた。(信心する前に結婚式を挙げた)ならば、私も神に許される存在ではないのでは?と問い詰めた。

●神はいつも見ている。サタンを引き寄せることをすると楽園に行かずにハルマゲドンで滅ぼされる

●「教団が強いのは、(熱心な)信者がそれぞれ信仰に

よる体験談をもっているから。(教団トップ 本部幹部会にて)」

●2世は原罪の無い存在であり、「神の子」として多くの面で優れていると言われた。

●幸せになる為に生まれてきたんだよ

●宗教に入ってることを嫌う人もいるからあまり周りの人には言わないでね。

●母より「仏法に背いて就職試験受かるはずないやろ」

●母親「お前は世界広布の使命をもって生まれてきた、先生からお預かりした子だと思って産んだ」。教団トップから数多の信者へ「(あなたの献身、苦勞などは) ぜんぶ分かってるよ」「どんなにひどい親でも、産んでくれただけで感謝しなくてはいけない」「親孝行しなさい」

「師匠の仇を打ちなさい、師匠を宣揚しなさい、報恩感謝こそ弟子の生きる道、忘恩は墮地獄の所業だ」「結婚すると二人の宿業が足し算じゃなくて掛け算で出てくるから怖いんだ。だから信心して宿命転換しないとイケない」。親(信者)から虐待を受ける子(信者)への幹部のよくある指導「あなたは過去世で親に迷惑をかけたのよ、だから今世でそういう目に遭うのね」これらはほんの一部です。

●"肯定的な声かけ(勝負事(受験、就活、プレゼン、出産など)があれば祈っている)意識していると言われたこと。神の愛を知る者として学校の友達などにはあなたが神様の代わりに愛する(思いやりを持って接する)のよ、と言われた。否定的な声かけはあまり言われたことがない。

●大学合格時に母から信心のおかげだねと言われて自分の努力のおかげだと激高した記憶があります。ただ母もそのあと申し訳なさそうにしていたように思います。

●(猿から人への)進化論は間違いだと言われたが、たくさんの本には進化論をもとに書いてあるし、そんなわけはないと子どもながらに自覚していた。高校の時、学校の理科(生物)で習ったことと違うと指摘してからは言われなくなった。

●何か自分にとっていいことがあると「お題目を上げたからだね」と言われた事(実際にはあげてない)

●選挙前、政策の説明などもなく「○○さんの名前を書いて」とだけ家族から言われた。

●アルバイトや高等教育への嫌味、他宗教の芸術や文化の否定など

●信者からは信心しない貴方はかわいそうな人生だね。親からは、もし親が信心しないお前のせいで病気で死ぬことになったら悲しいだろ?だからやれと言われた。

どちらも興奮している時で売り言葉に買い言葉みたいな感じではあったが、忘れられないです。

●神を心から信じて神が求める行動を取らなければ「ハルマゲドン」で滅ぼされる。「世の人(信者以外の人)」は邪悪なので交ってはいけない。音楽や映画などの娯楽もすべて悪魔的なので避けること。「親に従順!」聖書にある言葉。子どもが親に口答え(とまではいかない時でも)するとこの一言でだまらされる。

●信仰心がないから病気になった

●活動が熱心であるほど体育会系ノリが強く、信心や実生活でとにかく「頑張る」という空気はあったかもしれませぬ。逆に消極的で活動や仕事など成功体験が少ない人は心などが「弱い」とされます。

●東日本大震災で信者は死んでいない、家族が怪我をしたのは日頃の行いが悪かったせい等

●受験に受かった時に、母に「わたしもそうだしみんなが祈ってくれたおかげでもあるんだよ。」と言われたこと。

●宗教に関わらなくなっても、聖書の教えが私を形作ってきたと言われてゾッとした。

●勉強して大学に行くこと、より給料の高い仕事に就くこと、社会で成功することはことごとく否定された。

●引越しの時に方位がよくないと言うなどした

●どんな人でもその人にしか果たせない使命がある

●母に私の受験や就職、仕事の成功などを話すと、はじめは対話できるがいつも最終的には「母が毎日読経して祈っていた」という母自身の宗教的な努力に結びつけられてしまった。私の努力が否定されているように感じ、精神的に不安定になってしまうときもあった。/父にコロナ禍によって仕事がうまくいかず、収入が減っていることを相談すると「こんなときこそ信仰が必要」「教団に寄付をして仏壇や本尊を新たに迎えたかどうか」という趣旨の話がされた。母よりも信仰に熱心でないと思っていたため驚いた。

●読経をあげると、勇気がでるのよ!(なんの勇気かはちょっとわかりません。現実の問題と向き合う勇気は全くない人達でした)

●祖母は信心がない母(つまり嫁)に「信仰心がないので不幸になる」的な話で詰め寄っていた場面を見たことがある

●宗教は自分で選んでいいよ

●教団の方向を批判すると傲慢と言われた。

●社会即道場。「あの人のしている信仰なら良い信仰だ」と思っ頂ける貴方になっていって下さい。

●誰それさんの家では、多額の広布金(お布施の様な

もの)を出したようだという話はよく聞かされた。

●辛いことがあったら祈るといいよ。教団リーダーは私たちのことを全部ご存知でいらっしやる。題目あげても普段の生活荒れてたら意味が無い。

●教団では二世は原罪がない神の子として、特別な存在だと教えられてきた。

●特定の教団をすごく悪く言っていた

●あなたの苦しみは、過去世での悪い行いのせい。信心しないとそれをまた繰り返していく

●努力(活動や信仰の意)していればみてくれているし結果がついてくること。行事(勉強会)に参加すれば今からでもついていけること(親は信仰しているが私の親は子供達には全く強要しない考えのため、分からない子はいっぱいいるから頑張る〜と教団の方にのみ小さい頃勧誘されていました)親から強要は今でもされていません。

●聖書を基準に考えることを勧められたが、自身の考えを否定される事は少なかった。

●父親が熱心に信心していて、私が小さい時に罹った病気の薬を飲まなくて良くなったときや、高校受験に受かったとき「お父さんがお題目をあげて祈ったからだ」と言われとてもショックで腹が立った。このことはずっと心の中に残っているが、以前 session の番組内で同じようなことを言われていたという方のメールを読まれたとき、まさに私と全く同じだ!という驚きと言われた時の気持ちがリアルに蘇ってきたことで泣いてしまった。卒業式の当日、父はいつものように題目をあげていたが当然卒業式には来るだろうと思っていたが、私が登校した後に「自分は行かなくてもいいだろう?」と母に言い、母が「来てって言われたんじゃないの?」ときつく言ったそうなので、卒業式には来てくれたが、父にはやはり題目が何よりも大事なんだなと思った。

●将来の迷いなどがあるなら、毎日お経を上げなさい

●模試の結果を報告した際、「それは教団の高校に行けるレベルなの?」「教団の高校に行くなんて素晴らしい成功者だね」と祖母に言われた(教団の高校は志望校ではなかったため、成功の基準が宗教である祖母に恐怖を感じた)

●苦しいのは信心が足りないから。読経しろ、集会に出る

●信心のおかげだね

全て神のお導き

●自己犠牲が奨励されたので、自己を捨てるよう要求された。当時は素晴らしい生き方だと感銘を受けたが、

いま振り返ると悪影響が多い

●母と共に車が全損する交通事故に遭ったが2人ともむち打ち程度で済んだ。そのことについて信仰心のおかげでこの程度で済んだのだと言われた。これに限らず、ことがうまく運べば神様のおかげと言われるのが常だった。

●どんな困難も乗り越えていける、人生のバックボーンが、信仰。悩みには必ず意味がある、否、意味があったと言える生き方をしていく。負けないことが大事。

●あなたは悪い子だからちゃんとしなさい的なことを言われた

●あなたが目が悪い●不登校なのは親の精進(信仰心)が足りないせいだねごめんなさいと言われた。すべて精進に結びつけるのでむしろ信仰をやめてほしかった。

●結婚後、実家と疎遠になってから、信仰していないのだから、親でもなければ子でもない、言われた。

私の子も、孫じゃない、と言われた。

●この教団の地元支部は布教用のポスティング頒布物を折る仕事を信者に無料でやらせていたのだけれど、小さい頃、親にそれを折って待っているよう言われ、独りで折っていたら、他の信者に烈火のごとく怒られたことがある。神聖とされるものを弄ぶと怒る人はそれなりに居たように思う。布教用チラシすらそういう認識らしい。

●お利口になる

●わたしの反抗期について、成長の過程と思わず、間違っていたかのような、「あの頃は辛かった」と振り返った父の認識が気持ち悪かったです。修養会という集まりで、多くの人がいた中で父の語りでした。宗教とは関係ない事柄のはずなのに、どういう認識なの?とドン引きしました。

●家庭に訪問してくる信者の女性たちが、私の家庭を異常に誉めてきた記憶がある。容姿が良い、良い子だ、良い旦那さんね、良い家庭だね等。

●ブルジョア階級に生まれたあなたは人間の敵だと、何度も言われて育った。(造反有理の名の下、母から子への虐待が正当化された。)

●「神様のおかげ」

●施設に足を運ばないから、周りの家族が不幸になる、病気になると親に言われていました。

●持続することが良いことだ。

●あなたは神の子完全円満：母方の祖母より

●受験●就職等で成功したときには、「教団活動(教団への会合参加●運営等)と両立して素晴らしいね。」と言われました。

●この組織を捨ててサタンの側につくなら死んだほうがまし

●朝学校に行く前には必ず題目をあげていた。受験のときは、時間割に合わせて母親が自宅で題目をあげていた。私の受験がうまくいったのはそのおかげだと言われていた。私自身も子どもの受験を体験するまでそうだと思い込んでいた。子ども(母親の孫)の受験の時も題目をあげるといわれて違和感を感じた。本人の努力とは思っていない母親に

●協会の主催する合宿みたいなやつで、心霊番組を見ていたら牧師に消された

●必ず思うように生きられる

●体調を崩して不登校になっていた時、一日中、隣の部屋で責めるように題目を唱えられ、学校に行けるように祈られた

●とにかく他の宗教への関わりを許されなかった。クリスマスはなし、クリスマスの時期にCMなどが流れると父親が不機嫌になり、友達のクリスマスパーティーに参加するのもだめ。校外学習や修学旅行など学校の行事で神社仏閣に訪れるのは「仕方ない」が、「絶対に手を合わせるな。お賽銭を入れたりお守りを買うな」と繰り返し言われた。結婚する際、父親に婚姻届にサインしてもらったが、夫と入信する気はないかと一度確認された。その時に夫にも他の宗教は全て邪宗であるという話をしていた。成功すると仏様のおかげだねと言われる。受験などがあると仏様によくお願いするんだよと言われる。

●神に献身しないと滅ぼされますよ、と言われた。

●中学時代不登校になった時、私自身や母親が他の信者に「乗り越えられない不幸はないのだからもっと信心して乗り越えよう」と声かけをしてきた

●勉強やスポーツで良い成績をだすと信心で功德を得たといわれ、失敗すると前世の業で信心が足りないと言われた。一人暮らしを始め、脱会すると伝えたとき「お前は外道になり、そのせいで家族は地獄に堕ちる」と言われたのは衝撃だった。

●とにかく選挙への協力活動を求められることが多かった。親からは何か良くないことが起きるとお題目をあげなさい、足りていないと指摘された。

●誕生日を祝わない クリスマスしない 国旗掲揚しないのでその時に旗のほうを向かないのは辛かった何かと制約が多かった 自分の意思よりか強制されることが多かったので大人になってから 自分軸がなく生きづらい

●性欲を筆頭に、自然発生的に湧いてくる感情はすべ

て悪いものだと教わった。

●(悪いことに対して)サタンだね

●【否定的なもの】信心が足りない、甘えるな、逃げるな(←信仰行事●信仰による試験へ参加出来ない際)、あなたの悪い“気”を切っただけ、前世で間違った宗教を信仰していたからあなたは病気になった、祈りが足りない、信仰を怠ける人(私)は嫌い、あなたは負けている、そんな気持ちのままだから教祖や宇宙のリズムから外れている 等等。【肯定的なもの】私が二代目の教祖と同じ誕生日だった為「大きな使命を持って生まれた」、両親共に信者の間に生まれたので「福子(ふくし)は生まれながらに使命がある、福運がある」など

●進路決定など人生における大事な選択は全て、鑑定接心という霊能者との面談を受けなければならなかった。最後は自分が決めるのだと言われるが、接心で頂いたアドバイスどおりにせず不幸になってしまった家庭の話が聞かされるため、言うことを聞かなければならないのだと思った。人生の選択に必ず宗教の教えを受けてきたので、主体的に自己決定をしてきた気がしない。

●読経を唱えれば安心、みたいなこと。教団では読経をひたすら全員で唱える謎会が行われているのですが、子供ながら、唱える事は罪ではないと思っていたけど、唱えることで安心なのはみんなと一緒に同じことを唱えるから、1人じゃなくて楽しいから安心なのかな?とっていた。読経に直接安心を覚えた事はおそらく1度もないです。

●寺や神社は悪だと何度も言われた。

●母に「あなたが選挙に行かなかったら私は死ななきゃいけないわ」と言われました。

●精神疾患は信心が足りないせい、毎日祈ったら病院に行かなくても治る。心の持ちよう。

●他人の不幸の上に自分の幸福を築くことはしない。仏法は道理である(信心だけで万事うまくいくのではなく、物事がうまくいくための努力は不可欠)。根本的な信念は維持しつつ、細かな形式は枝葉末節なので変えてもいい(例えば、昔は正座が当たり前だったが、正座を強要しないなどの柔軟化)

●母は、性的なことに厳しく、結婚まで純潔をまもらなければいけない。離婚してはいけないと言っていた。同性愛は罪だと思いました(直接聞いたかは、あやふやです)

●教義に否定的なことを言うと、あなたはサタンの影響を受けている、と言われた。集会に参加しないから

批判的な考えに囚われているのだ。伝道の後、天に宝を蓄えたね！

- 全てにおいて「神様のおかげ、神に感謝」
- 教団に通っていたのは小学生の頃なのであまり覚えていません
- 勉強を優先したいときに教団活動との両立を深夜のコンビニで説得されて参った。
- 信者が否定的な声かけをしてきた内容は全く忘れてるけどあの憎たらしい顔は忘れられません
- (脱会后)「食べる資格がない。生きている価値がない」
- 但(ただ)当(まさ)に深く因果を信じ、一実の道を選び、仏は滅したまわずと知るべし
- 父が母の熱心な信心を反対で、自宅仏壇の掛軸を破り捨てた。他の信者はわたしに「お父さんは脳の病気、頭がおかしくなって死ぬ」と言いました。
- 子宮がんワクチンでの反ワクチン思想
- ありすぎて思い出そうとすると動悸がします。
- これはサタンね、という話しは毎日のように聞きました。
- 神様はあなたの人生で、あなたが耐えられないことを与えることはない。(だから、耐えて頑張りなさい。うまく行っていないのはまだあなたの努力が足りないのだ)。()内は、前半に記入した言葉から私が受けた強い印象です。
- 前世の業
- 沢山のお金を手にしてはならない、貧しくあれ、神様の御心に委ねよ、成功は神様のおかげ、失敗は神様が与えてくださった試練、旅の始まりや、大変なときは経を唱えなさい。
- 人として産まれてくる事は砂浜の砂を爪の先ですくったぐらいの確率しかない。あなたの命は尊いから大切に。と言われた事
- お祈りすれば病気は治るなど
- 親は一般的な仏教だから、何も無いのですが、こどもの幼稚園が熱心なカトリックで、幼稚園に隣接したカトリック会館でのキリスト教講座を熱心な保護者から懇願されて嫌々受講しました。その保護者は半年後、熱心に勧誘してきた保護者は、幼稚園の教員になっていました。元々、カトリック信者ではない風情を装っていましたが、実はその幼稚園に再就職しようと点数稼ぎをしていたそうです。騙された気分がしました。こどもが通園していた当時の春、私は買い物中交通事故にあい、1年リハビリに通いました。高齢ドライバーが交差点に突っ込んできて被害に遭ったのですが。

3日後、病院でリハビリを受けている最中に勧誘に熱心な保護者は泣きながら私に電話してきました「私を助けて！お願いだからキリスト教講座に来て！」と泣きついてきました。仕方なくタクシーで会館に向かいましたが、本当に勧誘がしつこく、大変嫌な思いを数年に渡り味わいました。

- 教団の教えが唯一の正しい教えのため、信心すれば人間的に成長でき成功する、そこから離れば良くないことが起きるといことは何度か聞いた。信心しなかったから悪いことが起きたとはあまり言われた記憶はないが、良いことが起きた時には信心が身を結んだんだね！というようなことは必ず言われた。科学的なことを否定するというほどではないが、ネットに載っている教団に対する否定的な意見は嘘なので信じないようにいことは何度か聞いた。仏教系のため、友人から誘われても、初詣には行きづらかった。
- スカートを履け
- いつも祈っています。神様からの恵みと平安がありますように。
- お前は神がいなければ生きていけない。神に見捨てられないように支えてあげるから、支えて貰えるように身を尽くせ。
- 私自身の幸運でたまたま災害や事件に巻き込まれたことがないことについて神様に守られてるというようなことを母がよく言っていた
- 「子供は神からの相続財産」「親は神に喜ばれる仕方で子供を育て、いずれ神に熱心な奉仕者としてお返しする」
- 母「あなたはこの宗教を広める為に産まれてきた。この宗教から逃げることは絶対に出来ないよ」信者「未来部(未成年の信者)のみんなは前世で物凄い徳を積んだから、こんなに素晴らしい団体の二世に産まれて来れたんだ。親孝行しようね」
- 逆らうと地獄に落ちる
- 宗教の人以外の友達と遊んだりすると、あまり世の人と遊んではいけないよ、影響を受けるからと言われました。親からも会衆の人からもです。
- 集会に行くと「偉いね、神も喜んでいるよ」、「世の子」と遊ぶと「神はどう思われるかな？」などと婉曲的に私を責め、子どもの私に「自発的に宗教活動を行っている」と言わせていました。
- 何か成功するとご守護を頂けたと言われたり、他の宗教は誘法(正しくない宗教)であり、関連したものを持っているだけでも悪い事が起こると言われたりしました。

●何か良い事があっても神のおかげ、神が見ていてくださったのね。とよく言われました。

●我を捨てなさい

●この世のものとは交わってはいけない(文化、風習、人、広義で使われる)

●家族の中で父が一番熱心に信仰していたのですが、事あるごとに全ては因果関係なので困っている事があれば困っているお前が悪いと言っていました。困らせてくる相手は悪く無い、困っているお前に非があるという考えの押し付けは子どもにはつらかったです。

●躰よりも原罪の指摘ばかりで、肯定は教会参加と伝道についてのみ。母親からは罪だ、バカだ、ダメだと言うだけの教育だった。

●選挙である政党に入れることがデフォルトとされ、選挙期間になると投票したか同じ地区の人より確認がくる。そもそもその党に入れるものと思われてること、報告することに違和感を感じ対応せずいたら、他の地域に住む幼馴染から近況確認と選挙について連絡が来て、幼馴染なので仕方なく返信したら、地元の地区の人から投票ありがとうと連絡が来た。個人情報の守られなさに不安を覚えた。

●(これは当時ショックなどで記憶があやふやなので実際に起きていないかもしれない)教団系の中学校に行っていた。母親が癌で中学校の頃他界。理科の教師が授業で、私に向けてとは言わなかったが、「ある信者が熱心に信仰していたものの癌で亡くなり、大きな声で言わないがその人の体を司法解剖？したらしい(宗教の関係かは不明)。そしたら癌細胞が一切なくなっていた。」というような話を唐突に話していた。どこまでも宗教の正しさ第一なのかよ。と思ったのでよく印象に残っているが、あまりに酷い話なので私の夢だったのかもとも思う。

●教団の学園にいていたが、高校には進まず留学すると父親を説得し、了承を得る。「母親が死んだからこれができる。生きてたら無理だっただろう」と非常に無責任でデリカシーのないことを言われ、ショックをうけた。

●不可能を可能にする信心

●世に交わるとサタンに取り憑かれる

●信仰をしないのは親不孝だ

●宗教上の歴史からか、対立する共産党が悪く言われていたり、神社やお寺での行事に参加させてもらえなかったり、鳥居をくぐらないようにと強く幼少期に両親や祖父母から言われてました。

●交通事故(物損)を起こした時に魔が入っている負

けてはいけないと直後の会合に無理に参加させられた

●属している宗教によって不幸の種類が決まる。

●教団の話の中でも、そうだと思うものを信じれば良い。自分の中で取捨選択すれば良い。こちらは強制しないし、それが正しいとも思わない。

●宗教施設でのお祭りで、子供の神様の役(コスプレ)をやったことがあり「あなたは神様と同じだから一生守られる」と言われた。"

●『信心しないと福運がつかない』

●『体調不良は信心しないから』

●魔に負けるな

●私が自分自身のセクシャリティをゲイであると認識し始めた思春期の頃に、エイズパニックのテレビ報道を見た母親が「ああ、この人たちには神様の天罰が下ったんだね。」と口にした事を強烈に覚えている。しかし口にした母本人は、現在「私はそんなこと言っていない」と言っている。

●小学生の頃、頻繁に宗教活動に参加していたら信者が親に「この子は将来有望ですよ」と言った。自分もまんざらでもなかった。

●高校生の時、自分は教団に入らないと母に伝えた時に、激怒して「おまえなんて産まなければよかった。死ぬ!」と言われたこと。

●お題目が足りない、もっと祈ると良いというのは言われた。金銭の寄付が、自分自身の人格を高めるといようなことも毎年その時期(11月頃から12月にかけて)はよく聞いた。

●私が中学生になると、母の叔母と母の関係がギクシヤクシはじめました。(進行する宗教が原因となった金銭的な問題や生活上の問題で)両親が共働きだったので母の叔母と私が夕食をともにすることが多かったのですが、そのとき「おまえの母親は鬼だ」とよく言われました。テレビを見ながら食事をして聞こえないふりをすると「鬼の子はやっぱり鬼だ。聞こえないふりをしやがって」と静かに罵られました。還暦を過ぎた今でも耳の奥深くから消えません。

●きっと神様が守ってくれる、という励まし(肯定的な声かけ)が印象深い。高校卒業後の浪人期に参加した合宿ワークショップ(子ども向け礼拝の行い方を学び合う集まり)で、同教団別教会所属の年配信者から言われた。

●結婚できないのは信心が無いからだ

●この世の人(サタンの手下)の友人と遊ぶな

●手を合わせて祈れば何でも願いが叶う。祈らなければ不幸になる。

- 学歴と信仰を結びつけていた
- 他の宗教系大学に進学が決まった際に、自宗教の大学に何故行かないのか？と詰め寄られた。
- 信仰は強制されてするものではなく、自ら願うてするものである。
- 否定的声掛けで、親から「なんでこんなに親不孝に育ったの、私はちゃんと育てて来たのに。やっぱり信心が足りなかったのかなあ」
- 母親から、御朱印集めの趣味について変なものを取り込んでいると言われ、当時仕事などがうまくいっていなかったことについてもそのせいだと言われた。
- わたしが引きこもる状態で苦しんでいるときに、母がじりじりと近づいてきて「いいかい、神様はいるんだよ、それは絶対に忘れちゃいけない、イエス様は信じていて。どうしたの、なんで返事しないの」としつこく迫ってきた。
- 中学生の時に、家族に辞めたいというと、母から「謗法」だとか「業」だとか「あなただけ地獄に落ちる」と、祖母からは「信心が足りない」と言われました。
- 寄付を沢山すればただけあなたのこれからの人生が良くなる。
- 信者は社会の誰よりも優れている。信心に反対する、誹謗する人は狂っている、魔が入っているから戦え、勝て。勝つためには何したって構わない。最期は勝てばいい。家族以上に大事なのが師弟の精神、絆だ。等々…
- 大学進学の上京（一人暮らし）にあたって、仏壇（信仰）を持って行く行かないで揉めた時、私に根負けした母親※（因みに、父親※は私が必要とした時に考えれば良いんじゃないか？的なカジュアル信仰。父親は中卒後、田舎から集団就職時、教団に勧誘してきた異性と仲良くなりたいが為の動機で入信も、集会※の誘いの頻繁さに逃げ回り、真面目な信者ではなかった。と本人談。が、母親を勧誘したのは父親で、何気に信仰との親和性が高かった）が男子部支部長を自宅に招き、説得の席での最後の言葉が「君の云っている事は、机上の空論と云うんだよ」と全否定。
- 集会は読経の後、其々の体験談（病気や悩み等）を話す集いで、♫に全員肩組んで歌を唄う（多分オリジナルソング）。子供心にはまあまあな光景。
- 私個人に対しては特にないが、先述母への声かけ。
- 母は、悩みごとやモヤモヤしたことなどを相談するといつもすぐに「神様にお祈りしましょうね」「神様にお祈りすれば大丈夫よ」などと言って、あまり話を聞いてくれなかった。

- 教会の人たちも、ただの世間話や雑談的な話題（教義に関係のないこと）でも、最後の締めは「神様が」とか「イエス様が」とか「みことばが」とか結びつけたが（るので、うざか）った。
- 「我々は、真理を知らない世の中の人々に、この世の真理を伝えていかなければならない」とよく言われた。
- 進化論は間違っていて、創造論こそが正しく、科学的根拠もあると教わった。神社やお寺にはお参りしてはいけなと言われていた（偶像崇拜なので）。いいことがあれば「神様の恵み」で、悪いことがあれば「自分の信仰が足りないから」と言われた。
- 徳がないから女に生まれた、徳がないから幸せにならない、など「徳がない」というフレーズ
- 10歳の頃知らないおばさんに顔を引っ叩かれて泣きながら題目させられた。この宗教はおかしいと決定的に感じた時でよく覚えている。
- 母から自分の受験、妻の出産、娘、息子のスポーツ大会、受験など全てにお祈りしています。またはしていたからと言われる。強制はされないが高校生の頃、カミュを読んでいたら昔なら禁書だったと言われた。カトリックは離婚出来ないと言われた事がある。
- 墮落(祝福前の性行為)をしたら地獄へ落ちる。あなただけではなく、あなたの家族も、先祖も子孫も道連れと教団から教わったり、聞かされます。祝福(結婚)を壊す(離婚)ことも罪であり地獄へ行くと教わります。家族も道連れ(連帯責任)と学びます。
- 真面目に活動しなければ、悪いことが起こると言われた。リーダーに背くのは反逆者で、地獄に落ちると言われた。
- バチが当たる
- 病気や災害は浄化であり、薬は毒。浄化させて頂いていることに感謝しなさいと言われた。
- 母親から教団の中学受験に失敗して、アンタの信心がなくなって落ちたと言われた。母親から教団の大幹部になれと言われ、なれなくて、ろくな人生を歩まんわと罵られた。アンタのせいで家庭が壊れた、不幸になったと言われた。
- 私たちは明主様のお道具である。(肯定的な意味)
- 信心が足らんから…という発言。
- 同じ行動をしても入信していないで幸せになれるかどうかが変わる。信じないなんて信じてる人を否定することでとても失礼なことだ。
- 勝利しなさい(何かと戦ってるわけでもないのに)
- 信心を本気でやらないならいままでの養育費を返せと親から言われた

●神のおかげ  
●なにか成功すると「福子だものね！」(生まれた時から入信している人のこと)と言われた。  
●親戚の教団の人に「キリスト教やイスラム教など他の様々な宗教のことをどう考えているのか？」と聞いたら怒り出して、「他の宗教には虐殺の歴史がある。教団は友好的な素晴らしい信仰だ」と激しい口調で言われて怖かった。  
●離婚した際、「読経をしていなかったからだ」とか「今後の人生のためにしっかり読経しなさい」と簡易的な仏壇を持つよう勧められ、受け取った。  
●先祖からの因縁を解決せねばならない。〇〇出来たのは先祖のおかげだ。  
●姉が先に脱退した時「お姉ちゃんみたいにはならないでね」と言われ、自分にとっては大切な姉なのでごくつらかった。  
●ある政党の批判をしたら、仏罰が子どもたちにくると言われた  
●母親や教団から、自由恋愛をすると墮落する、地獄に落ちると言われていた。家族も死んだら地獄に落ちると言われていた。  
●わたしが耳の聞こえない障害を持って、教団の人が「入れば子供の耳が聞こえるようになるよ」と言って母が入ったらしい  
●「せめて題目三唱ぐらいしなさい」とは事あるごとに、今も言われています。  
●題目をあげろ。  
●他の信者から急な訪問(よくある)で、政党への投票の呼びかけ。それに対して他の党や候補者との実績やコミットメントの比較を明示するよう話したら黙られて二度とこなくなった。  
●子供の頃から「お母さんは病気なんだからあなたがお手伝いをちゃんとしなさい●してる？」と頻りに色々な女性の信者から言われた。(グルーミング)。直接知らないのに、親と知り合いというだけで突然話しかけられるうえに学校での成績(良い方だった)をなぜか知っていて褒められる。気持ち悪い。●  
●信心したら〇〇さんの病気がよくなったから、あなたもしっかり信心しなさい。  
●母親が近所の友達の家にパンフレットを配ったり話をしに行っていたため、地元の中学は行けないと思い中学受験をして合格したところ、私がパンフレットを配ったおかげで合格したから感謝しろといわれたのが忘れられません。『娘が中学受験するから私も頑張らないと』と意気込まれて近所の家のほとんどにパンフレ

ットをたくさん配って回られ、もう近所の知り合いとは会話しにくいなと思っていました。  
●かわいそうな子と言われた  
●自分に向けてではないが、部活動より教会を優先しろと言う牧師さんが一人いた。  
●信者以外を「世の人」と呼んで、あまり友達になっではいけないと言われた。  
●信心深く信仰していた両親だが、私が中学のころに献金を集める立場に配属され、大きな額の献金を人に半ば強要することに疑問を感じて脱退。私自身は教義の中で育ったためどうしていいかわからず、友達も教会にしかいなくて通い続ける。そこでは大人たちが「ご両親は疲れちゃっただけだよ。あなたがちゃんと信仰していればきっと神様がご両親を連れ戻してくれるよ」と、判を押すようにみんな同じ言葉をかけてくれた。別にそういうマニュアルはないと思うが、優しさから私にできることを伝えてくれたのだと思う。しかし当時の私に今わたしがかけたい言葉は真逆で、「あなたが親のなにも背負う必要はないよ、自分のやりたいことだけ、考えればいいよ」という感じです。  
●同じくらいの子と自分の今の状況だったり、環境を話して、気持ちが楽になった。また、色々な生き方をしている人がいて、自分のあり方を学べた。  
●人生の全否定をされて、矯正と称して洗脳をしようとしてきた。  
●信心しないと人生がめちゃくちゃになると言われました  
●神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。  
●良いことがある度に「功德だよ」と言われた。  
●「これも神様のおかげだから」。がんばった事の成果に対し宗教のおかげにされて、自分の努力を認めてもらえなかった。思春期だったため、母親に認めてもらえないのは地味にきつかった。  
●すべてが御本尊様のお陰。  
●母が周りの信者さんに「娘には将来、係さんになってもらうの」(係さん…地域の取りまとめ役の人)  
●就活中に祈ってあげた。信心のない遊びの友達はダメだなど。  
●大阪に住んでいるのにもかかわらず、神奈川の教会に足しげく通わないのは良くないと言われた。  
●幼少の私は明らかに精神疾患をもっていました。すべて読経で解決～～～みたいに使われていました  
●他の宗教は「邪宗」だから手を合わせる等してはいけない、キツネ憑きの人は題目を聞かせると飛び跳ね



て嫌がる (だからこの題目は正しい)、ネットは嘘、このお経は世界で1番正しい、リーダーは命を狙われている等

●御本尊様に祈れば大丈夫

●障害を持っている方の事を、過去世に行者を迫害したり悪い事をしたせいで、そのように生まれたと言っていた

●全ての事柄において、教祖のおかげと言われた

●「誘拐され、殺されかけた教団信者の子供が題目を念じたところ誘拐犯の気が変わり、殺されずに済んだ」という逸話

●教団を辞めるのなら、お前が教祖になるのか!と、母に言われた。

●あなたは神の子だよ

●熱心な活動をしているから、給料が上がったのよ。

●お経を読めば人生上手くいく

●祈れば良くなる。信じて信仰をすれば幸せになれる。他の宗教は邪教、間違った宗教を信じると不幸になる。

●子供の世代は祝福2世と言われていた。教会に入っていない人々や世間は不幸である。2世は生まれながらに神に祝福されている。受験に合格した時は神様に祈っていたからだと言われた。

●私は産まれてすぐ母の判断で入会させられました。私の意志ではありません。なので信仰心も抱くことがなく、成人してから脱会したいと言ったら無理矢理会馆に連れて行かれ、そこで知らない婦人部の人二人に、亡くなった祖母も悲しんでいるとか、お母さんが心を痛めているとか、頑張っている芸能人はみんな入会している(具体的に名前も聞きましたがその人たちが入会しているという話は聞いたことがありません)などと説得され、その横では母は泣いているし、もうこの宗教から逃げられない、逃げるなら死ぬしかないと思いました。特に母は私が辞めたいと言うと守っている物がいなくなる、不幸になると言ってきて私には脅しのように聞こえました。ちょうどその頃金銭的に騙されたことがあったのですが、それも私が辞めると言ったからだと言われました。反対に高校受験で志望校に合格したときは守られた、怪我をしたときは守られたからこの程度で済んだなどと言われました(母の機嫌を損ねないようにポーズだけで信じているフリをしていました)。子供の頃に高熱を出して寝込んでいても集会があるからと置いていかれ、家が火事になったらお母さんは本尊を持って逃げるからと言われ私より宗教が大事なんだと思いました。

●信心していたら、おかげを頂ける

●信者だった父親と、結婚する条件として母親が入信させられたらしく、母親が辛そうだった。

●否定的なことや脅しなどはなかったように思います。とにかく褒められて、期待の言葉をかけられました。それが嬉しくて活動に励みました。

●いじめについて母親に相談したら「お前の功德が足りないからだ。朝晩読経に励みなさい。」と返ってきた。

●ご先祖様を大切にしなければ不幸になると言われました。

●辛いこと(持病の悪化、いじめ、受験の失敗、親族の不幸等)が起こる度、または自身の容姿について、信仰心が足りないから、前世の行いが悪いからと母親から責められるため、家族や親戚へ相談ができない。

●神社仏閣への参拝はすると言われた

●「人間は神の子です!」「素晴らしい!」。肯定的な言葉で宗教自体は温和(に見えた子供時代 80、90年代)だったけれど、親がコシだけの教会で過ごしていたのでやはりオカシイ家庭だった。弟は学校に馴染めず40歳まで引きこもり、妹は自殺未遂、結局祖母の居ない家では私は乳児期、母親に虐待されていたようだし。

●教えに背くと布団たたきでお尻をぶん殴られた

●忘れてしまいました。忘れようとしていたふしがあります。

●病気になった人に対して、宗派によって病気になる箇所?が違うので、〇〇宗の人は脳の病気になった等と言っていました。

●信者でない知人の葬儀で、成仏できないから死に顔が恐ろしかったとか。信者の人は死んでも遺体が硬直せず柔らかいとも。

●誕生日を祝ってはいけない、有名人にも信者はたくさんいる。

●「2世なんだから」

●「神様を信じているなら『死ぬのが怖い』と言うな」  
弱っているお年寄りに対する叱責でした

信者でない人より優れている、恵まれているという声かけは多かったと思います。

●祖母が信心深い、といった内容を信者仲間より肯定的に言われた

●本人の努力と信心の両方のお陰で幸せになれた

●何か良いことがあれば神のおかげ、困難なことが有れば神が試練を与えてくださっているが必ず見守っていてくださる。と皆が口にしていました。

●阿弥陀如来様は誰にでも救いの手を伸べて下さっています。

●気に入らない事があると地獄に落ちるなど言われていた

●「守られているね」

●信心していると幸福になり、していない親戚は皆、病気や金銭的に皆苦しんでいると父に言われた。

●「地獄に落ちる」云々。長時間の勧誘

●なにか不幸なことがあったりすると、「神様のお導きに従う」と口にしてている人は多かった。

●私の父は教団の牧師ですが、娘の私も聖女であることを信徒達から求められていました。父は母に対するDV や私に対する虐待加害者でしたが、その父に対して距離をとっている私に対し、信徒達は「先生はあなたを愛しておられるのに、何故あなたは反抗ばかりするのか。先生の愛に応えないのか。親不孝な娘だ。」と責められていました。

●「全てに感謝」と言われる

●最後は信心をし抜いた人が勝つ。

●信心から離れたら「福運」が消える。(「幸せでなくなる」くらいの意味合いですが、「身を滅ぼすことになる」くらいの強いニュアンスで聞いたこともあります)

●良いこと良い結果は「神様のおかげだね」、怪我や特に病気は「心づかいがよくないからバチがあたったんだ」と自分自身が悪いと言われる。怪我や病気をしても心配されるどころかそうやって怒られていたので、他人が怪我や病気をしても同じように思ってしまい、他人を心配するという心が欠落している自覚がありません。それがももとの性格なのかこのような環境に何十年居たせいなのかはわかりません。学校などで怪我人や病人に同級生たちが優しくしたり心配する様子も「(怪我した) 本人が悪いのになんで優しくするの?」とっていました。教団を離れ、一般社会で生活し始めたとき、職場などで体調不良になったときなど上司や同僚が心配してくれたときは「私が悪いのになんで心配なんかするんだろう」と理解できませんでしたが、今はそれが人として普通の当たり前の感情なんだとわかりました。わかったときに、そういう一般的な感覚がない自分に絶望しました。

●何か大変な事があった時『お母さん達のお題目(お祈りの的なもの)が足りないせい〜』。私の悩みに対してアドバイスした最後に『お題目あげなさい!』

●人は誰でも善なる個性を持っている。自分の個性を他のために活かすことが大事。

●コールドリーディングで言われた「このままでは死んでしまいますよ」。自分自身の生活や信心のあり方を見直さないと死んでしまうと言われました。数年後、

DV の連鎖の中、母親が自死しました。自分が両親に尽くさなかったせい、そして教えを守らなかったなのかもしれないとは思わないこともありません。ただし、信仰を大事にしすぎて家族を蔑ろにしたり、色々な我慢を強いてきたり、そんな中で小さい頃に何度もお年玉をくすねたりもしていた欺瞞だらけだった親に尽くすことは到底できませんでした。

●勝利しましょう

●息子である私が教えに背くと巻き添えを食らうと親にいわれた。教団の幹部からは、君たちはこの現世において個人の幸せを願ってはならず、教団のために尽くしなさい、といわれた。

●災害や不幸に遭った人について、不信心だからと親が言い放った

●声かけではないが、好きで聴いていた音楽が親の望むものではなく、お小遣いで買い集めたレコードを全て捨てられてしまったり、友達からももらった手紙を捨てられたりした。その理由は信仰的でないものだったからだと当時感じていたし、それはありのままの自分を否定されるできごとであり、私は私らしさより先に信仰を大事にしなければ尊重されない存在なのだと感じ傷ついた。

●ご供養が疎かになっているから 大学にも入れないんだ

●いいことがあると「教団名(のおかげ)だねー」悪いことがあると「サタン(のせい)だねー」。努力によることも、単なる偶然も、何でもそう言う人は多かった。

●お友達に不幸があると、信心をおすすめしないと！と言っていた

●婚姻の際に入会を隠していたことをなじられたこと

●良いことも悪いことも「そういう縁だった」「ご先祖が喜んでいる、悲しんでいる」と言われる

●父親から、「知り合いの男性は2回結婚していて、前妻は癌で亡くなり後妻も癌を患ったが、信心をしていたから完治した。お前も信心をした方がいい。」と言われたこと。

●ハルマゲドンで滅びる

●長男である弟を常に立てて一歩下がっているように。

●いつも自分の事をよく見てくれていたし、褒めてくれていた

●半端な役職者の盲信的な言葉や、自分を尊敬させようとする(無意識でも)言動がうざかった。どんな組織でもそういう人は存在する。見抜かなければ自分が損をする。

- あの政党に投票しないと不幸になる
- 諸天善神があらわれた
- 地域のお祭りなどの参加にいい顔をしなかった。
- 自分ではないが、流産した人に信仰心が足りないからと言っているのを聞いた。
- 教義を知らない人や他の教義を信じている人は不幸だというような事は親から何度も言われた。唯一無二の正しい信仰だというすり込みは常にあった。しかし、信仰の有無に関わらず幸せに暮らしている人もいる現実を感じて疑問に思うようになった。信仰は物事に関する認知行動に影響するものだと思います、信仰心は 20 代になって薄れたが信仰から離れると不幸になるという子供時代からのすり込みが怖く感じた。いま全く活動はしていないが私の住所などの個人情報教団に伝達されていてまだに信者の人が電話や直接家に訪問されるのがストレス。選挙近くなると特に。母は亡くなっていますが、弟は熱心に活動していて私自身は脱退したいが、そうすると弟との関係が悪くなりそうしていません。両親が亡くなりいま弟とは仲良くしています。信仰の全てを否定的に思う訳では無いが、物心つく赤ちゃんの時に親が教団に入れて、自分の意思ではなく活動するのが当たり前という環境下であったのは少なからずあります。そこでの友人関係など楽しかったこともあります、子供には選択肢が無いということ自体はどんな信仰にもあって、そこから脱退するのは勇気がいると感じます。教団では退転といいあってはならない事だと教えられていました。
- バチがあたる、不幸をまねく、ですかね。救いより呪いですね。
- 敵対勢力の糾弾
- 母が脳腫瘍で亡くなる前に、娘の祈りは強いから娘が祈ったら治るからと言われたが、母は死んだので(母は死ぬだろうと思っていたので)母が死んだら私も死ぬのう、と思いつめたこと。18 歳のとき。
- 怪我や病気が続いたり、就職先が見つからない時期に、親からちゃんと信仰してないからだと言われた
- (姓名判断で)色事の因縁がある
- 神のご加護のおかげ
- 病気になった際に「お祈りしておいたから」と言われることがよくあった
- 進学したかったが経済的に無理な状況にありながら、母親から教団大学ならどうにでもして入れてやるけど、と言われた事は今でも忘れないし、許してはいない。
- 肯定的に物事を捉える事を学んだ。信仰はあたたかなもの。自分を認める事は他人を認める事になる。

- 勧誘すれば魂が上がる。
- 勤め口を探して決めて帰ったら、母親から家事の手伝い手が無くなるから困ると言われた。母親は子が p 外に出かける事自体に否定的。
- 帝王切開で出産するのは、子供自身の力ではないから恥だと言われた
- 他の宗教の人に不幸な目にあった時に、「変な宗教を信じてるからだ！」と親が言っていて子供ながらに傷ついてしまった。
- あなたのお母さんは、あなただけのお母さんではなく、みんなのお母さんです。
- バプテスマを受けたなど、良いことをすると「神様だね」、悪いことをすると「サタンだ」と言われた。
- まず現実世界で一生懸命がんばることが大事
- 風邪をひいたときに、親からあなたが罪を冒したからだ、悔い改めなさい、と言われたこと。
- 比較的最近ですが、大きな病気の療養中に、「今あなたがこうして日々生きている事だけで沢山の方に大きな勇気をあげている。生きていてくれてありがとう」と言われました。
- 祝福されているから成功した、悪いことは全てサタンの仕業、世の友は悪
- テスト前に勉強をほとんどしていない中で宗教活動をする事になり、信者の先輩に「テスト勉強をした」と言う「今ご奉公しているからきつのご守護頂けるよ。大丈夫。」と言われたこと。/車を傷つけてしまった時、親から「機関紙購読参加しなかったから、そんな事になったんだよ。参加してれば却ってご守護頂けてお金倍になって返ってくることもあるんだから。」と言われ呆れられたこと。
- 「誰かひとりが百歩前に進むよりも、全員がそれぞれ一歩前に踏み出す方が大切。」「鬱なんて病気はない。」「男子、壮年部は女子、婦人部に最敬礼を」
- 功德を積みなさい
- お前の行動は魔になっている
- 「(偉人伝を読んでいると)邪宗の教えを読むな」「(神社のお祭りに友達と行きたいと話すと)邪宗の祭りに行くな」「(読経をしないと)いまに罰が当たる」。読経が嫌で泣きながら読経していたら、父から木の棒で腰を思い切り何度も打たれた。毎週の集会に行かないと母から、お前は功德を理解していない、無自覚だ、罰が当たっても知らないよなど不機嫌にずっと言われる。
- 墮落(神の決められた相手と結婚する前に SEX)すると地獄に落ち、子々孫々、永遠にあなたを恨むようになるからしてはいけない

●教会を離れた人は不幸になる。家を買うと不幸になる。不幸な問題が起こるのは先祖のせいだ。

●小さい頃から「マスターベーションに耽ること」、性的な盛りである「若い頃にお付き合いすることなども禁止する教理を繰り返し講演されました。それが特異な事だと知りませんでした。

●兄弟で喧嘩になった時に母親に悪魔と言われた

●教団トップの指導からは、たくさんの励ましをもらったと思っている。内容は、勉強、親孝行、思いやりなど、人として常識的なものであり、違和感はなかった。家族（特に母親）もまた、そうした教えを通して、我が子を世間に有為な人材に成長させることにこそ、信仰の意義と自身の使命を見出してきたと思う。私自身、こうした母親の生き様を内面化しつつ、体現して生きてきたと思うし、そのことへの悔いやマイナスの感情はないと思っている。

●光の子、神の子、原罪がない、

●楽園、永遠の命

●親は子どもを選ばず、子どもが親を選んで生まれてくる。皆、罪を償うために生まれてくる。現世は修行の場である。お浄め（おきよめ）をすると病気が治る。アトピーや癌など、さまざまな病気が治った人が周りにたくさんいる。強い御光（みひかり）を受けると、先祖や背後霊など、他者の霊が降りてきて勝手に身体が動き、イタコのような現象が起こる。また、強い御光を受けることのできる人は稀に手から金粉が出る。

●教団以外の宗教は邪教である、有名な人の失敗や不幸は反教団だったからである。題目を上げることで全てよい方へ解決する(病気なども含む)"。

●これまでどんな訓練を受けてきたんだと叱責された（高校生の時）。20歳までは、親の福運に守られる（どんな罰があたるのかという不安があった）。

●2世では無い人に羨ましいと言われた事

●「仕事についても奉仕は毎週必ずするんでしょう？教会の子どものね」

●教祖や伝道師が、念法の子（信者）になって身も心も仏様に委ねてしまえば、幸せになると言っていた

●神を信じる！クリスチャンはインテリで憧れの目で見られるか、シューキョー怖いなんていう奴はいない！同級生を教会に誘って、お前をクリスチャンに囲い込みたい。

●この教団こそがただひとつ正しい宗教。理解できない人はバチが当たる。信者の悪口など罵倒する者は気狂いになる。過去世の業を現世で消して行く。あの政党を応援するのは同志だから。

●インフルエンザや風邪に罹ったとき、信心が足りないからだと言われた。あの地域は良くも悪くも不幸な出来事がないから勧誘がうまくいかない発言。●踏み絵が今後あったとき、遠慮なく踏んで良い。

●拝めば高校や大学に合格できる  
お守りを燃やすと言われた。

●活動を頑張るととにかく褒めちぎられる。逆に活動以外のこと(娯楽や学校の部活、一般的な習い事など)は「サタンの誘惑」という扱いで、就職や大学進学した人は「誘惑に負けた」と非難されたり陰口を言われたりしていた。

●「そんなことをしていると餓鬼界（または畜生道）に墮ちるよ」「あの人は退転した」

●「親を大事にして下さい」。教団トップ氏の講演より。

●自分が努力してるのに、神様のおかげ、教会のおかげにされる。

●いつも「これから世界は混乱がおこる」というような事を"予言"して、母も他の信者達も信じている。人間の知識だけに頼るのは良くない、政治を学んでも意味が無いと教えられて勉強をあまりしてこなかった為無知な大人になってしまった。

●障害者が生まれる家系は先祖の悪い因縁があって、宗教の教えを学んで、それを断ち切らないといけなくて母が信者の友人から聞いて、私はそれをずっと信じて苦しんできた。私が先祖の代わりに神に謝罪しないといけないと思ったり、私は前世で悪い事をしたんだと思うようになってとても苦しんできた。

●脱会すると不孝になる

●街中で、同じ宗教の人が店員さんを怒鳴っている場面に遭遇したとき、親が「あの人はたぶん祈願していない人だ。祈願していたらあんなことしない。」と言っていた。

●自分で考えて行動しているだけで教団の教えと違うことは二乗といって馬鹿にされた。

●教団信者からのプレッシャーはほとんど記憶にありません。優しい近所のおばさん達でした。脱退したため、家族(母ときょうだい)から、人格否定をされ続けました。

●行者の祈りの叶わぬことはないと言書にあるので、祈りは叶うよ！

●高等教育を受けることに対して否定的な教義のため、進学校の高校に通うと知られたら他の信者に「あんなところに行くのか」と言われたり、大学進学した際には自分の知らない信者にまで私の大学を知られていたり不愉快な思いをしました。

●自分の意志ではなく、神の代理人であるとする組織の代表者（統治体）に対する忠誠心を叩き込まれました。「賢くあって、わたしの心を飲ばせよ。わたしを嘲弄している者にわたしが返答するためである」（箴言27:11）

●今現在飢餓に苦しむアフリカの人たちは前世の行いが悪かった

●離れる時に、母親からあなたは絶対幸せになれない。サタンがついたとなじられた。

●悪い出来事は全て自分の宿業。良い出来事は全て功德。信心していれば全て思い通りになる。ならないのは自分の祈りが足りないから教団を辞めた人物は全員敵であり地獄へ落ちる。

●邪宗を信じる者は地獄に落ちる

●信心があったから事故がこれで済んだ。お看経すれば助かる。

●車の事故を起こしたときに、母親から「生命の真相」のテープを流していなかったからだと言われた。

●私はその宗教をまったく信仰しておらず父親とその親●兄弟含めた一族のみの信仰である。ゆえに、私は高校生くらいから法事やその種の集まりに全く参加しなくなった。そのときに、そういう不信心だとばちが当たるといふことを言われた。

●教えに背くとバチが当たる 信じて行を行えば功德がある

●脱会したら親子の縁を切るよ、と母親に言われた

●受験に失敗した時、それも神様のお導きです と説教？された

●優生思想に基づく事柄が多かったと思う。反抗的な子供だったため、放逐されかけたり社会が思うような手間や金をかけてもらった覚えはないし、子供時代は地獄だった。まるで、江戸時代のように路頭に迷った拳句往来で死ぬ、と言われていたような日々。「お前のせいでオレは金がないんだ」が強烈だった。

●この信心に出会うことができたことはとても尊いことだ。

●母から、活動さえしていれば気立のいい娘に育てて仕上がる。活動さえ一生懸命していれば全てうまくいく。

●「サタンの音楽ばかり聴くから鬱になんかなるのよ」／長老夫人から 「ママが宗教にハマったのもお前が産まれたからやるが！」／未信者の父から 「全部神のお陰であって、アンタ自身がやり遂げたことなんか何一つないやろ」／信者である母から

●祖母が一番信心があつかったので、私の受験や海

外渡航の際に「無事をおやさま(神様)にお願いしといたからな」と言ってくれた

●君には魔が入っている

●母曰く。アンタが腹に入った時にアタシが入信したお陰でアンタは福子（フクシ）なんだから感謝しろ。

●がんばってますね！励まされます！

"否定的

「あいつ、やばいらしいで（現在活動をせず、退転（退会）しそうな状態のこと）」

「〇〇さん今、未活らしい（活動していない人を未活と他称する）」「えーあんなに学生部のとき頑張ってたのになあ」

こういった言葉はその時はなによりも不名誉な言葉として響き、おそろしく思ったのを覚えています。

「ちょっとあの人信心おかしいから」

「先生中心じゃない祈りだね」

（不幸をきいたあと）「あの人信心おかしかったもんなあ」

こういったセリフは、何か人格の根底を否定されるような気がしてこれだけは言われるとおしまいた、言われないようにしないとなあと思っていました。言われている人を聞いた時は「どうしてなの？」「なんでなんで？」と理由を聞いたものです。

●「幸せになりなさい」と「人の不幸の上に自分の幸福を築いてはならない」らへんはよく残っています。

●全体的に強制的な所はないが、教団のおみくじには必ず「しっかり信仰しなければならぬ」といった文言がある。

●個人的に選民思想や信者は特別であると言った思想を刷り込まれることはほとんどないが、ミサ（礼拝）の中の台詞に「神に選ばれたものは幸い」などといった選民思想的な言葉がさりげなく散りばめられている他、罪、現在、サタンなど、恐怖によって支配されるような恐怖政治的思想を強く感じた。

●薬は毒なので、薬はもちろんワクチンは接種してはいけない。漢方も摂取してはならない。（信者の中でも私の母が特別原理主義なだけかもしれません。）

●わたしはずつと否定的な立場だったため、言い回しとしては失敗はすべて私の不信心のせい、成功はすべて母の信心のおかげというものでした。

●私が結婚する際、某宗教団体信者との結婚は認めないと言われました。それ以外の制限は一切ありませんでした。私の妻は対象外でした。

●この信仰を辞めると地獄行き。  
●中学の時教団の活動を避けていたら、担当の青年部の男性から地獄に落ちると言われた。最終的にそれが拒絶する理由になった。  
●あんたは特別な子で先生の弟子だから、信心していればどんな願いでも叶う！  
●だから今回上手くいかなかったのは反抗して活動や読経唱題をにしないから。親に逆らっていること聞かないから幸せになれないの。あんたのことはお母さんが一番わかってるんだからということ聞きなさい。  
●教会から離れていた時に、『この世的になってる』とビショップ(教会長)に言われたこと。性被害にあった時に、母親から『お前の命より大事な純潔を…！なぜ抵抗しなかった』と言われたこと。信仰がないことを父に言ったら、『お前はうちの子供じゃない』と言われたこと。他にも腐るほどあります。  
●私の信仰では、苦行や暴力や、本人の意思に反した活動参加はありません。納得が大事です。  
チキさんは宗教差別が前提ですか？と思う質問の内容では、と苦言したいです。  
●先祖は大事  
●「生理中の女は汚い」「この神さんを継がなければ不幸になる（…というような事を手を替え品を替え執拗に言われた）」  
●「日本で一番優秀な大学は教団の大学」と言われて、それは世の中の常識とは違うと思いました。  
●いいことがあればすべてそれは信心のおかげで、悪いことがあればそれはあなたの宿業だと言われ、自分自身の実力や努力などを評価してもらった記憶はありません。現在自宅を所有していますが、それが実現したのもわたしの努力ではなく「功德」であると、面と向かって言われ鼻で笑われたときは絶句でした。  
●21世紀の日本と世界平和を頼むよ。  
●教会へ行くと偉い、行かないのは罪深い。寄付をすると偉い、神はどこでも見てるから隠し事はできない、全てばれる。  
●守護霊がいつも自分を見ていて、悪いことをしていると地獄に落ちると言われて育ったことがストレスだった。  
●病気になったのは先祖の供養ができていないから  
●他人を変えることは難しいが、自分を変えることはできる。  
●あなたは(私のみならず全ての人は)神に愛され守られている、大切な存在だ、ということを繰り返言われてきたように思います。自分を大切に思えることで、

周りの人のことも大切に思うことができるように、難しいことですが積み重ねられてきたと思います。

●全ては神のみこころ。  
●この教会は唯一無二の教会で、この世の教会は全て間違ってる  
●父が事故で亡くなった際に、亡くなったのは教団を辞めて別の宗教へ行ったせいだと叔母達から言われました。  
●信仰を辞めないなら母を殺すと言われても信仰を選びなさいと5歳頃母から言われた  
●集会に行きたくないとごねると泣かれる  
●教義が自分に起こる出来事は過去世からの因縁や自分の過去の行動に原因があるというものだったので、長年そう聞かされて育ちました。いつしか何事もあの時の自分のあの行動がいけなかったのでは、あの時こうしなかったから、というような常に自分の行動を罰するような癖がついてしまい、それに苦しんでいます。  
●恋愛に主体的に動くとはサタンにそそのかされている、短いスカートや身を着飾ることは神様が悲しまれる、教会に行かないことは罪  
●否定的：婦人部は活動しやすいようにパートか非正規雇用で働いた方がいい、婦人部が信心を頑張らないと家庭を守れない  
●受験が成功した際「お母さんが生まれる前に読経をして徳を積んだから」と言われた／宗教を抜けたら縁を切るのかという質問について「多分切らないと思う」と非常に曖昧な返事をされた  
●他宗教の「害毒」(「〇〇教だから、△△を煩う」といった類い)、恋愛や結婚相手が信者でないと将来の不幸が決まっているような扱い／素性を大して知らなくても、信者であれば太鼓判を捺すような扱い  
●母の病気は脱会後の私と、元々未信者だった父のせいだ(特に同じ信者の母の姉妹から)  
●サタン、死ぬ、バカ、地獄へ墮ちろ、単細胞  
●母からテスト結果について全て読経唱題を頑張ったからだと、勉強を頑張ったことは褒められなかった(その方が喜ぶと思っていたし、勉強のことは褒めたつもりだったんだと思います)。喘息の発作で救急外来から帰ってきた後でも、母は読経唱題しないと寝てはダメと言いました。(どれくらい息苦しいか喘息の症状をよく理解していなかったのだらうとは思いますが)  
●教義に反することをすれば、楽園で復活できないと言われました。  
●親に従順と毎日言われ、従うのが当たり前だと思っていた。

●祈ったら変わる

●ここに当てはまる解答ではないかもしれないが、子どもの頃に聞いた「レイプされそうになった女性が相手を殺した。それを咎めない」という話を今でも覚えている。

●あなたの悪縁を断つためにお母さんは頑張っている、あなたのたねにやっている

●姉に財布から金を盗み取られていた時期、そのことについて相談したら、きちんと管理するようにと私が責められた。また、自傷行為が止められなかったときも、同じ人に信心が足りないからだと言われた。自室の鞆に入れた財布の中の金をこれ以上どう管理すればいいのか、被害者であり疲弊している私への歩み寄りや寄り添いの態度は1度として感じられなかった。

●自分が変われば環境が変わる

●教団幹部（巡回監督）に大学進学について相談したところ、間髪を入れずに、すぐに終わり（ハルマゲドン）が来るから無駄だと言われた。後ほど、その発言を撤回し、家族とよく相談して決めるようにと言われた。

●何かを為すと必ず「信心のおかげ」と言われる

●学校でいじめを受けたことを親に話した時、「あなたに悪いところがあるから、神様がその子たちを使って教えてくれている」「祈りが足りないからそういうことになる」と言われた

Q25 Q24で「1」～「7」のいずれかを選択した方にうかがいます。あなたが受けた「行事参加への強要」はどのような内容で、あなたはその時どう思ったかを、可能な範囲で教えてください。無回答も可能です。

- 強制的に連れて行かれ最悪だった
- 家庭内不和がよくなればと思い参加していた
- 教団イベントの参加。予定が入っていてもそれは予定でしかなくて、確定してないのだから断りなさいと言われた。そうして週末が潰れるので、友人と遊ぶ機会を失うことになった。それを訴えると友人を導きなさいと言われた
- 「参加しないのは不信心だ、家がダメになる」と言っていて、火渡りや登山、滝行、神社への参拝などに行事に連れて行かれた。時には学校行事や友だちとの予定をキャンセルするように言われた。
- 礼拝日や祝祭日に教会本部に訪れて礼拝すること
- 行きたくないが、後でなんやかんや言われる方が面倒くさいから行っておこうと思っていた。そして、行かなかったら不幸なことが起こったときに自分を責めてしまうと思ったから参加していた。
- 元旦の式。数ヶ月に1回ある集会のようなもの。行くか行かないかと選ばせてもらったことはなかったと思う。家族のお出かけとして行くのが当然。
- "集会と呼ばれる同じ地域内の信者同士の集会の参加。
- 東京の大きな会場で行われる集会の同時中継の参加。
- 年始の集会。
- 承認試験への参加。"
- 同年代の子どもと遊ぶ感覚だったので、楽しかった記憶がある。
- 月に一度の集会、年に一度の霊山登頂(白い装束を着、読経しながら山を登るといふもの)、には物心つく前から参加させられており、中高生になった頃にはそれに加えて学生向けの集会、イベント、林間学校さいたまスーパーアリーナで行われた教団イベントへのスタッフ動員等。当時はそれが当たり前だと思っていた。
- どんなに嫌だと言っても、「どれだけ逃げても逃げられない。私は諦めたのだからあなたもやりなさい」と信者の方に言われた。アポ無しで自宅に訪問し、何かしらの行事への参加を、こちらが折れるまでとにかくあの手この手で誘い出そうとしてきた。
- 週に2回の集まりへの定例参加。産まれた頃からの習慣だったので特に意識しなかった。

- 集会への参加、大会への参加、集会で行われる発表への参加等。もちろん嫌であったが、自分より小さい子が集会で静かにできなくて、別室でお尻を叩かれ泣き叫ぶのが、その子の気持ちになって辛かった。
- 集合してお経を唱える。みんなくーい顔してる。
- しつこく誘われるのが面倒くさくて来たけど、月並祭なんて興味もないし信者の人がみんないい人そうに接してくるのが気持ち悪い
- 集会への参加
- 海外宣教への参加。本当は行きたくなかったが、親の信仰の結実であると諭されて、泣く泣く参加した。「聖酒式」への参加や誓約書への署名を懇願された。その時は既に洗脳が解けており、どういう意味をもつか理解していたので断固として断った。こんなことで揉めたくないと思い悲しかった。自民党議員候補者の後援会に勝手に入会されていた。個人的にも推したくない人だったので、非常に嫌な気持ちだった。
- 地域の集会などがほとんど。小規模のものから大規模なものまで。大規模なものについては長時間に及ぶので苦痛でした。教団に対する批判者を罵倒する言葉を聞くことも多く、世界平和を訴えているのに疑問に思うことも多々ありました。
- 説法会、集中修行、イニシエーション、奉仕活動、休みの日教団に通い修行や教学。過酷な修行は出たくなかった。毎週教団に通いたくなかった。行かないでサボると、あなたのためなのに何で来なかったのかと親に怒鳴られる。出家修行者に問い詰められる。
- 正月元旦の朝から教団のホールに集まって読経会をする。
- 3世だったので、学校へ行くことに疑問を感じないように、集会に行くことは私にとっての日常で、教理も信じていた。
- 毎週ではないけど教会に連れて行かれて、イベントのたびに足を運ぶのも普通だった。
- 読経会、集会、法要 小学校低学年の頃までは、親と一緒にいたい一心で参加していた。小学校高学年以降は、近所の信者の誘いが執拗で、断っても玄関先でこちらを説き伏せようと粘って帰らないため、断りきれず仕方なく参加していた。1回2時間の集会在週2回、1回1時間の集会在週1回。その他、街頭での布教活動。定例集会以外の「大会」と呼ばれるもの。年次の行事等々、物心つく前で当たり前のように行事に連れられていた。行事というか、帰省時に仏壇の前で唱える念仏が、仏教本来のものではなさそうで、その新興宗教由来のものだった。子どもへの教育の一環で、



唱えさせられていた。強要というほどでもない。

●週1~2回の青年隊活動への参加、月1回の式典参加、年4回程の総本山での式典参加や奉仕活動(宿泊)、年2回程の青年隊修練会への参加(宿泊)など。どれも嫌々参加していましたが、特に修練会は炎天下での長時間の教練(集団行動のようなもの)や正座での講義が嫌でたまりませんでした。ただ、やはり同年代の信者が全国から集まるので、熱心な子や場の雰囲気感化されて信仰心が高まることはあったと思います。

●強要というよりは幼き頃から自然と母親に連れられて行事に参加していた。中学以降は、信者に誘われるなどして、母親もしくは1人で信者とともに遠方の合宿や大会などにも参加した。当時、中学時代は、不登校でもあったので母子ともに心の拠り所だったのかも知れない。

●毎年夏と秋に行われる地域大会への出席。普段は70名前後の信者で小規模で集まっているが、夏と秋に大ホールを借りて数千人規模のイベントを行う。特に何も思わなかった。

●日曜に友達と遊びたく、礼拝に行きたくなかったが、毎週日曜に連れて行かれた。

●日曜日の礼拝。ただ、自主的に行ったわけではないが、強要でもなかった。礼拝に行くと同世代の友だちと遊べるため、嫌々ばかりではなく、むしろ楽しかったと思う。

●定期的な会合(自宅が拠点でもあり強制参加させられた)

●集会や少年部への参加。なぜこんな家に生まれたのだろうかと思った。

●懇談会、唱題会、同時中継(会館での)、未来部の会合的なものへ参加させられた。内容の意味がわからず、ただただ退屈な時間で苦痛だった。

●集会と呼ばれる集会など。小さい頃は疑問なく参加していたが、徐々に苦痛になっていった。

●週3回の集会。伝道活動。年に2回の巡回大会、年に1回の地域大会(大きな集会)。嫌だったが連れて行かれた。巡回大会は土日であり、土曜は学校を休まされた。

●毎週のように開かれる会合への参加。あまり行きたくはなかったが、親に反発できず、仕方なく行っていた。

●毎日18時のお祈り なぜ、どんな神様にお祈りしているのかも分からず、習慣としておこなっていました。

●日曜の礼拝だけでなく、教団が指定する祝祭日や研

修会にも親に教会に連れられていた。物心つく前からそうだったので、あまり違和感がなかった。

●地域単位での集会への参加強要。しだいに面倒臭いと感じるようになっていった。

●夏休みに3~4日間、冬に2日間、春に1日、「大会」と呼ばれる教義を学ぶ集まりに朝から夕方まで参加しなければならなかった(開催場所は川崎競馬場、横浜アリーナ、海老名の教団大会ホールなどだった)。たまにしか会えない信者の友達に会えるのはうれしかったが、夏は期間が長すぎて飽きたし、土曜日開催の場合は学校を休まなければならなかったのが嫌だった。

●新年読経会(毎年1月1日に、各地域にある教団の会館で、信者たちが同じ場所で読経をする行事。初詣みたいなノリでやっている)…子どもの頃は面倒くさいから嫌だった。年を重ねるごとに、仕方がないことだと割り切るようになった。コロナ以降は行われていない。

●家での読経…面倒くさいし、子どもの頃はトイレに行ったフリをして誤魔化したりした。一人暮らしを始めて実家に帰ったときにも、声かけはされるが、親も私が信心に対して積極的ではないことを理解しているのか、参加しなくても何も言われなくなり、少し安心している。

●集会(月に一度行われる集会。活動についてのビデオや、政党のPRビデオを流したり、信者の活動報告(信心することでこんな良いことがあった、とか、最近こんなことがあったが、信心で乗り換えたい、というような話を発表する)が行われる)…参加すると帰り際にお菓子が貰えるからいいや、くらいの気持ちで参加していた。集会中はゲームやカード遊びをしても怒られないので、小学生くらいまでは遊んでいた。高校以降は部活で忙しくなり、強制されなくなった。

●同時中継の会合(本部で行われた会合の映像を、各地域の教団の会館に中継してそれを見る行事)…つまらないし興味がないので嫌だった。小学生までは会合中、同い年くらいの子と遊んだり、隠れてゲームをやっていた。親はそれに対して怒るわけでもなかったもので、だったら行ってもいいか、くらいの気持ちだった。中学以降はちゃんと聞かなきゃいけないような親の視線があったので、仕方なくついて行って、早く終わらないかな、という気持ちで参加していた。

●財務(毎年一回、1万円以上の額を教団に振り込むことが行われている。財務をすると福運が上がる、とか言われる)…毎年1万円を出しているが、正直良いとは思っていない。地域の信者からお願いされる度に

嫌な気持ちになる。親からもお願いされる。毎年お金を出しているのは、親との関係性を拗らせたくないという理由が強い。経済的に余裕がないときは、出したフリをして報告していた。地域の信者から親に伝えられることはなかったの、これからはこれでもいいのでは？と思ったこともあったが、子どもの頃から刷り込まれた信仰に対する良心の呵責があり、もういいや、という気持ちで払っている。

●毎週日曜の教会。行きたくないのに連れていかれるけれど自分は教会に入れる格好ではないので、両親にひとり車の中に6時間以上放置され、暑かったり寒かったりしてひどく苦痛だった。日曜日に遊びに誘われても行けないのが嫌だった、なんでと言われて教会と言うのも嫌だった。

●集会や奉仕への参加

●会合への出席、長時間の読経会など。小さい時は当たり前過ぎて何も思わなかった。中学生くらいから自分の時間や友人と過ごすほうが良くなり、大きな会合に行くくらいになっていた。退屈だし足は痺れるし、早く時間が経って欲しかった。

●父は反対している環境で修練会の参加はしんどかった。友達の家泊ると嘘をついて毎年夏と冬に参加していた。虫がたくさんいる人気のない山奥に連れていかれ、厳しいし楽しくないし辛かった。

●物心つく前は分からないが、物心ついた頃には、なんで楽しくもない集まりに親が行くから自分まで一緒に連れて行かされるのか理解できなかった。親のやりたい事(信仰)に道連れされて、子供には永遠に感じる正座と読経、おじさんおばさんのなにかあった話を涙ながらに語って拍手して、士気を高め合ってる姿は滑稽で小学生の頃には苦痛でしかなかった。

●週3回の集会。伝道活動。それらのための教団の出版物の勉強。したくないと思っていた。

●私の家は教会なので、小学生5年生までは我が家の行事として当たり前のように受け入れていました。思春期に入り、自分の家が教会で父が教会長であることを他者に説明するのが難しく、そして恥ずかしく感じるようになり部活動などを理由に行事に参加しなくて済むようにしていました。

●毎週日曜奉仕活動/集会/兄弟姉妹との交流

●冬期早朝に開かれる最寄りの支部の集会参加。日曜日に開かれる最寄りの支部の集会参加。日曜日に開かれる東京本部の集会参加。感想：保護者であるため反抗●拒否できないが、親の中では私の意志で行っていることになっており、非常に腹立たしかった。

●教祖の法話、職員の講話、研修、祈願。特に何とも思っていなかったが、思春期以降は行きたくないと思うようになった。

●月1回程度会館で行われる同時中継への参加、集会への参加、夏休みの作文コンクール●絵画コンクール

●英語スピーチコンテストへの参加など

●地域の信者さんらの会合だったり、新年読経会など。子どもの時は親の言うことだし、当たり前だと思って従っていた。大人になって信仰心についても自分の考え方を持つようになった後も、親から「参加してくれ」とお願いされることには、はっきりNOとは言えない状態が今も続いている。

●日曜日の朝はゆっくり寝たいから、眠たい時は嫌だった(次第に出なくなった)

●名づけから七五三から何から行事として用意されているので、生まれた瞬間から連れて行かれています。また、祖母、のちに母がグループのリーダーだったので、月に一回私の家で集会があり、20人くらい大人が来るので参加せざるを得ない状況でした。たくさんの人の前で教えを肯定する発言をするとちやほやされて、ご機嫌取りのための発言を、自分でもいいことかどうか分からないまま繰り返していました。小学生になってからは施設で月に一回は連れて行かれて、その他に早朝の掃除や施設での奉仕活動、霊的な修行に頻繁に行かされました。長期休みは数日連続で会合に行かされました。頼み方は怒るのではなく、しつこくなじるような頼み方で、私は心の底では行きたくなかったけれど、行かないと親がヒステリックになることが日頃の言動から想像できたので、親に対する同情の気持ちと、子ども故に善悪の分別がつかない不安定な判断力のなかで、言われるままに行っていたという感じでした。今思うとゾッとするほど嫌でした。当時は気づかなかったけれど。

●体育、運動会などで「戦い」「争い」となる競技への不参加

●0歳児で幼児洗礼、幼稚園から高校までカトリックのミッションスクール、小学校では毎週平日放課後に教会学校、中学～高校では夏休みに学校行事で信者合宿等。

●毎週水曜夜に集まりがありました。小学生の頃は見たいテレビもあるし、道場に行っても楽しくないし行きたくなくて泣いていましたが、母親に引っ張って連れて行かされていました。今考えるとおかしいと思います。

●幼小は土日に必ず説法を聞くために、たまにある学

校や行事を休まされていた。なぜ参加できないかを説明するのがつらかった覚えがある。社会人になってからは一切参加していなかったが、祖母の米寿を祝うからと呼ばれて帰省したら、結婚した夫と子供も全員報恩講に騙し討ちで参加させられた。会での親の仕事の手伝いもさせられ、信者には「孝行な娘さんね」と言われ、最悪の1日を過ごした。

●行きたくなかった。

●研修、法話、決起大会的なもの、学生交流会的なもの(いずれも日帰り。泊まり込み両方あり)

●両親共に信者だったので、夜の集会等に連れてかれていた。子供だったのでそういうものだと思っていた。引っ越した後自宅が会場だったので、子供向けの会には全参加だった。小学校のクラスメートが参加したりして少し面白いけど面倒だった。中学に上がると自宅外での中学生用会合？と呼ばれたが長時間の読経や教義の試験勉強などさせられていやになったので用事を入れて参加しなくなった。元旦の大規模会合？や他の大規模会合に家族全員連れてかれていた。長時間読経と大人がよく分からない熱の入った話を正座で聞かされていやだった。思春期になると教義に納得できなくて不快感が増したので、遊びの予定などいれて参加をさけるようにした。

●鼓笛隊、宿泊修行、募金ボランティア

●会合への出席、めんどくさく、不信感をもっていた自分は行きたくなかった

●小さい頃は疑問に思わなかったが、10歳ぐらいから違和感を感じていた

●幼い頃は会合には必ず連れて行かれていた、小学生以降になると、子供らが参加する勉強会？のようなものにも参加するよう強要された。わたしは小学生くらいから、違和感を感じており、そういったものへは極力参加しない、したくないという意味表示をしていたので次第に強要はされなくなった。

●寒修行 団体参拝等 苦痛だった

●信徒が集まってお経を読んだり、早朝ご奉仕という掃除を行っていました。それ自体は面倒であり好きではないというくらいでしたが、信徒でない父には内緒だったのでそれで家族間が嫌な空気になることが辛かったです。

●主に会合等の参加

●朝晩の読経

●面倒臭い、行きたくない、やりたくない、

●でもやらないと怒られるから、率先してやると言ってしまうて、また落ち込む。

●週末、道場に行き集会に参加する。お経を読んだり、霊能者と呼ばれる人に悩み相談したり、生活のアドバイスを助言してもらう。冬は寒修行と呼ばれる集会があり、地区の役員？みたいな人の家に早朝と夕方に集まりお経を読む。祖母、祖母の妹、祖母の長男(母の兄)が熱心な信者だったが、母や父が反対していたため、私が連れて行かれた。私も参加しているうちに、「一緒懸命にお経を読むと心がスッキリする。」「みんなが、この教えを守ると、みんなが幸せになれる」など思うようになった。私が自ら行事に参加したいと言いつつ出た頃に、母が私を止めて、熱心な身内と関係が悪くなった。

●日曜の礼拝への参加。消極的な私に対し父は、「日曜学校にはお坊ちゃんやイケメンがいるから婚活もうまくいくよ」とまで言われた。

●それが当然と思っていた。

●伝道、集会、大会は必ず出なければならないと教えられましたが、仕事もしなくちゃ食べていけないでしょうと思いました

●強要というよりは、行くのが当たり前という感じだった。義務教育と同じような扱い。

●気は進まなかったけど昔からの友達もいたし、行けば楽しい時もあったので渋々行っていた

●本部へのお参りと、支部の講習？参加。親の機嫌とり、まわりみんな貧乏人しかいないな、めんどくさいと思っていた

●幼い頃から毎月1回の地方会館で勉強会、半年~年1回の本部での勉強会でどちらも主に自分の心のあり方を学ぶ内容でした。当時は出かける事が楽しかったので内容については深く考えておらず、成長するにつれても私が出席することで親が喜ぶから参加するといった感覚でした。成人してからは同世代の人たちが集まり会館に中継を繋ぎ、意見交換や活動内容報告などに耳を傾けるプログラムに参加してみました。相手と自分の熱量というか信仰心？に大きな差があることを実感したので一度きりでその後辞退しました。

●同じ地域に住む信者の集まり

●礼拝とか修練会。普通に受け入れていたっす

●年3回ある大規模な集まりには必ず連れて行かれた。小学校の頃にそれと運動会がかぶった時は運動会を欠席する事を選ばされた(選択権なし)「必ず参加しなければいけないもの」と思い込まされていた。

●幼い頃は何も疑問に思わず、毎週の集会(地区の信者が開く毎週の定例集会みたいなもの)へ参加するように言われても素直について行っていた。それが「当た

り前」の日常だったので、小さな頃は強要だと感じなかった。中学生以降は教義への疑問や不満や不信が膨れ上がり参加が苦痛になっていたが、何度も訪問してくる信者のしつこさや、親からの期待を裏切れずに参加していた。

●絶対に信者として生きるのは嫌だと思った。宗教とは生きる上で迷った時に参考にするもの、心の支えとして考えて生きてゆけるにするものであるのに対し、考える力を奪い生活の豊かさ(お金、時間)を拘束するのはカルトだ。またいつ世間を揺るがすような大変な事件を起こすか分からない。同類にされたくない。

●特に何も思わないが、周りの友達に知られなくなかった

●教団の本部に連れて行かれ、信者と交流させられました。手かざしによる健康改善を教義としている宗教です。医師、看護師などの医療関係者が入信している、教えには根拠があると語られ、違和感を持ちました。

●週3回(当時は火曜日夜、木曜日夜、日曜日朝)の集会、年3回(当時は特別一日大会(1日間)、巡回大会(2日間)、地域大会(3日間))の大会、年1回の主の記念式への参加強要がありました。その他奉仕活動として学生時代は週末や祝祭日の宣教活動への参加強要もありました。

●赤ちゃんの頃から行っていたので行かないという選択肢がなかった。学校の行事や部活の大会があれば行かずに済んだがただ行きたくないという理由では行かないことは許されなかった。行きたくない時もあったが父と母を悲しませたくなく、実家にいるときはしぶしぶ行っていた。

●幼少期は分からなかった。小学生になり、物心ついた頃から疑問を抱くようになった。

●日曜日の午前中は朝8時にはなにがあるかと絶対家族で教会にいかななくてはいけない!友達との用事も断りなさい。というイメージが残っている。近所の神社のお祭りもだめと言われ、友達と行きたかったなという思い出がある。

●集会への参加、行くべきものだと思った。

●日曜学校への参加、日曜礼拝への参加

●毎週3回の「集会」、夏と冬の「大会」、年に1度の「記念式」出席。たいくつでくだらないと思っていた。

●集会やイベントへの参加。あまり乗り気ではなかったですが、行かないと悪い事をしている様な気持ちにさせられる。

●集会で読み物を読まされたり、歌を歌った(強要というほど強く拘束されたわけではなかった)

●毎日早朝集会、定期的な夜の集会、日中は決まった時間に団体の本?冊子のようなものを読み、感謝を唱える

●大きな施設で行われる衛星中継は静かにしていなければいけない事が多くつまらなかった。

●個人宅で行われる会合では、同じ年代の子と遊ぶことがあったり沢山の漫画を集めている子の家へ行く事は楽しかった。でも、特に信仰心が無いのに今年目標等を言わなければなら無いのは嫌だった。

●強要というほどではないかもしれないが、地域ごとの地区部会、年齢●性別ごとに分かれた組織の部会、月に一回の本部幹部会にはほぼ出席していた。生まれた時から入信していたので、活動があるのが当たり前環境で育ち、活動への参加になんら疑問を持たなかった。ただし、入信するか否か、活動するか否かの選択すら与えられていなかった状況は、今から考えると家族関係を盾にした強要に近いものだったと感じる。

●毎月の幹部会、集会、新年行事など。退屈で行きたくなく感想を強要されるのも嫌だったが、叱られるだけだし、家族全員で車に乗って行くので拒否できなかった。友達や知り合いと話ができるのだけは楽しかった。

●仏の誕生日、正月、お盆前後、その他月数回の会合

●火曜夜7時から1時間●木曜夜7時から1時間半

●日曜午前9時から2時間の週3回の集会

土曜日の午後1時から4時までの伝道。また時折ホールで行われる大会に泊りがけで行ったりした。どれも長時間無駄なことさせられるのが苦痛でとても嫌だった。

●小学校低学年：理事長夫妻の歓迎会。屋外に大勢が集まって夫妻が順番に挨拶、握手していた。周囲の大人の態度から偉い立場の人だと思った。テレビで観る皇室の園遊会と同じような形式、印象。特にファンティックな印象はない。/小学校高学年：研修所での1泊2日の合宿。大学生くらいのボランティア数十人と、同年代の子ども数十人が集まって屋内外で遊んだり、道徳に関するセミナーを受けた。他の講師に混じって、父親が講師をした回があった。特に有効な資格や専門があるわけではないのに、なぜ授業を受け持つのだろうと不思議に思った。夜に大学生と子ども達が暗い部屋に集まり、ろうそく1本の明かりで語り合うイベントがあった。それぞれの自分の体験や思いを静かな環境で吐露し合うという意図があったと思う。当日初めて会う同士にも関わらず、一飛びに心理的な距離感を近づけようとすることに違和感を持った。

●誕生日会の不参加などなぜ自分の誕生日を祝う事が駄目なのか詳しい理由は知らなかったです。

●時間の無駄、金の無駄。

●従順だったので強要まで行くことがなかったが、一度なんだったかで名前を書けと言われて嫌がったことがある。相手が親で、悲しそうな顔をされたので書いたが、ひどく嫌だったことは覚えてる。基本的に親の望むとおりにしないといけないという強迫観念が強かったため、逆らうという発想はあんまりなかった。

●地域の信者での集まり、読経会に連れてかれた。地域の子もたちの読経会に連れてかれた。優しくしてくれる人もいたけど基本的にはつまらないしお経を正座して読むのがしんどかった。他人の家に集まるが貧乏くさい人が多いと思った。

●信者の子ども達が集まる集会で、読経や子ども向け新聞などを読まされた。子ども同士の集まりなので、楽しいこともあったが、あまり行きたくはなかった。

●新年教会への祈祷。一年の始まりの日に信仰心がないのに祈らされ時間と、献金の後悔。

"教団の信仰を軽んじたり、つまり奉仕や集会に参加しないなら、死ぬと言われた。体罰が酷くて殺されそうになった事も何度もある。いつもハルマゲドンへの恐怖に縛られていた。

包丁を持っている姿を想像する様に言われ、殺してでも連れて行くと言われた。"

地域単位で行われる会合、地区単位での会合、部単位での行事、年始の集会。ですが、中学以降は強要されても、年始以外はほとんど参加しませんでした。

●集会、勉強会、なんとか大会みたいなものだったと思います。積極的になってた時もありましたが、めんどくさいとも思っていました。

"末就学児～小学校までは教団に行くと、近所の信者さんの家に毎週夜に複数集まり、教団の歌「さあ、夜明けだ飛び出そう…勇気あるきみよ輝け！」と言うような歌詞を強制的に毎回脳に焼き付くくらい歌わされた。小さい頃は割とその歌が好きで歌っていたが、年齢を重ねるといい大人がみんなで歌うのが気持ち悪くて、でも態度が悪いと親に怒られるので無理に合わせて歌ったり、口パクでその場をやり過ごしたりしていた。

●読経をするために正座をしていると男の人が毎回太ももからふくらはぎのあたりを触ってきたが、周りの大人は特に注意してくれなかった。その時は気持ち悪いなど思っていて、母に伝えただけ何もしてくれず、周りの大人も特に何もしてくれず、ひたすら読経をみんなですしていた。

●小学校高学年あたりくらいから、毎週夜の集まりには出なくなったが、中学校あたりまで教団の新年会はいつも無理やり連れて行かれた。新年会は午前中から昼にかけていつもとは違う教団の大きな会場に連れて行かれ、読経と教団リーダーや教団に関しての報告とバンザイをみんなですしていた。どうして自分が行かなくてはならないのだろうと不快に感じていた。ただ、態度が悪いとやはり親に激怒されるので、黙ってやり過ごすことにしていた。

●学校の友達に教団の話をする「気持ち悪い」と言われた。それと、正月や特殊な行事の時に集まる大きな会場周辺に住む非信者の友達がおり、いつも正月は信者の声でうるさいし不快だとクレームを言われ、学校でも気まずい思いをした。"

●小学生の頃にもう信仰から冷めていたので、興味も無く正直面倒くさいと思いました。でも行かないと親が怒るので戸惑いながら参加したこともあります。他にやりたい事とか遊びたい事があるのに行事に行けと言われるのは嫌でした。

●地域の集会や、会館での会合●会合の同時中継などに参加させられていた。

●地域の集会は顔見知りだけなので、そんなに緊張することもなく、仲のいい人がいる時はそんなに嫌ではなかった。

●会館規模の概ね面倒で退屈だと思っていたけれど、何度かちゃんと信心してみようと思った時は真剣に聞いていたこともある。

●会館でやるような会合で、みんなで「えいえいおー」や万歳三唱などの声出しするのが独裁国家みたいでごく嫌だった。"

●強要にチェックを入れたが特に言葉や態度でというより、子供なので家族が出かけるならついて行くしかなかった。嫌だったけれどどうすることもできない。

●家族全員が礼拝に行く中で、行かない選択肢がなかった。

●個別の家を勧誘のために訪問することを強要された。集会に週3日、大会に年3回出席しなければならず学校を休まされた。

●週に何度か集会所へ行き、手かざし行を行う。事務所などで用事をする際は男女が二人にならないよう厳しく監視された。勉強会に参加してノートをとったり、集団ミーティングで悩みの告白などをした。同世代の男子はおらず、退屈だった。数ヶ月に一度ある、総本山へのお参りに、信者であった母と行った。夜行バスで移動し、翌日参拝、セレモニーを見て、夜行バスで

帰る。金色に飾られた巨大な建造物、ステージの下部に設置された水槽が記憶に強く残る。献金の額などは詳しく知らされていなかったが、のちに離婚する父が、ぼくの大学進学のために貯めていた資金を母が教団に全て喜捨したことに怒鳴った姿をおぼえている。ぼく自身は貧しい子供時代を過ごし、高校を中退して働き始めたのであまり実感はないが、もし母が入信していなければ、違った人生もあったのかなと思う。

●会合と言われるものへの参加。小学生たちで輪になって踊ろうを歌わされた。教団のことをよくわかってなかったし嫌とは思わなかったが楽しくなかった。成長してからはそう言う行事に参加したくないので実家に寄り付かないようにしている。

●小学生の頃は未来部の会合への参加を強制され、楽しくもなく意味が分からなかった。しかし、参加すると親が喜ぶので言いなりになっていた。

●地域の集会に行く。面倒くさいと思った。毎年元旦は、会館に行く。初詣とか行けない

●ご飯を食べに行くと言われて車に乗せられた先はセミナーの集まりだった。最低だと思った。

●年に一度の大事な集会には必ず出席すること。友人と行きたかったコンサートをあきらめざるをえず、悲しかった。

●どうしても嫌というわけではなかったが、正直退屈なのでそんなに行きたくはなかった

●母親から「これだけあなたに尽くしているのだから、出席してくれないのはおかしい。」と言われて渋々出席した記憶がある。

●韓国で開催される教団のイベントに家族で出席。内容はあまり覚えておらず、教祖が登壇していた気がする。当時幼かった私はまだ良くわかっておらず、家族と旅行に来たくらいの感覚だった。

●参加しなければ衣食住を与えない、家から追い出すと脅された。

●とても嫌だったが、母に逆らうことは恐怖

●物心ついたときからゴールデンウィークは八十八ヶ所巡りと滝行で、他の子みたいにレジャーなど楽しい連休を過ごしたかったなと思っていた。

●生まれ育ったところが宗教の教団施設だったので、毎週日曜日に朝5時に起きて行う敬礼式や、施設でおこなっている祈祷式などに物心ついた頃から参加させられていた。

●教団作成のアニメ鑑賞会

●本部で行われる式典には年に数回、支部で行われる式典には月一度行きたくなかったが行っていた。

●出席、大会は欠席すべきではない。欠席することでサタンに誘惑されることになり、いずれはハルマゲドンでの死につながる。

●宗教の集まりへの参加。行かないと体罰

●奉仕という名の布教活動。真夏の野外でもつれ回されていました。"

●もう少しゆるいペースにして欲しかった

●産まれる前から母は信者だったので当然のように服を着替えて出かけるものでした。疑問の持ちようもありませんでした。中学生の頃拒否したら「命がかかっているのに!!!」と泣き叫んで腕を引っ張られ引きずられました。

●週に3回の集会、休みの日の個別伝道、年に3回の大きな集まり

●日曜礼拝、毎日の訓読会、修練会、(合宿)

●大学に入ったら祝福準備として21日間を行なわれる合宿に参加しなければならなかった(21修練会)。21修では参加途中で自らの思考回路を無理やり洗脳されそうな感覚になり、食欲不振や吐き気がしていた。

●物心ついた頃には参加していたので長い期間には強要されたこともあったかと思う。その場合は母親が言葉で何度も促すといった感じだと思う。

●合唱団や、集会。小さい頃は、お菓子が貰えて嬉しいと言う純粋な気持ちでした。今では参加したくないと言うと、母が不機嫌になり何をされるか分からないので、その点はおかしいと思っています。

●生まれた時から宗教の中に居たので行事の参加自体に疑問は無く、普段会わない親戚に会えるとかちょっとした家族旅行のおまけ程度にとらえていたと思います。

●集会、読経会への参加。幼い頃は何も思っていなかったが、物心がつき、平日夜や休日昼間の参加に面倒臭さを感じ、全員で読経をしたり教団トップや日蓮について熱く語っている姿を異様に思っ距離をとった。

●幹部の子供だったので1月2日には教団大学まで行って教団リーダーにご挨拶に行かなければなりませんでした。正月だったし遠いので、行きたくありませんでした。

●教団の子ども会のようなものに連れて行かれた。自分自身に信仰心がなく、楽しいと思えるコミュニティでもなかったため、参加するのが嫌だった。

●行きたくなかった。〇〇連れて行ってあげるから行こうと言われてたり、物で釣られていかれる。

●母親が私のためを思って言ってくれてることだと感

じていたので、内心は嫌だったが表面上は素直に了承していた。

●こういうものだと思っていたので何とも思ってなかった 参加しないといけないと思っていた

●毎週日曜の教会礼拝、毎日の家庭礼拝、各種集会、宿泊を伴う集会

●当時、「集会」と呼ばれる集まりが毎週、平日の夜に2回、日曜日の昼に1回、それぞれ2時間ずつあり、それに参加することは何よりも絶対に優先しなければなりません。そのため、例えば学生のときに部活に参加したりすることは選択の余地なく不可能だったことが非常に辛かった記憶があります。

●会合への参加や宗教内の試験への参加など。ただ「強要」という感じではなく、自分も小さくて親について行くのが当たり前で、他の方も優しかったので、自分でも強要だとは思っていませんでした。

●年末年始の教団の集会

●嫌だったが、当たり前なものだと諦めはあった

●子供の頃はなんの疑いもなく参加していました。中学に上がったタイミングで、部活が忙しくなり距離が遠のいていきました。

●集会への参加。体調不良時にも強制的に連れていかれる。休みたかったが、既に感覚が麻痺していた。

●地域の会合、月一回の幹部会同時中継

●日曜礼拝の参加。

●出席するのが当たり前

●小学生の時はそれが当たり前と思っていたので言われるまま行っていた中学、高校になると学業、部活動が優先だったが、予定がなければ参加していた。

●集会をはじめその他の会合をサボろうものなら口も聞いてくれなくなる（特に母親）

●日々の礼拝や教会での奉仕活動（掃除や料理など雑用）。自分が働いている間、妹（知的障害がある）の付き添いとして母はおしゃべりをしたり休んでいるので嫌だった。

●それが当たり前だと思っていた。嫌だと思っても埃を積んだと思えばそう考える事は罪と思えない様にしていた。

●自宅で友人と遊んでいると母親等が会合を隣の部屋で始める。読経(題目)が始めると、私にはごく当たりの事だったが、友人等が驚いていたのが伺えた。そこからあんまり遊んでくなくなった。

●参加することは当然という認識であり、違和感は覚えていなかった。

●毎週日曜日は集会に行くので、学校行事や体調不良

を訴えない限りは強要される隙もなく同行することになっていた。当たり前だと思っていました。

●強要という言葉は適切ではないかもしれない。ただし、幼い頃から「いい子」だった自分は信心を教えられるなかで、会合に誘われたら行かなくてはいけないものと考えていたし、母からもそう言われていた。行きたくないとはっきり言えば、おそらく「強要」はしなかつたろう。しかし、当時の自分にはその選択肢が思い浮かばなかったように思う。

●毎週ある地域の信者宅での会合、日曜に定期的にある少年少女部、中等部、高等部の会合への参加。新年や定期的にある会館での大きな集会。子供の頃は同年代の子と遊べるので喜んでついて行っていました。中学生以降は内容に疑問ばかり感じるようになり嫌でした。

●月一のお祭りに参加しなさい。自然に受け入れたので、今も行ってる。

●集会、会館での会合

●参加しない選択肢はなかった。嫌だと言えば死ぬほど（本当に死ぬほど）叩かれるし、滅ぼされると脅された。

●夜7時になると教会へお祈りと月に何度か他の教会へ半日かけてお祈りと掃除など。

●小学校低学年では、特に違和感なかったが、高学年、中学生になると疑問を持ち、親が病気になる代わりに行かなくてはならなかった時は、親の顔を立って出たが『何のために』と思っていた。

●嫌だったが、渋々行っていた

●「強要」という言葉に抵抗があるぐらい、ひどい感じではなかったのです。親はやさしく、幼い頃から当たり前のように教会行事に参加していました。物心ついたときから食事のたびにお祈りをする家庭だったので、日曜に教会に行くことは自然。積極的な姿勢を見せたら親は喜ぶし…。小学校に行くようになり、周囲は誰も教会に行っていないし食事のときにお祈りもしないことに気づきます。それでも自分の親は正しい、お祈りはすべきだと、高学年までは何となく思っていました。だんだん疑問が生まれ、中学校で教会に行かなくなっても、表立っては「非難」「制裁」をくわえずに我慢していた親を、今はありがたく思ってますが。

●夏期キャンプ（数日間教会やキャンプ場に寝泊まりしながら、遊んだり長時間礼拝したりする。近隣在住の複数の友好教会の子どもたちが一か所に集められる。友人が「一人では嫌だから絶対一緒にいて」と言われ、いよいよ逃げられないぞと思ったが前日に発熱して回避できたこともある、友人の事は好きだった）。野外礼

拝（地域でも若干名所になっているような規模の大きな公園で大声で賛美歌を歌い、牧師の説教を聞き、お昼のお弁当を頂く。知り合いに見つかったらどうしようと、気が気ではない）。お遊戯会（親はノンクリスチャンだけれど日曜学校を学童がわりに利用している子供をがっちりつかむイベント。ノンクリ家庭の子どもがいい役を貰えることが多い。演目は聖書にでてくる話。文化祭は好きな方だが、仕切る大人がいつもの年齢の割に幼い神経質な面々なのでご機嫌取りがしんどい）。他にも色々あったが大抵は嫌な思い出とのセットである。

●クリスマスの礼拝に出席すること

●さまざまな行事に参加させられていた。参加すると自分の欲しいオモチャを買ってもらえるので、あまり気にしていなかった。

●集会への参加、読経会への参加、とにかく土日は未来部（未成年の信者）の行事参加…  
罵倒、体罰、

●行きたくなかったり、単純に朝起きれなかったなどの理由で参加しないこともありました。そこまで強く強要されたとは思っていません。

●週3回の集会（一回2時間程）。月に10時間程度の奉仕活動（伝導、勧誘活動）。年に数回の大会への参加（集会の大きな規模で行われるもの）。土日でも丸一日で遊びに行く予定は立てれないので遊ぶのは数時間で刻まれるのが悲しかった。

●"未来部"という信者の子供の集まりや正月の読経会に、自然に連れて行かれていました。無理矢理ではないですが、行くか行かないかの選択肢を親が私に示したうえで行っていただけではなく、行くのが当たり前という雰囲気、当時はあまり違和感も持たずに過ごしましたが、年齢があがるにつれて、私は形骸化した集まりに行くことに意味を見いだせなくなり、中学に入ると部活や勉強を理由にして、断るようになりました。

●毎週の礼拝、定期的な儀式への参加

●月一回、少年部という地域の信者の小学生だけの活動があり、教団の子供向けの書籍を読んだり、アニメを見たりしました。お菓子も貰えるので、大半は楽しく活動していました。小学校では軽い？いじめを受けていたので（信仰とは全く関係ない理由です）少年部の活動の方が楽しかったです。

●日曜の集会等。子供の頃は遊びに行けないのを残念に思った。思春期以降は生活の一部と受け入れていたように思う。

●行事参加しないことは不信仰の表れのため許されない。

●毎月の本部幹部会への参加を強制されました。ゴネて、行かないなどと言ってみるとそれはそれは不機嫌になり、私のことを怒鳴りつけ、なじり、と大変な有様になるので断ることはできませんでした。本部幹部会の他にも、大きな大会には参加を強制されました。また、教学試験の一番簡単な課程の勉強会への参加を強制され、合格できると思うから行かないと言ったら母に、「お前は私に恥をかかせることになるんだよ」と言われ、行かざるを得ませんでした。同棲してからは、恋人を盾に断ることができるようになりました("男のもの"と見なされることで行動しやすくなるなんて、よくあることですよ)が、それまでは本当に大変でした。やっと断ることができたとしても、「一生に一度なのに!!」と言われましたが、「一生に一度」なんてもう大会参加の呼びかけで使われすぎていたので、さすがに聞き飽きました(笑)。そうそう、選挙の投票も強制のようなものです。ひとり暮らしをしていた時期に、まだ選挙公報も届いていないうちに教団の人から連絡が来て、「車を出してあげるから投票所に行こう!」と言われました。"普通"だったらあの党に投票するに決まっているのですから、申し出を断るのはあまりにも不自然で、断ったら母に連絡が行くことは十分ありえます。そうなったときのことは、想像したくありません。渋々予定を告げ、嫌々車に乗ったときの私の心境は、「連行」でした。建前だけでも投票の自由を守るなどという考えはないのでしょうか？車中で内心怒りに震えていたため、党以外の候補者の方を名前しか知らないにもかかわらず書いたか、白票を投じたと思うのですがまったく覚えていません。

●週に何回かの集会や宣教活動を強要された。

●小さいうちはそこに参加するのが当たり前だと思っていたから、疑問は無かった。頑張れば褒められたし、褒められる為に頑張った。でも、中学くらいになって、その時間にやっているアニメが見たかったり、ゲーム等やりたい事ができると集会等への参加が嫌になった。それでも反抗すると母親が怒り狂うので、嫌々参加していた。やがてストレスで集会の前は毎回身体に原因不明の痛みが出るようになったが、病院に行く痛みが引くので母親に仮病と思われ、痛みがあっても無理矢理集会に参加させられた。

●月の第一日曜日は教祖のいる所（普通の家）で教団全員参加の集会。お正月も同じように集会。

●特に違和感を抱くことなく受け入れていた



- やらないとご飯食べられない
- 法要への参座や、精舎内でのご奉仕。学生の頃は時間が沢山あり、他にやりたいこともなかったの、特に何も思わず参加していたと思います。
- 教団の新年会や読経、地域の集まりに参加したり自宅を提供していた。行くのが当たり前だったので特に不満はなかった。
- 強要と言うには弱いですが、小さい頃は親が集会などに行く際に一人で家にいるわけにはいかず、こちらの意思以前の問題として連れて行かれていたと思います。小学校高学年の頃には、既に一般家庭は信仰を持っていないことは知っていましたが、だからといって連れて行かれることについては、とくになんとも思っていないませんでした。そこで嫌な思いをすることがほぼなかったり、その場でなにかを強要されることがなかったからではないかと思えます。
- 週5時間以上の勉強、週に2時間の布教、年に6日間の講演会。生まれた時からの習慣なので何とも思わないが、布教は嫌だった。
- 面倒、不信心
- 地域の集会への参加。信仰体験を発表させられることがあり面倒だったし、彼らのノリについて行けず居心地が悪かった。教団本部の合唱団への参加。他の子たちは光栄なことと喜んでおり、会長の前で歌を披露するため喜んで練習に励んでいたが、私は全く乗れなかった。教団創立周年イベントでのマスゲームへの参加。毎週末の練習が面倒だった。本番の後には会長の前で踊れたと周りの子だけでなく親まで感極まって泣いていたが、理解できなかった。「やっと週末解放される」としか思えなかった。
- 教団は「少年少女部員会(小学生)」「中等部員会(中学生)」「高等部員会(高校生)」というものがあり、それに参加していました(1の頃は親が参加する集会に連れて行かれていました)。ものごころついた頃から神様や仏様を信仰する気持ちが全く理解できなかった私は面倒臭いなど思っていました。小学生までは「両親が本気で教団を信じている」ということを信じるのができず「両親や周りの信者は全力でネタをしている」のだと思っていました(大阪だった)。
- 強要というより、物心つく前から参加していて、関西教団中学から一貫教育で大学まで通ったので、普通の日常でした。
- 毎月地域で行われる。集会。
- 正式に入信したわけではなく、勧誘のために母に連れて行かれた。行事の種類は、定期的に居住区単位で

- ある集まりや、年始の集会だった。行かないと、教団や集会のすばらしさと、それを理解しようとする私の頑迷さについて母親がくどくどと語るのを聞くことになるので、心のスイッチを切って参加していた。
- 毎月の信者の会への参加や信者としてのステップアップのための儀式を求められました。強要というよりは、家族行事として当たり前だったので嫌だとも思わず参加していましたが、イヤだと言えば大変なことになっていただろうと思います。
- 毎月教団施設に行って読経→偉い人の説法を聴く→接心(霊能者から個々に教義を受ける)、毎月家庭集会に参加(家庭集会...信者の家に10人程度集まって、読経をし、教えに関するいくつかのテーマについて輪になって話し合う)、早朝奉仕→近所の掃除(ごみ拾いなど)、教団施設の掃除や案内などのボランティア、周年行事への参加(大きな運動施設などを貸し切ってやっていた)、信者同士の交流を深めるスポーツ大会など
- 高校生までの頃は、朝夕の読経と部員会に参加することを促された。自分としても大事なんだろうなと思いい、従った。壮年になってからは、男子部時代の幹部との確執を原因に教団の活動から遠のき、地域の集会への参加を親が呼び掛けても、自分はそれを無視するようになった。
- 毎週3日ある集会への出席
- 日曜日は必ず教会に行く、というもの。ただし、我が家は学校行事などは優先してもよかった(代わりに夜や別の曜日の集会に出ればよい、というもの)で、あまり苦痛には感じなかった。
- 私は嫁いだ立場のため、断る理由がありません。ですが、妹が統合失調症のため万象繰り合わせて都合を合わせるのは骨の折れることでした。義父の満足のために同行しました。自分の時間を搾取されているとか思っておりません。
- 儀式での巫女のような役、行事でのマスコットガールのような役。母に頼み込まれ、母の顔を立てるために引き受けた。母には、引き受けたとしても信仰心はないと伝えた。
- 毎週複数回ある集会と会合、月1や毎週日曜日の集会、音楽隊への入隊と練習(毎週日曜日10時から17時や、終電まで練習など、12歳でも終電まで練習。帰宅は午前1時。)
- 日曜礼拝後の昼食作り、キャンプ、中高生会 強要というか半分自主的。家族で車で行っていたので、朝行けば午後まで帰らないので、ノリで行事に参加している感じ。

●赤ちゃんの頃は夜の集会など、会合に連れ回された。小学生からは少年部委員会に出席を強要されて、行かなければ親の機嫌も悪かった。

●修練会への参加、大会への参加、その他の行事への参加

●集会的なものに参加することは当たり前だと思っていた。

●小学生の頃、日曜日の朝から少年部員会という会が毎週あり、それに行きなさい。と日曜日なのにおこされました。行くと、「偉い人」(教団トップなど)の大事な言葉みたいなのを覚えさせられて、暗記しなくてはならなくて、何も見ないでみんなの前で発表しなくてはいけませんでした。その少年部員会にはクラスの話した事のないような男子がいたりして、わたしは今で言うところのいわゆる発達障害にあたるのではないかとと思うほど本を読む事が苦手で声に出して読むのも本当に苦手でした。したがって、そんな大事な言葉を覚えられるわけがなく、ましてやみんなの前でスピーチのような発表もまったく出来ませんでした。そのような事を完璧に出来る子は偉い子、とされて、場所によって違いはあるかもしれませんが、手作りのメダルのような物をもらっていた気がします。あとその場にいるみんなと大人の人からの大拍手がもらえます。わたしは一度もそのソレができませんでしたので、関西弁で言う「あかんこ」(ダメな子)という粹にはめられていました。学校に行くと話した事もない男子にそのソレを見られたいる。という事がとてもイヤで月曜日が憂鬱でした。今となっては、その程度で？とおもいますが、当時のわたしは、わたしはダメな子なんだなあと、思ったまま大きくなって来ました。今でも、どうせ。という思いが先にあって、新しい場所や、人に会うのが辛い時があります。とりあえずは夫のおかげで生活は出来ているので感謝しています。

●癌になった父方の親族から言われて入信したが雰囲気になじめなかった

●否も応もなく連れていかれた

●月に小さな地域で集まる集会が一度、大きなやつも3ヶ月に一度くらいあった。母親は私がそういうことが嫌なのを知っていたし、強要するタイプではなかったので基本的にはそちらはどちらでもいい感じだった。ただ、正月の三が日くらいに大きい集会があって、それは必ず参加するようになっていた。

●誘いには来るが、強要は一切ない。子供に対しても、断る余地がきちんとあり、はっきり断ったり、部活や用事を優先しても、何もとがめられたりはしなかった。

●小学校低学年の時、夏休みに集団で参拝する行事に参加した。プールや夜のパレードがあり、楽しかった。高学年になり、小学校の他の子は信仰していないことに気付いた。信仰しなくても他の子は毎日健康に楽しく過ごしているのを見て、信仰の必要性を感じられなくなり、拒否するようになった。しかし、拒否すると母親から食事抜き、洗濯を自分だけしてもらえないなどがあったため、仕方なく参加した。

●週3回の集会、布教の為の奉仕活動(友達に見られたくない、恥ずかしい、知らない人の家にいきなり行って思ってもないことを言われるのはしんどい)

●月1の集会、本幹、未来部で集まる会、年1の新年読経会に親に連れられて行った。私は一人っ子で、両親は家に私を1人にはできないので小さい頃から連れられて行った。「行きたくない」と強く抵抗したことはなく、大学進学で家を出るまで、なんとなくあなあな感じで仕方なく出席していた。その時はなにも感じていなかったが、一人暮らしを始めて、もう行事に出なくていいと思った瞬間、嬉しくて嬉しくてしょうがなかったので、たぶん無理をしていたんだと振り返って思う。

●週3回の集会の参加。好きなテレビが見れず学校で話が合わなかった。

●子どもの頃は月一である集会●本部幹部会に加え、未来部(小学生が属するもの)や中等部(中学生が属するもの)、高等部(高校生が属するもの)の活動。小学校高学年からは地域の代表メンバーの一員になり、研修会などの参加。それ以降は学生部(大学生や専門学校生が属する)の集まりへの参加と選挙関係の活動。社会人になってからは女子部での活動の参加。実家を離れていた大学生の頃を除くと、参加したくないことがほとんどだったが参加しないという選択肢は与えられていなかった。(参加したくないというと両親が不機嫌になるので口には出さないか、口にしても冗談として誤魔化していた)

●集会や、大規模な集会、セミナーなど。正直めんどくさいなあと思った。

●月に何度かの会合への出席、団体主催の合唱団への参加

●日曜日は、全て会合に出る事を強要された。友達と遊びに行きたくて、会合を欠席すると教団の人から連絡が親に来て、家に帰ると仏壇の前に座らせられて長時間正座をしながら説教と夕食を食べさせて貰えなかった事も少年部の時は、しばしばありました

●地域単位の勉強会、市町村単位の読経会は小さい頃

から強要という意識もそこまでなく、当然参加するものという位置づけの行事でした。勉強会については親元を離れる高校生までは参加しており、今でも読経会は正月帰省時に参加していますが、読経会に参加するのは家族の輪を乱したくないからだけで、信仰心はありません。

●両親の集会への参加時に、子どもだけ家に残しておく訳にはいかなかったため、自分もついて行く他なかったように感じる。

●半年に一回程度、三日間連続で開かれる大きな集まりに学校を休んで参加させられた。その時はそれが当然と思っていたので特に何も感じなかった。

●毎週ミサに参加するよう言われて日曜日午前に予定を入れてはいけないうえ、友達と遊べない。

●納得して参加した時もあった。日本全体で新興宗教に対して不寛容だったから嫌だと感じることもしばしばあった。

●いつも自主的に参加していたが、思春期の頃面倒に感じたことがあり、その時になんだか「行ったら？」と言われたことがあった。

●集会、同時中継等、面倒くさい

●小学生があつまる「少年部」毎月の「集会」行きたくないから気が重かった

●当たり前の習慣だと思っていた

●法要 奉仕 集会 接心

●定期的に開かれる集会への参加を求められました。私は全く興味は無かったのですが強く断ると両親の機嫌が非常に悪くなるので仕方なく参加していました。

●毎週日曜必ず礼拝に行くこと→「事情により、たまには休んでもいいのではないか」

●全く違和感がなかった（物心ついたときからそうだったので）。

●集会や行事は当然行くものとして予定が組まれており、行きたいかどうかは親からは確認がなく、当分自分もまあ行くものなのかと思っていました。

式典で、お経を読めと言われた。ちょっと面倒くさかったが、お経を読むだけでよく頑張ったと褒められて気分が良かった。

●集会への参加。子どもの頃は当たり前だと思っていたがだんだんいように疑問を持つようになった

●宗教施設への参拝。個人的に暇だし喋ってはいけないうのに何時間も拘束されるのが嫌だった

●月1回くらい日曜に行われる集会に参加すると親から言われた。参加理由を聞いても回答してもらった事はなく拒否すると怒られた。子供心に理不尽は感じて

いた。

●行くのが当たり前だったので強要ではないかもしれないが、行きたくないと言ってもあまり聞いてくれない状況だったと思う

●チェックはいれたが強要かどうか正直わからない。集会に行くということは自然なことだったので。高校に上がるまでは集会に行くことが前提の生活だった。ただいかないと怒られるとか、母の機嫌が悪くなるとか、そういう意味ではいかないといけなかった、と感じざるを得ない状況にあったと思う

●高校生になって行きたくないことを伝えたら、比較的受け入れてくれた感じです。"

●子供の頃はお年玉を行事の参加費としてストックされていました。同じ宗教の友人にその話をしたところ、驚かれました。同じ宗教でも金銭的な余裕の違いがあることをはじめて知りました。両親共に仕事をしていましたが、何故我が家だけ経済的に困窮するのか不思議でした。成人後も祝日や休日に宗教行事があり参加するよう頼まれました。母親から頼まれると断りづらくしづらくは参加していました。結婚後も宗教行事への参加を求める両親と距離をとって欲しい妻との間で難儀しました。今は離婚し両親とも距離をとっているため行事参加を求められることはありませんが、宗教行事に参加して何を得たのかと虚しくなります。

●部活で疲れていても夜の行事に参加したり、友達と遊ぶ約束があっても、約束を断って行事に参加するよう言われた。友達との約束を断ることで、徐々に私だけ仲間はずれにされ、とても辛かった。

●集会への参加、本部幹部会の同時中継を一緒に見に行くなど。家族全員で行くので行くのが当たり前だと思っていた。

●3歳の頃から集会に親と一緒に連れて行かれ、4歳頃から伝道活動にも連れて歩かされていました。子供も年齢に応じて段階を上がっていくよう訓練されるので、未就学の頃からの挙手発言や、小5からは伝道活動で見知らぬ大人に布教もしてきました。緊張や恥ずかしさや不安があっても、努力して出来るようになるべき正しい活動だと教えられており、組織内の年上の子たちもそうしているので、自分も自覚を持って半ば自主的に順応し習得してきました。30代に入っても、鬱や体調不良や不信感からやりたくなくなっていました。参加しなければ両親が行く将来の楽園に自分が一緒に入ってあげられなくなるという恐怖感情から、嫌々ながら仕方なく最低限だけ行っていました。

●地域の集会に参加させられて参加者皆んなで読経を唱えた。しっかりと覚えてないが世界平和に関するこの講演や教団に関わるアニメを見させられた。集会に参加していることは、他の信者ではない友達や近所さんには他言しないように母親から言われた。何か特別なことをしているようで、他の人とは違うというような誇らしさを感じた。

●記念日や教祖家族の亡くなった日などに行われる儀式(読経)や信者同士の集会に母が参加するのですが、父が夜勤だったため夜は基本母と二人だったこともあり自然とついていくことになっていました。当時は何も考えていなくて、それが我が家の普通だと思っていましたが、何となく隠した方がいいということはわかっていたので友達には言わなかったし、宗教道具のある家に友達を呼ぶこともあまりしなくなかったです。

●祭り、団体旅行、お泊まり会など。小さかったため同年代がいればそれほど嫌ではなかったが、父が良い顔をしなかったり怒るため、そういう時は参加しなくなかったが、母から連れて行かれ、母には嫌と言えず、その点では嫌な気持ちだった。

●礼拝に参加すること、中高生が行っている活動に参加すること、宗教には全く興味が無いですが家族は大好きなので悲しませたくなくて参加してました  
毎週2回(記憶が薄れていますが当時は3回だったかも)行われる集会への出席、年に数回の大会への出席。月に数度の「研究」という、自宅で信者の母親または他の信者が先生役になって行う教団の出版物を使った勉強会。そのための予習の時間。初めは小学生だったので母親に言われるがまま付いて行っていたが、周りの同級生たちと違ったことをしているという恥ずかしさや後ろめたさがあり、これは友達に知られてはならない事だ、知られると冷やかされたり友人関係が崩れるのではという恐怖感は初めからあった。とにかく友達に知られたくない気持ちと自分が世間に対して隠し事を持っているという後ろめたさが常にあった。母親に伝道に同行させられて同級生の家を訪ねなければならなかった時がしんどかった。中学生から高校生になると集会や研究に時間を取られることが退屈で面倒になり、徐々にサボるようになった。集会には行きたくないという自分の気持ちと、母親に叱られたくないという気持ちとで引き裂かれていた。宗教に関わっていることを知られてはならない、という緊張感は10代の自分にとって常に付きまとうストレスだったと思う。

●一般社会から事実上隔離された村を形成している団体で、小学1年生の時に母親(父とは既に離婚)が入会

したので、私も入会しました。そのため、行事への参加というよりも生活全てがその団体の方針によって拘束された状態でした。具体的に書くとかかなり長くなってしまいますので、一部ですが子供は毎朝午前6時には起こされて小学校中学年くらいになると学校に登校する前に1時間30分程度家畜等の世話をする労働をさせられます。朝ご飯はなく、学校から帰ってからも1~2時間程度、家畜の世話等をする労働をさせられます。朝夕の仕事をサボったりすると食事を抜きにされたりしました。

●週3回の集会和奉仕活動(勧誘訪問のこと)小さい頃は行くのが当たり前だと思っていたが、小学生以降はあまり行きたくなかった。

●週3回の集会への出席、発表、布教活動、聖書の勉強、年に何度か開催される大きな集まりへの参加を強制させられた。宗教活動をしたくないと言うと、「子供は養ってもらっているんだから、親の言うことを聞け。嫌なら出て行って自力で暮らせ」と脅された。小学生のころから何度も言われていて、一人で暮らしていけるわけがないので、毎日絶望しながらも親の言う通りにするしかなかった。学校を休まなくてはならず、学校での揶揄もあり、本当に嫌だった。

●友達との約束より会合を優先しなくては、宿業を変えられない。

●拒否できるものと思っていたかったです。

●面倒臭かったり嫌だと思ったが、拒否すると母が怒るので断りづらかった

●地味に最もタチが悪いのは早朝奉仕という名の掃除活動。駅とか、多分エリアで班が決まっていたのかな。清掃活動だから小さい頃は宗教活動だとは気づかなかった。まだ幼く、よく分からないまま連れ出されては手が霜焼けで大変になってもお構い無しですごく嫌だった。

●伝道活動、集会、大会への出席、模範的な行動など。嫌だった

●中学生の時は、日曜日に部活動に参加できないのがすごくいやだった。練習がしたい、サボっていると思われたくない、教会なんて行がなくて済んだらどれだけいいかと思っていた。宗教なんて怪しいと思われるのが怖くて部活の欠席の理由も3年間本当のことが言えなかった。

●退会を決意した頃、正月の会合を拒否したら家に信者が何人も迎えに来て、不幸になるとか諭されました。県外の離れた地域に引っ越しして、一人暮らしを始めても、そこに地元の信者が何度も来て、ポストには教

団新聞が入っていた。選挙もしかり。  
歌を歌ったり教義を勉強する会。そういうものなんだ  
なあと思って自然に受け入れていた。

集会への参加を求められ、拒否すると親に嫌な顔をされた。居心地が悪いので行きたくなかった。

小学生の頃、合唱団への参加。毎週2回ほどある会合への参加。

"教団の頃。集会や、教団会館でのお説教などへの参加を強要、というか有無を言わず連れられた。重たく、窮屈な気分の集まりで、爆音で視聴させられた会長の活動賞賛のビデオは子どもながらに聞くに堪えずこっそり抜け出した。"

毎週3回行われる2時間程の集まりへの参加、布教活動に連れ回す

学校を休まされた。週末の遊ぶ時間を奪われた。退屈で、同級生に見られるのはとても恥ずかしかった。

毎週末の合宿（話を聞く、鼓笛隊の練習等）、遠方にある大きな教会や教団本部への参拝

少年会や青年会などの、年齢制限のある集まりの時  
毎月のミサ的な行事には、よほど学校などで重要なイベントがない限り参加しなければならなかったし、年に数回、奈良県の本部で開催される大イベントには、学校を休んででも参加すべし、とされていた。私はそれがとても嫌だしめんどくさかった。

大きな集まりやイベントの際に頭数に入れられる

泊まり込みで教義を勉強したり勤労奉仕をする、講習会のようなもの。面倒だなと思った。

"週3回の信者の集まりに0歳から連れていかれ、そこで静かにできないと、鞭をされていたとのこと。0歳の頃のことは記憶ないが、母からそう聞いている。

母が開拓者という、月に70~90時間布教活動に時間を費やす役割を自らやっていたので、小学生になるまでは、その活動について回っていた。何歳からかは覚えていない。

20歳を過ぎ、教団から離れるには、手に職が必要だと気づき、専門学校へ行こうとした。しかし、一人暮らしをできる金銭的余裕は無かったので、家に住を提供してもらって見返りに、集会への出席、布教活動への参加を強制された。

教団を離れようと思うまでは、その教えが真の道だと思っていたので、強制されて嫌だと思っても、そう思う自分がダメなんだと思っていた。その道以外はないんだと思っていた。

19歳で、教えが間違いであると理解してからは、布教をして、さらに被害を広めたく無かったので、自分から布教はしないと決めて、活動に参加する時も、誰かの後ろをくっついてまわるだけにした。"

高等部メンバーの役員会でした。同じ地域のメンバーが参加しないので行きたくなかった為、体調不良を理由に欠席したい旨を伝えると叱られました。

とにかく不機嫌になるので参加せざるを得ない 自主的にしてると思ってたと思う 一番平和に過ぎるのでしていただ

研修会?みたいなもの

強要と言うと言葉は強いが、参加が当然という環境。自分はやもやする部分と、前向きでない自分への罪悪感を感じていた

"物心つく前から集会伝道に参加。

とてもとても嫌でした。"

子どもたちが集う会合。ケーキ作りなどをして楽しかった思い出がある。

"内容

- 毎月の月次祭への参加
- 教団の鼓笛隊への参加
- 教団の奉仕活動への参加

どう思ったか

- やりたくない
- 行きたくない
- 恥ずかしい
- 面倒くさい
- 自由に過ごしたい
- 疲れる"

瞑想や祈りの儀式など。身体の不調があれば気功術を受けさせられた。

両親が共働きで不在だったため、祖父母に集会に連れていかれていた。

会合や子供会への強制参加。正座させられるのが苦痛でしかなかった。

集会への参加が主でした。強要というよりは、意志が確認されなかったという印象で、自分も子どもの頃は特に何も思わずに「家族の行事」としてついて行きました。高校ぐらいから忙しさと面倒臭さで同行が減り、あまり声もかからなくなりました。

本部幹部会（月一回の中継会合）の参加を強要されました（中学校以降は地域の組織に属している人が来るので、親に強要されたとは言えないです）

●土日に行われる少女部への参加(ライオンキングを観たような)。選挙前の集会への参加(7時ごろから10時くらいまで)。教団新聞の集金(母親の運転する自転車の後ろに座って一緒に行く。当時は散歩気分楽しんでいました。)

●月1回の接心と呼ばれる霊能者から助言をいただく修行のほかに、ご奉仕と呼ばれる清掃や案内などのボランティア、家庭集会への参加。自宅で家庭集会が開催されていたので受験期など逃げ場がなく苦しかった

●日曜日の礼拝、牧師家庭のため、強要というよりは家族の習慣と言って良い。自分の意思で出欠を決めていなかったという意味で強要と回答しました。高校生になり部活動などで出席が疎になってきても、物理的・心理的な暴力はありませんでした。

●夏休みに子供達だけ集められて読経の練習をさせられたり、合唱発表会？のようなものにも出ていた。

●強要はされていませんが自営業で忙しい家族が外出する違和感がありました

●夜勤のあと家で休んでいると電話で叩き起こされ行事に参加するよう怒鳴られた（教団の指示ではなく信者だった母親から）など

●知らない子ばかりの所に行くのも、全くわからない話を聞くのも、夜に出かけていくのも苦痛だった。少しでも騒げば、とても叱られた。親も信心が足りないから子供が騒ぐと注意される。

●本部への団体参加旅行。教会のある最寄駅の早朝清掃。教会のある街を練り歩く御会式というもの。小学生低学年の頃は母親を喜ばせたかった。小学生高学年以後は嫌で仕方なかった。嫌だと言っても通じないので段々と憎しみが大きくなった。また親に対してそういう感情を抱くのが悲しかった。

●中学生時代以前は当然のように両親が行く場に連れられていた。行く場所は様々で会合と呼ばれる居住地の集会、毎月の幹部会という名の配信を会館と呼ばれる建物に見に行く等。二十歳過ぎに一度積極的に教団に参加し、その後退会するがそれ以降は家族から頻りに再度参加するよう促されている

●合唱団、地域の会合などさまざま。面白くはなかったが親が行けというので小さい頃はなんとなく参加していた。だんだん嫌になり行かないものが増えていった。

●毎週末、教会へ行くことを強要（習慣化しており当時は強要とは考えていなかった）されていた。友人たちが見ているアニメ番組などを見れなかったなどが「いやだなあ」と感じていた程度である。

●集会への参加、自宅での読経。嫌だった。

●近所の家を訪問する活動を強要された。暑い中、歩くのは嫌だったし、行きたくないと言うと、家に置いていかれて、ひとりぼっちにさせられてしまうのも嫌だった。

●子ども達への勉強会が頻繁にあり、そこでは教団が世界平和を実現すると繰り返し教えられました。しかし、私の家庭は父の暴力や貧困で苦しんでいたため、自分はその中に含まれていないのだと感じていました。

●早朝奉仕という近隣の掃除や拠点での大祭へのお参りと冬の朝信者の家で開催される寒修行には参加していた。信仰という観点ではなく、父の大病の際継るものとして母が始めたことを知っていたので母のために誘われると参加するようにしていた。また、巨大宗教団体の内部を覗くという好奇心が強かった。

●総本山への参詣。子どもだったので何も分からず、人が大勢いる中でその一員としてその場にいた。

●週3回の集会への出席。手を挙げて注解すること。割り当てというプログラム（脚本を作って人前で演じる）をすること。家から家の伝道に参加すること。伝道と割り当てが特に嫌いだった。

●会合への参加

●信者の会合、読経会、選挙活動

●週3回の王国会館での集まりへの参加、また週末の奉仕活動という布教活動への参加です。行きたくありませんでした。特に奉仕活動は人々から否定や同情を受けるからです。一方で、否定されたときには彼らが間違っているのだ、と考えることで自分の信仰を高めました。

●会館や、信者の家に連れていかれた。読経をし、対話をした。めんどくさかった。

●鼓笛隊に入って、合宿や集まりでの練習の時もれなく歌って踊るやつをやらされた

●平日夜の集会に週に2度参加、日曜日の集会に参加。とても嫌だった。

●週に3回の集まりへの出席、毎日の奉仕活動、年に3回の大きな集まりへの出席

●日曜日に教会での礼拝に連れて行かれることがありました。あまり楽しいことではなかったですが、自分の家ではそういうものなのだと納得していました。

●集会や奉仕への参加。

●礼拝への出席

●キリスト教でいうところのミサが毎月ありますので、そこには必ず参加をするように。毎月末には信者になるための研修会もあり 10 歳になったらそれを受講できますがそれ以降は何度も研修会を再受講するよう言われます。どちらも土日にあるので家族で出かける用事などもミサに出てからでないといけなかったり、研修会のせいで出かけられないことがあるのにほかの友だちはこんなことないのになぜ自分の家だけはこんなことをしなくてはいけないんだろうとはよく考えていました。

●地区で区切られている親睦会の様な集会。

●月 1 回の信者の集会を自宅で行っていた。子供の頃からなぜ強制されなければいけないのか疑問だった。断ると怒られたり親の機嫌が悪くなったりして、気まづかった。社会人になってからは参加不参加に対して選択の自由がないことに怒りを覚えた。

●神社仏閣への参拝。祝詞のようなものを声に出して祈ること。幼少の頃はよくわからないながらも、半分は信じていたように思います。歳を重ねるにつれて、無意味だと感じたり、面倒くさい、怖い、行きたくないなど感じることもありました。

●日曜日の集会、平日の聖書研究

●休日に大規模な集会への参加。ドレスコードなどが面倒くさかった。休みたかった。

●集会

●参加が面倒だったが、断ったら親が不機嫌になりそうでした。渋々参加していた。渋々だと思われないようにある程度意欲的に見せていた。面倒だったしつまらなかった。

●実家にいる間は、教会の祈祷会のような儀式をやるのが求められた。ただ、それほど強い拒否感はなかった。

●日曜日運動会を午前中休まされた。恥ずかしかった

●集会の参加、新聞の購入、献金。子供の頃は集会に当たり前に参加してました。20 代頃から、毎月の新聞の購入、年一回の献金をしなさいと言われました。自分がやりたくないことでやる意味を見出せなかったのので、お金を無駄にしてるなと思ってました。献金は金額が高いため、断ることもありました。

●洗脳されてたので喜んで参加してました

●小さい頃から集会に連れて行かれてひたすらじーっと黙って静かにしていないといけなかった。小学生(当時の教団では少年●少女部)の時から「学校は休んでもいいが、少年●少女部の会合だけは休むな」と毎日曜日の朝、会合に行かされた。中学●高校の時も同様。活動をしないという選択肢は絶対的になかった。

●行くのが当たり前だと思っていました

●教団では集会という小さな地域単位の集まりがあり、そこに月 1~2 回程度連れていかれた記憶があります。また 1~2 か月に 1 回同時中継という教団の施設で教団トップの講演などを全国的に同時に見る集まりがあり、連れていかれました。

●たくさんの知り合いに会える場所だと思っていたのでとくに気にしていなかったが、静かにしていないとお尻を叩かれるので、そういう意味ではとても苦手でもあった。

●教団の子供が入る合唱団などに入らされ休みの日に練習に行かされたり、協議会へ連れて行かされた。でも行っても遊んでるだけだったので大して気にしてなかった。

●本部幹部会の放映。地区集会。未来部の会合。教学試験の勉強会。教学試験の勉強会は母親が 30 年前の勉強のやり方を強いてきたのでかなり苦痛でした。

●良いことなんだろうとは思ったが、心の中では言い知れぬ気持ち悪さを感じていた

●講演や出版物の解説を聞く、歌、祈りなど

●親も行くからあんたも来なさい。お正月は絶対行くからダメ。

●週 3 回の集会 (1~2 時間ほどで聖書に関する講演や質疑応答がある)。夏にある地域大会 (3 日間大きな会場で講演を聞く)。ひたすらつまらないと感じていて教義の内容も疑問に思うことが多かった。しかし神を信じていないと死ぬことになる洗脳されていたので、信じようと頑張っていた。また神は心をお見通しであると教えられていたので、教義を信じていないことへの罪悪感を強く感じていた。

●教祖の教えを聞く。この人と自分の考えは違うと思ったが、親に言うと、叱られた。

●地域の少年部員の会合。当たり前だと思っていた。

●寒修行や苑のイベントなど、たまには親の言うことも聞いてあげないという感じで参加。

●小さい頃はそれが正しいことだと思っていた。そこでしか会えない友達もいたので楽しかった。10 台後半になり、次第に矛盾点などが気になり始め、参加するのが嫌になった。

- 毎週日曜朝に行われる礼拝への参加
- 奉仕活動。知り合いの家にも訪問するのでとても厭だった。
- 週3回(日曜1回、平日夜2回)の集会への参加。週1回以上の伝道の参加。集会は違和感なし。伝道の最中に知り合いに会うのは嫌だった。
- 家族で初詣には行ったことがなく、年明けには代わりに会合?(なんと呼んでいたかもう忘れまして)に連れて行かれていた。近所の信者に小学校の同級生がいたので、その子に会えるからいいやぐらいの気持ちでいました。
- あまり覚えていないが、そういうものだと受け止めていた
- 面倒だったし意味がよくわからなかった  
(補足) 誘い●勧めは受けましたが、“強要”ではなかったので8を選びました。
- 物心ついたときには、入信しており、信者の集まりに行くことが当たり前であった。月に1回は参加していて、多いときは毎週参加していた。集会の会場が自宅になることもあり、その際は見知らぬ大人たちが家に入出入りすることが怖かった。大学生では同じ地域の20~30代の信者と集まる機会が増えた。同調圧力と年功序列な強制で選挙運動や広報活動に関わることになった。両親からは強制されなかった。熱狂的に信仰する同世代の信者の発言に、違和感を覚えはじめ活動を避けるようになった。
- 会合?に、大人のにも子供用のにも強制的に参加させられた。強制といっても無理強いではなく、誘導される感じ。だから余計ムカつく。会合では絶対読経()をさせられるので苦痛だった。あとはなんか会報誌や教団新聞の読み上げとか、意味わかんない信者用の合唱曲を歌わされた。あとは選挙のお願いの際、私も連れていかれて、「まあ!小さなあの子がもうこんなに大きく…」って話のとっかかりに使われた。そこから2~3時間は選挙のお願いの世間話に付き合わされた。全国津々浦々回されていましたが、「これは旅行!楽しいわね!」「(早朝に帰宅し、眠いから学校休みみたいという)だめ!あなたは旅行って楽しい経験をしたのよ?!パワーたくさん!楽しかったわね!」と学校に行かされた。まあ選挙の際は預けるところがなかったせいもあるかもしれませんが…。他は教団独自の夏休みの宿題?(図画工作とか作文とか)をさせられた。しないと怒鳴られた。
- なんか布教映画を見せられた
- 面倒くさい

- 毎週の集会(強要というより家族とともに自然に参加)/不定期の寺への参拝/選挙のF取り(票集め)/選挙カーでの広報活動/小中高大の各学生部の活動参加や勉強会/勧誘活動(新規入会活動)
- 強要になるかはわからない。生まれたときからだったので当たり前に行かなくてはいけないとおもい、反抗したことはない。
- 行きたくないという選択肢は無かった。いかなければならないから行っていた。
- 毎週日曜に礼拝参加、学校の長期休みごとにある合宿(修練会と呼ばれる)へ参加するよう言われていた。部活等の用事と被らない時は参加するようにしていた。
- 教団施設を使った合宿
- 校歌斉唱、国歌斉唱の拒否、学内の選挙(生徒会、委員会)などへの参加拒否
- 1●8歳未満の子どもは未来部と呼ばれ、アニメで教団の教えを学んだり、教団のオリジナルの歌を歌っていました。幼い頃は、何の疑問も持たず、日頃関わることのない違う学校の子どもと遊べる事が嬉しかったのですが、中学校に入学した頃から、集まりに参加する事で、教団の家の子だと思われるのが嫌で、次第に行かなくなりました。
- 週一回の集会、教団が主宰している合唱団に入る
- 土日、親の集まりの付き添いという感覚。子供会のような、教団の知識のクイズ大会であったり、同年代の子達と遊んでお菓子もらってみんなで題目して帰る感じです(小さい頃は)行く前は嫌だなと思っても、参加すると楽しいよと言われた。楽しいとはいかなくても、行く前の嫌な気持ちは消えていた。
- 集会への参加と、伝道と呼ばれる各家庭への勧誘。幼い子供なので家に居させる訳にもいかないので、一緒にいくのは面倒だったが、ある程度は仕方ないと思う。
- 本部に信者が集まり名誉会長や幹部のスピーチがいくつもあり、全員でお題目をあげる「同時放送」というのがあります。全国各地の会館で同時に放送されるので、私たち家族も地元の会館に行き、テレビモニターに映される同時放送を見て、そこに来ている人たち全員でお題目をあげます。月に1回は開催されていた気がしますが、私は本当に毎回行きたくなかったが「お前のためになるから来い」などしつこく言われてしぶしぶ行っていました。
- 教団主催のイベントへの参加や、夏には登山授業など



●父親は信仰に否定的で、イベント参加にはいつも母親と口論になっていた。とても優しい父だが、イベント参加を知ると口を聞いてくれないなどあった。私は生まれた時から信仰の素晴らしさを母から聞いたが、父の態度や人見知りな性格もありイベントや信仰にも馴染めず、母に言われるがまま参加していた。

●地域の子どもを対象とした月一開催の研修会や、正月の宗教施設への参拝。私と妹が行きたくないと言うと、説得のために近所の教団大学生のお姉さんが家に通い詰めてきた。「母親もその大学生もあなたのために時間や労力を使っているだから、あなたが折れるべきだ」と父親から説得され、身近に自分たちの味方の大人がいない絶望感があった。

●家庭内で頻繁に行われた集会

●地域幹部のお宅や広域会館での定例会合への参加、当時はそう言うものだと思っていた

●参加しなければいけないと思った

●退屈だしお祈りの声が怖いし行きたくはなかった

●週2、3回の集会への出席。勧誘活動（奉仕活動）への参加。年に数回ある大会（大規模な講演会）への出席。部活動や余暇、受験勉強に使いたい私的な時間まで潰さなければならぬことに次第に不満が増した。

●面倒だった

●一人で教会キャンプに行った

●面倒

●毎朝の朝起き会で信者らの前で誓いと発表をさせられる。朝起きれない（起立性調整障害のような症状）と罵倒される。家族の雰囲気が悪くなる。大学進学後は毎朝は続かなかった。

毎朝毎夕のお勤め。月1の月次祭。その他、いろいろな行事。勉強会。合宿での勉強。合宿でのイベント。

●引っ張って車に乗せられて連れて行かれる。友達と遊ぶこと、学校でみんなが見ているテレビも、集会を優先され時間が合わずに見られないことばかりだった。ある程度年齢が上になった頃は、反抗が過ぎて無理やり連れて行かれることはなくなった。

●鼓笛隊の練習

●子どもの集まりが月一？くらいでありました。説教臭くて面倒くさかったし、緊張するので嫌でした。お経を上げて、教育勅語を読んで、説教みたいなのを聞いたと思います。

家でも、月一くらい、地域での会？があって、同じようなことをしました。

●遠足とかレクリエーションみたいな集まりもありました。

●母が癌を患ってから、月一くらい教会に家族で行くことが増えました。わたしは部活優先で、家族とは距離ができていきました。

●周年行事みたいな大きな集まりには、横浜アリーナに集まって、元首相もきてて、中学生ながらにすごいな—と思った覚えがあります。でもその頃は反抗期だったので、はじめての家族で遠出の旅行で、お金ないのにもったいないと引いてました。

●夏休みには、林間学校があり、レクリエーションとは別に、歴史の学習などもあった記憶です。歴史を間違っていて教わっていたと思います。保守的なので戦争は被害しかないと思ってるタイプの宗教だと思います。

"

●幼少期なので詳しく覚えていないが、勉強会と称した集まりに、母親に連れられて行っていた。一般家庭の住宅に集まり、大体20人から30人ほどいたと思う。月に一回ほどやっていたらしいが、私自身は年に数回しか参加しなかった。タイムテーブルがあって、お題目、教祖のビデオ放映、一人一言、歌唱などがあつた。世界平和を謳った歌だった。世界平和のための考えたことを、大きな用紙に書き出したこともあつた。リーダー格のご婦人が3人か4人くらいいて仕切っていた。子どもは子どもでかたまっていて、子どもたちだけでの話し合いもあつた。話し合いの後1人1人がコメントしたと思う。一回電車に乗って、大きな教会？みたいなところに話を聞きに行ったこともある。大きい会議室？講堂？みたいなところで100人以上沢山の人がいた。並べられたパイプ椅子に座って、誰か偉そうな人の話を聞いた。小学校5年生までは教団の集まりとは知らずに参加していた。お菓子ももらえたり、どの家庭の子どもも通う習い事のような補助教育だと思っていた。教祖のことを教団リーダー“先生”と呼ぶこともあつて、学校教育と変わらないイベントだと思っていた。小学校5年生の時、母親が、「通っている小学校の担任の〇〇先生も、信者なんだよ！」と言ってきたので、無邪気に、そうなんだ、と思い、その担任の先生に「先生も信者なんですよ？」と聞いたところ、先生の顔が青ざめて明らかに話題を逸らしたのが分かった。家に帰って当時小学生にも普及し出したインターネットで調べて、怪しい団体なのだと悟った。その後集まりに参加することはあまりなくなつて行ったが、参加するときは小学校の同級生にバレないか不安で不安で仕方なかった。

●変だなと思った

●今も基本的に教団の活動に参加する事が勧められて

いる。成人して暫くするまでは父親が組織に反対の立場だったので幼少期活動が盛んだった母と父の喧嘩は凄く嫌だった。

●勉強会、葬式？、家族旅行が本部への勉強会●参拝のついでだった

●施設へ月2回ほど赴く、お金を奉納することを親から半ば脅迫されていました。行きたくありませんでした。

●連れ出しの方が家に来て行事に参加しないと言うと長い話いわゆる説得が続いてどちらかが諦めるまで続けられた。時間はどのくらいかはわからないが長く感じた。1週間ぐらい経ってまた家に来て世間話から始まって次の行事には出ようと連れ出しの話があった。行事に参加するまで続いた。

●宿泊研修。支部で法話を聞く。教団制作の映画鑑賞(友人の勧誘)。強要という強い表現は当てはまらないが、当時は行事参加に疑問を抱かなかつたし、行かない選択肢は実質なかった。

●大会とよばれる一日中話を聞くイベント、集会と呼ばれる週に3回ある勉強会、訪問しての勧誘

●何も思わなかった。大きくなるにつれて面倒になって行かなくなった。

●日曜学校、日曜礼拝、協会のクリスマスイベントへの参加、合宿のようなものへの参加

●集会への参加(週3回 宗教についての考えを深める為の集まり)、奉仕活動(週2回 名前は奉仕活動だが、いわゆる宗教勧誘 個人の自宅を訪問して勧誘する)、大会(年2回ほど行われる大人数で集まる周年 自分たちの場合名古屋ドームなどを使用したこともある)

会合に参加、配偶者の入信、子供の乳酸

●小学校になると夜の読経に強制的に参加させられるようになった。足が痺れるしお経の意味はわからないし時間の拘束があるので苦痛だった。口は動かしていないといけないが他は暇という感じ。正座して手を合わせていないと怒られるので、ひたすら爪をいじっていた。爪を切りすぎるわけでもないのに深爪になった。仏壇に向かってお経を唱えるより、家族と一緒にテレビを見たり話をしたりしたかった。休日に通っているお寺に通わなければならなかった。読経の参加、青年部会や子供会や季節の行事などへの参加。休日が潰れてしまうので嫌だった。年に数回、本山に行かなければならなかった。移動手段は寺ごとの貸切バス、新幹線、車など。遠いので泊まりになる。拘束時間が長いので嫌だった。こんなことに時間とお金を使うなら、

家族で旅行したいと思っていた。あまり記憶が定かではないが、季節行事で作文の提出を求められた。親が怖くて従っていただけで自分に信仰はなかったが、父が喜ぶように教祖について肯定的な文章を書いて提出したところ、父に褒められた。嬉しい気持ちもあったが、ばかだな、ちよろいなという思いが強かった。

●週3回の集会に加えて年3回の大会がある。大会が平日だと仕事の休みをもらわないといけませんが、失業しても休んで大会に出る方が評価が高く、違和感を感じた。

●物心ついた頃から当たり前のように連れ出されていたので、高校入学くらいまでは当たり前感じていた●あまりはっきりとは覚えていないのですが、日曜日に行われる子どもたちの集会に行ったりしていた。そこで、信心によりこんな良いことがあったとか、救われたとか体験談を聞いたり、みんなでお経を読んだりしていた。

●その時はまだ小さかったので、集会に行くことに特に疑問を持つことはなかった。

●未来部という地域の信者の集まりに行き、読経を上げ、教団トップの衛星中継や開祖の御書の一文などを学ぶ会。行かなければ体罰をくらい、家を追い出されると感じていたので嫌とかそういう考えを消して、ただある物事として捉えていました。

●小規模な地域の信者を集めた会合と言われるものから創立者の話を聞く大々的な集まりまで。行きたくないことが多かったが、親が行くから仕方なく。中高生の頃は部活の感覚で疑うことなく楽しく参加していた。

●高校を卒業すると大学に進学するのが罪のような言われ方だった。パートや契約社員などして実家暮らしで伝道活動に時間を割きなさいの考え方だった

●騎馬戦の不参加、クリスマス、お盆祭り等のイベント不参加、校歌斉唱●国歌斉唱はダメ

週末に行われる同年代の子どもを対象とした集会への参加を要請された。行きたくないと何度か抵抗したが、結局参加することになった。

●お参り

●礼拝などの活動への参加がメインだった。その時は不思議なことだとは思っていなかったと思う。

●当然のことと捉えていた。ただ自由時間が無くなるのが辛かった

●○小規模なもの 支部会、地区総会など地域で行う会合。男子●女子●未来部(小学生●中学生)など属性に合わせた会合。読経をし、経典の勉強、活動報告(祈りによって良い事があつたらそれを参加者の前で話す)、

合唱団に入った者は歌の練習。○大規模なもの活動に力を入れ成果をあげた者は教祖がいる集会の会場に参加し、信仰による体験、成果を発表する。それ以外はその集会を衛星中継である程度の人が入る大きな会場で観る。教団に疑問を持っていなかったので正しい事をしているんだという小さな誇りの様なものを持って参加していたが、病気になってからは「心身ともに辛くても参加すれば功德(徳)がある」と思っていた。

●施設や信者の家に集まって題目を上げたり、信者の人の話を聞いたりする会に定期的に参加させられた。小学生低学年まではとくに何も感じずに当たり前に参加していたが、中学年頃から参加の度に気が重くなった。

●七五三、夜の会合、未来部(成人前の子供がそう呼ばれていた気がします)の会合。主に歌ったり読経を唱えたり。楽しいけど、知らない子供と会うのは苦痛に感じていました。歌ったり踊ったり、謎に選挙的なパフォーマンスをさせられたこともあったけど、なんでこれをしなきゃいけないのかとか明確に理解できてなかったと思います。自分の母親はありがたいことに、無理強いするタイプではなかったのですが、もしかしたらお菓子があるよ！と言われて自分から一緒についていったのかもしれない。

●毎月一回、会館に信者が集まり、会合の同時中継をプロジェクターに映す様子を見るイベントがあった。出席者は名誉会長で、会長の発言を聞かせるために参加させられた。

●毎週火曜、木曜、日曜の集会への参加。小さな頃は幼稚園などには通わず母親と毎日奉仕(活動の布教)が絶対だった。幼い自分には断る選択肢はなかった。

●教団の集会、家での集会に参加しなさいと言われてました。中学生に入ってから、違和感を感じて、自宅で集会が行われる際は信者20名くらいと一緒に読経を唱えるのが嫌で嫌で仕方なかったのも、集会には参加せず自室に籠って大きめの音楽を流して聞こえないようにしていました。

●集会、大会、記念式。疲れているのに行きたくない。遊びたい。

●参加しても「賛美歌を歌う声が小さい」「他の誰よりも大きな声でお祈りしなさい」と言われ、できないとどうせ叩かれるので行きたくなかった

●面倒くさくて行きたくないと思った。

●祈祷会、ハンガルの講座など。母に言われるがまま疑問を持たずに参加していた。しかし、行った先での

疑問や何故ここにいるのか、しっくり来ない感じをいつも感じていた。

●厳密にいうと強要ではないかもしれないが行かないとか行きたくないという選択肢がないと感じていた。

●奉仕集会大会など、強要されていたというより参加しないという選択肢はなかった。行くことがあたりまえで嫌でも行かないという考えはなかった。でも毎回眠かった。恥ずかしかった。つまんなかった。行きたくなかった。

●子どものころは当然のことだと思っていた。親には絶対服従しなければならなかった。無理やり感謝して楽しい顔をして参加しなければ、と必死だった。

●集会、奉仕活動への参加

●週3回(途中から2回に変更)の集会出席。家から家の伝道活動(子供の頃は週2-3日)。年数回ある大会と呼ばれる1000人以上が集まる集会への出席。

●教団の教義に関する勉強会、読経会、定期的な会合何回も行けと言われるし、信者が迎えにくるので、行きたくないと思っていました。

●日曜の礼拝への参加程度

●集会、研修会

●毎日の朝夕拝、食べる前のお祈り、月に2度ほどの礼拝(地区の支部のもの、県単位のもの)、所属している宗教団体の県本部が企画する合宿や勉強会、年に一度の信者の青少年が集まる全国大会。最初は訳も分からず参加していましたが、中学に入った頃からまったく信じてなかったのも、本当に無駄なことをさせられていると思っていました。今も毎日の朝夕拝、食べる前のお祈りはさせられています。実家暮らしなので拒めません。

●集会、大会に行く。参加すると反対していた父と取っ組み合いの喧嘩がはじまり巻き込まれる。

●おもに毎日曜日の礼拝への参加。強い強要ではなかったですが、特に大学入学以降、私の世界が広がって様々な価値観をもつ友達と出会ってからは、面倒になりました。それまで(高校生まで)は、比較的私自身も好意的に参加し、それがステイタスだ感じていました。

●月々の集会や、その後の広報活動。日常的な集会場所への参加。未成年のみの合宿や集会への参加。周りも似た境遇の子供しか居なかったのも、幼い頃はそれが当たり前だった。その場でしか会えない友達も居たのもその子達に会える事は嬉しかった。日常の集会所への参加は正直にとっても面倒だったが、子供だけの集まりは嫌ではなかった。

●子供の頃は楽しみにしていた面もあった。学校が始まると異なる文化との間に立ち混乱した。

●集会や奉仕への参加。意義ある仕方に参加し模範的であること。小さいうちは親の言う通りにしないと鞭をされたので従うしかなく、半ば過剰適応していた。大きくなってからは、教団には違和感を持っていたが、母を悲しませたくない動機で合わせていた。

●キリストの死を記念する式典で、子供だったので集まりに参加するだけではあったため夕刻スタートでとにかく眠かったし毎年内容も特に変わらないため面白くはなかった

●教会や日曜学校、夏に行われる信者の合宿などに参加させられていた

●集会 遊びに行きたかった。行事は楽しかった。

●小学生の頃、「集会に行きたくない」と泣いて逃げようとしても両親に無理やり車に乗せられて、チャイルドロックをかけられて連れて行かれた。ものすごくつらかった。力の差がありすぎたので次第に諦めて、目に見えるような抵抗はしなくなった。

●年始の集まりや、七五三のお祝い？に連れられたことを覚えています。熱心な信者だった母方の祖母が、神社に参拝することを嫌がっていたためですが、他の同級生たちと違うことに疑問を抱いたことを覚えています。学校などで、どこに初詣に行ったかの話題に入れないことが嫌でした。それ以外にも折に触れて集会に連れて行かれましたが、よくわからないなりにそちらはそういうものだと思っていたような気がします。

●大きな大会などでも支部での行事でも、本当は行きたくなかったが母が家族の中で孤立していて可哀想に思っており、自分の気持ちを押し殺して母に付き合っていた

●正月に教団の会館へ新年読経会に行くのが恒例だった。正座できるようになってからは正座して題目(教団で読むお経)をし、当時会長？だった教団トップ氏のありがたいお言葉などを聞いた。正座は嫌だったがまあ学校行事の朝会で立っているのがだるいくらいの負荷でしかなかったので、まあこういうものだろうと思っており、大して苦痛には感じていなかった。

●音楽で歌ってはいけないと言われ違う曲を歌わせてもらわなければいけなかったこと。自分の尊厳を傷つけられた。

●年に一度の大祭のようなもの。盆や正月などの定期的な行事とさして変わらない気持ちでした。

●祈りの集会や勧誘活動、集団での宿泊で巡礼。ものすごく気持ち悪く、おなじ二世同士でも同じ考えと信

じて打ち解けられる人やそうでない人がいて不快だった。

●子供の会だったので遊び間隔で行った

●母が予定として勝手に決めていた 嫌がれば機嫌が悪くなるので逆らえなかった(日頃精神的な暴力があった)

●特に記憶にない(そういうものだと思っていた) → 日曜学校(=子供向け礼拝)

●自分自身も正しいこと、当然すべきことと思っていたので強要されたとは言えない。

●「行かない」という選択肢がそもそもありませんでした。夜の7時くらいになると会合が近所の信者の家や会館で始まるので、そこで宿題をしていました。優しい大人の信者からお菓子を貰ったり、同年代の信者とお喋りをしている時は楽しかったです。ただ宗教行事や活動をしないと不幸になると教えられていたので、行きたいというより行かなければと思っていました。

●物心着く前から集会に連れて行かれたのでどう思ったかは覚えていない

●題目、会合への参加、友人を生け贄に選挙の連れ出し。友人関係を壊されるのが一番苦痛だった

●週3回の集会と、年に数回ある大ホールでの集会です。インテックス大阪などを借りていたこともありました。土日や空いている夕方に奉仕活動(訪問や電話など)を求められました。生まれたときからこういう状態だったので当たり前のことと思っていましたが、嫌だなあとは感じていました。行かないと鞭で叩かれたり親が不機嫌になりそうなのが嫌で「自分から進んで行っているんだ」と思い込もうとしていました。

●私が小学生の頃に所属していた会では、夜に会長の講和があり、学校が終わった後などに電車で1時間半くらいかけて行っていました。頻度は覚えていません。結構遅くまでやっていて家に帰ると10時半とか11時とかだったと思います。また、それに伴い、同じ団体ですが、小学生の高学年の時に教学試験を受けるために女子部の人たちと一緒に徹夜で勉強させられました。※強要というよりはそれ以外選択肢がない感じでした。子供の頃からやらされて、私も子供の頃は信じ込まされていました。

●その年齢の時は、教団への不信感(というか、不思議感)がなかったので何も思わなかった。

●毎週3回の集会に家族で参加。週末の伝道活動。年に3回の大会への参加。日曜日の集会や学区内の伝道活動は特に苦痛でした。

●月次祭に出なければならぬことがとても嫌だった

(2 時間以上ををどりをする)

●休日の式典への参加。父親は行くなと怒り、母は行かないと怒る。参加しても参加しなくても怒られる。行きたく無かったけど家にも父が不機嫌だし道場では優しく接して貰えるから参加していた。

●土曜日の学校を休み、地域大会と呼ばれる大きな宗教的集いに強制参加

●強要という強い言葉だと少し違和感を感じます。当時の自分は行かなければいけないものと捉えていて、休むサボるという考えがありませんでした。

●平日夜の集会 (19 時くらい開始)、日曜集会 (朝 10 時くらい開始)、土日の布教活動、年 1,2 回の海老名の大集会。小学校低学年のころから嫌だった。当時は夜のアニメなどの話題についていけないといじめの原因になり、実際にいじめられたので。中学の頃は、勉強する時間を削ってまですることかと反抗心もあった。

●22 歳くらいまではなんとも思わなかった。それ以降は不快に感じている。

●行くのが当然とされ、母親の教会での体面から来る母の期待もあり、毎週日曜の子供クラス(教会学校)の教えて私も信仰的に当然と思われていた。母にも教会にも絶対無条件で私が肯定される唯一のことだった。

●教団の学園に小学校から中学校まで行っていたのと、地元の周りも信者の知り合いばかりなので、参加が当然で、わたしも参加自体にはそこまで疑問を当時持っていなかった。行事参加し、信仰心を強く持てば幸せになれると言われて育ったので、面倒臭いときもあったけど行かないといけないと思っていた。

●毎週の集会への参加、布教活動への参加

●お寺に行って入信の儀式

●面倒、じっとしなければならぬのが苦痛。一方で発言を求められ答えられたとき子どもは無条件に褒められるので嬉しかった

●強要というよりも参加するのは当たり前のような感じ。物心つく前から宗教活動における定期報告会や年末年始の会合は参加する者で、行かないとなんとなく罰当たりなんじゃないかとか、その場でしか会えない人もいるしなあと毎回参加してる感じでした。お参りや初詣に行くのと同じ様な感覚だと思います。子どもの頃は拒否権がなかったから強制参加でしたが、20 歳前後になると参加も個人の自由意志になり、両親が参加するなら着いていくといった形になりました。

●集会への参加(週 2 回)。大会への参加(年 2 回?)。奉仕活動(布教活動)への参加(幼児期のみ)。その他勉強会への参加。

●会合全般、青年期までの各組織の会合、定期放送。教団トップは信頼に足る人ではないし、それに熱狂している人々も異常だ。

●物心つかない時から勝手に参加させられていた。何となく自分には合わないなと考え出してから鬱陶しくなった

●会合(大小)

●祈りの場などへの参加。強要という認識はなかった。行きたくない時は行かないし、自分で選択権を与えられていたので特に不都合を感じることはなかった。

●学校行事や授業では、国家を歌うこと、武道の授業を受けること、騎馬戦に出ることを禁じられた。

●国家も体育の授業もキライだったのでラッキーだった。でも、信者であることがバレルのはキツかった。

●地域行事では、道祖神、クリスマスの子ども会など他宗教にまつわる行事への不参加を強制された。(ほかにもいろいろあったと思います)家でひとりで居るのが好きだったのでちょっとラッキーと思ったが、友達からは遠ざけられてキツかった。

●大会や集会への参加。

●合唱団などへの参加

●宗教自体は嫌いではなかったが、魍魎魍魎と言いますか、そこにいる人たちがあまりにもがさつで欲深いので、そんな大人たちを本気で見下していました。(私は神様と同じ?だから)大人に説教することもしました。宗教施設に連れていかれてましたけど、本当は帰りに食べることができるドライブスルーのファーストフードが食べたかっただけです。あと、帰りに何か買ってもらえるかもしれないということもありました。施設では、おおむね、祈祷、数時間にわたる読経。子供たちは外で遊ばせるということもない。読経に参加する方が偉いから、我慢して参加。他の子どもを見下したり。今振り返ると本当に恐ろしい習慣。怖いですね。

●地域の集会や会合小学校の頃は親に言われるがまま、何も思わずに参加していた。その後、信仰していない人がいることを知り、徐々に自分の信仰心がなくなった。

●毎週日曜礼拝への参加。加えて両親が牧師だったのため、幼少期から会堂清掃、原稿タイプ、印刷、近所へのチラシ配り等、当たり前のこととして手伝っていた。何度も抵抗していた「洗礼」を断り切れずに中学生の時に受けざるを得なかったことは、自分の意志に沿わない事を強要された事として印象深く覚えている。

●集会や少年部中等部会合への参加。親を信用してい

たので違和感は全く感じなかった。幸福になれると思っていた。

●毎週の礼拝参加や、長期休みでの修練会参加。あと家庭では朝5時起きして礼拝参加など。中学生くらいまではそこまで嫌ではなかったけれど、高校生くらいから拒否し始めた。

●脅したり、怒ったりして参加するようにされたことはほとんどなく、行きたくないなら休めば良いと言われていた。ただ、小さい頃は親についていくのが当たり前で、高校生頃からも強要はされないが、参加を望んでいることはよく分かるので行ったほうが良いと思っていた。いろんな人に会えて、仲良くもなり、楽しかった思い出も多い。

●私は例大祭や節分など年に3～5回の大きな行事に出席させられました。斉唱するのですが、その間に「神がかり」と呼ばれ身体を震わせる信者さんが多くいました。自分は何も感じないので、薄目をあけて周囲を見渡すと、身体を震わせた直後に目があつた信者さんが罰の悪そうにすることがありました（決まって男性でした）。子どもごころに「周囲に合わせて神がかりを演じているのだな」と察しました。「ボクは、こんなまやかしの宗教を信じない」と心に決めたのが小学校4年生のころだったと思います。

●◎毎週日曜日の教会での集団礼拝（牧師の聖書朗読や説教、賛美歌合唱、祈り等）◎乳飲み子の頃から親に連れていかれていたので生活習慣のようになっており、当期、疑問はほとんど抱かなかつた。「強要」とは断定しづらいが、礼拝に行かないという選択肢はなかったように思う。無言の圧力とまでは言わないが、暗黙の了解を緩やかに強いられていたと振り返る。

●参拝、講演

●集会への参加を面倒がると、「神とあなたとの問題よ」と突き放された

●数ヶ月に一度、家族で講演会や合宿に参加した。貧乏で遠出することがほとんど無かつたため、市外に出かけられることが嬉しかった。

●伝道活動、集会、鯨肉や格闘技の拒否

●学生時代は、未来部、中等部、高等部…と集まりがあり、行くように言われていた。子どもの合唱部のようなものもあった。同じ学校の友人もいたため、小学生あたりまでは嫌がることなく参加していたが、中高生あたりで違和感を感じてきていた。大人になると親のために行ってるような感覚だった。

●大勢で広間でお祈りする場や、信心によって成功した体験を芸能人が語るビデオレターの鑑賞会など。馬

鹿馬鹿しいし、集まってる大人たちは本当に全員これを信じてるのか？と疑問に思っていました。

●少人数の集まり。私は何も感じなくなるほど嫌だった。

●幼い頃は、当然のように信者の地域の会合に連れられていたので、強要されていたとも思わずに母親と共にその場に行っていた。

●小学校にあがる頃には、信心についてよくわからないまま、朝学校に行く前に読経をしなさいと言われてやっていた。

●中学生ごろになり、教団の活動に疑問を持つようになった。参加したくない気持ちがありつつも、家族全員で会合に参加することになっていたため拒否するのも難しく、仕方なく参加していた。

●会合参加、選挙応援、鼓笛隊。親が喜んでくれるのが嬉しかった。

●毎週日曜日に両親と共に教会に行く事が当たり前であった。そのため、強要という感じは受けなかつた。

●新年読経会。世間の初詣と一緒に思った。

●集会や信者の子どもの集まりに参加させられていた。同級生もいたので当初は遊びの延長のように感じていた。自分のもっと仲の良い友人たちはなぜ参加しないのか不思議に思っていた。だんだんと特定の家庭の子どもしか参加しないことを理解し、またあまり周りに馴染めなかつたため参加を拒否するようになった。

●キリスト教会礼拝への参加。日曜日だから休んでいたかと思う

●読経会や講演会に参加した。当時は幼かつたので拒否権は無く、うちの宗教ってすごいんだ！とっていました。

●覚えていない。

●教会へ母と一緒にいく事。よくわからない頃はなんとも思わなかつたがある日、教会長という人の所へ連れて行かれて生年月日の占いみたいな本を見ながら私の日頃の生活の事などを色々言われてからはすごく嫌になった。

●最初は嫌だったが母親の意向で参加していた。行かないと罰があるよ、と脅された。

●当時(今も?)、少年部と云う小学生の括りがあって、少年部の催し物や集会があると、上級生が複数人で迎えに来て、玄関先で行く行かないバトルで膠着状態。頑固さに負けたのか、以後、そのような誘いはありませんでした。

●毎週の教会でのおつとめ、毎日のいえでのおつとめ、月ごとの月次祭

●毎週日曜日の朝、車で教会に連れていかれ、9～10時は教会学校、10時半～12時は大人の礼拝だった。小学生までは教会学校だけだったが（大人の礼拝の間はテキトーに時間を潰して待っているしかなかった）、中学生からは大人の礼拝に出るようになった。絶対出ると言われたわけではないが、出ないといけない空気だった。大人の礼拝が終わると、みんなで昼食を食べ、午後は母が「奉仕活動」をするので、それが終わるまでまたテキトーに時間を潰して待っていなければならなかった。日曜日の朝のテレビアニメを見てみたかったし、日曜日に友達と遊びたかったけど、それは叶わなかった。日曜の午後の時間も、もっと有意義に使いたかった。たまに、日曜日が運動会などで日中の礼拝に出られない場合は、朝6時半からの早朝礼拝に連れていかれた。毎年夏休みには教団の「サマーキャンプ」（合宿的なやつ）があり、毎年意向も確認されないまま行くことが決まっていた。一度、確か小学6年生の時に「行きたくない」「行かない」と主張したことがあったが勝手に荷造りをされていた。しかも、当日の朝、やはり「行かない」と言うと、母に泣かれた。今思えばうざかったが、親に対して「うざい」と思うことすら罪だと教えられていたので、その時は罪悪感を感じた。（結局行ったかどうか、覚えてない…）

●集会、勉強会への参加。当たり前だと思っていたので何も感じずに行っていた。

●幼いときからの実家の手伝い（お参り、行事等）という名の労働。得度。修行道場に数年間滞在の強要（これについては拒否をしている）

●修行への参加。いやだったが終われば何も言われないので我慢して参加した。

●親が熱心なので参加は仕方ない

●ビックリマンのテレビが見られず残念

●キリスト教のミサのような行事。家族で行動している以上、参加しないという選択肢はなかった。

●鼓笛隊の合宿など

●会合への参加、家族全員での参加なのでそれが当たり前だし、行かない選択肢は無かった。

●中高生くらいからは面倒に思っていた。

●ミサへの出席と日曜日学校。生まれてすぐに幼児洗礼を受け、毎週日曜日、家族で教会に行っていた。教会の友達と遊んだりして楽しかったが地元の友達と遊んだりサッカーチームに入る事が出来なかった。中学生から土日は部活優先になりあまり行かなくなった。高校生からは自分の意思で全く行かなくなった。母は悲しんでいたが強制はしない。今は数年に一度父方の

法事のような時に行くくらい。告解。クリスマスの前などに罪を司祭に告白し赦しを得る。自分の自己肯定感の低さはこの体験と原罪の概念だと思っている。

●教会へ行きたくないと言っても連れて行かされました。韓国の施設へも行きました。ただ、二世の友達ができることと自らいくこともありました。

●会合には必ず参加する、長い唱題会にも必ず参加するよう言われた。とても苦痛だった。特に10時間唱題会は死ぬほど嫌だった。

●小さい時には何も思わなかったが、思春期になりよく親と喧嘩した

●幼い頃は行って当たり前だと刷り込まれていた。物心ついてからは反発しながらも、母の機嫌取りの為にに行っていた。

●行きたくない、やりたくないと思った

●お祭りに参加しなさい、という内容で、予定がないときはよかったがだんだんと部活や友人関係の用事で行けなくなると鬱陶しかった。

●支部や本部での集会の参加を強要され、小学生の頃はついていかざるを得なかったが、中学生以降は面倒になり拒否するようになった

●読経会。正座する時に足が痛くて嫌だった。また歩いて20分ほど離れたいたので面倒だった。

●とても嫌だ。でも行かないと献金をしないと親が不機嫌になって何をされるかわからなかった。親はやったことの証明も必要だと、確認しないとずっと疑って不機嫌になるからやったふりができない。つらい。

●「お伺い」という教祖との面談、年始行事に参加していた。思春期になり、色々胡散臭いと思うようになり、距離を取った。

●みんなはなんで参加してるんだろう、お題目唱和ってなんですか

●毎週の礼拝には必ず出席しなければならなかった

●週に3回の集会への出席と、親と一緒に戸別訪問に参加しました。年齢があがると退屈するようになったので、あまり「洗脳」は効いてなかったようです。

●小学生までは、親がやっていたので当然のことだと思っていたが、中学以降は違和感を覚えた

●行きたくない

●実家で会合や読経会などが行われていたので、絶対に参加しろとは言われなかったが、パーソナルスペースがなく、参加せざるをえなかった。最後にお菓子ももらえたりするので、小さい時は喜んでいたと思うが、風邪をひいた時、苦しくて部屋の隅で寝ているのに会合をしていた時は、自分が蔑ろにされているようで嫌

だった。

●2週に一回ほどの朝の子ども読経会に小学校時代は強制的に行っていた。

●月毎の参拝。当たり前と思っていた。幼少期なのでついていけない選択肢は無かった

●高校までは家族行事として全ての宗教毎に関係。当たり前のもので生活に組み込まれていた。高校から交友関係の広がりによって周りとの環境を比較し始め、自身で選択し始めた。

●集会参加[週3] 行きたく無かった

●週に3回ある集会。年に数回ある大会。奉仕活動。

●行くべきものだと

●集会への参加 奉仕活動への参加

●2016年より精神疾患で投薬中、忘れてしまった事も多いです。

●礼拝、日曜学校への参加。面倒くさいと思った。テレビ番組で見たいものがあったのでそちらを見たかった。

●家が「拠点」と言われる皆が会合する場所だったので参加は当たり前だった。同年代の信者の子どもたちも沢山来たので、親が会合している間一緒に遊んでとても楽しかった。でも中学高校大学に上がってからは部活やバイトで積極的に参加しなくなったが、親はいつも会合に誘ってきた。女子部の人や婦人部の人とも誘いに来て煩わしかった。

●アニメを見たかった、お祭りにいきたくかった、寝ていたかった(土曜日も小学校、平日は塾、日曜は教会…と休める日がなかった)

●毎週の礼拝や修練会へ参加するよう言われた。行きたくなかったが、母親に言われたので行くしかなかった。

●わたしが高校卒業して、聖教の会館に連れてかれ、入会おめでとうと入会させられた。帰宅して入りたくないと答えた。

●参加しないといけないものだと思っていた

●信者の集会の参加 人に知られたくない

●「読経会」という大きな集まりが、年始であったり定期的に地域の大講堂で催されるのですが、それへの参加は毎回強制され続けていました。他にも小さい規模の「唱題会」「集会」なるものは頻りに近所の信者の家で開かれており、何度も直接家に訪問され誘われました。私は家族の中で唯一、今もたった一人反対というか無関心●興味がない立場なので、非常に迷惑だ、巻き込まないでほしいと感じていましたし、終わりなき勧誘はとても重圧にストレスになっていました。と

りわけ自分の頭で考えるようになってきた高校生の頃は深く絶望し、信仰を強要されることが(言葉は強くなりますが)精神的レイプだ、とすら感じていました。後年になり、反発するほど自分も家族も摩擦がひどくなるので、情けない話ですが私が我慢すれば済むことと思ひ、年に一度の「新年読経会」など断るより息を止めて参加してしまった方がむしろ楽なので、支払い義務のある税金みたいな感覚で同行していました。

●うちは母のみ信者で、入信したのは私が6歳のころからです。週三回の集会と休日の奉仕活動は強制でした。他の普通の家庭の子どもみたいに自由に時間を使いたかったけれど、母に逆らえば体罰をうけるし恐ろしくて中学生の間まで反抗できなかった。父は反対者でしたが、私達子供は喜んで母についていっていると勘違いしていました。体罰はいつも父のいないときにされました。

●合宿形式の本部での研修のようなもの。断りきれなかった自分に嫌悪感

●月に1~2回の会合に参加していた。面倒臭さから行きたくないとは思っていたが、会合自体は嫌な雰囲気ではなかった。

●集会という、地域での教義の学びの時間。平日の夜2~3時間。幹部のビデオレターや手紙?を読み上げたりするのを置に座ったまま静かにしながら聞かされる。もしくは大人しく過ごさなくてははいけない。体験談を聞かされる、話さなきゃいけない。集会ではたまに何か芸事(歌やダンス)を発表の場として披露しなくてははいけない、そのためにも練習をしなくてはいけない。元日は新年読経会?みたいな物に行かなければならず、地域の団体の会館で集会みたいな物を聞かされるうえに、知ってる人に会うと近況を聞かれたり会話をしなくてははいけない。とにかく、親のメンツがあるので他の信者との関わりなど行儀良くしなくてははいけないし面倒くさい。やりたいとは一度も思ったことがない。自宅で集会を開く際に信者の子供らも来るので、面倒見たり仲良くしなくてははいけないし、プライベートな空間を侵されて、不愉快だった。また、大人たちは声を掛けてくれるがそれ自体が求めていないので、面倒なコミュニケーションを強いられていてストレスだった。教義の勉強会をするからと連絡を頻繁超越されるので、一度は顔を出さねば済まない。そのために勝手に連絡先を共有されるので非常に不愉快。

●日曜などに礼拝に行くこと、青年会への出席。テレビが観られない、出かけられないなど自由じゃないと思った



- 小学校でのお祭りを欠席させられた。他の生徒が参加しているのを見学させられて、奇異な目で見られるのが悲しかった
- 深いことは考えずに、ただ母親が朝起き会へ行くのが楽しそうに見えていた時期があつてついていっていた。信者の人が主宰するフラワーアレンジメントをする会みたいなのにも毎週日曜日についていった時期があります
- 毎週の礼拝
- 集会、募金活動、児童会
- 講演会に連れて行かれました。そのため、子供時代の休日の思い出がほとんどありません。
- 集会への参加など。物心つく前からなので疑問には思わなかった。
- 行けと言われて無理矢理というより、一緒に行くものだと思っていた。ご年配の方に可愛がられて嬉しかったが、それゆえに同年代に虐められた点は辛かった。
- 集会(週3回)に出席する事。興味がなく講演が頭に入らないのでただただ退屈で暇で眠かった、むしろ居眠りに行ってたようなものだった。
- 信じている人だけ参加すればいいのに一という気持ち
- やりたいことがあっても行かされていたので嫌なこともあった
- 大会への参加。教団の偉い人の講演を聴きに行くのだが、自分はあまり集中せずに早く終われと思いがらひたすらボーッとしていた。
- 毎日の祈り、日曜の早朝の祈り、日曜礼拝、長期休みごとの修練会と呼ばれるセミナー。
- 精神不安に追い込む勢いでしつこかった。
- 朝夕の読経や集会の出席など
- お寺に参詣して読経すること
- イヤな気持ちになった
- 月一回程度の集会、月一回程度の会合
- ▶月1で開催される地区の「集会」に一緒に参加した。▶「同時中継」という幹部の人が集まる会の録画を、地域の会館に一緒に見に行った。▶「少年少女部員会」という子どもたちの集まりに参加したり、教団が運営している地域の合唱団に入団した。
- 教壇施設での年始の集まり。本当に行きたくなくて体調が悪くなったことも多々あった。
- 集会や同時中継 御書の勉強など
- 日曜とクリスマス、イースターの御ミサ
- お祈りをして講義を聞くだけだが遠いので面倒だった。
- 毎月の集会など。
- 集会への参加。参加しないとヒステリックに暴力を振られるので仕方なく
- 会合
- 集会などへの参加、奉仕活動、部会活動、学生になってからは友達との約束を優先したく、また断る理由を隠していることにも窮屈に感じていた。
- 毎週日曜日の礼拝、遊びにも行けず面倒だった
- 行きたくなかった
- 新年の集まりは必ずつれていかれました。めんどくさかったです。
- 地域大会の参加
- 習い事に行く感じ。特に嫌だとも思わず。お友達と遊んだり大人と話すのは楽しかった。
- 突然家に訪問してくる女子部の人と話をしたりしないといけないうのを母親に強要されたのが思春期の頃は特に嫌だった思いが強いです
- 小学生の集まりがあり、親に連れられて参加していた。幼馴染も信者家庭だったので、「そういうものなのだ」と疑問などなく参加していた。
- 毎週日曜日の礼拝、面倒だった
- 物心つく前から、それが一番重要な事と言われて育った為、参加しないという選択肢は無かった
- うる覚えですが週に何回か教団施設にいき、お布施をして教団の人達にお祈りをされる行事がありました。小学生の時はそれが普通だと思って何も考えず参加していました。中学生になり何かおかしいと気づき、そこから参加することが苦痛になりましたが、嫌だと言えず参加していました。高校生あたりから、行きたくないと言えるようになりましたが、何回か騙されて連れて行かれたこともありました。
- 騙されて連れて行かれた時は、本当にきつくて悲しくて、母にとって私はただの駒なのだと、私の意思はそこに存在しないのだと痛感しました。"
- 参加するもんなのかなと感じました
- 日曜は両親とも教会へ行くので、まだ信仰を持っていなかった小さな頃から連れて行かれていました。教会には同じ年頃の友だちもいたので、そういうものかと思っていました。
- 読経をしたくないと言ったら父に殴られた。
- 自宅敷地内に教会施設があったのでお手伝い感覚で協力を求められた
- 定期的な集会への参加。綺麗で優しいお姉さんが定期的に会いに来て話をしなければならぬ。その流れで誘われて無碍にもできず行かざるを得なかった。面

倒くさいなあと思いながら仕方なく参加していた。

●親が言うから参加した

●自分自身は末っ子で、親もきょうだいも何も言わずに参加していたので何も思わなかった。

●合唱団、会合への参加やりたくないのに親や周りが言うからやらなければいけないと思っていた。

●定期的に行われる集会や信者の子供が集まるイベント、お正月の謹行会など。面倒くさいなあと思っていました。高校生辺りから親も強要しなくなりました。

●毎月、同時中継と言われる会が行われています。会館に集まり、大きなモニターで、幹部が集まる会合の様子や教団リーダーの話を聞いたりします。行っても面白くないし、つまらなかったの、「めんどくせー」と思っていました。

●巡回大会 せっかくの遠出のお出かけかと思いきや宗教活動の一環で、二、三日つまらないことに付き合わされるなあと思っていた。

●親も参加してますし、組織の中で同世代で参加してる人も多かったから違和感はありませんでした。

●大人になってから、資格みたいなものを取れといわれて講義を数回受講した。祖母孝行だと思って参加した。親を大事に。周りを大事にというような道徳の授業に近いものなので特に苦もなかった。

●会合への強制参加

●信仰心のかけらもないのに参加したところで意味があるのだろうか。でも、参加しないで家族仲がゴタゴタするのも面倒。

●今思えば強要だったが、当時はごく当然のこととして受け入れていた。中学生、高校生となって広く情報が得られるようになってからは、不参加を表明、それに対する強要はなかったが、とても残念に思われることは、自分が間違っただけの行為をしてるかのような思いにさせられて、ある種のストレスだった。

●強要というより、休日に集まるから一緒に行くという感じです。行くのが当たり前だと思っていました。

●小学生のうち教会の行事に参加することが当たり前だった。毎週日曜日はバスに乗って教会まで行っていた。夏休みの修練会が嫌だった。韓国に行き教会の本部があるところに行った。朝早くから遅くまで祈禱してしんどかった。信者があつまって寝袋で雑魚寝していて嫌だった。その時は行くことが当たり前で強要されたとは思っていなかった。

●集会に連れて行かれる、行けと言われる。

●ご大祭にお参りすること、小さい頃は親戚と会えて楽しかった。

●高校の時に教団内のランクアップ試験の受験に勝手に応募された。この頃から教団に関わりたくなかったので反発して大喧嘩になったが、結局世間体を理由に受けざるを得なくなった。

●休日には母から集まりや行事に参加するように言われました。とても良い教えだし、母自身がそれで救われた経験から娘にも話を聞かせたいというのが半分、周りの教信者の方は家族で参加されていたので我が家も参加しないと申し訳ないという後ろめたさ半分だったように思います。

●教団代表や幹部の話や信者の体験談を聞く。新年に集会所へ行ってお経をあげる。地域組織の集会への参加。教団の終えや歴史を問う試験の受験→自分の考えとは沿わず、教えに納得ができなかった。

●練成所でのセミナーのようなものに放り込まれた。集団も知らない人もその頃は苦手だったので凄く嫌だった。地獄。

●その他は支所？で行われていた先祖供養。これは祖母に連れられて、皆でお昼作って食べてお経をあげるだけなのでなんとも思わなかった。

●週3回の集会や、年に何回かある大会への参加。中学に上がる頃から、つまらなかったし学校の勉強をしたかったので行きたくなかった。

●毎月、式典のある日が決まっていて、それには必ず参加していました。しかし、強要、というのは言葉が強すぎます。当たり前のこととして私も捉えていました。

●自宅や他の信者宅での集会。子供だけのグループ発表や歌の発表もあり、別日に集まっての練習もあった。合唱団への参加。これは強制というより誘導され楽しそうだったので参加。地域全体の会合、信仰体験の発表。教団の記念日、正月などの集まり。選挙時の10時間唱題会。小さい頃は、自分が世界平和の一端を担っていると信じていました。小学校高学年から違和感を感じ始め、坂を転げ落ちるように拒否感が強くなりました。

●毎週2回約2時間会館に集まる集会と週1回夜に個人宅での集会参加→集会への出席のみならず、事前の勉強や寸劇の内容を用意したりしなければならなくて、集会参加を中心とした日常生活のリズムになっていて自由がなくて嫌だった。特に夕食の後、集会へ向かうため、急がされるのがいやだった。子供だったので、日によってはなんとなくだるかったり、うまくはやく支度できないこともあったし、とにかく義務的に行くしかない日々が嫌だった。他のことをしてみたい

なと思っていた。年1回主の記念式→記念式用のビラを特別にまた配布しなければならぬので、また、やるが増える。年2回春秋(?)の巡回大会と夏の地域大会参加。大会では喫茶などの手伝いもしました?→バスに乗って移動するのも辛かったし、朝から晩までずっと拘束されるのが嫌だった。ここでも寸劇的なことをやるので、前もって準備したりで大変だった。親が長老、監督だったので、どちらも模範を示さなければならぬと嫌だった。特に父親は家では怒りが止められず、また体罰が厳しかったので、外で模範的な家族を演じることも、家庭内で聖書研究を厳しくて求められるのも辛かった。野外奉仕活動(伝道)→一軒一軒個別に自分の住む地域の個人宅を訪問するので、同級生の家にあたって、変人と思われたり、噂されていじめられるんじゃないかと本当に神経をすり減らしていました。とにかくどうか休みたかったけれど許してもらえず、なるべく誰にも見つからず、同級生宅に当たらないように祈る気持ちでした。日曜はとくに集会が終わって、急いで昼ごはんを食べて、午後には奉仕だったので、日曜が来るのが悲しかった。日曜の朝、布団の中にゆっくりとしていたかった。庭でのんびり過ごしかった。研究生との聖書研究→書籍や雑誌を使って教える聖書研究は、本当は自分は心の中では信じきれていないし、嫌だなあと思っているのに、教義を教えなければいけないという矛盾した心の状態が負担で、とても、憂鬱でした。そのための事前の準備にも時間が必要で、研究生を待つ(担当する)ようになると、ますます学校以外の時間が活動にさかれるようになり、さらに模範とならなければいけないので、時間の面でも、心の面でも自由がなくなった。自由にのんびりする時間が欲しいな、ひとりになりたいな、と思っていた。

●聖書の勉強会、当時はそこまで苦痛でもなかった。

●集会、体験発表、会合への参加。家族で行くので、出席するものだと思っていた。

●選挙活動

●産まれた時には何かしらの儀式に参加させられていた

●毎日の道場通い、地域道場の祭祀のご奉仕、夜行バスに乗って本山参り、住宅街への飛び込み勧誘

●「洗礼」洗礼を受けないと地獄行き●世界の終末が迫っている…脅しのような、選択肢がない状況、信仰がよくわからないまま「信仰の証明」とも言える「洗礼」を受けるという「うしろめたさ」しかないのに、従順に従って「喜ばしい」という表面を保っていました

●当時は当たり前だと思っていたので、それほど抵抗はありませんでした。

●年間行事、教会にお参りに行くこと。中学生くらいまでは出かける際に外食など出来て嫌ではなかったが、高校生になってからは親と出かけることに気恥ずかしさを覚えるようになり、また集まりや行事内容にも関心が持てず苦痛になってきた。

●怒鳴る、厳しく叱責する、腕を引いて無理矢理連れて行くなど。小学生頃からは行きたくないと言っていたが、泣きながら連れて行かれたこともある。親が離婚してくれれば信者でない父親についていくのに、と思っていた。

●未来部、女子部の会合への参加

●教団の集会への参加と社会奉仕活動の参加の二点です。

●親に集会に参加するよう強要され、反発して一時その団体から離れた。

●強要されていたと言う認識はなく、自分からしたくないと思っていた。

●週3回(平日夜2回、日曜)にある集会への参加、集会の為の予習、週一回の個人研究(勉強の事)(年上の若い同性の人と一緒にやる)。家族での研究(勉強)。予習を除くと週に5日の研究(勉強)時間の確保。その他、奉仕活動(家から家を訪ねて布教活動)

●週に3回ある集会や、年2回ほどの(2日間や3日間)地域の大会(大きな集会)で、朝早く起きなければならない日、夕食の時間帯に行われる日、などバラバラで単純にめんどくさかったし、集会中に居眠りすると怒られるので学校から帰宅後眠れもしないのに昼寝をさせられたりして憂鬱だった

●行きたくない

●毎週、日曜日の午前中、集会に連れてかれていた。幼かったので、塾みたいな場かなと感じていた。でも、1時間正座しての読経はキツかった。すべてが終わるとおやつを貰えるのでそれを楽しみにしていた。

●週3回ほど集会に参加。布教活動への同行

●毎月2回教会へ行くこと、年に1~2回本部へ行く。辛いが母親が穏やかになるなら仕方ないと思った

●少年部の参加から、選挙活動、独立後は新年読経会に連れて行かれる。

●行かないと怒られる。強制的

●家が教会だったので、全て参加するものと思っていた。他の生活を知らなかったので疑問も持ちませんでした。小中学生の頃は任意での参加になっていました。

●「まず親に感謝、親にハイの返事」と教えられ、そうしなければ、次に繋がらないと教えられ、疑問もなく、それを信じていた

●毎週の礼拝への参加(水土日)。1.の時期連れられていた頃は礼拝中同年代の子と遊べて楽しんでた。2.からは学校の友達と遊ぶ時間が削られて行くのが嫌になった。全国規模の礼拝への参加(年に2~3回)。東京や関西などで開催される全国の牧師、信者が集まり、2~3日朝から晩までである礼拝に参加していた。4.5.の時期は「行くからね」と確定事項として言われるのが嫌だった

●内容:集会。感想:行くのしんどいしニコニコ座っていないといけないからほんとは行きたくない。自分のための時間に使いたって特に受験生の時は思っていました。けど行かなかったら親が不機嫌になるため自分が座っていたら機嫌取れるから仕方なく毎回行ってました。

●会合。めんどくさいなと思った。

●全世代の信者が集まる「集会」、小学校●中学校など年齢別の信者が集まる「部員会」、全国幹部の指導などが行われる「本部幹部会」の同時中継への参加は促されていました。参加すること自体を特に嫌だとは感じていませんでしたので、今でも「強要」とまでは言えないと思っています。それぞれの会合で出会う信者の皆さんは親切で優しくかったですし、会うのが楽しみな人もいました。ただ、信心の目標を発表するよう促されることは時々あり、あまり言いたくないと感じる時がありました。

●日曜日の礼拝や、教会の行事。小さな頃はそれが当たり前だと思っていましたが、中学生になって、教会に通うことが嫌になった。

●毎日朝晩のお参り、行事(参加対象年齢のときは参加を、対象外年齢になったら引率や現場スタッフを)、年齢別、性別ごとの行事。本部主催の地方ごとによる行事。

●人の家で集まって集会が多かったです。男子部、女子部や子供だけが集まる集会もあります。集会はお題目をあげたり、教えなどが書かれた冊子(定期的に発行されてる)を読んだり、教団トップのビデオを観たり。選挙時期は誰が何人に(投票を)お願いしたか、また投票所まで連れて行ったかなどを話しています。たまに友達を連れてきた人、連れて来られた人を冒頭で紹介されてました。また、小学生までの合唱団が地区にあり、入団されました。合唱団は友達が全く居なかったので入団は本当に嫌でした。中学生になると女子

部の集まりがあるから参加しないか?と家を訪ねてくる事もありました。個人的に断固拒否したのは、夏の勉強会。よく覚えてないのですが、何年かに1回しかなく、貴方の姉(歳が離れています)も参加していた。だから参加しようよ。と母親と女性信者の方に説得されました。ですが、その時は社会の授業やネットの情報を得て、教団に凄く嫌悪感が出ていた為に2人の前で大泣きして行きたくない!と強く言い断りました。私の場合、何も分からなかった小学生時代までは当たり前のように集会やイベントに参加していたので、退屈に思う事は多々ありましたが嫌な気持ちはありませんでした。周りの方も(少なくとも私の前では)とても良い方で嫌な人はいません。中学生になり知識もついできた所で拒否反応が急に出てきた感じです。

●嫌だった

●強要と言えるか分かりませんが、毎週日曜日はお寺に行っていました。日曜日に友達と遊ぶことは考えませんでした。

●週3回の集会への出席と個人宅への勧誘

●自分自身が洗脳の中にいたのでそこまで強引なものではありませんでしたが、車などで行事に連れて行かれました。それが当たり前だったので風邪でも引かなければ遊んでいたくても、行くのが当然だと思っていました。

●集会とって題目や法華経を唱える。体験談をきく。教団トップ先生のお話を教団新聞やその他から紹介

●親に伴われての行事は当たり前になっていた。まれに不参加を希望した際は、母親がヒステリックに怒り出した。独立する意欲もなく、従うことを当たり前とした。

●募金活動、礼拝への参加等。教会新聞の配達に車を買った(当時ウチは貧乏だった)、その車で他の信者の移送まで請け負う。たまに子供の友達を誘っても行く先は教会のイベント。子供と遊ぶ時間を作らず活動に没頭している母は、学童の目から見ても異様だった。

●儀礼の参加

●毎週日曜の礼拝やクリスマス、元旦の礼拝には必ず参加しなければならなかった。子ども礼拝が終わった後も大人の礼拝やその後の委員会や交流会が終わるまでは子どもだけで帰ることもできず(遠方で家族で車で来ていたので)週に一度の休みが教会の集会や行事で奪われているように感じていた。同年齢の幼馴染何名かいたので、みんなで教会周辺で遊ぶのが楽しい時期もあったが成長するにつれそれぞれの信仰心にも度合いの差が生じ始め孤独感を感じることもあった。

●教団への信仰心が疎かだと言われて 本部の団体参拝を強要。家を離れられない父の代わりに仕方なく参加。

●週3回の集会、土曜や日曜の奉仕(布教)、強要というか行くのが当然だった。嫌ではあったが仕方ないと思っていた

●読経会への参加、イベントでの合唱を求められた。お菓子がもらえるから行っていた。

●毎週日曜日の礼拝の参加。子どもの時は面倒に感じる、友だちと遊べないなど不満に思うことはありました。それでも、教会に友達がいる会えるのを楽しみにしていました。

●あまりよく覚えてないのですが、同じ地域に住む信者の子どもたち数人と女子部(成人女性の所属先をさす)の担当の女性数人で担当女性の家に集まり、レクリエーションをしました。そのときはクリスマス時期だから、リースを作りました。その後、教団トップ先生の素晴らしいお言葉を教団新聞か冊子から紹介したものを聞かされ、読経(正座してお経を唱える)をして、解散したと思います。私自身、人見知りがあったのでそういう行事には参加しなくなかったのですが、断るに断れず参加して居心地悪かった記憶があります。ネガティブな言葉がけはありませんでした。

●最初は青少年だけで集まるレクリエーション。徐々に宗教色が強くなっていった。10代の頃はいつでも離脱できるよう、誰とも深い話はせず連絡先も交換しなくなった。成人する時に、自分には信仰があったほうが良いと判断して活動すると決めた。

●教団の会館や信者の個人宅で毎週開かれる会合に連れて行かれた。大先生の演説を録画したビデオを見せられていたが、つまらなかったで早く終わらないかと時間が早く経つのを期待していた。

●お祭り、鼓笛隊、お花を壇上に飾る、広島に行って戦争体験者の話を聞くなど行けば同い年の友達がいいたので部活みたいな感じで楽しくやっていた。

●草むしりなどのボランティア活動や本部への参拝に親に連れられました。子供(小学生くらい)のころは楽しんでやっていたましたが、中学生になるとめんどくさくなり、また他人の目も気になりました。

●近所の同じ宗教の子供たちが集まる会に月1で行かされた 中学からは部活を理由にあまり行かなくなった お菓子もらえるから行っていた

●生まれたときから集会、地域での勧誘活動への参加は日常生活の一部というか中心だった。幼い頃は自分のコミュニティのなかで活躍することに喜びを覚えた

時期もあったが、徐々に宗教活動に参加しない自分の男兄弟と女であった自分への母親の対応が違いすぎることに違和感を覚えはじめた。

●毎朝の集会と月に一度行われる学生向けの集まりの出席。親が喜ぶならと疑問を持たず参加していた。

●集会や教団リーダーのビデオを流したり泣きながら体験発表する集会に強制参加させられ、行かないとそのせいで不幸になったと言われた。小学校でイジメにあったが、読経が足りないせいでと批難され、全く味方になってもらえなかった。選挙に行かないと不幸になると責められ、監視員が選挙に来なかったと母に告げ口したことで責められたりした。その結果、長くて辛いトラウマとの闘いに苦しみ、教団と党を含めた新興宗教団体が嫌いになった。

●親は子に従うものという意味で、親が出席する宗教行事には必ず連れていかれていた

●12歳ごろまでは楽しんで参加していたが、中学生以降は行きたくないが行かないと親が怒る、悲しむことを理由に反対できなかった。

●小学校時代は親の言うまま。中学以降、周囲の生活が見えるようになってから、特に信仰に熱心な母親、祖母に違和感をおぼえるようになって、それからは参加したくないと思うようになった。

●会合に物心つく前から連れて行かれていた。それが当たり前だった。小学校になってから少年部に近所の拠点になる信者の家に行くようになった。〇〇部という区分けがあり、それぞれの活動があります。

●ごく幼い子どものころは誇らしく思っていましたね。集まる人にお茶だしして可愛いと褒められて。男の子は働かなくて良かったとあとで知り、おじさんたちの好色発言などですぐに嫌になりましたけれど。

●会合への参加や選挙応援の参加、覚えてはいるが七五三の集まりなど。断ると承諾するまでしつこく呼ばれたり、機嫌が悪くなったりするため諦めてついていた。行事の予定を入れられるとそれに合わせて自分のスケジュールを組み直さなければならず、それが嫌だった。

●集会、信仰の強要。反抗期の年齢に嫌気がさして、以来いずれの信仰行為も拒否する

●毎週の礼拝には家族で出席させられた。好きではなかったが特に抵抗はしなかった。

●月1の地域の会合への出席は嫌いではありませんでした。同じ信仰の近隣の人たちとの助けあいも、いろんな家庭を知ることができてよかったと思います。高校生になって地域のリーダーをやらされたのが嫌でし

た。よく知らないメンバーのところ連絡に行かなければならないとか。大人になってから自閉症とわかりましたが、それもあって、つらかったかも、と思います。ただそれが、信仰者として駄目、というより、人として駄目、と感覚されるのが、きつかったです。

●近所の信者の家へ月一くらいで集まり読経や勉強会を行うものや正月に初詣の代わりに会館へ行き読経する会、年に数回会館で啓蒙ビデオ的なものを見る会など/小学生まで他の信者の子供と遊ぶために参加していたが、中学くらいからは宗教のことも分かり、教義に共感できなかったの親に連れられて仕方なく、時間の無駄で嫌嫌参加していた

●日曜礼拝参加

●読経会、集会への参加。強要とまでは言えない程度の要請。熱心な信者が集まると高揚感や連帯感で勢いを感じることもあるが、その人が過ごしている日常を見かけた時、焦燥感や悲壮感を感じることがあり、集団心理の怖さを見た気がして、同じようになりたくないと思うようになった。

●行事の際に本部に参拝するために家を開けるので、ついて行かないとご飯も食べれない

●当時は身体的な負担以外はあまり感じていなかった(中学生以降は反抗して行かなかった)

●居住地域への布教活動、毎日教典を読んだり神に祈ったりすること、集会に参加する、集会で学んだことの発表行う

●道徳心を学ぶような内容の勉強会。面倒だし全く聞く気にならなかった。

●「新年の集い」というもので正月に支部へ行って教祖の話を聞くビデオを見たり決まった文言を全員で唱えたりする。退屈で形式的なものだと感じて内容は頭に入れずに参加していた。

●創立記念日、正月などの読経を会館へ。子どもの時からだったので最初は普通に受け入れていた。

●お正月や七五三の時は教団の施設へ連れて行かれた

●盆、暮れ、正月、彼岸の寺の手伝い。長期休暇は友人グループで集まったり遊んだりする誘いを何度も断った。寂しくやるせなかったが、仕方がないのだと思っていた

●集会や映写会。発達障害児だったので(当時は判明していなかった)集会が苦手でした。周囲の信者の方達が非常に熱心で、気後れというか、後ろめたさも感じていたと思います。

●それ以外の習慣がなかったので、子供では判断不能

●講演会

●会合。他の予定をキャンセルして参加させられた。

●強要とまでは言わないかもしれないが、用事がなければ子供の集会に参加しなくてはいけなかった。4年生の時にサッカー一部に入ってから、週末の試合や練習を理由に行かなくて良くなって嬉しかった。

●教会に行かなくなったあたりから、日曜礼拝に参加するよう毎週言われていた。一度、母と兄に手足を持たれて玄関まで連れて行かれたことがある。自分の気持ちを蔑ろにされたようで悲しかった。

●毎日曜日の礼拝に出席すること。ハイティーンになるにつれて、だんだん辛くなってきた。

毎週の奉仕活動や集会、自宅での聖書研究の強要。小学生位までは「神様が喜んでくださる」と思っていたが、成長するにつれて「学区内での奉仕で同級生に会いたくない」など、活動に参加するのが辛くなった。

●強要されたことはないが、母親が行事へ参加するために、私も何度もつれていかれた。

●毎週礼拝に出席するよう言われていました。小学校6年生の時に憲法を少し勉強して、私には信仰の自由が認められていないのではないかと思ったことを覚えていています。

●読経会、めんどくさいと思った

●会館に集まって読経をあげるもの。行きたくなかった。

●集会への参加：面倒だけど、行かないともっと面倒なので行く

●幼い頃からビデオ放映(月末に行われる総幹部会の様子を見るというもの。内容としては信者の方々の体験談や今後の抱負●先生のご指導)や日曜読経(毎週日曜日に信者が会館に集まり一斉に読経をするというもの)など宗教関連の行事に参加するのが当たり前だったため、特に何の違和感もなかった。当時は強要とすらも思わなかった。

●月一回の幹部会全国同時中継と集会。新年読経会。ひたすらごねたけど連れていかれた。楽しみにしていたテレビが見られない。

●親戚全員が参加するので参加しないと、母が白い目でみられ、後ろ指を指される。母は私を行事に参加させようと怒鳴る、たたく。怖いから行事に参加する。小さい頃から行事に参加させられ続けた。家に帰りたいたいと泣いたら怒鳴られて怖くてたまらなかったし、なんて悪い子供なんだ、こんな子供見たことない、おかあさんの子供ではない、知らないなど言われ、悲しくて悲しくて母に嫌われたくなくて泣いてごめんなさい許してと懇願した。出たくないと話したら叩かれて理

不尽さに腹が立った。

●三杯敬礼（日曜日の朝5時に起きて、宣誓唱和、聖歌、祈祷、茶話会など）、訓読会（教祖のみ言を声を上げて順番に読む会）。

●物心ついた時から日曜日の朝5時に起きて、三拝敬礼させられた。少し大きくなるとそれに加えて訓読会（教祖の御言葉を読む）。夏休みや冬休みは1~2週間修練会に参加。

●高校の時に初めて韓国の清平で修練会が始まった。寝る場所もなく寝袋で雑魚寝。お風呂も入れない劣悪環境。夜一睡も出来ずに帰りはフラフラで電車の中で立ったまま眠った程だった。辛かった。

●家から家に宣教する奉仕活動や 週3日の集会●集会の予習や復習●祈ること●世に属すると組織が判断したものから距離を取らせられる（テレビ●漫画●ゲームの禁止）。逆らう●嫌がる●うたた寝してしまう●などは全て鞭の対象でした。夏休みも冬休みも楽しいことより辛いことの方が多かった。

●布教所での集会への参加。宗教団体の偉い人や信者の話を聞いたりお祈りをしたり。幼かったので特に感想はない。親のする通り、言う通りにしてただけ。

●週3回の集会と、年に何度かある大会への出席。全て非常にストレス。大会中に胃痛が治らなくなったこともあった

●強要されたことはないが、「行くもの」と思って一緒に参加してきた。行けば地域の信者が親身してくれて、やや退屈ではあるものの、決して苦痛なものではなかった。

●日曜日 早朝5時の礼拝 大変しんどかった

●神様以外の偶像崇拜は禁じられていて、他のものへの崇拜と教団が判断すれば、その行事への参加は禁じられた。

●クリスマス、誕生日、国旗国歌、など"

●月並祭（最寄りの集会所での月次定例集会）、月始祭（本山での月次定例集会。全国から高速バスで集う）

●地域の集会への参加。あまりに幼い頃から参加していたので疑問に感じた事もなく、逆に成長してから刷り込む対象としての都合の良さに漬け込まれたなど感じ、現在の不信感の元の一つになっている。"

●総本山への登山。少年部、集会への参加、合唱団への参加。そういうものだと思っていた。絵本があって読めたりしたので、わりと楽しんでた。

●中学生くらいまでは当たり前だと思っていたし、何の疑問にも思っていなかった。成長するにつれて考え方が異なるから会合や読経会に行きたくないと思うよう

になり、高校生の頃に拒否をしたところ一番信心が深い祖母から「なんでそんなこと言うの」と泣かれ、母からも「正月だけでいいから出てほしい」と言われて仕方なく正月だけ出たが、会場に着くなり嫌すぎて吐きそうになりながら終了の時間までトイレに籠った。

●正確には強要というより当然行く事になっていたという感じ。行きたくないと言えば行かなくてもよかった。

●幼い頃はそれが普通。思春期の頃は拒否感。しばらく拒否を表明。

●法話や説法、講演会などへの出席。ただ話を聞いて帰るだけの会。幼い頃はよくわからなかったが、思春期を過ぎると、耳触りのいい話ばかりだけど正しいのか？と疑問に思い始めました

●日曜日の集会。音楽祭、文化祭等の参加。選挙戦。勧誘。御書の勉強。

●物心ついたときからあったので何も感じていなかったが、小学校中~高学年から違和感を感じていた。行かないと母親から怒られるので渋々行っていた。養ってもらっているし、実家にいる間は従うつもりだった。信じているのか信じてないのかよく分からなかった。遠回しに担任の先生に質問したこともあったが遠回しすぎて有益な回答は得られなかった。決めるのは未来へ後回しにするという選択をした覚えがあります。

●週に2、3回集会への参加があり、集会のために予習復習も必要でとにかく忙しかったです。宣教奉仕活動で家々を回ることも多々ありました。強要というほど強いられたい覚えはあまりないですが、子供だったので親に逆らうという選択肢はなかったです。体罰も当たり前前にありましたし。

●集会に参加しろ、選挙で支持政党と支持政党の議員に投票しろと言われ、選挙の当日まで2週間ほど毎日教団信者たちが訪ねてきた。試験勉強中だと言っても、絶対行かないと言っても来た。その事で母親からもしょっちゅう電話がかかってきた。

●学業との両立がとにかく時間的、体力的にハードでまともな睡眠時間の確保も難しい環境だったので、いつもへとへとだった。嫌と言うことすら浮かばない境遇だった。

●定例会合への参加：面倒だった。新年読経会への参加。年に一度の参拝：家族旅行などしたことはなかった。年に一度の寺行きのドライブは楽しかった記憶がある。映画「星の子」にも似たようなエピソードがあり懐かしく観た。

●定期的に行われる会合、会合内での発表や合唱、文

化祭での鼓笛隊、宗教検定のような理解を深めるための勉強会や試験小学生の頃は沢山ありその度にやりたくない、参加したくない気持ちでいっぱいだった。

●うるさい

●行きたくないと言っていると、行くまで説得させられた

●月一回の祭や年一回の大祭に参加を強要された。父親には信仰を隠していたので、嘘をつくのは自分だったこと、それがバレたことを考えるととても嫌だった

●日曜朝の教会学校。自分の家庭だけ、日曜わざわざ早起きして教会に行かないといけない。

●15歳の成人式の儀式に参加した。私は当時は本気で信じていたので嫌ではなかった。仕方なく参加しているように見えた男の子も居た。20歳以降、同世代の現役信者の人はほとんど見掛けなくなった。熱心に信仰しているのは上の世代の人が殆ど。親の為に信者籍を入れたままにしている二世の人が多と思う。子供が熱心に信仰する事が一番の親孝行なのではないかと思ってしまう。

●行きたくないのにしつこく促されて不快になり、都度口論となり険悪になった。結果的に高校に入る前の年齢で、自ら籍から外れ、一緒に住んではいたが家族との戸籍上の縁を切った。

●世の親友や仲間ができなくて辛いと思った！

●強要というほどではなかったが、「神様のところに(家族みんなで行くよ。(宗教施設へ行って祈願)」と言われても私は興味が無いので「行かない」と言うのと「行かなきゃダメだ」と言われた。でも行かないと言ったら別に強要はしてこなかった。小さい頃はなにもわからないので親と一緒にいるが、中学生になると単純に興味が無いので行かなくなり、20歳の頃にアッって宗教なんだと気づいた。

●幼少期は当たり前だった。教団の教えが世間の役に立ってないと思いついた時点で疑うようになったが疑っている自分が同時に間違っているのではと恐怖を覚えた。

●伝道、集会参加は義務。14歳までは当然のこととして受け入れていたが、14歳で信仰を失い、以後1年間ほど伝道は免除されたが集会参加を強要された。

●そのグループの会合で、特に否定しなかった

●毎週2,3回の集会(平日夜、週末昼)、年数回の大会(2,3日連続、朝9時頃~夕方4,5時頃まで)には有無を言わず連れて行かれました。大会は学校を休んで行く必要があることもあり、テストを受けられず別日に別室で受けたことがありました。興味のない話を長時間聞く必要があり、しかも聞いていないことが親

にバレると叩かれるためしんどかったです。

●個別伝道活動(毎月数十時間)、集会への出席および予習復習(週3回)、親との聖書研究(週1回)、大会への出席(年数回)、キリストの記念式(年1回)。それらの行事に参加するため、学校を休むことについて先生に説明することを強要された。また学区内で個別伝道をする場合、同級生や知り合いに会い、つらい思いをした。

●土日に教団施設に連れて行かれ説教を聞いた。物心ついたころからそうだったので、断ることもできなかった。

●当たり前の事だとも思っていた。

●運動会の応援合戦に参加できないこと。祭り行事費参加できないこと。

●小学校の頃は、自分の意思を確認されず勝手に親に連れて行かれた。担当の人が訪ねてくると、来てるよ、と会うのが当然の扱い。近所の親戚の自宅が会場だった時期もあり、遊びに行く感覚で低学年までは何とも思っていなかった。高学年になる頃、教団の悪い噂を聞くようになると同時に日頃から夫婦喧嘩が絶えず、学校で必要な物も用意してもらえず、ずっと狭いアパート暮らしで金がないが口癖の母親の姿に、教団で言ってる事との矛盾を感じ、反発心が芽生えはじめた。しかし逆らうと怒鳴られ殴られたのでイヤイヤ参加。中学から成人するまでは部活やアルバイトを理由に、一切の会合を拒否。担当者もいなかったのか、その期間は教団には近づいていない。

●文化祭(北朝鮮の盛大なイベントのような感じ)の参加→当時は疑問に思うことなく従順に望んでいた。

●「式があるから、ご奉公しなさい」。言われている時はそう言うものだから疑わず参加していた。

●信者の体験談を話す集会のようなものに行った。教団からの強要というよりは、母親が参加するために、子ども達を連れて行っていったというかんじ。体験談の内容は信仰したことで救われた話で、母親が体験談を発表するときは、家でタイムを計ったりして練習に協力した。あまり行きたくはなかったけど、お弁当がもらえるので、それだけを楽しみに行っていた。

●別になんとも思わなかった

●礼拝に行かないなんて悲しいと言われた

●行きたくはないが行かないと親に叱られる

●小さい頃は行事等行くのが当たり前だったので特に何も感じませんでした。高校生ぐらいからは行事等行くのが苦痛でした

●嬉しいわけでもないが、嫌でもなくそういうものだ



と思っただ。

●日曜日は絶対に教会優先。部活も行ってはいけない、学校行事も休んで礼拝に参加するのが良いことだ、と教えられてきた。怒られるのが怖くて行きたくない、とは言えなかった。

●年一回の行事で、こういうもんか思っていました。

●笑顔で話し合う子供会に無理矢理参加させても全く意味がないし、むしろ根性が悪くなっていく一方。親が馬鹿だと大変だと小学生の頃から思っていました。

●集会、大会、主の死の記念式など「参加しない」という選択肢があると考えたことすらなかった

●伝道、集会、大会、仲間の信者を食事に招いたり宿泊させること

●月に一度の宗教行事や年始のお詣りなどあったが、「家族の行事」と思っていたので参加することに疑問を持っていなかった。中学高校になってからは、部活や友人との約束があれば、そちらを優先して良かったので強要された記憶はない。

●嫌だけど仕方がない

●集会に出席して注解までしなければ鞭で叩かれ、食事も与えられなかった

●集会少年部のイベント寺参り。入信しない人への誹謗中傷が聞くに耐えない。醜い。有無を言わせない強制参加が気持ち悪く母への信頼や愛着も失った。

●本部幹部会と集会の参加です。強要に丸をつけましたが、私もコミットしていたので喜んで参加していました。めんどくさいなあ、みたいな時も「宿題」を急かすような雰囲気「ちゃんといきなさいよ」と言われたと思います。行かなかったからといって「ほんまにもう！」と宿題をちゃんとしていないような怒られ方をするくらいでした。なので強要という印象は実は残っていません。"

●0歳時に幼児洗礼を受け、毎週日曜日に教会でミサ(礼拝)に預かり、教会学校や教会主催の夏合宿に出席するのが当たり前という環境で育った。他の家と違うことは認識していたが、そういうものだと思っただけで、疑問は感じなかった。父親が教会の手伝いをしていたため、ミサ後に3時間ほど教会施設内で無為な時間を潰さねばならず、日曜日は朝8時から3時ごろまで拘束されたことは、退屈で不快だった(他の信徒はミサが終われば帰宅するのに、自分は必要以上の退屈な時間を費やさねばならないことが不満だった)。きょうだいは、日曜日に活動のある少年野球に参加できないなど、不自由を感じていた。中学生になると、部活の大会などの際には部活を優先することは可能だ

った(親の判断による)。

●嫌だったが、親に逆らえなかった

●日曜礼拝と韓国の教団本部での修練会。嫌だったが親との付き合いのために仕方なく行っていた。

●本山での礼拝、地域にある支部での礼拝参加等。義務教育の間くらいまでは全く何の疑問もなく参加していた。それ以外は特に強制的に参加させられた行事はなかったように思う。

●元旦のお参りが教団施設だった。お年玉をお布施で出させられた

●街中で中国共産党の否定プロパガンダビラ配り、「中国共産党の行った悪事」というテーマのデマ記事の多言語翻訳などを強く要求されました。

●生まれた時から入信していたので、親の会合に強制的に連れて行かれましたし、実家が拠点だったので、信者が毎日のように朝から晩まで出入りしていて、それが当たり前と思っていました。

●地区の集会、圏の集まり。小学生の合唱団の入会、参加。小中高それぞれの地区の集まり、何人が選ばれた人の集まり。中学時から参加する回数が減って、高校以降ほぼ参加していない。正月などの集まりの参加を拒否した時祖母に怒鳴られ暴言を吐かれ続けた。毎年続いた。

●生後2ヶ月で無理やり入信。年始の新年読経会、お盆の墓参り(墓の前でお経を唱える)毎週の集会、信者の子供を対象とした会合への参加。月一ペースの同時中継(指導者の演説を聞く会合)選挙活動への連行(投票先指定される)、組織で運営してる合唱団●鼓笛隊への参加とそれに伴う毎週の練習、宗教団体が作った学校への受験(強制)などなど数えきれない。日常がそれで回っている。本当に幼い頃はこれが他の人もしてる普通の生活なのだと思っていた。どうやら違ふと気づきようやく反抗したのは12歳から。毎日毎日辛く苦しく死にたかった。これらを拒否して参加しないと学費を払わないや、ご飯抜きや家から出て行けと脅される生活を20年以上耐えた。

●年に一度、信者が広域から集まる大規模な集会があり、朝早くから長時間続くのできつかった。

●もっと他にもやりたいことがある

●騎馬戦、武道の授業の参加、校歌を歌うことの禁止。すごい嫌だった。

●特段無し

●週3回の集会、年に何度かある大会、年に1回の記念式は必ず出席すべきもので、それに重なるように予定を入れることはほぼ不可能でした。そのため、中学

での部活はほぼ禁止でした。信じてもないものために、なぜこんなに時間を費やす必要があるのか、理不尽だと思っていました。

●集会。お菓子が食べられるていいなと思った。

●行くものだと思っていた。楽しかった。

●初詣は近所の神社やお寺に行ってはならず、家の神棚でしなければならなかった。

●日本舞踊を習っていた妹が靖国神社で発表会をしなければならなかった。(両親ともにとても喜んでいて、その意味を考えると未だにぞっとします。)"

●月1回、1-2時間程度の会合で、お経を読んだり教団の話の話を聞きました。教団からされたことで特に嫌なことはなかったですが、参加者の子供でおとなしくできない子がいて、それを大人が怒って険悪なムードになるのは嫌でした。

●大小を問わず、信者が集まる会合と呼ばれるものには参加を強制されました。

●少しでも不満を言ったり態度に表すと激昂することも多々あったため、ご機嫌を取る目的で参加していました。

●一度も楽しいと感じたことはありません。"

●集会という地域の集会に参加させられていましたが、なんで連れてこられているのか疑問に思っていました。

●会館での読経

●子供の頃は、面倒だけど仕方ないという諦めのような感覚と、両親を尊敬していたため、きっと大事なことなのだろうという納得感もあった。大人になって、家族は個人の意志を尊重してくれて、活動をやんわり勧めるものの強制はされず、活動からは一定の距離を置けるようになったが、家族円満のために年一回くらいの大事な行事だけは無理のない範囲で参加している。

●私の場合は教会のミサがメインですが、行くのは当然 行けば褒められる 行かないのは悪い 行きたくない面倒な気持ちがある自分を否定的に思うようになりました。他者との比較も信者の中で教会に来ている人、行ってる人とそうでない人で評価がかわりました。

●入信の儀式をさせられた。

●毎月の道場参拝。年に一回の本山参拝。朝から行きたくないなあ、寝ていたいなあ、面倒くさいと思っていた。

●毎週教会に行く 行かないと親に嫌われる

●祭事への参加、特にどうとも思わないが強いて言えば祭事中は暇であった

●集会に何度も連れて行かれたし、友達との約束を破

らされたりもしたのでとても嫌だった。早く帰りたいと思った。

●教会の集会すべて(日曜礼拝&夕礼拝、火曜早朝祈祷会、水曜祈祷会、土曜聖歌隊練習、その他行事 etc)

●日曜は必ず教会にいかないと、その人は地獄に落ち滅ぼされる。ある年齢になったら、「神殿」と呼ばれる場所での儀式を受けないといけない。また神殿に行かないと救われない。

●地域での教団の集まり、3回忌等の法要

●習慣として連れて行かれた

●真面目に信じていたので、行かなければハルマゲドンで滅ぼされると思っていた。

●それが正しいと思っていたが思春期になると拒否感や友人への羞恥心が出てきた。

●礼拝や安待日の敬礼式に参加するよう言われました。「神様の代身である親の言うことをよく聞きなさい」と教会では教えられていたので、私に参加を拒否するという選択肢はなく従うだけでした。

●週3回の集会、年数回の大会、毎日の聖書朗読、放課後●休日の伝道活動の参加が求められた。自分の好きなことをする時間は制約され、部活動への参加も禁止されており、極めて不自由な10代を過ごした。

●いつか絶対辞めてやる。

●土日に行事が多いので、子供が少ない拠点だったのもあってとにかく参加するよう言われていた。友達となかなか遊ぶこともできず、泣きながら連れて行かれたこともありました。友達や周りに嘘をついて休むことも多かったので、嘘を考えるのは得意になりました。

●中1から行かなくなりました たまに親のご機嫌取りで行きます

●小学生のときはいやいや活動に参加していた。行く前は嫌かもしれないけど、行ったら絶対楽しいからと。それ以降は比較的自分の意志で活動に参加していた。

●日曜礼拝や定期的にある行事全てに参加をきょうようされていた。幼少期には気にならなかったが、中学生の頃には内容によっては参加したくないという意識が大きくなり、行かなくなった行事もあった。

●集会に参加しろと言われてたり、会館での大きい集会に参加しろと言われてたが、雰囲気異様なので嫌だった幼時は親に連れられて会合の場に同行。学齢になると各成長段階に応じた会合(少年部、中等部、高等部、男子/女子部)への参加強制。信者でない友達と遊びたくても会合優先で、行かないことは許されなかった。

●週3回の集会。週末の伝道。

●初詣で近所の神社仏閣へ行くことを禁じられる。七

五三のお詣りも、神社仏閣でなく教団の会館に集まって地区の偉い人の読経を聞くなどだった。

●そういうものだと思っていた

●会の運営する児童養護施設に連れて行かれたが、怒りを感じ脱走した。

●振り返ると強要なのだろうと思うが、人生の「基準」として育ってきているので、特に強要された、とは感じていなかった

●一緒に拝むこと。それが当たり前作法

●強い強要ではなかったが、行きなさいとはよく言われた。実家を離れた後は、参加しているか確認されたり、聞いてもないのに日程が送られてきた。コロナ禍になってからは、リンク等が送られてくるようになった。(会合の日程等は現在住んでいる地域の方が教えてくれるので、母が私にわざわざ連絡する必要はない。)

●毎週の礼拝や、クリスマス各家を周り外で賛美歌を歌う謎の習慣があった。小～中学生時代は夏休みや冬休みに、同世代があつまるキャンプに行かされた。キャンプは3泊ほどで、ひたすら朝から晩まで、礼拝があるような内容でした。

●集会●法要●修行への参加

●支部寺院での読経や、本部(本山)への参詣の強要。他人が何を信仰しようが構わないが巻き込まないでほしいと思っていた。

●行かないと言ってるのに、何度も「行ったら？」と言われる。だる。

●合唱団に入らされたり、会合の出し物で漫才をしたり。会館にも連れていかれるし、実家が拠点だったのもあり常にそういった状況でした。

●週に何度も集会へ参加させられた。友達とお祭りに行きたかったのに行かなくて辛かった。学校が休みの日に朝早く起こされ集会や奉仕に無理やり行かされたのも辛かった。

●集会に週3回強制的に参加させられました。また、勧誘活動にも参加させられました。

●信者同士の大会や集会や訪問奉仕に連れてかれた。当たり前だったため、なんとも思わなかった。

●信仰することに対しての疑念がなかったためそこに感情は無い

●勉強と祈りの時間の確保。集会への強制参加。宗教に時間を奪われ続けて迷惑だった。

●進学するための入学金●引っ越し●奨学金の借り入れを許可する代わりに、と強要された。当時は親元から一刻も早く離れたい一心だったので受け入れたが、こんなに卑怯な手を使うなんてと一層母親への忌避感

が募った。

●日曜日の朝5時に起きて礼拝をさせられるのが本当に苦痛だった。

●男の兄弟が反抗期で起きて来なくなった時期、1人だけ叩き起こされて礼拝させられていて、ずっと家庭内差別だと訴えていた。"

●日曜日の集会への参加他、各行事への参加が生活の中の最優先事項とされ、嫌であっても拒否はできませんでした。また、親が自分に対して望んでいることに対して、子供である自分はそれに応えて親に喜んでもらいたい(喜んでもらわなければならない)という強迫観念のような感情があったのだと思います(自分が望んでいない事であっても)。子供の、親や大人へのそういった従順な感情や行動は、教団の「思うがまま」に洗脳して育てて人数(コマ)を増やす格好の対象だったのだと思います。

●夏の時期に霊山的な場所で研修を受けさせられた。当時は部活もしていなかったので毎年の恒例行事程度に惰性で参加していた。

●集会への出席、布教活動。拒否する余地はなく、仕方がなかった。

●近所の集会

●定期的な集会への参加、長期休みの修練会に参加するために部活やクラブ活動を休ませるなど

●聖典を読んだり、指導者の話を聞く。その頃は教義がよくわからなかったので何も感じなかった。

Q27 Q26で「1」～「7」のいずれかを選択した方にうかがいます。あなたが受けた「信仰を理由にした体罰」は、どういう内容で、あなたはその時どう思ったかを、可能な範囲で教えてください。無回答も可能です。

●意に反して裸足で焚き火の上を渡らされたり、早朝に起こされ冷水を浴びせられたりした。理不尽であるが、反抗すると親の機嫌が悪くなる、時には激昂するため、嫌々従った。

●家族を皆殺しにしなければ人生は好転しない。

●懲らしめの鞭（お尻を叩かれる）は、3歳位はよくあって、兄弟喧嘩の度が超えてたらたまに叩かれた。7歳くらいの頃に、野球をしたいと強く訴えたら、お尻を叩かれたので、お尻の痛みより、夢を諦めなきゃいけないと思知らされた。

●祖母が過干渉気質で、私の母親はムチを打たれて育ってきた。趣味もテレビも音楽も全てを制限され、神様に仕えなさいと育つたみたい。母親は人生にコンプレックスを持ち続けている。教理は、このマンガはダメとか、神社に入るのはいいか拜んだらダメなどと細かくルール化されておらず、信者のマイルールになってしまう。それを2世はおしつけられる。

●2世は嫌だった経験もしてきたので、私には緩かった。

●小さい子供の頃、集会で大人しく座ってられない等の理由で皮のベルトでお尻を叩かれた。会館と呼ばれる集会所には懲らしめの部屋があり、誰でも使える皮でできた鞭が複数置かれていた。叩かれていた時はものすごい恐怖を感じたが、自分が悪いんだ、とも思っていた。しかし、今、冷静に考えると身体的、また精神的な虐待であったと思う。

●30cm 定規などで尻を叩かれた

●30cm の竹の定規でお尻や太ももを 20～30 回程度たたかれる。死にたい。そんなに私が憎ければ殺せ。

●木の棒やゴムホースでお尻を直接（何も履かない状態で）叩かれた。40回叩かれることもあった（なぜ40回だったのかはよく覚えていないが、聖書に根拠があったような気がする）。しょっちゅう赤いみみず腫れができていた。自分から服を脱いでお尻を出さなければならず、怖いので出せないでいると何時間も母親とらみ合いの状態が続いた。お尻を出せるまで納戸に閉じ込められることもあった。とにかく痛くて怖くて嫌だった。

●体の性別が違う子と一緒にいるところを親に見つかり、おしりを叩かれた。叩かないと愛が無いらしく、叩くと親は褒められる。繰り返して叩かれてとても屈辱的で意味が分からなかった。

●懲らしめの鞭棒 痛いし辛い

●信心が生きる全ての親からの信仰の強制によるお祈り（読経）をさせられる事が虐待だし体罰なんじゃないかと感じてる。

●50cm 竹物差し、ゴムホース、革ベルト等でズボンとパンツを下ろしてお尻を数十回叩く。虐待でしかない。

●ほんの少しの嘘、言う事を聞かなかっただけで罰とみなされ鞭棒でお尻を叩かれる。親に決して本音を言ったり逆らえない恐怖との戦いだった。

●内容：（おそらく心因性の）腹痛●嘔吐を訴えても、なんとかして開始時間までに集会に到着できないか、などと信仰を優先された。2時間を超える集会中の正座。足を崩しても良いが、会場はぎゅうぎゅう詰めになるので容易ではなかった。また親から「できるだけ正座しろ、あの子はできてる」など言われた。足が悪い人のための椅子などもあったが、子供が言い出せる空気ではなかった●感想：非道。

●体罰はなかったです

●読経をしなければご飯を食べられないことはままあった。先生の説法の時、正座で聞いていないとつねられ、叩かれた。眠ってしまってもアザが出るほどつねられた。行きたくないのに法話に連れていかれる土日の時には片道10時間に渡る車での移動も、いつも頭が痛かった覚えがある。今でも辛い思い出として残っている。

●魔が入ると言ってから部屋や倉庫に閉じ込められる、殴る蹴る。頻度は少ない方だと思う。

●体罰に当たるか分からないが、中学生受験の受験前シーズンになると勉強したいのに父親から家族全員1時間以上熱の入った読経を強制されて虚無だった。その後読経のおかげで合格したとか言われて不快だった。

●集会の講話を集中して聞いていなかった、居眠りをした、という理由で親に別室へ連行され、体罰を受けた。

●朝の読経をしないと、朝ご飯を食べさせて貰えない、学校に行けない。会合中に少しうるさくしたら、家に帰って来てから線香を押し付けられたり、殴られるなど。

●尻を叩く

●ムチ、ご飯を抜かれる

●ムチ。嫌だった。

●教義に反したらガス管で殴打は日常茶飯事でした。今でもトラウマです

●一度警告された事を再び行なったから、と体罰を受けた記憶はある。他の時も何度も叩かれたはずだけど、記憶にはない。

●何か悪いことをしたり、言うことを聞かなかったりするとベルトや短く切ったホースなどでおしりを叩かれていました。生まれてからずっとそうやって育てられていたので、「そういうもの」だと思いついておかしい事だという認識はありませんでした。

●ガスホース、ハイヒールの裏、ベルト、梱包する硬いビニールロープ、孫の手、定規、綿棒、靴べらなどでの鞭打ちを受けました。教義に反する事をしてしまった時や、母の機嫌を損ねた時にありました。逃げると回数が増えるよ、と脅され、下着まで脱ぐよう強要され、お尻を鞭打たれました。動くとももや腰に鞭が当たり辛かった。

●基本的には、我儘言ったり、言う事聞かなかったり、集会で大人しく出来なかつたりしたら、体罰でした。ムチで尻(生身)を叩かれるのですが、使用されるものはコードをまとめた物●針金ハンガー●長い定規など様々でした。集会から帰ってきたら叩かれる事が多く(幼かったからじっと出来なかったのでしょうか)、集会が終わって自転車乗る時に「嫌だ！帰たくない！」と恐怖で泣いてしまい、それもまた我儘なので叩かれる回数が増えるという悪循環を毎週行っていた記憶があります。親がそもそもサディスト気質なのか、叩いてる最中、笑いを抑えてたりもしてたのでその表情が恐怖として脳裏に焼き付いています。

●信仰についての疑問を述べると、ベルトでムチ打ちされた。ものを投げつけられたり、なぐられたりした。愛の教えを説きながら家庭内でこの調子ではこの信仰に意味はないと悟っていた

●体罰と言っているのかわかりませんが、会合などの集まりに強制連行されないために抵抗した当日から数日は罵声などよく浴びせられました。

●集会や伝道に行きたがらなかつたり反抗するとゴムホースやベルトなどのムチで叩かれた

●当然不当なので今でも強く恨んでいる"

●鞭でたたかれる事。集会中に寝たりした場合や布教活動中にぐずったりした時など。

●小四の時、誤って教団新聞を破いてしまったとき思っきり殴られた。この宗教は変だとその時気がついた。

●宗教の集まりに無断で欠席したら殴られた。殴られ

た後家出(その日のうちに帰宅したが)したらその様な暴力はなくなったが、それ以降私は教団には近づきたくはないと思っている。

●お尻や身体を叩く。鞭や棒や布団たたきなどで。押し入れやタンスに閉じ込める。外に出されてご飯抜き。大声で長時間罵られる。集会中にお祈りの時に目を開けたら、太ももを思い切りつねられる。

●教団の悪口を言ったり、読経をしないでいたりすると、親が私を真っ暗な部屋に閉じ込めて何叫んでも言うことを聞くまで部屋に閉じ込め続けた。夏場はクーラーも扇風機もない部屋で喉がカラカラになって汗だくなるまで閉じ込められたのを今でも鮮明に覚えている。当時着ていたワンピースも汗でぐっちょり濡れて気持ち悪かったのも、部屋の暗さや扉を何度も叩いたことも今でも覚えている。当時は、寂しかったし、暗くて怖いのと、お母さんの顔や声が怖かったし、悔しかった。

●読経をしても、叩くことはあまりなかったが、ご本尊様に足を向けたり、読経中にふざけたりしていると足を強くバシッ叩かれることはあった。「痛い、なんで叩くの？と聞くと、犬や猫、家畜が悪いことをしたら叩くでしょ？」と言われた。

●小学校高学年あたりから力がついてきて閉じ込めるうことはほぼ無くなったが人格否定をしたり、「わがまま」や「ブス●デブ●バカ」など外見を激しく悪く言う頻度が増した。

●母親が教義に基づいて決めたルールを守れないと革のベルトで尻を叩かれた。そうしないと神から裁かれて死ぬと言われていたので我慢していた。

●叩かれた

●無理にサプリメントを吐いてもものませる等

●ベルト 布団たたき などで 100 発くらい殴られた

●集会中にモゾモゾしたり、居眠りしたときに、太ももをつねられた。母がこわいと思った。

●教会の行事(敬礼式や礼拝、修練会など)に出席しない、神の子としてふさわしくない行動をしたときに、親からベルトやピアノの教本で殴打されたり、食事を抜かれたり、「出ていけ」と言われ長時間外に放り出されたりしていた。その当時は「なぜ私が信じたくもない宗教を信じなきゃならないんだ」「いつか親の目が覚めてくれて、あの時はごめんねっていつかしてくれないか」「本当の親は他にいて、いつも迎えにきてくれないか」そんなことを考えていました。とても辛かったです。

●集会や布教に行きたくないと言うとお尻を出して電気コードで何十回も叩かれました。皮膚がさけました。悲しくて辛くて苦しくて怖かったけど私が悪いからだと言いました。親は宗教活動をしないと本当に世界の終わりに滅ぼされると教団の教えを信じていたので、これも親の愛なんだと思うようにしむけられていました。お祭りや友達の誕生日パーティーも行きたいと言うと鞭で叩かれます。祭り事や楽しいことは全て禁止で破ったら鞭です。友達からの誕生日プレゼントも自ら捨てるよう指示されました。受け取ってしまった時点で体罰です。悲しくて友達にも悪いなって気持ちでいっぱいでした。

●愛のムチ

●集会で居眠りをしたり奉仕のとき落ち着きがなかったらお尻を叩かれていました。叩かれる前にはお願いしますと言って自分からパンツを下ろし、終わってからはありがとうございますと言うと母が抱きしめてきました。どうして些細なことで叩かれないといけないのか、よくわかりませんでした。

●鞭で尻を叩かれた、その時ごめんなさい、ごめんなさい、いい子になるから、嫌いにならないでと思っていて(母に嫌われたら生きていく意味がなくなると思っていた)

●大勢で何か念じながら背中を思いっきり叩き合う

●暴力、暗いところに閉じ込められる、放置等。放置に関しては父の早逝後ネグレクト気味であったので、信仰が理由かはわからない。

●ホースで殴られる 屈辱だった

●手で叩く、物で叩く。それは聖書に書かれていて正しい行動だと言っていた。

●馬用の鞭で打たれたり、電流を流す機械の使用を強いられたり、体調不良時に適切な医療を受けさせてもらえなかったり。

●尻への鞭打ち。

●些細な悪さ(読経をサボるなど)をした場合に仏壇の線香(もちろん火がついた)を押し付けられた 幼かったのでこれ以上の恐怖はなかった

●この問題は各家庭により非常に違うので飽くまで我が家では、体罰を振るう母親で、体罰に至る私がした事の一つに信仰の拒否があった。

●諦めと憎しみ。どう考えても私が悪くないことでも謝られ、服を脱がされ、叩かれる。長老と呼ばれる(親でも親族でもない)男性を呼んで尻を叩かせると脅されたりもした。親達は何で叩けば一番自分の手が楽で痛みが強いかを相談しあっていて、狂っていると

思った。

●殴る(友人など周りに人がいても、そして教会の外でも)、冬に家から一晩締め出す。いつか同じ目に合わせてやりたいとその時は思った。

●シャーペンやボールペンによる刺突、ミシンベルトによる殴打。

●ゴムホースやものさしで、尻を叩く。(下着まで脱がせた後)

●自分が悪いので懲らしめを受けると感じていた。拒否感はあまりなかった。

●集会中に寝てしまうと、目を覚まさせる為などと言われてトイレに連れ込まれ、ホースを曲げたもので尻を何度も叩かれた。

●小さい時に前世での悪因縁を取り払う為にロープで縛り正座を強要。因みに自分はその場からその時に逃走した為、その後、事あるごとに悪因縁が取り払っておらずお前が来るとお前の悪因縁のせいで頭が痛く身体が不調になる!とよく怒られた。

●反抗するとガスホースで叩かれた。泣いていた。

●毎日の読経をしなかったことで尻を叩かれた。

●水道ホースでの鞭打ち

●寝ている時に刃物で刺される、預金を全額盗んで寄付に使われる、財布からお札を抜かれる、ボーナス全額と給料から4万円を除いて全額徴収される。会合をサボると夕食抜き朝食も用意せず、給食のみの食生活になる。衣類はゴムを伸ばされたりする。信者の家族が無言電話をかける。寝ている時に歯茎を歯ごと曲げられる、手首や唇をカッターナイフで切られる。それらを読経や活動をしないからバチが当たったと主張する。

●親の思い通りに行動しなかった為、母が逆上して、髪の毛を引っ張られた。しばらく口を聞かない。食事はある。

●体罰に入るかはわからないが、信仰を拒否すると、食事を与えてもらえない、洗濯をしてもらえない、塾のお金を払ってもらえないなどがあった。

●ベルトでおしりを叩く

●教義に従わないと、尻を出させられてベルトで叩かれた

●24で答えた通りです!!その頃の感想は、教団から早く脱げたい!家族親族も教団人なので相談も出来ない気持ちと他人に親の悪口は、言えないと教団の悩みを他人に言っても分からないだろうと思ってました!

●集会中に居眠りをしたり静かに座っていないと、別の個室に連れて行かれてお尻を叩かれた。

●ちょっとした事で尻たたきをされた。当時の私がどう思ったかは覚えていない。

●集会中に行儀悪かったとかでムチで臀部を叩かれる事が頻繁にあった。とても怖かったのを覚えている。引越してからは、色々両親の間でも取り決めがあったのか、そうした直接的な体罰は受けなくなったし、あまりムチへの意識も引越し先の会衆内ではそれほど色濃くなかったため、引越してからは、宗教に関連しても比較的気持ちも楽で、楽しかった思い出が多い。

●口頭で注意されたことが3回に達した日は帰宅後に鞭をすると警告されており、そうなった日は帰宅後に父親から理由説明や注意をされた後に自分で下着を下ろしてお尻を出すよう促され、父親のベルトで3回鞭をされていました。私は口頭での注意が3回に達してしまったため自分が悪いという理解と反省は感じており、羞恥や苦痛はありますが我慢して受け入れていました。私の親は感情次第で鞭をしたり回数を増やしたりはしなかったため、あの年代としては体罰の一つと捉えており、身体的虐待を受けたというような心の傷にはなりません。同じ宗教の人でも、親が毒親体質であったかどうかによるようです。

●体罰としてお尻を叩くのは有り、という教えがあり、嘘をついたなどの理由で母親からお尻を叩かれた事はあったと記憶している。ただ自分の場合は多くは無かったと思います。

●方針に従わないと日常的に暴行(蹴られたり、殴られたり)されました。真冬に水を頭からかけられたこともあり。課される仕事をサボると食事を抜かれたりもしました。家畜の糞置き場に閉じ込められたこともあり。小学生頃は、ただただ恐ろしくて服従するしかありませんでした。体罰されないようにビクビクして生活していました。中学生になるとかなり自身の考え方も出てきて親や団体の大人と対立することが多くなり、体罰が服従させるための手段だと理解できるようになり、激しい反発心とストレスを抱えていたと思います。

●お尻を棒や洗濯叩きでふたれた。とても嫌だった。

●親の言うことを聞かなかった時、嘘をついた時、集まりで寝ていた時、「ムチ」と言うお尻を叩くことをされた。服の上からの場合と、下着まで下ろしお尻をだした状態で叩かれる場合があった。素手の場合も、道具も使ってという場合もあった。やりたくない宗教活動を強制されて、親に少し言い返したり、言う通りにするのを渋っただけで叩かれた。大好きな漫画を読むことを禁止されたが、隠れて買って読んでいたのが見

つかり、嘘をついたことを責められ、お尻を棒で100発全力で叩かれた。お尻から太ももにかけてひどいあざになり、座ることができなかった。体育の時、当時はまだブルマで太もものあざが見えてしまう状態で、先生や友達に心配されたが、本当のことが言えず「転んだ」と嘘をついた。集まりは夜にも行われ、疲れと興味のなさから寝てしまうことが多かったが、寝ると、集まりの会場から別室へ連れて行かれて、「ムチ」をされた。毎日いつ「ムチ」されるんだろうと心配しながら絶望の中で生きていて、生きていく意味がわからなかった。毎日死にたいと思いながら、それでも死ねず、苦しかった。

●正座で何時間も座られる事は通常だった。皆が褒める事で物心つかない子供は辛さよりも先に進んでしまうようになるものだ。今なら分かるけどしんどかった。

●集会で居眠り、不真面目な態度や不手際を理由にお尻を鞭で叩く。泣いて嫌がったが逆らえなかった。

●読経しなかったら殴られた。仏壇蹴ったら殴られた。

●集まりに行く時間までに帰ってこなかったことを理由に叩かれた(就学前のまだ4歳か5歳の頃)。その時はなぜ叩かれているのかも分からなかった。ただ怖かった。

●革のベルトでお尻を鞭打たれた。顔、頭を折檻された。身体を蹴られた。母親が早く死ねばいいと思った。

●信者の集まりで、静かにしていなかった、ノートにメモを取る所を、話を聞かず適当なことを書いた。親のを見て真似して書いた。居眠りをした。親の言うことを聞かなかった。布教活動で、うるさくした。どうして、自分はちゃんとできないんだろう、動かないでいられないんだろう、ふたれたあと、どう振る舞えばいいんだろう。あまり泣き過ぎたり、親の思った反応とかじゃないと、鞭が足りないと思って増やされたり、反抗していると判断されて、更に鞭が増えたり、増やすと脅された。

●体罰は無いが言葉の暴力と感じられることは多々あった。

●何かミスティクを犯すと木製のものをさして叩かれていた。軽度の場合は手の甲を。中～重度の場合はズボンをおろされお尻を叩かれていた。無論痛かったのだが、当時は教育の範疇に収まるものだと考えていた。

●父の機嫌が悪い時に罰をの意味で読経をさせられ、間違ったり噛んだりするとこづかれ怒鳴られた。

●宗教の集まりで寝てしまうと、家に帰ってからガスホースでお尻を叩かれていた。集まりは週3回あったが、毎回寝てしまっていたので、毎回叩かれていた。

●家の中でのことなので、主に読経の仕方を理由に父から体罰を受けていました。姿勢が悪い、声が小さい、集中していないなど。体罰の内容としては煙草の火の押し付け、殴る、蹴る、厳寒期に外に放置するなど。父はとても外面が良い人だったので、暴力を受けていると訴えても誰にも信じてもらえないと思っていました。

●パンツを下ろして直に尻を叩く。手の時もホースを使う時もある。

●親がカッとしたときは、咄嗟の平手打ちや、寝込みを襲われて殴る蹴るなどもあった。

●ムチを受けました。

●ゴムホースや布団叩きなどを使って叩かれました。理由は覚えていません。ただ、恐怖でそれから逆らうことは難しくなりました。

●読経しなかったら、なぐられた

●お尻を叩く。こどもに「お願いします」と言わせて、叩き終わったら「ありがとうございました」と言わせる。

●実際にされたわけではないが、されそうになったこと。医療虐待では？と思う。ワクチン忌避や根拠●効能が不明な怪しげな薬

●体罰ではないですが、精神的な体罰は常にありました。行事に参加しない、研修会を受けないなどは許されなかったですし、研修会を受けた後は青年団のようなものに入るようずっと説得され続けましたし、入らないなんて信じられないみたいなことはずっと言われていました。

●日々の言葉の暴力(「死ぬぞ!」などの脅しの言葉)、性的虐待。

●服を自主的に脱がされて針金のハンガーで叩かれていた。恐怖しか覚えていない

●行事で居眠りをした、参加態度が悪かったなど。つらい

●ムチを入れるという表現だったと思うが、トイレに連れて行かれて尻をたたかれる。本当に嫌だった。親は教義を盾にして私たち子供を従わせていたと思う。でも、その言葉は教義の引き写しだったので、子供ながらに親を信頼できなくなっていった。

●お尻を露出させられガスホースか電気コードで叩く

●鞭や竹棒でお尻を叩く。

●集会などへの参加強要など

●未来部の集まりさぼったら、叩かれた

●線香を当てられる、お灸を据えられる。嫌だと思った。

●お尻にホースで鞭打ち 幼い頃は逃げられなかったが小学2年ごろからばからしいと思い出した

●ゴムホースや革ベルトなどでお尻を叩かれる。痛いののでいやだった。

●意図せず教会の出版物を踏んだ時、尻を叩かれた。

●信仰をしていないから罰が当たる。お布施が少ない。お布施をしないと地獄へ落ちる。今幸せでないのは信仰が薄い(お布施をしない)からだと母に言われた。

●月1の月次祭は、長時間正座でのお勤めになり、基本的には、足をくずすことはできない。

●人格否定。罪悪感の埋め込み。嫌がらせ。長時間の正座。娯楽の禁止。容姿の侮蔑。違う考えの身体障害者の父への暴行の目撃が幼児期にあり(面前暴力)

●組織に反するようなことを言ったりした場合の鞭打ち

●体罰と躰けを兼ねていたものだと思いますが、宗教で認めていない「お化け」などについて「居るのかもしれない」と騒いだ際にお尻を叩かれました。

●信仰を理由にした体罰はなかったが、父親が暴力的な人だったので、日常的に殴られてはいた。

●失敗すると毎回父に怒鳴られ、信仰の話になり、何時間も正座させられ説教されるのが嫌で、小さな失敗は嘘でごまかすようになりました。その嘘がバレたことがあり、仏法を侮辱したと言われ、裸足のまま窓から外に投げられました。背中が痛くてうずくまっていると、首根っこを捕まれ焼却炉の前に連れて行かれ、顔面を何度か殴られました。その後、頭部を両手で掴まれ、顔を近づけて凄んできて「今度嘘を付いたらどうする？」と何度も質問されました。私は恐怖と許して欲しい気持ちで泣いて言葉が出ず、嗚咽しながら「家を出ていきます」と返答したら、しばらく睨みつけられ、そこから先の記憶は曖昧になっています。小学校2年生の冬でした。

●ムチと言う名の尻を物差しで思い切り叩く。私が大きくなり反抗するようになったので、やらなくなった。弟、妹(4人)には私が食って掛かったのしなくなった。

●必要なことだと思っていた。ただ、嫌だった。頻度が下がるにつれて痛みが増していった

●物を投げる、怒鳴る、罵詈雑言

●ガスホースでお尻をたたかれる(愛の鞭といわれていた)。とても怖くて、苦痛だった集会や奉仕ではそのために良い子を演じていた。

●ゴムホースや素手によるムチ。お尻を脱がされて。痛くて恥ずかしかった。



●教会でのお祈りの声が小さいという理由。他の信者の子よりも大きな声で賛美歌を歌わなくてはならなかった。特に「主の祈り」の際には誰よりも目立つ声で祈れと言われた。出来なければ毎週布団たたきやハンガーや孫の手や平手で叩かれる。単純に痛いので嫌だった。また言葉にできない位物凄く悔しいです。いつか親を殺せたらいいのと思ったが、そんな勇気はない自分が一番憎かった。次第に悔しい気持ちを感じないように自分の気持ちを消すことに集中するようになった。

●高校生の頃、先輩の会合の誘いを断った旨を母に伝えると、母は怒り、私の部屋のあるものを手当たり次第、私に投げつけてきました。泣きながら、先輩に電話し会合に参加しますと言いました。

●体罰に該当するのはわからないが、祈祷させようしたり、水業するように言ってきたので、仕方なくやっていた。

●おしりぺんぺん。母は先輩信者から叩くよう言われてはじめた。母の場合ヒステリックに怒るのが怖くて痛くて泣いていた。父は叩いたあとハグして許してくれたのでその優しさで自分のした悪いことを後悔したりなぜ叩かれたのか実感できた。

●親が喜ぶ行動をしなければいけないのにできないと言って、叩く、外に追い出される、ものを投げつけられる、引っ張られてはなれの物置小屋に閉じ込められる。

●体罰を受ける理由となったことは些細なこと(集会で居眠りした、近所の人に挨拶しなかった、お皿を割った)だったが、母親が気に入らないことは全て体罰の理由になった。自分で服を脱いでお尻を出させられ、ゴムホースで叩かれる。大きくなると泣かなくなったが、それが気に入らなかったのか泣くまで叩いてやるとうよく言われた。

●何故怒られたか憶えてないが、下半身を定規みたいなもので叩かれました。子どもを叱ることが良い事だと誇らしげな母でした。

●集会や奉仕に行かないという選択肢はありません。少しでも反抗すれば鞭打ちされます。集会中にペンや本を落としたり、集中力がかけても鞭です。親の気分で少しでも機嫌が悪いと不従順を理由に鞭されます。鞭の際泣いたり泣き止まなかったりすると反抗と見なされさらに鞭されます。自分が本当に悪い事をして鞭をされた記憶はありません。全て不当で理不尽でした。教団はこのように鞭を用いて子供達が少しも反抗しないように、ロボットのように従うように鞭を使って来

ました。これは組織的な虐待であり、親にも組織にも責任があると思います。

●長時間の正座や座学の強制。お小遣いからの奉納。信仰を否定した時に母親からの強い叱責と無視。当たり前だったので特に何も思わなかった。次は間違った選択をして怒られないようにしようと思った。

●怖い、理不尽、なぜ

●竹の定規でお尻を直接何度も叩かれる。自分の行動のどこが悪かったのか言われて、反省を強要される。親の想定した回答でないと何度も言い直しを強要される。心底嫌だったし、豹変した親を見るのが何よりも恐ろしかった。

●集会中に寝たために帰宅後服を脱ぎおしりを出すよう言われ叩かれた。子供ながらに自分の中の何かが大きく削り取られたとはっきりと感じ、後になってから、その何かとは自分の尊厳と親への信頼だったと具体的に分かるようになった。

●身体の性別で振り分けられた態度をとる必要があり、それに従わないと叩かれたり祈りが十分だと思われるまで外界との接触を絶たれた。

●お尻を数回～数十回叩かれる。聖書に「むち棒で子供を懲らしめる」と書かれている通りに親はしていることと「親に従順」が絶対だったので、当然受け入れるべきと感じていた。

●ゴムホースで尻を叩く。反抗する気を奪われた。

●父が、お前(母が)教団やってるからなぐられるんだ! と言って殴ったり物を投げつけて壊したりする

●何か悪いことをしたときに布団たたきや素手、ベルトで叩かれました。ベルトは本当に痛かったです…今でも覚えています物を盗んだとかではなく、祖母の手を払ったとか、言葉を聞いていなかったとか集会中に居眠りをしたとかそういうことだったと思います。これが普通だったのでした行為そのものより「鞭をされたくない、母の機嫌を損ないたくない」を優先して考えることになったと思います。

●お尻の鞭打ち。

●静かにするべき集まりでうるさくしたり、話しに集中せず寝てたりすると鞭が待っている。あとは母親の気分次第。同じ状況でも叩かれたり叩かれなかったり、読めなかった。正直、信仰は「子供を鞭打って良い免罪符」だったから理由は無かったと思う。出来ればぶたれるのは避けたい、早く終わって欲しいと母親のご機嫌伺いに必死だった。

●体罰はありましたが、父が何かにつけてすぐ怒っていたので、その理由が信仰に関係していたか思い出せ

ないです

●自分の洗礼式に遅れ、教会で人前で母から連続 20 回ビンタされた。

●非常に辛い

●おそらく 3 歳ごろ。少し大きい会合があり、母親は会場の最前列にいた。わたしは会場隣で遊んでいたが、会合中に母に会いに最前列に。母親が外に私を連れ出し、尻を何度も叩かれた。

●体罰の類では無いかもしれないが、小学校に進んでからは、母親が会合に出かける、父親出張などで、夜は家で 1 人が基本だった(兄弟なし)。

●教義に反する行いに対して尻を鞭で数十回打つ。別になんとも思わなかった(当然のこととっていた)。

●布団たたきでお尻を叩かれる。「愛のムチ」という言葉が唐突に感じた。母も辛かったと思う。

●読経の姿勢が悪く殴られた

●信仰にもとづく親の思いに反することをすると、短くカットされたガスホースで叩かれた。両腕を机に置いて下着を脱いでお尻を突き出した状態で叩かれた。一回の体罰で何度も叩かれた。(幼い頃は)泣いても止めてもらえなかった。また、信仰にもとづくものならまだしも、集会(グループ)の長(長老=トップの男性)の機嫌を損ねたため、というときも多々あり、しんどかった。

●足の感覚がなくなっても、ずーっと正座して読経するというのは、体罰ですかね?わかりません。あぐらはダメでした。寝てもダメ。

●ゲイであると両親にカミングアウトした時に、「それは病気だから」と東京のキリスト教徒の精神科医に受診させられたことは、今考えると体罰に当たるのかも知れないと思う。(幸いその精神科医の先生が「息子さんは心身ともに健康です。何も治療は必要ありません。」と両親に伝えてくれたため、それ以降コンバージョンセラピーのようなものに参加させられる事はなかったが、近年アメリカの事例を知ってもし自分にセラピーが強要されていたらと思うとゾッとする。

●悪いことをしたら竹定規で叩かれた

●竹の孫の手で尻を叩く

●体罰はありませんでした。

●読経中に居眠りしたら、正座している太ももを叩かれる。

●体罰かどうかはともかく無理やり会合に連れて行かれた。

●反抗すると叩かれた。すごく嫌で家出したかったが、できなかった。

●(体罰と呼べるかは判断が難しいですが)医療ネグレクトに遭っていました。酷いアトピー性皮膚炎には、薬を塗ってもらえず、信仰で販売している水(ただの水道水を高値で販売しているものです)を塗られ。風邪を引いても病院に連れて行ってもらえませんでした。

●読経をしないと遊びに行かせてくれなかった。宿題がたくさんあり、それをしないといけないのに、読経を強要されて、度々宿題ができなくて、学校の先生から往復ビンタをされた。学校より教団活動が優先だった。

●頭にお灸をすえられた。確か罰だったと思う。

●おしりを叩かれる。ガス管のホースの短いものや、布団叩き。すごく嫌だった。

●お尻をムチで叩かれた

●朝食断食も虐待に入りますか?高校卒業後に、朝食断食が始まりました。

●母親が家族の不信心を改めるため 40 日の断食を行いました。泣き叫んで止めましたが彼女は実行し、それにより重篤な後遺症が出て私たち兄妹はヤングケアラーとしての働きを期待されました。しかし私たち兄妹は疲れていて何もできませんでした。それを母親は責めました。

●とにかく母のいいつけを守らないと物を使って叩かれました。物はホース、ベルト、自転車のブレーキのワイヤー、布団叩きなどです。一度周りに合わせて校内の選挙に投票したことが母に伝わった時に叩かれた時はとても理不尽に感じました。大人になってあれは理不尽なただの体罰だったと意見しても受け入れて貰えませんでした。

●お尻を叩かれる

●真面目に礼拝に参加していなかった時、父から暴力を受けた

●教えから反した事をしたり、集会で寝ていたら帰ってからおしりを靴べらで叩かれていた時期があった。眠いし集中力もないし、しょうがないじゃんと思っていた。今考えると幼い子が 2 時間近く静かに座っている事が奇跡で、自分偉いと思う…。

●尻叩き。夜の集会中にうたた寝したりすると後で手製の鞭で尻を十回叩かれる。痛かったがこれが普通だと思っていた。

●教内の高校で、罰にトイレ掃除や奉仕活動を強要された。できなければ停学か退学処分になるのでやらざるを得なかった。

●殴る、罵倒

●鞭と称して尻を叩かれていました。教団の集会場に

は大人しくしない子供を叱りつけるため、トイレに子供が1人横になれるベッドがあって、布団の下に定規が隠されていました。つまり定規で尻を叩くということです。福井では川に落とすなど激しかったようです。

●パンツを下ろしてお尻を何度も叩かれる

●ベルトや竹の物差しで尻を叩く

●仏に無礼を働く事や、信者の集まりで言うことを聞かないと叩かれた。親の言う通りちゃんとしなければと思っていた。

●親に逆らうことは神の教えに背くことだと、豚革で手作りしたムチで激しく叩かれた。神というか、親である自分の言うことを聞かないことの腹いせで叩かれているのが見え見えで、ひたすら悲しく腹立たしかった。

●信心が足りないから成績が上がらないんだ

●読経をしたくないと言うと怒り、やると母は喜び笑顔をを見せてくれました。とにかく母に嫌われることが怖かったです。体罰ではないのかもしれませんが、今現在通院している心療内科の先生に話したところそれは虐待だと言われました。

●体罰では無いかもしれませんが、ネグレクトされたように思います。お風呂に入れない、歯医者に連れていかないため、虫歯が多かった。信仰しないと進学させない、ブラジャー等必要な衣類を買い与えない等。

●父に頻繁に殴られた。理由がずっと分からずずっと混乱したままだった。

●布団たたきでお尻をぶん殴られた。すごく痛かったし嫌だったけど、神様に逆らったのだから仕方ないと思っていた。

●鈴を被ったうえからバチで叩く修行？罰？があると、言うことをきかないとそれをやるぞと言われた。信仰心がないということなので、恥ずかしいぞと脅されました。信仰に関係ない体罰は日常茶飯事でした。

●小学校低学年の頃は、「こらしめ」と呼ばれる体罰で、鞭は使われたことはなかったけどお尻をたたかれた。小学校中学年以降は、髪を掴まれたり、頭を叩かれたり、足で蹴られたり、首を絞められたりしましたが、これは多分、怒りを抑えられない私の父親が後付けの理由に父親の権威や信仰による体罰を使っているだけだと当時からわかっていました。

●尻に鞭打ち。理解ができなかった

●悪いことを改めなければお尻を叩かれました。例えば寝る時間を過ぎてテレビを観ているのを注意される。親の言うことを聞かずにそのままテレビを観続けてい

るとお尻を叩かれます。愛ゆえに心を鬼にして我が子を教育するが親も心を痛めていると教わります。躰として特に小さな子どもに対して推奨されていた教育法だったと思います。小さい頃は恐怖以外の何者でも、なかったです。私がティーンエイジになる前後に教団の教義で体罰が禁止されたので、それ以降に手を挙げられたことは一切ありません。

●体罰は全くなかった。親に叩かれたことは1度もない。

●お尻を定規や調理用のヘラ、ゴムホース、ベルトなどで鞭のように打つ事。

●自宅での研究中(勉強会のようなもの、勧誘した方が担当になる)に集中が切れてぐずったり邪魔をすると階段下に連れられ尻を叩かれた(平手は自分も手が痛いとのことでゴムホースだった)痛くて嫌なので必死に抵抗したし痛くて泣いた。

●集会の時いやがったりぐずったりしているとトイレにつれていかれお尻をふたれた。

●精神的な拘束はずっとで、教団トップを批判したら母から後ろ向きの時後頭部を殴られた。

●ガスホースで叩かれる。精神的暴力もあり。

●アトピー性皮膚炎を患っていたが、適切な治療を受ける機会を得られなかった。連れていかれたのも数回民間療法(漢方)のみしか記憶をしていない。

●集会で居眠りをしたという理由でお尻を叩かれることが週に2、3回。理不尽だと思っているし、叩かれた数を計算して、彼らが老いて逆らえなくなったら同じ数だけ叩こうと思ってそれを支えに生きている

●内容は覚えていないが、納得できず怒りしかなかった

●当時はまだ身体的な罰が完全に否定されていたわけではないので間違っただけをしたり嘘をついていた場合、素手や水道のホースなどでお尻を叩かれたりした。

●神さまの怒りと。そりゃ信じますね、子どもは。恐ろしいです。家庭という閉鎖空間は。

●信仰を理由にしたものなのかは不明だが、体罰はしょっちゅうあった どうしても理由が思い出せない

●自分は神の言っていることを代りに伝えているのになぜ言うことが聞けないのか。(主に行事への参加などを優先することについて)

●味本位で仏壇やしきびに触ったりすると、祖母から叩かれました。また、出かける前と帰宅した時には必ず仏壇の前でお祈りをしないと、はっきり覚えていませんが、腕をひねられたり、つねられたりしていたと記憶しています。

- 特に何も。親が教義の解釈ミスをしていたようで、しばらくしたら無くなった。
- 会合に行きたくないと言ったら叩かれた。意味不明でわけがわからなかった。
- 親の期限を損ねた時(集会でぼんやりしていた、研究中に答えなかった、きょうだい喧嘩をしたなど)に、自分で下着を下ろしてお尻を出し、ベルトや布団叩きなどで叩かれた。私の親はエスカレートして髪を掴んだり、シャワー全開の水をかけたり、2時間以上家の外に締め出したりした。
- 尻をたたく
- 悲しい。親に嫌われたくない。つらい。自分はダメな子供なんだ。いなくなってしまう。父から棒で腰を打たれ、痛くて辛くて、なんで読経しないだけでこんな目にあうのか理解できなくて、父のことが怖くてたまらなかった。逆らうと何をされるかわからないので毎日顔をうかがっていた。父母の喜ぶような行動をしないと衣食住を守ってもらえない恐怖から毎日読経していたし行事にも積極的に参加していた。次第に参加することに疑問を持たなくなっていった。
- 体罰を強要された事はないが、一度、3、4歳の頃、朝時起きの三杯敬礼が起きられず母に寝ていていいと言われた為寝たら終わって戻ってきた父にお尻を叩かれた事がある。今でも恨んでる。
- 1日断食や3日断食をさせられた。
- 鞭●裸で外に締め出す●荷物や大切なものを庭に投げ捨てる
- 私の家は特に酷かったようです。水道のホースだったのですが、100発連続で叩かれたことがあります。親が許せません。
- 精神科に通っても解離が治りません。"
- 母親にいう通りにしないとときに物差しで尻を叩かれた。苦痛と恐怖。
- 当時は子どもが言うこと聞かなければ、ムチで打つべし。お尻をベルトで打たれた。なぜそうなったかなど、それは覚えていない。ただやられた、という感想。ただすぎされ、と思いながら耐えた。
- 悪い事をしたら、ゴムホースで叩かれる。父親から、仏がのりうつって体罰をしているのだと言われた(正統な教義の解釈ではないが、家庭内でのふるまいとして)。テレビをみていて、夕食をうっちゃっていたら、紐でくくられて河原に捨てられた。
- 精神的な体罰。ネグレクト。学校でいじめや悩みがあっても、神に祈ればいいのさ。
- お尻を叩く体罰がありました。手で叩いていたのが

- 鞭のような紐になり、そのうちゴムホースで叩かれるようになりました。必ず最初に「あなたが悪いから叩くのよ」という前置きがあって、大泣きしながらも受け入れるしかありませんでした。
- 布団叩きやムチ棒で叩いたり、食事を抜いたり遊びを制限したりしてくる母親の形相がおぞましかった。成人以降(30代半ば)には当時50代だった母親から包丁を向けられたこともある。入信前、私が幼稚園児の頃は手作りおやつを出してくれたり誕生日やクリスマスなどのイベントも楽しくやってくれる、普通に朗らかな面もあった母親なので、人を変える宗教なのだと思う。
- 無宗教だった兄を理不尽に鞭をしたのが、嫌な思いをしたし、自分も親友と仲間で、世のイベントに参加したかった!
- 親に反抗的
- 小さい頃なのであまり覚えていませんが、教えに反する行動、言動をすると、下着を脱がされてお尻を何度も叩かれました。自分の見えない後ろから叩かれ、いつ終わるかわからない恐怖は今でもトラウマになっており、今でも親が後ろに立つとドキッとします。また一度だけですが、10代後半のときに教えに反することをし、突き飛ばされ、木の箱を投げつけられました。
- ベルトやホース、定規などによりおしりを数十回叩かれた。理由は集会中に眠った。集会を休んで町内のソフトボール大会に参加したなど。親が自分の意志ではなく周りから言われて体罰を行っていたので、私自身のためではないと受け止めていた。そしてとても悲しかった。
- その時一番痛いと思われる道具で鞭打ち。集会中の態度や言葉遣い、本当に些細な事で鞭打ち。聖句を暗記出来ないと言われ、ありとあらゆる事で聖書の教えに反すると鞭打ちされました。
- 怒られて当然のことをしたときのみ
- 信仰しないと怒鳴る 信仰の態度が悪いと怒鳴る
- 殴る蹴る引っ掻く引きづり出す…BLMや2010年代前半、ウヨクが老人を暴行した動画と同じような感じのことが、繰り返されていたように感じる。
- 兄に酷い暴力を受けて病院にレントゲン取りに行くほどだったのに、活動が忙しいから。お前が生意気な事言ったんだろ。と言われ全く助けてくれなかった。
- ガスホースや家電のコードを束ねた物、自転車のワイヤーなどで直接尻をぶたれる。「嘘をつく、盗む、親に不敬な態度をとる、自分を大事にしない言動」が鞭

の条件とされていたが、例えば「風呂上がりに髪を乾かさず時間が経った→風邪をひくかも知れない→自分の体を大事にしてない」「親戚が集まる席で子供同士ではしゃいだ→親の注意を聞かなかった」「学校帰りに寄り道→家と学校の往復以外のことをした→嘘をついた」などこじつけが多く中学生まで続いた。また、始まる前には特定の聖句を朗読し「お願いします」、終わったら「ありがとうございました」と言わなければ反抗と見なされ数が増えた。痛みで泣くことも禁止だった。当時は殴る蹴るの暴力よりも理性により行われる鞭の方がマシだと考えていた。我が家では文字通りの暴力もあったので、未だに鞭に対してはそこまで苦痛だったとは思えない。

●下半身を露わにさせられ鞭(ベルト、ゴムホース)でお尻を叩かれる。恐怖、激しい痛み、屈辱感、無力感、自責感情。

●集会の出席と注解、居眠りなどで鞭。殴る。熱湯をかける。家から追い出す。私は毎日、親を殺すか自分が死ぬ妄想をして耐えた。

●夜に行われる集会などの集まりで、睡魔に襲われたりすると、トイレに連れて行かれて、ベルトで生の尻を何度も叩かれた。不合理であると思うものの、抜け出せる方法は無く、たまに自死を考えた

●まだほんの幼かったころ、教団の集会中に居眠り等してしまうと、サタンのとされ鞭打たれる。教団の禁止事項を破ってしまっても鞭打たれる。まだほんの子供なのに。

●毎日深夜から明け方まで眠らせずに宗教の素晴らしさを語られるものでした。口答えした時や口論した時などに、どんなに仕事で疲れていても部屋に無理やり押し入り眠らせてくれなかったです。

●朝のお祈りを父としていましたが、朝起きたてで眠そうにしていると平手打ちされることが多々ありました。

●それまでも集まりには参加していたが、小学生になった時いきなり祖母に正座させられ教本を前に置かれて全部暗記して唱えられるようにしなさいと怒鳴られ、どうしてかと聞き返しても怒鳴られ続け泣きながら覚えた。

●あんたがキチンと活動せず反抗ばかりして家族に協力しないから家の中がめっちゃくちゃになってるんだよお——！！と絶叫しながら追いかけて回され殴られた。

●礼拝中に何かで癩癩を起し、讚美歌や聖書を床に投げ捨てたので外に連れ出され、普段より少し強めに叩かれた。なぜそんな事をしたのか覚えていない。

●ムチ。私と同世代の人たちは全員されていたと思う。  
●聖書の言葉を根拠にして諭され、同意の下、お尻を叩かれる

●教義に背いたこと、特に神様やイエスや聖霊を軽んじる発言をした場合。ゴム製の手作りの鞭で臀部を数発叩かれる。「神様ごめんなさい、わたしは罪を犯しました。懲らしめの鞭を与えてください。」と言わなければならなかった。

●記憶が不確かですが、「子供が悪いことをしたり、親の言うことを聞かなかったときは体罰をしてもよい」という教えがあった気がします。叩く、つねる、蹴るなどの行為を母親から受けました。母は躰のつもりだったと思います。体罰を受けている時間は苦痛でしたが、従いたくなかったので母が諦めて部屋から出ていくのを待つだけでした。父親が手を上げることはありませんでした。

●聖書の協議に反した時と集会中の態度が悪いと鞭(ベルト●定規●ゴムホース)で打たれた。親に対する憎しみだけが増幅する何の意味もない行為だと思った。

●集会中寝ていたら鉛筆で太ももを刺される。喋ったら鞭をされる。

●嘘をついたり、教えに否定的な発言。集会や伝道をサボると。など

●死ねと言われたのでお前が死ねと言い返すと、髪を掴み、頭を壁に打ち付け、あざができるほど殴る。もっと逆れば幼少期、私を線路に置き殺そうとしたが私が脱走し失敗に終わる。

●母親の気に食わない行動をすると、革製のむちで尻を叩かれた。これは神の意志、と言っていた。

●教義に反することをしたとき(親が禁止するアニメや漫画をみる等)や、集会で居眠りをした時に、ベルトや定規で叩かれました。

●ベルトで叩かれた

●両親が思う通りの行動をしない場合に、暴行をされる

●主にベルトを使った鞭打ち。できるだけ逃げようとした。

●集会で疲れて姿勢を崩すと腕をつねられた

Q29 Q28で「1」～「7」のいずれかを選択した方にかがいます。あなたが受けた「恋愛や交友関係の制限」はどのような内容でしたか。また、家族から、「恋愛や結婚のあるべき形」「あってはならない形」などについても言われたことがあれば、可能な範囲で教えてください。無回答も可能です。

- 友人との予定より宗教行事を優先するように強制された。
- 信仰している人以外とは関わるな
- 宗教外の恋愛、交際は不可
- 世の人とは交わりを避けるようにと言われたが、熱心な女性信者から怒られた経験が残っていて、同じ世代の周りの信者より周りと距離を置いていた。結婚について話すことはなかったが、ドラマ等も見えていなかったの、イメージさえできていない。
- 「異性交際●恋愛は罪」と教えられた。「祝福を受けなければならない」と言われた。
- 私自身ではなく母親世代(40代)だと教団信者以外と結婚するなという風潮もあったそう。祖母には信者と結婚しろと言われていた。
- 同性恋愛やトランスジェンダーは罪だから、みたいな話は今でもよく聞くし、「あの子はキリスト教を馬鹿にしてるから」という理由で仲良くしないほうがいいと言われたことはあった
- 信者以外との交友関係は基本的に制限された。結婚は信者同士でなければならないという教義だった。
- 異性とお付き合い禁止。異性と二人きり禁止。婚前交渉禁止。
- 恋愛は禁止であり、教会内で結婚する以外は認められない。一般結婚をすると、救済する方法がなくなると恐怖心を植え付けられた。
- 信者以外の人とは「世の人」と呼ばれ、なるべく遊んではいけないと言われていた。頼み込んでごくたまに遊ばせてもらえるときがあった(年に1度くらい)。信者以外と交際してはいけないと言われていたし、マスターベーション禁止、結婚するまで性交禁止と教えられていた。
- 信仰の仲間とのみの交友関係●恋愛関係
- 恋愛は禁止。性交以前に自慰も禁止。デキ婚などをもっての外で地獄に落ちる、祝福結婚をするように言われる。
- 恋愛は結婚を前提としていなければいけないので、学生時代の恋愛は禁止。結婚関係外の性関係は絶対禁止。信者以外との恋愛●結婚は禁止。信者以外の友人

との交友は信仰レベルを下げるし、宗教活動の時間を奪うから禁止。

- 内容：その日は集会があるので友人と遊ばずに集会に参加しろ。
- 教団が邪教認定した宗教の信者との交友の禁止●制限。同性愛禁止。
- 表立った制限はないけど、性交渉は結婚してからじゃないとダメと言われていました。それよりも、付き合い合う相手に家族のことをいつかは話さなければならぬのだと思うだけで、恋愛に対する絶望感が常につきまとっていました。
- 同じ信仰の人とお付き合いしなさいと言われた、強制ではなく
- あの子は他新興宗教だから付き合いたらダメ。恋愛は家族に言われたことはないが、同年代の2世は同じ信仰同士で一緒になるうとする子が多く、合宿時、消灯後は割り当てられた部屋を抜け、出会い、交流の時間に行っている様だった。
- 世の人(信者以外)と仲良くしてはいけない、同じ信者同士で友達を作るようにと言われていた。好きな異性など、恋愛色が少しでも感じられるような事に対する私自身の反応を監視されている気分だった。
- 結婚する時には、内部の人としなさい。外部の人と結婚するときは、勧誘してから結婚しなさい。
- 私の彼女に対し、父が無理に教会に連れていった。
- 信者とのみ交際できる、交際相手と二人きりで会ってはならない、婚前の性行為の禁止
- 信者以外付き合いできないと
- 交際は結婚を前提とするべき。学校の友とは、学校外では交友を持つな。
- 教団以外とは友達になってはいけない。恋愛や結婚なんてもっての他、と教えられました。また同性愛やLGBTも不道徳な人だと教えられました。
- 婚前交渉がダメなやつ
- 学生の頃、友だちが貸してくれたまんがを読まないで返すようにと言われた(実際にそうした)。高校生の頃、密かに付き合い合っていた人と一緒に歩いているところを他の信者に見られたらしく、親に密告された。その事を30歳をすぎても「前科」として罵られた。とにかく異性と一緒にはいけないから、同性の友だちと遊ぶかひとりだと嘘をつくしかなかった。「結婚は信者同士でなければならない」「一緒に食事をする事はデート」と言われた。教理では異性とのメールでさえもデートと言われていた。
- 基本的に宗教外の人間と親しくするのはNGでした。

恋愛なんて以ての外です。恋愛や結婚は組織内の人間とのみ許され、異性と2人きりになる事や婚前交渉は論外。婚前交渉やそれに準ずる行為が怪しまれた場合、長老(会衆毎にいるお目付け役?に任命された特権意識の高い男性)2人からの尋問を受けます。そういった関係はいつからか、いつどこでどういう行為に至ったのか、回数や時間など事細かに聞かれる人権侵害のような時間です。

●そういった資料をよく読まされてたのは覚えていますが、興味が無い内容だった為深くは覚えてません。基準も覚えてません。ただ、親や信者が「ダメ」と言ったら関わらない。という形でした。(基本的に、信者じゃない人とは壁を作っていました。)

●デート禁止、信者どうしてなければ結婚してはいけない、まもなく世界の終わりが来るのだから結婚など考えるな

●信者以外との結婚は駄目

●他の宗教を信仰している人との交流はあまりいい顔をしな

●信者以外の交友を全て監視され、会ったら報告し、交友を深まる前に勝手に相手に断りをしていた。信者の中で気にいった相手を親が選んで決めた。

●未就学児の頃~小学校低学年までは、同じ保育園に通っていた信者の同じ歳の子とも仲良くするように言われていた。その時は、あまり疑問に感じておらず、普通に子ども同士で仲がよかった。小学校中学年あたりから信者の子とも疎遠になったのだが、その子の親が家に訪ねてきて、仲良くしてほしいとその子の親と自分の親に言われた。その子のことは特に嫌いでもなかったが、親に友達を選ばれるのは、ちょっと気持ち悪いし、その子もこんな形で仲良くしてほしいと思ったのかな?と疑問に感じた。小学校高学年あたりから、大人になったらこうあるべきと母から言われた。「大人になったら信者である素晴らしさがわかる!なぜ私が子どものために読経をするのかわかる。子どもを産んでお母さんの素晴らしさを伝えてほしい。お母さんがこれまで教団で努力したことをあなたが全て引き継いでほしい。いい大学へ行って、いい会社に勤め、お母さんを養い、これまで家族のために進行してきたお母さんのすばらしさを世間に広めてほしい。」20歳以降は、「教団信者であることを社会に話した方が好感が持てる。特に海外の人は日本よりも信心深い人が多いから信者であることを言った方がいい。生まれながらに信者であることを誇りを持って言うべきだ。」と何度も周りへ公表することを強要された。恋愛に関しては、

あまり恋愛の話を親にしないことから「お前は人としての心が欠けている。異常者」と言われたが、それは信仰なのか、親自身の考えかはよくわからない。

●うちは制限がかなり緩いほうだったが、それでも「この世の友達だから付き合いは程々にしなさい」と一度だけ言われた

●同じ信者同士でないと友だちになってはいけないし、結婚もだめだとずっと言われていた。婚前交渉はもつてのほか、男性と一対一で接することも禁止されていた。

●信者と結婚すること

●あそこは化学薬品まみれのものを食べている家族だから遊びにいったってはいけない。うちを悪くいう人達とは縁を切りなさい

●この世の人=信仰していない人とは交わらない=友達にはなっていない。

●異性の友達と家で遊んだ後、夕方なり家へ送ろうとしたら、サタンが忍び寄るからと言って、1人で友達を帰らせていた

●信者以外の子供とは交流しないように、どうしてもするなら教団の教えを布教して信者にしろと言われた。

●信者以外の異性との交際、結婚の禁止

●婚前交渉の禁止

●宗教の中で、2世は原罪のない神の子であるという特別扱いと同時に「絶対に失敗が許されない存在」として育てられました。教会が最も重い罪としていたのが「結婚前に異性と性的な関係を持ってしまうこと」だったので、性的な情報を徹底的にカットされて育ちました。漫画、アニメ、小説、テレビ、ラジオなどは基本的に禁止。まれに教会が許可を出した条件(週に7時間までみてもいい。見ても良い番組を指定されるなど)なら許可してもらえました。小学生くらいになると同級生たちが見ているドラマや漫画の話についていけず、疎外感を感じました。隠れて見っていると折檻されたり、初恋について綴った日記を暴かれて、大勢の前で読み上げられた上に捨てられるなどされました。自分の人生は真の御父母様に捧げられたものだと言われて育ちました。実際に生後8日目に儀式を行われました。生まれてきた子女を神様に捧げる儀式です。結婚は真の御父母様によって決められるものであり、初恋は真の御父母様が決めた相手に捧げるものだとされてきました。

●対立している宗派の子弟との交際に反対された

●結婚時期に達していない状態で異性と二人きりになることは危険なのでそのような環境は避けるべき。結

婚は教団内の相手のみとすべき。

●保育園幼稚園にもいかせてもらえませんでした。一般の子供と関わらせない為。友達も教団の友達しかつくってはいけなかったです。男女が二人きりで合うのは禁止。車の助手席に異性を乗せるのは禁止。婚前交渉禁止。離婚禁止。結婚したら夫に意見を言うのはいいけど、最終決断は夫。

●結婚するまで処女、もう男と付き合うな

基本的に人の家に遊びに行ってはいけなかった。婚前交渉も禁止。中学生になってから交際していた人とやりとりしていた手紙を勝手に読まれて怒られた。信者外との恋愛を禁止すると幼少期から刷り込まれた。幼稚園、小学校の友人ができるたび親は布教しにいつていた。

異性と2人きりで遊ぶと誘惑されて地獄に堕ちる。二世が堕ちたら家族全員堕ちる

"婚前交渉は地獄に落ちる。

恋愛感情はサタンの差金である。

下着は常に白かベージュしか身につけてはならない。

"

"お寺の子供とは関わらないこと。

神社にお参りに行ってはいけない。

同じ教団の人と結婚してほしいと言われる。"

恋愛の制限はゆるく「同じ宗教であればなおよし」といった雰囲気をとくに母からは言外に感じていました。そのことよりも、エピソードとしては弱いのですが、印象深かったのは高校で仲良くなった友人から私の家とは異なる宗教の二世で自分も信仰していると打ち明けられたときです。それは私の家の宗教内の会報でよくカルトとして注意喚起されていた宗教でした。私の家や友人のような一般的にお葬式場で耳にしない「メジャーでない宗教」の信仰がバレれば強烈なレッテル張りにあう田舎では基本的に宗教の話題はタブーです。たまたま家の宗教の話が振られてもシラを切ります。それを打ち明けられたことが嬉しくて宗教は違うけど同じ様に信仰がある友だちを見つけたと家族に話したら父に宗教を聞かれカルトに近づくのは危ない、家に行ったりはしないほうがいいと言われました。言いたいことはわかるんですが正直はたからみればきっと目くそ鼻くそだろうと思いました。宗教絡みで交友関係について言及されたのは初めてでとても白けた想いがしました。

キリスト教徒の友人宅へ行ってはいけないと言われた。私はないですが2世の母は教団の人としか結婚するなと言われていたようです。

●結婚相手を入信させるべきといわれた

●貞操観念

●病院でカウンセリングを受けるのを嫌がった

●違う宗教の神社などに行ってはいけない。同じ宗教の人と結婚してほしい。

●クリスチャン同士で結婚すべきと言われてきた

●恋愛関係も交友関係も信者間同士でしか許されず、例えば信者でない人と性関係を持つと即刻、脱会させられます。

●教会内のマッチングサイトを通じてでなければ、基本的に恋愛をしてはならない。

●宗教活動への制限とならないよう行動することを要求。18歳ごろまで。

●家族から強要された事は無いが大人になってからの恋愛では必ず足かせになった

●恋愛は汚いのでしてはいけないと言われていた(が、無視していた)。

●信者以外と結婚しても良いが、信者同士の方が上手くいってと言われていた。

信者同士で交際を始めたが、周りの若者に悪影響なので集会内では同性の友人と過ごすよう注意された。婚前交渉は有り得ないとされていた。

●信者以外は「世の人」なので最低限の付き合いしかしてはならない。それ以外で親しくするなら「証言(布教)」しなければならない。男性とは子供同士でも親しくしてはいけない、体に触れてもいけない、子供でも男には敬語を使え。男女交際は結婚前提でなければならない。異性と二人きりになることは不道德。

●結婚前の性交渉は罪だといわれました。

●学校の友人よりも教会の友人こそが本当の友人である。恋愛や結婚はクリスチャン同士(福音派および友好団体)が望ましい。結婚したら離婚してはならない。サタンの誘惑に負けてはいけない。

●宗教が同じ子以外との友人関係不可、恋愛は一对一でのデートの不可、事前に長老等に相談しての付き添いデート、婚前交渉の不可。

●交際の全面的な禁止

●恋愛をしてはならない、統一教会による合同結婚式で結婚すべき

●異性との交際の不可。若い人だけの集まりも避けるよう指導されていた。

●交際は信者のみとするよう言われていた。基本的に



付き合った人とは結婚するべきものとされていた。

●信仰を理由に、では無いと思われるので強要された事は無いと回答したが、そもそも母には性嫌悪的な部分があり、「若いうちに彼氏なんか作るのはバカだ」というような発言を繰り返し言われた。妹は中学の時に彼氏が欲しかったらしいが、教団の教えに「未婚の男女は二人きりになってはならない」というようなものがあるので、デートに誘われた時に泣く泣く断っていた。それが強要されたものなのか自主的な信仰によるものなのかはわからない。交友関係に関しては、我が家は制限された事は無いが、周囲の同じ歳くらいの2世達は『世の人』との交友関係を制限されていたのを目撃している。

●両親からは無いが、親族からは信者のこと仲良くしろと言われていた。

●友人も恋人も信者の中から選ばなくてはならない。結婚前提でしか交際は許されない。交際は必ず付き添いを付ける。婚前交渉は破門。

●友人の兄弟の婚約が相手方の実家の信仰により破談となった話を聞き、就職後自分もやめたいと訴えたら怒られたり説得されたりした

●自由恋愛は禁止されていました。この教えは最も根幹の教えだったので、教えを破れば墮落すると強く念押しされたこと記憶しています。心の中で恋愛するのも十分違反行為でしたが、肉体関係を持つことを強く取り締まっていました。

●結婚するまでセックスはNG

●結婚前の交際は禁止

●彼氏ができたとき、女性の信者より、自分が彼氏ができたとき、親に言われて交際より宗教活動を優先した話を聞かされました。

●20代後半になっても、恋愛禁止を要求される。そして生活費として収入のほぼ全てを要求され続ける。友人からの連絡は取り次がれなかった。

●純潔を守らなければいけない。男女が一つの部屋にいてはいけない。

●サタンの思考が入っているのだから、人を好きになること自体が罪。好きな人ができたなんて言われたら、お母さん死にたくなる。と言われた。

●結婚するなら教団に入っている人が、入っていない人なら説得して入ってもらってから結婚しなければ認めない。

●恋愛禁止

●学校の友達と学校以外で遊ぶのは禁止、交際はもつてのほか

●教団の信者以外は付き合いはいけない。婚前交渉は「滅び」の対象

●友達に関しては、他教の友達は家に遊びに連れて来ないでと言われた！結婚に関しては、結婚相手が入信を強要させられる！

●結婚前に性交渉をしてはいけない

●セックスは結婚してからするものだ。

●あまり付き合いをよく思っていないようだった

●友人関係や恋愛についてなにか強要されたことはありませんが、他人から受容されないであろう宗教に所属する後ろめたさがつきまとい、学生時代は社会的に離れませんでした。

●同じ宗教を信仰して、ちゃんと活動している人と結婚できたらいいね、ということは小さい頃から言われていたと思う。

●信者ではない一般のクラスメイトとは学校以外の帰宅後や休日に遊ぶことは禁止でした。例外は、勧誘活動として聖書の本と一緒に勉強する時間を設けることが条件でした。

●信者以外との恋愛は禁止されており、「若さの盛りを過ぎてから」(早くても20代後半くらいからが推奨)、活発に活動している信者同士であれば、結婚を前提として、絶対に婚前交渉(SEX)をしない形でお付き合いをして結婚する、というのがあるべき形でした。

●離婚は禁止で、例外は宗教活動を反対されて身体に害が及ぶDVのある場合と、配偶者の不倫がある場合だけです。

●異性と2人で会うことやそれ以上のこと

●教えとして婚前の性交渉は禁止とされていた。信者になった場合は、信者以外との交友は禁止ではなかったが信仰にまつわる人間関係の方をより大事にするように教えられていたと思う。うちの母親はそれほど友人関係には口を出さなかった。

●学校以外で団体外の人と接触することは禁止されていました。

●教団同士としか結婚してはいけないと言われていた。母親の気分で変わったが、教団の子供としか遊ばせないようにされた時期もあった。

●2年制の幼稚園に通っていたが、同じ信仰をしていない人とは交わらないという教えから、年長時に退園させられ通うことができなかった。友達と遊んではいけないと制限された。学校の友人についても、宗教外の人との付き合いは悪いものだと言われた。

●恋人を勧誘するように頑張れと言われた。

●同じ信仰を持つ人と結婚すべきと教えられてきたし、

友人関係についても信者ではない人を「世の人」と言い、不必要に親しくしないように言われた。

●若いうちの恋愛自体が禁止。SEXの禁止など。恋愛は結婚を前提とした物であるべき。

交友関係を制限されたことは一度もないが、結婚に関しては、成人するくらいまで、"結婚は在日韓国人のクリスチャンでないとダメだ、"とずっと言われて育った。

●結婚相手と家族の入信を求められた。

●結婚式をキリスト教式で行ってはいけなかった。神に誓ってはいけなかった。

●男女交際禁止。結婚するまで処女でいるべき。

●非信者と仲良くしてはいけなく、非信者と恋愛してはいけなく、非信者と性行為をしてはいけなく、信者との交際も10代の頃は禁止、信者との交際期間も2人きりで会ってはいけなく、結婚前に性行為を行うことは重罪で、それを行ない悔い改めないものは会衆、家族から追放され、忌避される。

●自分が好きになった人と結ばれると不幸になる。人は一生に与えられる/受け取れる愛情の量が決まっておき結婚前に恋愛すると幸せになれない。異性の事はカボチャかじゃがいもと思え。異性の芸能人を好きになるのも望ましくない。

●友だちと遊ぶ回数が増えると、小言を言われた。あんまり遊んで集まりで寝ればもちろん鞭なので、自分で調節するようにした。母に結婚の報告(信者でない人との)をした時、一応おめでとうとは言われたが、その後、信者との結婚が望ましいので、残念ですとも言われた。

●今も。すでに、未信者と結婚し子もいるが。

●交際を断らせられたり、部活動を辞めさせられた。

●クラスメイトの中で敵対する宗教団体に所属している家庭の子を調べ上げ、「あの子と友達になってはいけなく」と言われた。宗教的な制限ではないが、中学生

●高校生になり塾に通ったり文化祭の準備で帰りが遅くなると、監視しているかのように非常に多い回数の不在着信が携帯電話に入るようになった。

●交際していた人と大学卒業時に結婚の話が出た時に、母親が霊能者に相談したところ良くない縁だと言われて反対された

●婚前交渉の禁忌は教義としてはっきりしていた。

●恋はしなくていい。結婚した後にその人と恋をしなさい。自由に活動させてもらえる人と結婚しなさい。全ては活動優先。白蓮という会合の運営(受付でここにこするのがほとんどの仕事ですけど)組織に所属する時には、交際している人がいれば別れなさいと言われ

た。活動に邪魔になると。それが出来なければ白蓮には入れないと。白蓮は、みんなの憧れでした。選ばれた人です。それを盾にされた。

●配偶者に対する会合の参加、生まれた子を入会を勧められ、実行した。半分は自分の意思があった。

●宗教の仲間以外を「世の人」と呼び、一緒に遊ぶことが禁止されていた。

●結婚相手の親族が地域でも有名な教団の信者だったのでかなり渋られたが、具体的に反対などはなかった

●信者以外とは遊んではいけない。誕生日会やお泊まり会に誘われても全部断った。

信者以外との恋愛も禁止。

●結婚の時に、相手も入信するよう求めた。しないのであれば、明らかな態度の変化があった

●未だに何をどう制限されたのか、客観的に分かりません。わかる範囲で書きます。世の人、として同じ信仰を持っていない人たちを定義し、関わりを持つことは許されませんでした。自然と私自身、世の人を忌避していました。差別と言っても良いかもしれません。基本的に世の人とは遊ぶことを許されませんでした。ただ近所の子供たちと遊ぶことはなぜか許されていました。おそらく他の団体内の人近くにおらず、母も黙認していたのかも知れません。学校で仲良くなった友達に遊びで誘われても、距離を置いていました。当然恋愛についてはより厳しく見られていました。

●結婚まで異性と関係を持たない 異性の車に乗らないなど。

●教団以外の友達と遊んではならない。恋人を作ってもいけない

●信者でない人との恋愛を否定された。

●友だちには宗教を勧めるようには常に言われていました。婚前交渉は悪とされていますので、それをした私はふしだら、娼婦のよう、デキ婚なんてしたら離縁など言われました。

●自由恋愛の禁止、婚前交渉の禁止

●異性との交流の禁止。教会の決めた人と結婚するので、恋愛をすることは不倫であり罪である。

●二人だけの世界を作るんじゃなくて、共通の目的をつくって同じ方向に向けて支え合う関係が望ましい(教団トップ名誉会長著作にて)

●異性との恋愛関係は徹底して避けるように意識させられた

●信者以外の人間関係は最小限に留めないといけない、信者以外と結婚してはならないとされていた。まだ子どもなので実際にはあまり関係なかった

●教団外の交友関係は良い顔をされない、男女交際は結婚を前提としたものであるべき、婚前交渉禁止など

●結婚する時あいてには入信してもらわなくては困ると言われた。最終的には入信しなかったけど、親が彼の判子まで用意して入信書に記入させたのはショックだった。

●信者以外のひとは全て「邪悪」なので深く付き合っ  
てはいけないと言われていた。親が自分の交友関係に介入することはなかったが、友達と仲良くなることに罪悪感があったので自分自身で制限をかけていた。信者以外の人との恋愛は禁止されていたので、恋愛に関しても人を好きにならないようにしていた。

●信者同士でしか結婚できない。あるいは、相手を入信させなければならない。

●信者同士で結婚した方が絶対に幸せ、信者以外と付き合う場合は入信しないと結婚させない等

●寺の住職が両親の彼氏と付き合っている頃に「寺の人間と結婚なんて許さないからね」と言われた

●生まれたときから、神様の中で完結するように教えられてきた。

●聖書の「悪い交わりは有益な習慣を損なう」との言葉から、信者ではない人との友人関係に制限あり。結婚の準備が出来ていない段階での男女交際は言語道断で当然制限される。

●小学校の高学年くらいになると、自分が周囲と違う宗教なのだという自覚ができ、同級生に知られてしまうことが怖くなり始めたが、選挙前には支持政党のポスターが何枚もはられており明らかに異質で途中で諦めて開きなおり、中学生以降では前向きに周囲に吐露するようになった。当時は無理をしていたと感じる。

●強要はされていないが、教団の子や男の子と遊ばされたことはよくあった。特に男の子たちは、お互い将来の結婚相手にする算段だったんだろうなと思う。

●自由恋愛は教義で否定されていたので、誰かを好きになってしまうのは仕方がないが、それを何か行動にうつすことは禁止されていた。結婚は信者同士で、それも親が認めた相手とでなければ出来ないのが基本。

●結婚適齢期までの恋愛不可（デートなど）など

●制限とは言えないかもしれないが、交際相手（現在の夫）が過去の経験もあって信仰を一切否定している。それもあってかやや母親とは折りが合わないところも。

●彼氏、結婚相手は教団信者しか認めない。初詣、神社巡り禁止。

●結婚するのは信者でなければならないと言われて育てられた。また悪影響を受けるから信者以外とあまり遊ば

ないようにとも言われていた。

●男性に電話したぐらいで「男に狂ってる」と言われた

●信仰のない人と結婚したが、私達が、教会の行事などに、参加するべきと親は思っており、いつも嫌な気持ちにさせられた。

●同じ宗教の人意外と友人として深く付き合っ  
てはいけない。結婚もしてはいけない。

●入信しないと結婚できない

●クリスマスパーティーに行かせてもらえなかった。

●謗法をしている家庭の家に人と付き合っ  
てはだめと、友人関係を絶たれたことが何回かあった。謗法というのがよく分からなかったですが、父の基準に満たない（居留守などの嘘をつくとか、家が違う宗派だとか、目つきが悪い）人はだめだと言われました。

●他の宗教に入っている人には近づいてはいけない、初詣に友達と行ってはいけない、お祭りは神社を祀るものだから行ってはいけない。子どもの頃どうしても行きたくてお祭りに行ったら、神社に近づいたら頭痛がした。おそらく親を裏切っていることへの心理的な要因だったのではと今では思います。

●宗教の人以外は世の人と言われて交流を断絶されていた

●男女は一緒にいてはならない。この世の友人はサタンの手先等。友人関係はかなり口出しされた。15歳の頃、教団の長老をぶん殴って抜けだしたので、高校より先はない。

●開祖によって決められた人との結婚しか選択肢はなかった。恋愛は禁止だった。

●信者以外と仲良くしては行けない

●友人が私が信仰していた教団と敵対する宗教に改宗した際や我が家と異なる宗教団体を信仰していた時、「あの日とは邪教を信仰していて悪影響があるから付き合うな」と繰り返し言われた。

●彼氏を親に合わせた後、父親から「教団の人間で誰か良い人を紹介しようと思ってたのに」と言われて、ゾツとした。

●結婚前の恋愛は基本的に禁止。兄も高校生でバプテスマ（洗礼）を受けたが彼女ができ、一緒にいるところを長老の奥さんに見つかりリークされ話し合いの元、排斥となった。彼としては排斥を選択したことで多感な時期に彼女との時間を大切に過ごせたようだった。

●信者同士の結婚以外は認めない。結婚できる年齢になるまで恋愛は禁止。交際するときも二人きりだと淫行してしまう可能性があるから付き人をつけるように。

●結婚するまでは純潔（性交しない）を守らないといけ  
ない。また、出来れば自分で相手を選ぶのではなく、  
教祖が選ぶ合同結婚式に参加してほしい。

●幼稚園に行っていない。結婚するまで性行為はして  
はいけないなど。

●親がダメだと判断した子とは付き合わない。

●教団外の友人と遊ばせてもらえない。部活に参加さ  
せてもらえない。異性との交友関係を極端に制限され  
る。

●早く結婚して子どもを産んで孫の顔を見せることが  
「正しいこと」だったので、物心ついた頃から男性と  
恋愛をするようにせかされました。交際相手のことを  
勝手に調べ、相手の親に文句を言っていました。基本  
的に世との交友を持たないので友達は作れません。私  
は親が認めた1人の子のみと小学生の時は遊べました。  
強く制限されたことはありませんが、恋愛や結婚のあ  
るべき形として、「お金などなくてもいい、愛さえあれ  
ば幸せになれる」ということを言われ続けました。私  
は特に母からのその言葉や、聖書にある（解釈の仕方  
によります）似たような言葉に、その後30代後半  
まで無意識的に肯定していたと思います。（今、自分  
に経済力がないことをそのせいにしたくはありませんが、  
子どもの頃に受けた言葉は強烈に影響を及ぼしま  
す！！）

●友達も入信させるべきだと言われた。恋愛そのもの  
よりも「処女」である事を強要されていた。結婚時に  
パートナーを入信させた。離婚はするべきではないな  
ど。

●結婚は信者同士とするか、相手が非信者の場合は入  
信してもらわなければならない

●小学生の頃は世の子とあまり遊ばないようにと言わ  
れた。中学生以上は、信者以外とは恋愛禁止。信者内  
でも若いうちは恋愛せずに奉仕を優先する同調圧力が  
あった。

●信者以外の人と友達や恋人になっ  
てはいけない、結婚前の性的交渉の禁止、同性愛の禁止

●あの子のおうちはキリスト教徒か知らないから（付  
き合うな）（程度が低い）（性的にふしだらである）的  
なことをよく言われました

●教団が運営している信者同士の結婚相談所に無理矢  
理連れて行かれた

●世の友人と交わるな

●聖書のいう「悪い交友」にならないよう一緒に遊ぶ  
友達をよく選ぶように教えられた。クラスメイトであ  
っても異性と親しくすると誘惑となるので避けなけれ

ばならない。異性との交友は結婚を前提とする場合の  
み、同じ信者の中でのみ許されること。同じ信者であ  
っても熱心に活動していない者は悪影響となるので交  
際は控えなくてはならない。

●親から基本的に信者以外と交際する際は信者である  
ことをうち明け、会合などに参加してもらうこと。結  
婚する際は入会してもらうことが条件だと言われまし  
た。

●交友関係は全て親にチェックされた。

●教団の母が日蓮の親戚との交流を制限してた

●婚前交渉は許されていないので、私が宗教を離れて  
からでもずっと言われました。なんだったら今もです。  
もちろん「世の人」と交際することは認められていま  
せんし、教団同士であっても子ども（未成年という判  
断がよくわかりません）同士の交際がバレると長老に  
呼び出されていました。また、離婚は死別かどちらか  
の不貞行為のみ許されるので、私の親は仲が悪かった  
ですが離婚しませんでした。当時父は未信者でしたが  
今では信者です。

●信者以外との交際禁止。結婚するまでデート禁止。

●あの子とは付き合っ  
てはいけないと何度か言われた。決定的な理由ではなく母親の好き嫌いだけ。

●具体的に何か言われた記憶は無いですが、信者同士  
で結婚するのがいいんだらうなというのは感じていま  
した。

●同じ宗教以外の人との交際を嫌がられた

●信者は天国で永遠に生き、未信者は地獄で永遠の滅  
びだと子供にも教えられていたし、日曜礼拝は神に捧  
げる人生の最優先事だからと、恋愛や結婚相手も制限  
する思考にさせられていた

●婚前交渉はしてはいけない。学生恋愛は無駄。

●友人について明らかな制限はなかったが、学校が教  
団系だったので必然的に周りは信者のみだった。恋愛  
や結婚については信者（で本人たちは言わないがもち  
ろん異性）であることを勧められた。でも信仰してい  
ない人が相手でも、その人を信者にできたら徳があるか  
ら、ということも言われた。

●信者同士での交友、結婚前提での交際しか認められ  
なかった

●婚前交渉の禁止。

●友人が家に遊びにきている時、父がわざと大声で捧  
みはじめた

●交友関係。信者でない人との交友関係の禁止。学校  
生活を送るうえでの最低限の関係しか許されなかった。  
恋愛関係。もちろん禁止。セックスに関してはより厳

格で、信者同士で結婚後でなければセックスはしてはいけない(婚前交渉の禁止)。マスターベーションも禁止。また親がポルノ(少年向けマンガ雑誌に載っている程度のちょっとエッチなもの)とみなすものはすべて禁止された。

●結婚前の性交渉禁止

●私は物心ついたときからゲイと認識してますが、女性と結婚しなければいけないと言われたので、どうやって結婚すればいいか、子供なりに考えてました。男色の噂のある芸能人の結婚している様子とか、食い入るように見て勉強してました。

●結婚するまでセックスをしてはいけないというのが教団●家族の間での暗黙の了解だった。私自身はゲイであったこともあり無視していたが、弟は実際に30代でキリスト教信者と結婚するまで純潔を守っていたと聞いた。

●恋愛禁止。恋愛漫画を読むことも禁止。日記とか勝手に読まれて、今の状況とか把握される。結婚すること＝「祝福」を受けることが絶対で、大人になってからは祝福が嫌なら生涯独身を貫くでもいいと言われた。一般結婚はあり得ない。

●交際を制限されるとまではいかないが、恋人に宗教の話きちんと言えろと望ましいとされていた。ずっと言わないのはダメとか、結婚するなら言いなさいなど。怒鳴ったり脅したりということではない。

●小学生のとき、好きな子がいてもいいか聞いたら、「結婚は神聖なものなので、子どものうちにそういうことするのはどう思う?」「いけないの?」「そうね」と言われた。婚前性交渉はNGなので、年頃になっても相手に求められるのが怖くて大人になりしばらくたつまで告白されても断わるなど、異性と恋愛したことがなかった

●婚前の恋愛は不道德と言われた

●低学歴な人と付き合ってはいけない。

●同じ宗教か勧誘するしか、一緒になれない。

●私は女子校出身(無宗教の学校)で、それまで異性と関わる機会があまりありませんでした。大学入学後、男性のいる飲み会に参加したところ、親から「汚らしい」と言われ、悲しい気持ちになりました。20代後半になった今もお、私が男性と二人きりで出かけると狂ったように怒ります。もっとも、親の信仰している宗教は、異性間交流を禁止しているわけではないのですが。

●前の設問でも回答したが、要はどここの家庭でもあるように、異性愛者であることを期待されていた。

●強要されたことはありませんが、信仰の事はあまり他人に話さないようには言われておりましたので、神社や寺に修学旅行等でみんなで出かけたときには一人気まずくみんなと同じように手を合わせるふりをしたりしていました。

●交際していた人の家は、片親が外国人なので交際してはいけないと言われた

信者は優れている、また教団を誹謗する人は狂っている…との指導から、自分が信仰を持っているのが、恥ずかしいし、嫌われるのが怖くて、付き合えなかった。異性に嫌われるのが怖くて告白出来なかった。

●他宗教の熱心な信徒とは相容れない部分がある。

●とにかく、婚前交渉は絶対いけないことだと教えられた。初めて恋人ができた時は、このことでかなり葛藤した。25歳の時に、友達の家泊るといって(友達の家泊まることは頻繁にあった)恋人の家泊まる予定だった日の朝に、母親が急に「結婚するまで男とセックスするんじゃないよ」と一言ぼそと言ったので、ゾツとしたことがある(ふだん「セックス」なんて言葉を母の口から聞くことはなかったのも含めて)。強要されたことはなかったが、「できればキリスト教信者同士で結婚してほしい」という空気は、教会内ではひしひしと感じていた。

●恋人の存在がバレて怒られた。くだらないことをしていないで信仰してほしいと言われた。また、結婚については同じ信仰をしている相手と、二人の相性などを教団で鑑定してもらってオッケーだったらにしてほしいと言われた。

●相手が同じ宗教じゃないといろいろ面倒と思うようになった

●自由恋愛、自由結婚は大きな罪になります。私の時代は一定の年齢になったら二世は二世同士でマッチングされ祝福結婚する運びでした。そのため、誰かを好きになることも悪とみなされ、祝福まで純潔を守らなくてはなりません。”サタンの血統”を祝福を通して”神の血統”に転換することで家庭それぞれが”神の血統”を築き、守り、繋げることを一番重要視している教えです。信者以外の男性と、付き合ってはいけないと言われた。

●教団幹部と結婚するように。結婚相手が信者でない場合は、入信させてから結婚するように。外国人との結婚は許さない。

●制限はないが結婚相手や将来の子を入信させようとしていて心がづらい。相手にもまだいない子にも申し訳ない。

●祖父母が信仰心が強く、共産党を支持している親の子とは付き合うな、共産党ポスターを貼っている家には行くな、と言われていた

●制限されてはいないが、実家に帰ると子供を作って子孫を残して欲しいと言われる。恐らく次世代を必要としている要素もあり得る。(選択の権利は自分にある)

●教団以外の人=世の人との恋愛は有り得ない。友達も選びなさいと言われてた。

●18歳で祝福を受けて、どうしても好きになれないタイプなのにどうしても、言い出せず、25歳で断ったのは、ひとめぼれされた学生と同棲して、着拒して、母、姉と連絡を立つ。

●結婚しないとね、等

●普通の恋愛をしてはいけない、誰かを好きになってはいけないとずっと言われていた。男の子と連絡先を交換することを禁止されていた。祝福結婚をするよう言われていた。

●信仰している事に批判的な子供とは関わるな的な事を言われたような

●正しい交友関係か、恋愛関係かを霊視して判断を受けると言われた

●強要はされていませんが一言。できれば同じ信仰を持つもの同士の方が好ましい、"変な"宗教の人は選ばないでほしい、ぐらいいいことは冗談まじりに言われたことがあるような記憶がうっすらとあります。

●友達付き合いについてすぐ口を出すことがわかっていたので友達の悪い面は一切母には話さないようにしていました。

●私は洗礼をうけていなかったので結婚相手は自由に選べましたが、洗脳状態で13歳に洗礼を受けてしまった2歳年上の兄(16歳で宗教から離れました。)は一般の方と30代で結婚した際、母から絶縁宣言を受けて結婚式にも母はきてくれず何年も無視され続けています。とても理不尽な教えで今も悲しいです。

●婚前性行為について

\_\_男女交際は大人になってから、同じ信仰を持つ人と。

●結婚するなら信仰している宗教に入らなければダメだと言われていた

●教団内との人としか結婚したらいけないと言われてた。友達も教団外の人とはあまり関わるなと言われ、自分もともと人付き合いが苦手な性分だったので気にしなかったが、クラス内に友達の多かった姉はだいぶ苦しんでいた。

●まだだれとも恋愛してはいけない。あなたの体と心は、将来結婚するひとのものだから、好きになっても

触られてもいけない。

●小学生の頃神社の祭りに誘われたのに遊びに行っただけでいけないと言われた。お神輿を担ぐのもダメだった。

●持ち物チェックなどの過度な干渉

●同じ信者じゃなきゃ結婚出来ませんでした。付き合う→結婚前提なので、学生時代なんて絶対無理でしたし、未だに結婚したいの?!と親に驚かれます。あなたは結婚する余裕なんて無いとか言われます。29歳にして童貞です。

●外の男性と親しくなってはならない

●この信仰をしない人とは絶対に結婚してはいけないし許さない

●同じキリスト教信仰を持つ人との結婚でないといいない、とよく言われています。

●恋愛禁止。男子生徒と話しながら帰ることすら嫌がった。教団信者の子は全否定。話をする事すら嫌がり、悪口を散々聞かされた。

●特に大人になったら結婚する時に信心している人と一緒になろうという風潮はありますね。

●母親が信じている宗教の信者とお見合いさせられそうになった

●特に異性関係は厳しかった。周りが誰と誰が付き合ったとか言っている中でそれはしてはいけないことだと思っていた。結婚は信者同士でしかしてはいけない。

●友達が別の宗教を信仰していることを理由に批判する。友達の親に信仰を勧誘するため、交友関係が破綻し、いじめを受ける。パートナーとその血縁者に対して信仰を強要する、または信仰が無い方との交際を認めない。

●同じ信仰を持たない人は異邦人であり関わるべき人達ではない

●教団以外の人(世の人)とはつきあわないように。彼氏など言語道断。教団のひとと結婚するように言われてた。

●この世の人と交わらないように(未信者と交わらないように)→この世のよくない影響を受けるからという理由で、幼稚園や保育園にいかせなかった。小学校でも、この世の子供とあまり遊ばないようにと言われてた。恋愛→結婚外の性行為は淫行なので禁止教団以外との交際、結婚は禁止。結婚→妻は夫を深く敬い、夫を支えるようにと言われていた。会館で結婚式をやる人がいたので、自分も教団と結婚したら、会館で結婚式をするのかなと思った。

●誰とも恋愛禁止、祝福(合同結婚式)を受ける

●今考えると"強要"というよりは"長期間言い含めら

れていた”のですが①小学生の時から「未信者に合わせるな」「あの子の家は〇〇だから悪魔を信じている」「汚れたところに近づくな」他、親類の葬儀(違う宗教への拒絶などの理由による)などへの不参加など多々あった

②「恋愛は早い●くだらない」、子の同年代の恋愛についての罵詈雑言を頻繁に聞かされる等から、恋愛に対してネガティブな感覚しかなかった。恋愛に対するモチベーションも何もあったものではないのに、一定の年齢を超えると「婚前交渉は絶対ダメ」を口酸っぱく言われた。

●基本的に教団以外の友人は世俗の交わりで悪魔の誘惑に満ちたものとして注意するよう言われていました。

●信者以外の同性の友人と全く遊べなかった訳ではないのですが、休みの日は全て奉仕活動へ参加しなければいけなかったため、ほとんど遊ぶ機会はありませんでした。

信者以外との結婚は教団からの排斥に近く、婚外交渉は禁止でした。”

●親から厳しく言われたことはないが、同じ信仰の人と結婚を前提としたお付き合い以外は認められないと教えられていたから、自分から蓋をしていた。

●同じ宗教の人とでないとは結婚できない。結婚するまで純潔を守ること。同じ宗教の人とでないとは親しくしてはいけない。

●信者同士で結婚しなければならない。婚前交渉はしてはならない。

●信仰しない人との結婚は認めないや勘当するなど(事実としてでなく脅的に)言われた。

●宗教の方でOKされた人以外とは交際しない。親の嫌いな人と友達にならない。

●交友関係の制限をされたことはありません。恋愛については、母が、同じ信心をしている信者を私の相手に望んでいることが明白で、「信者以外との恋愛や結婚はいけぬ」と言われたことは一度もないものの、事実上、信者以外との恋愛はできぬと感じていました。

●婚前交渉の禁止、異性と2人禁止

●教義においてあるべき恋愛観を提示しており、親もそれを是としていた。具体的には恋愛関係の報告、結婚前の肉体関係の禁止。

●異教の人と付き合ってはいけない

●教信者の子がクリスチャンでない方と結婚すると否定的な発言をすることがあったため、歓迎される付き合いとそうでないものがあるのだと間接的に心に染み込んでいた。純粋な交友関係ですら罪深いものなので

はないかと常に心のどこかで罪悪感を持たされるようなことがあった。また第一に優先すべきは礼拝や教会行事であったため、友達と約束して日曜日に遊ぶのは難しかった。

●他宗派(教団)の友人に対して、家へあげることを拒まれた。

●同じ宗教でない子供と友達になることもあまり良くは言われなかったが、禁止ではなかった。恋愛は「結婚を前提とした交際」のみ可、ただし結婚は同じ宗教の人とだけ。セックスは結婚してから。

●自分で制限をかけた。両親が仏教の教えに入り供物費を支払っていることを、他人が理解してくれないと思った。

●毎週日曜日の礼拝は、学校行事以外は認めてもらえず、友達から日曜日に遊びに行くのを誘われても断っていました。子どもの時は「クリスチャン同士の結婚」がいいと母から言われていましたが、現在は特に言わなくなりました。

●結婚を前提としたお付き合いしか許されず、信者とししか結婚してはならないという掟があった。そもそも恋愛といものがあつたかどうかもわからない。信者以外との恋愛は反逆者扱い。

●「不釣り合いにも不信者とくびきを共にしてはならない」という聖書の言葉に従い、恋愛や結婚は信者以外には許されていない。友人関係にはそこまでの制限はなかったが一線は引くようにと教えられていた

●非信者との結婚、また結婚前の性行為は認められていなかった。信者同士で結婚を前提にした交際のみが許されていた。

●結婚は神様が決めた相手とするように。婚前交渉は禁止。

●制限されたことはないが宗教内で結婚するよう言われてはいた。

●悪い影響を受けるのでなるべく教団以外の人と遊んでほしくない。付き合う人をよく選べ(教団以外の人とは付き合ってはいけないという意味)。異性と結婚を前提にしない付き合いをしてはいけない。婚前交渉の禁止。結婚する前に子供ができれば絶対に面倒は見ない。

●少し質問からはズレるかもしれませんが、信者であることを隠すように言われていました。

●婚前交渉は御法度でした。そもそも恋愛とご縁が無くて、よく分かりません

●純潔を守ること。祝福を受けた相手でないといけぬ。

●制限はされてないかも知れませんが、異性と結婚し

なかったら、相続させない、親子の縁を切ると言われた。

●宗教の信者以外の人と遊ぶのは禁止だった。恋愛結婚は、若さの盛りを過ぎるまではしてはいけなかった。しても男女2人きりにはなってはならず、手を繋いだりハグしたりするのは禁止だった。

●同じ宗教に属している人と結婚してほしい。彼氏に宗教の説教を何時間かした

●恋愛禁止。二世同士で決められた相手と結婚しなければならない。

●結婚は教祖が選んだ相手としかしてはいけない。また、その相手はどんな人であっても受け入れなければいけない。それまでは付き合ってもいけないし、人を好きになってもいけない。純潔は自分の命に変えても守り通さなければいけない。

●世の人という括りでほとんどの友達との友好関係は「好まれ」ませんでした。誕生日祝いなどもできず、仲良くすることは難しかったです。

●近所の寺社に行くことを咎められ、一緒に行こうと言った友達とは遊ぶな、と言われた。

●恋愛そのものを遠ざけるように言われていた。具体的に何かをされたことはない。

●純潔を失ったら地獄に行く 地獄でも生き残れない

●制限などされなくても、カルチャーの違いで他の人とは話が合わないのが友達になりようがない。

●信者以外の人との交際、婚前交渉禁止

●婚前交渉は教義に反する

●クリスチャンはインテリなんだから、下衆な人と関わるな！民放のつまらない歌番組やトレンドドラマを見るミーハーな子と付き合わずにクリスチャンになれ！

●友達も異性も信者

●結婚する人は入信する人でないといけないと言われた。

●子供の頃は同じ教団の子としかあまり遊ばせてもらえなかったし、たまに学校の友達と遊ぶと小言を言われました。教団外の子と遊んで漫画やアニメに興味を持つとさんざん叱られました。教団外の相手との恋愛は大層反対されましたが子供の頃と違って私にも意思がありましたので最終的には尊重してもらえました。

●他の信者から母親に「世の子(学校の友達)と遊ばせるのは良くない」と圧力がかかり、突然小4のある日から放課後に友達と遊ぶのが禁止されはじめた。中学以降も同様で異性と付き合うのも禁止、男女交際は結

婚前提で親や周囲の許可を得た模範的な信者同士でないと許されないというルールだったので、まともな恋愛経験がない。結婚も30代後半、教団をほぼ離れた状態になるまでできなかった。結婚しても子どもを持つことに否定的な宗教なので、前向きに考えることができず結局子なしのまま今も暮らしている。

●恋愛結婚すると、あなたは不幸になる、幸せになれるのは、合同結婚のみだ

●クリスチャンでないと認めなかった。

●世の女と恋愛をするな キスもするなと

●教会外の人と友人になってはいけない。婚前交渉の禁止。

●成長できない恋愛はするなと言われた。成長するかどうかなんて後からわかることだと思う。ただ相手を好きでいることは出来ず色々難しく考えすぎていたと思う。

●教団は性に保守的だが、私は15歳で離れたのであまり直接の制約は受けていない

●交友関係については、乱暴な言葉遣いをする子とは付き合ってはいけないと言われました。中学時代に彼氏ができましたが、それを知ると学校に電話され、相手の親御さんにもあることないことを言い、別れさせられました。高校時代には、私が彼氏と会えないように毎日学校まで親が送迎しました。スマホにロックをかけることは禁止。彼氏と会わないように、学校と宗教のあつまりと親の出かける場所についていく以外の外出も禁止され、友達と遊ぶこともできませんでした。教えでは「若さの盛りを過ぎるまでは恋愛はふさわしくない→婚前交渉が禁止のため、そうならないよう性欲の強い若いうちは恋愛をしないようにという教え」とあり、大体30歳前後ぐらいまで恋愛は良くないとされています。また信者同士でしか恋愛はできません。

●友人が誕生日会を行ってくれようとしたが断るよう強制された。信者同士の結婚のみ許されるとの指導を受けていた。「主にある者とだけ結婚するように」コリント第一7:39

●結婚は樂園では常々言われてた。恋愛はサタンの畏だからもちろんダメ。テレビで、あの俳優カッコいいと言ったら不道徳だと怒られた。

●結婚するなら相手を勧誘(教団に入会させる事)しる。デートや遊びで神社等に行ってはならない。

●自由恋愛禁止、結婚相手は教会が決める

●結婚相手は信仰を続けられる相手でなければならない

●結婚相手は教団の人じゃないとダメと言われていま



した

- 婚前交渉は禁止 彼氏との旅行も禁止。結婚は同じ宗教の人と、と何度も言われている
- 今の彼氏と一緒にになりたいけど、結婚の話になるとなると言われるかわからず切り出せずにいる。
- 性教育からの切り離し、友人などを親が制限、恋愛＝汚らしいもの（おそらく純潔思想）、金銭をろくに与えられなかったので人間関係は歳を重ねるごとに消え孤立…要するに、あらゆる経験を奪われたように思う。
- 自分で払うと言っても携帯を持たせてもらえず、交友関係を閉鎖的にされた。中学生のクラスメイトと話しているだけでなぜか怒られたのに、なぜ彼氏が出来ないんだ、寂しい奴め、と言われた。
- 小6の頃、2歳下の男の子と手の大きさを比べてただけで「異性と触れ合うなんて不道德だ」と叱られた。中学生～社会人時代はGPSで常に監視され、学校や職場の終業時刻から10分以内に帰路につかないと迎えに来て放送で呼び出されたり「世の人と喋っていたのか」と詰問される。異常だし苦痛だった。世の人への恋愛感情＝セックス、と直結させ、彼氏が欲しいと言っただけで「〇〇(私の名前)がセックスしたいって言うてる！」と母に大声で叫ばれる。家を出るまで女＝母のイメージが自分の中に強く根付き、自分が母のような卑しくて下品な「女」という性別であることが許せなかった。
- 教団でない人と友達になってはならず、ましてや恋人など言語道断。
- 同じ宗教の子としか遊んではいけない。恋愛も禁止。
- 異性との交際
- 婚前交渉をしないように指導された。時代もあるとは思いますが、自分の親の発言は、カトリックの教義に強く由来していると感じた。また、それが自分の男性とのつきあいに多少の影響を与えていたと感じる。
- 信者以外とは恋愛、結婚は禁止。恋愛も、結婚前提で結婚できる年齢になってからじゃないとだめ。結婚する前に性行為やキスなどは禁止。
- 男女一緒に遊びに行くことはもちろん、メールアドレスの交換のような男女交際につながりそうな行為は一切してはいけないと言われていた。
- 教団信者とは極力付き合うなと言われてました
- 両親のもとへ、今の主人が挨拶に行った際、結婚するなら幸せになる方法として入信しなければ結婚NGと言われ、結婚のために主人は、嫌々入信しました。
- 他の宗教を信仰している女性と結婚と話したら、頼むからやめてくれと父親から言われていた。

- 結婚するまでは、性的な関係を絶対に持つてはいけない。子供を産まない夫婦はエゴ。私はセクシャルマイノリティーなので、ものすごく嫌悪感がありました。
- 信者以外の人は世の人とよび、仲良くしてはいけないと言われていた。
- 信者同士結婚しなさい
- 信者以外との恋愛は禁止で、結婚は信者同士ですべきものでした。
- 女の子を傷つけるのはいけない。色情的感情はいけないと言われた。
- 結婚するまでセックスしてはならない
- 信者以外との交際 友人に関しては制限なし
- これは教義(いちおう、姦淫してはならない、というのがあります)というより母の個人的な潔癖の方が強く出ていたと思いますが、私が性的に成長したり、男性と付き合ったりすることに対して嫌悪や抵抗があるようでした。強くは言いませんが、嫌がっているのが態度や言葉の端々に表れていました。それで私にも罪の意識みたいなのがずっとありました。
- 純潔教育(結婚するまでセックス禁止)、テレビゲームの禁止
- 18歳になるまで、恋愛は基本禁止。グループ交際しか認められない。男女の性的関係は結婚するまで許されない。結婚は信者同士ですべきで、民間結婚は救われない。
- 友人と遊ぶ際は必ず布教もしなければならない
- 他の信者家庭との付き合いはあまりなく、近所の友達とは自由に遊ぶことができました。教義で自由な恋愛は禁止されており、私はそれを忠実に守って生活していたので、親から恋愛をしてはいけないと言われることはほぼありませんでした。
- 末信者との恋愛は当然禁止。信者同士の恋愛も、結婚を前提としないものは許されなかった。末信者の友人を作ることは制限され、「悪い交わりは有益な習慣を損なう」という聖句を身に叩き込まれた。
- 私の友人にも布教活動をしてくる。誰にでもするからとても恥ずかしかった。お陰で私から同年代との壁ができた。友達が作れなかった。異性との関わりに過度に反応していた。電話での聞き耳、過干渉。友人と遊びに行くのも過度に聞いてきて「世の友」を作ってはならないと常に説法された。
- 恋愛や結婚は素晴らしいことで、素敵な人と巡り会える自分になることが大切という教えでした。ただ、彼氏彼女ができる相手と相手に信仰を勧めるような話は必ずありました。友人関係も、素晴らしい人と巡り会え

る自分になることが大切だと教えられていましたが、なかなか学校の友達と休みの日に会うことができず、必然的に同じ施設の子供たちの方が同じ悩みを持っていて仲良くなっていました。

●同性愛否定、神様が選んだ伴侶を選ぶべき、自分から理想を探しに行くことは悪、同棲も否定気味

●結婚した相手以外と性的交渉を行ってはいけないと言われた。

●強要ではないが、「同じ宗教の人と結婚した方が楽」ということは言われていた。また、ネットで自分の宗教の評判を知り、自分の意思で結婚できるのか怖くなった

●信者以外の交友には難癖を付けられ、「遊ぶな」と言われたこともあった。幼い頃から(成人しても休日は)門限は「夕方5時」であり、守れないと外出禁止にされたり門限を早められたりした。恋愛関係では、付き合っている人がいるとばれるとすぐ入信させると言われ、実際に入信した人もいたが、入信してさえ個人の品定めをされ、結婚は許さないと言われたこともあった。

●私のクラスメイトの男の子が(告白したいと)電話をかけてきて以降、母が学校に電話し「娘がいじめられている」などと騒ぐ。

●結婚前の性行為がNGという理由もあり、彼氏との泊まりなどは実家にいた34歳までずっと不可でした。性行為がなくても、彼氏の家で二人でいること自体駄目で『そこから出なさい!』と鬼電かかってきたこともあります。親に彼氏のこととかオープンな友達がとても不思議でした

●異性と遊ぶと嫌な顔をされる

●彼氏なんて早いと男性関係の話をするとうるせに嫌な顔をされる。同じ宗教の人と付き合い、結婚することを望んでいた。

●信者でない異性と絶対に付き合ってはいけない。信者同士の恋愛も、結婚するまで2人きりになってもいけないし、性行為も手を繋ぐこともできない。

●神様を信仰していない友達とは関わってはいけないと言われ、反対に神様を信仰している子供とは過剰に間を取り持ってきた

●以下は、人間関係制限の間接的な要因です。その宗教の考えを持っているのが同級生の中で自分一人しかいません。すると、それを知られると恥ずかしいので隠したくなります。人間関係が疎かになり、できなくなります。したくなくなります。交友関係や恋愛関係がしにくいような人格形成に強い因果関係があると感

じます。個人的な、幼少期からずっとうまくいかなかった人生の経験からです。

●同じ信仰の者同士との交流を強要された。

●宗教結婚のため恋愛が禁止だった。小学校でのバレンタインデーも最初のうちは禁止されていた。

Q31 Q30で「1」～「7」のいずれかを選択した方にうかがいます。あなたが受けた「職業や学業の制限」はどのような内容で、あなたはその時どう思ったかを、可能な範囲で教えてください。無回答も可能です。

- 家族は死ねば良い
- 出家をするため学校を辞めた。
- 高等教育、特に大学進学に関しては教義によって否定されていた。また布教を第一にした生活設計をするよう組織から指導されていたので、フルタイムの正社員で働くことは信仰心が無いこと、とみなされた。基本的に非正規、パート、アルバイトが推奨されていた。(布教に一番時間が割けるので)
- 校歌を歌う、選挙の投票は禁止。高校は、商業科か通信制。大学は自分には無縁で考えたこともなかった。
- 教団中学への進学を勧められた
- 幼稚園にも保育園にも行かせてもらえなかった。「子供は親が家で育てるもの●世の影響をなるべく受けないうため」ということだった。信者の同年代の子どもたちもそうだった。高校は一般高ではなく商業高校に行った。高卒で奉仕活動に従事するため、なるべく高校でスキルが身に着くようにという趣旨だった。大学にも行かなかった。父は信者ではなかったので強く主張すれば行かせてもらえたかもしれないが、「高校は商業高校か通信制高校、大学は行かないで奉仕活動」というのが「模範的な信者の子ども」のモデルであり、それ以外の選択肢はあえて提示されなかったため思いつかず、そのルールに沿って進んだ感じだった。
- 制限ほどのことではありませんが、大学受験の際、ミッション系の大学は多少危惧された覚えがあります。結果として、私はミッション系の大学に進学しましたが、「悪い考え方とか教わったりしないと思うけど、ちょっと心配だなあ」と少し気にかけていたように感じました。その大学への進学については全く反対されず「おめでとう」と喜んでくれました。
- また、教団大学へのオープンキャンパスは親同行で強制的に行くことになりました。大学を回った後に感想を聞かれて、ネガティブな感想を言いましたが「うーん、そっかー。でも、志望校の一つに入れてみてもいいんじゃない？」と言う程度で怒られることはありませんでした。今考えると、少しでも教団大学を視野に入れてほしかったんだろうな、と思います。
- 大学に行きたいと行ったら、ユタ州のモルモンの大

- 学しか選択権を与えてもらえなかった。進化論を知ることすら許されない大学には行きたくない、性犯罪が非常に多いユタ州には住みたくないと思った。上の兄弟は普通の大学に行けたのになんで自分だけと思った。進学したかったし正社員として普通に働きたかった
- 伝道活動を優先するためにパートタイムの仕事をするべき。高校は自転車通学ができる範囲の高校しか認めない(電車通学は女子との誘惑がある。放課後は部活をせず伝道活動などに充てるべき)。
  - 信仰上の理由ではないが、献金による経済的困窮のために進学先が制限されることはあった。
  - 制限というよりは、進学の度に霊能者に、どこの学校がいいかを聞いて、それをもとに志望校などを決められていました。自分で決めたとところに行きたいから霊能者に聞かないでくれと頼み込んでも、勝手に私の分の話聞いてきて結果を教えてくださいました。
  - 職業や学業の制限からは少しずれるかもしれないが、神社は良くないものと教育されており、学校行事等で神社などに行くのをヨシとされなかった。初詣等も大人になるまで行ったことがなかった。
  - 正規雇用の職を探そうとしたらスーパーのレジバイトをしると言われた 理不尽だと思った
  - 母は教団高校への進学希望。父は教団高校への進学は絶対阻止。
  - 大学へ行ってはいけない。行きたかったので就職してこっそり学費を貯めることにした。
  - 集会に支障きたす仕事はNG。
  - 大学進学禁止。大学へ行きたかった。
  - 高等教育の禁止、集会や奉仕は仕事より優先でした。
  - 高校時代、学業と家計のためのバイトと宗教活動をこなさなければならず、体力的にも厳しくて学業に専念したかったけど宗教活動をやめたいとは言い出せなかった。学業に専念させてほしかった。その後も宗教活動の妨げになるような仕事をする事は許してもらえなかった。
  - 高等教育は悪だという組織内の風潮、教えにより大学進学は出来ませんでした。中には高校への進学もさせて貰えなかった同世代の子もいました。就職については、正社員はNG。パートで、宣教活動や集会出席、聖書研究(笑)の妨げにならない時間帯に働ける仕事を推奨されていました。そんな仕事ほとんどありません。
  - 大した制限ではないですが、国家は歌うなと言われてた事は覚えています。私だけ歌ってなかったら何か言われるかと思って、歌う時もありましたが。
  - 小学生くらいの頃から、大学選択は「国立大学か教

団大学のどちらかしか行かせられない。」と言われていた。実家は貧乏だったので、学費の面でそう言ったのだと思うが、国立大学に行けるだけの学力が無かったので、選択肢は自ずと教団大学になった。また、教団の中では教団大学に受かると超エリートとされ、受かるともてはやされた。生まれた時からどっぷりと信仰に浸っていた私は、大学選択の際は迷わず教団大学一択にした。

●家から出たいのであれば教団大学しか学費も生活費も出さないとされた。そこ以外は、家から通える範囲の大学しかダメだと言われた。

●経済的な理由もあり、仕方ないと思っていた。

●布教活動や集会の参加に影響が出る仕事には就かないようになどです。

●範疇なのかわからないが、系列の学校の中学受験は既定路線だった。

●記念受験予定だったが、意に反して受かってしまったので中高は系列の学校に通った。途中辞めたかったが、卒業した。大学は違う理由をつけて公立に行った。当時は強制だと思っていたが、宗教が嫌だということが話せずにいたので、きちんと話して要望したら違ったのかもしれない。ただ嫌だと言ってしまったらどうになってしまうのかという恐怖感でいっぱいだった。

●高校受験の際、他の宗教系の学校には極力行かないで欲しいと言われた。

●教団の教え通り、高等教育を認めなかった。しかし一方で親自身学歴社会への憧れが強く、なぜ大学に行かないのか、就職しないのかと、詰め寄ったりもした。開拓奉仕と呼ばれる全時間奉仕を薦めておいて、同時に大学進学と就職をしない事をなじられ、ある時な大学進学に反対し、コロコロと世間体で子供を振り回した。二重基準で二枚舌だった。

●学校自体は、母からエリートばかりの教団大学を目指したら？と軽く促されただけで、どこの大学に行くかはそこまで強要はされなかった。教団の本を渡されて勉強しろと渡されたことはあり、資格？なのかよくわからないが、テストみたいなものがあるらしく、私は受けてないが兄弟は試験のようなものを受けていて、信者の皆様に受け入れられた！と母が大喜びしていた。大学や職業に関しては、「これまであなたのために読経や教団、家事育児など尽くしてきたからいい大学に入り、大企業に勤め親に楽させると何度も何度も圧をかけられた。」お母さんのために生きているんじゃないと拒絶しても「親に逆らってはいけません。親に尽くすのが子供の役目。一度でいいからお母さんの言うこと

を聞きなさい。」と何度も言われて話にならない。

●高等教育はこの世の知恵なので大学には行ってはいけないと言われていた。大学には行きたかったが金も出さないし家から出ていけと言われ諦めた。

●団体の学校に入れられそうになった

●宗教活動を第一に考えなければならないという暗黙の制限があり、将来の職業などの夢や希望を持たなかった。

●公立高校か通信制高校しか進学させない。学校を卒業したらパートかバイトをして月に 90 時間の布教活動をするように。それ以外認めない。

●フルタイムで働くことへの反対。一生を奪われると感じた。

●高校●大学進学時に女子校でなければいけないと言出し、志望校と違う学校に行かざるを得ないことがありました。

●教団大学への進学の強要

●中学●高校で運動部に入ると平日夜の集会や週末の宣教活動に参加できなくなるため、文化部に入ることを求められた。

●大学進学を相談したら、専業主婦（宗教活動をしている）の母親は経済的に働かなくてはならないから…と諦めさせられた。就職は平日 19 時からの集会に遅れず出席することを条件とされた。

●体育祭の騎馬戦禁止、進化論は信じてはいけない

●これは未信者の父の教育方針もあるが、普通科高校に行く選択肢はなく、何かしらの手に職を付けられる高校にいかなければならないという空気だった。

●世界が減びるので勉強、進学する必要はないと言われていた。大学進学を選択肢は全くなかった。

●学校を指定されました。卒業後宗教関連の施設に就職することを条件に無利子で学費を借りられたので説明を聞きに行きました。当時特別就きたい職もなかったのどとくに疑問は抱きませんでした。

●強要ではありませんでしたが教団学園に行かない幹部の子は珍しいので、私の父は肩身が狭かったと思います。「教団高校行かないの？」と悲しそうに聞かれたことはありました。

●偏差値 70 の高校に行ってたが「教団大学だったら学費は出すよ」と言われ大学進学を諦めた。※教団大学は行きたくなかった。奨学金は反対されていた。実家は市営住宅でお金がなかった。

●学校行事への不参加

●進学先を制限された

●職業警察官など、人を傷つける可能性のある職業へ

の制限。宗教活動が疎かになる就業時間、日曜日の集會に重なる職業の禁止。学業：大学などの高等教育への否定的な発言。これは強制ではない。

- 仏教系の学校には行かないで欲しいと言われた。
- 受験高校が牧師の預言で決まった。当時は信仰心を持っており牧師の言葉は絶対だったのでそんなレベルの高い高校に私受かるんだ! ?とびっくりした(落ちた)
- 教会の雑用、家事、里子の面倒をさせる為に高校に行かせてくれなかった。
- 強要されていないが、男女とも日曜日が休める職業が推奨されていた。女性はどの地域の男性と結婚しても良いよう教員や看護師を目指す人が多かった。自治体職員の方が土日休みの部署から不定期休みの部署へ異動したときは元の部署に戻れるよう皆で祈ったが、市民の生活には必要な仕事であり、信仰の障害として扱われることに嫌悪感を抱いた。
- ミッション系の大学とそうでない大学の二つに合格した際、前者への進学に母は反対した。自分としては特にこだわりはなかったため後者の大学に進学した。受験の際、教団大学には進学しないと告げたときには陰鬱な空気が流れたことは覚えている。
- 高校は宗教活動優先のために一番近い公立が最初から指定されていた。大学へ行くのはふさわしくない、神様のために時間を使おうとせず自分の名譽のために大学へ行くことはあり得ない。就職して世のために時間を使うのは信仰心がない。高校卒業後はパートタイムの仕事しながら月 90 時間の宣教活動を行うのが正しい道。それ以外の選択肢は最初からなかった。
- 将来は宣教師になれ(それで暴力を受けずにすみ、家庭内での地位が上がるのならなるのもいいかもしれないと思っていた)
- 大学不可。就職は関連企業、長老が経営している会社
- 必ずしも信仰上の理由ではなかったが、進学の時期に自分が行きたい進路よりも成績重視の進路を選ぶように、家族以外の信者とともに説得された
- 異教が関わること全ての職業。軍務に関わること、政治に関わること。人や会社を崇拜することも不可。
- 母は信者でありながら周りの信者を少し馬鹿にしていたので、学業や就業に関しては「これからも""この世""は続くんだから、大学くらい出てなきゃ食っていけない」等と言っていたので、特に制限されなかった。ただ、妹は信仰を理由に自ら大学を中退しようとしていた。

でも、母がそれに大激怒したので、結局妹は大学を卒業した。

- 助けてもらった身分だから、教祖の言う通りに生きていかなければならない。なので高校、大学、就職は教祖に言われた通りにしなければならぬ。
- 直接的に教団から職業の制限を受けたとは考えていませんが、父親は私に自分の後継になって欲しいと考えており、そのことについて教団の接心修行で相談したところ「その職業に就くことは娘さん(私)のためにもなる」旨のご霊言を受け、私もそれを信じその道に進みました。途中で自分がこの分野に向いてないことに気づき、両親にもう辞めたいと話した際には、「でもご霊言ではこう言ったから」とその度になだめられました。
- 強要というほどではありませんでしたが、教団なので、東京の私立に行くなら教団大学にしてほしいと考えているんだろうなあと言葉から感じることはありました。その時点であまり志望校は自分になく、オープンキャンパスで教団大学の雰囲気もよかったため、当時はそこまで気にはしませんでした。
- 「大学は何系か？」は父親に訊かれました。「何系」というのは神道系や仏教系のことです。多くの大学は宗教法人が囃んでいると思います。「その宗教に影響されるのが嫌」という意図の質問です。自分は幸い、宗教色が無い大学に入学して、訊かれただけで特に何もありませんでした。姉は仏教系の大学に入学し、父親から上述のことを言われました。「進学はダメだ」とまでは言われませんでした。
- 子供への教育の関心が著しく低かったその理由の一つは信仰していればその福運は子に引き継がれると言われているからではないかと推測する。さらに母親は働かないため経済的にもかなり厳しく、思想的にも経済的にも大学へ進学する考えが生まれず、また社会性にかけているため大学進学が当たり前になってきた時代にもかかわらず無頓着で、さらにそこに対する罪悪感も全くない。
- 大学に行かずに宗教活動に専念するよういわれた
- 系列の学校に入るように進められました。
- 宿題するよりも教団活動をさせられ、本を買えば捨てられ、貰っても捨てられ、教団関連書籍以外は否定され、マンガすら捨てられた。教団は犯罪組織でしかなく、親家族を殺害していたかもしれない。
- 大学受験で何校も落ちた段階で、浪人するなら、三ヶ月間、修養科(しゅうようか)に行き、教えを深く学ぶように言われる。そうしなければ浪人のお金は払

われないとのこと。私が教を嫌っているのを知った上で、修養科を強要され、仕方なく浪人はあきらめ、適当な大学に入学した。

●強要はされなくても、こうしてほしいんだろうなというのはなんとなくわかってしまうので、大学進学も就職もしなかった。その時より今のほう（20年以上経って）が後悔している。

●「強要」とまで言えるかわからないが、両親は私に教団大学へ進学してほしいと、家族での初めての旅行が中2の時の教団大学の見学だった。高校生になっても、両親の教団大学へ進学して欲しいとの思いは続いていて、表立っては言わないが、教団大学が特集された新聞を見せてきたり、私の前で教団大学を褒めたりして、いかに教団大学が魅力的な学校かアピールしていた。

●進学校へ行くことはいけないような空気。実業高校への進学が勧められた

●高校受験の時に、教団高校に入って欲しいと、成績も到底足りないし家計も私立に入れるお金もないのに、受験だけはさせられた。家庭の金銭的な負担にもなりたくないし、自分は友達とも離れたくないので地元の高校に行きたかった。

●公務員は国家の犬だからやめておけ。

●明示的な制限はありませんが、利潤を追求する私企業に所属することに後ろめたさを感じ、教職目指しました。

●完全に制限されていた訳ではなく、実際私は別の大学へ進学したが、進路選択の際に、宗教関連の大学への進学を勧められた。兄弟は親の強い希望もあり、宗教関連の大学へ進学した。

●成績が良かったので、宗教団体が創設した高校を受験させられ、合格したので入学した。良い学校だと聞かされていたので余り疑問に思わず入学したが、今思うと違う選択をすれば良かったと思ってしまう。

●未就学児の頃は幼稚園にも保育園にも行かず、親に連れられて伝道活動をしていました。小学校から高校までは通えますが、その後は宣教活動を優先した生活を送ることが最も正しい生き方、神に喜ばれる生き方だと教えられており、大学進学や何の職業に就きたいかなどの願望を具体的に検討することすらしないうちにマインドコントロールされて育ちました。それが受け入れるべき当たり前のルールだと思って歩きました。

●小学校、中学校は通常の義務教育を受けられましたが、高校からは団体が開設した未認可の学園にいかなければならなかったため、中学校を卒業した時点で脱

会を決意しました。

●幼稚園に通えなかった。集まりで学校を休まなければいけない競技があった。柔道剣道は授業を受けさせて貰えなかった。修学旅行でお寺への参拝をしないと言われた。学校の友人たちに変な目で見られ、揶揄われることが恥ずかしくとても嫌だった。知られたくなくて、嘘をついてごまかしていた。

●教育者として、教団トップに応える。勉強で1番になれ。

●高等教育について否定的な教えだった。自分自身はそれについては何も思わなかったと思います。

●進学の制限。好きな、就いてみたい職業を選択させてもらえない。

●高等教育を受けるよりも、アルバイトなどをしながら宗教活動を優先すべきだと母親、周りの大人達に日毎言われていた。

●大学進学を禁止された。フルタイムの仕事に就くことを禁止された。人生を絶望した。

●女性が四年制大学に行くのは良くないと言われていた。特に実家から通えない距離の大学と学費のかかる私立大学に行く事には強く反対されていた。

●本部から教育費をもらって高校に行っていたので、そのお礼の形で2年間本部の教理の学校に行った

●大学教育を否定しているので、大学に行くことは相応しくないとと言われていた。両親共に信者だったので、平日の夜にある集会に間に合うよう、その日は残業がなくて済むような仕事に就かざるを得なかった。また、父は途中から非正規雇用になっていたため、大学進学への資金も無かった。高校の先生には、少ない時間でも通える医学部に通って、医師になってはなど、言われたが、教義上、輸血の点で葛藤することや布教を優先できない仕事だと考えると、いくことはできなかった。勉強は好きだったし、地元の高校は一応首席で卒業したので、進学できずとても残念だった。そもそもこの世はあと少しで終わると言われていたもので、なんなら、高校も入らずにこの世が終わるかも思っていた。先のことを考えて、親に進路相談すると、終わりが来ると信じてないのかと思われて、機嫌が悪くなりそうなので、未来について考えること自体に罪意識があったと振り返って思う。また、親は度々、怒ると、高校行かせてやっただけありがたいと思え、中学出たら働いて欲しかったと事あるごとに言ってきて、いつ機嫌を損ねて外に放り出されるかと思うと恐ろしかった。義務教育までで充分だと、国が定めている教

育は受けさせたので、親としての勤めはそれで果たした、それ以上は本当にやりすぎなくらい「やってあげてる」と言う感じだった。これが宗教の考えと関連しているかはなんとも言えません。

●高校卒業後の進学は反対され、教団として全てを捧げる道にいけ！と。本当は大学に行きたかった。恨みつらみは今なお残る。

●母親が、私が白衣を着ている夢を見たと言ひ、教祖に「あなたは医者になる」と言われそう思い込んでしまった。結果、何年も浪人し挫折した。

●幼稚園の頃だったので学業についてはありませんでした

●心理学が禁止されていたので、そういった類の本を読んでいると怒られた。本当は心理学科へ進学したかったが、認めてもらえなかった。

●読書が大好きだったのですが、女のくせに生意気だということで殴られてからは、図書館や学校でだけ本を読むようになりました。

●宗教の意向に反して、親は進学を望んでいた。私の方が宗教の意向を汲んでいて進学する気がなかったので、親には進学を勧められた。

●他宗教の学校に入学すること（学びたい学科があったため）を卒業後も否定された

"洗脳に近く、自ら神のために役に立つ仕事を選んでいのように思います。

●私は勉強が出来た方なので、物理学者や数学者になる、と言って大学に行きたいとずっと主張することができました。しかし、他の人は大学に行かせてもらえない人が大半でした。神の教えをより理解できるから物理とか数学を学びたい、と言えたのが大学に行くための道でした。祖父母が学者であったり、父が末信者で大学に行くことを応援していたのが助けになりました。大学に入る前に団体から抜けましたので、それ以降の職業選択での強要はありませんでした。

●仏教系の高校は滑り止めでも受験できなかった

●こどものころ、義務教育終了後は宗教活動に専念するよう言われた

●高校は行っても良くなったが、そのあとは宗教活動に専念するため、週に2、3回のアルバイト以外してはならないと言われていた"

●高校以後の進路について、かなりもめた。親に決められることは本意だったので、反抗した。

●女の子は外に出る必要はないとずっと言われていました。仕事は腰掛けでいいのだからいい大学を出る必要はないし、県外の大学に行きたいという私に女の子

は親元にいるのが1番だから県内にある学校から進学先を選ぶように言われました。この機会を逃したら家を出ることができなくなると県内にはない分野への進学を熱望したふりをしました。

●大学進学について非積極的

●校歌を歌ってはいけない

●大学に行かせる学費が無い、どちらにしろ日本は滅亡に向かうのだから仕事は何でもいい

小さい頃から思い描いていた職業があったし、大学でもそれを学んだのに、「教団リーダーのお役に立つ仕事」ではないからと全否定され、諦めざるを得なかったが、生まれた時から洗脳されていたので無条件に従った。教団リーダーのお役に立つために生きていくのは当然のことだと思ったし、むしろ誇らしかった。

●騎馬戦に参加してはならないと言われた。が、言われ始めた年から、学校でちょうど騎馬戦がポートボールという競技に変わったので、参加して良くなった。ホッとしたのをよく覚えている。

●母親から強い制限を受けました（父親は教団職員ですが、私の希望を何より優先してくれました）具体的には以下の通りです。教団大学以外への進学を認めない（学費や予備代の費用は出さない宣言、他の大学にも入るとアドバイスをくれた大人の元に怒鳴り込みに行く）。教団活動のために部活を辞めさせようとする。教団本部や外郭企業へ就職するよう強い、一般企業からの内定を目前で辞退させようとする。

●4年制大学は行くと言い出せない雰囲気を作られる。両親が折れてもそれを許されなかった上のきょうだいとの関係がさらに険悪になる。職業は学歴によって選択肢が減りました。

●教団は高等教育は受けずにパートタイムの仕事しながらなるべく多くの時間を勧誘のための活動にあてることを推奨していて、そのことは集会で何度も聞かされる。私自身は大学に進学できたが就業の際、教義に足を引っ張られていると感じる。お金を稼ぐことに罪悪感がある。小さい時から自分が大人になる頃には「ハルマゲドン」が来てこの世はなくなると洗脳されていたので、「この世」で生きていくためのビジョンがいまだに持ちづらいつと感じることがある。

●教会のある結婚式場、病院、学校への就職は禁止

●受験時に、教団大学以外はお金の支援しないからねと言われた。

●大学に行かなくてもいいと言われた。

●教団は大学進学、いわゆる進学校と呼ばれる高校への進学をよしとしないが、信者でない父親の意向、父

親との摩擦を避ける信者の母の意向で、教団の教えを無視して有名私大に進学した。

●3歳年上の兄が中学生になると集会に行きたがらなくなり、それを母が悲しむ様子を見て「自分は熱心にやらなければ」と義務感を覚えた。両親は熱心になりはじめた様子を見て教団系学校への進学を検討し始めた。新幹線で見学まで行ったが入学金など経済面で難ししかった。断念してもらえてほっとした。高校生では学業が忙しくなる中で、教団内の知識検定試験を受けるように強制された。このときに同じ立場の友人が「私は試験を受けない」と話してくれて、はじめて自分も反抗していいのだと思えた。「なぜ信仰を選ばせてくれなかったのか」と両親とはじめて言い合いになった。しかし結局抵抗しきれずに試験を受けた。

●私立大学は教団大学以外受験を認められなかった(と自分が思い込んでた)

●「教団大学はいいぞー」と父親がしつこく言ってきた”

●学業や職業選択を制限された事はないが、献金等で経済的余裕がなかった為、教育投資をあまりしてもらえなかったという思いがある。

●進学より、宗教活動を優先するようなプレッシャーをかけられていた

●祖母から教団高校、教団大学への進学をかなり強く勧められた。否定すると泣かれたり、人格否定をされたり、このままじゃあなたは不幸になると言われたりした。

●両親は教団系列校へ進学させることを諦めていたため、「次に教団高校や教団大学を勧めてきた時点で、祖父母とは縁を切る。二度と顔を見せないし、葬式にも出ない。」と両親と祖父母へ明言し、中学2年以降は祖父母へは一度も会っていない。親が祖父母と同じ考え方をしていたら、私はどうなっていたらと思うことがある。宗教三世であったことで要らぬ苦勞もしていたが、親もまた宗教二世であるため、活動に熱心だが子どもに強制はしてこない親を強く非難することはできないと感じている。

●親は、ゆくゆくは信者となること、宣教活動に時間を割けるような職、また家から通える範囲の学校への進学が望ましいという認識を常に示していた。高校を卒業してからは家を離れたため同様の認識は示されていたものの、強要されることは減った。

●他宗教のやっている学校への入学には難色を示していた程度。

●家庭の中で、私が教団学園、教団大学に通うことが

強く望まれていました。

●大学への進学は不可。できれば職業を手につける専門学校へいき、多くの時間を勧誘活動に割くように

●キリスト教系の学校へ行けと言われてた

●主に学業で、教団の関連の学校>有名大学>4年生の大学の序列が父にはあったようで、専門や就職は許さないという考えでした。予備校や塾も禁止されていました。

●自分の意思はないんだなと思った

●集会に行く時間が絶対で、塾などは許されず。高校より先は金銭は祖父が出してくれたので行けた。職業は私が抜けてたので言われなかった。

●教団大学に入れと何度も言われ、自分の未来はそれしかないのかと思った。

●教団中学を受験させられたのですが入りたくなかったので白紙解答にしました。

●大学教育の否定。集会に行けなくなるような忙しい仕事にはつかないように。

●獣医になりたいと言ったらキリスト教では動物に靈魂がないと言われていたとのことで、「なぜ獣医なんかには？」と言われた。「勉強なんか必死に頑張っている人と我が家は違う。もっと大切なこと(信仰心や聖書に基づいた人間性の構築)がある」と教え込まれたので学業の大切が分からなかった

●幼稚園に行っていない。大学は行ってはいけない。偶像崇拜や戦う行事はダメ。大会を優先して学校を休むなど。

●親が喜ぶ職業に就かなければいけない。いざ、就職しようという時には、家事、家業手伝いのために、諦めるしかなかった。

●高校は通信制を選びました。教育は重要でないし悪影響を受けるので普通校に通うお金は出さないと言われました。開拓奉仕をしながらアルバイト生活しかない人生です。これで本当に大丈夫なのか不安がありました。

●高校は宗教関係の所に入学した。その時は人と違う事に憧れていたのに特に嫌ではなかったが、入学してからより宗教と密接な関係になり、その強制力が凄く辛かった。寮に入り、3年間ほぼ宗教の行事を強制されていた。

●この世の終わりが近いので大学は行かないのが当たり前。仕事もフルタイムではなくパートで休みの日は奉仕するべきという同調圧力。当時はやや過剰適応していたが、自分の力を出しきれないようなもどかしい感じがして、自己肯定感が非常に低い状態だった。



●アニメや漫画は信仰に反する内容ばかりだと言われ触れてはならずそれについて学ぶことができなかった。ほとんど触れられないままだったので自分もどのようなものがあるのか知らず、何か反論する要素も持ち得ていなかったため当時はつまらないなとは思っていたがそれくらいだった

●受験する学校を制限され、特にキリスト教系の学校は願書を出してはいけないというような雰囲気でした。志望校ではなかったのですが、選択肢が狭まることは嫌でした。また、問答無用で教団系の学校を受験することを決められ、それによって周囲に(教団との関わりを)知られることが苦痛でした。

●宗教の学校に行ったら転校をすすめられた。

●その時はそんなものだろうと思っていたが、今は大学に行けなかったことを本当に悔やんでいる。教団を解体、禁止してほしい。

●大学への進学は宗教組織が奨励していないので、大学進学を前提として進路を考える必要はない。よって、高校も進学校に進む必要はない…と。親が制限したというよりは宗教組織が様々な形でそのように信者を誘導していたので、親も自分自身もそれに従うのが当然と考えていた。

●教団が運営している教団高校があり、そこに入学するように言われてきました。偏差値が高い学校の為に小さい頃から様々な塾や教材が用意されていました。受験生の時私は行きたい高校があったのですが、母に「学園に入れるためにこんなにお金をかけたのに！何のために私が頑張ってきたと思ってるの！何の為に産んだと思ってるの！」と怒鳴られました。また、私が希望している高校の悪い口コミや噂を私に繰り返し伝え、そこに通う生徒や先生を貶し、それと比べた教団学園の良い所を何度も言うてきました。繰り返し三者面談をし、何とか今は希望の高校に通っています。高校は、母が貶したような所ではありませんでした。

●興味のない工業高校に進学させられた。

●他の宗教系は全てだめ

●基本的に「世」と関わることを避け、「今日食べるものだけさえあればいい」という考えなので少ない就労時間であることを望まれていました。ただ、私は昔は勉強ができた方だったので進学しました。中退しましたが大学にはいきました。

●教団が創設した私立学校に行っていたと言われている(た)。

●大学は時間の無駄で全時間奉仕をする様にと、ほぼ強要されました。

●教団の学校に進学してほしいと言われ、滑り止めの私立高校はその1カ所しか受けさせてもらえなかった。理不尽に感じ、レベルを下げて確実に合格できる都立高校を受験した。

●お気に入りの長男を守るため、貯金していたらしい学費が消えたので大学へは行かなかった。兄は詐欺に合い借金がかさんだらしい。

●『神を第一にするために』日曜日の礼拝を死守。それに従って仕事も選ぶのが当然という思考にさせられていた。

●中学校まで教団系の学園に通った。当時は当たり前高校までその学園にいたことが想定されていたし、大学も教団系を期待されていた。

●献金をたくさんしているせいで勉強に必要なものを買ってもらえなかった。

●世は滅びるので無駄

●将来は、いわゆる清貧な生活をおくれればそれでよく、学業や職業に望むものがあってはいけないという教えだった。バカバカしくて呆れていました。また、教団は圧倒的に女性が多く、その女性達(姉妹達)の夫は一般的な水準の生活をできる職に就いていることがほとんどだった。そういった家庭では、頻繁に妻が、夫婦共あるいは独身で生活が厳しい人達が夫への布教のためという理由をつけて食事に招いていた。たかりにしか見えず、禄でもない連中だと思っていた。

●学校の先生や警察官などには教義に反する職務(国旗掲揚など)があるためなれないと言われた

●幼稚園に行けなかった、偶像崇拜が多いから

●低学歴ではいけない

●親はキリスト教系列の大学進学を希望していた。大学の母体が仏教等の他宗教が関与している大学は進学しない方がいいのではないかと言われた。

●強要とまではいかないが、私立中学を受験するにあたり教団中学への入学を望まれた。複数合格したなかで、友人の進学する他の学校に進もうと思っていたが、母がいつの間にか教団中学の入学手続きを済ませていた。

●特に思い当たるふしはありません。

●商売、金儲けを忌み嫌う指導をしているので、ビジネスをやれなかった。なので公務員とか、教団職員しか就職できない、と思われた。仕方なく企業に入った感じ。

●制限とまで言えるかわからないが、中学生の頃「お前が継がないなら俺は何を生きがいにすればいいんだ」と父から言われた。また、大卒時就職の報告を母にし

た際「あんたは継ぐものだと思っていた」と否定的な反応を受けた

●実家を出ると信仰をしなくなるだろうからと一人暮らしが必要なところには行かせてもらえなかった。私大などは経済的な理由でもだめだったが、まわりの同級生とくらべてしまい卑屈な気持ちになった。大学卒業後実家から片道1時間半の運転が必要なところで働き出し、居眠り運転をすることがあり、母がそれを教団で言い当てられ、このままでは命の危険があるからと一人暮らしをしていいよと初めて言われた。母は教団の一言でこんなにあっさり方針を転換するんだなと思った。

●信仰心の強い祖父に「教団の中学、高校に行け」と強く言われた。小学校の友達と同じ中学校に行きたかったのと、高校は美術の学校に行きたかったので泣いて嫌だと訴えたら、腕を掴まれて怖かった。

●進路は自由にとというのが両親の方針だったので、結果としては希望の進路に進めた。"

●正社員になると、宗教活動がしづらくなる。

●精神疾患の兆候が15歳であったのでなんとも言えません。

●芸能関係に興味があったが、そんなものと門前払い

●就職先が正しいところか、霊視を受けると言われた

●運動部は部活動が忙しく集会に参加できなくなるからダメ。武道などの戦う部活はダメ(信仰で戦う事をよしとしていない)。あそう、という感じ。

●他の信者のように大学に行かずに全時間奉仕したらどうかと言われたが、きっぱり断ったらそれ以降は何も言われず進学することが出来た。しかし教団内でははっきりとは言われなかったけど、高卒で教団活動に身を捧げることが推奨されてるような空気があった。

●私立高校に進むならカトリックと勧められました。行きたいところと合致したので問題ありませんでした。

●家族が信仰宗教に勤めていたため、そもそもの収入が少なく学費を多く出すことはできないと言われた、また助成制度などを使うことは拒まれた。

●大学への進学はサタンの影響を受けるからと禁止されました。

●行事の中で崇める事はしてはならない。国歌を歌う等。

●社会人になるにあたって、会合に参加出来る職業につくよう言われた。そうするしかないと思っていた

●神社へのお参りを禁止された

●将来的に宗教活動ができるような仕事に就けるようにと言われていたが、母と折り合いの悪い姉が家出当

然で自活をはじめ、ショックを受けたようで自分のときはあまり制限をかけなくなった。

●比較的自由でした。それぞれがなりたいたいものにガッツリ頑張れという感じ。印象としても。

●信じている宗教系の学校に行かされそうになった

●教団が運営する大学に進学しない場合は、学費を出さないと言われたため、奨学金で進学し、現在も返済している。一方で、親は教団に寄付をしており、不条理だと感じる。

●高校も大学も進学すべきではないと言われたが高校は許して貰った。高校入学前後に自分は脱退し大学はアルバイトをして自分の力で入学した。何故こんな目に合うのか本当に分からない。今も分からない。

●高校は通信で良いと言われていた。勉強は好きだったしまあまあできたので、冗談じゃないと思った。

●大学は教団大学のみ進学を認めると言われた。

●学業→学校のクラブ活動参加は禁止。運動会の騎馬戦参加禁止。職業→将来は、正規開拓者になり海老名にあるベテルの家で奉仕するのが理想的と言われていた。

●親から強要はされなかったが自ら大学進学をしない決定を中学生の頃からしていた。教えが自分の基盤となっていた。

●医療関係(輸血拒否の為)。教師保育士など教育関係(行事など参加できない)。政治関係。諦めていたので、自分の中に選択肢としてなかった。

●奉仕活動や集会に参加するのをメインにできるような進路を考えるように言われた。時間をそちらに使えるように職に就くことを考え大学への道は必要ないと言われていた(金銭面の問題もあったが)。

●他大学に受かって、教団大に入学を仕向ける圧力(金銭的)を父にかけられた。

●お寺でOKのでない仕事はさせてもらえなかった

●その法人が運営する私立学校へ受験させられた事

●専門学校卒業後は本部へ2年間お礼奉公すること。その後は所属教会でお礼奉公すること。所属教会での勤めは年数は言われなく、暗に「結婚するまで」という感じでした。回りの先輩方をみてきていたので、やっぱり私もか、と思いました。所属教会での奉公について、所属教会長の奥さんと私の母、私で話し合ったときに一旦断ったのですが、母が「すみません」と泣きながら奥さんに謝るので、なぜ母が泣くのか、そんなに一般社会に出るのが悪いことなのか、母を泣かせてしまった、奥さんのなんとも言えない表情などいろんなことがぐるぐるして、結局承諾しました。

- 季節行事、体育祭の応援、武道、校歌斉唱禁止
- 父親が亡くなっていたことも関わってはいないが、地元を離れて他県の大学に行くことを否定された。
- 大学に行くという選択肢がない。短大に行ったのは就職してからで、昼働きながら夜学に行った。仕事よりも布教に時間を割くことが良いとされているため、正社員になることがよく思われていない。自力で大学に行けるとも思わなかったのが成人してからの生活に絶望的な気持ちしかなかった。
- できるだけ日曜日がお休みの仕事がいいと言われてます。不規則な休みよりも楽かなあと思うぐらいです。
- つねに宗教活動が生活の中心だったので、学校が終わった後の自由な時間は週の半分程度。部活動等に興味もあったが、毎日練習がある部は選択肢から外された。職業については正規雇用で宗教活動に支障をきたさない職場はかなり少なく、非正規雇用で働いている人が多かったように思う。
- 女に学力は必要ない、長男がいるから学費は払えないと進学に反対された。仕方ないから自分でお金を出して進学しようと思った。
- 厳密には強制はされていないが高等教育はあまり進められなかった
- 大学（高等教育）への進学は勧められていなかった（禁止というほどではないが非積極的）。
- 集会に出られるように残業が無い職場を勧められたような気がします、忘れまして
- 職業系の高校や通信制を勧められ、実際それらの学校へ行く2世が多かった。私は親が宗教に染まる前から勉強をしないと叩かれたりしており、矛盾を感じていた。その事もあり、高校受験する頃に宗教活動を辞めて進学校へ進んだ。
- キリスト系など教義に反するものを掲げる高校や大学への進学を許されなかった。特に何も思わなかった。
- 進学先として宗教団体の学校仏教系など他宗教の学校に行ってはならない(受験先として選べない)。
- 家庭ごとに教理の解釈は違ったでしょうが、うちの界限では芸能人はキスしないといけなからダメだとか芸能界は霊人体が真っ黒だからダメとか言われてました。教理に基づいて世界平和を目指すなら国連に行けるような人材を育てる教育環境があってもよかったですと思いますが「何になれ」という指導はありませんでした。
- 職業の制限はないが、結婚相手が日本人とは限らないので住む場所がどこになるのか分からないというの

が常について回った。

- 中学生の時に宗教活動を辞めると宣言してからずっと「高校は行かせてやるから、卒業したら家を出て行け」とほとんど毎日罵られていました。
- 宿題をやる時間もなく、中学生の頃から成績が落ちました。職業を選択するときにも嫌がらせを受け、私が幸せになることは許しなくなかったようです。
- 部活動への参加を止められた。私は大学進学できたが、妹は女性なので短大までとされていた
- 母親は私が関西教団中学校に入学することを強く望んでいた。私自身も、その母の望みを内面化しつつ、自分の意志として同校への受験を希望し、進学塾での勉強に打ち込み、合格した。当時は非常に高倍率であったため、厳しい受験勉強であった。
- 正社員推奨しない
- 高校受験時、宗教色のある学校は選択しないように言われた。
- 可能なら教団高校、教団大学に進学する事。
- 母の勧めで、団体の上の人？にどの学校に進学すべきか質問をするようにしていた。学校の友達はみな自分の意思で進路を決めているのに、なぜ自分には選ぶ権利がないのか怒りを覚えた。
- 男女とも大学に行くという選択肢はなかったように思います。高校を卒業したら早く手に職をつけて、慎ましく暮らしながら宣教活動に勤しみ、同じ教団の人と結婚するのが理想とされていました。教団の少し上のお兄さんお姉さんも大学まで行った人はあまり聞かなかったように思います。
- クラブ活動や部活はあまり時間や体力を取られない文化系しかダメ(中学は陸上部には入りたかったが猛反対に遭い断念)。高校も宗教の集会出席や布教活動に支障がないよう、通学距離が短いところしかダメ。就職活動も禁止でフリーターになるしか道がなく、何の経験や資格もないのでアルバイトすら厳しくて進路未定のまま高校を卒業するのがものすごく心細かった。教団や家族がアルバイトを斡旋してくれる訳でもないのだから孤立無援のまま、何十件も面接を受けては落ち二十歳前からぼろぼろにすり減っていた。いくつかの非正規の職業を渡り歩いたが、結局ワープアのまま。
- 泊まり掛けの新聞配達をするなど、女性だから危ない
- 教団系列の学校への進学しか許さなかった。(中高は不合格だったので大学。)選択肢がなかった。就職の際も教団大学卒でその職業はおかしいと否定された。教

団で教えられた社会全般の役に立つ(と母親が認める)職しか許さなかった)

●母は私の大学進学に反対で、嫌がらせを続けた。非信者の父は、学費を用意していなかった。

●名古屋の大学を第一志望にしていたところ、「男と会うためだろう」と罵られました。また、私は高校入学当初は大学進学しないと言っていました(親と周りの信者に気を遣ってのことです)が、だんだん大学進学したい気持ちが出てきてそのことを伝えると「悪い友達の影響で…」と言われました。

●高等教育を受けることについて事実上制限されていた。子供が高等教育を受けた場合、親は特権(組織内の資格)を剥奪されるケースが多かった。

●高等教育はサタンの畏だと常々言われるので、進学するということすら考えたことはない。職業は奉仕活動が出来る短時間の仕事をするのが当たり前だったので、私の考えは全くなかった。

●教団への献金で家庭の経済状況が悪く、望む進学先を選択できなかった。

●進学は全部親が勝手に決めた。行きたくもない、やりたくもないことをさせられ、腹立たしくて仕方なかった。

●女に大学なんて必要ないといわれ、質問しても何も教えてくれず、あやうく何も進路が決まらないまま高校卒業を迎えそうになった。2月頃にギリギリで専門に決まった。今思うと恐ろしい。

●高校卒業後は集会、大会と奉仕をしっかりとできる時間を取ることが中学生の頃には決まっており、大学や専門学校への進学も正社員になることも必要ない、相応しくないと言われていた。偶然進学校ではない農業高校が近くにあり、そこに教団の子供たちが多く通っていたので私もそこに行くよう強く勧められた。中学生の頃には勉強しても目標を持って何も叶わないことを悟り、無気力でどんな努力をしても無駄だと考えていた。

●高卒以上の学歴は不要、フルタイムの仕事に就くべきではない。

●宿題より集会や野外奉仕を優先。高校入試も私立は受けさせてもらえなかった。部活も禁止。大学進学も禁止。

●式典における君が代、校歌などを歌うこと、歌う場にいることの拒否。体育などでの武道の授業の拒否。団体の活動のため、土日の活動の無い部活動以外への入部の禁止

●ハルマゲドンに近いのに大学に行ったり正社員で働

いている場合じゃない。出来るだけ奉仕に時間をさけといわれた

●具体的には覚えていないが思うようなことは選べないと自覚して早いうちに諦めた覚えがある。

●宗教団体の指導者が作った私立の学校の中等部への受験をさせられた。小6の夏に急に塾にいれられ、1日4~5時間唱題(正座でお経を唱え続けること)を義務付けられた。もちろん不合格だったが、あからさまにがっかりして失望したと親から言われた。また、同様に大学受験の際も受験校に入れないと怒り狂うので受けたが不合格だった。

●金銭的な面もあったのだとは思いますが、大学に行くなんて!と受験生の頃はチクチク言われました。高校を卒業したらアルバイトなどで働き、他の時間は伝道活動に注ぐことが当たり前という価値観でした。

●18歳になったら教祖のもとで修行ないしは教祖のお世話をするように指示された

●教団高校への進学をうながされましたが、拒否しました。

●強制ではないが日曜日出勤の職業はダメ 教会が遠い地域での就職は反対

●日曜日が休みではない仕事はダメ。

●日曜に働く仕事には就けない。なぜならば、日曜は教会に行かないといけないうし、日曜に働くものは救われないから。

●宣教活動に差し支えないものから選ぶ。真面目だったのでそうすることは正しいと思っていた。

●「世との交わりを避ける」為に保育園、幼稚園へは行かない。「世俗の仕事」より「神の王国」を第一にする布教活動を第一にできる仕事を選び。周りの成人女性はほとんどパート、アルバイトで私の地域の信者はほとんどパートアルバイトしかしておらず大学にかかずその選択肢を選ぶと仲間の信者が喜んでた。

●キリスト教系以外の宗教系の学校には入らないよう言われた。

●宗教の運営する中学校を受験させられた。その時はそれがどういうことかあまり分かってなかったので、特に嫌とは感じなかった。また大学受験の際、滑り止めとして宗教の大学を受けさせられた。絶対に行きたくないと思い本命に何とか受かったが、受かった後も「やっぱり宗教の大学に行かない?」と言われ嫌な思いをした。

●小学校高学年の頃、親の宗教の大学や付属の中学●高校(?)ができた。自分にはその意思はまったくなく、家にもそんな経済力はなかったのに、知らぬ間に学校

で「中学を受験する」という噂が立ち、大変いやな思いをした。大学選定の際にも、親から「その大学に行けばどうこう」という話があった。結局、大学には行かなかった。

●直接信仰とは違いますが、母の信仰と献金に父が激怒し「学校なんか行かずに働け」と言う。

●大学受験の際、美術系の大学を希望していたが、「教団大学しかお金は出さない」と言われた。その時すぐは頭にきたが、しばらくして東京に行けるなら教団大学でもいいと思った。

集会への参加と勉強を拒否してから態度が冷たくなり、食事を粗末なものにされたりやりたいことに対して否定をし続けられた

●Q25 と内容は同じであるが、信仰を（形式上でも）受け入れなければ進学は許されなかった。

●大学進学反対

●宗教活動の妨げになるため、フルタイムの普通の仕事が選択肢に入らなかった。

●将来の夢を作文に書いたら「神様の役に立つ職業じゃないからダメ」と言われた

**Q33 信者であることが理由で、学校や友人、恋人や会社●職場などから、理不尽な対応をされたと感じたことについて、可能な範囲で具体的な状況や思ったことなどを教えてください。無回答も可能です。**

- 中学生の頃に地下鉄サリン事件が起き、『お前もオウムか?』と揶揄された。選挙前の演説会に地元の有志で集まっていたが『教団=支持政党』と理由で声を掛けてもらえない。
- 脱退したく相談した相手がそれを言いふらしてしまい、恥ずかしい思いをした。
- 不条理
- 友達の親が出てきて縁を切られた。親は警察が職場に来て職を失った。信者のため人が離れていった。親族や地域の人に犯罪者扱いされ、住む場所を追い出された。
- 小学校の時に、十字架を見た友達が「何でネックレスつけたらいけないのに、あなたはつけてるの?」と聞かれたことがあったし、同じようなことがたまにあった。
- 周囲には教団信者であるとは自ら言うことはなかったが、親が選挙前になると日頃の交流の濃淡に関わらず同級生の家へ電話したり訪問したりして投票のお願いをするので、距離を置かれていると感じることが多々あった。
- 街頭で、一軒一軒訪問して布教活動をする時に、どうしてもクラスメートの家にあたってしまったりします。当然、次の日の学校では奇異の目で見られることになる。これはある意味仕方のないことなのですが、本当に胸が張り裂けそうになります。
- からかうクラスメイトもいた
- 中学生の時に「変な宗教を信仰している」ということでいじめられた。校歌●国歌を歌わない、生徒会の選挙に参加しないなど。
- 特に多感な時期に学校で皆と同じ事をしないで差別?!しれるのが本当に悲しかった
- 兄は幼児洗礼なので信仰を押し付けた父を恨んでいる。私は成人後にもものみの塔の教義に怯えていたら父からカトリック教会で正しい教えを学べと勧められて洗礼を受けた。その違いから、カトリックを嫌う兄から、近い将来の父の葬儀の事で激しい非難を受けている。父への腹いせに、父の葬儀を仏教式でやれと言うのです。
- 幼稚園の時に周りの子達に不思議がられていた。
- 家にある宗教グッズを見た友人や親戚に、そのこと

でからかわれた。

- 婚約者のご両親からは教団に対して悪い印象を持たれており、よって僕自身のアイデンティティもあまり理解されておらず、歓迎もされていない。むしろ自分の娘が教団の人と結婚することについて世間からはマイナスなイメージになるとする主旨の話もされた。かなり傷つく体験でした。
- からかわれる
- 体育、運動会への不参加から冷たく見られた(柔道、騎馬戦、棒倒しなど)
- お御霊というネックレスを必ずつけないといけないのですが、小学生の頃は友達に何をつけているのかと引っ張られて困った。学校には親から宗教状の理由でネックレスをつけると毎回連絡をしていた。
- 妻の両親から、宗教を理由に結婚を反対された。
- 基本的に信仰を隠していたのですが、一回部活の子を映画に誘えと親に言われ、断れず誘ったら壁が出来たり、その宗教はダメだと否定される。親戚から陰口言われる。親が地域にカミングアウトして遠巻きにされる等。
- 小学生のとき、宗教が理由で友人が離れていった
- 小学校では、信仰を理由に校歌を歌わないなど自分で担任に説明できる上に毅然とその行動ができる事が良しとされていた。クラスメイトから、何であの子だけやってないの?と変な目で見られていた。
- 信者であることを異端視された
- 恋人に教団とバレて振られたことがある
- 中学生の時に母が私の同級生の親へ布教し、その友人宅で遊んでいる際に呼び出されて「こういったことは興味がないと親に伝えてくれ」と言われた。そこから大きなトラブルにはならなかったがその友人とは気まづくなり避けるようになってしまった。
- 子供の時は、「お前んち、お経読んでるんだろ?気持ち悪い」などと言われたサンタのプレゼントが無かった事を「お前がいい子じゃないんじゃない?」と言われた。鳥居をくぐらないのは、なんで?と質問をされるけど、子供には解決出来ない事を説明させられる。結婚の話になると、破断する。選挙が近くなると、職場で必ず支援活動は法令違反であると、全体周知される。学歴を問われるのが嫌。職員室で全体の中で、思想信条について、詰められた事がある。
- 学業が優秀でなくても、「敬虔なクリスチャンなら、クリスチャンの先生が優しく対応してる」印象があり、不平等さを感じた。
- 高校で恣意的に成績を下げられた。恋人にはこっそ

り付き合わなければならないことについて理解してもらえず、なかなか長期で交際ができない。

●変人扱いをされた。

●カルトの信者とはお近づきになりたく無いと言われたことがあります

●親がPTA、また各家に勧誘訪問にいらっていて、周囲から浮き、いじめにあいました

●当時の恋人からは理不尽な対応というより、新興宗教に強い拒否反応をされてしまいかなり動揺しました。入信していることは話していませんでしたが、一度だけ会の用事で会館の外まで着いてきてもらったことがあります。その時に言われた内容は覚えていませんが、かなりキツイ言葉を投げられたことを覚えています。用事が済むのを待っている間に会のことを調べたようで、恋人の中では然程影響が無いと判断されたようですが二度とここには来たくない。と言われたと思います。また、自分から遡っていつの代から入会しているのかも聞かれました。自分の存在の一部を否定されたショックが大きくて、親にも話しそれ以降は会館にも足を踏み入れていません。親にこの会を抜きたいと話しましたがそれだけは許してもらえませんでした。成人してからの会費は自分で支払うように言われてそうしていましたが、それ以降は親が払っています。自分から入会した訳でもなく親が喜ぶことに重きを置いていただけの信者だったので言い返す言葉もなく、自分を否定された事がただただ悲しかったです。

●学生時代、信条ゆえに●柔道の授業が受けられない

●運動会体育祭の騎馬戦や応援合戦に参加出来ない

●校歌国歌斉唱が出来ない●国旗掲揚時にそちらを向く

●出来ない●原爆ドームへ奉納する千羽鶴を折れない

●生徒会選挙に参加出来ない●クラスメイトの誕生日を一緒に祝えない等色々制限されていたせいで、友人がほとんど出来ませんでした。孤独な学生時代でした。

●信者だということはあまり公開せずにいるのですが、受験の学習塾や以前勤めていた会社で「お宮参り」に行事として参加させられるのが嫌でした。特に会社では役員から『リーダー以上基本参加で』などと言われ、喪中を理由に断ったのですが印象は悪くなっていました。

●会合などで学校行事に参加できなかったことによる軽いいじめ、結婚の際無宗教の方だったのでこじれにこじれました。

●親から学校で国歌●校歌を歌うことを禁じられていたのでその通りにしたら先生から放課後個別に呼び出

され長時間説教されたことがある

●偏見の眼で見られる。

●恋人から改宗をせまられた

●特に小学校時代や中学校時代には色々な行事に参加が出来なかった為に変わった奴で周りから見られていた

●神社仏閣に巡ることや、占いやおみくじのようなものを当たり前として扱われることが多く、行事などのプログラムでなんの配慮もなく組まれていることが多かった。宗教的行事に宗教2世が故に敏感になってしまったため、他宗教の一般的な（信仰心が無い）宗教行事への参加が難しい。

●友人から馬鹿にされた

●就職が困難、結婚相手から断られた

●大した事ではないが、小学校の頃よくからかわれた

●教団であると知った方が、仕事を断ってきた事があった。

●親が信者であることを隠さなかったので、小学校～中学校までは「気持ち悪い」とたまに言われることがあった。信者の家の近くに住んでいる同級生からは、お経がうるさい！気持ち悪い！とクレームを受けた。恋愛に関しては、お付き合いしていた人に教団の2世であることを隠していたが、勝手にポストに入れられる教団新聞やしつこい勧誘により、バテてしまい「信者だなんてあり得ない。そんな親とは縁を切れ！もし君と結婚したらこっちも信者になれと強要されるだろ！」と言われ、結局親と縁を切れなくてお別れしたことがある。その後お付き合いした人には一切バネないように慎重にお付き合いをした。社会人になってからは、かなり慎重に2世であることを隠すようになり、周りから教団をはじめカルト宗教の「勧誘がしつこい、気持ちが悪い、ああ言う家庭で育ったやつはまともじゃない」などの話をされると、自分も一緒になって話を合わせて、心の中では「自分の家族がそうなんだけどな」と気まずい思いをしたり、思い悩んで寝れないことがあった。

●昔のことで記憶も曖昧なので回答を控えさせていただきます。

●姉がわたしに会うために弘前へ来てくれた時、バイト先の先輩に選挙投票のお願いをされた。直接職場の人にはなんにも言われなかったが影で何か言われていたかとは思

●布教しないと言われてた

●友人、恋人へのセミナーの勧誘

●神社やお寺でのお参りなど一般的な仏教行事を避け

たり、学級委員長を辞退したり、伝道活動を目撃され、変人と噂された。

●あの宗教だろ？と頻繁に言われた。教理を信じていたワケではないので恥ずかしく感じた。

●結婚の際に相手に入信しているか確認された

●職場で同僚の人達が休憩時間に教団の中傷をしていた。話を聞いていて不快だったので、私が信者だとその場で公表したら尚更中傷が酷くなった。あとネット上に広がるこの団体の中傷。SNS では私はこの団体の信者だとゆう事を伏せているが、それを知らない私がリンクしている（相互フォロー）さんからこの団体の中傷をしてきた事も。

●生まれ育った場所が宗教の教団施設だったため、地域からは白い目で見られていました。多くの人が集団で生活していること、早朝や夜中に突然叫ぶような祈りを大勢で行ったり、大声で聖歌を歌ったり、決意表明をしている声が聞こえてくることも「あそこは何かおかしなことをやっているのでは？」と疑われてる原因になっていました。地域の人たちや私の友人のお母さんたちを「編み物教室をやる」「英会話教室をやる」といっては勧誘して、宗教につなげようとするので「あの子とはもう遊んじやだめ」と友達がいなくなることもありました。両親の名前がゴシップ誌に出てしまった頃に自宅や通っていた学校に嫌がらせをされました。（頼んでいないピザや寿司が大量に届く、怪文書が郵送●FAX で大量に届くなど）。就職の際は、バックグラウンドチェックで宗教のことが発覚すると入社を断られることもありました。

●宗教は悪みたくないことを考えている方や宗派が異なるから距離を置くようなことはあった。宗教は怖いと思っている人達ばかりだった。だが、日本のほとんどが多宗教という人が多い。お正月には神社に神頼み、死んだ時には寺で仏頼み、結婚式には教会で神頼みをしてる方がほとんど。信心があるとは言えず、遊びみたいで嫌だし、価値観を押し付けられるのも違うと思う。宗教は信教自由とされているのに結婚するには同じでないといけないは自由とは言えないのでは？

●母が勝手に布教することで、友人と距離ができてしまった。

●私自身が家庭の宗教をカミングアウトすることがほとんど無かったため、不都合が生じたことはほとんどないが、親が勝手に私の友人の親に宗教のことを話していたことはあった。友人は数少ない事前にカミングアウトしていた人であったため、疎遠になることはなかった。

●小学生の時に、初詣に行ったことがないと言ったことにより教団に入っていると周囲に知られ始め、そのせいで友達の親から、私と関わらないようにと言われました。

前の恋人は教団に私が入っていると聞くと、別れを告げられました。

●職場でたまたま私の家の信仰を知った同僚が私のいない場でその宗教を揶揄して別の人に話していたとその場に居合わせた人に聞きました。他人の家の事情を勝手にバラすなよと呆れました。そんなに“宗教”がこわいなら勧誘の真似事でもしたろか。神妙な顔で「かみさまって、どう思う？」とか。知らんけど。

●同じ職場に熱心な先輩がいて、集会への参加を勧められたり、新聞の切り抜きを渡されたり、連絡先を勝手に別の信者に伝えられたりした。

●やばい親の子と認知される

●学校でキリスト教を揶揄するような言い方をされた、恋人の家族からキリスト教とは親戚になれないと言われた

●純粋な気持ちで社会貢献でボランティアをしようとしても反社会的活動とされてしまう。わたしたちを見てくれない

●体育の授業における武道不参加と成績。集会による週末の予定の占有とそれによる恋愛の不自由。関係性の面で不都合。

●教団学園に通っていたので、電車に乗っているだけで制服を見て「お前ら教団か！」と知らない人から言われることが多々ありました。何もしていないし、隣りで騒いでいる他校の生徒には何も言わないのになーと残念な気持ちでした。学年が上がるにつれて、「自分達は社会から嫌われているんだ」と諦めのような気持ちを持っていました。

●上司からお上人様と呼ばれ、教団に関するネガティブな話を業務中にひたすらされた

●私が教団の信者である事を知る人から差別的な態度を取られる事は常にあった またそれが他の人へも伝わり、オウム事件などの宗教ネタに乗じてからかわれる事も多々あった

●交際を断られそうになったことがある。

●宗教上の理由で学校行事はほとんど参加できなかった。その都度なぜ参加しないかを教師やクラスメイトに自分で説明しなければならなかった。教師からはそのたびに参加しないことを批判され、責められ、いかに私が間違っているか、クラスの輪を見出しているかを延々と説教された。私が自分の意思でやっているわ



けがないのに。親に絶対的な生殺与奪の権を握られている子供に、親に逆らうことなんかできるわけがないのに。みんなと同じようにやりたいと一番思ってるのは私なのに。中学の時にオウムのサリン事件が起きた後は、教師からも露骨ないじめや差別を受けた。

●勧誘したことで友達をなくした

●「あなたの父が職権を利用して入信を勧めてきた」と冗談めかして苦情を言われたことが何度か。子供の私（当時未成年）に言われても……。私だって父の独り善がりな信仰には苦しめられているのに、同類扱いされてしまうのはつらかった。もちろん相手には平謝りするしかなかった。

●無視、おかしな子扱い

●学校では校歌が歌えないので、理由を問い詰められたり圧を感じることはしばしば。また非暴力の観点から柔道等の授業にも参加できず、疎外されることがある。

●理不尽な事とは少し違うのですが、大学が全寮制でその時小さい頃から強要されていた写経を友人に見つかり少し変な目で見られた事

●高校生のとき、模試に志望校として教団大学を書いていたら先生や同級生に「なんでそんなところに？」「大丈夫なの？」等と言われました。当時ニコニコ動画で教団を揶揄するような動画も有名だったので、その印象が強い同級生もいたと思います。オープンキャンパスでの印象はよかったぶん、世間での印象どのギャップが苦しく、わたしは信仰者でもないのに説明を求められるのが大変でした。

●学校の先生から「信心して何かいいことあるの？」と皆の前で言われた

●大学生の頃、飲み場で「(sex)ヤっちゃいけない教」とはやしてられたことがある。

●友人から何かをされたというよりは、信仰を隠さなくてはいけなかったので、学校生活が息苦しかったです。たまたま打ち明けてしまった同級生がそれを理由に私に対して支配的な関わりをしてきたこともあり、そのことが1番辛かったです。

●高校生の時に自分から「自分は教団だ」と言ってしまう、同級生からそのことでからかわれるようになった。大学受験の時も自分が教団大学志望ということで揶揄された。

●恋人から宗教及び育った環境に関して、否定的なことを言われることが多かったです。活動から離れてもそれは続き、それで傷つくことはおかしいと言われてきました。それなら宗教を理由に別れてくれる方が誠実

だったと思います。

●キリスト教系の職場で働いていたが、クリスチャンではない人に「だからクリスチャンは嫌いだ」「だからクリスチャンはダメなんだ」と言われたことがあった。あと、大学院で「クリスチャンは研究者には向いていない（おそらく思想があるから、というような意味合いだとは思いますが）」というようなことを言われたことがあった。仲の良い友人などは、むしろ信仰を理解してくれたり、家族や知人の宗教関係のトラブルの相談などをしてくれたりして、好意的に受け止めてくれていると理解している。

●私の祖父母に「お孫さんが学校でイジメを受けない為に、功德を積みましょう。」と指導員が週に何度も家に来て恐喝を指導と言う名目で続け、その指導員達に指示された信者の子供のupper級生から毎日顔を殴られる1年もあった。小2の時に小3から。教団は組織犯罪の常習犯で、小学生をも加害者として動員して小学生をリンチにする実体験をした。

●修学旅行のとき、東京に行き、観光バスの中で「教団本部だってー！」と私に名指して大きな声でバラされた。あの人、そうなんだと言われる、思われることが、高校生にとっては苦痛。

●噂をされた

●批判をされて嫌な気持ちになった。卒業校を言いたくない。

●学校では、宗教をやっているおかしな家の子だと言われた。恋人からは、親が宗教をやっているから、結婚できないと言われた。

●教団だと友人に明かした時に、「やばいやつ」扱いをされた

●祖母が私たち兄弟のクラスメイトの家庭に支持政党への投票をお願いして回っていたので、小学生、中学生のクラスメイトは我が家が教団信者だと認識されていたと思います。もしかしたら個人的な問題があったかもしれませんが、友達を遊びに誘っても断られることが多く、友達付き合いをしないように言われていた家庭もあったのかもしれませんが。面と向かって教団信者であることをなじられたことなどはありませんが、同じ高校の信者は高校時にそれが原因でいじめられていたと、大人になってから彼から聞いたことがあります。

●彼女に振られた

●特に中学、高校の思春期の時は嫌な思いをした。

●小学生の時同級生に、私の母が新聞を売りに来て困ると言われた。友人の兄に、教団人であることをひど

くからかわれた。

●例えば校歌を歌えないとか、武道に参加できないとかで周囲から不思議な目で見られたこと。子供の頃、親戚から線香を上げるよう圧迫的に強制されそうになり、なんとか断ったが、その時の伯父の態度が非常に恐ろしかった。その当時のことはいまでもトラウマにのこっている。葬式とかで、親戚から罵声を浴びることもあった。泣いている母を見るのも辛かった。板挟みになるのは辛かった。

●彼氏から結婚しないと言われた

●大学時代に仲良くしていたグループの友達に、この宗教の信者が死ぬほど嫌い、軽蔑すると言われ、信者であることをバレないように過ごすことが苦痛だった。友達と遊ぶ約束も宗教行事を理由に何度も予定を変更してもらったり、断ったりしてしまった。

●小学生の時は、クラスの男子に「神様」とか「キリスト」と馬鹿にした言い方で呼ばれ、揶揄われていました。高校を卒業してからは、2性の私も教団として就職せずに伝道活動とアルバイトをする進路を選択した為、非信者の祖父や叔父から冷たくされていました。

●教団の3世であることを打ち明けると、少し壁を作るような反応を取られた。

●大学時代に地方で独り暮らしをしていたとき、私は宗教を信じていたので日曜日にある行事のために恋人の家を早くに出ようとしたことがありました。それを不審に思われたので正直に信者であることを話したら行くのをやめるように言われました。後日、彼なりにネットで該当の宗教についても調べて、おかしいからやめた方がいいと言われました。自分が信じていたものをというよりは、自分が生まれたときから当たり前にあったものを完全に否定されたことが悲しかったです。

●やってはいけない事が多かったため、友達と遊ぶ時にめんどくさがられたり、それを理由にいじめられた。

●宗教をやっていることを揶揄われた。学校の先生の中にも、宗教活動について親には言えないことを、子供にぶつけてくる人もいた。

●結婚を反対された。

●高校生の時に恋人の両親に嫌がられ、別れるようにしむけられた。悲しかったが、ふーん、そういうこともあるんだ、と思っていた、というか思うようにしていた。どうしようもないことなのであまり客観視しないようにしていた。

●ネットで知り合ったバイク仲間のおじさんに教団学園に通っていたことを伝えるとトイレで嘔吐しました。

昔、家族のお金を宗教にむしりとられたトラウマがあるらしい。私とは関係ないのにこの人は何をしているんだらう？と思って、この件は、そこまで傷付かなかった。

●教団学園の制服を着ていると、知らないおじさんに悪口を言われることはあった。特になにも思わなかった。"

●親友の親が、親友に「あの家族は変だから〇〇ちゃんとは付き合わない方がいい」と助言していたことを知ってショックだった。

●先生から冷たくされた

●仲間外れにされた。からかわれた。いじめにあった。

●結婚式を馬鹿にされた

●友達が離れていく

●教団宣言と言って、周りに自分が信者であることを打ち明けるのが素晴らしいことだと言われています。当然、選挙の依頼もしなくてはなりません。やらなくてはならない程追い詰められます。だからやります。けれど、当然周りの反発はあります。陰でこそそ言われます。二度と話しかけないでとも言われます。

●幼馴染の親から冷たい態度を取られた。中学生の頃、母親が同級生の家に入信の訪問をしたせいでイジメにあった。

●宗教、信仰を持つこと自体、気味悪がられる。教団を書いた虚偽の著作物を信じて皆の前で人格否定される。ごく一部の信者が犯罪など犯した場合、信仰によるものと見做され、その団体や信者全体がそうだと思うられる。

●当時は全くわからなかったが、小学校5年生の時に夜逃げをするように転校したことがあった。経済的には比較的恵まれており金銭的理由ではなく、のちに知ったが熊本県の田舎の町で信者家族を差別視するプレッシャーから逃げたのではないかと考えられるため「2. たまにあった」を選択した。

●小学校時代、友達の家遊びに行ったら友達のお母さんが冷たく、「あまりあの子と遊ぶな」と言われたと後日友達から聞いた。

●自分は活動しておらず、名前登録されているような状態でしたが、恋人に家族が信者であることを伝えたところ破局しました。

●友達に地域の祭りに参加できない事を言うと、宗教のことを冷やかされた

●ひどいものではありませんでしたが、学校で無視や嫌がらせはあったように思います。

とはいえ、1人である方が好きだったので、大きく影

響はありませんでした。

- 疎外感
- いじめを受けた
- 集会や大会に行くために部活への参加に支障があり、教員や友人にバカにされた。
- それを理由に別れたこともありますし、義母は私のことが許せず一切関係を絶っています。
- 信者同士で結婚するんでしょとからかわれた
- 学校で教団が嫌いな先生（社会分野）から嫌がらせを受けた
- ネット上ではあるが誹謗中傷は頻繁に受ける
- 学校では教団の信者であるというだけで友人達が陰口を言って嘲笑していた。一般社会でも、信者であることが分かると、暗に軽蔑を込めた対応を受けたことは数知れずなので、信者であることは相手によって注意深く隠していた。
- 信者と明かしたら態度がそっけなくなり陰でその話を広められていた
- 子どものとき、おじさんを信じている、変だ、と言われた。
- 武道の授業を受けなかったので、高校を卒業出来ない可能性があった。
- 大学生のころ、実家から大学に通っていたが恋人ができて両親に紹介しづらかった。私の家には支持政党や教団のポスターがたくさん貼られていた。それを目撃した恋人からは「教団と知っていたけどここまでとは思わなかった」と言われ、疎遠になる切っ掛けとなった。
- 見合をした祭に、私が信者と分かった途端相手の家族から理不尽に対応された。就職先でも同じように、社長から退社を強要された。
- 「生き仏を信じるんでしょ？」冷やかすような目で職場や友人から見られた。大学進学の際に「もっと上の大学行けたのにどうして教団大学なんか選んだんですか？」と後輩に言われた。
- そういう人が僕の以前にいたので、特に信仰していないが関係あること言っていない
- 学生時代のいじめやなど、職場での変人扱い
- 中学生の頃、社会の時間に宗教について学んでいた所、社会科教諭から「お前と〇〇(別のクラスメイト)の家は、宗教に入ってるから、こういうのは詳しいよな」と名指しで茶化され、すごく恥づかしかったのを覚えています。人口の少ない離島に住んでいる為、それぞれの家庭状況がわかるので、担任ではない社会科教諭も知っていたのだと思います。

- 家の壁に教団のポスターを貼っていたので、陰口を言われた。選挙になると電話をかけたりするので、うとまがれた。
- 職場の同僚が、その団体の者が関わる不祥事やそれを報じた週刊誌の記事の内容を皆に聞こえるような大きな声で言いふらしたうえで、自分（アンケート記入者）がその団体と関係があることを示唆するコメントを付け加える
- 交際相手との不和
- 親が連絡簿を悪用して、担任教師の自宅へ集団（同小学校生徒と保護者の信者複数人）で選挙のお願いをしに行ったことがあった。幼い私も「先生に会いに行くよ」と連れて行かれ楽しみにしていたが、インターホン越しにとっても迷惑そうに対応している先生の家族の声を聞き、これは良くないことだと分かった。以降、信者の生徒は1クラスにまとめられ、そのクラスでは先生の住所は教えてもらえなかった。(年賀状などを他クラスでは送り合っていた)。成人後、恋人に宗教二世であることを知人に言いふらされたことがある。別の恋人とは、結婚の話が出たが、宗教二世であることを理由に話がまとまらなかった。
- 恋人から振られた。でも結果よかったです。
- 皆と同じ行事や行動ができないため変わり者だと思われていた
- 友人から関係を断たれたこともあったが、カルト宗教信者と関係を断ちたい心理は当然ゆえ、理不尽かと言われると同意しがたい。
- 20代で就職試験時に、思想信条調査がありました。後で聞くと、「人権侵害、記入しなかった」と言う人も居ましたが、私は隠す意味もないので、支持政党も宗教も正直に記入しました。すると、翌日ひとりだけ呼び出しがかり、再面談に。宗教勝利のことを何度も問い質されました。別に布教活動のために入社したい訳ではありません、一社会人として働く場を求めて参りました云々、淡々とお答えし、副社長は物事の判る方だったからか、採用されました。
- キリスト教に偏見があり教派はプロテスタントでしたが新興宗教と一緒にされて馬鹿にされたりを邪険にされたりはありました。
- ネックレスのような、信仰に必要なものがあるのだけれど、それを入浴など以外は付けているよう教えられているので、当然、アクセサリなど禁止している学校で見つかり、周りに色々言われる。
- 担任教師に話を親が通していたが、生徒に話が通るわけでも、生徒を教師が止めるわけでもなし。"

●中学生の頃、教団が何かは分かっていたが、世間でどの程度話して良い話題なのかを掴めずにいた頃、美術部で新聞を大量に集めることになった。その頃まだうちは教団新聞を取っていたので、うちが教団新聞をとっていることを話すと、美術部の顧問が、「マジかよ、〇〇の家は教団なのかよ！親は婦人部で布教しちゃってるタイプか？」などと言われた。ムツとしたので、その後は教団の話題は避けたかったのだが、ことあるごとに「〇〇の家は教団だからなー」などと言われた。高校生の時には、親友が、私の家が教団信者であることを知らずに、「教団の人とかは付き合えないわー、頭おかしいもん。宗教とか無理だもん。」などと言われた。私が教団の家庭なこと高校では誰にも言っていないが、公民の先生は、政教分離の話で、「ちょっとおかしい団体ありますよね」と問いかけ、生徒が、「教団ですか？」と答えると、他の誰かが、「口に出して良い団体、、？」などと言っていた。それに続けて、先生は「政教分離的にはアウトだけど何故か野放しにされているおかしい団体です。」と言った。

●勧誘されると思われた。また選挙お願いすると思われた。

●家に彼女を連れてきたときに神棚のことを聞かれて答えざるを得なかった

●年齢の高い層だったとおもうが、口を聞いてくれなかったり、お前、拝み屋かと嫌味を言われた。

●わたしは隠していたのでそれでも少ない方だったが、無視さたり仲間はずれにされたりした

●怖いと言われた

●宗教活動の中に奉仕活動という個人のお宅を訪問して行く宗教勧誘がありました。その姿を同級生に見られたりすると、(奉仕活動自体がフォーマルな衣装を着て行く事もあり) 何をしていたのかを聞かれると、幼い頃は上手く言えず、成長してある程度説明できるようになっても周りからは胡散臭い事に思えるようで、いじめられるきっかけになっていきました。

●信者だとわかると距離をとられた

●下校中に友達のお母さんが寄ってきて「新聞はいらないよ」と言われたりとかそんな程度のものでした。

●いじめられた

●学校では先生が率先してイジメてくることもあり、中学2年の最後から不登校になった。友人や友人家族も腫れ物に触れるような対応されることも多々あった。「教団は暴力がいけないんだから、抵抗できないんだよな」とサンドバックにされることもあった。先生は助けてくれなかった。

●小学生の時「あの家は(我が家)宗教やってるから付き合っちゃ駄目ってお母さんに言われたからもう遊べない」と複数人に言われる。親が私の友人やお世話になっている教師に勧誘をした為教師の対応がガラッと変わり口もきいてくれなくなった。恋人に信仰をしている事を告げて別れる事になったり、親が恋人に信仰を勧めた為別れる事になった●

●私が入っていた宗教のせいで、昔しつこい勧誘を受けて嫌だったという苦情。友人が私と同じ宗教にハマってしまい人が変わってしまったので許せない、という八つ当たり発言。宗教に良いイメージがない為、笑われたり、避けられたり、した。

●友人に会いに友人宅に行ったが、親が出てきて追い返された

●信仰に関わる問題では上司の言うことに従わないだけで人事評価を最低にされた。しかもそのことを会社の飲み会席でみんなが聞こえる声でばらされた。その時の悔しくて恥ずかしい思いは今でも忘れません。

●いじめ

●婚約が破断になった

●集まりが土日だったので、友達と遊ぶことを断ることも多かったです。幼心に「この信仰は黙っていた方がいい」と思っていたので、基本的には本当に仲良くなれる相手にしか明かしませんでした。それでも祖父母の葬式の形式が仏式ではなかったり、家に祭壇があったりと、違和感に気づいて離れていく友達も何人もいました。

●教団を毛嫌いする先生はいました。

●婚約者も信者2世(別の宗教団体)だった。相手の親が興信所を使って私の家族や身辺を調べ、相手の親から結婚を反対された。

●小学校時に友達から揶揄われたり、いじめの要素になった。

●こちらが悪いが、神様の話(神様が世界を作ったことなど)すると否定された。

●中学生の時、体育祭の騎馬戦に参加しないのか宗教上の理由という事でクラスメイトにからかわれた。恥ずかしかったし、でも自分では決定権もないし、とてもみじめだった。

●学生の時、信者という事で友人から軽い差別を受けたが気にせず前向きに接していたら誤解が解けた。

●友人から距離を置かれたことが何度か、おそらくは教団との関わりが原因の一つとなって当時付き合い合っていた人から別れを告げられたことが一度あります。幼いころは訳が分からないというだけでしたが、成長す

るにしたがい、自分で選んだものでもないのになぜという気持ちが強くなりました。友人や恋人に対してではなく、それを受け入れさせてきた家族に対する怒りの方が強いです。

●困っている友人がいると母に相談したら教祖の出版本を渡すように言われ、友人に拒絶された

●夫の親からの結婚の反対、結婚後も

●結婚できないと言われた

●何か売ってくる？と聞かれたり、洗脳されてるよと言われたりした。他の信者の悪口（私は知らない人）を言われたり、何故か文句を言われ謝らせられたりした。

●国旗掲揚や校歌斉唱に参加しないことで教師から叱責された。他の生徒と違う行動をとるため、いじめの対象となった。

●クラスメイト「あいつの家は教団だ」と陰口を叩かれました。私がどんなに隠そうとしても選挙期間に母が家を回るのでバレてしまいます。

●せっかく親しくなっても親の選挙で離れてゆく

●中学校で信仰していることを言いふらされ白い目で見られた。

●学校行事に参加出来ないものがあり、友人の誕生日も、自分の誕生日も祝えなかった。疎外感は大い。

●中学校まで教団系だったので、高校で出身校を聞かれ答えると必然的に信者であることがバレる。高校時代信頼していた先輩2名に出身校聞かれ答えたら、「うわあ洗脳されちゃう～」と言われて非常にショックだった。それ以来出身校は明かさなくなった。

●へんなあだ名がついた

●教団だから頑張らないと言われた

●教師から煙たがられていた。(親に言われて聖書をプレゼントしたりする子どもだったから先生の気持ちもわかる)

●いじめを受けた。今になって分かるが母親が選挙などがあると学校の名簿を使い、投票依頼をしており、そのために私へのいじめにつながったのではないかと思う。

●奉仕活動で住んでいる地域（学区全域）を戸別訪問するので、学校の同級生に教団であることがバレてかなり深刻なイジメにあった。本当にしんどかった。一時は不登校になった。

●恋人に信者だと知られ『結婚できない』と言われた。

●恋人には不審に思われることは多かった。今となってはそれが別れる原因にもなったと思うが、当時は理解してもらおうのが当然と思っていた。親や教団に強制

されているというより、自分自身の希望として、自分の信仰を理解してもらうことが愛情だと考えていた。

●お守りを肌身離さずつけていることを強制されました。左右4センチ、天地7センチほどのお守りを木綿の袋に入れ、ゴム紐で首からつるしていました。体育の着替えの時など、ほかの人に見つけれないように素早くズボンのポケットにしまっていました。『何その首からつるしてるやつ？』『今何をかくしたの？』などよく問い詰められていました。(幸いなことに成績はよかったので、いじめられることはなかったのですが) 恥ずかしく、つらい記憶です。

●中学生の頃、球技系の部活動に参加していたが、日曜日の練習や試合を辞退していた。教会礼拝が理由であることを顧問の教師には伝えていた。これは推測だが、部員各々に配られるユニフォームの背番号は、顧問の判断する競技の実力差ないしチームへの有用度合を表すものだった。私の番号は、一番後ろの数字だった。ただし私の競技能力は確かに全員の中で低く、部活動への熱意も低かった。要員としての扱われ方は当然だったのかもしれない。また、顧問や部員からは、宗教を理由に直接的な言動で差別されたこともなかった。そして何より私自身、宗教を理由に日曜の部活を休めることを喜んでいて。以上のことから、「理不尽な対応をされた」とは言えないのかもしれない。

●友達の家で数人の友達と遊んでいたら、友達の母から私だけ家に帰るように言われた

●秘密を暴露される恐怖で告白はできなかった

●小学生低学年のころは、自分自身では教団の活動に疑いがなかったので、信者であることが良いことだと思っていた。当時はまだ入信の勧誘活動や選挙協力が活発だったこともあったからか、信者であることを学校で話すと、関わりたく無いということと言われたりした。

●小学校～高校までクラス(もしかしたら学校全体?)でキリスト教信者が私一人であったため仲間外れはあった。

●宗教二世であることを周囲に打ち明けたことはないのですが、周りの人が「新興宗教」について話しているのを聞くと、罪悪感に苛まれます。

●新卒で入った職場が公的機関で、設立にあたり支持政党が注力していた分野だった(よく知らずに入職した)。自分は教団大には進まなかったが、履歴書から教団高校出身であること=信者であることが職場の上司に知られており、信者だから内定が取れたようなニュアンスのことを言われた。でも実際そうなのかもしれ

ないなと思った。

●友達から「後輩の〇〇君の家族は某教団に入ってるらしい」という話を聞き、新興宗教の信者は身近なところにいるんだと思い、また親友だったこともあり、その場で自分の信仰をカミングアウトすると、後で周囲にばらされたり馬鹿にされたりし、一時気まずい思いをしたことがありました。(友達と私の家族が話をし、信仰の件については今後触れない、みたいな感じで騒ぎは終息し、その友達とは和解はしましたが、今でも時々当時の事を思い出して一人さみしい思いをしたりします)

●過去、教団トップ氏や、その側近らの悪事によって、教団信者であることを警戒された。また親や周囲の方々によるしつこい選挙依頼や、新聞の勧誘などもされていて、その子息である自分たち、教団信者は警戒された。まあ当たり前でしょ、と脱会した今では思います。

●あからさまな軽侮を受けた

●恋人との価値観で相容れない部分があった。

●寺を継ぐことが前提の反応。

●大学時代の初めての彼女に交際後半年以上してからカミングアウトしたときの拒絶。私が少しオカルト的な要素も交えて説明したのも悪かったが、宇宙人(完全に常識が違う人)と接するような態度を取られて戸惑った。

●教会の信者であることが近所や同じ学校の家族にバレて友達を作ることが怖かった時期があります。

●教団なんだろうと、他の友人たちの前で言われて恥ずかしかった。

●基本的には誰にも話した事がない。ただ、自宅に友人が来た際に、信仰の物を見て、不審がられたことがあった。

●友達が離れていった。陰口をたたかれた。恋人からは教団を辞めないと結婚しないとされた。

●両親が教団であることを何気なく告げたら、ネタにして数度に渡りいじられた(社会人になってから職場で)。やめてくれ、と言ったらやめてくれたが、非常に気分が悪かったのと、言うてはならないことなのだ、と思った。

●隠していられれば問題ないが、知られると良いイメージがないからか距離を取られる。

●宗教信仰者だと分かった途端、あからさまに態度が変わった(避けられて縁遠くなった)

●何度かデートを重ねて、お互い好意を持っていた相手に、付き合う前に打ち明けたら、祖父母や両親のこ

とを悪く言われ、拒絶された。教団に悪い面があるのはわかっているので仕方ないと思ったが、その後彼がSNSで「最悪」「騙されるところだった」「最初から言えよ」などと呟いていて、悲しくなった。「LGBTに理解がある、人種差別は良くない」と彼はよく言っていたが、宗教はいいんだと思った。出会った最初に言えというが、まだ仲良くなれるかわからない段階でどう打ち明けるといふのかわからない。まず自分自身を知ってもらいたかったし、過去も付き合う前には必ず打ち明けようとしている。振るのは構わないが、人の親類を馬鹿にしたり否定的な言葉を投げかけるのはやめてほしかった。

●宗教勧誘を中学、高校の頃に行き断られた。その頃の友人とは全員疎遠になっている。

●いじめ

●同級生との接触自体を避けるように進められ、成人式はスーツ、出産後に同窓会へ参加すると、「姉はどうした、私だけ幸せになってどうする」とつめられても、姉の結婚、出産も全く伝えられなかったです。

●他人との距離を感じた。

●国歌斉唱を禁じられていたので変な目で見られたり、家が教会だったことで友人を呼ぶと勧誘と思われるのではないかと考えてしまった。

●集会在週に3回あったので友達と遊ぶのをたびたびこちらから断らなければならなかった。歴史の授業で隠れキリシタンの話になるとクラス全員がこちらを見てクスクス笑い始めた。

●桜田淳子さんが話題になった頃。からかわれた

●中学●高校が関連の学校なので、就職の面接の際に否定的な反応をされることが何度かあった

●大学卒行事に天理教の高校出身ということで、面接を断られ就職の制限があった。結婚後、お義母さんに天理教に奉仕せよと仕事を制限されそうになった。

●教団が嫌いなひとからは敬遠されてました

●信仰をしていることを茶化された。

●いじめ

●職場の社長に「教団は棺桶を高額で買わせるんだろ?」と言われ、否定したのですが、納得してもらえず、その後もずっと変な目で見られた。

●小学校時代、そのために共産党で熱心に活動していた担任から酷いイジメをしつこく受けていた。

●あえて言葉にして自分の所属等打ち明ける機会は無いのであまり無かったです。組織の名前を言うことや嫌いな思いをする人とか、法事で香典を取られるとか、親族に言われることもありました。

●小中学校で仲の良い友達が不登校になりがちになったため、送り迎えをしたり、遊んだりして支えているつもりだったが、「宗教に勧誘するために仲良くしているんでしょ」と言われた。本当に悲しかった。大学時代に突然、同大学で活動している教団のサークルから電話が掛かって勧誘された。どうして電話番号を知っているのか確認したところ、電話を切られた。個人情報知らない方へ漏れており、恐怖を感じた。友達やパートナーから、私の親を馬鹿にされたり、批判されたりした。子供の頃は親を馬鹿にされることは非常に傷付いた。

●信者であるというより自分の問題なのかずっと混乱しているし、理不尽はずっと感じている。

●いじめられはしなかったけど、特別中の良い友達もいなかった

●小学校では一部の子から避けられたり、親について悪口を言われていた。中学校の教師の一人は露骨に教団を嫌っていて、私だけ話してもらえませんでした。私に対する態度を疑問に思ったクラスメイトが理由をきいたところ、教団だからと。

●嘲笑された

●隠したいが、学校行事の不参加などで隠せない事が多く辛かった。何故参加できないのか、自分の意志ではないので明確に説明する事ができなかった(幼かった頃は特に)

●教諭が同じクラスに居た信者の子と私(プロテスタント)の違いが分からず(また当時の私も説明できるほどではなかった)修学旅行で伊勢神宮に入らない待機組になっていた。

●宗教に関わっていることが噂になった頃から男子に○○菌みたいな扱いをされるようになった社会では宗教が否定的に言われる機会が多く、宗教では絶対正義であったため本心から話せる人物が恋人でも友人でも一人も居ません。どうやったら自分の気持ちを伝えるのに一歩踏み出せるのか本当に分からないんです。

●授業に参加できないので、仕方ないかな。

●狂信的に信仰していた頃、教団の人から邪教と言われ喧嘩になった。大げさかもしれないが、あわや私刑に合いそうになった。今考えると脅し程度のことだったんだろうと思う。

●一般的には祖先崇拝が多い土地柄であるため、親類にクリスチャンがいて仏壇に手を合わせられないこと、法事やお盆などの季節行事に協力的でないことに不満を持つ方が私に向かって気持ちをぶつけてくるようなことがたまにあった。また、友人同士の会話の中で上

記のようなことについて愚痴りあっている場面に居合わせることも時々あり、直接批判をぶつけられるわけではないが自分の存在を否定されるような気持ちになった。

●学校の行事に参加しないと、布教活動をしていることでいじめられた。好きでやっているわけではないので理不尽だと思っていた。

●小学2年生のとき、当時の担任教師がなぜか私の家がクリスチャンだと教室でクラスの児童たちに言って以来、からかわれることがありました。それ以来、自分がクリスチャンと言うのが、嫌というより、その後の反応を考えて面倒になり、あまり言わなくなりました。大学で同級生にクリスチャンの友人ができてから、少しずつ公言できるようになりました。

●教団の人間と陰口を叩かせるのを見たことがあるので、わたしは二世を明かしてなかった

●数名の恋人に信者であることが一つの要因で別れを告げられた。恋人の宗教に対する嫌悪感、親への紹介ができないなど。

●教団に対する批判的な言説にさらされるたびに、入信していること言えないと思った。しかし、地元では当然ながら親は活動しているので、周囲の友人はおそらく知っていると思い、そのことも嫌だったが、自分は熱心な信徒ではないということでバランスをとっていた。実際に熱心な活動はしていなかったのもそれも可能だった。

●信仰していることに否定的な言葉をなげかけられたりする。人格を否定されているような気持ちになって辛かった。直接的でなくてもそういう事はあるので信仰している事は出来るだけ隠していた。

●長年真面目に勤め、評価も継続的にトップクラスだったが突然解雇された。インターネット●SNS上で個人情報を暴露され、誹謗中傷●嫌がらせ●人格否定を継続的に受けている。

●団体で展示をしたときに、信者だと分かると席を離れる人がいた。私のことを信者とか知らずに教団の悪口を言うこともあった。

●学校で仲間外れにされた(放課後に一緒に遊ばないから、と)

●小学生の時、その宗教で団体で隣町へ引っ越した為、噂が立ち、組合の先生に虐められた「掃除なんか教会信者がやればいい」とか何かと相当虐めて来ました。今思えば教会が共産党を攻撃するので無理もないかもしれませんが虐めが横行してた学校でした。うちの宗教の誰かが何かへマをすれば、たちまち噂になった。

が、虐めてこない子ももちろんいたそれ以来は隠して暮らすようになったのでイジメはないです小学生の頃だけでした。

●私は産まれて40日後に親元を離れ教団の運営する保育所に預けられて育った。昔は2世の子達は皆そうして育ち、集団生活をしてきた。小学生の時に子供達が大きくなり皆で住んでる場所が狭くなったので集団で他の場所に引っ越した。その時に集団転校生と噂がたち、信者というのが広まって、生徒からも先生からもいじめを受けた。

●普通に先生方からも「面倒な親●生徒」という感じで扱われていたように思います。友人はたまたま理解のある子たちが多かったので救われました。

●小学4年の時の担任に目の敵にされた。一度は体罰(廊下に出して授業を受けさせない)、また嫌味やヒステリックな叱責も私の宗教のせいと思われた

●「家族から教会の子とは遊んじゃいけない、と言われているから」と言われた。

●仕事中に信仰のこと、所属団体のことを言われた。「私は～の信者です！みなさんも是非！」なんて言ったこともないのに。出身大学名で所属がバレる団体のため、内定後に、勤めている間勧誘等しないように誓約書を書かされた。私は生活のために仕事をしにきたのであって、勧誘のために仕事をしにきたわけでもない。無批判●盲信の信者も馬鹿だが、無信仰者も頭の出来は変わらない。転職後、信仰のことはバレないように気をつけたが、他の同僚から天気の話のような軽さで所属団体や宗教を持つ人全般を差別する発言が多々あった。目の前の人「宗教の人」かを配慮する必要がないほど下に見られていると感じる。生まれた時から信仰に染めた親に憎しみを感じることがあるが、同じぐらい宗教●信仰を理由に踏みつけてきた世間も許せないと感じる。

●オウム事件で宗教バッシングの時にシューキョーは危ない！と罵倒された。宗教に対する風当たりはよくないです。クリスチャンは西洋被れで先祖供養をしない罰当たりとか言われた。現実のキリスト教界では西洋人は熱心で無く、前世紀の半ばぐらいのはなしだけどね。

●教団信者である事がバレると面倒なので隠していた。

●参加できない行事が多々ありましたので学校のクラスメイトからは少し浮いていたように思います。それを理由にいじめられたりはしませんでしたが先生たちは腫れ物を触るような扱いだったと思います。

●小4の頃の担任にクラス全員の前で学級委員の選挙

に投票しないことを一時間以上責め立てられ、泣きながら立ち尽くしたことがある。運動会の応援合戦や騎馬戦、林間学校のキャンプファイヤーへの不参加の間は信者の子どもたちだけ隔離されていた(他の生徒にからかわれないよとの配慮もあった)。年頃以降は好きな人がいても「どうせ付き合えないし」と近づくこともできなかった。職場でも宗教中心の生活を説明するのが難しく、説明はしていたが露骨に嘲笑ってくる上司もいた。恋愛経験がほぼゼロのまま結婚はしたが、未だにいろんな面で人生経験の欠落を感じる。

●教会のうちだとからかわれた

●嫌な顔をされた

●嘘つきクリスチャンとか校歌を歌えよとか言われたこと

●職場の飲み会(全職員対象)に参加させてもらえなかった事がある。その他諸々、上司と意見が対立する度、わざわざ宗教上の事を持ち出され、他の社員に見せびらかすように、上司から叱責を受けた事があった。そもそも就職の段階から学歴欄の「教団大学」の文字を見るなり、面接の雲行きが怪しくなる事が数多くあった。

●布教する、選挙依頼するから煙たがられた。

●20歳当時の彼氏の親が、あまり賛成できないと彼に申し送りしてきたなど

●入社前、下調べに合った教団ということで、要注意人物とされてた。

●社会学の研究会で「教団はマジョリティだからね」と笑いながらコメントされたことがある。ハラスメントではないかと指導教官に相談したが、「その場で指摘しないキミが悪い」と返答され、研究会としての対応がなされなかった。

●小中学校の時に、教員に対して信条に従い出来ない行事について説明したところ、馬鹿にされたり暴力をふるわれた。

●土日は教団施設に行くために友達と遊べなかった。友達もそれを知り、最初から誘うことが無かった。

●学校で何かミスしたりすると、先生からあなたの宗教はこんな事教えてるの？とか嫌味はよく言われた。友達からは気持ち悪い人扱いされる。職場では若いのにアルバイトでしか働かないので怠け者だと思われる。

●母親が亡くなり葬式をするときはじめて、他の大多数の私の友人とは違って、自分の家はその宗教だとはっきりと自覚したが、その後、葬式に来ていた友人の一部から、「〇〇(私の名前)はあの宗教信じてるの？」と、とっても嫌な感じで確認されたことがある。

●同級生からからかわれた 嫌われた



●今まで連絡を普通にとっていたのに、選挙で支持政党の願いをしたとたら連絡を返してくれなくなった。

●幼稚園の時、幼馴染の家に 365 日遊びに行っていて、ちゃんと片付けして帰ったのに、幼馴染の連絡帳に私が散らかして帰ったと報告された。

●学校では度々からかわれた。

●小3の時の夏休みの自由研究で「自分の宗教」について調べた。全く強要されたわけではなく、自分の身近な宗教に興味がわいて、教義に関する本などを読んで「研究」したつもりだったが、担任の教師は嫌悪感を示していたと思う。記憶があやふやなのだが、「自分で調べて満足したのだから、(自由研究の優秀作品を出す)審査会には出さなくていいよね」と言われた。自分の頑張りを認めてもらえなかったこと、宗教のことは大っぴらにしちゃいけないのかな?と思いショックだった。

●恋人の両親から反対され、婚約破棄された。就職面談の時に履歴書を見ただけで「社内で宗教活動や政治活動したらクビにするから」と言われた。

●担任の先生にあからさまに嫌がられた

●医療方針に対する差別的発言を言われたことがある。標準化された無輸血治療があり、それを施せば助かったのにもかかわらず、『輸血をしないで子どもを死なせている宗教』と罵られたことが何度もある。日本の医療の遅れだけでなく、組織の構造的な問題もあると思う。日本の医療機関の9割くらいはリスボン宣言を順守していないと思う。病院や大学、医師会などの背後に敵対的な宗教的思想を持った権威者が弁護士などを使って裁判に訴え、相対的無輸血治療を強要している実態がある。一般社会の基準(規定の法律を基に)を個人の思想自由より重視する傾向がある。患者の意志に反して下された医療従事者やその関係者たちの決定【輸血の実施】によって患者の命を守ることで結果として個人の尊厳を奪うことがあり、生涯苦しむことがある。

●教会のことを何も知らない友達から「怪しい」と言われてしまった。

●「怪しい宗教をやっているやつ」というレッテルを貼られ奇妙がられた。

●クリスマスを祝うのはおかしいとバカにされた。地方祭に参加できない、修学旅行や少年の家の参加などの時お寺や神社に入れず入り口で待っていた。お経が唱えられるんかと面白半分て聞かれ面倒なので唱えてみせることがあった。いじめの理由になったことがあった。手術を受け診察をした医師が科の部長、高校の

同級生の父親で、教団が大嫌いと言われ娘から聞いた。同級生は椿神社の巫女のアパートをしていた。近所付き合いが教団関係がほとんどで、男女関係で家庭に入り込んでくる女性がいた。数回前後の現場にあった。押し入れに隠されていて偶然見つけてしまったこともあった。相手の夫に怒鳴り込まれたり暴言を吐かれたことがあった。DV。向こうの年上の息子二人とも微妙な関係だった。高校の教団の女子に酷いいじめにあって暴言を吐かれ続けた。主治医は宗教嫌いで、やめたいと思って相談したが無理することはないと言われた。宗教は麻薬が持論。元々本家が古い別の宗教の寺の家系なので、別の意図があるのは分かっているが有名な政治家の喋り方をバカにするのも見ていて、医師を信用するのがつらかった。参加していた合唱団の名前を病院のデイケアに来ていたボランティアの音楽の先生や他の利用者にバカにされ続けそのあだ名で呼ばれ手紙にまで書かれた。悪いとか嫌がってると思ってなかったと思うが、その方はガンで亡くなったが見舞いに一回行った後縁を切った。

小学校でいじめにあった。中学は地元の知り合いのいない学校だったので、中学以降の人生では誰にも言っていない。ひた隠しにして生きてきた。

●学校行事に参加しない事で変に思われたこと

●学校活動でできないこと(誕生日会に出ること、運動会の騎馬戦など戦いを想起させること、応援団の加入など)については自分で証言をしなければならず、そのために遠巻きにされたりすることはありました。

●恋人に振られた。恋人に信仰を知られた頃から何故か疎遠にされていき「私が大嫌いだから」と言われはじめ最終的には失恋した。友人関係でも、カミングアウトしたとたん疎遠になったり、電話も通じなくなった人もいた。いずれも強引な勧誘(…というのは言葉として偏見がつよいので布教と訳す)したわけではないのにこれは差別、人権侵害だと思った。

●結婚相手の家族にカトリック信者だから変わってる、と言われ続けている

●信者であると言うと嫌な顔をされたり「選挙の票を頼んできたり、入信を勧めるんでしょ?」と言われることが多いです。人によっては関係を断つ人もいます。

●大学入学時に大家が教団は嫌いだとアパートを借りられなかった。取引先社長が教団大嫌いで面接で必ず確認するくらいなので他の社員の前では絶対教団だと言うなど言われた。

●私は現在宗教から距離を置いているが、無宗教の妻からは私や実家の考え方が宗教っぽいと敬遠されるこ

とがあり、私個人の考えだと思っていることも宗教というフィルターを通して作られた考えだと疑われてしまい、私個人の大事な部分を信用されていないかもしれないと疑ってしまうことがある。

●実家が教会であることによるからかいや偏見

●守っている戒めが理由でいじめられた。日曜遊べないことで、仲間はずれになる。仕事が自由に選べず、日曜出勤を断ることで、会社に居づらくなってしまう。

●いじめ

●気まずい感じ。隠したくなる。家の選挙ポスターも  
●学校が悪いわけではないが、クリスマスを筆頭として宗教に由来する年中行事が学校では頻繁にあり、そのたびに自分が参加できないことを教師に伝え、一人で教室の隅に立っていることが苦痛であった。国旗掲揚●国歌斉唱●校歌斉唱●応援歌練習●武道の授業への参加なども禁止されていたため、年中信仰を試される機会があり、ただでさえ嫌いであった学校生活がより苦しいものとなった。

●私は教団高校、教団大学出身で履歴書で学歴を見るだけで教団信者とわかってしまうため、就職活動のときに書類審査で落ちたことがいくつかある。普通なら通るのになんで？というレベルだったため、学校名の影響かと思わざるを得なかった。また高校受験の際、教団高校への推薦を希望しているのを知っていた教員が、評定を2下げて、推薦に必要な条件が揃わず、推薦を受けられなかったということがあった。教団が嫌いとは知っていたが、ショックだった。社会科がずっと5だったのに、3になるのは考えられなかった。

●宗教のことを馬鹿にされたり、それを理由に避けられたことがあった。

●一部の行事に参加できないことを、クラスメイトの前で先生から罵倒され、晒し者のように扱われた。人格否定をされた

●軽い気持ちで信者であることを話して、いいリアクションが返ってきたことはなかったのでもいつからか話さなくなった。同じ頃から集まりにも参加しなくなった。

●職場の同期が私ではない同じ部署の信者の方に勧誘されて、怖い思いをしたと、同じ部署同期全員の前で聞かれてもいないのに突然話し出した。(仕事をする為に集まっていて、飲み会の場等でもない) その経験から同じ宗教の人間は全員嫌いだし、区別して対応すると言われた。(この同期は、事実の認識が苦手で、コミュニケーションがうまくいかない同期全員が前々から思っていた。そのため、)事実が怪しいと思った私は、

本人同士で解決するべき問題だし、本人がいない場で、本人をよく知らない人たちの前で、個人情報にもなるような宗教について話すべきではないと伝えた。かつ、私も同じ宗教と知っているのになぜそのことをここで言うのか聞いた。が、まともに会話できなかった。幸い同期全員(全員信者ではありません)が、私に対する対応は差別だし、よくないと擁護してくれたため、私はそれほど傷つかなかったが、自分は何もしていないのに敵意を向けられたのは衝撃でした。

●親がキリスト教と言うと、友達も、彼氏も全員引きます。外国人がキリスト教だとだれも引かないのに、とても理不尽です。そのため、友達にも隠しています。お付き合いした相手には早めにカミングアウトしますが、引かれなかった事は無いです

●宗教をしているせいで、校歌を歌えないなどの制限があり奇異な存在という目で見られていた。

●国旗掲揚や国歌斉唱ができず、白い目で見られた。騎馬戦に参加できず、疎外感を味わった。

小中といじめられた。

●母親か信者であることがクラスメイトに知れ渡り無視されるようになった

●同級生からバカにされました

●受験で不利な立場になった。

●嫌味を言われる。気持ち悪がられるなど。

●学校では参加できない行事が多かったので、居心地が悪かった。

**Q35 教団の教えや活動について疑問を抱いたり矛盾を感じたことがある方にうかがいます。そのきっかけは何ですか。可能な範囲で具体的に教えてください。無回答も可能です。**

- 活動してないけど2世のせいで友達が減った
- LGBTなど性には多様性があることを実際の事例を通して知ったこと。
- 支部長が降霊術を使った時。導き手が靈感があると自慢した時。
- 読んでいた児童書に「神はいない」と書かれていて、「そんな考え方があるのか!」と衝撃を受けた。その後、友人に宗教行事に参加している、という話を聞くことはなく、宗教の話はタブー視されていると気がついて、実家のほうがおかしいのではないかと気がついた。
- 努力できたのは全て宗教のおかげ。努力が足りないのは信仰深くないから、と頻りに言われる
- 2ちゃんねる
- 世間一般の常識と正反対だったことと、単純に儀式が辛いと思っていた。
- 他の仏教と違って今生きている人を敬っているところ、私の名前を他人である教団リーダー氏につけさせたこと、母親が支持政党応援しないのに教団に入信しているのはおかしいと発言した時。
- 支持政党の連立与党入りから少しずつ教義と自民党との政治手法のあいだに違和感を感じ始め、信者に対して『自民党のブレーキ役だから与党に居続けなければならぬ』という大義で主に私の母親達の年代の社会認知の低めの主婦達を丸め込み出した頃からとても嫌悪感が芽生え始めました。共産党を敵視し、私達の年代がインターネットなどで知る情報に対して教団側は『共産党がデマをばら撒いている』と刷り込み、私が母親を諭してもそれだけを繰り返していました。
- 信仰そのものに疑問を持ち、支持政党の政策にも疑問があった
- 集会やイベントでたびたび政治家(自民党議員)がスピーチしていて、政教分離の原則に抵触していると感じたから。勉強する中で、歴史的な脈に基づかない仏教の様式である事に気付いたから。「先祖の因縁」に全ての物事を結びつける姿勢に違和感を覚えたから。あらゆる音楽や本や映画に触れるなかで、それはあらゆる人の生き方や文化を軽視する価値観だと思ったから。
- 初めより信仰していないが家族のやる事の全てが明

らかにおかしいから

- 修学旅行のお土産で神社仏閣に関するものを買ってくと捨てられる、それによって両親が喧嘩する、幼少期に神社のお守りなどが含まれる写真を使った写真コラージュ作品を作った際、お守りの部分だけ剥がされる、神社仏閣に行ってはならないと何度も言われる、嫌だと言ってもとにかく教団の行事に強制的に連れて行く、試験を受けさせる、選挙で投票先は必ず指定される、共産党の悪口、デマを何度も教えられるなど、とにかく強引なやり方で信者としてのあり方を求められ、かなり幼い時期から何かがオカシイと蓄積されていき、ネットで検索して実態を調べるなどをし、確信に至る、というようなケースでした。
- 母が「他のすべての宗教は邪教」と言っているのを聞いてから。
- 小学校に上がったくらいから、いろんな制約が教団に所属しているからだと悟っていた。
- 教義がおかしいと思ったのは、中学生に上がって教団についてパソコンで調べたとき。
- 母親が入信していたが、全く幸せそうでなかった。
- 「ス」の神様がただの点にしか見えないから
- 自身の祝福結婚がうまくいなくなってきた時期。教祖一家の権力闘争が表面化した時。周囲の信者の悲惨な状況を聞いた時。二世信者の後輩が発狂してしまった時。
- インターネットであまりよく思われてない事を知ったから。元々信心は無かった。
- ギリシャ神話の本でも「邪教の本」と母に言われたこと。飲酒をして酔っていたとは言え、父から「教団のマインドコントロールは安全だ」などと言われたこと、他にも色々あります。
- 教団が分裂しはじめた頃から少しずつ、完全に心が離れるまで10年がかかった。
- 小学生の頃夏休みのラジオ体操の後、町内主催で近所のお寺に行く行事があったが宗派が違うからうちのお仏壇にだけ手を合わせていればいいんだと言われ参加するなと言われた。初詣で神社等に行くのも宗派が違うからという理由で禁止されていたことがある。見た目が可愛らしく私がねだって信者でない人を買ってもらったお守りを宗教が違う。御本尊だけを信じていればいいんだなどと言われて目の前で捨てられた。(コロナ禍前ですが)元旦の朝一番から信者を集め読経会をしていることなど幼少期からウチは他のおうちとは違うと気づき生きづらさがあった。
- 元旦の読経会などの集会で信者たちの話を聞くこと

があったが、本人の努力だとか運の問題だろうなという所謂成功体験を全て「ご祈念のおかげ」と言ってすり替えていることに恐怖を感じた。「勝利」という言葉をやたら多用することが不気味だと思った。

●金融機関に勤め始め、年1回家族一人一人の名前で最低でも1万円ずつ(多い人で10~50万、100万)を教団に振り込む人が身近に物凄い人数いることがわかってゾッとした。

●選挙の前になると支持政党に入れてくれと毎回言われていたのを子供の頃から違和感があったが学校で選挙について習ってからは本格的に不信感を抱くようになった。教団の信者は住んでいる地区ごとに班長的な信者が設定されており選挙の度にその班長的なおばさん2人組が知ったような口で話してくるのが気持ちが悪かった。

●母親が鞭を打たれ、好きなことも出来ず、宗教と自分の母親(祖母)を恨んでいた。そして私や弟にお金がかかるようになり、教団なんかやってたら生きていけないと言っていた。それから長老だった父親のみしばらく通い、やがて家族全員やめた。父親は聖書をしっかり読んだ結果、輸血がダメな理由として扱われている聖句の解釈がまちがっていることに気づいていたが、しばらく信者を続けていたそう。辞めてからはYouTubeで実態を知ってびっくりしていた。私はのんびり着いて行ってただけなので、緩く信じているくらい。だいたい信者の子は周りの人の目や親の圧力で洗礼を受けるが、私は洗礼を受けていない。脱会后、心理学の本を読んでびっくり。絡まった糸が解けるような感覚を味わった。マインドコントロールのノウハウが散りばめられていた。母と叔父夫婦(信者同士)はいまだに信者。

●見たこともない人を信じる集団が不気味でならなかった

●献金が一〇万円からだったこと。(一般的な寄附と比べて、高すぎると感じるようになった)

●親が信仰している宗教に対し、家庭内では実質、子の信教の自由が認められないこと。1990年頃に、日蓮正宗からの破門騒動があり、自身が教団に感じる違和感が何なのか知りたく、他宗教についても広く情報収集し学んだこと。

●組織内で指導的立場にある人は「神に選ばれた油注がれた者」と呼ばれ、統治体という指導組織を構成するのですが、結局「自称」でしかない所以说った者勝ちだということ。その人達の独自の聖書解釈で教義が作られるのですが、時々具体的な予言をして外します。

「神に導かれた靈感のある者なので予言ができる」という理屈なのですが、外れると「人間なので間違ふこともある」という言い訳をします。そのくせに他の宗教に対して完全に排他的、攻撃的です。自分たちの教義が唯一絶対であり、他の宗教(無神論を含む)は全て偽りだと教えています。

●教祖と幹部の逮捕、生活水準の低下

●どこまで頑張れば良いのか際限がないと感じた子供たちが不登校、鬱になってずっと我慢を強いてきたことがわかった。自分にとっては良い経験も押し付けになると思いました。

●忘れた。社会的な宗教団体が起こす事件をいくつも聞くうちに、自分の家の信仰について疑問を持った可能性が高い。

●前までは支持政党に入れることが当たり前だと思っていたが、最近ニュースを見るようになって、自分が支持する政党ではなく、支持政党に票を入れることや、知人等に票のお願いをすることを強要される事に違和感を感じている。

●別のキリスト教系の宗教からの勧誘を受けたこと。それをきっかけに宗教不信になったから。

●両親の結婚のきっかけを両親に聞いてもまともに答えてもらったことがなかったので、祖父母に聞いて、教会であることを知った。祖父母は結婚などに対して反対だったようで、大きな衝撃を受けた。子どものときから両親の合同結婚式の写真は目にしたことはあったが、お金がなかったからだと思い込んでいた。しかし、テレビでたまに取り上げられる教会のネタはいつも教会だけでなく信者に対しても批判的内容、非難する内容ばかりだった。ネットで調べても同様。教会の人から何か言われたことはあまりないが、むしろ家庭内、親族、メディアなどの冷たい空気によって、合同結婚式のあり方、意味について疑問をいだいた。

●海外留学中に自分の宗教について他人から質問を受け、改めて考えるとおかしいことに気づいた

●支持政党が与党になり、イラク戦争に賛成し、それを正当化したとき。

●教団はとにかく平和を第一にしていた印象だったが、右傾化する政権へベッタリの支持政党を指示していることへ矛盾を感じた。平和や戦争反対を第一に考えているのは敵対視していた日本共産党ではないかと思った。

●成功が自分の努力でなく、信心のおかげだとされた時に疑問を持ち始めた。

●もともと信じていない。親から信仰を強制されてい

た。

●夏休みに、全国から集まってくる研修会に参加したが、周りの熱狂ぶりについていけないと感じた。

●1/2 成人式のような招待状が届いたこと、それを見た父が激怒していたことです。

●幹部が献金を横領したり、家庭の大切さを唱えているのに教祖の家庭が離散している現状を見て理想と現実のギャップを感じた。

●インターネットで団体への批判的意見を見たこと。

●商業高校の情報処理科に入学してPCを買ってもらい、高校1年でインターネットを使い始めた(1996年頃なのでまだそこまでネットが一般に浸透していない時代)。そこで好きなアーティストのファンの人たち(当時20代~40代の大人たち)と交流するようになり、直接会って遊ぶようになった。信者以外の大人たちと交流するようになって、いろいろな価値観があることを知り、「世の人」から見れば、信者たちこそかなりおかしいのではないかと疑問に思うようになった。

●大学で宗教学の先生の講義を受けたのが大きなきっかけです。その講義は1学期かけてオウム真理教を取り上げる内容でしたが、自分が物心ついた時から入信している教団はどうなんだろう?と思いました。親に、信仰について否定的なことは言えないわけですが、こうして自分の信仰に対して「これは違うのでは?」と疑うことが許されない宗教って健全じゃないよね、と思ったのがきっかけの一つでした。また、支持政党に対する支持も同じです。親から支持政党への投票をお願いされたとき、一度断ったことがあります。「私には私が投票したいところに入れる権利があるでしょ?」と。すると「信じられない!」と怒られ、気まずい空気になりました。支持政党を否定する=信心が否定される=自分も否定されている、というような状況が違和感で仕方がなかったですし、自分はそうなりたくないと思いました。「財務でお金を振り込むことで、福運が上がる」という考え方を聞いて、違和感を覚えました。会合などで聞かされるスピーチは、文学や具体的な経験から成るものなので、理論が見えるのですが、「福運」という抽象的なものでは納得できないし、「信心は平等じゃないのか?お金の有無で信仰の効果が変わるのをおかしい」という疑問に対して、地域の信者からも、親からも、曖昧な返事しかされなかったのは、不信感がありました。このような違和感が生まれましたが、脱会には至っていません。親や兄弟との関係性に亀裂が入ることを危惧しているからです。たぶんこれからも脱会しないと思います。ゆるやかに、適度な

距離感で接する分には大してマイナスなこともないから、仕方なしに続いています。

●神は偶像崇拜を禁じているのにみんな聖書を偶像崇拜していると思った。聖書では神は悪魔より人間を多く殺しているし、黒人は悪い事をしたから黒人になったと言う。教会ではいつも女性が我慢を強いられていて、みんな性教育を受けていなくてとても危ない。オオカミがオオカミかとみんな言うけれど、教会の人たちがオオカミだと思った。

●教えと信者の言動が全くかけ離れたものである事を見聞き●体験した時

●結婚してすぐの真冬に教団新聞の配達をやることになった。少しして妊娠が判り配達は辞めさせてもらえたが、直後に流産。関係は無いかもしれないが、なんで新婚の、妊娠の可能性の高い私に、真冬に自転車で配達をさせたのか…もし、それが無ければ…と考えても仕方がない事を考えてしまう。そして信心は胎児を、私を、助けてくれなかった。落ち込んだ私の励ましには全くならなかった。その頃ニュースで北朝鮮拉致被害者の方々が帰国し、連日の報道を観ていて、あの方たちと自分を重ねて考えるようになり、教団もおかしい、と思った。それから段々と会合に出なくなった。

●教祖の自叙伝には、ハングルにはあらゆる音が出せるといった自国の言葉を褒め称える記述がありました。ところが、大学でハングルを勉強していた時に私の名前では当てる文字が無い事に気付きました。今まで目に見えない話は証明のしようがなかったけれど、こうして言っていた言葉に明確に矛盾が生じた時、初めて教祖の言う言葉が全て正しい訳では無い事が分かりました。

●祈れば助けてくれる、と教わっていたが、自分が本当に大変な時に誰も助けてくれなかったから。

●教団の教えよりも個人の自由を奪う親の信仰心があるたらす影響の方が大きい。どこの宗教もそうだと思うが、多くの宗教が他の宗教を邪教と言ったり悪魔と言ったり、それによる思想の違いで争い事が起こる世の中である事。教団なので、選挙時の応援のために親が私の知人友人にまでの声かけ。年末の財務?という名のお布施のようなもの。多額のお金を寄付してるのを知ったのは大人になってから。多く財務に貢献したらスゴイ!みたいな使命感やマウント取りのような感覚と徳を積むと勘違いしてる感覚に違和感しかない。

●中学くらいから子供時代は宗教と無縁で、自由恋愛で結婚した両親が、結婚●出産後に入信した宗教の教

理への盲従を強要することに矛盾を感じた。

- 思春期の失恋への無神経なアドバイス。
- お供えとして信者さんから月いくら集めるように上の教会？本部？からノルマを課せられているのを両親の会話で知った時。
- 他の子と同じように好きなアニメが見れない、祭りの行事に参加出来ない、誕生日も祝ってもらえない幼稚園の時から疑問だった。
- 非信者の友人との自由度の違い。可処分時間の差。
- 信者や職員、親への不信感が募り、インターネットで脱会者による批判を目を背けずに見ることができるようになってから
- 中学生の頃、好きなネットの活動者さんが不祥事(宗教などは一切関係ないもの)を起こして炎上していた時に、その活動者さんの YouTube の動画のコメントに「こいつ教団だから」と関係ないコメントがあったことがきっかけ。何故ここでそんなコメントがあるの？と疑問を持ち、ネットで調べると教団があまり良くないイメージを持たれていることを初めて知り、活動者を貶す意味でされたコメントだとそこで気づいた。
- 最初は教団高校に入学したことがきっかけでした。そこでは生徒や教員のほぼ全員が教団内部の人であり、そうした環境に外部(中学まで公立の学校教育)から入ったことにより、学校としても、同じ意識を共有する集団●組織としても、そこにいる自分に何か違和感を感じ始めました。ちなみに、大学も教団大に進学しました。あとは選挙です。どうも自分には、教団内部の人たちが、とても純粋ではあるにせよ盲目的に物事を信じて、その目的のために突き進もうとする人たちに見えて、その姿勢に疑問を持ち始めました。
- 牧師が性的マイノリティへ否定的な発言をしたこと。教会の運営に一部の信徒に負担がかかること。(献金以外の奉仕活動)
- 疑問は子どもの頃から常にありましたが、口にする親が劣化の如く怒ってくるので怖くて口にできませんでした。友人に相談することも全くできず、一人でモヤモヤと抱え込んでいました。明確に疑問が確信に変わったのは大学院での留学のタイミングです。親や教団から離れても何も悪いことが起こらないこと、仏教系のはずなのに留学先の現地の友人にその話をしたら教義がキリスト教にそっくりだと言われたこと、他人の心情を慮ることよりも正しいと思うことを発言するということをしてくれた友人のおかげで自分の疑念を口にすることができて、そこで自分の気持ちに気付きました。また、留学時に時間ができたおかげで、イ

ンターネットで教団について調べてみようと思ったことも大きかったです。ネット上には、疑問に思っていたことをより明確な言葉で整理したり、被害を訴えている人がいて、私の今までの経験を照らしても、被害者側の方がよっぽど感覚に近いことを言っていて、徐々に納得していきました。

- 神はいないと判断できる年齢になった
- 自由な時間が欲しかっただけ
- 文化人類学や宗教学などの本を読むようになり、宗教を客観的に見るようになった。また幼児洗礼でたまたま信者になったことに疑問をもつようになった。
- 以前の質問で書いたゲイの方を批判する発言が1番初めだと思います。その後も割と真面目に信仰をしていましたが、ここ2.3年、運営のやり方に疑問を持つようになりました。今も信者ではありますが、お御霊をつけることは減り、道場への参拝も月に一度の会費を払うときだけになりました。
- 教義が浅くて何度も同じことを繰り返しているだけで、読経のようなつまらないことを毎日やる必要がなぜあるのかと小学生の頃から思っていた。信者内では同調と見栄の張り合いと綺麗事しか言わず、家ではストレスで怒鳴り散らしている親の姿に違和感があり、宗教を信じる気になれなかった。
- 信心が足りないと不幸になる、と言われたこと。家族の中で一番まじめに信仰していた母が事故に遭ったこと。
- 教義が真逆に覆される時(多神教的だったのが一神教になったり、支持政党は政教分離違反と言っていたのに自分達も政界進出したり、離婚は悪魔の仕業的な感じだったのに、トップが泥沼の離婚劇を繰り返したり)
- 世間とのギャップ。お金をかけたりアイテムを購入するとバリア的なものが出来て幸福に暮らせるとの謳い文句だったが、そんな事もなく、寧ろ目に見えて生活と心が貧しくなっていた。
- 子供の頃から大規模集会に参加していて、中学生くらいになったら出演者が何をしゃべっているか大体わかるようになってきて、全員興奮してるけどあんま中身のあること言っていないな思い始めた。2歳上の姉とも同様の話をして意見が強化された。また、自宅で開催される地区集会に参加すると、みんなこんな不幸があったが信心で改善したと繰り返すが、そもそも信仰してるのにそんなしょっちゅう不幸(自身や家族の事故や病気)が起こるのどうなの？と思い始めた。また、祖父の信仰の影響で父もその兄妹たちも信心していた

が、泥沼の裁判沙汰になるような揉め方をしていて全員同じ宗教信心してんじゃないの？なのにこんな揉めて大人としても信仰者としても恥ずかしくないの？と思い始めた。"

●入信していた母親が家事をなおざりにしていた

●ハルマゲドンが来て信仰心が無い人は滅び、信仰心のある自分たちは死から生き返り、楽園で永遠に生きるようになると言われていた。結局は自分が助かりたいがための活動のくせに、さも人のためのような善人面で布教活動に勤しむ周囲の人間を子どもながらに矛盾していると感じていた。

●ネットの書き込み、友人の話

●新聞の複数購読、寄附金集め、強引な宗教勧誘

●わたしの家族は母方の家系が熱心な信者で、幼い頃から祈れば叶う幸せになれるというようなことを言われ続けていた。幼い頃はわたしも母や祖母祖父と一緒に手を合わせていました。でも小学校2年生の時に、大黒柱だった祖父が働けなくなり、今まで住んでいた家に住めなくなったことで、一家離散。それを気に病んで祖母が自殺。母は不倫に走り無茶苦茶な小学校～高校時代を過ごしました。その間もずっと祈れば大丈夫幸せになれると言ってくる周囲に疑問を感じました。

●明らかに受診が必要な人間に対しても信仰で良くなると周囲が言っていた時

●自分達のしている事が世の中を正していると周囲が同調して自分達の行動を正当化している時

●家にひろさちやさんの仏教コミックスがありその中で読んだ本来の仏教と教団内の教義がかけ離れていたため。

●幸せになる宗教なのに、一族誰も幸せそうにしている人がいない、ということに、気付いたのが、小学校中学年頃

●お守りの購入や会費など、それぞれは高額ではなかったが、その分たくさん購入したり、支払う機会が多かったりして、年間にすると結構な額になっていたと思う。熱心な祖母達は、生活の中心が教団の活動や教えになっていたため、私や他の身内と会話が噛み合わなかったり共感できなかつたりすることが増え、変に思うようになった。集会に行くのに必死になっていたり、競うように教団にお金を使っていたので、それも理解できなかった。

●社会に出て、イスラム教など異なる宗教の人と仕事やプライベートで接するようになったとき、「日本のキリスト教の一部はやり方が古く、学校のように強制的、画一的なところがあるな」と気づいた。

●大学で宗教を学んでいた人との会話

●会長や教団のことをネットで見て

●インターネットでの教義の矛盾についての情報。

●近いうちに来るはずのハルマゲドンが全く来ませんでした

●自分の事情を知りもしないおばさんがあしろうしろと命令してくるのが嫌だった。上の人が言ったことに盲目的に従うのも変だと思った。

●幸せになるよ、というのにうちの家族は幸せじゃないし、他の信者みても、お金持ってなさそうなのばかりだったから。そもそもまともにはなしが通じないから、親に不信感を抱いた

●前の項目で回答しました。当時の恋人に否定されてからです。

●友人に布教を強要された時

●婚前交渉がダメなやつだから

●どんな事があっても集まりに参加する事は信者にとって絶対不可欠であるという教理だったのに、コロナ禍になって物理的に集まる必要がないと教団側から言われた時に矛盾してると感じた。

●家族や友人よりも信仰を第一とする教団幹部の考え方、家族を犠牲にしてでも、貧乏な思いをしてでも、教団のために行う行為こそが尊いといった考え方を浴び続け、明らかにおかしいと感じたのがきっかけです。※教団による強要ではないが、信者や幹部全体にそういった価値観が共有されているため、自発的な行為として教団第一の行動●思考原理が徹底されている。集会での敵勢力に対して「地獄に落ちろ」等の発言、他の価値観の否定、他宗教を邪教として排除する一方、マザー●テレサやキング牧師等、他宗教を信仰している人々の偉業は布教や教えのためのエピソードに利用する態度に気持ち悪さを感じていました。平和を語っている一方、女性差別的●家父長制を温存し、他宗教●他の価値観を徹底して排除しているところにも疑問しかありませんでした。

●テスト勉強やコミュニケーション能力を学んだと言った人が、「これはすべて神様のおかげ」と言った瞬間。すべて本人の努力なのに、おかしいと思った。「神様がいるという心の支えがあったから頑張れた」という理由なら納得出来たが、そうではなかったから。

●子供は親から無償の愛を受けて育つ権利があるはずなのに、神ありき教団ありきの生活、子供や未信者の配偶者はそれらよりも優先順位が下であるよう教える組織にうんざりしたのがきっかけです。輸血拒否の教えには恐怖すら覚えました。また若いうちの結婚が非

とされていたのに、教団の上の人達(長老や僕(しもべ)、開拓奉仕者の本人家族)は次々と結婚していったのを見て違和感がありました。そういった人達が裏で隠れて異性交友をしているのを知った時、大した事のない人間の集まりと感じ、人生を大切に過ごしたいと思い脱会を決めました。

●言っていることとやっていることが矛盾していると感じたとき。自分の努力をすべて信心の深さのせいとされることに嫌気がさしたとき。

●母親が夜遅くまで家に帰って来なかった事。母親が信仰で近所の人(自分の友達の母親)を巻き込んだ事。父親の自死(自分が小学6年生)。

●自身の依存先の選択肢が増えてきた中で、宗教に対する重みが薄れてきた。

●中学生の頃、集会で教団トップを地元へ招待するために一日に何時間も読経(経を唱える)したことを自慢する女性が沢山いたこと。進行を世界に広める人物に対して何故邪魔をするのか疑問だったが、質問しても誰も答えなかった。完全に決別したのは大金が捨てられていた事件で捨てたのが教団だったこと。信者から集めた金を捨てたことに腹が立った。

●幼い頃に感じた最大の疑問は「誕生日をお祝いしてはいけない」というルールです。その宗教での理由は忘れました。が、0歳~中学生までの間、自分の誕生日ケーキをちゃんと用意してもらったことがありません。クリスマスもNGです。サンタをそもそも信じさせてもらった事はありません。周りのクラスメイトが「楽しみ!」と言ってる行事は全部やらない。してはいけない。という所が、子供なので納得いきませんでした。(どうして自分だけ楽しい思いをしてはいけないのか。)信者ではない父親に「ケーキ買ってほしい」とこっそり言っていました。

●1975年に世界が滅びると言っていたのに滅びなかった。そのことについて教団は、信者が勝手に1975年だと言っていたのであって正式な通達ではなかった、という言い訳をしていた。出版物に記された、教団の教えを支持するとされている科学的●歴史的な事実が、でたらめな解釈だった。

●他教批判、悪口が凄く人間的成長とは真逆だと感じた。分断が目的だと感じた。祈れば上手くいくという事が上手く行かなかった。根拠のない目に見えない部分を自分に都合の良い様に解釈している様に思った。

●「マルチ商法」注意喚起のニュース番組を見て、親が始めた仕事に似ていると感じた。成人したい大人が、泣いて団体の教えを読み上げ、

感謝の意を大声で集団で毎回言っていて、バカじゃないか?と最初から思っていた。もともと、法事や神社仏閣参拝も全て大嫌いだったので、宗教にのめり込まずに済んだのは私の性格の悪さが役に立ったと断言できる。

"幸せになるためにしている信仰だというのに母の顔はいつも怒りに満ちていた。仏教としての考え方は理解できるが組織としての在り方、生まれたその瞬間から信者になっている事に人権侵害だと思っていた。

●姉は信仰心があり、素直で可愛がられていた事、比較して私は母にとって都合よくなかった事がきっかけだと追う。

●初めて教団に疑問を感じたのは、高校2年生の頃だったように思う。その頃の私は、高校が終わるとバイトに遊びにとほぼ家に帰らない生活を送っており、そのことについて、女子部のお姉さんから「教団リーダーが心配するよ」と言われたのがきっかけだったように思う。教団は縦割りでの担当制があり、特に中等部

●高等部の時は、活動に連れて行ったり何かと気にかけてくれる女子部のお姉さん(男子の場合はお兄さん)が存在する。その人から「教団リーダーは〇〇と仰っているよ」「教団リーダーもいつも〇〇(私)ちゃんのことを気にかけてくれているよ」と言われ、当時家庭の経済的不安で悩んでいた私は、教団トップが一体私たちに具体的に何をしてくれるんだよ、という気持ちになった。また、高等部単位の大きな会合に選ばれて出席する際は、「教団リーダーが見ても心配しないような格好で」との服装規程が伝えられ、教団の中での絶対的存在としての教団トップに不信感が芽生え始めた。この、「教団リーダーがみても大丈夫な格好」というのは、教団トップを心配させないために、という信者の配慮で、これは大きな会合になると全体に共通してある認識だったように思う。

●高校の倫理や哲学の授業を受けて、キリスト教系の学校だったのですが、キリスト教の教えを一度取り扱わないと倫理や哲学の命題に答えられないなと思いました。

●社会の授業で信仰の自由について習った時。自分は全く自由でないと感じたし、やはりおかしいのだと思った。選挙の投票を強要されるのに、誰も理由や政策について学んだり語らない。ただ、組織が推しているからというだけで投票するし人に勧めていたこと。

●オウム真理教の事件でこういったことに関わってはいけないのだと子供ながらに感じたから。女性が教祖をされていて真言宗を謳っているのにおかしいと感じ



た。参拝する場所が東京立川なのが理解できない。そもその成り立ち方が真言宗のはずなのにおかしい。

●小6の秋、一番大きな行事に参加した。いつも遠方まで連れて行かれていたが、それまで信仰を疑ったり、連れ回されて子供部屋に放置されることの辛さを自覚したりはできていなかった。しかし帰り、講堂に一礼するように親から促されて大きな建物を見上げたとき、薄曇りの隙間から見える夕空がとてもきれいで、それを見ているとなぜかさっきまでの宗教活動が嘘のように感じられた。「あのちっぽけな講堂の中で世界の真実のように話されていることに、本当に意味があるのだろうか?」と思ったのかもしれない。そのときは言葉にできない違和感だったが、徐々に親に向かってはつきり反抗するようになった。

●強制されていただけでそもそも最初から信じていない

●団体が日本会議の関係団体のひとつであり、学校の道徳教育などに影響を及ぼしていることを知ったこと。幹部が日本会議の代表委員に就任している。右派論客が顧問に就任している。母体となっている学者が看過できない主義主張を行っている。発達障害やLGBTに対する認識、親学、憲法など。関係者が別宗教の関係者と「家庭教育を支援する会」を組織し、家庭教育支援条例の制定を目指す活動を行なっている。団体の説く道徳が特定の家族構成や交友関係の枠内でしか通用しないように思われ、普遍性がないのではないかと疑問が生まれた。

●元々が宗教に関心が私自身があまりなかったので最初から深くは考えてなかったのが宗教の行事に参加をする事自体がずーと嫌だった。

●倫理観を自分で構築するものという認識になったため

●毎晩のように狭い自宅を集会に提供し子供の居場所がなかったこと。父親は結核患者だったが、病身をおして教団活動に飛び回り、寿命縮めたこと。

●学校の勉強（歴史、科学）

●裏切ったとされる人への攻撃心。言ってることとやることが違うように思えた。宗教の中心者に対する盲信。学生の作文による新聞啓蒙→勧誘成功を美談とする学校の教師。

●両親とも2世ですがどちらもそこまで真剣ではなかった。とくに父は信心してなかった。家で取ってた新聞は教団新聞のみだったが、普通の新聞と違って教団の関連ニュースばかりが一面に乗っていて小学校高学年くらいにはなんか変だなと思うようになった。私自

身、小さい時から短いお経を朝は読むのがルーティンだったがそれをしなくても同じじゃないかと、(読経しないと無事に一日過ごせないんじゃないかと思ってたが)父から高校生のときに言われてそれもそうだと思い、完全に信心をやめた。母は信心してるから、私が辞めたことに対して否定的ではあったが無理強いはしてこなかった。母のこともあって初めはやめることに後ろめたかったが、晴れ晴れした。

●元々私には宗教は必要ないと子どもの頃から感じていた。

●教会の教え（ビデオ）あり得ないことばかり言っていたので、最初で反感を持った。

●教理の矛盾。親の態度。教会トップの人間的違和感。信者たちの独善的世界観がもたらす嘘に気がついた。一般社会の情報から学んだ事で、教団の述べる文書の嘘に気がついた。

●教団新聞の事を知ってる人がいないし、どうやら夜の会合みたいなものにもみんな行っていないよとか、なぜ漫画やドラマのように神社にお参りしてはいけないんだろなどと疑問には思っていたのですが、たしか週刊誌か何かでたまたま教団の記事があって、世間一般的には変な宗教なのかと認識したように思います。

●物心ついた時から、親に「あなたは生まれながらの信者。これは素晴らしいこと。あなたが信者になれたのはお母さんが信者として頑張ってきたから」と言われ続けて育ってきた。未就学児の頃、クリスマスや誕生日などのプレゼントがもらえる行事で親に「読経を頑張ったらご本尊様が好きなものをプレゼントしてくれる。だから読経を頑張らなさい!」と言われたので、頑張って毎日読経を頑張ったが、自分がほしいと思っていたものではないものをプレゼントされ、そこからおかしいと思うようになった。小学校に上がって中学年くらいになると、教団のことを「気持ち悪い」や「親があまり関わるな」と言っていた」という同級生があらわれ、次第に自分もなんだか気持ち悪いと思うようになった。未就学児の頃から、テレビや映画に影響されて、私がクリスチャンに憧れる気持ちを親に伝えると、「イエスキリストを十字架に晒したまま放置して現代まで残すカトリックは頭がおかしい」と何度も何度も言ってきた。カトリックの文化を否定する割にはクリスマスは家で普通に行われていた。未就学児の頃から、初詣で神社に行くことが実家ではなく、新年読経会にいつも連れていかれるのだが、私が神社や寺などの建造物が好きで、親に頼んで一緒にお参りに行くこともあった。しかし、親がお参りするときに読経

を唱えなさいと強制されていた。それと、知人の葬式の時も宗派が違うが、自分達のお経を唱えなさいと言われ、成人してから葬儀に親と出席すると必ず教団の数珠を無理やり渡された。「神社やお寺に失礼だし、お葬式でも自分たちの信仰を無理やり通すのは非常識なのでは？」と違和感を覚えた。また、亡くなった知り合いが信者でその家族は入信していない方の葬儀に参列したときに、受付で御香典を受け取っているのを見て、母が激怒しながら信者の葬儀では御香典は受け取らないと終始怒りをあらわにしていた。信者の集まりでも、やたら周りの大人が「すばらしい！お母さんや私たちがあなたのために祈りしているから、あなたは素晴らしい！」みたいなことを言うので、「わたしってなんなんだろ？」と疑問を抱く機会が増えてきて、何かを努力して成功するたびに教団や親の手柄にされるので、情緒不安定になり、2世であることは理不尽で生きづらいと思うようになりはじめた。「信者であるのをやめたい、生まれた時から勝手に信者だったのは自分が望んだことではない」と親や信者にいうと、激怒され、「罰当たり！や何もわかっていない、抜けたら後で後悔するし不幸が訪れる」「死んでも許さない」と脅されて、今でも脱会できていない。

●小学生の時に親が離婚したことが決定的な理由です。祈れば叶うと言われ南無妙法蓮華経を唱えさせられてきましたが、どれだけ祈っても願いは通じないんだ、とはっきり理解して完全に冷めました。

●世界平和を目指しながら、支持政党が差別を温存どころか推進し、人権無視の自民党と手を組み続け、教団でも、人権のことについてまともに学んだ記憶がない。大阪では、脅されたとはいえ議席のために維新と組み、大阪都構想反対から賛成に主張を変えたことも許せなかった。母親は同性愛差別的なことを口にしていたし、教団でも、大きな括りで差別はだめぐらいのことは言っている、具体的にジェンダーの話はしていなかったと思う。

●楽園の希望なんて嘘だろと思った

●違和感と気持ち悪さ。

●答えのない疑問があると「今はそれが明らかにされる時期ではない」とごまかされるので、全能の神ならそれはおかしいと思っていた。

●全身に広がるアトピー性皮膚炎を手かざして治すと言われたがまったく治らず、苦しい思いをした。薬が欲しいと言うと、薬がいかに悪いかを母から説教された。ただ、母は宗教以外にも多種多様なスピリチュアルに傾倒しており、原因がどこにあるのかは判然とし

ない。

●読経して幸せになれるならうちの家族が苦勞しているのはなぜ？神社を否定する理由は？なぜキリスト教は邪宗なのか？なぜ社会から批判されるのか？悪いことをしてないなら批判されないはずだが。

●個々の家庭の事情●体力●活動に割り振れる時間はことなるのに、そのようなことを考慮しない幹部から、教団の活動に参加するよう何度も言われたので。

●宗教を理由に七五三やクリスマスなどの行事をさせてもらえなかったが、自分から楽しみを奪う宗教を信仰する気になれなかった。

●信仰しても、別に幸せではないから

●専門学校でマルチ、カルトの注意喚起があった

●数年後に来る時言われていた終末は訪れず、教義の変更があった。最初から神の存在というものが理解できなかった。

●病院になるべく行かない、薬をなるべく使わないという教えがあるので、実家にいる間は殆ど病院に行かなかったし、生理痛が辛い時に痛み止め薬を隠れてしか飲めないのが辛かったこと。実家を離れてからは普通に婦人科に通院しているが、親には言っていない。政策等を考慮せずに宗教法人が母体の政党を応援していたところ。

●信者である親が親戚から煙たがられていた為。

●唯一神に選ばれたクリスチャン愛溢れる真の組織と解いている割には、内部で信者同士のトラブル、妬みや僻み、嫉妬が多すぎる。

●周りが楽しんでいことに、いつも参加できないうずと感じてきたが、大学進学期を前に、このままで一生抜け出せない思った。

●中学生の頃、他の家と違って自分の意思とは別に信仰関係の予定がきまっていることに気付き、嫌だと言っているのに聞き入れてもらえない時におかしいと思った。

●教団の支持母体政党の支持政党が自民党と連立を組んだ頃。この団体に所属していると選挙活動を拒否する事ができない。教団の組織が自公へ投票を信者にさせている。教団の集会で支持政党の選挙のパンフレットを渡され、何人に選挙依頼ができたか発表させられる。

●親や同居している他の信者たちがいつもつらそうだった。私自身もさまざまなことを強要され、いつも苦しい気持ちだった。多くの人に犠牲を強いる方法で地上天国なんて本当にできるのかと疑問を持った。また「心情の蹂躪」が大きな罪の一つと言われる一方で、

人を傷つけることがたくさんあり矛盾していると思った。自分の本心は「墮落性」と言われて否定されたが、その一方で教祖や教祖の家族たちは好き勝手に贅沢な暮らしをしていて、なんなんだこれかと怒りがあつた。

●集会参加の強要

●親がけんかばかりしていて宗教は幸せになるためにやってるはずなのになぜだろうと思ったから。

●最も根幹である教義をどうしても共感できなかった。

●教団から教えられる事を、大人の信者たちがただただ鵜呑みにして、それを疑うことも禁じられていた。

●母親のとてつ真面目とは言えない家庭での生活は、本当の宗教なら神や教団の責任者から見透かされるはずと思っていたがそうはならなかった。

●最終的に教団だけが救われ生き残る世界になる教えですが、神様の事を知らなかった人も復活できるに変更されました。そうすると「知らなければ助かる」のに布教を続けます。自分達が滅ぼされない為に。隣人愛もなければ矛盾だらけです

●みんな、仲間の悪口ばかり言ってる

●父親の反対も激しく、姉との仲も悪く学校ではいじめられ、とてもつらい時期に神に祈っても何も変わらず、神は愛してくださるとかキリストの犠牲のおかげで救われていると言われても全く意味が分からなかった。早く死にたかったので永遠の命が魅力ではなかった。

疑問は抱いておらず、宗教内の教えの“信者は楽園で永遠に生きる”という教理に耐えられず辞めた

●中学生の頃にインターネットで教会について検索したら多くの被害者がいることを知った

●家が極貧だったのに煌びやかな衣装を見に纏った教祖家族を見た時や、いつも信者に怒鳴ったり口には含んだ水をかけている教祖を画面越しに見て嫌悪感を持ったから。

●自身を成長させる為の信仰なのに不躰な物言いや我儘をぶつけてくる人が多々いた。選挙応援で土下座をさせられた（強制ではないが、する雰囲気しかなかった）。支持政党の姿勢に疑問を感じて問い合わせても返答がなかった。教義の基本である御書（聖書的な物）の内容と活動している人たちのズレに違和感を感じた。

●お寺や神社の子供は業が深いと言われたこと。それなのに、世界平和を掲げているところ。宗教差別をする団体がどうして平和に貢献できるでしょうか。

●勧誘と呼ばれる取り組み。沢山の人を教団に入れる

と、功德が得られるそうです。

●支持政党の票の集める選挙活動。

●私が入れないと告げると親から怒鳴られる。”

●まったくの信者というよりは信者でありかつ運営側の家に生まれました。信者を受け入れる側の宗教関係者は皆さん裏ではずさんで見えました。情けは人の為ならずとは言うけど、信者さんたちに尽くし疲弊している姿は人生の搾取だと感じてしまいました。

●集会や読経会での異様な雰囲気違和感を覚えたり、神社に立ち入ることを禁じられていて年明けの初詣に友だちと行くのを止められた時。

●信仰心が元からありませんでした。とはいえ神社への抵抗感などは今でもあります。支持政党がイラク戦争に加担したときから2世の母と私と姉は完全に心が離れたと思います。

●自分自身が積極的に信仰していたわけではなく、家族内行事の一環として行事に参加させられていた。小学校高学年になり、ある程度自身の判断で自由に行動できるようになったころから行事等に参加しなくなった。

●普通に無駄な時間だと思った。あとはフェミニズムを学び、男を立てるとか嫌だと思った。自分の人生を生きたいと思った。

●歴史の教科書との矛盾

●貞操観念をもとに結婚した人と離婚したいと思った時

●学校は宗教に配慮してくれた。

●お願いして叶うわけない。他力本願。事あるごとに題目あげたらいいからそれで守られるからと言われ続けてた、家を出てからなんか冷めた、改めて聞くとおかしいなと思った。

●5歳。保育園に通うようになり、食事の前にお祈りができないことに気づき、自分の家庭が異常だと気付いた

●生理痛が全く改善しないどころか、悪化の一途をたどっていったこと

●参加を強制される集まりがあまりにも多く、勉強や趣味などの私生活をかなり犠牲にしなければならないことに、身体的●精神的に疲弊したことがきっかけです。

●科学的知識が増えるに従い違和感を持つようになりました。

●母親から「あれは間違っている」と言われたから

●インターネットや本等で教団について知ったこと

●支持政党への支援。教団トップが表舞台に出なくなり、今の身体の状態や安否に関しても分からない事を

誰も疑問に思わない（表立って発言しない）

- 周りが自由に恋愛していて羨ましく思った時。
- 自分が成長したことが大きな理由です。
- 他人の悪口ばかり言ってるから。ちょうど他の宗教と揉めている時期だったから。
- 「排斥」という村八分システムへの嫌悪感。選民思想が強く嫌悪感。
- 人格否定をされるような発言をされた時。勘違いされたくないのですが、ただその1人にしか言われたことはありません。
- 会長が書かれた、自分を主人公にした小説の中で、その主人公が人格者であると何度も強調されていて、「どうして自分のことをこんなに良く書けるんだろう？」と感じた。
- 神様をお願いしても、学校での嫌なことが終わらなかったから
- 限りなく黒に近い戸別訪問まがいの選挙活動
- 支持政党の支持に不信感 内部の人間に尊敬できる人がいない 個人の考えは無視される
- 牧師が決めた高校の受験に失敗した。牧師の言葉は全て絶対正しいと教えられていたので受験に失敗した理由を考え続けるうち、突然「神はいないのではないか？」と思いつき、「これまで先生と母に教えられてきたことは全て嘘ではないか」という目で周囲を見た瞬間、これまでおかしいと思っていた世の中の辻褄のすべてがピタリとあった。
- 教義について訊ねても、親も信者も具体的な回答が無く「信者に産まれたのだから」ばかりで理屈がなくて信じようが無かった。信者はみな教義についてあまりにも無知。
- 選挙活動
- 大学での民俗学の講義が「基督教の布教で失われた土着の信仰は数しれない」という話から始まってショックを受け、地域の生活から生まれた信仰を持つ方が人間にとって自然なのでは無いかと考えたこと
- 父親や同世代の幹部の方々が親子関係と男女交際について聖書の記述を都合の良いように利用しており、基督教自体が正しいとしても、この集会は正しいといえないのではと考えたこと
- 教団がかつて「仏敵」と罵った自民党と支持政党が連立を組んだこと。そしてイラク戦争に党も多くの信者も賛成したこと。
- 中等部のころ、世話役的な女子部の大人に、学校の友人との先約を理由に教団の集まりの欠席を伝えた所、「友人と教団のどちらが大事なんだ？」と叱られたこ

と。また、脱会したり活動的でない信者のことを、他の信者たちが寄ってたかって『だから不幸になる。ばちがあたる。』とまるで不幸を喜んでるように陰口を叩いてるのを見聞きして。

- 10歳の時に親友が亡くなった。泣いている私を母親は「なんで泣いてるんだ、復活を信じてないのか」と責めた。人間として根本的な何かが狂ってると思った。
- 父の病気が、私自身のせいにされ、また、良くなるには、行かなくなった教会へお祈りにくるように言われた時。それが、夜中の2時まで話をされ、次の日仕事があるにも関わらず、『お祈りします』と返事をさせられた。
- こんな呪文を唱えて何になるんだろうと思った
- 小学校高学年ぐらいから、基督教が何でも正しいのだったら、どうしてアメリカは奴隷制度があったのかとか、基督教の国が戦争をするのはなぜか？とか、基督教と出会わないまま死んだ人は天国に行けないのか？とか疑問を持ち始めました。中学生になって大人の礼拝に出るようになり、自分がここに出続ける理由は単に「親を安心させるため」じゃないかと思い、行かなくなりました。教会に出入りする人の中で、噂話をしたり、尊敬できない人がいたことも原因だった気はします。
- あまりにも制約が多すぎて生きづらいつ感じ、神様は人間のために想っていると教えられたのとは違うと感じた。
- 教団に関するメディアなどの否定的な論調を知った時。電話や訪問による選挙活動など。
- 友人の家に遊びに行くたびに、「神様に選ばれた正しい」はずのうちの両親よりも、よその「神様に選ばれなかった」親たちの方が「成熟した大人」だということ思い知らされて。
- 母が過労で倒れた時。教団の活動に忙しすぎたと感じた。
- こんなに良い教えだというのに、元々の信者である父(母は結婚時に入信)の性格や行動が破綻していて、それも祈って自分が変わらなきゃいけない、などと言われこの宗教自体に疑問を持ちました。
- トランスジェンダーに対する差別、聖書の過剰な解釈による、命の重さ、現代科学と聖書の矛盾、情報規制、聖書の研究者を名乗っているのに、実際は与えられた書物を暗記しているだけ、研究ではなく勉強。
- いろんなことで苦しんでいる人々を救うとは言うものの、当時からすでに二世信者が多く、クスリや異性

の経験が全く無い信者がどうやってそのような悩みを抱える人々にアドバイスできるのかが疑問だった。

●友人を信仰活動に誘うよう勧められて、それに応じて友人を勧誘したこと

●形骸化した教団の集まりに何の意味があるかわからなくなった、題目を信者は重んじるが、その重要性がわからなくなった

●小学校での生活と、家庭や教団での生活に乖離があるため

●たまに社会人としてのモラルから見るとグレーな行為(大して親しくもない人への勧誘など)の話で「勇気を出して頑張った」と褒められる事があったり(組織として推奨はしていません)するとモヤモヤします。そもそもという経緯で入会しても続かない場合が多いので、、

●小学校六年生で慣習として洗礼を受ける決まりになっていたことに疑問をもちました。牧師に意を唱えることが不道徳だと言われたこと。受洗拒否したが認めてもらえず、逃げました。

●大学受験の際に、人生の過ごし方について過剰に干渉された時。

●小学生くらいまでは真面目に信じようとしていましたが、言語化できない違和感がありました。合わない靴を無理やり履かされている感じと言いますか。いま言葉にするとしたら、「投げかけられる言葉は私向きじゃないような気がするけど、みんなが感動しているから私も感動できるようにならなきゃ」と思いながらの信心でした。はっきり疑問を抱いたのは中高生の頃です。私がネットに興味を持ったその頃は匿名掲示板「2ちゃんねる」が全盛期で、教団へのバッシングも熾烈を極めていました。その頃教団はネットに書かれていることは全部嘘だと言っていました。もちろん、バッシングの中には当時の私から見ても真面目に取り合うに値しないものもありましたが、「強引な勧誘で困った」、「家族がお布施で大金を出すよう強制された」など、全部嘘と片付けていいものなのか迷うものもありました。外の世界にはこれだけ憎まれているんだという衝撃と、バッシングの内容ひとつひとつに丁寧な説明をせず全部嘘と片付ける教団の姿勢に疑問を持ったのがきっかけです。全部嘘と言われて安心する信者の方も多くいらっしゃるのですが、私は丁寧な説明をもらって安心したかったのに叶えてくれなかった。これが私の不信感を深く支えている感情だと思います。

●同世代の二世信者の男の子と女である私とで与えられる課題のようなものが違う事に腹を立てたのがき

かけ。小さい頃から『女なんだから〇〇しろ』のような発言に嫌悪感があったので、小学校三年生くらいの頃には教団の教えに疑問があった。

●20歳を過ぎた時、教祖が病気で何ヶ月か集会も無くなり教祖に会わない時期があり、その時ふと、自分はこの生き方でいいのだろうか?と思うようになった。

●大学で出会った友人から推薦された本を読み、反共の解釈が変わった。

●政党支援

●20年前、母が亡くなったとき、教団の幹部が病院にすぐにきて、教団系の葬儀屋を使って欲しいと営業にきた。人の死を聞きつけやってきた。もちろん追い返した。後日、教団の恥だと思い本部にメールを送ったが無反応。でもその後その幹部を会合で見なくなった。

●疑問を話し合う事もできないと感ずることがある

●自分の意思が、教団の意志になっている人が多いように感じ、違和感を感じました。また、自分よりも他人を救うことを目指す教義だったかと思うのですが(それ自体間違ってるとは思いません)、信者からエピソードを聞いたたびに、「それは自分の心からの気持ちで人助けをしたのか?教団がそう言ってるから人助けしたのか?」とモヤモヤと考えるようになったのがきっかけだったように思います。また人助けのひとつとして「お助け(勧誘)」が推奨されますが、自分の価値観を他人に強要することへ残酷さを感じたことも理由です。●きっかけは父の死後、不信心を責められたこと。またどこに引っ越しをしても、地域の信者から連絡が来て怖いと感じた。選挙の時だけ連絡してくる親戚にも不快感があった。

●正確に言えば、もともと習慣的に祈ったりしていただけで、信仰を持ったことはありません。ただ、大学に進学し親元を離れたときに、祈る行為もやめてみようと思った記憶があります。

●末信者父にモラハラをする信者母

●神社や寺に行くな、おみくじを引くなと言われた時

●支持政党が与党になり、以前の主張と逆のことを進めたにもかかわらず、信者の多くが支持を続けているのを見たとき。いわゆる「仏敵」を口汚く罵っているのを見たとき、「空の概念は量子論に通じるものがある。2000年以上かけて教義に科学が追いついてきた」などという世迷言を教団幹部が得意げに言っているのを見たとき。

●勧誘(外部の人間を勧誘すること)が歓迎されていたが、信仰が必要のない人もいると思っていただけ、無理に頑張る勧誘することはないと感じました。ま

た、外部の方からの冷静な指摘などによって、教団のあり方に対して疑問を持つこともありました。

本能的なもの？先述の通りものごころついた頃から「お題目あげたら助けてもらえる？んなわけないじゃん」みたいな気持ちがあり、特にきっかけもなく、一貫して信仰はおかしなものだと捉えています。私もこの点は不思議で（両親に洗脳されていても普通の気がする）、単純に「現実的な子供だったから」としか言えません。

●最初に違和感を感じたのは小学生時代で、自分達は良い事をしているはずなのに、周囲には活動している事を隠さなければいけない事に疑問を感じていました。また、自分は自由恋愛を禁止されているのに周囲は自由に恋愛している事に対する不満もあったと思います。中学生になり、教本の本格的な勉強が始まった頃、どう考えても神が存在する事前提で話が進んでいるのに、神の存在を証明している記載がどこにもなかったため、色々な大人に聞き回りましたが、結局誰も答えられなかったため、そのタイミングでようやく疑問が確信に変わりました。

●大学入学頃から信仰心と団体の改善すべき点が見えてきて、内定●就職してから矛盾を強く感じてしまい、精神疾患で退職しました。

●子供の頃に皆と違うということに違和感を感じた。それから会合にはほとんど出ていなかったが社会人になり少しずつ参加。結婚をして婦人部になった時、その集団の活動や言動がかなり違和感しかなく、コロナでそれが決定的となった。コロナにより考える時間が増えたこと、いろんな情報に触れたこと、政治視点が支持政党からの視点しかないことに気づいたこと、等々。

●教団そのものには疑問はなかったが、個別の教会に対しては、牧師の言動や、教会運営のやり方がおかしいと思うようになった（30代になってから）

●物事の考え方や世界観などの教えの内容自体は、「道徳的にそうだね」ということを言っているな、という印象で、特に違和感はありませんでした。ただ、「読経を唱えればすべてうまくいく」という主旨の教えは、「要するに内省と気の持ちようってこと？ だったら必ずしも読経である必要はなく、家族であっても他人に強いものではないのでは？」と感じていました。また、私は生まれながらの信者ではなく、私が中学生のときに母親が入信し、娘の私への教団からの勧誘が始まりました。同じクラスや部活動だった友達のなかに、何人か2世信者がいました。母が入信してすぐの

頃に集会で会ったこともあり、その子たちも家族ぐるみで信者であることは知っていました。ただ、普段の学校生活やプライベートで遊ぶとき、そのことが話題になることはなく、安心して遊んでいました。あるとき、その子たちに「休日に遊ぼう」と誘われて行ってみると、地域の支部長？のような人の家に連れて行かれ、芸能人の信者が語る「いかにして信仰に助けられたか」というビデオを見せられました。「あなたの友達も入っているし、ビデオの通りすばらしい教えを学んで、人生をより良くできるから、あなたにもぜひ入会して、幸せになってほしい」と支部長らしき人に言われました。入信する気はなく、断りたかったのですが、断ると友人2人のことまで否定したととられそうで、どう言えばいいのかがわからず、どうにか「帰って母と相談します」と返答しました。その後約2時間にわたって、「この場で入会しよう」ということの説得が続きましたが、「考えます」と答え続けたので相手が根負けし、その場はお開きとなりました。団体の集まりであることを隠し、友人の同席という断りづらい環境をつくって、かなりの押しの強さで勧誘されたことに、当時も、今思い出しても、強い怒りを感じています。

●いつも「仏様が見ている」と言って生活態度を正すように諭してきていた母が、私たち子どもを虐待し、不倫の末に蒸発した際。そのことについて信者であるはずの他の信頼も誰も咎めず、助けてもくれなかった。あんなことが許されるんだと思ったら馬鹿らしくなった。信者としてのステップアップの儀式があまりにも安っぽく、12歳の子供の目から見ても胡散臭かったので。

●教団で活動している内容を友人や先生に話した時、相手の反応がおかしかった。「おたすけ」という名前の、勧誘をせよと教えられていたので友人を誘ったら「私はやらないよ」と言われたことなど。

●学生部●男子部時代の教団信者ではない数少ない友人●知人への布教を促す半ば強引とも受け取れる組織の雰囲気●風潮。学生部●男子部時代の選挙戦において支持政党支援の為、中学●高校の卒業を使って、関係の有無に関わらず片っ端から支持政党支援依頼の電話作戦をしたこと。半ばノルマ的な目標を設定して、知人に支持政党支援を依頼しまくったこと(どれだけ実際に票になったか確認のしようも無いが)

●自分の人生を犠牲にしてまで、宗教活動に専念しなくなかったから

●恋人が宗教が嫌いなので、なんとなく活動から離れはじめた時期、親や信者の様子を見て、私に気持ちが

伴っていなくても活動をやらせたいのかなと思いました。

●おそらく 10 代のはじめごろから、疑問は家族や教師たちにぶつけている。人によって激昂する人はいるし、両親と激しい喧嘩をしたこともあったが、まともな信者であれば、むしろそういった疑問を肯定的にとらえてくれたり、一緒に考えてくれたりする。今は疑問や矛盾を抱えていることをきっかけに教団と距離は置いているが、信仰をやめるつもりはない。

●母が弟には信仰を押し付けず、娘の私だけを活動に参加させようとしているのに気づいた。

●教団リーダーは絶対だ。と言われた小2の時。読経に使う教本の内容について、指導員が誰一人として答えられなかった。小2の時。

●もともと人生経験と思っていたのと、母が喜ぶから集会に参加していた。大集団でお祈りする様子に、わたしは違うな—という漠然とした気持ちはあったが、言われたら暇なときはついていったりした。母は何かと真如苑は他の宗教とは違う。他はくだらない教えばかりだと悪態をついていたので、他の人が信じるものをけなすような人間が信じるものって何なんだろうと思ひ、やっぱり私には必要のないものだと感じた。お守りなどは断ると母の期限が悪くなるし、めんどくさいので受け取っているが、信仰には一線を引くようになった。

一線を引いてから、ふと気づいたのが、おばあちゃんの仏壇に教祖の写真も飾られていて、なんでおばあちゃんに手を合わせたいのに真如苑にも手を合わせる形にならないといけないのだろうと腹立たしく思ひ、そのあと、おばあちゃんの仏壇と向き合えなくなった。

●信者を無料でいいように使ってるようにしか見えなから。

●他の宗教に触れた時。仏教、神道にも触れ研修を受けました。

●40 代のとき、未入信の夫がいるので突然の訪問はやめてほしいと何度も言ったのに、会合でいい話を聞くと興奮をして、ピンポンを押してくる。約束を守らない。夫も入信させる気だったので、こういう学べない人たちには家族を合わせられないと疑問。近所に雨宮さんという支持政党職員のご主人と独身時代教団本部勤めていた方がいて、仕事が杜撰。小さな不信を積み重ねて少しずつ離れるきっかけとなった。

●唯一神であることに違和感を感じてきた。

●東日本大地震が起きてすぐの礼拝での説教内容

●なぜ選挙のたびに知人に投票依頼するのか？投票先

が限定されるのか？疑問と不満を感じた。

●家庭を大事にと説く教団リーダーが不倫や隠し子、家庭も酷い有り様だったこと。

●やはり政治とつながっていると強く自覚した時です。選挙の度に知り合いに挨拶のような事をしないといけない事。あと教団新聞や、子供向けの漫画雑誌や教団トップ著の本を読まなければいい人間ではない。と、された時です。あと、朝晩の読経を行わなければ御本尊様がお腹を空かせてしまうよ。と言われて、読経をサボってしまった時の罪悪感たらなかったもので、そういった細々とした事が積みかさなっていイヤだなあと思ひ、距離を置きたい。と思ひました。なんか、そんな事で？って感じでごめんなさい。

●癌が治ると言われたから

●コロナ禍で考える時間ができ、SNS でそれまで知らなかった情報を目にしたから。

●組織において選挙活動というものが存在していたから

●①「周囲の人の悩みを聞け。周囲の人の力になれ」というが、結局、勧誘のための手段でしかないこと。勧誘＝助け、であり現実的な問題や具体的な行動には無頓着、無関心であること。②信者同士の発表や近況報告の機会がある。信心のおかげで社会的な成功した話や金銭問題が解決した話などがある。どこが仏教なのだろうか、と甚だ疑問に思ひ。

●教団に正式に入る前から集会に参加していた。特に何かを強要されるというのはその時なかったもので、公民館にエライ人来るから話聞か、みたいな感じのノリではあった。その時から冷めてたので何言ってるんだろうと常々思っている。

●そもそも入ったのも周りがるさいから、みたいな理由なので、入る前から洗脳というかそういうのはなかった。

●数年前から実家を離れているが脱退に近い状態で過ごしている。"

●組織の中で嫌なことがあった。産後で子育てが大変な時期にもノルマや役割の仕事が強要されたことで、活動をしない方が幸せだと気付いた。活動家には 60 代以上の老人が多く、ジェネレーションギャップがきつい。老人とかかわりたくない。

●教団リーダーを、指導者としてというより、カリスマ的に熱狂的に仰ぐ人が一部いるのを見て、信仰心とはなんだろうかと、自分自身に問うた時期があった。教団リーダー自身も、自分が崇められるのは本意ではなく、自分はいくまでも指導者で、神がかった教祖と

かそういう者ではない、とおっしゃっていたし、一人ひとりの信者に、屹立した信仰者として自立してほしいと願って、折々の指導をしてきたと思う。組織というのは、リーダーが望むと望まないにかかわらず、そういったところに陥りがちだと思う。私は、その疑問を共に考える仲間がいて、どんな組織も必ずはらんでいる矛盾をも乗り越えて、一人の人間として信仰を深める契機にかえることができたと思う。

●小学校高学年で、病気や怪我をした時に心配せず、日頃の行いが悪いから、神様が教えてくれているんだと言われたこと。小学校の社会科で「宗教選択の自由」を学んだ時に、私にも宗教を選ぶ自由がほしいと母親に訴えたが、認めてもらえなかった。みんなで助け合おうのが天理教の教えなのに、それを周りに伝えて手本となるはずの教会長が自分勝手な行動をしているのを目の当たりにした時。

●開祖が人間をつくったという話だが、中学の社会科で、人間の最初はアフリカだと聞いたとき。

●これと言ったきっかけはない。赤ちゃんの頃に入会したが、記憶のある時期から漠然とした違和感というか、居心地の悪さというか、馴染まめなさ、帰属意識のなさを感じていた。考えないようにすることが処世術だったのかもしれない。

●反対者の本を読んで、教団が嘘をついていることがわかった。

●小学生時代、自分の周りに宗教を信仰している人が少ないと気づき、自分が特殊な環境であると感じて、色々考えるようになったことがきっかけ。

●まわりの教団の人達はいいい人達だと思ったけど、幹部などになると言うことが断言的で強すぎると感じた

●信仰していれば幸せになると言われたのに、兄弟が不登校になったりしたから。

●意思のない生まれて間もない時期に入信させられるのはおかしいのではと、大人になった後に少しずつ違和感を持った。

●バプテスマ（洗礼の儀式）を受ける前に伝導者というものになれと親に言われ、会衆の長老になりたい旨を伝えたら「なんで？」と言われた。それまで何故かなんて考えたことがなかったので、その質問に答えられなかった。その後考えてみたが、自分が伝導者になる理由が思い浮かばず、自分の意思でないことに気がつかされたので集会に行かなくなった。今となっては本当に良かったと思う。

●教会の奉仕活動に対して高齢化で人手不足が深刻化、若い人の一部に普段が増えていくため、若い人が教会

に負担感を抱き、参列者が減り、更に残った若い人の負担が大きくなる負のスパイラルに陥っており、持続可能性を感じない。

●いじめをよくないとしていたのに、組織の中でいじめがあったから。

●友人でもあった同じ宗教2世が修学旅行で得意げに「俺は鳥居をくぐらない」と自慢していたのがカッコ悪いと思った。

●人に無理矢理勧める、新聞を売る、時には自分がお金を払って新聞を読んでもらうなど。他の宗教を邪宗と呼ぶこと。などなど。

●同じ教会に所属していたとある信者が牧師と口論し、牧師への反抗と自身の正義を証明するために自殺した一件から

●幸福になることを目的としているが大きな災害で信者が亡くなるのを見た時

●結婚してからセックスをしたと仮定すると、子供が生まれるのが早い世帯がそこそこいる。

●パラダイスでは悪人がいないことこのことで鍵屋が職を失うのではないかと思った。肉食動物が草を食べようになるとのことで食物連鎖が崩れるのではないかと思った。これら疑問に親および信者の友人が答えられなかった。

●信者の集まる集会で、読経や教団代表の話の後に、体験談を代表？の信者がエピソードを話す時間があり、その信者の体験談が気持ち悪いと思い、疑問を感じた。その体験談は、下記のようなものだった。話者の信者(男性)が、ある女性の信者と結婚したいがその女性には婚約者がいて、婚約者は信者ではなかった。話者の信者は、周囲の信者(教団の権力者?)に協力を仰ぎ、自分と結婚するほうが信者として良い行いであると説得をし、その女性と結婚した。という話で、その男性はかなり誇らしげでニヤニヤと笑っていた。信仰を盾に横恋慕する自分を正当化し自慢げに話す様子に嫌悪感を覚え、これを大勢の信者の前で話すことを許可した教団へも不信感が募った。

●父の死をきっかけにして

●死後の世界って本当にあるのって思っていた。"

●信仰しなくては幸せになれないといった雰囲気や醸成しているが実際は世界中の中では信者の方が少ないこと。お金が無く貧しいことに変化がない事で違和感を抱いた。

●子供も大人と同じ献金額だったり、二言目には教団リーダーがと口走る信者がいた。選挙の時が一番納得がいかなかった。



●選挙の時に Twitter などの情報を見て、自民党と同じ動きをする支持政党に疑問を覚えた時から

●お寺のお坊さんはお葬式で金儲けをしているから悪い、宗教は金儲けのためじゃないと親から教えられたが、宗教団体への献金をしていたので、言っていることがおかしいかなと思った。祈れば必ず幸せになる、願いが叶うと言われるが、どんなに信心深い人でも急な病で亡くなってしまったり、病気が治らなかつたりするのは矛盾していると思う。

●大学生になって選挙の応援を組織の人から何度も頼まれるようになり、友人に選挙の応援を頼むと、功德が積めるとかと言われるようになった。また、この信心を強く信じれば願いは叶うとの教えだが、なかなか叶わないと信心が足りないと言われてたり、反対に辛い事が起きると今は魔が競い起こっている時だからあなたの信心を試されているのよとか、都合よく返されること。

●同じ教団の信者が職場の先輩として居り、パワハラターゲットにされて自己肯定感を破壊され、心身を病みました。それで活動が低迷してゆき心身も回復しない 10 年間の中で、信者仲間から信仰の弱った人とみなされて見下されたり嫌味を言われたりし、集会や書籍の教えにも落胆や怒りや疑問を感じるようになりました。

●何か物事を解決するために起こす行動がお祈りであることに、だんだんと疑問を持つようになった。因果関係を読経で片付けるような言動に反発する気持ちが芽生えてきた。また、信者以外の人を見下す言動にも釈然としない気持ちになった。

●引っ越しをする際に母が儀式をうけて(霊視のようなもの)その家に引っ越せば家族がよい方向に向かうと言われていたが、全くそんなことにはならなかったから。

●教えに反しているような、酷い人間性の信者さんを見ると、イヤになる時も、たまにはあります。

●教団の人が言っていることが出来ていないと思ったから

●自分の意思ではなく母親に言われるがままに参加していることに疑問を感じた。自分の意思ではないのに集会や研究に参加することが苦痛でしかなくなった。周りの友達に知られたくない秘密を抱えているストレスも限界だった。(世間知らずだったためか、同じ教団の 2 世以外に周りで他の宗教をやっている同世代に出会ったことがなかった。今思えば当然いたはずだが。宗教に関わっていることが気持ち悪かった。)母親に叱

られたくない、裏切ったと思われたくない、悲しませたくない、という気持ちと引き裂かれそうだったが、自分の意思で自分の行動を決めることを選んで、もう参加しない、と告げた。

●自由がない。体罰がひどい。

●これと言ったことは覚えていないが、大きくなるにつれて自分の家が普通と違っておかしいことに気付き嫌になっていった。

●幼少期から、信じたことは一度たりともない。幼い頃から活動をやりたいと思ったことはなく、勉強したくない、やりたくないという思いしかなかった。年齢が上がるにつれ、色々なことが理解できるようになり、矛盾点を感じるようになり、正しいものではないという思いが強くなっていった。

●自分自身、精神疾患を抱えたり、母親との関係が悪く、宗教観で生きづらさもあったこと。

●教義の中で、恐竜の存在否定、ダーウィン進化論の否定していた。それについて教団側に説いたときに誰も答えられなかったときに矛盾を感じた。

●生まれた時から 2 世信者でしたが、これまでに教祖が亡くなりその息子(神ではなく一般人のはずでは?)が新たな教祖となりました。そこからそれまでの教えと矛盾点があるように感じだしたのが 1 番のきっかけです。

●親から教わったことと、メディアや周囲の人が言っていることに違いがあったため。アンチな意見に遭遇し、自分の中で『本当にそうなのだろうか?』と反芻したため。

●宣教に多くの時間を割くことを求められるのが嫌だった。社会人になる年齢になり、自分の人生を考えるとこのままだと経済的にも自立できないので自立するために離れようと考えた。

●普通の仏教(お寺とかの檀家とか)と思いきや、集まりが変だしお涙頂戴の話の間かされ、わざわざ県外の施設まで行かされて阿呆に見えた。施設ないは特に本当にいちいち演技がかってる。息するのも演技みたいだった。

●根本的な教理。アメリカ本部統治体の行い。組織内の不公正や偽りなど。

●思春期の最も悶々としていた時期に、頻繁に訪れる死にたい願望と死の恐怖の狭間で揺れる感情に教義は一切解答を出せず、教団トップ、教団の思考の浅さに気づいた。戦後食糧難に苦しむ民衆の前で雄弁に語る教団トップだけ太っていた。権力者以外の民衆は例外なく痩せていた。

●親が人生は苦しいとか言うので、じゃあ何のための信心だよ？って聞いたら答えられなかった。一度も人生を救わなかった。親がどんどん馬鹿に見えてきた。

●神社にお参りをしてはダメと言われた

●インターネットの記事

●インターネットで批判的な記事を読んだ時。中学に上がり部活動を通してやりたいことができた時。

●友人を熱心に勧誘していたが、その頑張りを認めてもらえなかったり、関連団体の幹部の態度に不信を抱いたこと

●小学生の頃、朝晩の読経(お経を読むこと)をしていれば、幸せになれると教えられていたが男の子に失恋したこと。

●母やその親族たちが他の宗教を"邪教"と呼んでいたこと。平和的ではないと思った。地域の伝統的なお祭りが神社で行われていて、友だちの中で自分だけ行かなかったこと。

●忌避制度。自由な恋愛、友人関係、就職の選択ができないこと

●元々週末の自由な時間を制限される事や一部の大人の威圧的な態度から教団に対して好意的に思えなくて、最初から全て否定的に捉えていたし反論する事しか考えてなかった。

●幸せになるために信仰しているはずなのに、我が家の家族はいつもイライラギスギスしていてちっとも幸せではありませんでした。それをふと大人になったあとに思い、「じゃあ信仰してる意味ないじゃん？」と冷静に感じました。

●両親が多額の献金や無料奉仕をしていたから

●生物の進化を知り、神が人間をお造りになったという教義に疑問を持ちました。

●長老という立場の人が激昂する姿を見て、なんだこれ、と感じたり、信者のコミュニティの中で、仲間はずれにされたりしてきて、コミュニティー自体が好きではなかった。元々布教活動が好きではないが、教団がすすめているのが布教なので、高校を卒業して、布教に力を入れにいったが、その生活が体に合わず、体調を崩した。また、布教する中で、今一度、教理をしっかり理解しようと勉強していく中で、自分で納得できない、理解できないことが出てきた。体調を崩したタイミングと重なり、もう宗教をやりたいと思わなかった。感情的にやめると、何かある度に、予言の成就なんじゃないか、ハルマゲドンが来て、死ぬんだと言った恐怖に振り回されて、また教団に戻ってしまうのが

嫌だった。なので、ネット検索をして、教団の誤りを自分で納得するようにした。

●意見を言えない人に無理強いする 自分の子にはさせないのに信者の子には脅しながら活動を強制する平等でないのに聞こえがいいことをいう 短大の時にテストにぶつかってるのに登山修行に行かないといけなかつつこく言われて参加したので来年も同じ授業をふける羽目になった その苦労は無視された 宿泊のセミナーがともかくたくさんあって仕事も休むので正社員を続けられない

●基本的に害がなく教えも穏健でコミュニティとして良い団体なので、問題を感じるということはないが、活動で時間が取られること、早起きをしなければならないこと、ご利益という「望みが叶うこと」がなかなか信じられないこと、教えとは別に結局高齢男性が慣習的なことを持ち込んで威張っていることなどに若いとやはり反発はかんじてしまう

●他の宗教を否定する。新聞を何部も取っている人がいる。年末の財務(お布施)を沢山した人(三桁したとか)をみんなに披露し、すごいわね、と褒める。支持政党に入れぬ選択肢がない(とても言えない雰囲気)

●愛と思いやりを説くのに、母は困ってる人を助けない。し、神様ばかりで我が子を愛さない。信者でなくても、善人は沢山いるのに我々の宗教の神を信じないだけで滅ぼされる=殺される。のは理不尽だと感じたから。

●なぜ活動をしているのか。なぜ信仰しているのか。

●小学生の頃、なぜ他の友達と同じように過ごせないのか？例えば、月次祭や教団の行事などで学校を休んだり、夏休みに本部まで行って何日も団体生活をしなければならなかったり。楽しく思えたこともあったが、どちらかというと苦痛に感じるの方が多かった。

●教医者になると思い込んで何年も浪人したが受験に失敗し、また同じ時期に親には内緒で付き合っていた恋人におかしいと言われて気がついた。

●祖父母は強制的に入信させた私の両親が信仰していないことを理由に「お前が悪い子なのは両親が信仰していないからだ」等と繰り返して私に言っており、また宗教的な理由や価値観の違いから祖父母と両親の口論が絶えなかった。その中で祖母に「お前が幸せになるために私は一生懸命信仰している」と言われ、「今宗教のせいで全然幸せじゃないのに」と疑問を持った。

●自分が学校で習ったことと、教団の教え(西洋医学の否定、「霊界」の存在など)との間の乖離に気づき、科

学的主張の方が正しいと感じはじめたこと。

●妹に「信心をしてもどうしてウチは幸せじゃないのか」と聞かれて

●ネットで調べ、教団をよく思わない人がこんなにも沢山いるのかと知った事。幼馴染も同じ境遇にあり、初めは夜集会で会える事などを秘密の共有のように楽しく思っていたが、小学校6年生あたりからはお互いに教団信者であることは学校で言わないようになった。(評判が悪いとなんとなく理解していた。)

●信仰は人それぞれなのに他人を勧誘しなければいけないことや、たくさん勧誘した人がもてはやされること。同意なく家族や親戚も一括して入信させること。

●高校生、大学生の頃に聖書そのものの内容に共感できないと感じた時。教団の他の牧師間で意見が対立し教団が解体される事態が起きた時。同世代の2世の友人たちとの会う場がなくなったこと、友人同士でも意見の相違が目立ち始めたこと。

●親族が亡くなった時の祖母の言葉を聞いたのが最初に違和感を感じた時です。

●祖母は教会の活動に熱心に取り組んでいて、外では"すごくいい人"でしたが、家庭内では違っていたので、疑問には思っていた。

●幼子を事故で亡くした母が仏壇ではなく御札やお水に向かって毎日となえてる姿に幼稚園の頃だった私は不思議でしたそしていつ頃からか私にもお祈りを教えそのお水を飲むようになりました。そんな母にもお水を飲むことに幼児ながら違和感がありました。

●良いことはすべて教えのおかげだが、悪いことはすべて信心が足りないためと言われる。母親は教えを伝える自分の立場を絶対的なものと考えており、なにかという教えを盾に自分の意見を飲ませようとする。

●中学生の時、教団リーダーは莫大な書籍の売上をどうしているのか聞いた時に、先生は質素な借家で質素な生活をして売上は全て信者のために使っていると言われた。あんなに太っていて、高そうなオーダースーツ着ているのに？おかしいと思った。どうしてそんな事をきくのか、と担当のお姉さんに冷たくされたことも覚えている。

●仏様に支えていると幸せになると言われていたがイジメにあったり両親からの虐待が収まることはなかったから。

●大きなきっかけがあったわけではない。使命感を植え付けられてきたがだんだん嫌になった。信者からの訪問や電話に対応するのが億劫になった。日蓮の話聞くことは嫌ではなかったが、教団の活動にこじつけ

を感じた。その疑問に親では回答不能と把握した。自分の両親は子より信仰の方が優先すると感じた。両親は信教の自由を乗り越えることができなかった。

●子供の時に、この宗教が正しいのなら、何故全ての人が同じ信仰を持っていないのかと考えた

●団体の新聞に書いている内容が腑に落ちなかった(毎日祈っていたら死んだ人が赤ちゃんとして生まれ変わってきた、というような内容)、世界平和を目指している割には他宗教への敵意がひどく矛盾していると感じた

●小学校2年生頃から小学校5年生まで両親が入信していました。したがって、自意識発達前に両親が脱会していたため、当時は矛盾等を感じなかった。しかしながら、25歳ころから子供のころの虐待(に近い教育)をフラッシュバックするようになり、同時にその虐待行為が両親が数年信仰していた時期に重なることを確認できた。

●新聞をとらせたり、集会に参加させるために信者家族絡みで人の家に押しかけたり、選挙の投票ために入院してる認知症のらお年寄りを車椅子で連れ出したり、しているのを見た時。

●無宗教者になったため

●教団の教えの内容が変わっているにも関わらず、自分達のことを真実の宗教だと言っているため。

●幹部である父が、家庭内では暴力を振っているにも関わらず、教団内では理想の父親像とされていたことを知った時。

●父の大病をきっかけに入信した母がより教団内で“偉く”なるため、父の病気が落ち着き始めた頃東京の本部で修行するため毎月泊まりで出かけるようになった。その時の「行かせていただきます」という殊勝な様子と普段のどちらかというヒステリックな様子の落差、まだ体が万全でない父を中学生の子供にお願いしていく状況に違和感を持ったのが始まりです。

●入信していない父親と末弟が教団を否定した。

●インターネットを使うようになり、教団に関する諸々を自身で検索するようになってから。

●信者以外との恋愛をしたため、教えを信じたまま脱会した。

●幸せになれると言っている本人が1番苦しそだったのを見たから、家も経済的に苦しかったから。祈っても幸せになれるとわかった。

●上の兄弟の脱会。また、科学的ではないように思える考え方。特に進化論。

●信じているのなら、助けてくれるはずなのに、助か

らない人がいるから

●宗教をしていない友人に、何気なく宗教に対する否定的な意見を言われたこと。

●信者の集まりは異様な雰囲気だったから

●高校時代、先生方が私の SOS に気付いてくれて、暖かい関わりを持ってくれたこと。

●特定の宗教や人物を認めないまたは敵対視すること

●排斥処分を受け、無視されたので理不尽に感じた

●ハルマゲドンや樂園、永遠の命といった非現実的なことに対して、納得のいく説明なく、疑義を抱くことが反抗的だと言われたこと。

●私は小学生の頃いじめにあっていたのですが、どんなに理不尽なことが起きてもそれは自分が前世で犯してきたことへの報いだから自分が反省して神様にお詫びをしたり、相手に対して感謝の気持ちを持つように言われた時です。

●母親が、病に倒れたのを切っ掛けに、親子で入信したものの、信じきれずに1年足らずで退会しましたが、後に、母が亡くなり、心の拠り所を求め、再度、入信しましたが、良好な人間関係を築けず退会。

●教団の講堂が傍にあり、何度か足を運んだ際に、可成りの献金が流れているから、この様な立派な建物を建てる事ができるのだろうと。

●高校受験で志望校に落ちた時に「信じてるのに落ちたではないか」と疑問を呈したら「そこまで行きたかったのなら浪人しろ」と逆ギレされた。他の学校に受かった時に「意味があったんだよ、信心してるおかげだね」と言われ、集会で信仰体験の発表を強要された。本人の努力や気持ちに寄り添わない親や信者たちに落胆した。

●10代の言語的暴力に対して、あまり覚えてはいないが、おそらく15歳ごろから「なんでこんなことを言われて、耐え続けなければいけないのか。」と日々怒りを抱えていた。19歳~20歳ごろに、その霊能力者に性的虐待を受け、もう耐えられないと感じ、私一人、その霊能力者とは一切会わないことになった。

●出生について。神様の教えで結びついた夫婦ではないのでそもそも存在理由について嫌でも考えさせられた。元々存在してはならない人間だと、どうしても納得がいかなかった。父親の事は、愛していたし、尊敬していたので。

●世間からカルトと言われていること。宗教の教えと世間一般的な常識との乖離

●教義では、結局全て教祖が素晴らしいという結論に

なることに退屈を覚えた。功德になると言われて無賃金で労働●選挙活動している両親をみたとき。(労災などももちろんなし)。支持政党は平和を掲げているが、中国の明らかな人権侵害等見てみぬふりをするから。

●学校で樂園やサタンの話をしたら頭のおかしい人間と思われた

●何でもかんでも、お題目のおかげだと言われた時、また、幸せになるためなのに活動がしんどくて憂鬱になっている人を見た時

●特にきっかけはない。自然と徐々に信仰心が薄れた。

●最近では政治学習と称して、支持政党(連立の自民含む)の推しポイントのみの学習会、共産党への悪口。なぜ同じ宗教に入っているというだけで、支持政党しか票を入れてはいけないのか。教団活動なのか、政治活動してるのかわからない。

●国語の先生が「処女懐胎などあるわけがない」と言っているのをきいてそうだなと思った。部活など宗教外の交友関係が広がって忙しくなった

●あきらかに昔と正反対の事を言う、予言も当たらない 他に多数あり

●親の死および死に方(長年の闘病と苦痛、あまりにも無様な死に様、残される者への無責任)、長年、多大な奉仕活動と多額の献金をしてきたにも関わらず親がそのような死に方をした上、不幸や苦悩が続いたこと。東日本大震災(教団トップの祈りと存在のおかげで日本は大災害もなく守られ繁栄してきたことになっているのに、それを全否定する出来事だった、しかも教団トップ本人は既に表に出てこなくなって久しく、具体的な指導激励は何一つなかった)。長年、教団の様々な腐敗や問題を見聞きして苦しんでいた。親が虐待親であったため、カウンセリングを受けたことも疑問を抱くきっかけになった。親と教団から二重に抑圧された人生だったが、親が死んだことで風穴があき、長年信頼していた信者から詐欺にあいそうになったことで一挙に覚醒した。

●離婚したことについて、信仰心が足りないからと言われたこと

●小学校の友達が宗教をやっていないと分かった時。神がいるとされていたが本当にいるか分からなくなった。

●教団信者が家庭で毎日仏壇に向けて唱える読経という習慣があります。短ければ正座で15分程度ですが、子供心に無駄だ、こんなことよりテレビを見たりゲームをしたいなと思い、最初から反抗的だったように思います。私には兄と姉がいますが、一番年上の兄から

して教団から距離を取っていたので自然とそれに倣う形で離脱していきました。

●学術的な価値の否定。具体的には、「人は猿から進化していない(進化論の否定)」と言う説や、輸血の否定。また、国歌や国旗を殊更に否定し、国歌を歌ってはいけないと強く言われた。

●仕事終わりや休みの日も教団活動をしている人たちを見て、何が楽しいんだろうかと疑問を抱いた。勉強会に参加させられ学んだが、普通の仏教との違いもよくわからなかった。経典?的なものから出題される検定試験のようなものがあり、それを中高生の頃に受けさせられ、なぜ休みを犠牲にしてまで訳の分からない勉強をしなければいけないのか…と。

●信者が性別で分類されていること。信者の中で階級があること。

●全体主義的。趣味より活動、友人を作れないほど活動を詰め込んでおきながら選挙の時期に「友達がいない」と嘆く人が多い。会合で「不退転(信仰を辞めないこと、教団から離れないこと)」と言い方を変えて何度も言われたこと。

●環境への働きかけをせずに集会で学んでも無意味だと思った。また、私の同級生の親を勧誘してその親から嫌がられた。布教のための本を売りに行った玄関先で怒鳴られ追い返された。

●真剣に信じて入信したはずの母は楽しそうではなかった

●勉強会に参加するのがめんどくさくなってきて、他の子はしてるのかな?と疑問に思った。

●大学で引用文献の書き方を教わったこと。大学で教授が「引用の記載がない文章は信じる価値がない!」と言うほど引用文献の大切さをかなりしつこく教わった後で教団の出版物を読むとあれ?と思うことが多くなった。例えば聖書の既述の正確さを裏付ける科学者の発言の引用元が一切なかったり。いいかげんに書かれたものなのではないか→教義もやっぱりインチキなのではないかという考えが強くなった。教団が高等教育を受けないよう推奨しているのは神のためなんかではなく単に自分たちのインチキを見抜かれたくないだけなんだということも気付いた。

●元信者の告発本を読んだこと

●「良心の危機」

●「ドアの向こうのカルト」といった教団の中心に近い所にいた人達が書いた本を読んで、教団のいい加減さや欺瞞がはっきり分かり信じる価値は皆無だと思った。

●行動が制限され、親から虐待を受けたこと。信じても救われなかった。

●信仰や祈る対象はあっても良いが、強引に人に勧めるものなのかどうか。勧誘のために待ち伏せなど迷惑行為をしなければならぬこと。信仰が必要かどうかの気づきや原点は自分自身で見つければ意味がないのではと考えた。

●小さい頃に聞いていた話と大きくなってから聞く話の内容が少しずつ異なる。(小さい頃はダメだと言われていたことが、やっても良いことになる等) 教団内で教えられていた内容が化学的に事実とは異なる。同世代の信者の選民思想を気味悪く感じた。など

●組織のやり方が気に入らなかった。

●「これだけが真実だ」とどうして言い切れるのか?と疑問に思った

●小さい頃から母親に無理矢理だったので、猜疑心は小学生からあった。父親は宗教には無関心だったので、私も将来は母親を無視するつもりだった。

●救済論的な観点から疑問を持った。中学生の時、宗教ネタで同級生から嘲笑の対象にされたときに、幹部の娘と一緒に笑っていた。高校のときに教師から嘲笑の対象にされたときに、教師に抗議した、信者でない同級生がいた。教義上、幹部の娘は宗教上の救済の対象で、教師に抗議した同級生は救済の対象にならないのはあべこべだと思った。

●良いことだからという親からの押し付けがすごい

●信仰をしているから成功するというのは論理的ではないため。

●「疑問●矛盾」というほどではないですが、友人の家にはないのに「なぜうちには仏壇や教団あるのか」と親に問いました。親は丁寧に教えてくれ、ある程度納得しました。※前の設問回答から流用しています。

●高校生では学業が忙しくなる中で、教団内の知識検定試験を受けるように強制された。このときに同じ立場の友人が「私は試験を受けない」と話してくれて、はじめて自分も反抗していいのだと思えた。「なぜ信仰を選ばせてくれなかったのか」と両親とはじめて言い合いになった。しかし結局抵抗しきれずに試験を受けた。大学生では同じ地域の20~30代の信者と集まる機会が増えた。同調圧力と年功序列な強制で選挙運動や広報活動に関わるようになった。両親からは強制されなかった。熱狂的に信仰する同世代の信者の発言に、違和感を覚えはじめ活動を避けるようになった。"端的に言ってる内容に具体性が全くなくて意味がわからなかったから。家は教団新聞と普通の新聞を取って、

普通の新聞は漢字が読めないながら何となく内容はわかったのに対し、教団新聞は同じような内容の繰り返しで上手く読めなかったから。勝利ってずっと言うけど、試合でもしたの？何についての勝利？って思っていた。あとは、家庭内でのDVやモラハラや性的虐待を受けていたし、母自身も長男から酷い暴力を受けていた。母は読経をあげると素晴らしい勇気が湧いてくるのよ！とか毎日言ってたけど、その問題と向き合ったり解決する勇気は全く見られず、むしろ現実逃避しているようにしか見えなかったの、そういう姿勢を皮切りにどんどんアホくさくなった。

●選挙の前になると祖母の友人からとにかく「支持政党にいれて」と連絡が連日くる。

勧誘の考え方

●選挙支援活動は信心だとして、政治の内容についての議論を避けるように言われるとき。

●支持政党が自民党と安保の解釈改憲や特定秘密保護法を強行採決したこと。私達には自民党の暴走を防ぐ為に自民党と連立したと言っていたことを反故にしたから。その後教団本部でサイレントアピールに参加した際の本部職員たちの対応に不信感を持ったこと。

●教団リーダーの話や教義は素晴らしいのに、信者がクソだから

●LGBTの人々の苦しみを知らうとせず、サタンに支配されているという現実世界では受け入れ難い理屈で彼らのアイデンティティを否定していること。世界平和を目指しているが、実態は信者、その子ども達は貧困に喘ぎ、苦しんでいる人が多いこと。

●裁の離婚。同時に20世紀少年をみたとき。

●母が夜に宗教の集まりに参加する事が多く、母子家庭のなか、小学生の子どもだけで留守番しており、それを友達に指摘されて、疑念を感じるようになりました。

●政教分離に反している。信心しないと、家族を救えないという脅し。虐待があるのを、信心が足りないせいと言われた。

●教団の集まりに勧誘してくる女子部や婦人部の方々の信仰に対する考え方の偏りが怖く感じたから

●他宗教に関心があったため、所属団体の教義に疑問をもった

●活動自体には疑問を感じていない。ただ、伝道や集会などの活動に自分が参加するのは優先順位として無理だなと判断して離れた。

●母は熱心ではなかったが、父がとても熱心で、よその家で行われる「集会」によく行って、家にな

いことが多く、私が中学生くらいなら母と父のすれ違いも酷くなっていった。私や兄ともコミュニケーションをあまり取らないために、母兄私と父の間の溝がどんどん広がっていった。世界平和を謳いながら、まったく家庭を顧みない活動の仕方がおかしいと思うようになっていった。また、夕食中の時間帯に信者の「女子部」に属する方が3人くらいで家にきて、玄関先で同時放送に来るようになるとか、お題目あげてねとか、勉強会あるから来てねとかいうことを話して帰ることがよくあり、私は全く興味がなく、訪問してくる時間帯も毎回迷惑だった。そういう人の迷惑とかを考えずにしてほしいことばかり要求してくるずうずうしいやり方も元々嫌だった。父は、仏壇の机に「世界平和」の文字と兄と私の名前を書いた紙を飾っていたが、向き合い方がずれているし矛盾していると思っていた。また、20歳になってから投票ができるようになると、毎回期日前投票につれて行かれ、支持政党と書けと毎回言われていたので、疑問を感じつつも支持政党と書いていた。父のやり方が嫌だと思いながら、支持政党以外を書くのが罪深いような気がして中々できなかった。(今でも投票日が近くなると父から電話が掛かってくるが、今では自分が入りたい党に投票している)あと、鳥居の下をくぐってはいないと小さい頃から言われており、中学の修学旅行で出雲大社に行き、みんなに合わせて鳥居の下をくぐったとき、すごくいけないことをしている気持ちになったが、周りのみんなと違う自分がとても嫌だった。

●教団イベントに参加したら、父から口を聞いてもらえなかった

●小学生の頃、地震があったらどう避難するかのお話を家族でした際に、「父は御本尊(巻物)、母は災害リュックとペットの猫を持って逃げる。もし子どもしかいないときに家事や地震があったら、御本尊だけは持って逃げてね」と言われた。いち早く避難するより、この世に何百何千とある複製の巻物が大事なのかと、反発したが、理解してもらえなかった。

●しつこい選挙勧誘、家庭訪問。何事も信心、信心。

●敵対化した本宗や宗派施設へのお参りが突然無くなった事が当時は理解できなかった。また別の敵対組織からの誘いがありその集会に行った時、同じお経を唱えていた事。また別の敵対組織の知人が彼も自分と同じように冷めて茶化していた事。

●納得のいく答えがなく強要されたとき

●いじめられること、白い目で見られることで神様は実際に助けてはくれないとわかったから

●幼い頃は、オウム真理教による世間からの風当たりの強さ。20代の頃は、幸福を説く宗教を奉じる自分が幸福でないこと。

●聖書通りの生活してる人なんて誰もいないし、自分が無くなると感じた

●教会●親に従いその考え方に倣うよりも、自分の好きな事に時間を割くほうが自分のやりたい事だと認識したため。教会自体の歴史が浅いことが気になった。また「温かい家庭を築くこと」というような教義に反して、両親の夫婦仲や家計が不安定であったことから。

●結果は自分の努力でしかないと感じていたため。

●自分の属していた教団は一般的なキリスト教であった為教団自体に不信感を抱いたことはなかったが、自分自身がなにかを信じてそれに頼ることが向いていない、つまり無宗教だと感じた。自分が何かなし得たことを「神様のお導き」だと言われることや、教会でのコミュニケーションが面倒だった。

●自分の意思ではなく、半ば強引に選挙活動をさせられたとき。

●信仰の教えに反して、嫌な人間性の信仰者に会った時は、距離をとるのに苦労した。

うつ病を患った時に本来助けであるはずの信仰を否定され、信心が足りないからだと言われた。私を病院に連れて行かず、宗教行事を優先した。

●偏りがあるところ、絶対には存在しないと思ったから

●夫婦喧嘩が絶えない家で不登校ぎみだったが、それがすべて会のおかげで直ったという美化しすぎた体験談を会報に載せられた。実際には不仲は改善せず、不登校は悪化した。親が会報の頒布に金を払っている。会の信者に信仰活動とは別のマルチ勧誘する人が混ざっていて、より怪しげな浄水器や美顔器を売りつけていた。政治家も行事であいさつしていた。

●本当の神様なのだから、キリスト教も仏教も全ての宗教でという内容の講和を聞いたとき、違うなど、はっきり感じた。教団の集会所では理不尽に怒る人など居るし、学校でも理不尽な目に遭うし、周りの話についていけないので、連れて行かれることに不満が高まった。進化論などで、学校で教わる内容と食い違う教えは何が正しいのか分からなくなった。

●子どもにも信教の自由はあるのに活動を親が強要してきたこと

●男尊女卑な空気。保守的で家父長制ぽさがある。性別役割がある。病気を不信心のせいにして、いいことがあると信心のおかげとするのが、非科学的。天気も信心によって変わると信じている。仏壇？にあげるコ

ップの水に、空気の泡がたくさんできてたら、なんか良いらしいのですが、家族が真剣に話してて気持ち悪い。父の風呂での水行とかも引いていた。山谷えり子をめちゃ推してくる（父が著書を送ってきたり、弟が講演会に何度か誘ってきたり）あたり、選択的夫婦別姓を待っているわたしからするとお門違いも甚だしい。姉が、男兄弟にだけ名前にさん付けするのも気持ち悪い。女より男が上だと思ってて可哀想。

●教団に対する世間の反応がおかしいと思い、ネットで調べた。最初は小学生の頃だったと思う。ネットには色々な情報が出ていて、とにかくよく思われていない団体だということが分かった。芸能人が教団信者であるだけで今で言う誹謗中傷のようなコメントも沢山あった。中でも目を引いた情報が、教祖が信者にレイプしたという情報だった。当時見た記事ではそれを根拠に、おかしい団体だと糾弾する内容だった。私の家庭はそこまで信心深くなかったのに、以上なコミットメントを求める信者の話など、ネットの情報と乖離があったが、とにかく政治との関係で複雑なんだ、という大まかな理解をした。子ども心に、何が明確にいけないのか、説明はできなかったが、とにかく他の人に知られたらおかしい人と思われると思い、距離を置くようになった。

●お金を払うのを見た時

●高校生くらいの時に、理論よりも信仰心(信じること)が先に来ることに疑問が湧きました。

信仰心の重要性に納得した数年前までは、モヤモヤと悩んでいました。"

●母親の言うマルクス主義は、絶対的真理であると言う教条主義的、イデオロギーだと、自分の勉強でわかった。沢山、さまざまな読書をして中学時代に格闘した。

●平等を謳った筈の母親が、差別的言動をしているのに気がついた。

●反戦、反暴力、自由、反差別を謳うのに、現実の母親の言動や行為は、真逆だった。母親は、イデオロギーを掲げたが、その事により、自身の生立ちや学歴他でのコンプレックスを払拭しようと、無意識にしていたように思った。

●選挙への組織票。及び支持政党の嘘や不実性に気付いた時。2015年あたりでした。

●憲法に信教の自由があり、そもそも幼少期から神の存在●勉強会等に懐疑的であった

教義には賛同できるが、宗教として存続するためには信者が必要で、そのためにはある程度の洗脳が容認さ

れるような気がしたから

●教団リーダーの生死が明らかにされていないと感じた時。

●選挙の時、教団がおす候補者に強制ではない暗黙の了解の圧で、投票するのは当たり前のようにされたことと、友人票を獲得するために友人を失ったから。

●母親は入信していることを父親に隠しており、宗教のことは隠さないといけないことなのだと感じ、最初から違和感があった。オウム真理教の事件をギリギリ記憶している世代でもあったため、新興宗教全般に対して違和感●いかがわしさを当初から感じていた。映画やパンフレットなどを書いてある教えも支離滅裂で、自分には理解のできない宗教に母親が熱心に参加し、子どもを伴って勧誘チラシを投函して回る、そしてそのこと全てを父親にひた隠しにする、家には宗教グッズがだんだんと増えていく...徐々に変質していく家庭環境に対して今思えば精神が不安定となり不登校となって、思い悩むうちにすべて問題の根本的な原因は母親が信仰している宗教であるという結論に当時至った。

●活動における選挙支援の割合が多いこと（衆院、参院、統一地方選のいずれかがある年は選挙絡みの活動が多くなる）。名誉会長（教団の精神的支柱）の発言や指導を自らの権威付けのために利用する者を見たこと。

●正しいはずなのに、反対意見のすべての見聞きを禁じられていたから

●私の子どもの受験のとき。子どもの受験の成功を母親が題目をあげていたからだと思い込んでいる母親をみて、自分自身も塾にも行かず地元の国立大学に合格するも、私自身の努力を認められたことがなかったことに気づいたから。

●何事も宗教を中心に動いている事。

●選挙活動と信仰が一緒にされていること

●宗教の一番の目的は、「やがて世界が一度滅ぶがその後信仰のある者達だけが復活し、平和な楽園で永遠の命を得る」というものがあります。小学生の頃、子供の頭で真剣に永遠の命について考えてみた時にいつまでも生き続けるという事に恐怖を覚え、宗教についての疑問を抱ききっかけになりました。

●ずっと不審におもっていたが、支持政党が与党になった時にはさらなる不信感を感じた

●そもそもどういう教義があるのかはつきりは知らない。ただ、勧誘(信者でない人への勧誘)することが幸せに繋がるという考えに違和感があった。宗教は正しいので攻撃に晒されるのだという話を行事で聞いた時にもなんとなくおかしいと思った。

●ハルマゲドンが近いとずっと言われ続けていて、常に世の終わりに生きていこうと考え続けるのが辛い。

●高校在学中～卒業くらい、交友関係が広がったのと、その辺りで両親が離婚し、もしかしたら自分の家はおかしいのでは？と思った

●教団の教えに疑問を持ったというわけではないが、物心つく前に入団させられていて自分で決めたことではなかったのも、信仰すること自体に疑問を持った。

●基本的に今起きている出来事は、前世の業が巡って起きているという考えが根本にあり、前世でやったことは現世でそのままやられてしまう、しかし法華経(題目)を唱えると、前世の業が軽くなり、仮に前世で人を殺していても現世では死ぬところまでは行かない、と教えられていました。であれば、題目あげてるだけでいいじゃん、と考えていたのですが、なぜか教団新聞を信者以外に取らせる(新聞啓蒙)ことや、入信させる(勧誘)ことをすると、さらに功德が付く、という追加条件が出てきて、なんか嘘くさいなあと思ったことがきっかけです。

●社会に出て世の中の教団に対する評価を知った時。後は家庭が大変貧困で、宗教に頼りその状況を何も解決しようとしていなかったことに気がついた時。子どもの頃は大変生活は苦しかった記憶です。

●週3回の集会、学校のテスト時期でもそれを優先●最初から。3歳の時に母が入ったのだが、子供でもおかしい!と思った。永遠の命なんてないし。とか。楽園で...とか。

●教団の場合、対話の重要性を解きながら他宗教や他宗派への攻撃的な態度に辟易としていました。また支持政党の政治活動についても特に集団的自衛権の問題が持ち上がった頃から自民党との関係において不透明な点が多く、組織からの説明もトップダウン的で不十分だと感じました。

●合同結婚式に参加したが、相手の人の信仰心がとっても低かったのがひとつ、また、別に自分に恋人ができて、自分が置かれている状況がいかにおかしいかをようやく自覚できた点も大きいと思う。

●ゲームがしたかったから

●自分の用事より組織を優先させると言われた時

●教団の方針が変わり読経の大半が省かれ、本来の仏教の形から教団主体のものになり、読経の項目に現在の教祖の名前が入るようになった時

●就職で上京し、実家を離れてから仕事が忙しくなった。仕事でとてもつらい思いをしたが、信仰に救われている気がしない日々が続いた。



●「信心を持てば幸せになれる」「世界人口の〇%が信者になれば世界平和が訪れる」などといった論理的根拠のないことを親が口をするのを聞いて疑問を感じた。また、同居の祖母が熱心に信仰をしていたが、その祖母の性格がとても嫌いだったこともきっかけの一つだと思う。

●毎回の選挙応援活動と、母が(おそらく顕正会から)嫌がらせを受けた時。そこまでして続けるのはどうしてだろうと感じたのと、教団リーダーをそこまで慕う理由が分からなかった。

●選挙活動に参加させられて、投票を呼びかけるお願いを友人にしたら、殆どの友人から縁を切られるように関係がなくなり、遠ざけられてしまった事から。選挙も活動のうちのひとつなのが理解できなかった。

●周りとあまりにも違ったから。

●テレビなどにタブー視されていたことです。

●家にある沢山の教団の本が、教団から配布されているのか、それとも祖母自身が購入しているのか気になって、購入していた場合、そのお金はどこにいくのか気になって、祖母に聞いたところ、有耶無耶な返事をされたため。

●選挙などで人にお願い事をする際、その時だけの間人間関係になるのが嫌だった

●今でも信仰心はあります。面倒になり離れただけです。新興宗教二世ではありません！

●長老のやる気のなさ、言行不一致、自己保身のためなら平気で嘘を付く態度。母親に対するハラスメント。ネットで母と同じ被害を受けた人が全国各地にいること。教理の矛盾。脱会者の証言。

●祈っても祈りが叶わない。聖地「ルルドの泉」に行くと怪我が治ると信じていたがネットで調べると色々な説があった。ずっと聞いていた「聖人」についても同様だった。

●週に一回、二回夕食どきに居間で会合をやっており、その時間帯は居間でご飯を食べられない、テレビを見られないことが不自由だと感じたため。

●両親の喧嘩を見て、母の願う幸せな家庭像からかけ離れていたため。言ってることとやってることが真逆だった。親戚もかなり警戒して我が家は孤立していた。父方の祖母からは直接母の事をかなり悪く言われ、祖母と私の関係も悪化してしまった。

●教団の中学高校出身。大学入学で世間が思ったほど冷たくないのを知った。

●中学生の頃、したくもない奉仕活動でどうしても出来ないかと断ったけど強制され親友の家のチャイムを鳴

らした時。それまでもいやいややっていたが反抗期になるまでそこから逃げるなんて思いつきもしないくらいあたりまえのことだった。学校でも宗教のことバレたくない小さい頃はずっと思っていたし隠れて悪いことをしたり嘘をつきまくっていた。教団での自分の活動や発言はずっと自分の意思ではなかったことに気づいた。

●いいことを言っているけれど、とことん実践してみても苦しかった。周りでも、自殺したり不幸な死を遂げたりする人が多かった。家庭崩壊、人格崩壊が多かった。

●信仰活動のためパートで数万円の収入でやりくりしている人たちが多く、年金もほとんど納めていないので、将来は生活保護を受ける人が多い。非信者を蔑んでいるのに、ゆくゆくはその非信者達が一生懸命働いて収めた税金から出る生活保護を受ける生き方をして人たちに矛盾を感じた。

●教団トップが表に出なくなったのにいつまでもお元気の教団リーダーが会内でまかり通ってるところ

●教義の矛盾、非科学的な部分への疑問。教祖家庭の崩壊。非信者の友人と自分との境遇差。

●教団(日蓮正宗)以外は認めないこと。祈ってれば幸せになるなんて間違いだと感じたこと。

●教祖の離婚。女神が悪魔認定されていて、笑ってしまった。息子も悪魔認定だったような。他にイタコ芸

●中学になってただでさえ忙しいのに、そこで宗教に自分の時間を割くことを求められるのが馬鹿らしくなりました。教えは小さい頃から「意味わかんないな」と思っていて、信じたことはありません。

●信仰していた母本人が心を病んだのがきっかけ。全然幸せじゃないから。教え云々より信仰してる本人がガタガタ。

●インターネットである画像を見て組織への不信感が始まりました。組織が間違っていない証拠を探せば探すほど、教理の矛盾、破綻に気がつきました。

●前述のしたとおり、お金は生きるために大切なものではないと言われ続け、その結果今の自分(経済力がない)があることを自覚した時●「置かれた場所で咲きなさい(カトリック信者の渡辺和子さんの著書)」という言葉を書店で目にした時、心に反発心が自然に出てきた時

●親がことあるごとに霊能者の言葉や占いに従って物事を判断したり決定したりすることに対して疑問を抱いた。

●高校を卒業し、強制的な宗教行事から解放された時、

このまま抜けれるのでは無いかと思った。

●進化論について知ったとき、同時多発テロや戦争のことを思ったとき、他にも宗教があるのにそれらを否定する理由について考えたとき

●長老たちが教えを実践していない事。会衆内の人間関係の揉め事に巻き込まれて相談した時に、対応する聖句と一緒に読んで祈ってくれるかと思いきや、完全に個人の意見や好みからマンスプレイングされ、祈らないけどごめんねと開き直られた時、この人たちは神の経路でも何でもなかったと実感した。少し前からうっすら気付いていたけど確認作業だったのかもしれない。

●小学校の課外授業か何かで生命はどうして生まれたのかをグループで調べるような機会がありグループの友達数人と休みの日に図書館などへ調べに行きたいと親に言ったところ「生命は神がつけられたのだ」との主張のため外出は許可されず友達にも迷惑をかけ親はその場で専用の書籍を持ち出しその旨をあたから私に改めて教え込み始めたことがあった それ以前にもほとほと嫌気はさしていたのだが具体的に覚えている少し大きなエピソードが上記。

●信者の人（親を含む）や牧師先生の言動に裏表があると気がついたから

●東日本大震災以降にテレビ新聞以外の情報に触れて自民公明連立に疑問を抱き選挙活動を伴う教団活動から離れた。活動は教義と選挙活動と財務(献金)が同列で行われている。一般信者に話をしても苦い顔をしているだけ。誰も近づいてこなくなった。

●教団が分裂したことで、教団内にいた同年齢の親友と会えなくなった。そのときの家族や周囲の信者の対応がおかしかった。また、説教の時間に「レイプで妊娠した子供が素晴らしい大人になった。神様は素晴らしい」とか、「本物の神様を信じていなかったから、日本は戦争に負けた。原爆は当然の報い」とかそんなことばかり聞かされて、反感を持った。

●大学で社会学を学び、現政権に対して疑問を持った際に、連立政権である支持政党が教団の支持政党であるため

●インターネットを通じて、教団や信者が「世間」からどのように見られているかを知った時。

●最初から信じていなかったし、ただ母に付き合っていただけ

●熱心に私を勧誘してきた知人を見ていて、カトリックの考え方が怖く感じられた事は何度かありました。

●散々悪と叩いていた自民政権と支持政党が連立し、

自民党に対する批判を行わなくなり批判の矛先を民主党に切り替えた時。意味が分からなかったが、「教団や幹部のすることは正しい」とそのまま上の言うことを信じる信者を見て、「それは違うくない??正しいとは?」と違和感を覚えた。その時はじめて教団の教えは正しいというが、論理的な説明も碌にできないのでは正しさの担保ができないなと感じた。また、教団系の合唱団にいた際に、小学生が毎日30分や1時間も題目をあげているのを見て、なんとなくやばさを感じたこともきっかけとしてあったと思う。

●オウム事件

●全て。特にジェンダー。女性への圧力。

●洗礼を小学生の頃に受洗したが、思春期の頃や学生時代、本当に自分は神様を信じているのか、親や兄弟が信じているから自分もそうだと思っているだけなのかと自問自答し、教会から足が遠のく時期はあった。そんな時、親は放っておいてくれた。自分から聖書を読み神様と向き合った時に、自分自身の信仰心が生まれた。自分の子ども達を連れて教会に行ったり、教会の行事に参加していたが、思春期あたりからは子どもの意思に任せている。

●思春期だったからでしょうか。お墓参りや神社への参拝作法など、疑問を持つのと同じような感覚でした。

●二世の友達が集会に集まらなくなっていき、その理由が教義に矛盾を感じたからだと言われた。私自身も、義務教育を受けている時に周りとの違いや知識の矛盾に正面から向き合っただけで気づけたのが17の時だった。

●選挙活動、支持政党の不甲斐なさ

●支持政党の政策に納得がいけない。勧誘や選挙依頼の方法についても納得できない

●はっきりとは覚えていないが小学生の頃は世間の常識と教義との差がわからなくて鵜呑みにしていたのが成長と共に受け入れられなくなったのだと思う

●（一応キリスト教徒なのですが）一神教に対するうっすらとした疑念を中学生の頃から。草木国土悉皆成仏を知ったのもこの前後で、ふわっと折り合いをつけている。（たくさんの神様の中の一つの）

●友人が、過去に教団内では罪とされる行為（いわゆる「不道徳な行為」をしていたことを打ち明けたため、教団で教えられているとおり、罪を教団の地域グループの指導者（「会衆の長老」）に告白して悔い改めていることを伝えれば許される、と勧め、友人がその通りにしたところ、その友人は許されるのではなく、逆に罪人として教団から追放されたときに「表向きで信者に教えていることと、実際の教団の処置に矛盾がある」

と感じた。

●一家和楽の信心を謳っているのに、私の家庭内がボロボロだったこと。

●どんな年齢、国籍、性別、経歴の人でも幸せになれると謳っているのに、犯罪を犯した信者が辞めたことを他の信者が喜んでいてのこと。

●世界平和、宗教間の争いはあってはならないと言っているのに、他の宗教を毛嫌いしていること。

●宗教戦争が勃発して、家庭内で争う仏など嘘だと思った。

●選民思想と男尊女卑をふわふわ隠していることが気持ち悪く感じてきました。私に「楽園にいきたいのはどうして？」と聞いてきた姉妹が想定していた「神を愛しているから」ではなく「永遠の命を得たいから」と言ったときの姉妹の顔が鬼のようでした。私は大人しく見える方ですが「しおらしい、穏やかだね」と言われることに反感がありました。決定打はコンバージョンセラピーの結果、信者になった兄弟の記事を肯定的に書いてあり、それを大勢の人が喜ぶべきこととしていたことでした。

●大人になってからあまり真剣に取り組んでいなかったため、教団以外の方が書いている書物などを読んだり、ヨガなどを通じた教えなどを体感し、教団の教えはなんだかおかしいと思い始めました。

●私の周囲に怪しい人や、人間的に危ない人は居ませんが、本当の教団が見えない。

●ハルマゲドンで信者以外が滅ぶという教義です。学校の友達が全て滅ぶというのがきっかけかも知れません。

●なぜ他の家でやっていないことを我が家では強制的にやらされていることに気づいた時

手かざして病気が治ると言っているのに中年男性が早くして亡くなったり、母の病気が進行したり、頑張っても自分が認められるわけではなく神様のおかげだと言われ続け感謝を求められたから。

●とにかく普通になりたくて、義務教育の中で「他と違うことの違和感」が大きくなったから。

●このまま死ぬまで信仰を続けていくなら、もっと教義を知らなければいけないと思い自分で色々調べうちに、教義の浅さや矛盾に気がついてしまいました。

●記憶にある限り、初期から参加したくない、と思っていた。いじめの原因になったことも、暑さ寒さを我慢して集会や布教に行くことも、永遠の命や災害のない世界が死後にしかないということも現実感がなく、幼いながら納得できていなかった。

●罪許されず汚れたまま地獄行きの未信者という区別をしながら、清い信者の実質が伴わず我儘さで他人をコントロールしようとする教信者や牧師の存在。

●間違えば大人や神から怒りを買う恐怖、不安

●この宗教を信仰する人は素晴らしい、正しい、というように教えられたが、親が他の信者と特定の信者について悪口●陰口を言ったりして、子供ながらに「正しい人が陰口を言うのか？」と矛盾を感じ疑問に思っていた。また、親の信仰心の評価が高く、周りから素敵な親であることをいつも言われていたが、実際は親同士で喧嘩が絶えなかったり自分に対する親の態度(留守番ばかりだったり)に納得がいかなかったりで、宗教の存在、重要性が家族よりも上回っていることに疑問を覚えた。この宗教を広め、みんなを幸せにするのが目標と教えられてきたが、他の宗教を信仰すること、宗教を信仰しないことが幸せである人もいるだろうと思っていたので、その矛盾にもやもやしていた。

●神の存在

●コロナ禍で活動がなくなり自分で考えるようになった

●母の脱会。10歳のとき。

●選挙活動

●教えや活動に矛盾は特に感じてないです。個人的に共通意識を広くたくさんの人と持つことが宗教だと考えているので、その概念から逸脱はしてないと思います。

●選挙への参加がだめ(学校内でも)。校歌、国歌を歌うことがだめ。クリスマス、誕生日、正月は祝わない。お葬式、法事への不参加。学校で教わることや一般的な本にかいてあることと母親の言うこととの相違。

●組織の責任者の態度

●無理矢理参加させられる同時放送という集会で教団トップの話は空っぽだと感じた。何故こんな俗物が尊敬を集めるのか、全く分からなかった。

●やたらと会合に参加連れ回されてた時、人それぞれ合う合わないがあって、家族ですら性格が違うのに何故同じ思想を信仰しないといけないのかと疑問に思った

●疑問は抱いてはいない。今も信心している。ただし組織とは距離を置いている

●ジェンダーの考え方に偏りがあったこと。

●きっかけは特に記憶にないが、幼い頃からとにかくおかしいと思っていた。

●お金のかからない宗教と言われていたが財務という名目で集金があった。

●一般的な神社に友人と初詣に行くことを親に止められた。

●私自身は「聖書はしょせん人間が書いたもの」と初めから考え、自分の考えを口にしていたが、両親は「聖書は聖霊が預言者に書かせたもの」と何度も「訂正」された。私には聖書の内容は荒唐無稽で時代錯誤と幼い頃から感じていたが、家族や信者は何の疑いも抱いていないのが怖かった。良い事が起こると「神様のおかげだね」といい、悪い事が起こると「神様が試練をお与えになったんだね」といって何でも神様にせいにして、自分の頭で考える事を放棄してしまう事に恐ろしさを感じた。

●どこかのネット掲示板での教団に対する批判的意見に反論しようとして。

●高校生くらいになると、はっきり一般社会の価値観や常識との違いを感じて。協会の人たちは幸せそうじゃないし、自分は自由に生きたいと思った。

●財務という名の献金により、信仰心の厚さを判断されていること。支持政党支援活動にうんざりしたこと。

●日本会議に属していると知ったとき。櫻井よしこさんのチラシを配られたとき。

●「神がかり」と呼ばれる身体の震えのうさんくささ。信仰を深めるほどに不幸が増していった家族関係。母の叔母が大金を教団に寄進していたこと。それまで住んでいた家を母、姉、父、私、あと店子さんたち（当時アパートをやっていたので）が、母の叔母によって追い出されたこと。

●入学した大学で色々な人と出会ったり、色々なことを学んだりしたことが、きっかけだったと思う。もっと言えば、学友に恋愛感情を抱いた経験が大きい。

●信者でなくても心から尊敬できる素敵の人が沢山いると実感すると共に、信者であるにもかかわらず自分がいかに卑小な人間であるかとも思い知った。また、宗教的に悪とされる人間の欲望が肯定されるべき人間らしさであることも、人文系の学問を通して学び得られた。"

●父の商売が傾き、希望する進路に影響が出た上に家を失った。

●母が信者仲間からいわれない悪口を言われていると聞いたとき

●小学生の頃から教団に疑問を持つことは度々あったが、神を疑ってはならないと考え蓋をしていた。はっきりと覚えているのは、中学生の時、なぜ天皇が神の末裔だとわかるのかと思いついて父親に聞いたところ、そのように決まっている、それ以上言うとは殴る、と怒

られ、具体的な説明が無かったため。

●大学進学できない未来に不安を覚えた

●高校進学など、自分の進路を決めるなどの話をする、かならず信仰の話や名誉会長の話になり、非現実的だと感じていた。御書という經典のようなものを学ぶが、知識や物語としては覚えるものの、全く信じられなかった。

●大学に入って、客観的な評判を聞いた時。また、一人暮らしの家へ勧誘が来た時。

●人任せな人の集まりだと理解したとき。

●一番仲の良い友達と遊んでいるときに、偶然近くにいたおじさんが教団の悪口を言っていて、その友達がそれに同調していてショックを受けた。そこから、もともとぼんやりとおかしいなと思っていた、両親の活動や教義(読経をすることで上手くいく)に疑問を抱くようになっていった。

●応援しているのと別政党を罵っていた親と同じ言葉を、応援している政党に向け発した際に、ひどく叱られ理不尽に思った。

●強制されたものではないが、教団の役職については仕事、家事、子育て、教団の会合等で多忙になり、心身の健康を損ねてしまったこと。

●教団の会合で放映されていたビデオで、「世界中の人々がみんな信者になれば、平和が訪れる、みんな幸せになれる」と豪語しているのを見て、「これって洗脳じゃないか、それはさすがにおかしいのではないか」と思ったことがきっかけです。

●2018年の沖縄知事選。普天間基地問題。

●母に誘われ、しかし霊友会の合宿とは知らされずに参加した、山で1泊2日の「修行」を行う場で、信者の方に向かって幹部が「導き」つまり勧誘を必ず何人誘うか宣言をして発表しましょうという催し？があった。それが個人的にとても気持ち悪く感じたため。

●2ちゃんねるでめちゃくちゃネタにされてるのを見て。

●教団内では聖人の唯一の正当な系譜だ、とされているにもかかわらず、あまりいい話題でメディアに取り上げられることが少なく、完全に少数派とみなされている点。家族もあまり他所では(信者間では別ですが)信仰の話を表立ってしない点(優れているのであれば堂々と信仰を表明すればいいのに、なぜ?という疑問)。信仰していても家族や自分の身の上につらいこと続きな点。以上のことを中学生ぐらいの時に感じました。

●うちはお金持ちではないのになぜ私の小遣いや祖母のわずかな年金まで寄付に回さなければならないのか。

寄付のためにこんなに色々我慢しなければいけないのかいつも思った。

●小さい事は単なる毛嫌だったが、だんだん納得して、ガチの活動家になった。しかし2010年ころ、教団トップ氏が会合に一切出なくなり、たまに出る顔写真の生気が無く、これはただ事ではないと思い始めた。初めて教団トップ氏が成人君子である、との内部指導を疑った。がそれでも信じる心が強く、自分が仕事で行き詰まり出したことから、教団トップ氏の側近らの告発本を初めて読み始めた。ぼくは普段は営業をしているが、宗教とビジネスは考え方が相容れず、悩みが解決しなかったことも、告発本を読むきっかけになった。がその前に、検索して、活動家だった教団信者の多くの人が脱会し、教団に利用、搾取されてきた、とのブログにたどり着き、それも告発本を読むきっかけになった。そして教団が、教団への批判内容が書いてあるものは読むな、見るな、と言っていたが、その告発本を読んで、教団や、支持政党のスタンス生じるスタンスの矛盾に、納得できた。なんで自民党を組んだのか、庶民の政治と言っておきながら、支持政党は権力者の味方なのか等々、1冊300ページほどの告発本120冊ほどを読み、すべて理解しました。教団は表向ききれいごとを言ってる、末端を利用しているだけの、悪質な宗教だったんだと。信教の自由は守れ、とか言ってますが、極論宗教要らない、と私は思ってます。もしくは個人ではやるのは良いが、団体になると、必ず利害が生じて、理想論は実現不可能なのだと思います。ただモラル、倫理観、道徳が無いと、動物みたいに弱肉強食になってしまって、そうした社会が良いとは思いません。なので規範は必要であり、SNSが発達した今、世界中の人々が、最低限のモラル、道徳等、そうした価値を共有して、よりよい世の中を築いていくことを期待しています。

●信仰に熱心な母親が、徳を積む。と云って、教団新聞を毎日2部購入していたのと、親類縁者に対する選挙活動（どちらも上の指示と思われる）。

●湾岸戦争時の支持政党を支持したこと

●「誰でもイエス様を通してでなければ天国に行くことはできません」という教えに対して、「じゃあ、物心つく前に死んでしまった赤ちゃんは？」「キリスト教が伝わっていない土地（例えばアマゾンの奥地とか？）の人たちは？」と思い質問したが、誰も納得のいく答えを返してくれなかったこと。

●それから、教会の人たちはよく「このみことば（聖書のフレーズ）を通して、こんなメッセージを（神様

から）いただきました」というような言い方をするのだが、それがなぜそう言い切れるのか（思い込みや自分の勝手な解釈ではないと言えるのか？）が、本当にずっとわからなかった。一方では「勝手な解釈をしないように」的な教えもあるのに、その違いについては全く教えてもらえなかったの。

●選挙活動や非科学的な体験談を信じる信者たちの姿に疑問を感じた。

●活動する意義がわからなかった

●友達はやっていないこと

●2ちゃんねる上での教団への非難コメント

●物心ついたときから教会に連れて行かれていたから疑問にも思わなかったが、小学校に入ってから教団の鼓笛隊（習い事みたいなもの？）に毎週日曜日が潰れて他の子にはそれが無いのに愕然とした。

●教団の小学生の合唱団に入団した際にとっても性格の悪い奴がいた。当時信者はみんないい人だと思っていたのでそこから疑問に思うようになった。

●多くの二世たちは、教義は小さい頃から生活の一部になっています。私の場合は両親のような信仰があるわけでもなく、ただ両親に喜んでもらうためだったり教団の信者から不信仰者と言われたいため良い娘であろうと頑張ってきたように思います。また、教えに反した生き方をすると自分だけではなく家族も地獄へいくと教団から教わるので、恐怖心もあり自分が納得いかない嫌なことでも、神様の願いだからと言われると受け入れなくちゃいけないと感じていました。ただ、教会の教えが神様の喜ばれる幸せな家庭を築くことなのに、自分の両親は仲が悪いし、自分が好きな人となぜ私たちは結婚できないのだろうと幸せそうな教会に属していない人たちをみる度矛盾を感じていました。私の知っている教会の家庭は苦しんでいたり、夫婦お互い嫌いあっていたり、幸せそうではありません。今回の事件をきっかけに色々な人たちの声に触れ、初めて自分は自分の生きたい人生を歩んでもいいんだと思うことが出来ました。

●個人崇拝を強要される。私生活がない。親子の関係に信仰が入り込む。信仰が理由で夫婦喧嘩が絶えない。幹部の意識が古く、しばしば叱責される。組織の人間関係が複雑で面倒。勝手に役職につけられてノルマを課せられる。馬鹿な幹部がいる。

●本当に大変な思いや生活をしているひとに手を差し伸べなかった時

●集会の際、信仰によって得た、奇跡の体験を聞かされる時間があつた。どれも、ただ運良く交通事故を逃

れたり、病状が予定より早く回復したりという内容を、教祖が守ってくれたと、教祖を崇め、教祖にお礼の言葉を3回復唱するのが決まりだった。幼いながらも、気持ち悪いなと感じていた。

●小さい頃から勤で、また私自身の子育て中に私の母が軽度知的障害とわかったときから

●自衛隊海外派遣で支持政党が賛成した時。それでも支援活動をしなければならなかった時。

●病院にかかれない。薬を使えない。

●信心していた伯母が、親戚の前で祖父のお葬式で包丁を振りかざしているのを見た。「自分が一番面倒をみた」というような内容だった。この宗教は人を救わないなと思った。

●献金、新聞購読、無償の選挙応援●新聞配達、関連団体への寄付、仏壇や数珠の購入など自分の時間やお金が取られるのが当たり前で幸せにつながると言われても自分にはそれがイコールにならないししんどかった。しんどい。

●祈ったり、焼いた紙を飲んだりしても、運命が変わったりするはずないと気がついたので。

●自分の努力を信心のおかげとされて悲しかったので

●目に見えない神を信じることに科学的合理的根拠を見つけられなかった（見つけることができないことが耐えられなかった）

●具体的はきっかけは思い出せません。神の存在を身近に感じるができなかったのもそもそも熱心な信者ではなかったのだと思います。

●やらないと不幸になると言われた時。信心を本気でやらないならいままでの養育費を返せと親から言われたとき。

●熱心に信仰していた祖母が病で亡くなってからあまりにもしつこい活動への誘いが全て自分に来て嫌になった。辞めたいと言ったがやめられない。

●インターネットで宗教の悪口を見て、良く思わない人もいと知った時。また、雑誌で教団を悪く書いた人が失明して苦しんで亡くなったという話を、教団の人が集会にて嬉々として語り「仏罰(?)である、教団を悪く言う人間は苦しんでみじめに死んでいく」と心から当然のように話しているのを見たとき、平和的な宗教と言っていたことと矛盾を感じた。その人が話した後、拍手が起きたことも悲しくて嫌になった。敵対する相手であっても、苦しんで人が亡くなることを喜ぶような人間になりたくないと思った。

●お寺側と本家との対立らしい事が起きた時。友達の親がお寺側だったようで私はどちらか知らなかったが、

あちら側の子と遊ぶなと言った話をされたようで何故なのか分からず、疑心しかなかった。

●科学的でないと感じる教えがあったため

●イラク戦争で支持政党が賛成したこと

●勧誘がきっかけで友達と疎遠になった事。勧誘の時に「騙しているわけではないが、(事実と違う事を言って)〇〇に誘え」と立場が上の人に言われた事。信仰していれば幸せになれる＝信仰していないなら不幸なのかと疑問を持った事。信仰しているおかげで〇〇が出来ると言われ続け、自分が蔑ろになっていると思った事。

●政治への介入。選挙前だけ私の古い友人や家族に連絡を取り会いに行く。恥ずかしいし迷惑だった。家族で過ごす時間を宗教活動に充てていた。お寺との揉め事で新聞に週刊誌のような悪口を書かれていたのを見て世界平和に程遠い罵り合いに違和感。

●善人と思っていた他の信者が、教義と反するような陰で悪口言ってる、あれ?と、些細なことで気付きはじめた。

●精神疾患を未成年で未治療、教会長に一気断薬を指示されるも、母が必死で教会長をかばう。70代の母がマスコミへ話すなど、本当に自殺しそうな雰囲気電話するので、ここで吐き出させていただきました。

●311の原発事故のあと、支持政党が東北の復興支援として修学旅行を誘致使用としていたことを知ったとき。

●同性愛はダメだと言われたとき

●自分を押し殺して生きていくことにしんどくなった。好きな人ができたとき、教会の言っている祝福結婚が嫌になり離れた。

●入ればまた聞こえるようになるよ、は絶対おかしい間違ってると思った

●自分の宗教上の地位をあげるために、無断入信を繰り返していた

●記憶がぼんやりとしているぐらい小さな頃だったのですが、「題目」を毎朝晩に唱えることが大事な活動とされているので、母が自分に一節ずつ読み方を直接教えていました。なぜか、途中でどうしても発音しなくなり、声を出せず押し黙り続けていたら逆上された、ということがありました。大人になった今振り返れば、もしかしたら母の高圧的な態度に子どもながらに対抗していたのかもしれませんが、あるいは本能的にやりたくないことだ、もっと言えば嘘っぱちだと感じていたのかもしれませんが。

●信者以外にも優しい人や良い人は沢山いるのに世の

人は全て悪という教えには子供ながらに不信感がありました。父が反対者だったこともあり、心から信じたことはありませんでした。

- 日本国憲法の条文の内容を知ったこと
- 会合や教団新聞など、同じ信仰者同士の秘密結社のような関係性に違和感を感じたこと。母と祖母が毎日大声で題目をあげる姿に意味を感じられなかった。
- GLAYのTAKUROさんが好きで、中学生の頃に彼の話の聞いている時に、「人の生き方はその人が決める、私は望んで入信したわけではない、よって活動や教えに則った生活を送る必要がない」と思った。信仰心や入信をしなくても自身での信条や指針は決められるし選べる。さらに、他の宗教のいいところ取りもしてもいい。2世3世として入信しているが、望んでいないと意思表示をしている私に対して執拗に活動を求める他の信者の圧に疑問が湧いた。また、教団新聞の購読や選挙の票集めに厳しいノルマではないが、報告し合う仕組みがあり、政教分離や自由と強要や思考の停止などを違和感のあったことが、おかしいと気付いた。
- そもそも親が懐疑的だった。
- ネットで教団についての批判を見たとき
- 科学的に考えたときの聖書の記述の矛盾
- 選挙前に政治家の人が朝起き会に来て握手だけして回って帰っていったり、年に一度武道館での集会？があり、そこに当時の小泉政権の人が出席していてニュースになってたのを誇らしげに語る親や信者の人を見て、抛り所ではないのかと気づいたことがきっかけです
- 遠藤周作の本を読んで
- 小学生の頃、教団の子供向け行事で山登りをしたとき、音楽を聞きながら登っていた子がいた子がいた。音楽を聞いていることを大人から注意され、その子はしんどいのを誤魔化すためだと伝えた。そうすると、大人からそれならお経をとえなさい、そうすれば元気が出ると言われていた。好きなもので誤魔化しているのに、好きでもないもので誤魔化せるものか、と思ったのを覚えている。大人になった今では、何かあったときに音楽を聞いていて、声での伝達ができなくなるのを防ぐための対応だろうと思うが、当時は信仰への不信感を感じる要因になった。
- 肉食を禁じていたことから。
- 子供の頃から、冊子や書籍を読み漁っていて、教団が「解釈の変更」を繰り返すことが「偽預言者」の行いそのままと感じた。
- 理科で猿から人間に進化したという内容は、聖書と

違うので戸惑った。

- 片方の親が無宗教だったため
- 特定の政党に入れようといまが言っていた時
- 教団内では進化論を否定してるのだが、科学の本を読んで勉強するうちにどう考えても進化論のほうが正しいと思うようになったから。
- 献金ノルマのことや、コアな教え以外に怪しげな付属信仰がいるいるあって変だなと思いはじめた、(教祖妻母の霊が降臨してるとされる人が指導するナゾ修行や、別宗教がなぜか傘下に入るなど…)
- 小学校で同級生に自宅での宗教活動の話をした際に話が通じなかったとき、自分のうちはちょっと違うんだということに認識した。
- 宗教二世がテレビやインターネットで悪い意味ではやり始めた時。
- お題目は素晴らしいが、金と権力争いを本部がしている時点で矛盾だらけだと思った。
- 教団施設に名誉会長の名前を冠したものがあり、これはおかしいと言ったら親から怒られた記憶があります
- 読経するよりボランティアの方が実際の人助けになると、なんとなく思ったから。
- 親類が全て教団の信者ということ
- 女性だけは結婚の有無で所属が分かれてたこと
- 20歳を過ぎ、選挙活動が始まり、疑問を感じるようになった。
- 父の病気をきっかけに母の信仰が強くなり、もともと私への信仰の強制がほぼなかったのに、強制するようになった。
- 女子部婦人部などカテゴライズされること
- 親の宗教への献身的な姿勢と、それをわたしに強要してくることが辛く、幸せになるための信仰なはずなのに苦しいばかりで幸せではないではないか、と感じたため
- 面倒くさくなった
- 選挙のために神社に行ってはならないと言ってた大人達がそういった祭りに参加しだした時。宗教組織が支持してる政党が戦争を支援する政策を支持した時。
- 恋愛禁止の教え
- すべてです。第三者の視点に立った時、母親は狂信者なのだと思います。
- 〇〇をしなければ幸せにならない。幸せになるために〇〇をする。みたいな発想に疑問を抱いた、信仰していなくても幸せそうな友達が周りにたくさんいたから。また、教団内部でも世襲や派閥争いのようなこと、

また信仰者とも思えないような発言をする幹部がいたから。

- 毎週日曜日の礼拝が面倒すぎたので
- 幼い頃、教団が日蓮宗から破門された時です。まわりの大人たちは明らかにおかしかった。お坊さんの悪口ばかり言ってました。幼いながらに、その悪口が幼稚なものであると感じました。
- 献金を求められる。生きている人間が信仰の対象。
- 一番親と接したい時期に親が活動のために家に居なかったことがきっかけかな、と。でもこういう風に言葉にして人に説明出来るようになったのは大人になってからです。子供の頃はうまく言葉に出来ず、ただモヤモヤ~としていただけのように思います。
- 信仰していれば幸せになると教えられた自分より、他の友人たちの方が幸せそうに思えた。会への寄進に何か面接があり、そこまでして寄進を確約させるのに違和感があった。長年「長いお経の中で1番大事なところを抜粋しているので、これだけ唱えて勉強すれば大丈夫」と言っていたお経を突然さらに抜粋して、大事だったはずの大半を無かったことにした時におかしいと思った。他の信者が何も知らない友人を騙し討ちで会に連れてきて、怯えさせてしまった事に罪悪感を覚えた。他信者の態度や荒唐無稽な話などについていけなくなった。
- 自分の名前がキリスト教に関係する名前をつけられたと意味を知ったとき
- 祈っても悩みの直接的な解決にはならない。具体的な対策を一緒に考えて欲しかった
- 疑問や矛盾は子供の頃から感じていたが、罰が当たると教えられていた為、その思いが浮かんでも打ち消していた。最終的にはネットを見るようになってから少しずつ恐れが無くなった。
- 中学生になり、自分の家庭が周りとは違うと気付いたから。あと、母が何から何までその教団の神様のおかげだと言うのにも疑問を持ったから。
- 大きい大会？に参加させられて、無理な勧誘を促された。他の方も私も辛くて自殺を考えた。
- 親戚の宗教に対する考え方を聞いて啓発された
- 大学で倫理学や哲学について学んだとき
- 教団以外は幸せになれないと言われた
- 体験談がいつもワンパターンだったこと。
- 献金をしたり教団の新聞をたくさん購入したりして、自分達の生活が苦しいのになぜそこまでしなければいけないのだろうと思っていた。
- 教団は宗教なのになぜ政治活動にも関与しているの

だろうと疑問に思っていた。

- 教団トップのことを神のように崇めており、会ったこともない人の事をなぜそのように思えるのか私には全く分からなかった。"
- 疑問や矛盾を抱くほど教団についての勉強をしてこなかったですが、単純に世間から良い印象が無い団体であると感じ距離を置くようになりました。また、純粋に願っていれば願いが叶うというようなことは無いと子供ながらに思っていました。
- 支持政党のやっていることと、聖人やトップの教えが違ってきた。
- 安保法案など、支持政党が与党になり、安倍政権時の動き方。
- 教団リーダーが表舞台に出なくなり、教団の幹部と支持政党の幹部たちが自民に擦り寄りすぎている。など
- 担任の先生から、皆の面前でその宗教は嫌いだ、間違った教えだとなじられ、周囲から避けられた時。宗教が正しい教えであるならば、本当に神がいるのであれば、何らかの助けがあるはずなのに何の救いもなく絶望していた。母から折檻を受けていた時も、神は何の助けも救いも差し出してはくれなかった。
- 物心ついた時から、周りは宗教入ってる人、入っていない人といるので、自分の家族はそうなんだ、くらいに思っていました。また、私の祖父や父は入信してなかったので、それぞれなのだと思ってました。自分は生まれた時から入信という事になってましたが。
- 反抗期の親への反発の一つ。
- 信者にいじめっ子がいたから
- 何かを頑張って成果を上げたとき、自分の努力には目を向けられず、神様のおかげになってしまうことに無力感を感じた。
- 宗教団体が売る掛け軸のようなものに 40-50 万円の値段が付けられていることを知った。その理由が到底納得できるものではなく、それを思考停止したまま普及し続けた教団側と、思考停止したまま買う信者たちの、双方に脱力感、徒労感、絶望感を味わった
- とても熱心に信仰していた方が突然信仰を破棄した事がありました。彼は長らく精神疾患を患っていて、祈れば良くなると言って私にも信仰の良さを説いていました。しかし信仰に傾倒するあまり本来やるべき治療をしていなかったように思います。考えにも信仰をしていたからこそ、認知の捻れがあったように見えました。信仰から離れた人にも教団はわりと冷たいように感じました。また私の母も不安が強い性格なのか、



信仰に反する事への不安から、私の行いについて口出しをしたり、支持政党への投票を強要まではいかないまでも、口出しをする事が多かったです。教団自体に献金の強要や靈感商法等はないと思いますが、人間の弱さや不安がある人が信仰に関わることで、行動がおかしくなるのを見て、新興宗教全体に矛盾や疑念を感じています。

●教会本部のある韓国から帰国するときに空港で信者がある信者の悪口を言っていたことに対して疑問を感じた。信者なのになぜ？という印象が強い。小学生と引率の大学生の数人グループで教会への勧誘を目的にして各戸を周ってチラシを配った。平日の昼間にアパートなどを周っていたから大体は留守だったが、大人の女性が出てきた時に、不審そうな素振りをされたことが印象に残っている。外からみたら教会は怪しいのだろうなと思った。

●産まれてすぐ入会させられ、物心つく前から集会に連れて行かれたり読経をしると言われましたが、きっかけとかそういう物も特になくただただ信じることができませんでした。ですが選挙前に電話をしていたり、私の友人の家に私を連れて行ったり、新聞を取ってほしいと頼んだりしていたり、それを上の人に何人かお願いしたと報告している母の姿を見てノルマなのではと違和感を抱きました。無理矢理連れて行かれた会合も、一心不乱に読経を上げる人々の姿や脱会した家が不幸になった笑う人たちも、坊主が憎いと堂々と言う人たちも、私にはすべてが違和感でしかありませんでした。

●同性愛者の友達がいて、同性愛は罪という教えに疑問を持った。

●物心ついたところに、父親が教団のやりかたに違和感を感じて脱会していたため、違和感を感じることはなかった。

●疑問を抱いたというより最初からそんなに信じたいなかった。期待されるのが嬉しくて頑張っていたが、あまりに忙しくて疲れてしまい、活動から離れた。

●「朝晩読経をしたらいじめはなくなる」と母親に言われたからがんばってみたけど、良くなるどころか悪化した。

●最初は小学校高学年の頃に、信仰している宗教があることを誰かに言うなと母に言われたことでした。堂々と出来ないことをやっている、母は子どもに嘘をつかせないといけないうことをしているのかと思ったことでした。幸せになるために教えを学んでいるはずなのに、実家はいつまでも貧しく両親はお金が原因でど

んどん不仲になっていき、幸せになっている実感がなかったからです。お金がないといつも言っているのに、ことあるごとにお布施を持っていき、学校行事にあまり参加してくれなかったのも宗教の集まりや行事を優先していたためだったのも悲しかったです。目の前の家族がどんどん不信感を募らせているのに、それが幸せになるための行いだなんて絶対におかしいと思っていました。"

●小学生の頃、教団の歌を唄わされたり、ダンスをさせられたりしたが、理由が分からなかったから。どの宗教でもそうだが、どれだけ熱心に信仰しても不幸なことは起こるし、努力が報われないことはあると感じたから。死んだことが無いから、死後どうなるかは分からないと思ったから。

●皆の父である父が何故家族に暴力を振るうのか何故母は黙って見ているのか、教義との乖離、学業で良い成績をおさめることを否定させ続ける、皆が参加する行事に参加出来ないなど世間との乖離を認識したときから。

●歴史や日本文化に関する知識が増えたこと

●終末論にうんざりした。

●単純に教団が悪で社会が善という意味の疑問や矛盾ではなく、人は成長と共にいろんな考え方に触れて自分の意見を持つようになるものです。教団にも社会にも疑問と矛盾を感じます。その疑問と矛盾を感じる頻度や大きさはむしろ社会(政治や経済システム、環境問題、格差問題など)に対しての方が大きいです。

●ハッキリとした入信みたいなのは無いんですが、気がつけば一緒にお経を読まされたりお守りを持っていたり…。単純に子供から大きくなっていく過程で、イロイロな家庭の問題は宗教も原因じゃないかと思いつめたからだと思います。まず、お守り持ってるやん！と気づいてカバンから放り出しました。捨てるまではしませんでした(笑) 行方不明。

●死んだ人は復活して楽園で永遠に生きる、という教えがあったが、今まで死んだ人すべてが復活したら地球に入りきれぬのか？という疑問に答えられる人がおらず、信仰心が足りないとか言っはぐらかされた。

●選挙に対して党や議員を宗教団体が推すのは間違っているのではないか

●矛盾だらけでした。具体的な内容は忘れようとして、めでたく忘れました。

●仏教では女性が成仏できないという事を本か何かで読み、本当か尋ねたら激怒されたとき。教団新聞で他の宗教を地獄に落ちる！のようなかなり強いトーンで

糾弾しているのを知ったとき。

●小学校入学して、学校生活に禁止事項が多いことから普通の家と違うのだとわかったこと。ほかの家の子たちはテレビを見ていて、全く話を合わせられず小さなストレスを感じたこと。図書室で本を読むと、本の中にはいろんな世界があり、教団はむしろ自由が少ない特殊な集団だとわかったこと。本で思想の自由や人権に関する概念を知ったこと。

●今まで死んだ人間は全員樂園に復活できるが、ハルマゲドンで死んだ人間は復活できないという教えに理不尽さを感じる。神に祈っても効果がないことばかり。あらゆる現実世界と教えとの矛盾。科学の方がより魅力的だったから。

●熱心に活動している人の人間性に疑問を感じたとき。内輪もめがあるのに世界平和とは、と思ったとき。他の宗教団体を下に見ているのに疑問を持ったとき。

●学校

●借金してまで献金してるのを見た時

●恋愛

●「教団の教え」というよりは「解釈の偏り」が顕著な集団にいた、と気づいたのは実家を離れて別の教会に通うようになり、また大学という新しいコミュニティに入って多くの考えに触れた事がきっかけだったと思う。

●仕事を休んで文化祭に参加する事が教団リーダーの為にやみたくない事を言われた。

●祖母は理由(母が若い頃患った病気を治したい)があって信者になり、母はそんな祖母の影響があって信仰しているのを知っても、自分も信仰できる気が起きなかった。記憶が曖昧だが、母からもっと行事に参加するようと言われた事があってそれに反発心を感じていたような。信仰すべきだというスイッチが入らなかった。

●結婚

●自身のジェンダーに違和感を覚えたことは一切ないのですが、小さな頃から女の子だから、男の子だからと大人に言われることにすごい抵抗がある子供だったので、教団のジェンダーを強化するような定義を耳にする頃にはすでに違和感を感じていました。一方で、お互い助け合う、特に弱者を助ける、正直でいる、嘘をつかない、法を侵さないなど倫理的に真っ当なことも強く求められていましたが、付き合うコミュニティがとても狭いので、修行僧のような事を求められると窮屈さを感じていました。

●離れて10年くらい経ちますが、ずっと真理だと信

じていました。信じているが離れている状態でした。子供を産んだことがきっかけで疑問を抱き始めました。

●教義が理解しようと思ってもどうしてもできない。教団である事で永遠の命を授かる事ができる、永遠の命が欲しいと思えなかった。他の子供のように、皆と同じ行事や恋愛を試してみたかった。

●学生の頃一人暮らしをしていたのですが、その時にその住んでいた地域の信者さんから連絡があり家に来られ会合への参加や新聞を取るよう言われた事。親が私の知らない間に携帯番号や住所を教団側に教えていた為、このような事になったから。

●考え方が合わない

●ある日ふと、なんとなく、神様がいるのかがよくなるからなくなった。キリスト教の神様と仏教の神様とイスラム教の神様と、どれが正しくて正しくないのかわからなくなった。

●数年前ですが『今年度信者獲得目標●●人』とか紙に書いて貼ってあるのを見ました。住職が檀家さんに「目標達成できそう??」とか聞いてるのを見ました。

●3才ごころ母が入信し、私にも教えたが、納得できなかった。しかしそのことは言えなかった。

●子供の頃布教活動に参加していた時に学校の友人に見られたくないと思った。

●2ちゃんねるの書き込み、元信者の友人からの指摘

●自分がアルバイトして得た収入から献金するよう言われたこと

●刊行物、SNS

●高校時代、うつ的になっても弱いからだとか信心が薄いからだと言われ、親は私自身より教義が大事なんだと思った。

●義両親が宗教二世、主人が3世、一緒にいるなら当たり前のような断りにくい流れで結婚決まった時に入会。義両親は、近所の方から、家の周りではちょっと扱いづらい存在と聞いた

●内容がわからなかったから

●日曜礼拝に出ていて、さっきまで各々お喋りしていた大人たちが、礼拝が始まったとたん皆が一つの方向を見て同じ言葉を唱えているのを見て「個」が消え「全体」になったように感じ、不気味に思いました。支配、洗脳、無力、無抵抗という印象を受けて、怖くなり抵抗しはじめました。

●子供をほったらかしで活動に専念させられたこと

●信仰の証を話さなければいけなくなったとき。何をすることもまずお祈りをする。その祈りが聞き届けられたり、本意ではないが別の形で結果が返ってきたとい

うようなことを話すことがある。まだ小学生で特に悩みもなかった時期に、小さなことを「祈りを捧げた結果で感謝」だと言わなければならない、こじつけていると感じた。聖書に書いてあることを書いてるまま実践しているのはこの教団だけだというとき。全世界に救いを広めなければならない、救われていない(洗礼を受けていない)と天国に行けないと言われるとき。小学生の頃は救われていない学校の友達はみんな苦しむことになるのかと怖くなった。名前が聖書由来なのでクリスチャンと言うと話がかみ合わなかったりして、ふとネットで調べたら新興宗教と書かれていた。世界史に触れたとき。日本で暮らし様々な宗教が入り交じった生活をしている中でキリスト教(唯一神)自体への不信感が生まれた。

●頑張って信仰しても上手く行かない。まわりの人は信仰がなくても普通に暮らせている事に気付いた

●選挙活動に熱心なこと

●中学生くらいの頃から「全宇宙と繋がる」とかの言葉に納得できない部分があった。自分の生きがいになるほど好きなアーティストができた時に、宗教を求めている人にとっての宗教ってこんな感覚なんだろうなと思った。(自分にはその宗教よりもアーティストの方が生きがい●抛り所となった)

●大学生のころ、友人や知人に対して信仰の勧誘を求められるようになり、会合など他の信者の前で、勧誘の決意を述べるよう幹部信者から強制されたことです。したくないと言っても、「確信をもって語れるまで題目をあげよう」などと言われ、勧誘をしないという選択肢が事実上認められないことに、苦痛を感じました。

●中学生になり、日曜日友達と過ごしたいと思ったため。教会について矛盾を感じたというより、日曜日に教会には行かず、友達と遊びたい、という理由でした。

●教会の教えに矛盾を感じたのは、もっと後で、大学の宗教学を受講した時に、自分なりに宗教とは何か、モルモンはどうか、を考えた時です。その時考えて結論付けたことについては、今でも同じ考えでいます。

"

●教えの内容とやっていると矛盾している。神様はお金なんか必要ないのにお供えお供えうるさい。決定打は、小さい頃に読んだこども向けの教義本の内容と、高校くらいのときに読んだ公式の教義本の内容が違っていったこと。都合の悪いことが書きなおされており、小さい頃に読んだ本の方が真実だと後に知りました。

●社会科の授業。ネットの情報

●授業は『政治(選挙)に宗教が関わってはいけない』的な事を先生が言った時に“アレ？めちゃくちゃ関わってるよね？”と思いました(笑)ネットの情報は、入信させられようとした人への嫌がらせ行為や世間で教団がどう思われているのかを知りました。

●同じことばかり。教えがおかしい。

●接心修行というのが昔は的確なことを言われていたのが、だんだん適当なことしか言われなくなってきたときに友人に共産党を応援している人の息子さんがいて、宗教って本来なら畳一畳でもできるんじゃないかと言われたのがきっかけ。そんな中で教団の周年行事に自民党の議員がコメントを寄せているのをみて、中立な団体だと思っていたのに政治家の力を借りようとするんだと思って更に疑問を深めました。それ以前にも父母の言動や行動と教団の教義との乖離からも、教団の教義が言う理想からは程遠い現状が繰り返していたのでそれも変だなと思っていました。

●題目を唱えればなんでも叶う。そんなことはないよねって思った

●一番決定的だったのは、社会人大学院生となり太平洋戦争下のことを調べた際、教義において肯定的に示されていたことの多くが日本の帝国主義及びプロパガンダに利用された言説であることに気づいたこと。

●子供の目から見ても明らかに生活のバランスがおかしかった。

●政治活動への意見

●自分の子どもを生贄として捧げるよう神に言われそれに従う話が聖書にあるが、幼いながらにその内容が本当に恐ろしく「神様はどうしてそんなことを信徒に強いるのか」「私の親も神様に命令されれば私を捧げるのか」と怖かった。その行為が正しいことであると心から思うことはできず不安と悲しみでいっぱいになったが、素晴らしい信仰心の話として語られていたため自分の正直な気持ちを誰かに話すこともできず、また熱心なクリスチャンである両親と同じように信心できない自分はおかしいのではないか、天国にはいけないのか…と悩んだ。なぜ自分の子どもを生贄に捧げることが正しい行いとされるのかが本当に理解できず悲しく、ずっとそのことが心の中にあり、考え続けていた。

●全然世界が平和にならない

●小学1年生になって、他の子の家や生活を見たとき。行事に参加できなかったとき。すぐに、この宗教の中にずっとは居たくない、いつかどうにかしてやめようと思った。

●選挙活動で両親が遅くまで家にいないことに疑問が

あった。とても寂しい思いをした。

●教団の行動と教団トップの思想と合致していないと感じ。具体的には2014の教義改定等。

●修学旅行で京都に行ったとき、親から「お守りは買っちゃだめ」と言われたとき

●信仰のおかげで結婚出来たといわれたくなかったの  
で、一切修行せずに婚活し今の夫に出会った。修行しないことも親の選んだ人と結婚しなかったことも怒られたし、二十代を青年部として一緒に駆け抜けた友達が私の結婚式に行かないよう指導されていた。

●小学校の社会の授業で政教分離の話題が出たときに、先生が教団と支持政党を例に挙げていた事を両親に伝えたとき、「それは先生が間違っている」と強く言われた。それなのに、成人して初めての選挙で特定の候補者に投票するように言ってきたとき。

●友達には言えない

●そもそも宗教自体が周りの人がやっていない（と思っていた）から。

●知らない間に入った。何もわからない時期からそんなもんに入れなくて欲しい

●信者ではなくなった兄と信者としての行動を強要される自分への母親の態度に矛盾を持つようになってから、自分の生活に不満を抱くようになった。

●「宗教ではない」と言いながら、「感謝を表すためにお世話になった人を陰で入会させなさい」と言って勝手に入会させて会費を払わせていたところに疑問を持っていた。

●宗教のために生きる人生に疑問を感じたから

●ジェンダー論を学ぶ機会があった為

●聖書のような本にかかっていることが違うなと思ったから。同性愛は気の迷いや、動物は体罰が好きなど。

●2世はそういう時期はあって当然だと思う。私もあったし、それを否定されもしなかった。自分で改めて考えてみなさい、という感じだったので。

●辛いことがあって相談してもお題目が足りないせいだと理不尽に責められるだけだった。

●成長していくにつれ教義の非現実さが見えてきた（ハルマゲドンがきて信者だけが生き残り永遠に生きる、死者も復活するなど）

●世間が新興宗教に対して批判的な目を持っていることを知ったとき

●私はやりました→拍手喝さいのような持ち上げが毎回続いてどうなのかと思った

●宗教自体について学ぶ機会はありませんでした。ただ、親の盲目的な態度に疑問を感じる要因なって（何

を言っても支持政党や教団が言ったことが正しいという姿勢）疑問を感じ利用になりました。

●すべて神様の言う通りというのは、自分がないみたいに感じた。

●信心をしないと不幸になる、信心をすると幸せになると言われて育ったが、信仰しても暮らしは良くなかったし、幸せの基準は人それぞれだと感じたので、それを母に伝えたら母と弟にいつかまた信心をする時が来るというような事を言われた。結局信心をしないと不幸なことに見舞われるというものであり、そういう思考の操作が嫌でたまらないです。

●信者に自分の考えに否定的なことをいわれたとき（信仰に関わる話ではなかった）

●信仰は疑えないので、何かあると、自分が悪いのだろうと思うようにしていたが、あるとき、信仰がなかったらこんなに苦しまなかった、と込み上げるように思った。

●中学頃から教義を学ばされ、初期段階で教義の矛盾に気づいた。親が他の宗教を認めておらず寺社仏閣へ観光でも行くのを嫌がっていた事に、小さい頃からなんとなく違和感はあった

●最初から

●教団が同じ系統の僧侶と対立し、仲違いしたことで、その懐の浅さに嫌気が差した。

●「念願」をすればお願いが叶うとされているが、叶わなかったらレベルが足りないからだと言われてさらに上の段階の資格を取るよう勧められる(お金がかかる)、両親の不仲(信仰があるのに幸せじゃない)、女だから男より劣っているとされるなど、色々なことが積み重なって

●同級生に比べて自由が制限されていると感じた。教団の他の子どもたちと会ったときなどに家庭によって教義に対する厳しさが違うと思った。

●興味本位でネットで検索してみたら、評判の良くない書き込みがあった。

●父親が教団の行事に参加してばかりで家庭を顧みなかったことから、周りの人を不幸にするものはおかしいと感じた。

●○他の宗教を認めない、邪宗という。○教団トップが平和活動を讃える割に、中国や朝鮮に対しての差別発言をしていた。○宗教が原因で夫婦不和だった、信者同士の見合い結婚だった為、DVを繰り返していても離婚をすすめる信者はいなかった。○教団に不信感を抱いて幽霊信者だった父親のお金を家族名義で黙って寄付にしたこと。十万？でも我が家には大きく、父

親は今でも事あるごとにこれを言い母親を罵倒する。  
○自身の結婚時、脱会への話しへ流れていた時期、実家かえると近所の信者から、どんな良い人と結婚しても信心がないと不幸が起こった実例を話された。

●6歳の時に母が亡くなり、信者である父とも離れたのですが母の葬儀（教団葬？）などで親戚や近所の人とぶつかる父を見て疑問を持ちました。

●発達障害があったせいもあると思いますが、勧誘や寄付活動に邁進する信者の方々のお姿が、大変失礼な言い方ですが、子供の自分にはよく理解できませんでした。また、児童向けの絵本なども教団が出版していましたが、気持ちがいびくなるようなものでした。

（現在の出版物はそのようなことはないと思いますが）また、みなさんで行う、いわゆる「読経」も子供だった私にはよく理解できなかったのだと思います。そして、今はそのようなことはないと思いますが、信者の方が訪ねてくるときは、決まって祖母が高額の寄付をしていました（遺族年金のことをご存知だったのでしょ）貧しい暮らしなのに、家の中は教団の出版物や数種類の教団の新聞で溢れており、子供ながらに「誰も読まないものを買わされている」という反発心が芽生えました。ただこれについては現在、寄付は個人的なものだからと祖母の行為に納得はしています。そして靈感商法のような悪質なものは比喩ものにならないと今回思い知った次第です。

●教義よりも教団におかしい人が多かったのだ。

●父親が借金して夫婦仲が悪くなり、家庭平和を謳っている団体なのに全然効果ないやんと思った

●世間の文化催事に参加しない、寺社仏閣に行かないなど、周囲と異なる動きをしていたのを覚えています。

●他の宗教の人や共産党の人やお坊さんなどに非常に攻撃的な言動をしていて、仲の良い友人の家庭の事をそれを理由に悪く言ってるのを聞いてしまった時に、納得できなかった。

●親が多額の献金をしており、貯金がないと知ったこと

●同性愛を禁止されたというか、異性との結婚を幾度となく勧められた。

●学校でも仲間外れにされたり虐められたりして友だちがいなかったが、宗教の中でも同世代の友だちがおらず、孤立していたため、宗教にいてもいなくても同じではないかと考えた。

教祖の考えには勉強になる面もあった。しかし、大学に進学し多様な価値観に触れることがきっかけで、送られてくる資料（証があったというような）の内容に

違和感を覚えた。青年会のような場に行くことも勧められたが、自分の生活が大事と思い、参加しなかった。

●クリスマスイベントなどに参加させてもらえなかった。他の友人と違うことに疑問を感じた。家族に幸せになるために日々の読経が必要だと言われた。宗教は信仰する人がするものであって強制されるものではないと思った。実際に家庭環境も悪く、信仰したところで幸せにはなれないと思った。幸せかどうかは信仰によって決まるものではないと思った。

●そもそも信じたことは一度もない

●勧誘活動があまりにも自己中で強引なこと。高校生の頃から勧誘活動を始めるようになったが、自分としてはなるべく相手に寄り添いながら行いたかったが、先輩や親から否定されもっと強引なやり方を勧められたこと。/悩みを相談しても祈れば全て解決すると言われること。

●自分の両親は信仰に熱心な方だったが生活全般うまくいっていない。

●熱心に活動しているのに父は酒乱で性格が悪いままだった

●小学校の頃…友達の家には仏壇がない…友達の家には宗教団体の偉い人の写真が飾られていない…近所の神社に行ってはいけない…七五三の行き先が寺…修学旅行に行かせないほうがよいと両親で話していた…写生大会のテーマが神社だったとき学校に話して私だけ違うテーマを描かせられないかと両親が話していた…図書館で借りた本にそんなもの読むなど怒られた。

●キッカケは特にないですが、私達が小さかった頃は「あなた達が大人になる頃には地上天国が出来るのよ」と周りの大人達に言われて大人も子供も希望に満ちて日々活動してた。それがいつまで経っても地上天国どころか貧しくなっていき、ついには教会の保育所も解散になってしまった。

●教祖の関係者が書いた暴露本を読んだ。周りで祝福結婚して問題が生じたカップルを沢山見だし、私と同じ年の教祖の息子は自殺した。そういう状況で疑問を抱くようになった。

●とにかく部活や勉強、漫画やアニメなど全部禁止されたまま生活していくのが苦痛すぎた。

●神はいるかわからないかわからないが、とにかく祈りが通じたことがなく、自分には「人生を捧げて神に仕えることができない」と伝えた。脱会してからもしばらく「ハルマゲドン（世界の終わり）が来たら滅ぼされるのだらう」という覚悟で生きていた。

●本気で悩んだ時な相談したら、ただお題目を上げれ

ばいいという答えが返ってきた時

●母は信仰していたが、父は形だけ所属していただけで信仰に対して批判的なことを口にしていただけ、信者が宗教にすがっているのが他力本願に感じた。

●もともと熱心になれなかった。宗教内の子供同士の人間関係が苦手だったため。

●性的マイノリティに対するバチカンの対応

●教団大学に進学し、学生部の組織活動として、自分の意思と関係なく、小学校時代の友人に布教の電話をするよう強いられたとき。またその後、似たような状況で、支持政党への投票依頼の電話を強いられたとき。

●エンドレス献金 教祖の不貞

●他の人とうまくやれない、自分の好きな事が出来ない

●小学生のとき、自分の学区の中学に通うことが嫌で親に頼み中学受験をさせてもらい、都内のプロテスタントの中高一貫校に入ったこと。それまで「いまの自分は、前世の自分の行いで決まっている（例えば、特定の人に嫌われている人は、前世で自分がその人にひどい仕打ちをしたから、など）」と教えられネガティブに育っていたが、通っていた学校の教えではそのようなネガティブな教えはなく愛情に包まれており、このような考え方のほうが好きだと感じた。

●最初は内部に流通している語りが一方的に教団以外を悪者にしすぎるものであることに疑問を感じました。この時点では小学生頃でした。

●中学生でネットに接続できるようになるとネット上での教団に対する言説は把握するようになりました。これは教団に対する真っ当な意見以外にも単におもちゃにするようなものも多かったため、信者であることは口に出す、誰かに言うことはできないという確信を強めました。

●数年前に従兄弟(従兄弟一家も熱心な信者で、従兄弟は教団大学にも進学していました)が自死と見られる形で亡くなりました。葬儀の際「きっとこの信仰がなければもっと悪いことになったに違いない」と叔父がこぼしていましたが、普段の口ぶりからすれば熱心な活動をしている彼らの元にこんなことが起こること自体がおかしそうなものだが、と思ったことを覚えています。

●現実には信仰、宗教が人に(特に子供に)かける圧、自分たちの信仰こそが正しいという考えに対する無頓着さに対する不信感が主なものですが、これは教団以外も世の中のおおむねの宗教に対して不信感を持っています。

●布教活動の強制

●万人を幸せにする教えの学校に退学者がいること。教えの純粋さよりも、教えを自分に都合よく使っている大人がいるなど感じたこと。(教義的●論理的につきつめて純粋な気持ちでいると、大人の妥協が不純に思えた)

●私の名前を両親では無い人がつけたのを寂しく思った時

●神様が本当に助けてくださるのかわからなくなった

●自分を含めて思春期を迎える頃が一番多いように思う。おそらく無信仰の家庭でも、子供が思春期●反抗期を迎えるとそれまでの家庭や学校、社会の価値観に疑問を持ったり反抗したりすると思うが、信仰のある家だとそこにもう一個のつかぬ形で疑問が出る。あと、ネットが普及した世代だと簡単に自分の所属団体へのヘイトや、団体●教団が知られたいくないだろう記事等を見つけ、動揺から疑問が募っていく。

●日々の実践や教えには賛成だが、教会誌や講演で世界情勢の話を取り扱うところは、宗教として正しいのか疑問

●クリスチャンの父に役員は生きがいかもしれないが、レジャーとか遊びに連れて行ったり、世間的なことを経験したかった。クリスチャンはマイノリティで、日本では運営を維持するのに一杯で、家庭を犠牲にするほどのものではない。キリスト教界はインテリな雰囲気でも世俗の人を下に見ているのは気に食わない。西洋でもクリスチャンは少なくなり、犯罪は暴露されようになった。

●同じ信者に変な人が沢山いたから。

●勧誘のノルマ。何人勧誘すれば、この講義が受ける資格があるとか。ジェンダー観も古い。抑圧的に感じた。

●母親が私を騙して入信させた事に気づいたため。(両親の夫婦喧嘩がなくなる、父がお酒を飲まなくなる、家族のためにお母さんの言うことを聞いて一緒に拝んでとお願いされたが、母親の言う通りの未来が何年たっても実現しなかったから。)

●幸せそうな人がいない。

●うつ病になり活動の量が減った途端、周りの態度が変わり取り残されるようになった。世間に居場所がない上に頑張ってきた教団内にも居場所がなくなるのは絶望的で、本当に神がいたらこんなことを許すだろうか？と考えるようになった。信者内の幼なじみが18歳で自死したり、重い病気になり亡くなる子も何人かいて、いずれも両親が活動に熱心で経済や家族を犠牲

にしたタイプだったので、熱心すぎる信者ほど不幸になっているんじゃないかと思うようになった。周りの信者や信者の子どもたちも死んだような目つきでぼーっとしている人が多く、本当に幸せそうな人はいない気がしていた。

●母親が他の宗教を否定していたこと。母親は熱心な信者だったが、信者の悪口を言ったり全く幸せそうに見えなかったこと。家族の写真を教団リーダー（教団トップ氏）に送ろうというイベントのようなものがあり、それは信仰とは無関係だよねと思ったこと。

●全て、毎日の祈りや信仰心で語る事。他宗教の批判など。

●教団トップ氏の指導と現在の教団の方針が違う

●街頭勧誘をさせたり、訪問販売させたり、祝福を断ったら、地獄に落ちるなどの脅しを受けた事

●教団と宗門の争いがあまりにも下品だった時

●キリスト教の教義を植え付けられて、他の宗教は悪、サタンとみなす考え。気がつくとき々な宗教が存在してるのに、これ一択で押し付けられた感が拭えない。

●2ch で教団をバカにするようなスレッドを見つけて、初めて自分がおかしな組織の中にいる事に気づいた。

●会長の指導と違うことを組織がしている

●部活がだめなこと、世の全てのアニメやドラマなどの作品や芸術に触れ合えなかったこと

●平和主義を抱えているはずの支持政党がイラク戦争でイラク派兵を容認したこと。それから数年後、近しい友人が亡くなった際に三世永遠と言われたこと。魂は残ると。肉体も何も死に目にすら会えない状況だったので魂ってなんだ？としか思えなかった。

●信者以外の人類を滅ぼすという神の善性に疑問を抱いた。

●将来教団がハルマゲドンを生き残り、他の人は皆滅びる、という教えに対して、5歳頃に幼稚園の大好きな先生や友達も滅びるの？教団じゃなくてもいい人はたくさんいるのになんで滅ぼすの？と疑問を持ちました。

●聖書の言葉と組織の行動が矛盾していた。(神やキリストよりも組織を上位に置いていた。児童虐待を隠ぺいしていた。)

●説教の内容が非科学的だと感じた

●仕事しだして、少しお金が手に入り、遊びたくても遊べない状況に嫌気がさして、なんでこんなに奉仕や集会に時間を取られるんだらうと思いついた事。

●言ってる事とやってる事が違う。矛盾が多い。信者

の親からの虐待。

●教団内のヒエラルキーのみを気にしている様な、利己的だと自分には感じられた信者の方に会ったこと。また、利他を重んじているはずの教団の中で、その人が位を上げたりしていたことを目にした時に疑問を抱いた。

●親のお金の使い方が計画的でない。他者の意見に耳を傾けない。

●信者同士で揉めていたり、会費の回収が執拗にあり、怒鳴られたりするようになったから。

結局は自分自身の気持ちの持ちようで幸せかどうか左右されるし、努力や工夫で成功するかどうか大きく変わると思ったから。

●母親が教団内の人間関係でトラブルになり退団したとき。

●私自身はあまり宗教を強要されなかったが、母親が亡くなった時、母親は信者ではなかったにもかかわらず、その宗教の方式で葬式をやられた。そのときに「これはおかしいだろう」とはっきり自覚した。その30年後（つい先日）父親が亡くなった。当然、父の兄弟たちは私の意思を無視してその宗教で葬式をやる気満々だったので、私は逃げ、その後一切連絡を取らなかった。非常に面倒で大変なことになった。結局葬式は出ず、遺産もすべて放棄し、完全に父親の一族とは関係を断った。

●私自身は、活動に参加していなかったが、熱心に活動し家庭をかえりみない家族の行動に疑問を抱いた。

●神の願いのために勉強したいのに、教会活動に取られる時間が多く勉強出来なかった事

●ネットの情報 もと信者のブログ

●10代後半で、特殊な世界にいると思いはじめた。多少世間のことをわかるようになったのだと思う。是々非々に考えていた。

●8歳の時、妙に他人や集団を高い位置に置き、家父長制に基き自分を家庭の支配者にして女子供を虐げる構造に疑問を持つようになった。他人目線・他人にどう思われるかしか軸がなく、主体性がまるでない…恫喝して萎縮させ尊大に振る舞うことが多くなるにつれ、ますます疑問が増した。個々の人権が蔑ろにされていることに、宗教の矛盾を感じた。

●美辞麗句を機関紙などで並べているが、幹部や役職のある者たちが、守っていない。

●幼稚園に入る前から放置され、小3の頃には兄から逃げるために夏休み40日間図書館に逃げている、流石におかしいと母に話すとはぐらかされた。

●愛や平和を謳いながら私には酷い暴言を浴びせ続ける母と、それを擁護する信者達に気づいた時。信者以外を「世の人」と呼び関わることを禁じ、背教者が書いた本やブログは読むだけでも躓きのもとになるから興味を持つことすらいけないと公演で言われた時。本当に根拠のある信仰を抱いているならどんな反対意見を見聞きしてもきちんと説明出来るはずなのに、情報を遮断するのはおかしいと思った。

●欧米での教団に対する児童性的虐待訴訟

●実家が仏教だという人が疑問を持たないように、私にとっても教が実家の宗教として受け入れている。ただ、積極的に信仰しているわけではなく、現在家族行事以外で教会に行くことがない。

●9.11 同時多発テロからのアフガン戦争を政権与党である支持政党が反対しなかったことの妥当性について、宗教団体幹部に相談したが、まともに取り合ってもらえなかった。

●両親の離婚。家庭崩壊。一日も早く家族から離れ縁を切りたいと子供の頃から考えていた。親も意に沿わない私を外に出したいと考え県外の就職を勝手に決めてきた。

●周りの友人の生活とかけ離れていたため

●大学卒業くらい。教団新聞の「啓蒙」の挑戦をしようと言われて、婦人部の人の友人の家に訪問、婦人部が教団新聞をお願いします。無事1部お願いできたのですが、その成果を私にあげるわ（私にきっかけを与えるための親切心っばい）、と言われた時、「このレベルの活動はちょっと無理！」と思ってやめました。大学時代2名の後輩が自死したのをきっかけに（信仰が直接の理由かどうかはわかりませんが）、当時文化人類学の先生が「人を殺す伝統だったらそんな伝統は捨てたらい」と言っていたのを思い出しました。佐藤優さんの影響で「ロシアもウクライナもどちらが一方向的に悪いのではない、戦争こそが悲惨なのだ」という人が増えたこと。（ええっロシアが侵攻してるじゃん！と引いた）かなり切り貼り編集の入ったトップのスピーチが目立つようになったこと。地道にホームレス支援活動、子供食堂支援をされていた先輩が本部からのかなり厳しい査問を受けたこと。各種個人的な（教団を通さない）福祉活動が、共産党っばい共産党が絡んでるのでは？と過剰に警戒され始めたこと。教団2世のライターさんが教団記事を書いた途端に発生したアンチアカウントの大量発生（二世の自由な言論に圧力をかけないでほしいな）。安保法案の時、教団の中での居場所のなさ。危険人物扱いしている人をたくさん見た時。与党であ

る事、パワーを持っている側でいる事の自覚のなさ。

●教えや活動は強制ではないが、自然と連れていかれていて、それ自体は祖母の家に行く感覚であったが、勝手に『信者証』を作成されていたのが分かった時、「信者」という明記がショックであった。

●教会の立地的にお金持ちの家庭が多く、貧しい人には福音が届いていないと感じ、教えと矛盾していると思った。

●病院や怪我を「みおしえ」といい、子の「みおしえ」は親の心や行動のせいであると言われたこと。

●部活動や日曜日の私的な活動が制限されることに不満を抱き、毎週ミサに預からねばならないことには疑問を感じていた。20歳の時にきょうだいが交通事故で亡くなったことをきっかけに、教義に疑問を抱くようになった。特に神父の「きょうだいが亡くなったのは神の試練である」という言葉には大きな疑問を感じ、その後、恐怖による支配や、カトリックの布教と植民地支配、政治的関与、男尊女卑について疑問が広がった。

●禁止事項が多すぎるが、「これって本当に聖書に基づくもな？」と疑問がでてきた。この宗教も所詮人間がつくったものなのでは？と疑問がでてきた。

●学校の友達や先生の常識との違いを感じ、両者を比べたときに教団側が正しいことを言っているとはどうしても思えなかった。

●教団として自民党を支持し続けている点。自民党議員が集会に「わたしも子供もおひかりをもらいました」と言いに来ていて、本当に信者なのか甚だ疑問しいと思ったし利用される子供も可愛そうだと思った。

●中2の際、姉妹で改めて宗教の話をして、おかしいよね?!と意気投合した。それまでは口にすることもしなかった。

●祖母が入信していた幼い時期(母は未入信)に活動させられたことがありましたが、祖母と離れて暮らすようになって活動もしないまま物心がつく年齢になり、ニュースなどで「あの宗教だ！」気づいて警戒心を抱くようになりました。その後祖母は脱会しましたが、私が大人になり卒業して仕事をする年齢になってから同居の母が入信し、さまざまなことを強要してくるようになりました(すでに警戒心があったため断ったり脱会するよう求めたりすることができましたがたまに根比べに負けて間接的に宗教活動を手伝わされることがありました)。疑問や矛盾点に気づけたのは、入信者の家族と離れたこと+義務教育で学んだ科学的に正しい知識や経験+大学で学んだ科学的態度+心理学+人間



として成熟してからの再遭遇だったおかげだと思いません。

- 脱会したい理由が無いので脱会は考えていません
- 支持政党のコロナワクチン推進。ウイグル人権侵害の対応。様々なことが点と点が繋がり、支持政党、教団は、世の中の害でしかないと思うようになった。
- 中学の時会の参加を断っていたら担当の青年部の男性から地獄に落ちると言われ中学生に言う言葉として呆れてしまいその時点で関心は離れていた。
- 最初は、親からお経を唱えればどんな願いも叶うと毎日言われて、じゃあ私が両親の関係回復を願えば父の暴力もおさまるのかと願ったが、全く叶わなかったから。ああ、どんな願いも叶うというのは端的に言えば嘘なのだ、信仰とはそういうものじゃないのだろうと思った。また、組織の偉い人が全国中継の会合で毎回平和を唱えており、対話すれば分かり合えるだの人間は尊いだの言ってくるくせに、次の話題で共産党議員を色々な言葉を使って罵っていたりしたから。
- インターネットで一夫多妻についての記事を見た時。
- 輸血拒否に疑問を持った事、真理を信じているはずなのにあまり幸せそうに思えなかった事
- (逆の立場の欄がないので…問いと異なりますがご容赦)。私は、病気やいじめにあったとき祈りと、自分の努力で状況を変えられた体験をして、自分で信仰を頑張るようになりました。家族はどちらかというところがんばってなかった？笑)
- 組織の教えが時期によって変化していったことです。過去には、具体的な西暦を示して世の終わりとしていたのが、いつの間になくなってたりしています。また、それまで交わっていた会衆から別の会衆が変わったときに、それまでのルールが異なることがあり、同じものを学んでいるはずなのにどうしてここまで違うのかと感じました。そのブレがあるような組織に、私は自由を奪われているのが理不尽だと思いました。
- 「生理中の女は汚い」と言われたり、「初詣に行っただけはいけない」と言われたりした時など。政教分離の原則を習ったときに、教団と支持政党が密接な関係である点に疑問を持ちました。
- 幼少期は貧しく精神疾患を抱えた親戚と同居しており、信仰していれば必ずしあわせになれるという母の話にまったく説得力がなかった。多少年齢を重ねてからは、生活費と称して母に収入のほとんどを献上していたのにフタを開けてみたら「財務」と呼ばれる寄付にそのお金を回し、多いときは100万円単位で寄付していたことを知った時。普段お金がない、お金

がないとこぼしていた母を少しでも助けなければと思っていた(親孝行をしると指導者が何度も言っていたので、その刷り込みもあります)ので、脅迫観念に近かったと思います。

- 単純に自分が選んだものではないと思った。
- 集会に集まる人達の統一性に疑問を持ちました。なぜ地域の違う人は来ているのに、同じ地域の人は来ていないのか等。
- 献金
- 寄付金、選挙活動、他の団体に対して排他的なところ。
- 夫婦関係が難しくなり精神的に辛くなり通院する中で自分が囚われている価値観が親に教わり教会や宗教系の学校、信仰の中で身につけた価値観で真面目に従っていたが為に自分が何者なのからわからなくなってきている事に気付いたとき。従ってない信者の家族の方がのびのび幸せに暮らしていると感じました。
- 教祖が、妻を愛の女神の生まれ変わりと言っていたのに、離婚した途端、あいつはサタンだった。更生させるために結婚した、と言っていた。
- 難しいが、最初から信じがたかった
- 長老の立場の人が間違いを犯した時、間違いを指摘したら注意された
- 親が仕事に忙殺され信心から遠ざかっていた時期に反発心のようなもので辞めたいなと思ったことはあります。かつては実質強制的に様々なことに従事させられたと聞いたからです。
- 祖母がなくなるタイミングで信心に復帰することになったのですが、強要されることはなく無理強いすることも諫められるので人間力を凄く問われる環境だと感じています。「不信を抱いたからこうだ」という言われ方はないですが、信心の強さによって結果の顛れ方が変わってくるというような指導は受けます。職場の査定で足りてないところを指摘されるといったことと同じ範疇なので自分自身は納得しています。
- 教会によっては、儀式的な部分よりも人間関係が色濃く、人との距離が近すぎる時があって、その感じが苦手であまり行かなくなりました
- 上手く書くのは難しいのですが、聖書が正しいものとして習うので、学校で習う歴史と違った時に違和感を感じました。(ここからは補足ですが)ただ、大人になってから振り返ると聖書は正しいというのもグラデーションがある気がして、全く文字通りに主張する人もいれば観念的な思想的な意味で言う人もいるので、差がある気はします。ただ、幼稚園や小学校低学年の時

から聖書は正しいと言われると、差っ引いて理解することは難しいという点でそこにも疑問は感じます。

●兄弟の非行に際し親の対応が祈りのみであり、祈ることで何ら改善がみられないことを直視せず非行は親自らの祈りが足りないことを理由にし根本原因を追求、理解しない姿勢から。

●お祭りに行くととても怒られた。

●教理内容と父親(牧師)は教信者の言行の不一致、教理内容の矛盾や独善性、

●東日本大震災のとき、神が人の愛を試していると言われた時。友人の子どもが性同一性障害で、8歳以下の子はサタンの誘惑を受けない(つまり、性別違和感を感じないはず。それはサタンがさせることだから)と言われていたのに、幼児で性別違和感を持つ子がいるということは、教会の教えが間違ってるのでは、と考えるようになった。

●信者の家族、親戚で誰も信用して関われる人がいなかった。言葉が汚い。教団新聞の言葉も会館内に掲げられている言葉も戦時中の軍のようで怖かった。集団でお経を唱える人達の声が必死で怖かった。

●科学的世界観との両立

●①無輸血で手術してくれた医師が、手術を受け入れた理由を教えてくれた時。②中学校3年生でできた友達は偏見のないいい子だけけど教団にはなってくれなかった。いい子なのに神様はこの子は滅ぼすのかと考えると矛盾を感じた。

●人と向き合うより、御本尊様に向き合い。話し合いをしない。信者以外を邪宗とバカにする。個人崇拜。

●2014年に発生した御嶽山の噴火で、私と同じ教会に通っていて何度も会ったことのある方が亡くなりました。告別式に参列したのですが、遺体を見るのは人生初でショックだったのを覚えています。テレビでも葬儀の様子が放送され、教会のことが話題になっていました。教会ではネットはサタンだと教えられていましたが、webメディアはどう報じているか気になり、インターネットで教会のことを検索しました。そこで目にしたのはコメント欄やスレまとめサイトなどで盛り上がっている教会のネガティブな情報。「霊感商法」について知ったのもそれが初めてでした。当時はまだ熱心に信仰していたので「えっ、世間からはこんな風に思われてるんだ●●●」とを感じるだけでした。しかし、教団に対しての小さな疑念が芽生える最初のきっかけになりました。

●終末を意味するハルマゲドンの到来が近いという教えが教団教義の基礎にあったが、各種の予言が外れた

ことに加え、予言が外れ続けても、信者たちが上層部に疑問を抱かない態度に怒りと欺瞞を感じ、教団を離れることを決意した。

●信者の不和。

●教え全てに否定的な気持ちがあるわけではありません。長く2世として育ち、宣教師のようなことまでやっていた時期に、自分の根本に信じ切ろうとしていない気持ちがあることや、人に勧めたいとは思えない気持ちに気づいてしまったとき。

●科学的な知識や神話などフィクションと信仰の区別がつけられない母親を見た時、同性愛やセクシュアリティの多様性を受け入れられない母親の姿を見た時

●支持政党の支持する内容が中道左派とは言い難いものになったとき。また選挙で支持政党支援をするのは良いとしても、何故友人にそれを勧めなくてはいけないのかと思ったとき。

●牧師の説教内容に納得できないことがあった。牧師夫人が命令することが、教義とは関係のない個人的思想に基づくことがあった。

●学校で政教分離と信仰の自由について学んだこと

●誕生前に親が入信していたため生まれたときから勝手に信者とされていた。自分の家が特定の宗教をやっているのを非常にいやだ、恥ずかしいと思っていたので、まわりのほとんどの人には家の宗教は隠していた(家ぐるみの知人は9割以上が信者だった)。そんな経緯で、自分自身が能動的に教団や教義を信じたことはない。一つ決定的に不信感を持ったのは、母親(長年幹部)が、まわりの信者にはともかく、自分の子に対しては「命」より教団内部での地位や体面を優先する人間だったと、その言動から知ったときだった。宗教者を自称しながら命を粗末にするのは許せなかった。

●輸血問題

●小学生の頃、周りの子と同じように初詣に行きたかったのに行かせてもらえなかったことから疑問を抱き始めて、高校の同級生が信者からの勧誘で嫌な/怖い目に遭ったという話を聞いて「幸せになるための宗教なのに他人を不快な目に遭わせる意味とは？」と思って気持ちや興味が一気に離れた。

こういったアンケートになるべく答えるようにしていますが、いつも二世には信仰があった事が前提です。生まれる前から母が信仰していても、全く信仰歴のない二世もいっぱいいます。特にネグレクト系の親を持つ二世はそのパターンの事が多いはずです。

●日本社会の大多数である「無宗教」「無信仰」の自覚のある人々との、様々な物の考え方の差異に気づいた

時。

●母親が嫌がっていた姿

●教団学園に通っていた際、感じた。行事前の時期に、毎日朝のホームルーム中に名簿が回ってきて、唱題の半数を書いて回すことが多々あった。唱題をしていること＝偉い、かつプライバシーなく公開されることに疑問を持った。(少数ですが、信者ではない方もいるにも関わらず実施されていた。)創立者に心配をかけるからと校則を守るように言われたが、その校則には恋愛禁止なども含まれていた。破ると内部推薦を取り消されるなど、厳しい処罰があった。(大学で解放され、男女関係でのトラブルが他と比較して多いと聞きます。中高時代に失敗から学べないからだと思います。

●教義に疑問はないが、それをもとに行われているはずの活動が、論理的に説明がつかず、疑問に思った。

●いじめが少ない、真面目に勉強する子が多いなど、良い面も多々あり、基本的に良い思い出が多いので、親に言われたとはいえ、学校選択に後悔はありません。が、活動を授業などを通して、強要される側面があり、辛い思いをしている子も周りにはいました。

●周りのひとを愛して助けあおう！と言う割に、教会内の人をイニシャルでよんで悪口を言い、気に入らない牧師を投票してみんなで追い出した姿を見て、なんだこいつらの偽善は、と驚愕しました

●仏さまに手を合わせるのわかるが、なぜ開祖家族にも手を合わせるのだろうと疑問に思いました。

●信仰によって幸せに導いてもらえると言われていたが、信仰していた両親が全く幸せそうではなかった。

●泣きながら祈っていたり、意味不明な講義の感想をたくさん書いているのを見たこと

●人間は死後生き返るのに犬は生き返らないと聞いたとき。その疑問に対する回答がとんちのようで言いくるめられたと感じたとき。

●生物についての進化論を否定された時。

●LGBT に理解がなかったから。

●小学生の時、家は仏教なのにカトリックなのはなんで？とうまく消化できなかった。告解の時だったか神父様に直接聞いたけど。どういう答えだったか覚えていないが、批判する内容でも、肯定する内容でもなかったはず。

●最初から苦痛だったが、母親が不機嫌になるので仕方なく従っていた

●祖母が毎日お参りし、水とご飯を上げていた仏壇を蔑ろにし、家計が苦しいと言いながらも高額でかなり大きな法座を購入した時。

●9.11 のとき、教会で「実は予言していた人がいた」と説教師が言った。やたらと真(まこと)の～とか言うわりに明確な嘘だし、後出しの箔付けならやらないほうがマシだと思った。

●論理的ではない教えを「絶対に正しい」と押し付けてきたり、子供の質問に親が答えなかったり、教えの中に矛盾点を見つけた際に。また、自分だけが特殊な生活環境にあると認識した際に。

●メディアや周りの噂が、否定的なものだったとき。

●世界平和やらなんやらを目標に掲げたり、成功体験を語られる場も多く設けられていたが、私が誰かに相談しても信心が足りないせいでと脅されたり責められたりするだけだし、中韓への差別発言を隠しもしない人達も少なくなかったので、結局自分が平和だと思う世界に閉じこもっていたい人達の集まりなのではないかと感じるようになった。

●ネットの情報を見て

●歴史上の出来事について、教団の出版物に書かれている内容と外部の出版物に書かれている内容が一致していないことに気づいたから。

●多分インターネットを見て、教団がインチキだと感じたんだと思う

●もともと世間とのズレには幼稚園の頃から自覚的だった。小学校に入学して、周囲の友達の家庭など自分の家庭の違いがよく見えるようになり、自由がないこと、将来を宗教によって規定づけられていることを具体的に想像し始めたのがきっかけ。

●自分が同性愛者だと気づいた

Q38 Q37で「1」～「13」に回答した方にうかがいます。脱会に至った時に、あなたが特に感じた困難はどんなことでしたか。可能な範囲で教えてください。無回答も可能です。

- 何度も誘われて困っている
- 教団の教えと世間のギャップ。行動や考え方が染み付いているので今でもコミュニケーションや仕事がうまくいかない。
- 親から「おまえのせいで家が不幸になる」と言われ、罪悪感と後ろめたさに苦しんだ。高校●大学在学中であったため、経済的な支援を受けられないのではないかと怯えていた。
- 学生の信者は「学生部」というチームに所属させられ該当地区の後輩(自分の他の二世)の面倒を見るといったシステムが確立していた為、各学生の実家に挨拶回りをする必要があり心身が疲弊した。
- 勝手に登録し、勝手に脱会手続きをしていた。理由は費用が掛かるから、と。
- アイデンティティの再構築。七五三、誕生日、お参り等やったことがないことが多く、非常識に思われそうだったのでTV等でせめて周りとお話するように嘘話を作り上げた。
- 自分で入信した覚えがないし自分の子供も勝手に信者にさせられていた。自分は希望していないと訴えても、母親は脱会の手続きをしてくれなかったので、取りまとめていると思われる方のところへ訴えに行った。真面目なんだねー、と意味のわからないことを言われた。
- 自分の選んだ人と結婚する時の、両親との葛藤。それまでの従順な態度を一変させ「祝福を受けない」と言った。親に涙ながらに祝福を受けることを懇願されたが、それを断固として断った。親が悲しむ様子を見て、親を裏切ったという罪悪感と申し訳なさで涙が止まらなかった。
- 支援が無かった。オウムのサリン事件の後は犯罪者扱いされた。逃亡犯がいる時期で、警察に匿っている疑いをかけられ追い回され、警察が親の職場まで来るため親は職を失い生活が出来なくなる。そのため隠れて暮らさなくてはならなかった。支援を受けることも出来なかった。上の選択は私の場合該当するか答えにくい。
- 親に対する愛着と感謝はあるが、親を否定し絶縁もやむなしと思う自身とのアンビバレンツ

●今までの価値観を全て捨てることになるので、足場がぐらつくような感じはしました。ただ、もう信じてはいなかったし、組織も母親も、嫌いだったので何とかなりました。

- 宗教に裏切られたという気持ち。
- 教団関係者の引き止めがしつこく、勝手に実家に連絡を取られそうになった
- 退職者は地獄に落ちると言われていたので、何か悪いことが起きると罰が当たったのかと思うことがあった。
- 家を出るしかなかったが、経済的な自立は大変だった。
- 社会不適合で、就職しても精神的にしんどい。常に疲れていた。
- お金がないので実家に住んでいるが、両親はまだ信仰しているので、家に居づらい。
- 母親との関係が悪化し、双方が精神的に不安定になって口論が増え、家庭内が険悪になった。
- 本部に内容証明で退会届(そういう用紙は無いので手紙の形式)を郵送したが、おそらく除籍処理はされていない。引越し先にも近隣の信者が何度か勧誘に来て辛かった。私自身、友人たちに勧誘をして来たことで、心を許せる人が居らず孤独だった。依存体質が抜けてないので、当時流行っていたスピリチュアルにハマったり、モラハラターゲットになったりした。そこからの脱却もキツかった。自分の核が無い感じ。
- 項目7。それまでの宗教的世界観を放棄し自由になったはずが、世間の世界観がわからない。脱会するしかないか悩んでいた頃からうつ病と診断され通院していたが、今でも通院は継続している。母親が流産した事(宗教的にNG)と、姉が問題を起こした事により1番上の姉以外全員脱会せざるを得なくなった
- 去る者を引き止めるなという教えらしく、辞める際の障害はなかった。一方、親の悲しそうな顔がかなり辛かった。
- 親が私の同意なしに私の分の入会や年会費の支払いをすべて勝手にやっているの、書類上は脱会できていない。本人の同意不要の信者登録というのは、本当に意味がわからないシステム。2度と施設に近づきたくないので、脱会処理はしないと思う。また、親が教団を否定する子どもという存在を全く想定してないので、コミュニケーションが不可能になったこと。
- 脱会しにくいとはまったくない。2世もいつか自分が本当に信じて行くと、自分が「1世になる日」

が来ればと思って2世でいた日が最後の方あったけど  
そこまで魅力を感じなかった。

●5、6、7番の影響で、世間との解離が予想以上に大きく、人が当たり前に出てくる行動、自信、価値観を理解し、自分のものにするのが難しい。脱会から20年近く経ってるがまだ試行錯誤している。後金銭的なものは、一人では本当にどうにもならない。

●そもそも脱会の仕方がよく分からなかった。脱会に至ったのは、家族と父の関係が悪化し(父からの子供時代の暴力とモラハラで姉が精神を病んだ)、子供全員で母親を盛り立てて離婚させ、信仰に元々疑問を持っていた母親が主導で脱会方法をネットで調べて子供全員分脱会の処理をしてくれた(郵送手続きのため無事に脱会出来ているかは分からないがその後特に当時の知人からの勧誘、新住所への訪問等はなかった)

●中3で高校受験を控え、勉強への専念を理由に集会に行きたくないと意思表示をし、時間をかけて脱会。自立できる年齢ではなく、当時は行政の支援情報などにふれられる機会はなかった。

●脱会届をなかなか事務局が受付しなかった

●罪悪感

●正社員としての雇用

●排斥という、家族であっても挨拶をしてはいけない制度には困りました

●日曜日に遊びに出かけることに罪悪感があった

●親の頭がおかしいことをあからさまに実感して辛かった 縁を切りました、気持ち悪いから

●未だに祝福を受ける、とか言われる

●家族に見つからないように家出をしたので、荷物を運ぶ時がちょっと苦勞した。その後、妹から完全に連絡できないようにされたのがけっこうショックだった。

●収入がない時期だったので、親元を離れて暮らせない状態だった

●母親の自殺未遂、母親から"あんたを殺して私も死ぬ"という殺害未遂、友人と呼べる関係の人間が居なくなった、脱会転居後も教団の人間からの連絡や訪問が続いて病んでしまった

●母親の死(自分が39歳の頃)で信仰のモチベーションが無くなった。

●子供の頃に罹った病にまた罹り、死ぬかもしれないと思った

●弟が生まれ、育っていくタイミング(自分は当時12歳)で徐々に母親が集会に参加しなくなり、自然とそういった習慣が無くなりました。育児で忙しくて手が回らなくなったのか、飽きたのか、信仰しなくなった理

由はわかりません。

●酷い貧困状態になった

●あんなくだらない事に何の価値も無く、あんなお祓いや祈りで何か変わるなら、うちも世の中もっとマシだ!みたいな事を子どもながらに喚き、その場が最悪な空気になり、母はしばらくの期間、自分に救いが無い事に絶望していた。私が悪いことをしたような気にさせられた。

●明確な脱会手続きがあったわけではないが、それ故にズルズルと関係が続いた。中学生で親と言い争いを始め、高校卒業まで毎晩読経に付き合わされ、大学でようやく読経から抜けたのに、母親から「聴聞中の信者の子どもたちの見守りを手伝ってくれないか」と提案されて、私も子どもが好きだったので月数回、2年ほど行ってしまった。自分が宗教を信じることは完全に拒否していたので、子守中は見ないふりをしたり、あわよくばと誘ってくる親を強い言葉で突き放さなくてはいけなかった。反抗すると親から恨まれたり怒られた。親と生きるのが幸せではなく、ただただ惨めだった。

●性格的にだいたい無気力●内気になり人間関係を築くのが難しい性格になったと思う

●しつこく再勧誘に来る信者を追い払うのが面倒だった。

●強い後悔と焦りの中で子育てをしなくてはならなかった。理解者が全くいなかった。周囲の人が全て私が親に逆らった悪い娘だと断罪してきた。

●自分のこれまでの思いや辞めた意思認め、話を聞いてくれる人も、理解してくれる人も誰もいない孤独が、その後20年以上続いている。両親は自分達を否定するのか!と怒鳴るだけ。人として、私の意思を尊重し理解し合える人と出会いたかった。"

●教団には愛想が尽きていたが、教団の聖書解釈で正しいと思える部分に囚われており、そこをどうクリアするかで悩んだ。信者と結婚して子供にも宗教教育を施していたので、自分の気持ちをどの程度シェアするか悩んだ。

●一般的な宗教観がわからなくて夫(全く関係ない一般人)に色々教えてもらう必要があったことと、信者の母親が全く関わろうとしない理由について夫に説明するのが大変だった。

●離婚した父の元へ行き、生活はなんとかあったが、母親からの連絡が絶えず、ストレスになった。

●親と縁を切りました。仕事を探す際、緊急連絡先がない。家を探す際、保証人がいない。その年ではあり

得ないと言われました。審査等苦勞しました。奨学金も使われましたが事情は一切考慮されず今も私が返済中です。

●「この世の人」＝世間一般の人とは違う価値観で生きてきたことを辞めることに戸惑いがあった。

●脱会后に初めて一般の彼氏が出来た時に罪悪感を感じ、不安定な精神状態になって彼に迷惑をかけた。彼は何も知らない。

●母への恐怖

●脱会のロールモデルがなかった。あっても特殊な例（祖父母に特別養子縁組してもらった、風俗の寮に逃げたなど）が多く、自分がどうやったらカルト宗教から逃れて脱会できるのか、方法を探すことが難しかった。

●いままでの人生を振り返ったときに、教団や親に言われてできなかった事、その失った時間を受け入れることが辛かった。

●正式に入信していたわけでないのに、抜けたのは嬉しかった

●母との関係が悪化した。母に黙って神社でアルバイトをしたことがばれ、しばらく口をきいてもらえなかった。

●ごく少数を除き、今まで自分の世界を築いていた全ての人脈、常識、世界観を失った。生きていく方法がわからなかった。

●元々子供の頃から不信心であることを隠そうともしなかったため、教会内に友人はいなかった。そのため、特段生活が変わるようなことはなかったが、もし本当に婚前交渉をしたら地獄に行くのかと洗脳されていて恐れる気持ちに苦しめられた。

●それまで自分の中にあった価値観、固定観念がすべて崩れてしまい、赤ん坊のような状態になったので、立て直すのにかなり時間がかかった。

●適切な精神医療につながるのが難しかった

●大学生だったが親から仕送りを止められた

●最も辛かったことは、信者である両親が、私が脱会することについて理解も納得もしてくれないことでした。しかし、信者としてその教義を心から信じているのですから仕方ないと思っています。

●夜逃げすることになり、経済的な面で困難が発生した

●父親を裏切ってしまうような後ろめたい気持ちになりました、

●不条理感。親は、組織内での立場を剥奪された…

●とはいうもののやっぱり自分が間違っていて地獄へ落ちるのではないかという恐怖が続いた。母親との関係がうまくいかなかった。

●生活の芯だった信仰が無くなってしまい、一般的に見て道徳的●模範的な行動をするのが億劫になってしまった。

●教団から逃げるときに、親とも親族とも友人達とも、それまでの人間関係を全て捨てた。そのために、親の同意がなくてもいろんなことを決められる20歳になるまで耐えた。絶対に失敗したくなかったので、周到に計画して、親にも教団関係者にも、親友にさえも何も言わずにある日突然全てを捨てた。それからずっと親にも親族にも一切頼らずやってきたが、部屋を借りるにも、入院するにも、保証人になってくれる身内がないことでものすごく苦勞した。

●脱会したら家族とは絶縁状態になるため、孤独を感じた。

●同じ二世のきょうだいから理解されず、宗教団体への批判をヘイトととられ宗教差別者扱いを受け今もその評価のままであること。

●脱会した書類が本当に受理されたかはわからない。ただ幹部に渡すのみ。また前述のとおり「地獄に落ちる」と罵られ続けた。

●一般常識の欠如、異性との恋愛。

●中学生の時だったので、母親との関係を切ってしまうわけにはいかず、やんわりと距離を取ろうとしたが、一度引き戻され、高校生になり何とかはなれられた。

●アイデンティティを見失って情緒が不安定になった。また、家庭では脱会が認められないため、家出をするしかなかった。

●家族の中で孤立したこと。

●部活を理由に学校に遅くまで残り、家に帰らないことで集会に行かない、という方法をとっていたので、最初は集会をサボっている事に罪悪感があった。

●教祖に言われた通りにしか生きることが出来ないと思っていた為、さあこれから自由に生きる事が出来るとなってもどうやって生きていけばいいのかとても混乱した。何か大きく考え方を考える為にはどうすればいいか、一度警察にでも捕まる様な事をした方がいいのか？と悩んでいた時もありました。

●祖父母が熱心な信者で、祖父母を悲しませたくなかった。親族には心はもう信者ではないことは話していたが…祖父母が亡くなってから脱会しようと思っていた。

●自身の入籍前に脱会を両親に宣言し、その後教団へ

脱会届を提出した。

<経済的自立>大学時代、周囲はそれなりに実家が裕福でしたが、私は両親が統一教会に献金していたり、自分の下に3人兄弟がいたので、経済的支援は見込めませんでした。そんな中で実家を離れ、ほぼバイト漬けでサークルにも入れず、大学とバイト先を往復する毎日だったので、大学●大学院時代はとても苦しかったです。<宗教の価値観残り>自由恋愛をしようとしても、相手を不幸にしてしまうのでは？両親がこの先不仲になってしまうのでは？下の兄弟が悲しい思いをするのでは？という恐怖●罪悪感が常に付き纏っていました。その為、自分勝手に別れを告げた元恋人の方もおり、今ではとても申し訳なく思っています。<自己の価値観作り>恋愛に対する価値観を周囲と合わせるのが大変でした。今でも、ワンナイトや性行為を目的としたお付き合いみたいなものは、例え両者の合意があっても自分は許容できないし、性行為から始まる恋愛みたいなものも、理解ができません。

●困難という程では無いが、母と姉が信者だったため、話し合いの時に私のためを思って脱会を引き留めようとしているのが分かったので、申し訳ない気持ちになりました。家族は理解がある人間なので、私の意志がはっきりしていたことから、それ以上強く引き留めることはありませんでした。

●罪悪感に苛まれ、自殺しようと何度もおもった

●自分自身が、今まで蓋していた気持ちが開いたようで、家族と関わっていくことが困難になった。

●親に生活費(教団への寄付金)を渡さないで叱っただけで、警察にDVされたとうソの通報をされるようになった。寝ている時に財布からお金を盗まれ、預金通帳も勝手に預金を引き出されもした。それを叱るだけでも、警察を呼ばれるようになった。近所の教団信者も無言で睨むだけになった。

●「何もしていない」という罪悪感です。

●父の死により父方の親族と疎遠となったことで自然に抜けれた

●家族からの非難とお金。大学生だったが、金銭的支援がなく、自分で大学の学費を全額出した。

●みんなが当たり前に行っていることを、できなかった。子供の頃の話や世代ならではの話題が辛かった。

●信者の婦人部の方が、私にメール、手紙、電話等をして、「お話ししましょう」と言ってきた。無視する時には罪悪感を覚えたが、最終的に無視を続けた。

●社会に適応できなくて2~3年アルコールやキャン

ブルの依存症になった。

●母親への罪悪感

●親との関係を壊したくないから、活動してないことを黙っている。

●特になかった。親もまた退会したので。

●正式な脱会手続きをすると信者である両親と交流も出来なくなるので、辞めたいという意思是両親にだけ伝え、手続きを取らずに一切の活動を一切やめる形にしました。両親からは「家族がバラバラになる(将来の楽園が来た時に死に別れることになる)」と、本気の引き止めや恫喝や懇願を何度もされました。また、親から私への愛情や関心が何割か減ったことを痛感しました。体調不良(気象病)も回復せず、実家を出て自立できるほどには働けなくて、親との関係悪化で居づらくてもなかなか実家を出られませんでした。何とかフルタイム勤務が出来そうというくらいに回復した後も、バイトとブランクしかない職歴なので正社員雇用の転職は難しく、派遣会社に登録して寮に住む形で実家を出ました。

●信者であることをやめたいと母親に打ち明けたとき、無理に引き留められはしなかったもののひどく泣かれてしまい心が痛んだ

●自分の意思で脱会したが、家族からするとそうは見えてなくて一時の気の迷いだと思われていた。

●親に言うまでが怖かった。

●親への罪悪感を感じた。

●脱会すると不幸になると言われて育ってきたので、怖かった。実は今でも不安がよぎるし、怖い。誰にも相談できない。

●母親との関係が悪くなった

●寂しさ、疎外感

●しつこい勧誘。友人や恋人といっても休日を狙って家に来るので、家に人を呼ばなくなった。

●私だけでなく母や母方の親族一同で教団を脱会し信仰先が切り替わった。教団信者の近所のおばさん達が家に来たり、外で出くわした時に「お母さんは選挙、どうするって言うてる?」「お母さんを説得して」などと親のいないところで詰められて不快だった。子どもだったので適当に答えて済んだ。

●経済的自立。社会でのコミュニケーション。

●ずっと脱会したかったが、親への義理から信仰をうっすら続けていただけだったので、脱会に当たってはとくに困難は感じなかった。しかしある喧嘩が理由で親と絶縁し、それと同時に信仰も止めたので、親との仲は断絶した。

●正式に脱会すると、親や兄弟は信者なので、忌避されてしまうので、正式な脱会という手続きは踏んでいない。だからこそ時折戻ってくるようにという手紙がきたりする。経済的自立が一番大変だったので、細々と宗教活動しながら、住を提供してもらって手に職をつけることにした。そのかわり、高卒後三年間は色々な仕事をやって、資金を貯めていた。

●母の死去で自分のやりたいようにできた 三姉妹で一人信者としてのこっているのが母の供養の連絡、相続に大変神経をつかった 嫌がらせをされるのも想定していた信者たちが近所で会合も会館やそれまでは家を使用してる。実家を建て替えて住んだため洗濯物を干してる車があるなどすべて見られてる気分の悪さがあった。新築直後は関係がよいと勘違いしたほかの信者が訪ねてきたりしたので表札は全くあげていない。辞めたとて長年刷り込まれた教義と現代の価値観で進む物事の差になじむのがむずかしかった。ストレスで人が怖くなったり電車に乗れなくなった。突発的に涙や感情が爆発して皿を割ったりする破壊行動をした。自力で心理学や宗教学、歴史を学び頭の整理を継続してようやく一般の人になじめるようになったが時間がかかりすぎる。

●学歴がないから仕事を得るのが大変だった

●宗教的価値観から抜け出すこと。信仰を止めることで家族が不幸になるのではないかという恐怖心。

●祖母と絶縁した。今でも仲の良い従姉妹との接触を制限されている。

●親がやめると言ったので一緒にやめた。やめる前後は親の精神が不安定で、やめた後、母方の親族とは宗教問題でいざこざが絶えなかった。

●親が信仰を続けることは構わないけど、私はやめるという簡単なことがなかなか理解してもらえず、延々と信仰のありがたさを説かれて困った

●宗教組織内での自分と実社会での自分にギャップがありすぎて、埋め合わせるのが大変だった。

●自分を責める気持ちが先に立つ。些細な不幸がすべて脱会のせいと思うようになってしまっている。

●家庭が不幸な理由が不信心だと信じている母に、自分が脱会することで更にその考えを強化させてしまう可能性があると考えた点。

●逆上した親に盛大に反対された。暴行もあり、何度も家出をした。捜索願いも出された。

●精神的な不安。またそれらに対して精神科やカウンセラーの対応の不十分さ。行政に助けを求めることは思いつかなかった。

●生きること

●母親との関係が悪化した。

●脱会するに辺り、自宅にこられ、再度、頑張ってみないか、みたいな自宅訪問をされた際、少々、困ってしまった記憶があります。

●性的虐待を受けたため、もう耐えられないと思った。

●元々自立の為に金銭的援助は期待していなかった。父親(非信者)の健康面の管理が心配であった。妹が信仰を続けるのではないかと心配であった。

●正式な信者ではなかったが、親の洗脳が溶けないので今も黙認するしかなく、大変なストレスである

●信者である母親との関係がぎくしゃくした。母親や信者の友人からときどき再入信を勧められて、そのたび断るのが億劫だった

●私のアパートが拠点になっていたので1ヶ月くらいは帰らなかった。

●脱会に至るまでの間に、両親が離婚しかかった。父親が、母親の入信をきっかけに家出したことで、わたしたちを教会に連れて行かなくなった。

●楽しく生きられなかった

●元々、成長するにつれてフェードアウトするつもりだったが、信仰する母親は気持ち悪かった。母の信仰を邪魔するつもりはないが、信仰している母は気持ち悪かった。子供の頃の行事や勉強時間は奪われた。成人してもいない子供を、親のエゴで宗教に参加させることは虐待と同じだ。今でも時間を返してほしいと思う。

●脱会したことによって、自分自身が情緒不安定になった。

●孤独感

●価値観の違いなどに苦しむ

●小学生だったので親の強要から逃げるのに必死だった

●信仰という支えをなくし、生活と人生と日々がどうなるか強い焦燥感があった。

●父親は涙を流した。母親は取り乱し「自殺してやる」と叫んだ(自殺は教義で禁じられている)。大学進学を控える時期だったため、「ここまで育ててやったのに」「もう金銭的な支援はしてやらない」というような事を何度も言われた。

●クリスチャンになったので、全ての偶像を捨てて献身することが難しかったです。偶像が大事と教えられたので、お守りなどは日常ゴミに捨ててスッキリしました。

●自分は脱会してるつもりかだが、親が勝手に会費を



払い続けている。

●特に無いがスッキリした

●幼児期からの虐待及び 30 代に母親から億単位の債務を負わされていたことが判明した事で、若い時から複雑性 PTSD が悪化した。

●信仰をやめたせいで、自分や家族が事故、病気などにならないかと不安にかられる。

●親への背徳心

●やはり物心ついた時から教えられていた判断基準などを全否定するのは難しく、今まで築いた足場が崩れるような不安感がありました。小学校入学から中学 3 年までのあいだ国歌●校歌を歌うのを禁じられていたので、高校入学後から歌おうとしても拒否感を消せずしばらくは歌えませんでした。

●私が 24 才の時、信者だった母が病気で亡くなったことを機に私も脱会することにした。母が、私にもご加護があるようにと私を入団させたので、私自身には信仰する理由はとくになかった。父は教団を嫌っていたため、辞めることについてはすぐに賛成してくれた。しかし、教団の人にはなかなか受け入れてもらえなかった。何度か家に来て説得のようなことをされた。しばらく経ってからも、普通に道を歩いていた時に青年部の女性に突然声をかけられて、メールアドレスを教えてほしいと言われたりもした。その度に、もう辞めさせてください、関わりたくないんです、というようなことを伝えて、そのうちに何もされなくなったので、たぶん脱会できたのだと思うが、脱会届を書いて受理されたとかそういうわけではないので、実際のところどうなっているのかはよく分からない。

●外道が家族にいと、家族ごと地獄に行くから縁を切ると言われました。実際にそれから一度もあっても連絡も取っていません。

●脱会はダメと言われた 本などを破いて暴れてようやく認めてもらった

●脱会には特に困難はなかったが、3 つの頃から「おかしいよ」と周りの大人などに相談しても聞いてもらえなかった。「尻を叩かれるのもお前が悪いんだろ」的なことで処理された。

●教団に所属していると、教義が正で、ありのままの自分が悪であるという認識で育つので、自分の判断や意見などありとあらゆるものに自信が持てなかった。

●精神を病み、うつ病になった

●母との関係が切れたように感じたこと。母親だけど、教団側の人間（母親）とそうでない家族側（父、兄、私）の溝が生まれていた。

●私のせいで親が罰を受けたり肩身が狭くなっていて、親を裏切ってしまったという気持ち。姉に対しても私だけ自由になってごめんねと思っていた。

●実家を逃げ出すことは難しかった。

●信者達から執拗に連絡が来る。

●会合に頻繁に誘いにくるのが苦痛でした。

●世に出てどうしたら良いか全く分からず、友達もいないところからのスタート。とにかく孤独で、自分の理解者がいない事が辛かったです。

●母親からの再三の勧誘と宗教に関する話題の回避。

●一般常識がなく、何気ない雑談で呆れられてしまい、相手にされなくなってしまう。常に自分達が一番正しいと言う価値観のもと育ってきたので自分で共感性の不足を感じる。

●価値観が根底から覆り、誰の助けもない状態で生きていかなくはいけないストレスで鬱になり、半年ほど働けなかった。

●自分の知識と経験の少なさ、制限されていた分がどれほど貴重なもの、貴重な時間であったかを痛感した

●親や信仰を持つ家族との関わりを完全に断つ手段がないと難しい

●信者はいい人ばかりなので脱会していない。墓地が教団の墓地なのでこのまま。

●一人暮らしを始める時に全く社会常識の知識が無かったこと。

●母との関係です。当時は母のみ入信していたのですが、母は無自覚に気分で人を支配してくる人です。今日は機嫌がいいから同じ空間にいてもいい、今日はやめておこうという日を明確に感じ取るようになりました。普段からそうでしたが、集会にいかないことへの後ろめたさからより激しくなっていました。そのころそれが原因か自分でもわかりませんが不登校ぎみになり、自分の居場所が宙に浮いているようなかんじでした。

●これでハルマゲドンで自分も死ぬんだなと恐怖に駆られた時期が長かったです。今でもたまに感じます。

●家族や教団からの連絡が続き、説明しても理解されず、救われないとか悪くなると脅されたこと。

●教団は圧倒的に一般常識が無い。自分の考えを他者に押し付けがちで融通も利かない。教団には「牧羊訪問」というものがある。教えから距離を置いた「迷える子羊を正しく群れへ戻すため」の行為。ただただ迷惑。

●脱会した頃は父との関係がすでに悪かったので、脱会がきっかけで悪化とは言えないです。脱会したい旨

を幹部に伝えましたがのらりくらりでなかなか受け付けてくれず時間がかかりました。時間が経てばあきらめると思っていたようです。父は私と母が脱会した後も私の名前で献金していて、後で判明した時にやめてもらいました。

●親の教会から別の自由な雰囲気のある教会に転会したが、そこが上意下達のピラミッド組織に変化したので脱会。教団に精神病になったとデマを流布され皆がそれを信じたショック、教団と牧師の体質にショック、人間不信、人生を捧げていたので無気力、数年はフラッシュバックと動悸で仕事が手に付かなくなった。

●世界との価値観が異なっていて周りに馴染めなかった

●夫婦で同じ宗教ではなくなる事

●日本人の伝統的宗教観（そこにはグラデーションがあるにせよ）というものがまったくわからなかった。嫌悪感を克服した今も、やはりなかなかそこは埋まらない。

●母親が悲しむとわかっていながら集まりに行きたくないということは、子どもにはとても勇気がいることだった

●マインドコントロール

●夫婦関係、夫の両親の問題が母親（信者）にとって本当に辛いものだったのが入信の原因であると幼い頃から考えていたので、母親が心配ではあった。案の定、母親はうつ病になった。ただ、自分でなんとか生活ができるようになってから計画的に脱会（そのために大学進学を強行した）したので、ほんの少し悪いような気もしたけど、どうでもいいや、と思っていた。

●母が集会に行っている間に家が火事になったため

●私が脱会の意思をはっきりと示していたので家族は諦めていたようだが、やはり根本的な価値観を共有できないことが明確になり、意識的に家族●教会関係者とは距離を取らなければならない事で多少の困難があった（両親とも牧師として教会に居住しているため、両親に会うためには必然的に「教会」に行かなければならなかったため）

●脱会することで自分の身に災いが降りかかると不安になった。

●精神的な決別はまだ高校生だったから、大学にも行きたかったし経済的に厳しいと思った。完全な決別（実家を出る）は20代半ばでもう社会人だったので、告げるのに気が引けるのはあったけど、困難はなかった。

●母の叔母から家を追い出されたにも関わらず、母がその後も信仰を続けていたこと。

●生活上の失敗を信心の無さに結び付ける。母と同じ信者である姉の発言しか受け入れない。

●今まで罪とされていたことをしなければならぬときに強い罪悪感を感じる。特に、冠婚葬祭で他の宗教行事に参加しなければならないとき。葬式も結婚式も、無宗教で執り行われているとほっとします。

●葬儀や会社など一般常識がなかった

●自分の中のキリスト教的価値観や行動規範などを削ぎ落していくことがとても難しかった。

●全てが悲しい事に思えた。未だに何が何だかよく理解できない事がたくさんある。

●教団を批判した人を、経済的に追い込んだり、嫌がらせしたりしていたので、自分たちにもそうした火の粉が降り掛かってこないか不安でした。周りでも、何も言わないで急に活動をやめた人たちがいて、同じような恐怖に苦しんでいます。ただぼくと母は、覚悟を持って、脱会理由を組織の方にはっきりと述べたため、脱会そのものに関してはスムーズでした。ただいつか、どこかで、組織だって嫌がらせされないか、不安は恒に付きまといます。

●やめたら、自分は地獄に落ちるのではないかと思うともすごく怖かった。振り返って思うに、教団的価値観という狭い世界が自分の生活の多くを占めていた（特に精神●意識の面）ので、それから離れるということは、人生の足元が崩れるような恐怖があった。今まで「これが真実」だと自然に信じてきたものがなくなるわけで、空気を吸えなくなるのではないか、くらいの葛藤があった。

●同居、近隣に住む等では逃れられない為、遠方に逃げる形で単身移り住んだ。ある程度経済的に自立してからでないと、脱会には至れなかった。

●自分に対しての無力感。友人を迷惑や傷つけてしまった後悔。親の顔色を見ながら生きていたせいで、自立した考えを持つ事への申し訳なさ。脱会する前に何度も両親や周りの信者に引き止められた事。

●母の優先事項に、自分が入らない寂しさ。

●35歳で脱会というか、音信不通にただけで。いまだに、聖歌をくちさむ事に苦しみ、ツイッターのみがはげ口です。修験者さんと、自己肯定感を高めようとしていますが、波があります。

●母親からの責め。教会は「まあ子どもだしそういうもんよね」みたいなノリでした。

●私が脱会したタイミングで母が精神疾患になり、私のせいだと思った。

●高校生になって自分の世界も広がる中、教会の教え

を押し付けてくる母に苛立ちを感じていました。

●入会の概念が恐らく無く、親が勝手に私を含めているんな人間の名前を書いて人数分の会費を払っていた(1人月額500円です。もしかしたら今もやってます)

●二世どうしは兄弟姉妹として仲良く育てられたので、情を強くかんじている。そのため、自分は信じられない部分があり去るけれども、信じている内部の友人に対して、裏切ってしまうとごめん、という気持ちが強く残っている。20年経った今でもそれは残っている

●教団内には親代わり兄弟代わりに相当する人たちもいて、自分を育ててくれたコミュニティでもありました。そんな温かい居場所を自分の意志で飛び出してしまったので、これから自分は何をよりどころに生きていけばいいんだろうと不安になり、脱会后1年くらい精神的に不安定でした

●家での居場所がなく感じる

●単純に集会や奉仕に出たり学ぶ事に嫌になったが、母親は善いことだと思っているので落胆させるのが辛かった

●自分のせいで母が悲しむのではないか、家族が壊れるのではないかという恐怖

●母も脱会させたかったがダメだった。姉妹三人で結託して集会に行かないようにしてフェードアウトするだけが精一杯だった。もしかしたら人数の上では勘定されているまかもかもしれないが、自分たちは一切の関係は持たなくなっただけでもありがたいと思うしかなかった。

●母との関係の悪化と、自分の中でやめた方がいいや、神様居るとしたらそんなに懐狭くないはずだと、退会届をネットで見て書きました。世話になった人も沢山居て、風波立てたくなくて、わざわざ書くことも無かったかと思うのですが、諸活動をやりたくないのにやる必要もないし、やりたくないのに無理にするのはおかしいと単純に思いました。今思うと、ここで自分が動けて、良かったです。周りの人達との関係は悩ましかったです、思っていたより、良い距離感で過ごせていますよ。

●全てを切り捨てたつもりでいるがもしかしたら籍はまだ残っているかもしれない

●価値観に対して、理屈では合理的に判断できたとしても、身に染みついてしまった感覚を完全に消し去るのは困難であった。今も、その感覚は残っている。

●辞めたいと言ってもすぐに辞めることができない。最初に辞めたいと母に伝えたのは20歳頃でしたが母や見ず知らずの信者の人に説得されました。脱会でき

たのは去年です。今母は大病を患い介護施設にいます。施設に入る前は家で介護をしていたのですが、それまで私は母に支配される側で介護をきっかけに立ち位置が変わり私の方が強くなり、辞める辞めないで揉めても母は親子でいる間は辞めないで欲しいとか一緒に死ぬとか言う人だったので母には言わず脱会しました。一応母の宗教での知り合いに頼み手続きをしましたがそれでもすぐに辞めることはできず、2年以上やり取りを続けたと思います。

●信仰を続けている家族との関わり方。戻そうとしてくる母を無視し続けること。

●母の説得

●個人の名義での貯金など全くさせてもらえていなかったのに、父親から逆らうなら家から出て行けと言われ、経済的に締め上げられることをされた。行くあてがないので仕方なく、当時付き合っていた男性の家に同棲させてもらったが、決して望んだことではなかった。排斥とかはどうしてもよかったけれど、家に残した母や弟のことも心配だった。

●結婚でなし崩しに脱会したが、まだ正式に脱会していないのではと不安になる。

●やめたら不幸になると言われた

脱会というか、「教会に通うのを休んでいる」状態を続けている。親とは離れているため、「休んでいる」とは話しているものの、自分の気持も状況の説明もせずにはぐらかし続けている。親の考え方が自分を苦しめてきた事は伝えず、今も親にとっての「いい子」からは脱さずごまかし続けている。

●結婚してから出来た友人のほとんどが教団関係だったので、一気に友人が減った

●脱会そのものはとても簡単ですが、親の想いを裏切る事、失望させてしまう事が何より辛かったです。また基本的に信者は教義によって善人であろうと努力する人たちなので、知人となった彼らが悲しむだろうことにも罪悪感がありました。

●自分が勧誘した人をお寺に残していく事が辛かった

●自分の考えや判断の軸が未だにふらふらしています

●4人兄弟で長女の私が初めて家族で教会に行きたくないと言ったので、両親の反対がすごかったです。が、暴力などは一切ありませんでしたし、最終的には私の考えを尊重してくれました。その後弟妹たちも脱会したのですが、私よりは両親の反対も少なかったです。物心がついてからずっと、教会でカフェイン入りの飲料を飲まないように言われていたので、脱会后にコーヒや紅茶を飲むときの罪悪感がすごかったです。

●たくさんありすぎて●●●●

●DV の連鎖で私が父から暴力を受け、私が母へ暴力を振るって、その中で母が自死したことで自動的に脱会となったはず。父親が年会費を払ってなければ脱会になったはず。母の死の直後、母の保険金の一部を使って一人で夜逃げし親族親類に黙って、住所変更届を出さず、隠遁生活を送っているので、実際のところ脱会になっているかわかりません。

●自分自身がひどい鬱になり、何年も何もできず職も失った。子供のときに身につけておくべき社会常識がないと感じるし、今も自信がない。

●家族(とくに母)から信者に戻るよう何度も何年も手紙をもらったこと。困難というか非常に不愉快だった。

●母からとにかく責められて苦しかった

●信者の親の期待を裏切ることに罪悪感があった(今もある)

●自分自身脱会したつもりでも親はそう考えておらず、集まりに参加しない度に非難された

●教団について客観的な意見を調べるなり耳にしたりすることについて、罪の意識を感じ、何年も嫌悪感を覚えていた。

●信仰の話になると母親と話し合いが無理なこと。

●父と離れたことで宗教とも距離が出来ましたが正式に脱会できているのかわからず今現在不安です。また大人になってから父と再び会う機会があり、時々勧誘を受けたり選挙への協力を求められて憂鬱な気持ちになることがあります。その都度断っていますし、父の宗教とは関わりたくないと伝えていますが聞き入れてはもらえません。

●教団が別の宗派との訣別という時期を迎え、信者はどちらに帰依するのかを選択させられました。そのタイミングを脱会のいいチャンスだと考えました。ただ両方脱会という選択肢は与えられず理不尽に思いました。また名簿上、教団を脱会したことになるのかどうか、その当時は確かめようがなく、現在に至っています。

●何となく、ハイティーン頃から教会の活動に足が向かなくなっていただけで、それ自体に関しては困ったことはありませんでした。40代で、独自にキリスト教の他教派に入り直しました。

●母親が勉強をしていると「いいご身分で！」などと言ってきたり、干渉してきたりした。宗教の外の価値観が分からず、人間関係に苦しみ、高校生の頃から精神科にかかるようになった。

●親以外の人に相談したがまともにとりあってもらえ

なかった、親が口を聞いてくれない、すぐ泣くなどしてつらかった

●頼れる先がなく、とにかく経済的●日常の生活を立てるのが本当に難しかった。ずっと家にいるのが苦痛だったが、家出することもできず辛かった。18歳で家を出ても、常に背水の陣のような「金銭的にぎりぎり」の状態、鬱になったりしました。

●罪悪感や背徳感というほどではないが、神様の存在をしばらくは忘れられなかった。子供の頃から熱心でなかったこともあり、社会生活に馴染めないということではなかったので、他のマインドコントロールが抜けない信者よりはマシだったと感じている。

●脱会はしていないが、もう通っていない。どうやって生きていったら良いかわからなくなった

●父親は宗教に反対だったので、そっち側につけば、それほど難しくはなかった、と思うでも母親からはいろいろ言われたが父親はその面では味方だった。

●執拗に、事あるごとに再入信を勧められた。

●とにかく母がイライラしてやるせなく、悲しそうにするのがしんどかったです。

●脱会を求めても脱会できず、母親が活着している間中、教団信者が引越先や職場、出張先まで勧誘や選挙の依頼に何度も来た。(どこに住んでも就職しても母親が私の個人情報や教団に漏らしたため)。その母親が救急車で運ばれて病院のICUで死にかけてる時にまで教団新聞の集金に来た。近所の信者から聞いた教団新聞の集金人の信者は家族と偽ったのか？病院に教団信者がいて協力したのか？ICUまで訪ねて来た。母の入院した場所や病状を誰にも言うなと頼んだのに教団信者に翌日には知れ渡っていた。葬式の日朝に電話で、お悔やみも言わず掛け軸を返せと言ってきた。

●親しくないのに、友達のふりをされていた。

●知らずに入会という形を取られていたと思う。小●中学生の時点で「私は信仰しない」と決めていたので活動はしていないが、脱会しているのかどうかも分からない。恐らく勝手に記入し、名前を残している可能性が高い。(私の名前での献金を含む)

●子供が怪我するといった脅しを受けたこと

●そのグループに属しないと、そこで作った友人に会う事もできない。また、違反を犯した人に対して強制的に付き合いをとざされた、又はサタンの業だと脅された。

●学校や職場の人間関係に苦労した

●無力な子どもだった

- 親が悲劇のヒロインぶっていたこと。
- 一般社会の常識を身に着けること。(冠婚葬祭のしきたりや社会の仕組みについて)
- 教団の人全てから忌避されて、それまでの人間関係が全てなくなった。
- 脱会してから後のことだが、入信していたのが父親とその親戚一同のため、父親の葬式に私はかかわることができなかった。というか自分からかかわらないようにせざるを得なかった。
- 子どもがいたので、経済的に自立する事、フルタイムの仕事を得る得る事が大変でした。
- 親との縁が完全に切れるため、まず住所がない→住所がないので携帯の契約もできない、仕事も探せない、で何から手をつければいいのか分からなかった。
- 精神疾患の症状
- 一般常識があまり無い
- 父母の離婚後、家を出て絶縁したので脱会できているかどうか定かではなく確認する事自体に恐怖を覚える。
- 高校の途中での脱会だったの、そこまで制限されていたことが多く、やりたかったスポーツなどの部活動をやり直すこともできず、何かに打ち込める青春を過ごすことができない失望感が非常にあり、今の年齢になっても、たまに思い出して、打ち込めたら何かしらのものが残せたのではないかと、喪失感を感じる
- 1. ミサに行くのをやめたのは20歳ごろだったが、教会にやめることを宣言したのは40歳ごろだった。そのため、自分の気持ちが教会から離れていることは親も理解していたので、特に大きな問題や心理的問題が長引くことはなかったが、親は、「子供を神の道に導くことが親の努めだから、自分(親)は天国にすんなり入れてもらえないかもしれない」「これからあなたは何を指針に生きていくのか。指針なしに生きていけるのか」などと、罪悪感や不安を植え付けようとした(彼らにはその自覚や悪意はない模様)。
- 2. 自分も教義に洗脳されていたので、やめると宣言するにあたり、本当にやめても罰が当たらないのか、不幸にならないか、自分は無事に生きていけるのか、親不孝ではないか、などと、根拠のない不安や罪悪感に苛まれ、教会に脱会の電話を入れる際には、物理的に体が震え、その後1週間ほど、精神的に不安定になるなど、心身に異常をきたした。その後、いまだに、なにが不幸があると、自分が信仰を捨てたからではないかという考えが頭をよぎる(すぐに否定して問題に残らない程度ではあるが、その考えがよぎること自体に洗脳を感じる)
- 3.

- 教会に脱会を告げた際、信者台帳の破棄を希望したが、神父に「前例がない」と断られた。個人情報保護法を持ち出したり、自分の身内がオウム真理教の名簿のっていたらどう感じるかと問うたりと説得を試みたが、台帳の破棄を渋ったため、台帳に脱会した旨を明記することを提案し、先方も渋々ながら受け入れた。「この人物は教会に所属しており、信者である」という虚偽の事実がこの世のどこかに記載されているということが心理的に落ち着かない、というのが主な理由だったため、その処置に関して、現時点では、特に問題を感じていない。しかし、法律的には問題があると思った。
- 現役信者の親との関係。
- 脱会そのものより、この宗教と完全に縁を切るには母と縁を切るしかなく、その決断がとてつらかったです。自分を「経済的に困窮している母を見捨てる人でなし」と感じました。母との同居を解消し遠く離れて一人暮らしをすることに母もなかなか同意してくれず、二度警察沙汰になってやっと母はしぶしぶ引越すことに同意しました。数年後、母と連絡を絶っていたため、ほかの親戚から「連絡がつかない」と言われて住所訪問した際に亡くなっているのを発見しました。母の通っていた病院に問い合わせたところ、母は延命に透析治療を必要としていましたが、宗教の教えを守りたいがあまりに透析をやめてしまい、それが原因で亡くなったということがわかりました。今でも、私が母を諦めたことで母が亡くなったという罪悪感が残っています。宗教にたいしてずっと懐疑的だった私でさえこうなるのなら、普通の宗教二世はどんなに脱会しづらいただろうと思います。
- 私が教会に行ってるかどうかを、現役の信者が私の親に報告してること。自分の知らない場所で自分の噂をされてることが本当に嫌です。
- 日曜日に買い物に行くだけでも違和感。コロナで行くのを控えてフェードアウトしたので比較的自然だったが、価値観のぶれが生じている。
- それまで培ってきたキャリアや人園関係を整理したり手放したりする作業、とその過程における人間関係の調整。脱会後のキャリアや人間関係のゼロからの創出
- 自分の人生が崩れるような悲しみと同時に滅ぼされるという恐怖、そして人生を返してほしいと思う怒りとで、精神的に不安定になってしまった。
- 神様はいないと知って、心に大きな穴が空いたような気がした。神様を1番に愛するよう教えられていた。
- 当時は反抗期で親と全く口をきいていなかったので、

信仰をやめないよう説得されることはありませんでした。しかし、両親は信仰を続けており、祈りをささげる声が聞こえ、ろうそくの香りが漂う家で一緒に生活し続けるのは耐え難い苦痛でした。脱会について誰かに相談するという選択肢すら思い浮かばず、ひたすらひとりで悩んでいました。

●1.家族との関係(排斥処置なので家を出てしまったら家族から断絶されるから家を出たく無い。)2.仕事につけない(一般的な思考回路が無いこと、自己肯定感の無さ、スキルの無さに対する自尊心の欠如からくる他人からの評価の低さ。)

●いまだに定期的に聖書の写真と神の言葉がラインで母親から送られてくる。気に食わない行動をしたとき、責め立てるような長文が送られてくる

●再度入信するよう、母親に会う度に言われるようになった。

●実際には、家出同然で逃げ出したのであり、手続きを経て「脱会した」わけではないため、私の個人データは残ったままだった。親は教団組織を駆使して、何度引っ越しても居所を突き止め、信者カードを住所地の組織へまわし、地域の信者が訪ねてきて会合参加や新聞購読を勧誘された。見も知らぬ人に名前や素性を知られていることに恐怖感を抱いた。まるで親も含め教団挙げてストーキングされている感覚だった。

●地域の信者が集まりへの勧誘に自宅。訪れることが度々あり、脱退するのでもう来ないでほしいと告げたところ「目上を相手に自分の気持ちをきちんと伝えられる芯の強さが素晴らしい。あなたみたいな人こそ必要だ、もっと活動を続けてほしい」と、こちらの話を聞く気がなく恐怖を感じた。

●親と殴り合いになりました。経済的に自立できずぐ別居をしました。実家には10年近く足を踏み入れていません。

●実社会の常識についていけるかどうか。恋愛や人を信じることができるかどうか。親(信者)を今まで通り愛せるか。自分を信じられるかどうか。

●母親の態度が冷たくなった。元々暴力と暴言で支配されていたが、食事で差別されたり病院に連れていってもらえないなどのネグレクトが加わった。

●親の信仰を否定することで自分の存在理由を失ったと感じたこと。

●教団活動を継続するように母親から執拗な圧力を受けたこと。

Q40 Q39で「1」～「8」のいずれかを選択した方にうかがいます。あなた自身が、「脱会した後も、宗教的価値観の影響が残り続けているな」と感じたことがあれば、可能な範囲で具体的に教えてください。無回答も可能です。

- 脱退したけどたぶん脱退扱いはされてなさそう
- 女性、特に生理は不浄だという教えから、女性性を肯定することが難しいと感じる場面がある。
- 読経する事で先祖が成仏出来るといった教えがあった為、もしかしたら脱退した事で先祖が苦しんでいるのでは といった気持ちに苛まれた
- 輸血や献血に嫌悪感がある。政治関与(投票など)に罪悪感を感じる
- 楽園で楽しく生きたいという願望は元々なく、ハルマゲドンで早く滅ぼされて、消えてなくなりたかった。脱会後も自殺願望が強いときもあったが、今はそれほどではないが、なんとなく残っている気もする。
- 一般社会の手人と正当な議論や批判が出来ないこと。教義の影響からか、一方的に従うか、従わせるかの極端な価値観しかなかったため、一般社会の人と対等に接することに抵抗があった。また、割り勘や金銭のやり取り(店舗以外)には今でも抵抗がある。
- 生活のほとんど。日常食べるもの、見るもの、全て禁止されていた。それをやる事に後ろめたさがあった。
- 自分はLGBTQへの嫌悪感は全く無いのですが、無意識のうちに男尊女卑の考え方が残っていることに気がついて自分でがっかりします。
- 今回の事件に宗教2世問題を自分事として捉えていない人が多く、温度差を感じることから
- 神社への参拝に慣れない
- 人がどのように恋愛して結婚するのが分からない。
- 異教のものとして厳しく禁じられていた行事やイベント(クリスマス、お焼香、お墓参りなど)に参加する場合に罪悪感にさいなまれることがあった。
- とても保守的で差別的だったと思う。現在はリベラル。
- 飛行機に乗る時や怖いことがあった時、心の中でお経を唱えている。凄く嫌だけど落ち着く気もするって事がまた嫌だ。
- 常に自分に厳しく、全力で善人であるうとしてしまう。罪の意識が高すぎる。
- 校歌、国歌、讃えるものが歌えない
- 「不幸には因縁があり、それを救うのが信仰」とい

う前提で育ったので、不幸やストレスがあると「信仰していない自分のせいではないか」という自罰的●自己責任的な思考が残り続けている。

●価値のあることしかしてはいけないと思い込んでしまい、リラックスをすることができない。常に誰かに見られていると教えられてきたので、ちょっとした息抜きなどに極度に罪悪感を感じる。親孝行や奉仕精神をよしとする発言や言動を聞いた時の不快感がとても強い。自分に価値がなく、主張をはっきりとすることができない。誰かの許しがないと、何をしても罪悪感を感じる。溜め込んでいた教義への反感が爆発してしまい、自分の意見が一般的なものよりも過激になってしまっていると思う。

●友達作りが苦手だと、世間の付き合い方が下手だと思ってます

●ミサ曲を聞くと心が落ち着く

●自分は世間にも馴染めず、信仰も捨てた宙ぶらりんで空虚な存在と常に感じている。善悪の判断、政治的な考えの根幹に、未だ影響が残っている。

●十字架のアクセサリーは付けられない(そもそもキリスト教徒でもない)。個人的に寺社仏閣が好きなので、成人と同時に脱会してからは積極的に色々な宗派の建物に訪問でき楽しんでいる。成人して知人の葬儀に参加する際、持っていた数珠が教団専用(長めの数珠)だったことを初めて知り(それまで教団の信仰者が多数派の葬儀にしか参加したことがなかった)買い直した。

●仏教への信仰が残っている

●神という全知全能の存在に心の中を読まれている、何をしても常に見られている、という感覚が今でも残り続けている。

●困った時には神頼みをしてしまう

●人間関係がうまく作れません

●世の中で当たり前とされる概念(進化)や死生観はまだ影響を受けているなどは感じる。お墓参りをした事がなく、お墓で手を合わせて何を考えたらいいか未だにわからない。

●自由に恋愛結婚することへの抵抗感がしばらくは続いた

●信仰を続けないと悪い事が起こる、という自己暗示。

●町内会費で地元の寺社にお布施し、その返礼でお礼を受け取った時。どう扱えばいいか戸惑った。出来れば処分したいが、処分の仕方がわからない。

●「宗教」という言葉にアレルギー反応が出てしまう。字面だけで体の調子が悪くなるまではいかないが、冷

静に●肯定的に考えることができない。しかし信仰を持ちながら健やかに生きている人々を見ると、とてもまぶしく、うらやましく思う。宗教なんてどうでもいい、と何の感情もなく距離を取れる人もうらやましい。

●怒って当然の状況でも暴力的なことを禁じられていたため、怒りを表明することに抵抗を感じているところがある。

●短い間だったが神社にお参りにすることに抵抗があった。

●人に親切にし過ぎる。相手の心や家庭に入り込みそうになる。または入り込まれそうになる、など対人関係の取り方がわからないなどの時期があった。現在ではかなり適応出来ている。

●これも教団の教義と重なるかわからないが、何か悪いことがあると必ず自身の行いによる「バチ」ではないかと考える癖があり、因果関係のない出来事にも加害者意識に苛まれ苦しんだ。

●幼かった為か、「みんなで世界平和を目指そうよ」程度の軽度な教えしか受けた覚えがなく、特に嫌な教えを受けた覚えはないが、大人になり団体の社会的位置づけについて知った時、私の中に根付く価値観はどれ程教団から影響を受けたのだらうと、自身の価値観に疑いを持ってしまった時期があった。

●初めて友達と夏祭りで神社に行ったときに、体が止まって参拝ができなかった。何かというと自分が「善か、悪か」の価値観で考えていることに気付いた。

●宗教がかった行事は苦手

●子育てを始めてからが特に困難で、自分はサンタを信じたことは一度もないしサンタはサタンだと言われて育ったので子に夢を与えるということがよく分からず、自分が嘘をついている罪悪感もあり、プレゼントなどは夫に任せている。子の誕生日を祝うたび、私は親に産まれたことを祝福されたことは一度もないな、と思い出してつらくなる。

●死生観がわからない。死が別れだという感覚がわからない。自分が死ぬことも想像ができない。

●恋愛感情について、確信が持てず自分に好意を持ってくれる異性に対して嫌悪感を持ってしまったり、猜疑心から試し行動をしてしまったりする。

●恋愛以前に人が怖い

●日本では普通に行われている初詣、墓参り、葬儀に参加したことがなく社会人になってから戸惑った

●幼い頃から婚前交渉は悪だと教えられてきたため、脱会後にお付き合いした相手とそのような行為に至りそうになっても罪悪感が拭えず、上手くできたことが

ありません。

●お寺の子供会などに「大丈夫なのかな」と思ってしまったりする

●神社へのお参りの一般的な作法を今でも知りません。

●贅沢はすべてよくない。弱者には自分を犠牲にして親切にする必要がある。求められたら自分の財産や食事や私的な時間はすべて他人に与えるべきであり、それをしない人間は罪人である。

●友人に観光で寺社に誘われても行けない●行っても参拝ができなかった。

●価値観が残っていたと言うより、教団や親の善悪の基準もかなり歪んでいたから、何が本当に正しくて何が間違っているのかが分からなかった。たとえば、教団は夫婦間以外のすべての性行為を禁止していたが、じゃあいざ教団から離れた時に、どこまでの性行為が許されるのか、何が善で何が悪なのか判断できなかった。会ったその日にやるのはいいのか悪いのか、不倫はいいのか悪いのか、など。

●神社に行っては行けない、クリスマスはダメと言われたことがあり、行事をすることに抵抗がある

●私の場合、「脱会」ではなく単に「教会に行かなくなった」だけで、入会も脱会もしていないともいえるのですが(キリスト教の場合「洗礼を受ける」という正式な入会プロセスがありますが、その前に離脱したので、二世ともいえないかもしれませんが)。それでも、初もうでとか行かないし、おみくじも引かないし、神社仏閣に対して距離感があります。「参拝」等は絶対しないし。クリスマスに商業的に祝うことにも少し抵抗があります。でもこれは、自分で無理に変えるべきことじゃないし、現に信仰(カルトでない限り)を持っている人のことは尊重したいと思っています。

●何かふとした時にした失敗を「神が私を見ているからだ(=何かよくないことをしたのかも)」と反射的に思ってしまう事。

●セックスに関する嫌悪感、血に関する嫌悪、政治に関する無関心。

●性行為。お付き合いが始まって最初の数回はいざ挿入というときに急に萎える。何度か回数を重ねて徐々に可能になる感じ。罪悪感あまり感じていないつもりなのだが潜在意識が働いている感じ。

●性的に奔放にはなれない点。他人が奔放にしている分には気にしていない

●私は無神論者ではないです。他の人達のような高潔な生き方は私には無理、と感じたので距離を置きました。よって私の価値観は、基本的にはそのままです。



あえて1つ大きな影響を書くならば、キリスト教の預言する終末論を否定できないことです。昨今の国際情勢を見るにつけ、その確信はますます強くなるようです。

●恋愛や性行動に関しては私自身がアセクシャルアロマンティックの傾向があると思われるので、そもそも恋愛とは？性欲とは？と悩んでいた為、宗教が理由で悩む事は無かった。

でも、クリスマス、誕生日、おみくじ等に関しては悩んだ。高校生くらいでゆるやかに脱会していったので、その脱会したのかしてないのか曖昧な時期に友達の誕生日会やクリスマスパーティや初詣等に誘われると、どうしたら良いかわからず、罪悪感も抱いてしまった。ちなみに、今ではもう全く気にしていない。ただ、喫煙、献血、に関しては未だにした事が無いので少し恐れが残っている。しなくても特に生きる上で支障はないので、困り感はない。

●神社、寺、鳥居に足を踏み入れるとき。初詣。

●仏壇に手を合わせる習慣

●1と2に対しては、Q38で答えた内容と同様です。＜性的マイノリティ＞LGBTの方に対して、頭では許容できるのですが心から理解できるか？と言われると少し難しいです"

●仏教系の新興宗教だったため、仏教の教え(考え)が身についているなど感じる事が多々あるが、それ自体は悪いことではないと思っています。

●何もかもを白黒をつける認識が抜けなかった

●教団は宗教ではないと思う。ただ単に犯罪組織。悪人と変質者の集団。

●緊迫した状況で念仏を唱える。

●困ったこと、どうしようもないことが起きた場合、無意識にお祈りをしていることがある

●「いつも、わたしの両肩に見張りがいて、あなたの行動を変わりばんこに御本尊様に報告しに行ってるからね。御本尊様はいつもあなたの事を知っているんだよ。」と言う、子供の頃に何度も言われた言葉がいまでもフツと思ひ出されて、とにかくいつも誰かがみている感。から逃れられません。悪いことしないように、と言う事からだったのだと思いますが、もうすぐ60代になろうとしている今でも。

●お正月に神社に行きますが、手を合わせる事にちょっとだけ罪悪感

●冠婚葬祭への参加、神社仏閣へのお参り、クリスマス、誕生日パーティーなど、子供の頃経験していないため苦手意識がある。

●信仰をしていないので事故に遭うのではないかと等と思っていた

●教団は政治関与や選挙の投票を禁じられているので、政治や選挙に関心を持つことが困難だった。楽園は来ないのだから人生が一度きりで死んだら終わりであるということが、悲しく受け入れ難く感じることもある。恋愛経験の無さから、自分の恋愛傾向や好みが変わっておらず、30代後半で試行錯誤している。

●特に幼少期の頃からおみくじを引くことは母親から認められていなかったため、信者であることをやめた後もなんとなくおみくじを引くことはためらっている

●困ったときに唱える言葉があり、怖いときやつらいときなどつい癖で心のなかで唱えてしまっていた。

●自分自身に宗教的価値観の影響はあまり残っていないと思うが、親が信者であることを自分の交友範囲で知られたくない気持ちは今もずっとあります。そのことが深い人間関係を築けず他人と距離を置きがちなところに影響を与えていると感じることはあります。

●神社やお寺に行くのがなんとなく億劫を感じる。七五三や雛祭りのような行事や、輸血になんとなく嫌悪感がある。

●楽しい時間を過ごせば過ごすほど、後で地獄に落ちると思う。(今も)

●子ども時代や10代の時期に、一般的に経験するようなイベントごとや恋愛経験などが乏しいことにコンプレックスを抱いていた

●世界の滅び

●宗教は関係ないと思っていたが、母が婚前交渉やセックスに厳しい人でよくケンカになった。私がセックスに不安を感じていたのはその刷り込みだったかもしれない。独立した今でも神社に行くことは母には言えない、言わない。神社に行くのは緊張する。キリスト教の教会はもっと緊張する。このアンケートを答えていて、当たり前になってきたことが、否定したはずの宗教観の上に成り立っていることがある気がしてきた。

●自分の本当に好きなことが何か分からない。神社にお参りすることに罪悪感、恐怖を感じる。

●仏壇などに手を合わせる際にお題目を唱えてしまう

●お葬式などの宗教行事に対して、必要なものだとあまり思えない。線香の匂いも苦手だし、そのような場もとても苦手。クリスマスや誕生日などを祝うことに軽蔑する気持ちがちょっとある。死んだら全て終わりという考えがある。今生きていることに価値を見出せない。いつ死んでも構わないという思いが残っている。

●怒りがわいてくるときに入会してた時の万能感を思

い出し気分が悪くなる

●心の使い方が良ければ上手く行く、悪ければ上手く行かない。教団の教えに反していないかを、無意識に考えてしまう。

●極端に自分を責めること。悪いことが起こるのは自分の行いや考えが歪んでいるからだと思われていたため。また、誰に対しても良い人だと思われなくてはならないと思込んでいるため、嫌いな人にも嫌われるのがとても怖い。

●宗教自体は悪いものだとは思っていないし、そこで教えられたことは良い事として行動原理や考え方として影響は残っていると思う。逆にその経験がなかったらストレスでメンタルを壊していたと思う。

●悪い事が起こった時に仏に仕えていないから起こるとか罰が当たったと思う事がある。

●宗教的価値観を植え付けられるほど宗教活動をしていないので厳密には「3」の選択にあてはまらないのだが、両親による虐待、両親が脱会するときの不仲（父が先に脱会し、母に対して「離婚」を迫り母も脱会した）など家庭環境の歪さから、自身の自己肯定感醸成がうまくいかなかったと自己分析している。自己肯定感が低いため、現在の家庭でも自身を尊重する生き方ができない点に影響があるとおもっている。

●女性である自分が意見を持つことに対する罪悪感が強く残っています。そこに関係するのですが、私は生育環境から子どもを持たない選択をしました。しかし、家庭は両親と子どもが揃ってこそという価値観に今も苦しんでいます。

●神の存在を強く否定しているため、神社仏閣でのお参りが心情的にできない。

●かなり多くて書き切れないことをお許しください。ゲイであることについては自分で抑圧してきました。かなり遠回りをしました。神が居ないのか？という点では何度も脱会後も考えを重ねました。20年経つ今も、人に殴られたら右の頬を出す、という精神のままです。その結果、ビジネスでは非常に不利な立場になりやすいです。多くのことが宗教を起点に自分が形作られています。良いとも悪いとも言えません。ですが、私は自分で選びたかったです。間違っても良いので、信教の自由が欲しかったです。

●思考停止。自分で物事を考えることができない。宗教的正しさだけを基準にして行動してしまう。自分というものが無い。操られているような感じ。監視されているように感じる。

●困ったら祈りそうになる、毎日全ての行動について

違和感がある

●神社仏閣が怖いと感じる。

●おみくじが引けない。厄除け大師がどうしても禍々しいものを感じてしまい祈祷できない。誕生日が祝えない、クリスマスが祝えない。逆に医療行為で輸血拒否に対しては断固反対。非科学的行為に関しては人一倍厳しい。反ワクチンや擬似化学に対しても同様。また、反動でカルトに対して調べ尽くすあまり、アロマやマルチ、マクロビ、ビーガン、自己啓発等にもかなり厳しい見方になってしまった。女性の地位向上ができず、全ての人の人権を守れない社会の仕組み、認知のゆがみがカルトを招くと「思込んでいる」。

●宗教を信じている人間がこの世の悪に思える

●性や恋愛の問題。特に婚前交渉への抵抗感

●あり過ぎてわからない

●性について興味を持つことを否定されていたので、恋愛や結婚はダメなことなのかなと思っていた。

●神が従わない人間を滅ぼすという教義があり、滅ぼされてよかったのと思う

●脱会後1~2年ほどは「ハルマゲドン」が起きて自分が滅ぼされるという恐怖が消えなかった。この世で成功するのは罪であるという考えはいまだに消すのが難しい。お金を稼ぐことへの罪悪感に加えて、ソーシャルスキルも低いので仕事の面で困難に感じる人が多い。

●偶像礼拝が好ましくないで、賽銭や御神籤はしない。私が子供のイベントをやらしてもらったことがないので、行事の仕方がよくわからない。

●一般人と思考パターンが違い、人と話が全く通じない、コミュニケーションが取れないこと。

●災害や地震やコロナ、戦争など見聞きすると再臨が近いのではと恐怖心が蘇ってくるし、今は信仰してないから地獄に落ちるとどこかで思ってしまった。うまくかけないが罪悪感はずっとつきまわっているし、不信仰でいるから悪いことがおきそうにおもう。正しくあらなくては。と無自覚に考えているし白黒思考が強すぎる。

●人生観全てに影響が残っていて生き辛さを感じています

●素朴な疑問なのですが、日本のように「宗教的価値観」が無いのが当たり前な国のほうが世界的に見れば異質なので、この質問自体が逆に違和感を持ちます。何も考えずに宗教儀式に参加しているという事は、カルトなどにもハマりやすいでしょうね。

●従来の価値観と真反対の行動や意見を持つとする

強い感情が湧き上がるとき、それも過去の宗教の価値観を引きずっているのと同じだと感じる。

●自分自身ではなく、教義に沿う良い人になろう、ならないといけない、と言う考えの癖が抜けない。

●仏式の葬式へ出席してもなかなか焼香になれない。いただきますで手を合わせることを未だに自然にはできない。あえて影響を払拭するため、献血に行く、投票へいく、タバコを吸う、などの行為をすることがあった。影響と関係があるかはわからないが未だに恋愛へ積極的になれない。(両親の不仲のせいかもしれないし自身のももとの特性かもしれません。)

●神社に行くとき恐怖心を少し感じてしまう。

●家庭がキリスト教であったため神社への参拝は今でも抵抗感がある。自分がキリスト教を信じていたから、というよりも、親からダメと言われていたからだと思う。

●正統なプロテスタントに献身することにより、健全な信仰に触れることができ良かったです。「見えないものを信じる」と言う点では荒療治だったと思います。

●SNSの知人に左翼系の人が多い。しかし、幼児期からの洗脳的手法のコミュニズムを経験して苦労した人は見当たらず、疎外感がある。

●自分が性的マイノリティ、宗教的マイノリティであるが故に、社会からの距離を感じる。うまく馴染めていない気がする

●入信している時は信者の母の方を信用していたことが多いですが、脱退してからは比較的一般的な仏教徒の父の方を信用することが増えました。また、両親の結婚後に母が勝手に教団になっていた事と、それに対して父が強く不満を持っていた事、また不満を持ちながらも我慢して母と離婚せずずっと夫婦でいた事などを見て、自分の中で結婚して誰かと夫婦になりたいという願望は沸かなく無くなりました。

●子どもの頃は、母からお祭りの時にお神輿をかついではいけないとか、神社などでおみくじをひいてはいけないなどと言われていたので、母が亡くなってからはそういうことができるようになって嬉しかった。私自身はお神輿を担いだことはないが、息子には子ども神輿を担がせてあげることができた。もし母が生きていたら、その経験は息子にもさせてあげられなかったかもしれないと思う。

●信じていれば、諸天善神が守ってくれるという価値観がなかなか根強く、自分は特別であるという感覚がしばらく抜けず、他人を下げて見る傾向が強かったです。

●一般的な葬式や初詣などが違和感

●一瞬、お線香をあげる時に躊躇することがある。人間関係構築が苦手

●性交渉にどうしても能動的になれない

●神に祈りそうになること

●自分のお金を自分の為に使う事に罪悪感がある。主体性がどこか欠如している。病気になるので「病気が治らないのは信仰をやめたからではないか」と思ってしまいう事がある。旦那が真言宗の為、お盆や法事に行くとなんとなく気持ちが落ち着かなくなる。自分の宗教と関係のある場所に行くと思議と体調を崩す。

●誕生日を始め、クリスマスや節分、七夕など季節の行事全般にどう携わっているのか分からずどこかで悪いことをしている気になった

●良いことがあったら神様のおかげ、悪いことは悪魔の策略、などの白黒思考

●性に関しては汚いものという意識が何故かあったような気がします

●すぐ祈る。常に神に見られている監視されてる感じがして

●すぐに染みついた「食べる資格がない、生きている価値がない」と思ってしまいう。

●婚前の性交渉が厳しく禁止されていたので、恋愛において性交渉やボディタッチに抵抗がある。

●一般的なキリスト教の倫理観が自分の基礎になっているので支えにはなっても枷になることはそれほどない

●教団は悪

●行事、お祝いごとに一瞬ブレーキがかかる。何かを信じなければならぬ、不安感。そのためか大人になりメンタルを病みました。精神的病んだ母のこともカルトにはまりやがって、と恨んでます！

●神様がサタンかの2択がすぐ頭に浮かんでしまいう。ハルマゲドンへの恐怖。楽園や復活がない事への失望。世の悪を神が解決しない事に対する失望。

●脱会直後は、組織は間違っているものの、神様はいら思っていたので、もうすぐ終わりが来て滅ぼされるのだろうと絶望のまま生きていた。

●進化論への疑問、他者との性的接触への疑問など

●正義のために一人立つ。支持政党の監視。

●観光でお寺に行った時にお参りをしたくない、神社でおみくじをひきたくない、お経を上げることに抵抗がある。

●質問とはずれますが、「クリスマスや神社の参拝、おみくじや占いなど」がなんらかの価値観の影響である

ことに無自覚であること、自分の見慣れない儀式にだけ特別奇異なもののように反応することに違和感を感じます。

●自信が性的マイノリティであるにも関わらず教義で否定されていたので、脱会後も自身やそれ以外の性的マイノリティの人に否定的な意見を持ち続けている。自己否定を持ち続けざるをえない。

●人の話を聞いて一般的な宗教観とのズレを感じることもある

●反宗教として哲学を学んだ。

●集会に行かなくなってもう20年近く経つのに、だれかに見られているという感覚があります。神と呼ばれるものなのか、親なのか、わかりません。

●同性愛者に対する嫌悪感が少し残ってます。

●脱会したせいで不幸になるかもしれないと精神的に病んだこと。

●誕生日にトラウマがあり、未だに自分の誕生日は苦痛の日。「誕生日」という言葉や習慣そのものが怖い。友達の誕生日も心の底から喜べていない自分が悲しい。小学2年の頃、自分の誕生日のつい数日前、学校から帰宅すると「▶▶ちゃんへ」とお菓子の詰め合わせが置いてあった(普段はまずそんなことはない)。幼く、そしてすでに宗教活動に嫌気が差していた私は「あれ、神様の活動はもう終わったのかな？これはきっと誕生日プレゼントだ！」と考え足らずの子供らしく短絡的に思った。すぐに近所の友達へ声をかけ、実は自分は誕生日が近い、お母さんがお菓子を用意してくれたからみんなで食べようと家に招き、お菓子をみんなに配って楽しく過ごしていた。そんな中で帰宅した母が状況に気付き、友達を怒鳴り付けて家から追い出した。私が勘違いしてはしゃぐと思わなかったのか(そもそも私に友人などいないと思ったのか)謎だが、そのあとはこたえで打たれた。自分の誕生日を祝おうとしてくれた友人を巻き込んでしまった罪悪感と恥ずかしさには未だに苛まれる。友達はみな人格者だったので虐められることは無かったが、普通の家庭なら負わないトラウマ。

●普段は忘れていますが、本当に困った時にお経を唱えてしまって気持ち悪くなりました。

●宗教的価値ではないですが、親に頼ったり信頼することずっと難しさを感じています。私が中学生で脱退できたのは親が辞めたことに乗じてのことで、それまで親が怖くて逆らえずに辞められなかった経緯があり(それでも高校半ばを過ぎれば辞めていたと思います)、親とは怖いもの、逆らえないもの、という感覚

が残っています。

●信仰と罪の二元論で他人を裁き注意口調になったり、硬直した思考で口をきかなくなったり、人の気持ちに寄り添えず理解できず冷たく接したりした

●鳥居をくぐるのが震えるほど怖い。婚家の仏教式葬儀に向かい、会場に着く前から怖くて号泣する。

●死んだ後楽園に行けなくなるなど考えることがある

●仏教全般やその他の伝統的宗教への興味や共感があること。

●30歳を過ぎるまでセックスに強い罪悪感を抱き続け、行為の後に強い罪悪感を感じ、ゲイコミュニティにも馴染めなかった。

●何かあると吐嗟に(南無妙法蓮華経)と心の中で唱えてしまう。自分の思考●行動原理の根底に教団教義があると感じる事が度々ある。

理系大学を卒業したにも関わらず、いまだに進化論には無理があるんじゃないかと思っている。

●自分が恥ずべき傷物に思えて恋愛できなかった

●自分自身が犠牲となればよい、と考えるような価値観、感性、規範意識。神がいるから大丈夫、神に任せておけばいいという感覚で子どものころからずっときていたので、じぶんでじぶんのことをやることや自分を世話することがなかなか覚えられなかった。いまでも苦手。

●何か良くない事があると自分の前世や現在の生活している上で自分が良くないことをした事の報いなのだと思う

●いまだ教団信者の友人が何人もいるため、彼らと話す時、昔の感覚が戻ってきてしまい、意味の無い楽観的な感覚が呼び戻され、騙されやすくなるので、それが悪い影響として出ました。また自分さえよければ、というエゴが出てしまいます。表向きは人のため、とか言ってますが、行動、結果が利己主義になるのが、教団の指導であり、生き様です。

●しばらくは「結婚するまでセックスはしない」という考えが固く残っていた。別にいいかと思うようになり、するようになってからも、少し罪悪感や抵抗感があった。神社やお寺へのお参りは、避けているということはないが、特に興味もないのは名残りかなと感じている。クリスマスに関しては、入信中は「世の中のクリスマスは偽物、イエス様の誕生を祝うのが本当のクリスマス」と教えられ、世の中のクリスマスに対して距離をおいていた(「あれは偽物」という意識)ので、その名残りなのか、棄教した今もあまり興味がない(自分から積極的にイベントのノリを楽しもうとは思わ

い感じ)。

●実家との結びつきを重く捉えており、恋人と喧嘩をした。

●十字架は否定されてたから、今でも十字架には抵抗がある

●家族の為に自分を犠牲にしぎちな所を過度にしないよう、ご自愛しています

●お参りできない

●祝福結婚でないので、死んだら地獄に落ちたらどうしようという不安がある。

●信仰上輸血が不可でしたが、脱会後数年間献血に行けたことはありませんでした。今はもう戸惑いは無くなり、献血してもいいと思えるようになりましたが健康上の理由で献血できなくなり、元気うちにしてあげれば良かったと思っています。

●自身の倫理観のベースとして、聖書があると感じている。

●一般行事(クリスマスや誕生日のお祝いなどイベント事や、御参りなど)をやった事がなかったのでそういうものに無関心無頓着

●どうしても自分は他とは違うという意識がぬけませんでした。競争社会で勝ち続けられない自分はだめな人間だと強く思うようになりました

●初詣や安産祈願お宮参りなどの、お参りやお守りを持つことに抵抗がある。

●新興宗教への不信感や、宗教に関係なさそうなことでも洗脳系のことに対してはものすごく不信感があること。自分にとっては宗教2世だったことで警戒心が強くなったので、反面教師になって良かったと思っています。

●恋愛禁止の感覚から抜けられず、まともな恋愛はできてない。

●にわかにはなかなか難しいです。脱会した方がよく、教団批判をされてますが、気持ちは分からなくもないのですが、何故特定の教団や人物に固執してそこまで糾弾するのか、両方について違和感を抱いてきました。その辺りは個々人で捉え方が、あっさり気にしない方から、そうでない方と、色々だと思えます。自分で物事を考えて生活していく上で非常識な価値観はあまり無かったと思うので、そこは困ったことはありませんが、やはり自分の行動規範となるものですから、影響は大きいです。良い面も、もちろんあるとは思いますが。

●自然農法で作られていない食材、日用品、市販薬、

処方薬への抵抗感

●辞めると守っている物がいなくなると脅し文句を言われ続けていたので、いくら信仰心がなくても脱会しやすくは正直なところ怖かったです。それと母が望むいい子=信仰心のある子になれなかったことに罪悪感を抱くことはあります。

●日本は無宗教とよく言いますが、宗教を知った上で信仰しないという選択肢を選んだ無宗教ではなく、仏教キリスト教イスラム教の違いくらいしか分からないしよく知らないという意味の無宗教の方が多いなと思います。なので、私は大学で勉強してきたわけでもないのに仏教の知識があると知られると周りにとっても驚かれます。宗教で教えられた価値観よりも、私にとってはその境界線の方がいまだに強く残っています。

●性に関しては反抗心からか10代から20代は依存のような状態だった。その後理解のある人と何度か巡りあったが自分の宗教的価値観のせいなのか結局うまくいかない。2度結婚したが2度離婚。

●子どもに体罰をすることは当たり前だと思っていた  
●教団以外の人と自分では違う人間のように感じてしまう。自分が選ばれた人間ということではなく、そっちの世界・という感じがしてしまう。将来というか未来を考えようとすると、漠然とした感じがして、将来設計が上手くできない。終わりの時が来る・とずっと聞いていたからだと思う。

●神社に行ったり見学するのは良いが自分から参拝しようと思わない。自分からは御守りを持たない、おみくじをやらない。鳥居は意識しないとくぐれない。

●葬儀に参加する事に強い抵抗がある。結婚して5年以上経つが、未だに処女。多分一生。

●普段の生活で使う言葉に名残がある。功德とか集会とか、普通に出てくる

●お盆にお墓参りをしたり神社で願掛けや御守りを買ったり、大多数の人が信心という気持ち以上にイベントとして行なっている事柄の大多数に未だに抵抗があります。背徳感そのものはほとんどなくなりましたが(0ではない)、信心がない状態でそれに参加できない自分がいます。また、教団から離れて数年間は、デートをするのもずっと罪悪感がありました。

●自分のことしか考えてない利己的な人間なんだと、自分の事を責めてました。

●教団は、当時終末思想(ハルマゲドン)の教義であった為に成人以降の人生について思い描く事ができなかった。そのため、学業やスポーツなどを自分の将来のために頑張るという気持ちになれなかった。その時

その時で自分が選択できるであろう、親から何も言われない反対されないであろう選択肢しか選択できなかった。子供が産まれて、誕生日はやってあげたい気持ちになったが、クリスマスの一連の行事、サンタクロースについてのウソなどどうやっていいか、どう振る舞ったらいいのかがわからなかった。

●小学校高学年の時、親が教団から脱会したが、その後地元の日蓮正宗のお寺に熱心に通いつめるようになった。ので、何かがあると「地獄に落ちるぞ」など宗教的な意味合いの脅迫めいた精神的圧迫を受けた。

●誕生日おめでとうと言われると?と思う。人にも言いつらい。でも近い人に祝ってもらえないと腹が立つ

●八方美人になり「嫌だ」と言えない

●あの世、天国、地獄などの物の見方が出て来てしまうこと

●先ほど書いた、カフェイン入りの飲料を飲むときの罪悪感。教会ではアルコールもNGと言われていたので、20歳を過ぎてもしばらくは飲む気にもならなかったです。

●性的に潔癖症であったり、お人好しな性格であったり、メシアコンプレックス的な部分があったり、悪いことができなかつたりとかで一概に悪い面とも言えないかもしれない。あと、たまにお経だったり教団の教祖や幹部の姿が脳内再生されます。

●神は存在するような気がするし世界もいつか滅びるような気がする。「気がする」だけでそうではないことを知ってはいると思う。なのでそれに左右されてはいないと思うが、ときどき何か気になる。

●日本人が宗教信者に感じる過剰な忌避感あまり持たないで済んでいるな、と感じている。

●差別的な考え方を变えるのに努力と知識が必要だった

●天国に行く、成仏するなど、死後の世界について全く期待しない

●しばらくは支持政党の政策を支持していた。初詣に必要性を感じない

●未だに進化論だけは信じられない

●影響が残っているのと、現在の価値観から神社へは参らない。配偶者家は浄土真宗だが、仏事等では心の中で自然と、昔のお経を唱える。

●同性愛者のままでも、異性と結婚はしなければいけないのかな?と思っていた。(被害者となる妻が生まれることになど気持ちが至りませんでした。)

●神社などには進んで行こうとは思わなかった。他の

宗教の音楽(ミサ曲)や、今まで禁止されていた漫画や音楽、服装に抵抗があった。

●どんなイベントも心からは楽しめない、無意味に感じる

●教団を信じなくなってから不眠症になった。不眠症に今も悩まされている。多分精神の奥深くに解消出来ないストレスがあるように感じる。

●選挙に行くことは厳しく禁じられていたので、10年以上行くことが出来ず それ自体も恥ずかしくて人になかなか相談できなかった。聖書を捨てるのに罪悪感があって、引っ越すたびに持って行っていった。23歳ぐらいでようやく捨てることができた。聖書を捨てるまではハルマゲドンが来て滅ぼされる覚悟をずっとしていたように思う。

●辛いとがあった時に思わず神様に祈っていた。それも時間が経つうちになくなったが……。しかし、時間が経ち、過去の自分を振り返るようになると、体罰をふるったり、様々な形で自分を否定した母親への怒りがつり、今ではなるべく連絡をとりたくない気持ちになっている。

●純潔は大切だと思う

●今でも冠婚葬祭関連はどこまで参加してもいいものかよく分からず、仏教系でお経を唱えることには抵抗があったり、お墓や先祖に何の感情も抱かない(墓参りなどは禁じられていたので)ので親族との関わりが薄く孤立しています。

●私自身は家族が信仰していようと全く問題はない(個人の自由)。兎角、教団に対する「ある一定の世間の見方」があるため、自分は信仰していなくても家族が信者であるということへの引け目を感じる。また偏見の目で見られると強く感じるため、知られたくない、新聞や書籍が家の中にある事にも抵抗がある。

●韓国に対して、歴史的償いをしていかななくてはならないといった考え

●医学が否定されていた宗教だったため、初めて生理痛で痛み止めを買った時、大量に入っていた錠剤を見てこれを全て持っていたら死んでしまうと思った

●年末年始のお寺、神社への参拝に違和感。

●性はむしろ逸脱を志向した

●善悪の判断をつけすぎること。中庸な考え方を身に着けていないこと。

●黒猫が横切ると悪いことが起こるなどの、迷信がしばらく残り続け、気になった。

●どうせ滅ぼされると人生に投げやりな所。どうせ滅ぼされる価値のない人間という自己否定感が強い。

●神社仏閣に何とも言えない思いが生じることがある。おみくじが引けない。

●男性（父親）をたてなければいけないという価値観が残っていた。

●自民党を推していたので、自民党が良い党だと言う固定概念がある

●閉鎖的な人間関係の中にいた為、20才の時好きな人と両思いになれたが、日常生活の当たり前の楽しみ方さえ分からず、上手くいかなかった。

●将来の楽園で何もかも良くなるのだから今はやりたい事も叶えたい事も全てを犠牲にして宗教活動に専念すべき、という教えの影響で、基本的に「今何を願っても何に挑戦してもどうせムダ」というような無気力感がある。今ひとつ頑張れない。老後の事など考えたくもない。

●焚き火に自ら飛び込んで仏様に食べられるウサギが美しい自己犠牲の話として絵本や希望の友など子供向けの本に書かれていて今思い出すとゲロを吐きそうになる。貧女の一灯とか貧しい人の味方のような顔をしていながら勧誘されない人達を無間地獄に落ちるのだのおどろおどろしい言葉で罵るあさましい母の姿しか思い出せない。

●●神という概念にとらわれがちである。●宗教的●儀式的なものへの依存を感じる時がある。●宗教ではないが、霊的な世界観を説く指導者に依存しがちであり、かなりの時間と労力と受講料を費やした。趣味の範疇とも言えるが、中には明らかな虚偽を提示して勧誘された団体も2団体含まれており、今では詐欺師にだまされたという認識である。見えない世界があるのが当たり前という認識に洗脳されているため、別の見えない世界を提唱する人の洗脳を受けやすい、詐欺にあいやすい状態になってしまったと認識している。

●50代で未婚であることに、宗教的な影響がないとは言えないと思う。

●所属していたのは、反中国共産党プロパガンダ+奇跡による難病完治をうたうカルトです。①もともと中国共産党は好きではありませんでしたが、教えて言われたさまざまなデマプロパガンダのせいで、情報を正しく判断する難易度が高くなったと感じています。今では荒唐無稽なデマ(ひどい拷問を受けたが創始者が奇跡で全て治してくれた、等)への反発のせいで、中国政府の権威主義的で強硬な対応(もともとよくないと思っていたものです)に対しても同情的な気持ちを抱くようになってしまいました。②儒教的な思想をもつ信者が多いため、よく「女は男性と結婚して子どもを

産んで」といった偏見を刷り込まれたり、発達障害は奇跡で治るなどといったことを言われ何度も傷ついており、今でもフラッシュバックすることがあります(私は発達障害者です)。③昔は何の気なしに神社などに参拝したりおみくじをひいたりしていました。学生時代までは元旦には必ず初詣に行っていました。いまでは宗教そのものへの恨みが高まり、神社には寄り付かなくなり、おみくじに対しても詐欺行為とを感じるようになり、一切引かなくなりました。一つのカルト宗教への反発心と嫌悪感がすべての宗教に汎化したと感じています。"

●親の信じる宗教を信仰することが出来なかった罪悪感、親孝行出来なかったことへの罪悪感

●お経を唱え救いを求めること

●そもそも教義に疑問を感じたのではなく、教会という人の集まりに疑問を感じたので宗教的価値観は残っておかしくない それしか知らずに育っているし

●米国留学時の大統領選挙報道で、キリスト教の教理が政治利用されている様子を見て憤っている自分に気づいた。日頃使う語彙やふとした時の鼻歌が教会で慣れ親しんできたもの。

●教会の教えに反してる行動に対する嫌悪感がなかなか抜けなかった。吐嗟に嫌悪感を感じてしまう

●良い人悪い人で人を見てしまう為中途半端な人間関係が苦手

●現在の私の世界観は、自分が正しいと信じ続けてきた教義への反駁で成り立っています。

●教団は「真の愛」や「理想の家庭」という言葉をよく使っていました。今となってはそれらへの嫌悪感がすさまじく、結婚や性行為などは醜くて穢れたものとしか思えなくなってしまいました。

●教義では神と個人との関係を重視していたために、常に神の存在を身近に感じるようになっており、この感覚から離れるのに時間がかかった。滅びに向かう「この世」と呼ばれ、忌避すべき存在であると教えられた現実世界にリアルを感じることが出来ず、且つ実際に現実世界も矛盾だらけの為、現実世界と折り合いをつける価値観を再構築するのに10年以上かかった。逆にこの作業は現在研究者として思考する際の武器となっているが、だからといってこのような2世の体験を肯定するつもりはない。

●日本の宗教感は節操がないと感じている。

●自分にこの宗教の価値観が残っていると感じることはありません。むしろ以前に増して嫌悪感が強いです。両親亡き後もきょうだいや親類が信仰を続けており、

墓参り（教団施設）や親類の葬儀などで教団施設に足を踏み入れたり、合掌や唱和を求められることが嫌さに、法事に参加することもなくなりました。

●初詣はいまでも罪悪感がある。あとは、親戚は仏教のため、両親は昔から法事やお墓参りに参加しないので、私も一度もその経験がなく、40になった今もお墓参りや仏壇に手を合わせるなど、他宗教の作法がわからない。

●性的な行為をすることに罪悪感を感じる。死後地獄に落ちるのではと思う瞬間がある。

●神社などにお参りするさいに、本当にいいのかなと躊躇してしまう。

●異性と付き合いたいのに、罪悪感が湧く。どうせ信者でない人は悪い人だからと思ってしまい、人を信じられない。親に対し、申し訳なく感じ、まだ信条が残っている振りをしている。親から完全に自立できない。（自分が1人で生きていくことに自信がない。）

●自分の誕生日がつらい一年で一番死にたくなる"

●人を恋愛対象として見ることができない、見たことがない。アセクシャル●アロマンティックなのか、教義のせいで抑圧されているのか判然としない。

●どこに行っても「よそ者」であるように感じる。



"質問は以上です。回答へのご協力、ありがとうございます。最後に、ご自由にご意見●ご感想をお書きください。無回答も可能です。"

●弱っているときに勧誘してきて、家族まで巻き込むのはやめてほしい。何人かの友人とは縁が切れてしまったし、未だに何かあっても実家に帰らずらいし長居できない。健全な宗教もあるかもしれないけど、カルト宗教のせいで宗教のイメージが悪すぎる。危険な宗教は早く取り締まってほしい。

●この様な機会を設けて頂き、ありがとうございます。

●実家を離れてから自分が教団信者であることは隠して生活しています。

●自然消滅的に脱会しましたが、教義は納得いくものが多く今でも善悪の判断基準●人格の基盤になっていると思います。

●法規制をすることを検討するといった時に「信仰の自由は守られるべきだ。」と主張する人がいるが、現状信仰の自由は守られていない。その矛盾に向き合っほしい。

●母が熱中していた時は何度もしつこく勧誘されて家にいるのが嫌だった。何かする見返りに入信すると何度も言われた。弟や父ともそれで喧嘩していた。結婚してからも勧誘され面倒くさくなったので一度入信した。お御霊と神様を繋ぐ為に1ヶ月1500円支払わなければならなくてそれは母が支払っていた。お金を払うと繋がるって何?と思った。ここ数年は母が落ち着いていて私の1500円を支払わなくなったので脱会したことになるようだ。

●宗教二世問題に関心を持っていただけること、心から嬉しく思います。私たち夫婦は共に信仰二世ですが、比較的恵まれた立場にあったと思います。ですので、被害を訴えるより、宗教二世の体験を活かし、社会がどうしたら良くなるのか、できることを模索しています。

●解答欄の「あまり無かった」は「まったく無かった」という選択肢にして欲しかった。正直宗教に対するマイナスイメージに繋がりたいのかなと思ってしまう。宗教二世で宗教に対して良いイメージを持っていなくても、親に対して今まで育ててくれたことに感謝する気持ちは変わらない。宗教二世だからといってかわいそうなイメージを持たれることも差別だと感じます。ただ、宗教によっては医療を受けられないという事もあるし、脱会を代行してくれたり、守ってくれるような

組織があれば良いと思う。

●宗教二世の問題は家族と密接に関わっていることで、脱会を考えると親との絶縁が必要になってきます。私は宗教二世としては被害や悩みはかなり少ないですが、それでも絶縁を考えることが何度もありました。苦しんでいる人は本当に苦しいと思います。宗教二世が報われる世界になることを願っています。

●宗教の違いによって回答が難しいものもあり、きちんと回答出来ない部分もありました。なるべく近いものを選択いたしました。このような活動をしてくださりありがとうございます。ここ数年宗教二世という言葉が最近になり耳にするようになりました。今まで大人が宗教に入ること子供時代からではハンデが違うと感じていましたが、ようやく光が当てられて嬉しく思います。どうか若い世代にこの問題を残さないよう、このデータを活用いただければ幸いです。

●先日一人暮らしを始めた時にも半ば無理やり私の自宅にも小さな仏壇を置くようにと押し付けられた。自分が何を信じようが勝手だが子供や孫に押し付けなくて欲しい。宗教二世三世問題は親しい友人であってもなかなか相談しづらく1人で抱え込んでしまいがちで、一応家族ではあるので謝絶することも難しく一筋縄ではいかないことに絶望する。他人だったらよかったのに、熱心な信者の祖父の死すら願ってしまいそうになる。今は祖父と距離を置いてだんだん折り合いを付けてきているが、中高生の頃は教団に不信感でいっぱいなのにどうすることも思い付かなくて誰かに助けを求めるとい選択肢すら無かった。ただただ教団に批判的なコメントをしている人を見ることで心のバランスをとることがあった。宗教二世三世を守る仕組みを整備して欲しい。シェルターやコールセンターだけではハードルが高いと思うのでインターネット上で助けを求められる仕組みができるといいと思います。

●教団は自由献金だが、私の祖母はたまに集会に来る偉い人に出張費として現金を手渡ししたり、大会でナゴヤドームを借りたりするので、こんなところ借りるなんてと大会の度に10万円寄付箱に捨てていたらしい。信者ではない祖父が働いたお金だ。寄付の貢献度は救いに関係無いはずだが、そうやって旦那の働いたお金を寄付箱に捨てていく人がたくさんいる。そして祖母は神様の話しかない。公園に言っても隣の知らない人を勧誘し始めるのが恥ずかしかった。洗脳されすぎて頭は神様の3文字。本当の人柄がわからないまま亡くなっていった。洗脳、これは立派な人権の侵害だ。人間の全てを奪う。信者以外は(1番大切にすべき)家

族も敵だと言う教理は悪質で危険だ。→是非、マインドコントロールのノウハウを周知させて欲しい。人脈や情報に制限をかける。信者だけで集まる場所に通う事を習慣化させる。信者以外の発言には耳を塞げと言われるなど、あなたが参加している団体は大丈夫ですか？と、教理ではなく行動を見直させる機会があるといい。

●このアンケートでは、いわゆる新宗教、新興宗教をおとしめたい方や組織がなりすましで書くこともできますね。もし2世すべてを否定するのであれば、お宮参りから禁止しないといけなくなります。2世のよさは、私は痛感しており、2世でよかったと思っている人もしっかり報道しないと、何が問題なのか（強要や考えが違うことで家族がばらばらになること）が見えてこないと思います。布教する宗教すべてが悪のような、また、組織ですから完璧でないこともあります。一部のひどい事例からその団体がすべて悪であるかのような風潮に悲しくなります。

●信仰強要がなかったのに厳密には二世の定義には当てはまらないのかもしれませんが。

●教団が解散すれば全て解決…のような風潮に危機感を持っています。少なくとも私の家族には問題解決になりませんでした。

●脱会后、教祖と幹部が逮捕されたニュースを見ても両親には響きませんでした。マルチに走り借金を膨らませ年々生活水準が下がり、別の教団に入信しました。「新興宗教は懲りているだろう」という考えは通用しませんでした。「テストで良い点を取ったのは（母が）一生懸命お祈りしたからだね」のような、私の努力が宗教の教えに帰結する会話に心が削られていました。私は希死念慮と付き合いながら、まるで両親と絶縁なんかしていない普通の家庭で育ったふりを社会ではしています。信仰強要をされていないが、宗教に振り回されている過去の私のような子供にも目を向けて欲しいです。学生時代に教師や大人に相談をしたとき「家庭の問題だから…」と返され絶望する子どもを救ってほしいです。そして大人になった今思うことは、宗教が絡んだトラウマ治療の広がりや金銭的なハードルが下がってほしいということです。

●私は教団を脱会してはいませんが、活動はぜんぜんしていません。子供達のことがあり、役職も放棄しますが、特に責められたりイヤな事を言われたりすることはありません。組織と言うより人によるのかなあとと思います。ただ子供達には寂しい思いをさせたあと後悔しています。そんなに強制したとは思って

なかったのですが、幼い子供に選択はできませんよね…。最近の2世問題には、かわいそうで胸が痛みます。なんとか助けてあげてほしいです。あと、宗教組織の集票力と政治家の癒着。この事に教団支持政党の関係が影響なかったとは思えません。

●壮絶な親子ゲンカをした上で、それ以降は祖母から何か言われることはなかったです。それはきっと祖母に母が言ってくれたんだと思います。そう考えるとわりと良心的な親●祖母でした。祖母と母の親子関係の何かを犠牲にして、私が(不)信仰の自由を享受できたのだと思います。仲は良さそうだけど、2人にはわだかまりがあるのだらうと思います。足腰が悪い、遠方のため母がおつかいに教会に行っていますが、話の中で、母が少しその新興宗教を信じている雰囲気を感じています。教会についてよく思っていない反面、感化されてしまっている面もあるようで、宗教2世である母は、その矛盾にそれなりに苦しみを抱えているように感じられます。信仰してなければ、祖母が今困窮しているところが、少しはお金が残ったはずと思うと、複雑な思いです。ちなみにうちの信仰していた宗教では、さほど経済的な負担を求められてはいなかった印象なので他の方々よりはマシだと思うのですが、家族各人の人生に影響を与えたことを考えると、うちにこの宗教をもたらしたご近所さん、やめてくれればよかったのになと思ひ、時々苦々しい思いにおちいります。物心ついた時にはすでに信仰があったので孫としてはどうにもならなかったです。経済的打撃が少なくても、ある家族の生活には暗い影を落とすのです。ない生活の方が良かったです。祖母ともっと仲良くできたはず。

●このようなアンケートを企画して下さりありがとうございます。的確な設問や選択肢に、着実に宗教2世への理解が広まってきていると感じ励まされました。

●宗教2世問題はカルト教団だけに留まらない良心的な宗教にもあると感じている。ゆえに宗教2世グレーゾーンも相当数いると感じる。私は、宗教被害も大きく報じられておらず、ネット上でも悪い噂のない、現に比較的良心的な宗教の元2世であるのでそこがすごくもどかしいのが、さらに生きづらい。母親の信仰は続いており、本人にとって信仰は望ましいものなのか分からず、さらに苦悩が続いている。

●宗教で悩んだのはここ2週間で何日という話ではありません。事件が起こったのは最近かもしれませんが、物心がついた頃からずっといただいた疑問だったし、人生の敗者という意識などはずっと根底に持ち続けています。

●このような調査をしていただき、ありがとうございます。人権の観点からも分別のつかない子どもを入信させるのは本人の人生を破壊することにつながります。少しでもそうした人が減るような規制や支援が確立されるといいと思います。

●宗教から離れて30年経ちますが、ますます生きづらさは強くなります。今まで苦労したけれど、せめて支援が受けられれば、少しは救われるかもしれません。やはり社会に出て働き、収入を得ることが大事だと思います。社会に馴染めるよう支援を受けながら働き、平均的な収入が得られることを望みます。

●荻上チキさん、ラジオでたびたび宗教2世の問題を取り上げてくださり、ありがとうございます。この問題に悩むゲストにやさしく話しかけておられるのを聞くと、世間にはこの問題を理解しようとしてくれる人がいるんだ、と思えて非常に心強く、癒されます。私の場合は今は自分の家族を持っていてプライドを持てる仕事もあり、幸せに暮らしているので現状ではそれほどつらい思いを抱えているわけではありませんが、たまに嫌な記憶がよみがえることがあります。現在進行形で苦しんでいる若い方たちの気持ちを思うといたたまれません。これからもこの問題をどうか忘れず、一過性のものにせず、メディアで取り上げてください。

●おそらく、私は2世といっても被害はかなり少ない方だと思います。辛い思いをしている人たちには、どうか逃げて、あるいは、解決できるような環境を整えてほしいと強く思います。

●親との交流は保つ為脱退はしていなく自然消滅という形でフェイドアウトして約四半世紀。進学できなかった時間、世間一般と同じ様に学校で楽しむ事ができなかった事、鞭の恐怖から乖離して生きてきた事 etc 失われた刻は戻らず今までの人生●生活はたいへんなものでしたし、恐らくその結果今の生活もたいへんだという事は理解してもらうのがなかなか難しいと思う。大きな心の傷は未だ癒えず今でも精神科に通院し服薬が必要な事が辛いです。

●ラジオで2世問題を取り上げてくださり、励みになります。ありがとうございます。

●祝福二世は神の血統、信仰二世は悪魔の血統と言われています。私は後者で、それがずっとしんどかったです。あまりその辺りは取り上げられる事は少ないですが、知って頂ければ幸いです。

●精神面の質問の部分は現在のコロナ禍や社会情勢によってメンタルが左右されるので、宗教によってそうになっているわけではないのでおかしな質問だと思います

した。

●カルト前提のアンケートの様ですが、「宗教二世問題」は私の兄の様に伝統宗教の幼児入信でも起こる事だと言う事を解って欲しいです。また私の様に恋愛観や結婚観の押し付けが嫌で、伝統宗教から離れた人も居ます。なお、私の従兄弟の中に3人、統一協会の2世がいると言う事も、私がアンケートに答えた理由です。2世問題は横にも広がっているのです。研究の成功を祈ります。

●教団は最悪

●4代続く教会の子どもです。生まれた頃からひと通りのことは受けていますが、真面目に信心していない不良信者です。明らかに家が周りとは違うことによる羞恥心や信仰の対象を自分で選べない理不尽さ、お賽銭感覚で要求される献金など理由は色々ありますが、決定的だったのは小学生の頃にオウム真理教が世間を騒がせた事件でした。あれ以後、新興宗教に対して奇異の目で見られる事が増えて、それ以来、とにかくひた隠しにして生きてきました。宗教を理由に両親に禁止されたりしたことはありませんが、家にいるとおつとめというお祈りのようなものに毎日朝夜参加しなければならず、気持ちに折り合いがつかないままの自分には自分の家なのになかなか心休まることはありませんでした。それでも入っていた宗教自体はほかの宗教に比べると政治への介入もほぼありませんし、無害だと思います。父も母も周りの信者さんも穏やかないい人が多いので、信仰からは距離を置きつつも尊敬の対象ではあります。

●教団の2世は精神的疾患を抱える人が多く、幸せをちゃんと感じたり、自身の歪んだ考え方、他人や親への不信感を癒すのに非常に時間がかかりました。未だに誰かが怒鳴ったり何かを叩いている音は本当にきついです。このような被害がなくなる事を切に願います。特に子どものいる家庭には、宗教の教えの一つで、嘘をついた場合の罰用の鞭があります。

その判断基準は各家庭に委ねられています。そのせいで鞭棒がまるで虐待道具のようになっており、私にとっては怒られて鞭でお尻を叩かれたくない一心で更に嘘を付く悪循環が起きたりしていました。なんの為になってません。親が入った宗教に巻き込まれる子どもの被害が無くなりますように。

●敢えて鋭く書きますが、私は比較的考え方がまともな親に当たりました。親ガチャという言葉は好きではありませんが、否定はできません。他の二世たちは環境が悲惨な子も多かったですね。金銭的にはどこも余

裕のある家庭は少ないです。現在は関わりがほぼないですが、今でも連絡を寄越す熱心な二世もいます。回答する上でじっくり来るものが無かったので、ここで回答させていただきます。二世はいつから信者だったのか？これは団体、更に地域ごとの特性もあるかもしれませんが、生まれた時からです。乳幼児期から日曜には礼拝に連れて行かれ、物心ついた頃には説教を受け、世の中とはこういうものだから私たちが世界を救うのだ、と教えられてきました。気付いたら信者だという回答ですね。また、いつ脱会したのか？については私のケースで言えばハッキリとした手続きは行っていません。なんとなく疑問を持ち始めた高校生頃から少しずつ行かなくなりました。最初こそ親には行かないの？と言われましたがしつこく言われたことはありません。もしかしたら現在でも名簿が残ったままかもしれません。私の家庭では金銭的には裕福ではありませんでしたが、毎日ご飯も食べさせてもらえて、ゲームも一般の家庭ほどではありませんが買ってもらえました。しかしゲームを買ってもらえることって凄いことなんです。周りの二世たちはゲームの購入が厳しいのは勿論、明日のご飯どうしよう…？なんてところも少数ですが実際にありました。神さまはご飯くれないのにね。最近報道されている例の銃撃事件は決して許されることではありません。しかし気持ちが分からなくもないのが正直なところです。一歩間違えたらもしかして自分がそうになっていたかもしれないと教団に疑問を持っている、離れている二世なら少しは考えるかもしれませんね。私はどちらかと言うと自分の意見が言える環境にありましたが、それを許されることもない人もいます。そもそも疑問を抱くことがなく、考えを植え付けられた人生を歩む人もいます。現在、両親には脱会してほしいとは思いますが、私や兄弟に強要も特にしていないので、出来れば抜けて欲しいな？くらいに考えています。せめて自分の人生に疑問を持った二世たちに自由を解放してあげられる、明日のご飯さえも厳しいくらい助けが必要な人がいることを知ってもらいたいと思い回答いたしました。長くなりましたが、少しでも一般の方々にも二世の生き方と実態への理解が深まればいいなと思います。

●献金規制は当然です。それとは別に、ただひとつ強く求めたいのは「休日●早朝●食事時の参加を求めな」です。これが家庭不和 → その因縁は〇〇 → 参加●献金が増え、さらなる家庭不和に…という無限地獄の始まりです。

●教団の教えで説いている内容(人としての正しい行

いや哲学)そのものは僕の人間性の土台になっており、僕自身それ自体を否定する立場ではありません。宗教は、人が幸福になるため(より平和な社会にするため)の手段であって、目的ではないと考えています。しかし、教団に限らず、あらゆる宗教ではその信仰(及びその中での活動や布教)そのものが信者さんの人生の目的と化してしまっている側面もあるのかなと感じています。僕は自分で「信仰心や宗教とは？」という哲学を問い始めたことで、大人になるにつれそのような独立した考え方になっていきました。だからこそ祖母や母親、姉とは教団に対してスタンスが異なりますが、そこは家族も一定のリスペクトを持ってきています。他の世帯がどうか分かりませんが、その点では僕は宗教二世としては恵まれたのかも知れません。おそらく僕が抱えた気持ちや疑問が生じた理由としては、宗教には「信仰心」という内面についての考え方がある一方で、「組織」という側面もあるからなんだと思います。僕の場合、自分の心には教団の仏法がありつつ、教団や支持政党など組織に対しては小さい頃から色々見てきて疑問や不信もあるからこそ、この辺の折り合いが付けられずに(教団から見れば)中途半端な状態になっているのだと感じます。(しかし、そうした今の自分のスタンスにはむしろ誇りを持って生きています。)日本社会でこれから宗教がどんな理解をされていくのか分かりませんが、より理解が進んでほしいと願っていますし、その一助になれば幸いです。

●二世問題という言葉がネットミーム化して、親の価値観の押し付けという意味に変化していきそうなことをとても恐れています。宗教二世の問題は、生育の時期に親から自分の価値を無視され続け、教義に侮辱され続けることによる精神的な生育不全が一番根幹にあると思います。どうかセンセーショナルな、目立つ体罰や献金だけの話題に留めないで欲しいです。目に見えないところの闇が一番深いです。

●各教団が、誰がどれだけお布施を払ったか。脱退したいけどできない時に相談できる場所の制定(法律事務所、NPO)など分かりやすく。やっぱり政治と宗教の繋がりは何とか…。

●カトリックは変な宗教ではないかもしれないが、学校時代のことを思うと、随分、閉ざされた教育を受けてきたように思う。神父には尊敬できる人もいたが、学校のシスターの世界観にはついていけなかった。また、今の時代、幼児洗礼はおかしい。

●"今回の統一教会の一連のニュースを見て、私のいる教団も限度は違えど仕組みは同じだと感じ、より自分

の信仰してきたこれまでの人生は何だったんだろうと悲しい気持ちにもなりました。信仰は悪いことばかりではなくその中での学びや救いはありますが、限度があるし個人の考える力をなくすという恐怖があると思っています。私の母(熱心な信者)は、先日の選挙で「この人熱心な信者だから」と所属の党も分からない人に投票をしていて驚きました。(その政治家は自民党でやはりな…と思いました。)あとは、母は何でもかんでも神様のおかげとするので、こちらの話したい本質やもらいたい言葉がもらえず、最近は電話で環境を話すのも辛いです。具合が悪いというと「道場に行きなさい、み光が足りないのよ」と言われます。ここ数年で急が増えた Twitter の二世のアカウントが、最近の心の救いです。実名では話せないことや、考える事をタブーとされてきた教団への違和感の言葉が並べられていて、同志を見つけられて安心します。

●私自身は 15 年以上ほとんど行っていないのですが、母親がまだ会にいて幹部格なので、信者のままになっていると思います。面倒なことになるのは間違いないので、脱会して戦う気力はありません。書き終わってみて、そういえば進学も北陸内だと制限されていたのを思い出しました。

●アニメ作品の「廻るピングドラム」を私が宗教二世と知らない友達に勧められて見た時、自宅に帰ったら大人の靴が大量に並べてあって、ドアの向こうから大人たちの熱の入った演説が聞こえるというシーンにトラウマが蘇って震え上がってしまった。脱会して父を除く家族全員それなりに元気に幸せに暮らせているが、トラウマを共有できる相手が身内しかおらず、他人にも簡単に言える話ではないので語れる場が助かりました。

●何も分からない子供に、親が全ての子供に、信仰を強要するのは一種の虐待だと思います。ある一定以上の自分で判断できる年齢でないと入信できないようにすべきだと思います。わたしは、テレビで言われているような過激な影響はありませんでしたが、自分が教団に所属していたという事実だけで虫唾が走り、底知れない嫌悪を感じます。こういった子供が増えないことを祈ります。

●私が所属している団体は現在話題となっている統一教会と比べれば勧誘がしつこいくらいで、個人的に大きなトラブルには巻き込まれていません。朝の早朝奉仕(駅前のゴミ拾い)は今でも参加することがあります。それでも母親の入信によって家庭の雰囲気は苦しいものになったり(元々嫁姑問題などもあったけども)、

母親の布教で私が他の人へ謝罪したり「今のあなたの勤め先にも布教したいわ」などという母の発言で喧嘩をするなどがありました。そういった点では私は二世であり被害者であると言えます。しかしそれでも今の選挙中のテロから始まった統一教会排除の動きはいずれ自分にも降りかかるのではと恐怖しています。質問の中にあつた「現在のあなたのメンタルヘルス」についても、団体や家族によるものではなく、現在の報道や SNS での宗教排除の過激な意見による影響が大きいです。新興宗教に入ってる人は政治や社会から排除されなければならないのでしょうか、本人でなくとも家族や親戚が入信していたら関係者とみなされるのでしょうか。その時は踏み絵でも行い自らの潔白を証明しなければならないのでしょうか。統一教会に問題がないとは言いません、詳しくはないのですがこれまでの話を聞くに悪質なカルト宗教だと思います。しかしそれでも現在行われているのは宗教弾圧であり被害者救済ではないと思います。私が望むのは公的な機関による生きづらさや貧困問題解決(カルト宗教へ入りやすくする)、また脱会したい人への支援です。世間一般から見ると正しい方法ではなくても入信して明るくなった母から信仰を奪う事はできません。今の社会では受け入れられないかもしれませんがこの問題は時間をかけなければ解決しない、むしろ時間による解決こそが正解だと思っています(充実した啓発と支援活動を行いつつ)。繰り返しますが現在の社会からの排除、信者が明らかにさせる動きは大きな禍根を残すと思います。弾圧●拒絶するのではなくあなたの問題を解決しますよと開かれてほしいと思っています。

●私は、両親が信者ではなかったのが良かったです。その教団の教えは「謙虚に生きなさい。ご先祖様を大切にしてください。」など、仏教の教えから離れたものでなく、非常識なこともなかったと記憶しています。祖母は亡くなりましたが、長男は借金をしながら熱心に活動しています。また、教えに反して家族に暴力を振っています。祖母の長男の娘●息子も信者でしたが、その暴力のせいで親と教団から離れて行きました。でもその娘●息子は親(長男)にお金を貸しています。そして、私や私の両親にその娘は借金しています。もちろん、長男もです。私も両親も信者ではないのに、間接的に教団にお金を使っている状況です。

●私はカルトではなく、国公認のキリスト教プロテスタントの信者です。しかし、教会の閉鎖的な制度、父から日曜礼拝に行くことを強制される(婚活、メンタル疾患がよくなるなど都合のいいことも言われる)、彼氏

を教会に連れていかされるなどされ、10年近く悩まされています。父の精神的DVにより両親は離婚しましたが、その父が「敬虔な信者は一般の人より偉い」との態度なのも、偽善的だと感じます。何より、母と私が傷つきました。宗教2世は通常、カルト教団の信者を対象としているのかもしれませんが、合法的なキリスト教でさえ、親に苦しめられている子供がいることを、このアンケートへの回答を通じ、知ってほしいです。

●自由意見を書く欄が多いが、教義というものは短文で説明できるものではないので、記載が困難である。

●是非頑張って下さい。協力は惜しみません。

●信仰宗教法人への、優遇措置は一切いらないと思う

●宗教2世、3世は、家族との繋がりを人質にとられたような状態で毎日を過ごしています。「カルトへの信仰」が、家族との繋がりを人質にとるのです。子供には身近な大人が一番の頼りです。身近な大人の世界が正しいものだと思いこんでいます。その大人たちが間違っていると気付いたとき、子供には逃げ場なんてありません。経済的な理由もありますし、親への愛情が断ち切れない場合もあります。私は教団とは一切の関わりを断ちましたが、親は信仰を続けています。また、手続きの方法がわからず脱会できずにいますが、出来ることなら脱会したいです。親との話し合いの結果、私が自分と異なる考え方を持つことを親は尊重してくれている為、私が信仰していないことを親は責めません。しかし、親が教団の中で明らかに矛盾のある教団に都合のいい教えを守っていることが苦しくてたまりません。親の世代は、家族よりも信仰を第一といった考えが特に強固な時代でした。父は明らかにその犠牲となり、信仰熱心な親から十分な愛情を得られずに歪んで育ちました。できるなら、親が守り続ける信仰を、この馬鹿みたいな洗脳を解きたいと、ずっと思っています。私自身さえ、親の死後も葬式の方法や本尊の返還など、教団との縁は一生つきまといまいます。自分や親がその教団の関係者であることを知られるのも本当に怖いです。こんなふうに、理不尽に怯えて毎日を生きていくのは本当に苦痛です。人の良心や弱さに漬け込むカルト団体を、私は絶対に許せません。"

●心身の症状に対する項目は宗教二世と関連付けるにはこじつけなのではないか。心身の不調の原因は宗教二世であるという原因だけでなく仕事や学業、季節の変化など様々な要因があるものなので、正確なアンケートにならないのでは？それとも「宗教二世」だから、宗教から離れて楽しく暮らしている人間は少ないだろ

うという偏見があるのでしょうか。私は楽しく暮らしています。うつ症状のアンケートを取るなら楽しく暮らしている状態を測るアンケートも同様に取るべきでは無いでしょうか。

●母が入信している宗教はカルトというほど悪質ではなく、前述の通り、私自身は入信せずにはいます。それでも入信を拒否する私と母との争いは一時期激しく、今でも親子関係に禍根を残しています。「痛みが取れる」と称する手かざしを家族に対して実践することが信仰上必要らしく、毎週電話で付き合わされることが感情の搾取だと感じます。(手かざしは「遠隔」でも効果があるとされているようです。)また、私自身は献金はしていませんが、母は入会費(50万程度)を皮切りに、何度も教団に献金しているようで、金銭面の心配もあります。高齢の母の友人関係がほぼ信者仲間になってしまい、今から脱会させて人間関係が失われてしまうことが母にとって良いことか、という迷いもあり、脱会を勧められずに黙認の状態になっていることも私としては辛いです。問題になっているカルト以外で、入信していない場合でも新興宗教が家族関係に悪影響を及ぼす例があるということを知っていただきたく、アンケートに回答しました。今回の調査の対象外であった場合は申し訳ありません。

●このような機会を設けて下さった事に感謝します。もっと宗教二世三世の受けている心身の傷が多くの人に周知され、逃げたいと望む人が逃げ込める社会になっていくくれたら本当に嬉しいです。

●脱会したくてもできない人、親を悲しませたくなくて籍だけ置いている人もいるかと思えます。そういう人が脱会できるようになる自助グループなどできるといいなと思えます。幸い私は勉強の制限もなく、恋愛の制限もなく、選挙活動に関する強制などありませんでした。これから宗教、主にカルト教団によって辛い思いをする人が少しでも減ることを願います。

●逆に宗教2世の偏見が強まり、肩身が狭くなるのは辛いです。偏った報道はなくしてほしいです。子供の頃は知識も語彙も勇気もお金も無く、どうしようもないと思っていた。大人になってから、出来るだけ親と距離を持ち、一人で生きていこうとするも、親の介護が必要になれば、嫌でも親と向き合わなければいけない。母親にも事情(夫と不仲、娘が障害者)があったことは同情するが、現実(家庭)から逃げる為の手段として信仰を利用していただけだと思う。夜遅く(22時頃)まで帰って来ず、教会の男性の自家用車で帰宅すれば、小学生でもどういった関係かなんて察しが

付く。父親も気付いていた事も子供ながらに分かっていた。小学生（明らかに子供）にそんな思いをさせてまで信仰はしないとイケないものだろうかと疑問を抱く。この年齢になっても母親を恨む事は本来恥ずべき事だが、思い出すだけで腹が立ってしまう。

●宗教法人として国が認めている以上、活動としてはある程度合法とは思ふ。でも世間一般からすれば「宗教＝怪しい」という認識は拭えないので、バツサリ危険なもの危険、比較的安全なものは安全と定義付けして欲しいです。

●「レターパックで現金送りは詐欺です」みたいに、「献金や品物を買わないと地獄に落ちると言ったり、家族が不幸になる。と言うのはカルトです。宗教ではありません！」と、断言した宣伝をガンガン流せばいいのと思う。他のちゃんとした宗教や、それに属した幼稚園や学校が変な目で見られないためにも、カルトと宗教をがつつり分けてほしい。

●自分は両親の信仰心が比較的薄く、あまり被害を受けていない方だと自覚している。しかし生まれた時から宗教(教祖)は絶対で、反すことを思ったり行動したりすれば罪障があると刷り込まれたことは、脱会してから30年近く経った今でも影響を感じることもある。また自身の幼児期の経験(大病の治癒)を宗教の流布活動に利用されたことにも罪悪感を感じている。信者の子供に同じ信仰を強制することがないように、未成年の入心や活動への参加を禁じて欲しい。

●私の入っている団体が特に悪い事をしている所を見たことが無いし、真に強制されてなにかをしたりしたことは無く、嫌いなわけでもない。しかし、信仰する気持ちはほぼ無い。そういう人もいることは知ってほしい。

●マルチ2世です。宗教では無いのですが「社会的に問題がある集団」として同じだと思っていて、今回の事件が起きてから本当に辛く、暗い気持ちで過ごしています。今回は2世に特化しているので仕方ないけれど、そもそも宗教に入会するきっかけをしっかりと調査してほしい。うちは父方の家庭に凄まじい問題が山積だった事、父が家庭内で振るう暴力が殺人レベルだった事で、誰にも助けてもらえない母がたどり着いたのがその団体だった。カルトや洗脳の専門知識を備えた支援は当然必要だが、それ以前に社会資源、医療福祉がろくに機能していないこの国の現状を無能な政治家を叩き上げて改善させなければ無意味。トラウマなんて言うけれど、性被害や虐待なども、自助グループやカウンセリングなんてカルトと大して変わらない。権

力者や医師、精神科やカウンセラー、警察、支援者に盲目的な信頼を置く異常な国民性こそ最大の要因だと思う。あの人なら間違いないと疑いもせず、権力側にもも言えない、おかしい事をおかしいと言っはいけない民度の低さを変えないと、支配者は形を変えていくらでも出てくる。ちなみに、メンタルに関する質問は、宗教とは一切関係ない理由で現在不調という回答です。

●私は脱会にあたり教団と衝突するのを避けるため、脱会の手続きは取りませんでした。自らの意思で教団活動を止め、教団の思想は不要として「卒業」したと思っています。

●宗教2世は、家庭という場所に信仰が浸透しているため参加可否の選択すらない状況です。また、国内では宗教はタブーに近い内容であることから話題にもしづらく、一人で抱え込んでいる人もかなり多いかと思ひます。私は、先日9/8に放送された荻上チキさんのセッションで、宗教2世の黒沼さんのお話を伺い、自分では言語化できていなかった部分に光が当てられたようで、同時に同じように悩んできた人が一人ではない(しかも宗教を超えて同じような体験をしている!)ととても力強く感じました。私は幸いにも、10代から大学時代にかけて自身が精神的に体調を崩したことでカウンセラーが介入してくれ、家族の理解もあり同時期に家族で教団から距離を置くきっかけになりました。現在は教団の良い面も悪い面もどちらも俯瞰して見られるようになってきましたが、条件付きでしか自分の存在が認められない教団での思考体系から抜け出すため、一時期は教団を全面的に否定していた時期もありました。宗教2世は、抜けてからもなお、世間の目に晒されながら立ち直るために自分の中での整理を必要とし続けています。どうか、この先も宗教2世が社会から隔絶されることなく、偏見の目に晒されることなく、自分の道を歩いていけるような社会的支援と理解があれば嬉しいと心から願っています。

●チキさん、このようなアンケートを取っていただき、また宗教2世を取り上げてくださり、本当にありがとうございます。

●日本では宗教を信仰している人はマイノリティだと思いますが、人によっては心の支えになるものだと思います。宗教＝悪、気持ち悪い、わからない という風にならないようにこの回答結果が扱われることを望みます。それはそれとして、財産の多くを奪い、人格を否定するようなカルトは規制されてほしいです。

●子供に宗教を強要してはいけないという認識が早く

世間に広がって欲しい

●子供は幼少期から宗教活動を強要されていても気付けないし逃げられない。

●特に学費を払わないなど経済面を盾に信仰を強要されるとどうしようもない。外からの介入が欲しい。"

●自分だけが苦しんでいるのだと思っていました。この一年ほどで宗教2世という言葉をよく見かけるようになり、今さらなんだと恨みたい気持ちと、やっと見つけてもらえたんだ(自分も仲間を見つけられたんだ)と安堵する気持ちと、両方あります。ありがとうございます。

●正直なところ、「宗教2世」という言葉、また自分がそのように見做されることに違和感と抵抗感を感じています。調査には全面的に協力させて頂きたいので、そう感じながら質問に回答しました。はじめに、なぜ私がそのように感じたのかを当事者として共有します。

1. 違和感と抵抗感: 宗教2世という言葉には、何も間違いはない、と認識しています。私が宗教2世であることも事実です。私は父が一代目のクリスチャンで牧師。母は三代目のクリスチャンで、母の父、兄も牧師。このような日本人クリスチャンの両親のもとで、私は日本とアメリカで育ちました。私がクリスチャンであることは、自分のアイデンティティを形づくる大切な要素です。ではなぜそんな私が宗教2世と見做されるのが嫌だと感じるのか。それにはいくつか理由があります。まずは、「プライド」です。笑調査団の皆様は、クリス教のような宗教とカルト●反社会的な宗教を一括りに捉えておられる訳ではないと認識しています。ですが、質問の中では、カルト信者に対する質問も見受けられる、と感じました。「私は違う！」とアピールしたくなりました。カルトや過激的な宗教2世と、私のような2世を、同じ「宗教2世」と括られたくない。そのようなラベルを第三者から貼られたくない、という思いが湧きました。それは自分の、自分の宗教、信仰に対するプライドだと思います。第二に、「自己保身」です。日本はただでさえ、「宗教」への否定的な見方や偏見があると感じます。「だから宗教は嫌だ」、「え、宗教っばい」、「宗教は戦争のもと」など、宗教全般に対する否定的な言葉は、日本では何気ない日常会話などで聞いたことがあります。興味深いことに、宗教全般に対してなんらかのネガティブなイメージは、私の中にも内在化されています。私も、宗教や教徒、信者という言葉には気持ちの悪さを感じるのです。だからこそ、ただでさえ、宗教リテラシーが低い日本で、宗教2世と自分が括られることに恐れを感じるのだと思

ます。偏見、ネガティブなイメージの対象に自分になることへの恐れです。私自身は、自分がクリスチャンであること、ましてや実家がキリストの教会であることで、偏見●差別にあったことは、今まで一度たりともないですが笑(鈍感すぎて、気づいていない可能性も高いですが)。宗教2世という言葉は難しいですね。ここまで書く中でひとつ気付いたことがあるので、それを最後にシェアさせてください。それは、「宗教2世の多様性」です。2. 宗教2世の多様性 私の一番の違和感●抵抗感、旧統一教会などのカルトや反社会的な団体の2世と、言葉上、同じ括りにされるということでした。だからと言って、キリスト教2世に関する問題またはその属性によって生じ得る問題がない訳ではない、という気づきを今回得ました。キリスト教にはキリスト教の。旧統一教会には旧統一教会のがあるはず。それぞれの宗教(旧統一教会は宗教ではなくカルト●反社と私は理解してます)は実に多様です。ましてや、宗教とカルト、反社はそれぞれ異なります。だからこそ、宗教2世に関する問題は異なり、それ故、必要な支援や取り組みも異なるのではないかと思います。したがって、キリスト教2世の当事者として、キリスト教に関しては、「カルトとは何か」「自分たちの信仰は、カルト的になってないだろうか」「キリスト教2世にはどのような問題が生じ、また生じ得るか」「誰もが自分らしく伸び伸びと生きるには、教会はどうあるべきか」「教会は誰の声を聞き、聞いていないか」などをより批判的に、また自己、他者との対話の中で常に自身、また教会の在り方をアップデートする必要がある。教派間、教派内でもいろいろな考え方や立場の人がいるからこそ、個々の教会ごとにする必要がある。そのような取り組みが重要だろうと改めて感じた次第です。

●日本は基本的に宗教観が無いので、宗教=怪しいという偏見の眼があるのは、仕方ないけど残念だし難しい…。オウム真理教の時もだが、今回のような宗教関連で事件が起きると尚更同じ括りにされてしまうのが残念に思う。このアンケートの質問も基本が否定的な感覚で問われているのが気になった。宗教2世が故に苦しんでいる人がいるのはわかるし、そう言う人は救われてほしいと切に願うけど、そうでない人もいる事も知ってほしいなと思う。

●宗教2世問題自体はまだまだ世間にあまり認知されていないので、これを機会に多くの宗教2世の抱えている問題が世間に認知されて、行政などが支援活動などをする為に動いてくれたりすれば助かると思います。



●言いたいことがありすぎてとても書ききれませんが、一世の信者の多くは、貧乏、不幸、精神的障害を抱えていることが多く、世帯としても世の中から孤立していることが多いように思います。そこに付け込むやり口は許せるものではありません。機会があれば詳しくお話ししたいと思います。

●こういったアンケート調査は有意義だと思う一方で、多分偏った結果になると思っています。私が宗教で悩んでいたとき、こういったことはできなかったのです。宗教の中にいる自分を俯瞰するという行為がどうしてもできなかったのです。渦中苦しんでいる方には答えられない、このアンケートに行き着くことすらできない方もいると思います。私は大して被害を受けた方ではないですが、未だに苦しかった時期を思い出そうとすると頭の芯が痺れるような感覚を覚えるので、アンケートに100%答えられず、申し訳ないです。信仰することも信仰しないことも保証される、そんな社会になってほしいと願っています。

●宗教性の低い教団は宗教法人認可は認めないでほしい

●私は宗教3世で、親も自分の意思で入信していないのでそこまで熱心に信心を求めらなはしなかったです。なのですごく嫌な思いをしたわけではありません。でも、人とは違うと感じたり、友達に知られなくなったり少なからず違和感がありました。教団に入信していることにアレルギーを持っている人もいることはよく分かっていて、そのことが理由で結婚が出来なかったら…という不安がありました。今は結婚していて、夫にカミングアウト出来ています。たまたま夫の母が教団信者で、私と夫は似たような境遇にあることが結婚するときにわかりました。私は非常に恵まれていると思います。とはいえ宗教2世問題は他人事とは思えません。こういう人もいるんだってことが世に知れてももっと議論が進むと良いなと思います。

●このようなアンケートをとって下さりありがとうございました。やっと色々な場所で「宗教二世」の言葉が聞かれるようになってきました。理解者が全くなかった私は未だに後遺症を抱えています。でも、挫けないで前を向いて歩いて行きます。本当にありがとうございました。

●うちは両親が信者で気付いたら自分も兄も入信しました。兄は早いうちからやる気なく名前だけでしたが私は何となく参加したりしていました。2~30年前に両親が亡くなって、実家がなくなって大きな仏壇も処分しました。引越し先なども教団関係者には言っ

ないので、脱会をした、という手続きみたいなものはなく、自然に離れていきました。思い入れはほとんどありませんが、新しく出会った友人、知人には話しません。

●こういったアンケートがあるだけでも、ようやく宗教2世の闇があばかれはじめた気がして、少し心が救われた気がします。ありがとうございます。

●私は生まれた時からすでに教団に入信させられました。宗教2世は精神的な虐待をされている場合が多いと思います。私の場合、入信していない父親がDV加害者であり、母も精神的DVの加害者（どちらも警察や保護団体などには相談や保護は受けておりません）であったため、幼少期から成人して一人暮らしをするまでかなり行動と言動を制限されて暮らしていました。話が少しそれるのですが、母はDV被害者でもあり、加害者でもありましたが、母自身も私が生まれる前に死に物狂いで助けを求めて辿り着いた先が教団だったと思います。精神的に追い込まれていたからこそ、教団に入信してしまったと思うので、母のことは憎いのですが、DV被害者の保護団体も当時はあまりなかったと思いますし、追い込まれて逃げ場を失った人間が行き着いた先がカルト宗教だったということはよくある話な気がします。母と仲のよく家族ぐるみで付き合いのあった信者の一人も夫婦関係にトラブルがあり、子どもが不登校になっていて常に悩みが尽きないような方でした。私が生まれた段階ですでに母も私も信者だったので、父のDVについて子どもの頃から母に警察に相談しては？と促しましたが、母は聞く耳持たず、「これは私に与えられた試練なのだ、ここで逃げたら負けだ」言って無駄でした。聞く耳持たずな状態でした。「私が父が怖い！辛い！いつか殺される！一緒に逃げよう」と言っても無駄でした。それと母が教団に没頭しすぎて、私が骨折などの大きな怪我をしても病院になかなか連れていかない、ネグレクト気味にもなっていました。私が母以外の信者と頻繁に接触していたのが小学校までですので、教団のお布施や仕組みなどは正直な話そこまで詳しくありません。何か自分の人生に耐えきれないことがあると試練だというのは教団の教えなのではないかと思っています。私もいじめや何かの被害にあうと、「これは試練、乗り越えられる人にしか与えられない」とよく言われていましたし、他の信者からもよく「読経をすれば大丈夫やあなたには耐えうるだけの力がある。特別なのだ」などと言われていました。貧困●差別●DVなど、追い込まれた人々の受け入れ先が当時も今ももっとあればカルト宗教に入

信じなくてもよかった人がいるのではないのかなとも感じています。入信してしまうと警察や保護団体に頼るのではなく、特別な人間として耐えることを覚えさせられるような気がします。私の話に戻りますが、親が信者であると子どもはさらに逃げ場がなくなり、少しでも逆らうと、親が他の信者を呼び、子ども1人に対して大人10人で説教されるような理不尽なことも多々ありましたし、成人してからも親は子どものものという考えがあり、騙されて車に乗せられ、教団の会合に連れていかれることもありました。私の場合ですが、教団信者でありながら、従順に信仰しない私は、信者たちのわにも入れず、人権を無視した扱い続き、居場所がないという気持ちがずっとあり、自分がどこにも属せない社会的に違う異物なのだという感覚があります。また、宗教2世として差別され、声を上げると信者に脅され、親を自分の恥だと思っているため、この状況が嫌でもなかなか世間に助けを求めづらいつのも現状です。これのアンケートに答えたことで、ほんのちょっとでも、親が信者であることで居場所を奪われた子どもたちのために、少しでもお役に立てれば幸いです。

●私の親がよく教団の新聞を見せてくるんですが、有名な芸能人が教団に入ってるよ。とかそういう事で正当性を主張してくることが昔から多いんです。統一教会に政治家がお墨付きを与えているのと同じで、教団も芸能人を自分たちの宣伝に使っていて、信者は強い影響を受けてます。どこの宗教もこうやって似通ってくる所があるのかなとは思いますが難しい問題ですが、せめて今の子供たちにだけは親が勝手に入信させるような事が無いよう、きちんと規制されることを望みます。これから未来を生きていく若い世代には私達のようなしなくてもいい苦勞をさせたくないです。

●私は今所属している教団に不満はありません。しかし日本人は「宗教がどういうものであるか」の教育、また「宗教団体とはどのようなものか」「カルト教団がどんなものを指すのか」という教育を受けておく必要があると思います。日本には沢山の教団が存在するので、自分にとってどれが適切なものか、しっかりと見極めるための教育は必要だと思います。どの宗教もどの教団もお互いを蔑み合うことのないような世界になったらいいなと感じます。

●おそらく自分の母親のような宗教サーファーは多く、土着的スピリチュアルによる被害も相当な数があると思います。大きな教団による破壊的被害への対応はもちろん、小さく逃げ足の早い、市井に紛れたスピリチ

ュアル詐欺師たちへの対応も併せて、科学的知識の啓蒙がなされることを望みます。

●教団を辞めたいが、教団関連の話になると母親が逆上するので母の死後まで待つつもりでいる。このままだと結婚にも影響しそうで不安。生まれてすぐ入信させられたので人権侵害だと思う。わたし自身献金はしたことはないが、母親たちは数珠や仏壇、ご本尊を買うためにお金は使っている様な気がする。

●親がまだ生きてるので、心配をかけないように入信してますが、親が死んだ後、脱退したとしても、生まれた時から教えこまれたことは、もう抜け出すことができない。現在、宗教は、信じてないけど、鳥居をくぐるらないなど、体が習慣化してる。ピンチのとき、心の中で、念じるなど。

●何十年も前の話ですが、小2から高2くらいまで親の影響で入信(というか、神の存在というのが自分には漠然としていたので入信のフリ)していたことは、その後の人生にも大きく影響した。自分の能力を活かすとか、希望の職業を考えることができなかった。屈折した思いがずっと残った。

多額の献金や脱会を引き止められるといった強権的なことはなかったが、世間からはカルトと呼ばれていた後に知り、大変ショックだった。親が入信していなければ普通の子供時代を送れただろう。

●私自身は子供の頃に入ったまま脱会こそしていないものの、あくまで母親の付き合いというスタンスで今は全く関わっていない。父親も母親に合わせているだけで真面目な信者ではない。教団も何も強要してこないため、特に信心は持たず今は好きなように生きている。多額の献金を求める宗教はおかしいと思うし世の中に深刻な問題もあるが、我が家においてはむしろ専業主婦である母親の活動範囲を広げてくれていた部分は感謝していて、全部の新興宗教が全てが悪というわけではないと思っている。趣味の一環のような感じ…。ただ、あまり他人や夫にもこの話をできないので、なんだか後ろめたいことをしているような気になる。

●自分の場合は教団などではなく、親族間での信仰のため年配の方が亡くなられるにつれて活気がなくなり、親元を離れた今は自由に生活出来ています。基本は仏教、神道の考えですが、かなり独自の理論もあり幼い頃は理解出来ないまま従っていましたが、徐々に反発することが出来、信仰ということの人間に対する拠り所としての強さを知れたのは大きい経験だと思っています。無宗教で生きるには現代社会はとても厳しい社会だと思う一方、こどもは選択権も他との差異もわ

からないまま参加させられることはなんとかならないものかと思います。

●カルトに信仰の自由を与えないで欲しい！私たち子供は信仰の自由を潰され叩かれ歪められ生きてきました。人権侵害の宗教は重課税にしてほしいです。実際現実的に追い込むにはお金の圧力しかないと思っています…。

●宗教、個人によって状況はちがいます。いっしょくたで語らないで欲しい。

●この度の事件は許されるものではないですが、これをきっかけに宗教2世にスポットが当たっていることは歓迎しています。今は親と離れて暮らしており家族に恵まれ幸せですが、幼少期に刷り込まれた価値観はなかなか薄まらず、未だにつらくなることもあります。このアンケートが今苦しんでいる方々の一助になればと回答させていただきました。活動に感謝します。

●ある意味でブームのようになっているこの問題を今の時期だけ話題にするのではなく継続的、持続的に取り組んでいただきたいです

●自分の意思をまだ持っていない子供を、親の勝手な意思で入会させないこと。宗教をしている事は悪いことではないが、一人ひとりの意思を尊重して、入会したいと言った強い意志のある人だけが集まる宗教をしてほしい。意志のない赤ちゃんの頃からの入会は自然と脱会することが難しい状況を作られてしまう。一人でも多くの人が自分の宗教で悩むことのない社会を作してほしいと願っています。

●愚痴になってしましますみません。私は宗教の為に私がいるのではなく、私の人生のために宗教があると思いたい。親にもそう思っていて欲しかった。対象がなんであれ信仰することが結果的にそのまま自分を信じることに繋がればいいなと思っています。その家に生まれるなら入信の自覚はなく宗教の概念を知る頃にはすでに宗教は生活になっています。自分にとってはただの生活なのにいつからか他人によって自分は「宗教の家の子」だと思われ知らされます。反発して縁を切ったとしても親子の関係みたいに血に溶けて自分のなかに流れ続けているのを感じます。それに絶望したかと思えばふとした拍子に安心感を抱いてしまうような、この先も自分の中に矛盾を抱え続けていくでしょう。私は現時点では宗教内部にとどまる選択をしています。あくまで私は私の人生のボスでいたいので、人生を支える柱の一つとしての宗教と生きていきたいと思っています。

●教団だということは隠して生きてきました。親が幹

部であり、お金はたくさん稼いでいたのでそのおかげで学びたいことを学ぶことができました。両親ともに理解のある人たちで私は恵まれていました。今も色々あって脱会できてはいませんが父も亡くなった今義理もほとんどありません。年に1回の献金は最低額していますが腹が立ちます。カルトの被害にあった方の心が穏やかになる日が訪れるよう、願います。

●脱会はしていないが、もう6年は宗教活動をしていません。抜けるまで本当に本当に大変で、2年は精神的に辛かったです。集会にあてていた時間を何に使っていいかわからずソワソワしていました。自分のために何かをすることに罪悪感がありました。友人やパートナーの応援がなければ今のようになれませんでした。本当に感謝の気持ちでいっぱい。宗教から離れずいたら、自分の人生を生きられなかった。知恵と自分の違和感●苦しい気持ちを信じること、経済的に自立するのは本当に大切だと思います。

●アンケートしてくれる事に感謝します

●宗教について学校でしっかり学ぶべき。宗教法人なんてなくしていいと思う。

●子どもに信仰を強制することは虐待だと思います。本当につらかった。自分を虐待してきた親が老いてきて、助けないといけないうのがしんどい。

●宗教2世(またはわたしのような「宗教2世未満」)の実態●心情などに耳を傾けてくださる方々がいらっしやると気づけたことは、嬉しかったですし、希望も感じました。

●わたしはいまも形式上は信者ですが、信仰心はありません。母方の一族も兄弟も、甥や姪、いとこも皆当たり前に信者で、おそらく心の中で信じていないのは私だけです。宗教に関する以外では母に感謝しているのと、宗教活動の強要はせず、わたしの配偶者や子どもに入会を迫ることもなかった。 (いつかあなたが本当の信仰の素晴らしさに気づいてくれると信じてる、というスタンスで、これもまあ辛いですが)、これ以上波風立てたり、高齢の母を傷つけない、というのが本心です。いちばんしんどいのは、母は本心からわたしの幸せを願っており、それゆえわたしに信仰心を持ってほしいと思っているところです。いまは親と離れて暮らしているので、宗教からも距離ができて、とても穏やかです。母が亡くなったら脱会を考えるかもしれません。

●質問の表現に疑問がありました。「強要」ではなくあくまで自発的な行動を促されるので「強要」があったか否かでいえないと答えざるをえません。また、脱会

後の影響についても、ステレオタイプな項目がならんでいました。また、「入信」の有無を問う質問は、入信に儀式を要するか否か等前提事情の確認をすべきだと思います。総じて、質問項目の精査がなっておらず、ステレオタイプな前提に基づく誘導（誤導）が多いように感じました。改善を期待します。

●私は統一教会のような有名な教団の二世信者ではありませんし、なにか大きな被害を被ったこともありません。しかしこれまでずっと誰にも話せない悩みを持っていました。チキさんの番組でこの特集を聞いた時、とても救われた気持ちになりました。自分も同じような人間はたくさんいると思います。ほんとうにありがとうございます。

●回答していて、そんなに強要されてなかったな、と思いました。物心つく頃から自分の信仰が勝手に決められているというのはやはり居心地の良いものではなく、また友人に「親が信者」と言えなかったので、精神的な影響があると思います。脱会手続きで現住所等知られるのが嫌なので、あえて脱会手続きはしていません。

●問題を起こすたびに教団が問題視されますが、あくまで人にフォーカスをしてほしいと思います。その人を見つめてほしい。信教の自由といいながら、不自由な生活を強いられると感じる瞬間は少なくともあります。興味深いアンケートの集計ありがとうございます。

●宗教3世ですが、私は自分の信仰に誇りを持っています。私みたいな人もいるのだと知って欲しいと思います。回答しましたが、端々に「あなたは宗教辛かったんですよね？やめたかった話ですよね？」という雰囲気を感じました。別の調査でも良いので宗教をしていて良かったことも、多くの人に聞いてみて欲しいと思います。

●お寺という場にいるとわからないこともあるかもしれないなと思う。

●昨今の宗教二世問題を興味深くチェックしています。特に教団は脱会せずとも未活動者になると非常に風当たりが強くなり、これが人を救う組織の在り方なのかと恐怖心すら覚えます。今では単なる選挙の一票としか思われていません。元々は高校生の頃から選挙事務所に出入りする人間でしたが現在の支持政党はもはや反社会勢力と言ってよいほど落ちぶれました。信仰心をベースに組織的に政党支援をさせるのは非常に不健康であり、社会的に健全な行為ではありません。内部の人間に何を言おうが聞く耳はありません。振り返れ

ば私もそちら側の人間であった事に強い自己嫌悪があります。現在の腐った社会を作る一端を担ってしまった自分を受け入れられず毎日落ち込んだままギリギリどうにか生きている状況です。子供の頃から親に認めてもらう為に信仰中心の価値観で生きてきた事を恥じて取り返しのつかない人生を送ってしまったと後悔する昨今です。ずっと自分が新興宗教信者の子供として育ってきたことを、誰にも理解されない、恥ずかしくみっともない体験だと思って隠し続けていました。「自分が二世だと知ったらまともな人は全員離れていく、まともでない人が近付いてきて食べ物にされる」という二つの恐怖からしゃべれずにいました。今、ネットで沢山の二世の声が上がっていることに私だけではなかったのかとほんの少しだけ安堵すると同時に、こんなに苦しんでいる人がいるのになんとかならないのか、というつらい気持ちでいます。

●信者である弟の子はこの少子化●コロナ禍の社会にあっても他の信者の子どもたちに囲まれてすくすく育っており、障害を持つ叔母も日曜は家族以外の話し相手がある状況で、宗教とそのコミュニティは考えさえええれば必ずしも悪いものではないと思います。まずは社会一般の理解を広げることが必要だと思います。

●Q42 はあくまで「宗教2世」や家族のための支援や法整備に限った内容をチェックさせていただいた。

「宗教2世」の数は相当な数に上ると言われます。その体験にも、様々なバリエーションとグラデーションがあることは容易に想像できます。かつて教団信者だったことをカムアウトした菊池真理子氏のように、悲惨な体験が礎として存在する事実から目を背けてはいけません。一方で自分は、そういう体験はしていないわけです。自分は教団にも支持政党にも否定的で、母が亡くなれば脱会するつもりです。しかし、反カルト活動を行う瓜生崇氏を取り上げた毎日新聞の記事で、『伝統教団の僧侶から「お前は間違っていたが、正しいところへ帰ってきた」という態度を取られることが多く、それまでの自分を全否定されるようで苦しく感じた』とありましたが、自分にも似たような感情はあります。

あえて独断を申し上げれば、新興宗教●カルトの信者は、それ以外の人たちからは、自分が逸脱していない、普通で、理性ある存在であると確認するための他者として存在してきたように思います。それは、当該宗教がもたらした問題●加害とは全く別の次元の話です。今後メディアが「宗教2世」を取り上げる際、そのような形で消費されないようにしてほしいと願っています。

す。フランスの反カルト法と同等の法律を望む人は増えてくると思いますが、自分は反対です。日本の政教関係は、フランスのそれともアメリカのそれとも違います。自分は、日本版反カルト法が、与党（主に自民党）を支持させるための「脅し」の材料に使われる可能性は排除できないと思っています。最後ですが、支持政党は宗教二世支援の制度化には、消極的になるだろうと思います。教団からすれば、それはまさに「退転」の窓口にはほかならないからです。家庭の中で一切信仰を継承させてはいけないというのは極端ですが、嫌なものは嫌とちゃんと言うことは、人間の尊厳（というフィクションの意義）を守るための大事な一歩です。今はまず、世論が短期間で飽きずに後押しし続けられるかどうか鍵でしょう。

●この問題もですが子供の人権という意識が社会になさざると思っています。大人が面倒がらず、信教の自由を隠れ蓑にさせず、少しでも社会の認識がかわっていくことを望みます。

このような機会をいただきありがとうございました。

●私の親は、周りからの付き合いもあり、入信せざるを得ない状況だった為、両親共に健康であったときは、特に言われたり強要はなかったが、両親が病気や認知症をわずらい初めたら、『それは、不真面目で信仰心がないから』と言われて、これはダメだと気付けた。引越等疎遠になり、たまに教会の方に会う時もあるが、適度な距離を保つことができています。

●回答しながら、「被害」というには軽い自分が回答しているのか？と何度も思いました。親の宗教はカルトではないし、社会的に有意義な活動もしている伝統宗教だし、ひどい強要や人権侵害も受けなかったからです。しかし親の宗教を継がなかったことで、とくに親の死後にまわりの信者から責められました。親の一方が牧師だったせいもあると思います。「あなたが今度こそ救われてほしい、あなたのために祈る」等と言われてメンタルヘルスが悪化して通院する、と言った経験をしました。みんな概ね「いい人」だけど、自分が信仰をもてないことが悪のように感じられ、ものすごく苦しみました。しかしこの悩みは、大学や職場などの人には全くわかってもらえなかったですし、友人にも「信じてないなら、ふつーでしょ。あなたが悩むことはない」と言われたものでした。7月に安倍元首相の事件があったあと、宗教二世問題がクローズアップされると、自分の人生で苦しかった頃のことを何度もフラッシュバックしました。自分はひどい「強要」はされてないし、大学進学もしたし、全く容疑者とは違う

状況なのに。それでも事件の報道から目を離せず、あらためて宗教二世の問題を勉強しました。自分よりずっと苦しい、社会的に厳しい立場の二世の人たちが救済されるような方策を強く望みます。

●興味深いアンケートでした。集計結果を楽しみにしています。

●継続的に問題を取り上げてくださって感謝します。伝統宗教まで含めて宗教二世問題を報じてくださることに一縷の望みを勝手ながら託しています。かつて教会内で一緒に遊んだことのある人の中には発病された方もいます。善意で人生を踏みにじられる子どもが少しでも減れば、そして救済される元●子どもが増えれば、それこそが安倍唯一のレガシーです（こういう言い方がよくないことは重々承知しておりますが書かすにはいられません）。

●日本人は宗教の基礎知識がない人が多く、一般的な宗教とカルトの区別をせずに扱われるのは迷惑。例えば私の教団では献金はするべきものだと教えてられるが、それと救われるというとは別の問題。神様のお陰で得られたお金を一部お返しし、神様のために使ってくださいというもの。聖書にある1割の献金は税金がなかった時代のもので、今は国に税金を納めた上での献金なので、そこまで納めるのは難しいし、必要ないというのが私の父の教えだった。宗教団体でなければ詐欺や子供の人生を奪うような団体は規制の対象になるべき。同時にその団体の信者たちのサポート体制をしっかり整えることを急ぐべきだと考えています。

●この情報が正しく使われる事を願います、

●私の祖父母は比較的熱心（と言っても、教団の中ではそうでもない）な信者ですが、両親も私自身もそこまで信仰心は深くありません。現在はコロナを理由にほとんど教会へは足を運んでいませんし、教団も大規模な集会は行ってないようです。自分自身が入信している自覚もあまりありませんが、宗教が騒がれることで、宗教二世三世への偏見に呑み込まれることに不安を感じています。

●私のようなライトな二世信者（信者と言って良いかも分かりませんが）も多くいるかとおもいますので、取り上げて頂けるとありがたいです。

●私自身は今は信仰活動をしていませんが、親への配慮という点から脱会はしていません。親が亡くなったら脱会しようと考えてはいます。

●今現在を問わず、日本において信仰（特に新興宗教）が他のカテゴリーと比べて、軽く見られている、本人にとって非常に重要なアイデンティティーを形成して

いるものだと言う認識、国籍や民族、ジェンダーに比べて軽視されているように感じております。親が自分の価値観に従った「良きこと」を子供に強制することが問題だ虐待だ、と言うのであれば、子供に家業を手伝わせることやスポーツや芸能活動、遅くまで塾などの習い事を小さい頃から親が子供に本人の意思を無視して強制することも多々あります。むしろ、家庭によっては宗教活動などよりもよほど、子供に対して大きな影響、制限となっているケースも多々あるはずです。また、宗教組織とは関連しない価値観(政治的心情、ヴィーガンなど)を親が子供に教育するケースも多々あるでしょう。これも子供の人生には大きな影響を与えますし、そこから子供が離れようとするれば大きな軋轢は発生します。これらは問題ではなく、宗教のみが問題だとされるのであれば、バランスを欠いている議論であると思われます。昨今の議論のみならず、日本国においては「宗教」という言葉自体に盲信する、インチキに騙されている可哀想な連中と言うような侮蔑的な否定的なニュアンスが込められることが多々あります。また、メディアでも、その組織や信仰に不満を持っている人、元信者などの否定的な意見を探し出し、取り上げる一方でその信仰にポジティブな印象を持ち、社会とバランスを保ちながらまじめに活動をしている人の話を取り上げるのは見た事がありません、なぜでしょうか。また、伝統宗教、スピリチュアル、占いなどでも相手に金銭的に多大な負担を課す等は多く、それに対してはその批判的な視線が向かない点にも不満を覚えています。望まない信仰を他者から強要されない権利が重要であるのと同様に、信仰する事、宗教活動に参加する事を他者から侵害されない、差別的な扱いをされない権利もまた重要ではないでしょうか。

●私自身は2世であることを肯定的に捉えられているので、「2世=不幸」という世の中のイメージで偏見を持たれる事がつらいです。

●私は宗教二世であることをそこまで忌み嫌っていないと思う。他の多くの親がそうであるように、私の親も自分にとって良いと思うものを子供に与えていた訳で、それが宗教であっただけ。所属していた20年を失われた期間のように捉えていた時期も確かにあったけれど、全てが悪意と悪影響に満ちていたわけではなく、危険な場所や状況から守られていた側面や、見分ける能力、あるいは道徳心を与えられていた面もあると思う。皆さんが一所懸命擁護されている同性愛者に関しても(私はもう宗教人でないので彼らの存在までは否定しないけども)、自分の中で良い悪いの指針を持

った上で、その界限から距離を取っているのは、どちらか分からないままで居るよりは、悪いこととは思えない。同じ組織に属していた2世の方々は、よく「人より苦勞や制約が多かった」と仰います。事実です。ここまで回答してきたように、確かに自分の自由意志で決められない事も多かったです。(例えば学校の部活動は、日曜の集会の出席に影響するため親によって文化部にのみ限られた)。でも今の私からすれば、そういった制約が多いのも当然なんです。私達は宗教訓練を受けていたのだから、苦しいことや我慢が多いのは当たり前。一方その中からしか得られないものを、私達はどこかで得ているとも思う。以下、思い出です。子供の頃一番強烈だった思い出は、(そして今でも一番対応が難しいのは葬式の場面での事です。私の祖父が死んだとき、私はまだ小学校低学年でした。祖父母は根っからの仏教徒(日蓮宗)だったので、葬式にはお経をささげ、線香をともして手を合わせます。私達は偶像崇拜の観点から、これが出来ないのです。ほとんどの日本人にとって、それは礼を欠く、受け入れ難いことと思います。でも日本人にとって線香や経を捧げるのが文化であるように、私達はそうしないのが文化なのです。(一昨年持病の肺炎を拗らせて無宗教の父が逝った時も、葬儀は兄によって仏式になったが私は線香をあげませんでした)ですが勿論こんな事はただの一度も受け入れられたことはありません。祖父の納骨のとき、母がほんの少し私達の元を離れて視界から消えた隙を突いて、親戚の大の大人が大声で私達を詰るのです。何故線香を捧げないのか、と。子供の我々には、怒鳴る大人に自分達の立場を説明する力はありません。ただ詰られるだけです。すぐに母が戻ってきて事なきを得ましたが、その時の場面は子供心に大きなトラウマとなりました。二世であれ、一世であれ、私達は信仰マイノリティです。日本人は大抵無宗教で異文化に寛容等と言われますが、実際のところそんなことはない。この国はしっかりと仏教国で、異教徒は時々生き辛さを耐えて暮らしているのです。二世の実態把握と支援ニーズ、との事ですが、私からしたらそれ以前にこの国の大抵の人に、自分と異なる文化にもっと寛容であって欲しい、と思いますね。そしてそれは実現不可能であろう、とも。長文駄文失礼しました。

●誰にも言えない気持ちを吐露する機会をくれてありがとうございました。

●新興宗教だけでなく古くからある宗教だったとしても、一人の過激な信者の存在等によってカルトになり得ると思うので、『この宗教はカルト』と法的に定義す

る事よりも、『こういう事を言うてくる奴がいたら逃げろ』的な考え方を広める方が良いのかなと思っています。どんなにトンチキな教えでも信仰は自由ですし、信仰心を心の支えにしている人が大勢いるのも事実だと思うので、特定の宗教をカルトと断じるのは、信者や二世にスティグマを負わせることになり得るし、法整備しても結局曖昧な定義しか作れず、本当に悪意のある団体であれば法の目を掻い潜ってしまうと思うからです。結局、宗教の教えそのものよりも、それを強要してくる信者にこそ問題があるので、こういう奴らに名をつけるとしたら毒親という言葉をもじって『毒信者』というのはどうかな、なんて思っています。(実際、毒信者は二世にとっては毒親ですし…)そして、ネットで散見されるような毒親あるあるくらい一般的に『毒信者あるある』的なものが広まれば、二世の子も「ああ、今まで私が言われてきた事は毒信者による人権侵害だったんだ」と気づく機会が増えるし、自ら宗教を求める一世の人も危険な信者が多い団体に気付きやすくなるし、自分達の宗教を善良な宗教と信じる信者たち自身も、そういう毒信者ムーブをしないようにしましょう、と、自制する事ができるようになると思うんです。私の妹が今でも教団なので現況等をたまに聞くのですが、昔よりは体罰は減り、進学を制限されるような事も無くなっているようです。(妹が良い風に言っているだけかもしれませんが)ただ、未だに『戦いを学ばない』という考え方から、男の子は剣道や柔道などをやっちゃいけないと言われているようです。小さい男の子がロボットアニメのおもちゃを買ってもらったのに、そのロボットが持ってる武器だけは捨てられてしまったという話も聞きました。その子本人がどう感じたかはわかりませんが、未だにアニメの武器もダメなのかと私は他人ながらショックでした。私の世代はポケモンが流行ったので、ポケモンはバトルをしますから、ポケモンを禁止にしている家庭がいくつかありました。その頃の集会で、「昨今流行っているアニメに関しては各々の信仰心に任せますが、信仰心があるならなるべく避けるべきですよ」というような発表があったのをよく覚えています。聖書にはポケモン禁止なんて書いてないのに、暗に禁止を仄めかす様な言い方は、まさに毒親的だなと今でも思います。仮にも聖書研究者を名乗るなら、ポケモンが禁止にあたるかどうか、聖書を読んで自分で考えてみよう！と推奨すべきだと思うんです。(ちなみに我が家ではなぜかポケモンは禁止されませんでした)一応、件の武器を捨てた親は今の信者内ではちょっと過激なママと思われる

らしいので、少しは昔よりマシな団体になったのかな？と思いますが、では、次の段階として、信者達自身が過激な毒信者をどう自浄していくのか、という問題を考えなければいけないのかな、とも感じました。ただ、「やるべき！」と「そこまでやらなくても良くない？」が対立した時、大抵「やるべき！」が勝ちがちなので、ここまでくると宗教だけの問題でも無いように思えて、難しいです…。ちなみに、私自身は今教団に対して特に悪い印象はありません。なんなら宗教や信仰という概念をファンタジー的に捉えるのは好きと言えるほどです。でもそれは、私自身に全く信仰心が無かったから罪悪感を感じずに済んだのと、人生が破綻してしまうほどの強要をされなかったからかなと思います。私より妹の方が世間との摩擦には悩んでいたようで、例えば交友関係ですが、妹は10年以上の付き合いのある友達が悩んでる時に、聖書の言葉を引用して励ましたらしいのです。普通に考えたらドン引きされるのはわかると思うのですが、その辺の感覚が麻痺してたのと、妹自身が聖書で救われたという感覚があったらしいのと、10年も仲良くしてるのだから少しくらい聖書の話をして大丈夫だろうという信頼もあったらしいのです。なのに、「そういうつもりで私と遊んでたんだね！」と突然キレられ、連絡を断たれてしまったそうです。宗教家＝勧誘するために近づいてくる。という偏見が根強いことがわかるエピソードだと思いました。妹は未だに教団ですから、そういう時に慰めてくれる仲間が居ますが、これがもし、信仰心はあるものの団体とは距離を取りたい二世だったら、この偏見があるせいで他人に悩みを打ち明けづらくなるだろうなと思います。銃撃事件以来、宗教というものへのネガティブなイメージがさらに強まっているのを感じていますし、実際、妹が言うには集会に行くのを強く反対されるようになった信者が増えたそうです。世間が宗教を忌避するからこそ、カルトに依存してしまう信者も大勢いると思うので、宗教への偏見を少しでも減らせるような報道等があると良いなと思っています。

●脱会はしていませんが、脱会しても本尊を所持していたい、と考えています。弁護士に相談も考えたことがありました

●自分の中の宗教の位置付けを見つめなおす良い機会になりました。ありがとうございました。

●大学時代に宗教3世の研究をしようと思いましたが、そもそも2世に関する資料すらあまりなかったので、このような調査がなされることを、きっかけは残念で

すが、ありがたく思っています。なお、自身のように「脱会はしていないが、信仰もしていない」という2世●3世はそれなりの数があると感じておりますが、そのような人にとっては回答が難しい（その立場を前提として明記できない●はつきり当てはまるものがない）設問もあったことをここでお伝えさせていただければと思います。

●私たち宗教2世に目を向けて下さってありがとうございます。

●彼らの言う「福子」のエリートコースを小学生の頃は歩いてきましたが、全く性に合いませんでした。中学生以降は親も信仰をそこまで強制してこなかったことや、嫌なことは迷わず手を抜く自分の性格もあって足抜けできていますが、どちらかが欠けていたらどうなっていたか。とはいえ、教団から離れて25年ほど経った今も「信仰を捨てれば地獄に墮ちる」と子供の頃から言われてきたことをふと思い出し、「自分は地獄に墮ちるのかなあ」と思うことがあり、少々困っています。また、70歳を超えた親の葬儀を、信仰について知らない私自身の家族にはどう見せたらいいのか、悩むこともあります。

●私は、信者や入信した母親から、繰り返し勧誘を受けましたが、入会の手続きは頑なに拒み続け、信条としても教えに共感するところはありませんでしたので、厳密には2世未満だと思っています。ですので、却ってお手数をおかけするようで大変恐縮ですが、調査の目的等に照らし合わせて、私のような立場が調査の対象外であると判断された場合は、私の回答は集計から除外して下さって構いません。特に親からの強い勧誘にこらえきれずに入会し、被害を受けた方を救うための傍証の1つにでもなれば、と思い、回答しました。この調査に関わる皆様の気持ちが報われて、様々な救済などの制度が整えられることをお祈りし、他にも自分にできることをしていきます。

●特に設問がなかったのですが、辛かったこととして「医療の制限」がありました。病気になっても病院に連れていってもらえなくて辛かったです。民間療法も痛くて辛いものが多かったです

●宗教に偽装した反社会的勢力は、速やかに解散されて淘汰されるべきだ。教団内に跋扈する傲慢で非常識な聖職者や幹部も追放されるべきだ。自浄作用ができない教団は、衰退する他に道はない。

●私が所属している教派は、いわゆる正統派キリスト教の流れを組むもので、「統一教会やモルモンとは一切関係がありません」とことあるごとに掲載している側

です。でも、親戚で、クリスチャンであったのに統一教会に入り音信不通の人がいて、二世問題は全く他人事とは思えません。また、同列に扱って良いのかわかりませんが、正統派のキリスト教であっても、統一教会とは少し違う「二世問題」を抱えています。実際、私も現在キリスト教系のカウンセリングに通っていますが、本来分かち合うべき価値である「赦しあい」が、クリスチャンであっても出来ていないことがとても多く、教会の教えや信条には共感していても、人間関係でつまづく（教会に通いたくなくなるなど）ことがとても多いです。いわゆるカルトの問題は、もちろん社会的●政治的に取り扱う問題なのですが、他方、いわゆる正統派の宗教も無関係ではありません。正統派の宗教に課題があるからこそ、カルトに惹きつけられてしまう、という側面も、一信仰者としては無視できないと思っています。もちろんカルトとは程度が全く違うのですが、子供時代に親や教師から集会への出席強要されたことを今でも気に病んでいる、同じ宗派の友人もいます。本来、宗教は人を幸せにするものですし、親が幸せそうであれば、そして子供が心から納得すれば、強要しなくても、子供も自然とその宗教に対する信仰が芽生えるものだと思います。どこかに嘘があるから、強要したり、不自然な態度をする必要があるのだと思います。是非、この機会に、いわゆる正統派●多数派の宗教家の方々にも、この問題に向き合うこと（①社会的課題としてのカルト問題 ②自分たちの宗派の2世問題 の2つに向き合うこと）を自分ごととしてとらえてほしいです。

●日本人は無宗教、と言われて久しいが、本当の宗教()付きですが、これを持っているものは強いと思っているし私も代々キリスト教信者でよかったと思っている。米英にも暮らしたが、代々キリスト教信者に大勢会った。最低限信頼し合えたと思う。日本の宗教2世と世界の宗教2世のイメージはだいぶ違う。

●宗教とカルトの違いをはっきりとつけることが大切だと思う。

●唯一私の親から言われていたことは、外で軽々しく神様の話をするな、であった。信仰の自由、ということも親から教えられていたような気がする。

●このような機会を設けて下さり、ありがとうございました。小さな頃から、教団は絶対的なものだと、現実的に祈って結果も出し、人生まじめに頑張っていました。小さな不信から、教団と距離を置こうと思い、支持政党への不信。Twitter で自分と似たような考えの人たちを見つけて、交流はしませんが心を保ててい



ます。

●教団信者の大半は純粹で真面目な人だと思えます。ただ、教団トップ氏を崇拝しているような人が多いように思います。なぜか、支持政党の集票係になってしまっていて、自公政権の政策に意見する私のような人間は浮いています。私は0歳で入信しており、宗教選択の自由は無かった。母は60年以上の信者ですが、割と理解があるので、私が教団に対し批判的な意見を言っても受け入れてくれます。だから脱会までは考えていません。でも、幹部の方々には、もう少し勉強して頂いて、東大出の支持政党の議員に丸め込まれないようになって頂きたい。日本国民の幸せに貢献する政策を打ち出せないなら、もう支援はしないと断言して頂きたい。"

●今回、あのような悲惨な事件があり、結果的に宗教2世と言う問題がマスコミ等に取り上げられた事により、私の子供も(もう成人していますが)わたしを介してそういった問題について理解をしめしてくれたり興味深く荻上さんのラジオに耳をかたむけてくれるようになりました。その点についてはほんとに救われています。ありがとうございました。これからもこころのよりどころとして拝聴させていただきます。(先日の特集の、元日統一教会の方のお話が、とても聴きやすく興味深かったです。)

●父の心が休まるならと入信したが死と共に脱会した。人の病氣や不安たかる宗教には嫌悪感しかない。

●自分の信仰と組織は別物であるべきだと思っています。自分の場合は、組織に与るのが嫌です。政治と宗教は分離すべきだと教わっています。自分は、疑念を抱いて離れたのは小学生の時ですが、献金があることなど知りませんでした。

"●私自身は宗教2世ですが、既に親は脱会しています。教義や活動に疑問ではなく、単に人間関係が面倒だと言う理由です。私自身は、教義や活動に疑問を持ちつつも、たまに人と会う機会だと割り切っています。献金や勧誘などももちろんありますが、「上を目指す」ことに執着しなければ、聞き流しても問題ないです。信者に親はたくさんいます。その子供たちも2世3世になりますが、「学校の部活が忙しい。興味が無い」という活動していない子供たちも大勢います。むしろ、親子で一体になって熱心に活動している人たちは少ないように思います。したがって、カルトと呼ばれる教団の子供たちとは別に、同じ宗教団体の2世、3世であっても信仰や活動への傾倒具合は全く異なるものとなるでしょう。自分の教団は、カルトだとは思って

ません。上記回答のように特に強制もありませんでした。しかし、教団内の地位やランクを向上させようと躍起になると、カルト2世に近いものになるかもしれません。このように考えると「受験」に近い苦しみです。「有名校に合格するなど、こうでなければならない」と幼少期から強制されれば多大な苦痛であり、自分のあり方に悩むと思います。しかし、そうでなければ、高校に行った、大学に行ったなど、一般的な出来事として処理が可能であるものだと考えています。もちろん、宗教2世の中で苦しみの中にあるひとが大勢いることは承知しています。

●宗教そのものにネガティブなイメージがついている状況はよくない。反社会的な宗教をかたった団体と、信仰を糧によりよい人生と社会を築こうとしている団体をいっしょにするような言説は、やめてもらいたい。

●宗教二世に関する問題を取り上げていただき、本当にありがとうございます。幼い頃からの苦しみが少し救われた気がします。

●自分は社会人になり仕事をきっかけに精神疾患を患いそれを盾として現在は宗教活動をしていません。自分としては脱会したいとは思っていますが、実家暮らしで両親から援助を受けている立場なので、両親の機嫌を損ねたり信者の人から「子どもが脱会した」ことで家族がなにか言われると思うと実行に移れないでいます。現在の入会はしているが活動をしないままでいられるのであれば、両親が亡くなってから脱会しようと考えています。信仰の自由はもちろんあると思いますが、それと同じくらい信仰をしない自由もあります。自分は生まれて間もない頃に入会した(させられた)ため、自身や家族の宗教のことで悩むことが多々あります。家族や第三者による未成年者の入会を禁止し、成人になってからでない入会できないようになれば、少しは自分のような思いをする人がすくなるのではないかと思います。

●自分の回答がなにかに役に立つとは思いませんが、辛い思いをしている人の手助けになればと願っております。この度は、このような機会をつくっていただきありがとうございました。

●両親が居ないとき教団の男の人に性的暴力をうけました。このアンケートで私みたいな悲劇が出ない事を祈ります。

●自身のメンタルヘルスの問題と、宗教3世であることに関連があるかどうかは分かりませんが、正直なところあまり関連はないように感じてはいます。現在無職●ひきこもりで、両親に養ってもらっている後

めたさもあり、脱会はしていません。団体活動に参加はせずに名前だけ残している状態です。

●今回の問題で宗教自体に対して悪いイメージが植え付けられてしまった人も多く居ると考えられる。原因となる今のメディアの統一協会批判一辺倒の報道姿勢に強い懸念を抱いている。本来は容疑者の犯罪に至った経緯を詳らかにして、社会は何をすべきだったのか、或いは奈良県警と警察庁は何故重大事案をみすみす起こさせてしまったのか、に重点を置くべき所を、ただの自民党批判の道具にしていることが極めて嘆かわしい。翻って、宗教信者はマイノリティであるため、私自身は昔から友人にも宗教に入信していることを伝えておらず、この数年で漸く一部の信頼できる人にだけ話している現状にある。新興宗教はいざ知らず、歴史のある宗教であっても"宗教"全体を忌避する人が一定数いるため、例えば婚活ではスタートから幅が狭まっているなど制約を受けている。しかしながら宗教は特に生まれながらの入信の場合は性格含めて自分自身を造った構成要素のため、今さら否定しようとは思わない。メディアを始めとして宗教に対する表現は慎重であるべき。

●マスコミが二世の問題を取り上げるなら、二世で良かったと思う人も取り上げた方がいい。

●教団の批判はデマが多いです。私はデマがなくなるのを願っています。

●信仰を持つとこの大切さや尊さも世の中に伝わるといいと思います。

●普通の仏教徒です。このアンケートの「二世」の定義には、当てはまらないですがあえて回答してみました。

●物心付いたときから宗教があり、教義に疑問を持つことはあっても、親と一緒に集会に通うことは欠かすことのない日常でした。それでも退会できたのは家族の引っ越しに前後して親の信心が薄れたため？です（親には詳しく聞いていませんが、引っ越し先での宗教コミュニティに馴染めなかったのかかもしれません）。いま私は人間関係をうまく構築できないのは、幼児時代の教義に基づく体罰などのせいだろうかと思悩むことが時折あります。"

●信仰宗教の信仰に関してそんなに嫌な思いもしたことがなく、社会的不利益も受けたことがないことから、昨今の信仰宗教の全てが悪のような言説には違和感を覚える。良くない宗教もあるというのが正しいのでは無いだろうか考えている。

●価値観の違いに悩まされる二世が居なくなることを

願います

●兄妹や他の宗教二世の人達が宗教に対して自分と同じような疑問を持っていなかったり、虐待なども無く不自由なく育ててもらっている状況で、信仰に対する疑問や脱会したいと言う事や、自助グループに繋がると思う事はなかなか難しいです。宗教の問題が可視化される事で、このような宗教二世が自分の状況を客観的に知る機会がもっと増えて欲しいと思います。

●脱会、というのがどういう状態を指すのか正直わかりませんでした。個人的には宗教から距離をおいていますが、脱会届など出したこともなく、わざわざ出すつもりもないので...。私の場合、バプテスマもうけていません。そういう意味では入信というのもよくわかりません。良くも悪くも、二世であることは私のルーツでした。宗教二世問題について、個人的には、組織主導の行為への対処と、信仰を持っている個人への配慮は明確に分けて議論されるべきと考えています。個人の信教の自由が保証された上で、個人が自身の宗教を批判する権利やそれ以外の道に進む権利も保証されなければなりません。信仰している人の人権が守られる事、信仰以外の選択肢を取る人の人権が守られる事、双方の両立が図られていく冷静な視点より議論が進められていくことを望みます。

●宗教二世は親世代から強要されて悩むケースだけではない。逆に教義に照らしあわせて親の信仰に物申したくなるときもあるなど十人十色であることに気づいて欲しい。信仰の世界に人生の基盤を置いて積極的に人間らしく生きようと成長を目指す二世も存在する。そして最終的に目指すのは親子共々の成長と幸福でなければいけないと思う。それが出来るか出来ないかは各宗教の中身、教義の違いによるものであり、日本の社会はそのひとつひとつの教団の、教義の違いにも、目を向けるべきである。二世の問題というよりも、宗教の教えの中身の問題の方が大きい。二世問題が起きるような教団は、そもそも信者の親世代にとっても信者を利用し苦しめるだけの存在ではないのか。

●実家の家族は私以外、熱心な信者で、私だけ未活動ですが、私が社会的な立場もあり経済的にも成功しているので、今はあまり強く信仰の強制はしてきません。本当は脱会したいのですが、波風を起こしたくなく、未活動のままズルズル続けています。生後間もなくからずっと入信しており、私の人格形成に強く関わってきている宗教なので、それを否定すると自分のアイデンティティが壊されてしまうような気がして、若い頃はすごく悩みました。今はこの宗教関係以外の人達と

の交流も深まり、自分の仕事も充実している為、家族や宗教組織以外の拠り所ができて、ますます穏やかに過ごせています。ただ私の場合はたまたま恵まれています。18歳以上になって自己判断によって入信するかどうか決定させるべきだと思います。子供は親の持ち物ではないと思います。

●調査していただきありがとうございます。よろしくお願ひ致します。

●私は自分が宗教三世であったことを他人に打ち明けることで、母親の宗教をアウティングすることになってしまうのではという悩みを持っています。母は教団の信者であることを自身で誇りに思いつつも、信者以外の人の目も気にしているようで、周りに公言はしていません。宗教三世であったことも自分のアイデンティティではあるが、そのアイデンティティが自分だけのものではないような気がして、ジレンマに感じることがあります。

●親や家族がどんな信仰を持っていても、子どもがそこに物心つく前に入信させられていたとしても、家庭が健全に機能し、子どもが心身共に健やかに育ち、自立してゆけるならいいと思います。私のように、片方の親だけが入信していても片方がそれをよく思っていない場合は、子どもは、両親の板挟みにあったり、怒りをぶつけられたり(虐待される)、親の喧嘩に巻き込まれたり、離婚別居などになれば親の都合で生活が変わったり、など、本来安心して過ごせるべき家庭という場が辛いものとなります。宗教団体に問題がある場合もあると思いますが、そうではなく、このように親の宗教活動がきっかけで家庭不和から虐待される場合もあります。小さな子どもは親には逆らえません。私は自分の意思で入信したことはないの、最初から入っていないつもりでいますが、母から勝手に名前を入れられていたわかりません。信仰は本人の意思でするものであって、強制されるものではないと思います。しかし親が入信していると子どもも勝手に入信させられていることが多いと思います。親としては信仰していることだから当然のことと思っているかもしれませんが、宗教▶世という問題は、子どもの権利の問題の中のひとつであると思います。子どもの権利が大人によって守られ、虐待されたり、辛い思いをする子どもたちがひとりでも多くいなくなりますよう願ひます。

●宗教二世や宗教はどうしても悪いイメージがあると思います。宗教活動は家族仲が1番大事だなとつくづ

く思います。高校までは嫌な思いもしましたが、私は今の家族が大好きです。勿論どの宗教もおかしいところ、改善しなければいけないところがあると思います。でも悪い例は信者の中でも本当に極端な方で、私みたいな人も多くいるのではないかと思います。親が考えずに献金してしまって生活が苦しい方とかは可哀想だなと思っていました。信者の中でも宗教と程々の付き合いをして家族仲良く過ごしている人もいる事を知って欲しくて回答しました。

●宗教二世の子供は親を悲しませたくない、裏切りたくないという気持ちから、たとえ自らの意思に反していても親の関わる宗教と縁を切ることが難しいのではないかと思います。しかしそうした親を思う子の気持ちに潰れ込んで宗教から離れにくくさせていることも事実だと思います。私が悲しいのは、親が自分の言葉や思考でなく、宗教の教えを引用して私を叱ったり導こうとしてくることです。そうではなく、親自身の言葉や思考を私の人生の折々に投げかけて欲しかった。今となってはかなわないことですし、いつか母親に伝える日が来るかもわかりませんが、宗教二世としての自分の問題にはずっと目を背けて先送りしてきましたが、もう少し時間をかけて向き合い整理したいと思います。貴重な機会を設けてくださりありがとうございました。

●私自身は生まれたと同時に入会させられていたと思います。母が10代のときに入会し、父、祖母は母の勧誘により入会しました。母は自分が自身の実家の宗教が嫌だったこともあり「自由に」とは思っていたようですが、学生の頃は「参加しなよ」というような空気を強く感じていたように思います。小学生の頃は特に母の言うことをしっかり真に受けて「素晴らしい団体なんだ！素晴らしい団体に所属しているんだ！」という認識でした。しかし宗教活動自体は別にしたいことではないので、「いっしょに題目をあげよう」と小学生のときはよく言われましたが断りきれず(やらなければいけないと思っていたけどやりたくないという気持ち)、嫌嫌ながらやっていました。新興宗教ということで疑問に思うことはありましたが、(ふたりとも同じ宗教信者ですか)母は大好き、父は大嫌いですが、信者であることがアイデンティティーになっていた部分もあり、完全に宗教というものを否定する気持ちにはなれず、そこが世論とは違うなと感じ、自分の気持ちがぐらぐらとしていた時期がありました(10代後半ぐらい)。その頃くらいに初めてアンチ板というものを見て「同じ宗教だけどそんな酷いことをする人もいるの

か？」ということと「匿名というだけでこんな酷い言葉を書く人がいるのか」と衝撃を受けました。所属意識が強かったときにそれを見てしまったので自身を否定されたような気持ちになりました。部活の先輩や後輩が目前で、私が所属しているとは勿論知らずに所属している新興宗教について否定的な意見を述べたことがありました。先輩のときは流し、後輩には「私所属しているよ」とだけ言いました(後輩はそれ以上にも言いませんでした)。そこでまた改めて世間の認識を知り、また人は目の前の人がそうかもという想像をして話さないんだなあと思うようになりました。今は学生の頃に比べると放置ですが、たまに会合の誘いが来ることがあります。強制はされません。幼少期から今まで、常に身近に同じ宗教の人がいた(通っている学校の先生や同級生など)ので孤独感はなく、所属している宗教の中よりも、その外側からの認識で傷ついたというような認識でいます。長々と支離滅裂な文章を書いてしまいすみません。思ってきたこと感じてきたことを殴り書きしてしまいました。宗教を強制されている人、嫌な思いをしている人がその場から逃れることが出来るようにと思っています。

●私はまだ高校生で脱会できたからマシな方かもしれませんが、キリスト教含め、とにかく宗教っぽさを感じるものに対する嫌悪感が拭えません。教団はお金を巻き上げる事も無く、温厚な方が多かった印象なので他と比べてマシな部分もあったと思いますが、親が新興宗教なんかにハマっていなければ人生もっと違ったんだろうと思うことは多々あります。新興宗教など全て無くなれば良い。規制が進めば良いと思いますが、2世、3世への偏見の目が心配です。このアンケートがどのように使われるのかは分かりませんが、2世以降の人は生まれた時から家族に洗脳されているような物なので、おかしいと気付いて脱会できたあとも精神的に苦しんでいることを少しでも多くの人に知ってほしいです。

●宗教=気持ち悪いと思っている人も少なくないと思います。自分からハマったのではない、2世以降への理解が深まる事を願います。"

●子供の宗教の自由を保障して欲しい。信じない自由を親が認めないのであれば、そこから逃げられるように、公的な助けを入れられるように整えて欲しい。本当に沢山の2世が絶望の中で生きてきている。姉は心を病み拒食症になった。私自身自殺せずにここまで生きてこられたのは、奇跡だと思っている。20年以上経つ今でも複雑性PTSDで苦しんでいるが、医師や心理

士でも、宗教問題にあかるい人はほとんどいないのではないかと思う。自分の心の中にある苦しみを吐き出したいが、吐き出しても理解して貰える場が見つからない。

●宗教二世は、自分のことを語らないし、語る場も得ることができめせん。二世は、脱会すると不幸になると言われて育った人が殆どです。今、脱会していますが、不安はついてまわります。どうかこのアンケート結果が世に出ることを期待しております。

●襲撃事件があってからより一層親や周りの信者の「自分達のたちの神様は旧統一教会なんかとは違って素晴らしい神様だ」という意識が強まり活動が活発になったと感じています。法律でカルト教団の基準を設けてしまうと、ますます、そこに引っかからないグレーな宗教がより活気付いてしまうのではないかと危惧しています。なんとかする上手い方法はないでしょうか…。

●宗教二世で苦しんでいることを誰にも言えずに今日まで生きてきました。生まれた時から強制的に入信させられている教団を抜けたいとも言い出せず、教団の標語がでかでか印刷された看板をポストの横に設置した家で暮らしています。いつかは伝えないといけないと思っていますが、仮に私が抜けられたとして、熱心に活動する母の肩身が狭くなることも容易に想像できるのでそのことを思うといたたまれません。(彼らは地区を細かく区切り、狭い密なコミュニティで活動しています。)私は独身でパートナーもいません。今後そのような相手ができたとしても「こんな私なんか」より一般家庭の方と一緒にいるほうがきっといいに違いないと思います。将来には一切希望が持てません。アンケートに書けただけでもほんの少し気持ちが救われたように思います。ありがとうございます。"

●ありがとうございました。自分自身は、信者である母親との関係もそうですし、母に反対してきた父との関係もあまり上手くいかず、心の拠り所がないまま孤独な思いをずっと抱えてました。それは母親と宗教に関連したことが影響していると思っています。しかし過去は変えられませんが、母が信仰に救われているなら取り上げるのもおかしいので信仰を捨てて欲しいとは思いません。でも、それがなければ違った人生を歩めたのではないかと辛くなる時もあります。幼かった故に母の巻き添えとなり、母と父の間に挟まれ辛かった子ども時代に、得られなかったものがたくさんあったと感じています。教団は輸血の問題や宗教イベントの拒否、柔道などの格闘技の授業の拒否、国歌斉唱

の拒否など、社会生活を送る上で問題になることが多々ありますが、献金の強要などはありませんでした。基本的に良心的で道徳的な教えだったので恨みはありませんが、独善的なところがあるのが嫌でした。活動から離れてもしつこく復帰を促されうんざりしました。今も実家とは距離を置いています。

●二世の私はこれだけバカバカしいと思っても呪いのように辞めたら死後は？などとよぎるのです。結婚を機に辞めるはずが、家族のしがらみが想像するだけで厄介で目を逸らしたままでここまでできています。また、実はパートナーも別のカルトの二世です。こちらの方がナチュラルに信者で別のタイプで面倒なのですが、一番問題なのは永代供養をその宗教施設内で行っている事です。普段は宗教に触れないし、だからどうということもないもののお墓参りには行けません。もちろん抵抗感でムリなのです。強要してこない家族なのでやり過ぎしていますが、父母がいつか入るような事があればお手上げになります。私は私自信も、そして我が子にお参りとは言え施設内へ行かせる訳にはいかないのです。本当に厄介な問題なのです。子供を入信させる事を禁じる法が必要です。私は自分で選んでいません。

●自分の生まれ育った環境を客観的に見るというけっこう体験だった。設問それぞれの目的は明らかにされてはいないものの、設問自体から研究者が想定している問題は透けて見える。自分の子供の頃を客観的に思い返すという行為（客観的というのが行為としてはかなりまれ。普通思いつきにひたる時は人は主観的なので）と同時に、社会的にそれを問題視する質問がたびたび投げつけられる、という地獄のような体験だった。とはいえ、出題はこちらに気を遣っていただいでいて、とくに問題はないと思う。このインタビューが、回答者の自覚の有無に関わらず、回答者の自尊心や家族への想いに与える影響はかなり大きいと思う。集まったデータは、単なる統計上の数字ではなくて、そういうリスクの上で集まった体験として、大切に扱って欲しいと思っています。

●結婚をしたかった時に、家の宗教の問題で婚約破棄になったことがあり、結婚の難易度が高すぎました。自分が傷付かないために同じような境遇の人と出会えたらと考えていたこともあったので、婚活の自助グループなどもあるといいと思いました。結婚後もお葬式の問題など付き纏い、その度に心が傷みます。

●宗教に触れていたのが主に義務教育中だったので、思っていた以上に私の人格形成や、現在の思考回路に

くみしていることに気づきました。臨床心理士のカウンセリングなどで、認知の改善をはかりたいです。

●今、問題になっている統一教会の宗教二世の方々より自由度は高いと思っていた。献金は上限の制定ではなく、禁止を希望する。政治家の宗教への祝辞なども。インタビューを受けるのはいいと思う。

●統一教会が一番ひどいのは当たり前ですが他の温厚だとする宗教も二世問題は似通ってます。環境要因として一世の若さや気性の強さが大きいと思います。大きさにかわらず被害があることを広く知ってもらいたいです。個人が教祖的な集団も同様です。まとまった声が埋もれないよう永遠に目につき、知りたい人がいつでも知ることのできる方法やものを残していただきたい。一番は手口や内容を個人が知っていくことなんだとは思いますが、難しい人もいます。

●いま、ほとんど活動をしていない教団3世です。2世、3世となると近所づきあい、友人関係なども宗教がらみのものも多くなり、脱退となると、それら全てを捨てる覚悟が必要になります。自分だけならよいですが、親のこと（親の付き合い）を考えると、敢えて問題をおこさずに脱退せず、活動はほぼほしないのが一番なのかなと思っています。また宗教と政治は切り離すべきと考えています。選挙活動、投票は個人が自分で考えるもの。教団の中の同調圧力で投票している人、長年の活動で考えることをしなくなった人が沢山いると思います。統一教会の問題をきっかけに支持政党と教団、政治と宗教のつながりを社会で考えるきっかけになって欲しいです。

●宗教とそれによる家庭の不和の問題に悩んでいた中学生の頃、担任との二者面談で「悩み事は何かある？」と聞かれましたが、どうしても宗教の問題は話せず、「祖父母と両親の仲が悪い」と伝えたところ、担任には「そんなのどの家でもいっしょだよ」と笑われ、突き放されてしまいました。「大人にはもう相談できないんだ」「誰にも理解されない」ととてもつらく感じました。特に関係の近い担任の先生には宗教のことを知られるのがこわくて、相談できないと思います。学校現場でも宗教的知識の研修を受けた教員やカウンセラーの配置をしてあげてほしいです。また、「修学旅行に参加するな」とは言われませんでした。神社を訪れたりお守りを買ったりしたことがわかると激昂され、修学旅行の後に関係が極端に悪化しました。コースの計画においても孤立感や恐怖感を感じる子供もいるのではないかと思います。

●自身は宗教のために具体的に傷つけられたり暴力を

受けたりした経験はないが、無宗教の家庭の皆から見たら不穏に見られていると感じることもあった。教義により一般よりも高い倫理観で自分の行動に制限をかけていたので、性格形成に影響しているようにも思える。

あらゆる宗教の2世で苦しんでいたり世間に違和感を持ちながら生きている人が周りにも多いので、社会で見守る制度やコミュニティがあると良いと思います。

●脱会していないと回答しましたが、入会も生まれた時からしていたのでどうやったら正式に脱会出来るのか分かりません。活動は小学校低学年の頃の記憶しかありません。両親は亡くなり、90代の祖母だけが毎日朝晩熱心に読経しています。同居家族によると会合などにも参加しているようです。私自身、信者の感覚は全くありませんが祖母が教団の墓地を買ってしまった為、両親などはそこに眠っておりお墓参りに行く度にこの宗教団体との結び付きを突きつけられて憂鬱です。ここまで高齢になっている祖母の洗脳を解くのは難しいと思います。昔、事故で幼い子供を亡くして落ち込んでいたところを毎晩熱心に勧誘されて入信したと聞いています。何を信じて自由だと思いましたが人に不幸がある度に「あの人は信心が足りなかったから…」と言い続けて来た祖母は本当に宗教に救われていたとは思えません。

●宗教2世の問題ではないが、日本の選挙制度は宗教動員すると有利になるようになっていて問題だと思っているのでそこをもっと取り上げてほしい。(掲示板やポスターなど一定の労働力を前提としているのはおかしいと思う)

●ご自愛ください。

●一番困るのは洗脳されきっているので、教義以外の普通の事●世間一般の常識的な話をしても理解できない事です。実家には様々な問題があるのですが、まともに話し合いが出来ません。私も関わると直ぐに教義や入信の話が出るので距離を置いています。今回、統一教会の事でテレビで報道されているようですが、一時期のブームではなくカルト宗教でなくても宗教2世●3世の事や新興宗教全般についても調査されて援助や救済が必要ならば法整備など行ってほしいです。とくに脱会後の援助が大切だと感じています。

●教団本部というところに辞めたい意志を告げたが、案内されなかった。「あなたが辞めたと思えば退会だ」という主旨の話をされ話にならなかった。確かネットで「退会届を出せ」という記事を読み送った記憶もあるがおそらく退会することができていないと思う。そ

の後、両親との関係を悪くするつもりはないためになあにしているが、両親が他界したらきっちり辞めるためのアクションを起こすつもりです。

"●アンケートを実施していただきありがとうございます。宗教2世として第三者から問われる機会が無かったので、改めて子供のころはどう思っていたかな?など思い起こしました。これまでも頻繁に一部の宗教団体が問題化すると全ての(特に新興)宗教がそうであるかのようにメディアに報じられ、間違った報道を街中で目にするたびに子ども心に不安でした。性格上、自分には自信がないけど、自分の行いで自分の宗教が間違っていると思われぬように無意識のうちにとても気をつけて振る舞っていた子ども時代だと思います。それほど報道によるストレスがあったんだと改めて気付かされました。(報道側のみなさんにお伝えするのは大変憚られますが)他方、私たちの団体の海外での信仰者の様子、活動の様子は一部は社会的にも優良団体と認められていて堂々と信仰しているのを知ると、そもそも“宗教観”の違いを実感しています。日本には節目にお詣りなどには行っても無宗教の人が多い国なので、宗教や信仰者に対する理解は難しいのかもしれませんが、社会的に問題のある団体はわたしからみると、そもそも“宗教”ですらなくただの反社会的団体なのだと思ってほしいです。大変貴重な機会をありがとうございました。みなさんの研究が今後の日本により良い宗教観を根付かせるきっかけになりますように。"

●親と違う考えを口にすると激しく否定される環境で育ちました。大人になり自立して生活できるようになってからは、両親と距離を取ることで自分を守ることができるようになりましたが、子どもの時は大変でした。他宗教や無宗教の大人が周りにいれば自分の考えを否定されない環境も持てたのかもしれませんが(親との関係上脱会はしていませんが、私は10代のころから無神論者です)。が、両親ともに宗教にどっぷりはまっている私の家庭は、ほかの親戚や近所との付き合いが薄く、交流できる大人は両親と同じ宗教の人たちばかりでした。両親は会う人会う人、新聞購読や選挙での投票を頼んでいたの、人付き合いが希薄になって当然だったと思います。そういう家庭の子どもたちが、ほかの環境と接する場が増えてほしいと思います。

●私の場合は小学生の時に親が「入信●脱会」したため、「宗教2世」の中では不利益や不遇期間が短いといえます。また、自身が積極的に宗教活動を行ったり、金銭を含む機会損失は少なかったかと思います。しか

しながら、「カルト性の高い団体を信仰する両親」から教育を受けながら人格形成に大きなダメージを受けたと考え本アンケートに回答いたしました。「宗教2世問題」では機会損失（金銭●人間関係等）にクローズアップする傾向があると考えておりますが、本質は人格形成不全があるかと思えます。定量的に比較検討は難しいかもしれませんが、今後、カルト信仰する両親下で教育されている子らの救済に少しでも焦点があたり、最終的にはそういった子供達が一人でも救われることを望んでおります。

●宗教二世の問題に取り組んでいただきありがとうございます。自分はほぼ活動してないので脱会してるのと変わらないのかもですが、信者の方から強要されるという事はありません(地域によるのかもしれませんが)。赤ちゃんの時に勝手に信者にされてましたが、今は親の為にそのままにしてると感じます。統一教会が盛んに報道されるようになり、宗教2世の存在も知られるようになってきました。その分、自分だけではなかったという思いと、忘れようとしていた記憶が甦って苦しくなる日が交互に繰り返されています。脱会して時間の経った自分でもこれだけダメージを受けているので、脱会から間もない人や脱会したくても出来ない人はどれほど心を痛めていることだろうと想像してしまいます。報道することはもちろん大切ですが、伝え方については常に検証が必要ではないかと思っています。

"私の体験は今宗教2世として苦しんでおられる方に比べれば大した事はないかもしれませんが、か、たとえそこまで規制の強くない宗教団体でも家族が入信することで、もっと違う姿になれたかもしれない我が家がギクシャクしたものになったことを知っていただければと思っております。父はその後教団の教育支援団体の役員になっております。母は大喜びでしたし(なにせ教主様とも直に話せたりしましたから)父も信仰していると思っておりますが、私はそれも疑問に思っています。父が晩年ほとんど動けなくなった頃、母が父の介護で教団に行けなくてイライラしているして居づらかったようです。そのイライラを抑えるため実子の後継(とても多いのです。実子やお嫁さんなどが信仰しておられて後継となっておられます)がいれば落ち着くと思うから私になって欲しいと(それも妹と相談して)言われたことに、絶望を感じ実家から心が離れています。

●我が家の場合は父方祖母が熱心な信者で、自身の息子(私の父)を無理矢理信者としました。また、私の両親

の結婚の条件が母親の入信でした。そのため私は産まれてすぐに信者3世となりましたが、両親を含めて全く教団を信仰していなかった為、信仰を強制されるような事はほぼ無く、その点は他の2世3世信者より恵まれていたのではないかと思います。なお、設問における家族とは私の両親ではなく、すべて父方祖母によるものとお考えください。

思春期真っ盛りの10代半ば頃から段々と自身の宗教観が周りと違うと思い始め、教団に関して色々調べた結果、私は見事にアンチ教団となりました。しかし私も私の両親も祖母が無くなるまでは、ある種の人付き合いとして名義だけを貸しているような状態でした。一昨年に父方祖母が亡くなった為、私の父主導で正式に脱会。何十年も開けずに放置していた御本尊も返却し、その後は特に教団信者からのアプローチはありません。脱会すると信者からの嫌がらせが行われるという噂も耳にしましたが、この2年間特にそういう事も無く平和に毎日を過ごしています。これは私の持論であり極論ですが、どれが真の宗教で、どれが詐欺を行う宗教で、どれがオカルト宗教か等と言ったことは絶対に人間が判別できるものではないと考えています。したがって、私はこの世にあるすべての宗教を等しく無くすべきであると思っています。このような考えに至ったのも私が以前、信者であった経緯によるねじ曲がった思想であることも重々承知しています。

●荻上チキさんのラジオよく聞いてます。いつも癒されています。これからも応援してます。知ろうとさせていただきありがとうございます。ただ質問がジェンダーに偏っているようなのが気になりました。

●私は、父方、母方全て教団で、私だけ異をとらえました。兄も私も何故かわかりませんが、統合失調症を患いました。兄は自ら命を絶ちました。脱会したいけれど、両親が、教団の共同墓地を購入しているので、それに障りが起こらないため、脱会はしていません。中学生から、嫌だったので、活動という活動(入信を薦めるとか、選挙で活動とか、財務とかは未経験です。)しなくて良かったと心の底から思っています。このアンケートが、有益になりますように。

●所属宗教は信者が減る一方で、教会が貧乏で、陰気臭い若さも活気もないです。私が信者かと言われるとその自覚はないですし、お金を払うのは親の法事などでのみ。大祭の葉書が来ても無視して行きません。親のお墓が天理教の管理する一画にあるので管理費などを払い込む必要があるのが面倒です。自分はそこに

は入りたくないのでも今は考えないようにしています。

●政教分離を考えると、支持政党と教団の方が、自民党と統一教会より深刻なのに、なぜ取り上げられないのかずっと疑問です。教団の信者は、その子（2世）も、自由な参政権がありません。

●LGBTQ 当事者です。同性愛者が、宗教団体の関わりの中で、精神的ケアが必要な状況に遭遇した事のある割合を、機会があれば調べて頂きたい。

●子どもでも親や教団から安全に離れられる法制度の整備、及び宗教関連トラブルについての相談機関の拡充を強く望みます。

●今回のようなデータ収集はとても大切だと思います。今後も、少しずつではあっても、問題の解決に向けて研究等が進んでいくことを願っています。私もできる限りの協力をしていきたいと思います。

●日本に在住する人でメンタルヘルスに問題がない人が一体どれだけいるのか。不適切養育の再生産。精神的自立の出来ない人、強烈な認知の歪みがある人、対話不能な人、いわゆる人格障害の人がかなりの割合で存在する。多数派に同調するだけでなく糊口を凌げる仕組みは悪用する側にとっては魅力的なのだろうが、子どもにとっては地獄そのものであった。

●教団は献金を強制しない事が多く、バプテスマを受けていなければ信者にはならない点で非常に厄介。親の子というだけで勧誘 url の手紙がポストにくる。アプリでは信徒でない人間は真実の友にはならないとまで言っている。自主的にと名目して子供も参加させ、自由の意志などと言っている。子供は学校の進化論と宗教の唯神論を同時に覚えて世間向きの解答と集会向けの解答を答えられなければ社会で生きていけない。知ってるだけでも精神病になった人もいる。

●新興宗教に入っているというだけで勝手に肩身が狭い気になる時がありました。最近はその機会が増えました。教団は政治的な面でも叩かれやすく、ネットでぼこぼこに言われています。大人数の中でやばいやつもいれば真っ当なやつもいるのは、宗教に入ってもいなくても一緒です。なのに入ってるだけでやばいやつの仲間、と思われているんだと思うと悲しくなります。もう仕方がないことだとわかってはいますが…。一生レッテルを貼られたまま生きなきゃいけないので、もっと開き直って生きていきたいです。

●人間を強くしてくれるなら宗教はあってもいいと思う。宗教は世の中の平和を維持するのに役立つし、必ずしも非科学的であるとは限らないから、排除しようとする日本社会も異様だと思う。

●私は、信仰はありませんが、私の大事な家族や友人は現役の信者です。この人達に誹りなき誹謗中傷が向けられている現状に心を痛めています。「宗教二世問題」を研究する方々は、現役の信者の人達の声も元信者の人達の声と同等に扱い、耳を傾けてほしいと切実に願います。

●いい宗教もある

●現在は未活動の、宗教3世です。(両親共二世)。宗教への加入可能年齢を法で決めて欲しい。2歳での加入だったので、自分の意思がない。また脱退するにも親戚のほとんどが宗教に入っているため、脱退しづらい。県外に逃げて住所を記録されるのでその地域の活動家が訪問してくる。コンプレックスの一つになっていて、なかなか恋愛に踏み込むことも難しかったです。

●脱会を妨害しようとする行為および脱会者●元信者への嫌がらせを、たとえ親族であっても法的に禁止して、脱会したい人●した人を法的に守る必要がある。教団を抜けるのは暴力団から足を洗うよりも困難。あと献金のクーリングオフ制度、返金保障制度も必要。私の知る限り教団が献金の返金に応じた例は一つもないので、まだ統一教会のほうが良心的とさえ言える。教団のやり方は巧妙なので、巨額献金のために家庭や人生が破綻した例が非常に分かりにくくなっている。●信仰をやめたいと思っても、家族の中で一人だけ脱会すると孤独になるだろうと思ってしまいます。家族の和を乱すのが嫌で、やめられないのが正直な気持ちです。

●ここ数ヶ月事件の影響によりマスコミで連日統一教会による被害が報道されています。私は教会がしてきた霊感商法や献金の強要、多くの二世を傷つけた事実は、事実に基づいて糾弾されるべきと考えています。またそれにより法的に法人の権利が規制されることはやむを得ないと考えています。しかし、法律に基づかないカルト●反社認定およびその影響による各政党からの断絶宣言、議員秘書への信仰調査、教会とは組織的に一切関係ない二世起業家の根拠のないバッシングなどはやり過ぎであると思います。私も親が幹部であるためいつ家にマスコミが来るか、職場に誰かがタレコミをするのではないかと不安です。また、今のまま世論がエスカレートすると信者の就職がかなり規制されることになりかねません。私自身は二世といえど自分の意思で教団に残っていますが、自分の子供が就職時に出自のせいで職を制限されるかと思うと、胸が張り裂けそうになります。子を持ち育てることは



私自身にとっての夢であり子供が幼い今はとても楽しい日々を過ごしていますがこの先訪れるであろう社会的試練を思うと申し訳なく、毎日涙してしまいます。そのことが今いちばんの悩みです。今は子供が1人で、まだ何人か産みたいと思っていますが、それも考え直さなくてはいけないのかなと思います。信仰を持つ人も持たない人も苦しめない世の中を望みます。

●このようなアンケートで意見を吸い上げていただけることを感謝いたします。

●母方からなる教団3世でしたが、母自体が信心深い方ではなく、そこまでの不自由を感じずに生きてきました。親戚は信心深い方ばかりですが、何かを強要されることもなくいい人たちばかりなのでよく世間で言われている所謂「教団信者」という人たちはファンタジーのように感じています。一人暮らしを始めた時になぜかその地域の信者たちに即バレし時折会合などに誘われましたが、適当な理由をつけ断ったり、逆に暇すぎる時はお菓子目当てに参加したりなど気ままに過ごしておりました。年に数回、支部の方達が家に訪問してきますが仕事終わりによくやるなあ、と逆に感心してしまいます。その場でいい返事だけして何も行動には起こしていません。脱会するのも面倒なので、何か大きな障害にならない限りこのままかなとも思っています。自分自身に信仰心も全くないので大人になった今は特に困ることもなく、このアンケートで子供の頃を思い出し懐かしい気持ちになりました。そういえば子供の頃、『同時中継』という、その地域の教団信者たちが会館に集まって中継を聞く会によく連れてかれたのですが、暇すぎて前に座っているおじさんおばさんたちの靴下の穴や毛玉を数えたり、色々な正座の仕方があるんだな、と新たな知見を得たりと子供ながら楽しんでいたのを思い出しました。その日は決まって外食なので子供の頃は喜んで着いて行きました。特に友人知人にも教団信者だよと言う必要もなく生きてきましたが、結婚相手には言わないとなあ…と悩みの種です。

●私は、親のすすめで信仰してません。30過ぎて、自分で教理を学び信仰することにしました。親も喜んでました。だから、強制はされてません。私は仕事で売上に左右されたり、人間関係で悩んだりしている人生が嫌になり、多少貧しくても助けあって生きていく世界が心地よく、教会にいます。そういう価値観が一緒の人が家族だから自分の心は救われました。宗教に救われる人もいるから、信仰していること事態を否定されたら辛いです。そういう世の中にオウムの時みたい

にならないかな、って敏感になってます。カルトは徹底的に真相を究明すべきですが、この難しい問題に、日本はそろそろ立ち向かう時期なんだと思います。

●私は組織には疑問を感じつつまだ信者ではあり、信仰のかなりの部分を内面化していると思います。これからそれが人生の軸になるとも自身にとってプラスになるとも思いますが、教団活動に家族を壊された部分があります。

●こういったアンケートをしてくださり、ありがとうございます。もう集会に行かないと言って親に泣かれてから30年ほどたちます。脱会でもめて以来、親にはきつい性格だと言われましたが、何とか乗り切りました。こんな話は恥ずかしくて誰にも言えず、なかったことにして生きてきました。孤独だった幼い頃や若い頃の自分に、宗教2世の苦難が話題になる未来がある、自分だけじゃなかった、と伝えてあげたいです。

●私は両親も周りの信者の方もそんなに酷くはなく、割りと尊重してもらえた方だと思います。同じ団体でも酷い人はいるので、被害にあった方は運もあるのかなと思ってしまいます。決して信心は悪いことではなく、どんな素晴らしい宗教でも関わる人が悪ければ被害はなくならないとも思います。本当は脱退したかったのですが、それだけは許してもらえず、遠くに嫁ぐので入信することで親が安心するのならいいや。と思えるようになりました。今は関わることは殆どありません。選挙お願いね！と連絡が来るくらいです。

●今回、宗教2世問題を取り上げてくださり、また声を届ける機会を与えてくださったことに感謝しています。宗教2世の問題は一般の人からすると共感が難しいでしょうし、それ故に2世達の口も重くなってしまうと思います。痛みを他人から（ときには自分自身から）なかったことにされるのは本当につらいです。この問題が広まって私たちの痛みが理解されることを願っています。そして親の弱さに否応なく巻き込まれる子ども達がいなくなることも、宗教の強要は人権の侵害です。それを踏まえた上でカルトに対して政府が強い対応をすることを望んでいます。

●このようなアンケートをしていただき、ありがとうございます。家庭●組織内で苦しんでいる子ども達が救われて欲しいです。

●わたし自身は元々、信仰心もなかったのです。父は大変熱心に教えを実践していたと思います。家族に相談もなくわたし自身も母もわたしの息子も信者として名を連ねていたようです。息子の753のお参りは苑でした。初詣も。しかし、ある時付きものが落ちたよ

うに父の信仰は終わりました。原因は聞きそびれました。我が家の信仰はそこで終わりました。父が入信した理由は大体察しがついています。おそらくその問題に心の整理がつき吹っ切れたので脱会したのだと考えています。自分のできる範囲での献金などはしていたようですが、暮らしや進学西澤困るようなことはありませんでした。悪質な宗教団体ではなかったのと、父自身が政治的な理念などで揺らぐことがなかったので、家族が信仰に深く巻き込まれることがなく済んだのかもしれない。

●辛かった話を思い出すのは少しキツかったですが、自分の中の考えを整理するのにも役立ちました。ありがとうございました。

●私の教団は統一協会のように献金はなく、政治活動には参加してはいないが、子供を無理矢理連れまわして、価値観を押し付けてくる。山上容疑者の母親もそうだが、宗教の勧誘は子育てで孤独になりやすい母親からの入信が多い。母が入信すると子供は家庭に逃げ場がなくなるので、子供だけの相談窓口も欲しい気もする。

●弁護士や宗教学者が宗教2世の味方のような顔をしていが、それに疑問を感じています。カルト問題の勉強会に呼ばれても、1世と2世の喧嘩になって、2世が出入り禁止になりました。宗教2世の味方のふりをしている人はどこか胡散臭いと思ってます。当事者である宗教2世の声を聞いて下さい。

●このような機会を作って頂きありがとうございます！

●いわゆる新興宗教の“2世”だけを問題にするのではなく、伝統宗教(寺社)の“10世●20世問題”も同列に扱うのがフェアであると思います。ある特定の宗教を叩いてよしとするのではなく、これを機に日本全体の宗教観が成熟することを望みます。

●旧統一協会にまつわる報道をきっかけに、新宗教について学びましたが、どれも本当に酷いものでした。そうしたものにくらべて私の経験は大したことはないと感じていました。

この調査の入力作業を進めるなかで、考えていたより幼い頃や人格が形成される時期に辛い経験をしていたのだなと見つめ直すことができました。今の自分をがんばったねと褒めようと思います。貴重な調査をしていただきありがとうございます。

●なんか、カルト宗教の一番のご利益って孤独や不安から逃れられることなんだろうなって思いました。親族と完全に絶縁して逃げ切った私は孤独と不安でいっぱいですが、頑張って受け入れようと思います。

●宗教2世であっても、信仰や教義に則る生活を強制させられるかどうかは教団や各家庭によると感じます。私の実家は両親とも教団の幹部ではあり、兄弟3人は生まれてすぐ入信という形にはなっていましたが、具体的な信心活動に関しては本人の自由に任されていました。私は学生時代に活動家としてコミットしましたが、残りの兄弟はまったく活動はしていません。教団の方向としては「一家和楽の信心」ということで家族全員が信心活動していくことが望まれています。強制してでもやらせるべきだとの方針はありません。他の兄弟は両親が信心するのは自由だし尊重するけど自分たちはやらないというスタンスでした。宗教2世の問題は、毒親やパワハラなどハラスメントの問題と通じるものがあると感じています。教団の方向性がその本人に内在する「加害性」というものを促進させるのか抑制してくのかということところです。教団は草創当時の強い拡大志向の時は「加害性」を促進させる傾向が強かったと思います。90年代の宗門問題以降は落ち着き、強制的な方向は抑制されていると感じます。自分が信じる信仰というものに子供も入れて一家で幸せになりたい、という心情は自然なものだと思うので、宗教2世問題への対策としてよくあげられる法律で教団に入れる年代を制限すべきだということが妥当なことかどうかはわかりません。ただ、本人が教団に属することを望まない場合、自由に抜けることができるような対策や保護などは検討して欲しいと思います。宗教2世ではなくても毒親の問題に悩む人は多いと思います。日本ではなんらかの信心をもっていたり教団に属しているというだけで偏見や差別にあうケースも多く、宗教2世で毒親の問題に直面した人は、プラス世間からも差別されるという二重苦の問題に悩まされます。宗教に関しての理解というものを深め、フラットな議論が行われていくことを望みます。”

●今回のような調査は定期的に行うことを希望します。

●私は普通のキリスト教です。ですが親の異常な信仰心で私は生きづらさを感じ続けています。親と会話をして常にも神様が真ん中にあり神様基準での話しかたがありません。親からの愛情を常に欲していました。親は神様だけをみていて私達のことは見えていませんでした。私が親に助けを求めると神に祈る事しかいわれませんでした。親に見てもらいたくて親の愛に植えていました。常に再臨の恐怖に怯え悔い改めをしないとねれませんでした。毎日毎日その日の悔い改めを祈り、夜寝てる時に再臨が来ても大丈夫なように罪をおかさないように生きてきました。離れて20年

ちかくたちますが未だに罪悪感や白黒思考はなくなりません。

●今まで宗教二世の問題はあまり注目されてきませんでした。これを機に現代の宗教とは何か、またどのような危険性があるのか、日本社会全体で考える必要があると思いました。三大宗教や神道以外、カルト教団や新興宗教＝カルト教団のような扱いを受けると辛いと感じます。特に何かを強要することのない宗教やその中で心から救われている人たちがいることを知ってほしいです。悪いのは、人の信仰心を弄んで誰か個人の利益(名誉欲や金)とすることなので、この活動がいかなる宗教であれ、静かに神などの信仰の対象と向き合っている人たちの妨げにならないように配慮をお願いします。少なくとも、新興宗教＝何かしらの悪さをする人たちという文脈にならないようにして欲しいと思います。

●頑張ってください。いつもラジオ聞いてます

●簡単に答えられない内容が多く回答が難しかったが、こういったアンケート調査の取り組みなどが今後の2世の助けになれば良いと思います。

●このような活動、ありがとうございます。参考になれば幸いです。

●そもそも「宗教2世」で一括りしている調査が実態とズレてる感じがしました。

●両親は離婚してしまい、母と兄と私の交流はありますが、父とはあまりありません。父と話すとは全部教団の話に持っていくので、いつからか父とちゃんと話をすることをやめてしまい、今では本当に何も言うことがありません。父も教団に百万くらいの献金はしていると思われる。かなり若いときから嫌だという気持ちがあっただけで、生活に影響があるほど宗教2世として悩んではいません。今も私の名前は残っているのですが、私は信者であるという気持ちはゼロだし、たまに神社にも行きます。でも、sessionで宗教2世の方から送られて来たメールの内容などを聞いていると、今の私の自尊心のなさや自信のなさは父から認めてもらうことがほとんどなかったことも一因かもしれないと最近気付くことができました。私が何度も拒否し、結婚する際も夫に教団の話をしてほしくないと言ったので、今では同時放送に誘ってくることもないし、信者が訪問してくることもありませんが、今後父とどのように向き合えばよいのかと悩んでいるところです。

●親の世代は高度経済成長期で、宗教にとっても大勧誘時代だったと思います。対して二世信者はそう言っ

た親世代の盲信的な行動を見て冷めている側面があるのではと思います。私の家族で言えば父親がそれで、母親や母方両親は引き込まれた上でそのコミュニティに依存せざるを得ない状況故のめり込んでいったと思っています。私自身は成長の中で、宗教はあくまで自分の心に彩りを添えるものであり、そのために過度な信仰で身銭を切る必要はないという理解に至りました。その考えに至るまでにあまり親の束縛が無かった事は幸いでした。しかしながら二世信者の多くは親の影響で実家から離れ信仰心は無くとも、仏壇●祭壇や新聞●広報誌を買うなど続きます。それはある意味自身のため、先行き長くない親達の数少ない交友関係や彼等の幸せを維持するための必要経費の様なものだと思いますのではないのでしょうか。実際幽霊信者は多いかと思いますが、私も両親の逝去までは幽霊信者でいるしかありません。

●私の経験は全然カルトではないが、小さいうちから、大人が喚き唸り吠える教会、狂乱後の賛美歌、妙に福福しい先生のお話を経験したくはなかった。経験したから全てを俯瞰する癖もついたけど。毎週日曜日、朝から夕方まで友達と遊ぶ事もなく。

●私は幸い自力で教会から抜けることができましたが、最近まで「私は一般人のふりをして生きている。今の振る舞いは不自然ではなかったらうか。」という認識がつねにありました。もし今後、誰かと交際結婚する際に両親と宗教の問題が障壁になるのではという懸念もあります。二世問題や宗教トラブルの原因は宗教だけでなく、宗教に縋るしかなくなってしまう人の多さも問題でないかと思います。1人でも多くの方が不本意に歪められた人生から抜け出せるように、なんらかの救いの手があればと願います。

●古来からある健全な宗教であっても、教育上、宗教が関わると虐待に繋がる恐れは十分にあるので、そこを踏まえた法整備や子供への虐待防止が必要だと思います。

●金儲けのための宗教は詐欺と一緒

●子育て中の母親を勧誘することの危険をもっと注意喚起すべき。小さい子を持つ転勤族の妻は狙われやすい。依存しやすい。子育て支援センターにも関連する団体が勧誘活動していることがある。ビラを置かないよう、または団体が母親たちに声かけしないよう行政から注意すべき。

●カルトと呼ばれていない教団であっても、2世問題はあります。その点にも、ゆくゆくは、社会の目が向いてほしいと思います。

●お金が搾取されない(わたしの知る限り) 宗教でマシですが、洗脳された子ども時代がもったいなかったなと悔やまれます。今も、家族とは完全には分かり合えないという喪失感と闘っています。兄弟の配偶者は4人中3人が宗教での出会いです。恋愛結婚なので個人の自由で良いと思いますが、可愛い甥や姪が洗脳されていくのは、子どもたちの権利から考えるとよくないと思います。家族や親族の考えの違いは受け止めきれないので、あまり考えないようにして諦めていますが、日本会議や神社神道の問題については、もっと世の中に知られて、政治が歪められていることが明らかになってほしいと思っています。そうしたら、少しは家族の信仰心もゆるんで、全体主義的でなく、自分の頭で考える人たちになってくれるかなと期待もあります。

●こういったアンケートフォームを作っていただきありがとうございます。私はそこまで信心深い家庭の出身ではないのですが、ずーっとバレたらどうしようと思いつつ日々を過ごしています。特に今は無くなりましたが、選挙の時、家の外にポスターバレたらを貼っていました。それを見られるのがものすごく嫌でした。親が教団なこと友達、パートナーに関係を切られたらどうしよう今でも不安に感じています。実は、私自身は信者かどうか分かりません。子は自動的に入ると聞いているのですが、正式に信者名簿に入っているか分からないのです。何年か前に母親に、親が教団で嫌な思いをしてきたことを告げました。憤慨するかと思いきや、冷静に話を聞いてくれました。でも核心に迫る、私が信者登録されているかどうかはいまだに聞いていません。もし登録されているのであれば、消したいのです。話に聞くとところによると、家族の情報は共有されていて、子が巣立って独り立ちしたタイミングで、新居周辺の信者のコミュニティがリーチアウトしてくるそうです。そこら辺も含め、分からないことが多いのも不安の種です。一括でお話を聞いていただける相談窓口などあれば良いのですが●●●。昨今は統一教会問題で、宗教対する風当たりも強いのでますます隠さなければならず大変です。Twitter上で、支持政党、その他宗教関係のポスターが貼ってあったら身構える(要約)といったものが多数拡散、いいねされていました。私がずーっと気にしていたことなので、心抉られる思いでした。ここでいうことではないかもしれませんが、お金、政治との関係、その他倫理に反する行為、それから似非科学などの事実に基づかない教理、早くルールを作してほしい。とにかく

色々明確化してほしい。そう願います。

●自分に当てはまりそうだが、項目にある言葉だけでは選択すると誤解を招く恐れがあると思った箇所がありました。そこは未回答にしています。信仰は、個人の特質や生育環境、社会状況が複雑に絡む問題です。そういった要因で、個人の感じ方が千差万別だからこそ、「求められる」の意味、家庭の中での「強要」の意味などは厳密に定義しなければならないと思います。

●親世代が2世代代に対し生まれながら信教を設定する場合、成人時等に2世代代が脱会 or 継続を選択できる仕組みづくりが必要ではないか。2世代代の選択権が生まれながらにはく奪されている。

●わたしは昨今話題となっている宗教2世問題の中ではかなり被害が少ない方だと思います。宗教行事への参加も多くはなく、親は色々物品購入していたようですがそのことで家計が傾くようなことも実感としてはありませんでした。日常的な習慣も一切求められませんでした。それでも、私の人生のかなりの部分は新興宗教を信仰する親との訣別に費やしてきました。当時の自分は新興宗教全般を危険なもの、恥ずかしいもののみなしており、精神的な悪影響を避けるために決別をする必要がありました。いま新興宗教による宗教2世問題が社会的に注目を集めていますが、この報道によって新興宗教が「危険で怪しいもの」という意識を社会に根付かせてしまうことは、昔の私のように宗教に違和感を感じている宗教2世の心の苦しみを増幅させてしまうものと思います。報道においては、問題を丁寧炙りだし、新興宗教=悪という簡単な構図を社会に根付かせてしまわないことを願います。いまわたしはあらゆる宗教を信仰していませんが、他者の信仰を否定もしません。母親に入信を強制されたとはいえ、むかし母親が信仰していること自体も非難してしまったことは誤りであったと今は感じています。一方で、母親が信仰している教団は豪華な施設をいくつも所有し、教祖は多額の報酬を得ていることが知られています。宗教活動は営利目的ではないことを理由に非課税となっていますが、営利目的である宗教を騙った活動は現に存在しており、非課税という特権を与えるならば非常に厳しい基準で審査されるべきですし、その会計や活動内容は社会に対してできる限り公開されるべきものと思います。宗教法人の審査や管理方法について詳しくないので実態としてはわかりませんが、現に旧統一教会が今も宗教法人格を有しているという事実からも、その運用には課題があるものと思います。宗教法人格の付与にあたっては基準の厳格化●情報公

開を希望しています。"

●自分は誰かから無理やり活動を強制されたわけでもなく、宗教活動についても主体的にコミットメントしており、脱会の希望もありませんが、自らが所属する宗教活動へのコミットメント度合いについては個人の意思が尊重されるべきと考えます。

●私の親が入信した教団は、私が生まれた時点で私も入信したことになっているようです。母親以外私もほかの家族も一切教団とは関わりがありません。母親は、教団の人たちと定期的集まって題目をあげたりしていますが、そうすることで母親自身の精神が安定しているのであればそれを否定はできないし、これからも変な目で見られてしまうことがなければいいと思っています。選挙の時には、〇印で書いた勝利という文字のポスターに、支持政党に入れてと頼んだ人数を染めているのを見ると信心と選挙をつなげていることに違和感を感じないでやれることが不思議である。それを見るといったい上の人たちはこういう一般の信者にどうい話をしているのか気になっている。

●私はメディアで報道されているような、虐待を受けたような宗教2世ではないですが、幼い頃から宗教について悩んできました。地方都市なので、都会に比べ近所との結びつきも強く、我が家はいつも変な目で見られているような気もしてきました。毎週日曜日が嫌でした。自分の気持ちや考えを蔑ろにされ、教会に通わされたのは辛い経験でした。これはお寺さんや神社の家などもそうなのかもしれません。もっと子供らしい子供時代を過ごしたかったと思います。親とは何度も喧嘩しました。思春期の頃、オウム真理教事件があり、それがきっかけで宗教に対する自分の中の気持ちが爆発した気がします。親からの宗教の話を一切無視しました。その後一人暮らしをした際には聖書を送ってきました。何冊も手元にありました。幼い頃から教会に通わされていた事もあり、いまだに捨てることはできません。ただ、一人暮らしをきっかけに他の宗教、特に仏教の哲学的考えに共感を覚え、本などを読んで勉強する様になりました。昔はそんな事すら悪い事しているようではできなかった事です。自分にとって宗教の問題は、何事にも対しても関わってくるような根本的な問題です。離れたくても無意識のうちに刷り込まれています。それがいいのか悪いのかわかりません。私自身、教会から離れたし関わりたくもありません。親ともその話はしません。食事時のお祈りの時も私は参加しません。私の中では生きていく上ではずっと考えないといけな問題です。"

●自分が自力で脱退できた事もあり、深く洗脳状態にある2世の方達の苦悩はわかりません。抜けたくても親が怖くて抜けれないという方達もいるかと思いますが、そのためにわざわざ生活支援などをしてあげるほどの余裕は今の日本には無いと思っています。日本では宗教の自由がありますので、カルト教団であっても(サリン事件みたいなものを起こすのであれば別ですが)基本は規制しなくてもいいと思っています。ただ、同様に抜けたければ自由に抜けることもできるようにはなって欲しいと思います。(上記の生活支援まではいかず、難しい所だとも思います。)最近話題の協会も、政治家にだって宗教の自由はあるので好きにすればいいと思いますが、献金や選挙の集票など関わってくると宗教団体というより政治団体の側面が強くなるので話が変わってくるな と思うことがあります。(自分は政治団体や癒着企業だって同じくらい胡散臭いとおもっています)(その点、教団は選挙を禁じているので(人の上に立つ人間を人が選んではいけないという考えがあるようです。生徒会選挙なども禁止でした)政治に関しては無害な宗教だとは思っています。)"

●Q41への補足です。脱会していないにチェックをしましたが、正式な手続きは何も行っていないという意味でこちらにしました。おそらくですが、まだ籍が残っているのではないかと思います。宗教の活動に参加したのは中学生が最後です。事件をきっかけに宗教2世問題が取り沙汰され、その中で2世の人々の言葉を頻繁に見聞きするようになり、その数に驚いています。子供の頃、自分の家は他の家庭と少し違う、よその家には大きな仏壇はないしみんな神社仏閣に行けば抵抗なく手を合わせている、うちに宗教があることを知られたらどんな目で見られるだろうと恐怖していました。宗教があるのは自分の家と、給食のコーヒーゼリーを食べられないあの子の家くらいだと思っていたのに。本当は私の周囲にも私と同じような、あるいはもっと深刻な悩みをひとりで抱えていた人がいたのかもしれませんが。日本では宗教との繋がりが一切ない人はほとんどいないと思います。正月になれば初詣をし、旅先では神社仏閣に手を合わせておみくじを引いたり、絵馬やお守りに願いを託したり、家を建てる時や厄年にはお祓いをしたり。そういったことは一般的であるのに、熱心な信仰があると白い目で見られるのは、なかなか不思議な現象なのかなと思います。宗教アレレギー的な風潮が、カルトにとってはプラスに働いたような気もします。今後の日本が、宗教から抜けた人にとって優しい社会であるように願ってやみません。私

が宗教2世として生まれてよかったことがあるとするなら、同じような境遇にあった人の気持ちが少しなりとも理解できることかもしれないと思います。

●教団は色々問題もありますが、第二次世界大戦の時からずっと良心的兵役拒否を一貫して、政治との関わりも全くなく中立です。荻上チキさんはアウシュビッツに行かれてますのでパープルトライアングルをご存じだと思います。私が今も辛うじて信者で居られるのはその一貫した平和思想です。あと聖書を無料で、寄付しなくても学ぶことができます。それだけに色々な問題は正されてほしいと願っています。

●新興宗教と無縁で生きてきた配偶者と会話をしていると、ギャップがすごくて落ち込む事がよくあります。今まで新興宗教と縁がなく、知らない、関心がないことは幸せなことかもしれないですが、このアンケートがそういった人たちにも関心を持ってもらえるようなきっかけのひとつになれば嬉しいです。

●自分が2世だった経験はただネガティブなものだと考えていました。このような機会をいただけ良かったです。少しでも2世の問題解決のお役に立てればと考えることが多くなったこの頃です。

●おそらく私は脱会はしていません。一切の活動をやめている(両親とは必要最低限の関わりのみ)ので、脱会には至っていないのだと思います。その手続きすらしたくないのが本音で、このような2世は私の周りにも何人かいます。

●両親も高齢になってきましたが、いずれ亡くなった時、ご本尊と言われる仏壇はどうしたらいいのか、墓や葬儀は教団になにか言わなければいけないのか…今から気が重いです。私自身は今一切関わっていないとはいえ、親が進行を続けている限り縁が完全に切れるとは思えないのが少し辛いです。過去何か辛いことがあったかと振り返ると、父親の病気になった時や弟の受験を失敗した時、お題目が足りない、信仰が足りないと母がなじることでした。根本の解決にならないし、そんなこと言われても何も変わらないのに。そういうことが積み重なって、今に至ります。両親には感謝していますが、宗教のことを責めてしまいそうで、意識的にある程度距離を保った付き合いをしていますし、今後もそのつもりです。

●子供でも親から逃げられる制度は欲しかったなあ。うちの家族は、父が家庭を省みない→母が入信→余計に夫婦関係が拗れる→父が家族捨てて出ていく(私が25、妹21(無職)弟18(高校)妹(中学)妹(小学))→母は神に祈るだけでパート等働くことをしない、だ

ったので、本当にきつかった。父(無宗教)にも母(神様)にも問題あった。言葉を選ばないで言うと何度、教団の会館という名の集会場に火をつけてやるるか、と思った。下の弟妹がいなければやっていたと思う。彼らが犯罪者の身内になっては大変だから。ただその弟妹が現在も神様にいるのは痛恨の極み。私の人生はなんだったんだろうか。家族を辞めさせる団体などもあるみたいだが、それはそれで人間関係がややこしいので今の所入る事はしてない。私自身は宗教3世ですが、生まれたときから「信仰して当たり前」の環境で育ったため、幼少期は信仰について疑問に思ってもどう考えたらいいのかわからずに困惑していたことを覚えています。教団における世間一般とのギャップといっても「寺社で拜んではいけない」程度の行動制限があるくらいでしたが、それでも友人に初詣などに誘われたときにはどう説明して断ったらよいか分からなかった記憶があります。人権に反する教義を信者に強いるカルトの危険性も含めて、信仰についての基本的な知識を早いうちに教えてもらう機会があったら自分の環境の特殊性について考えられて楽だったのかもしれない、と今では思います。

●たぶん今でも私は信者ということになっているとは思いますが、一度本部まで行って参加しただけで、その後全く参加していません。

●生まれた時から当たり前にあったので、不自由を強いられない限りはこのままの様な気もします。選挙活動には閉口する部分もありますが、自分で判断していきたいです。

●宗教二世問題は誰かに相談しても「あーそういう事私もあった」というような共感などを得られる事が無い事なので長年苦しみ続けています。この様な取り組みに感謝申し上げます。ありがとうございます。

●このようなアンケートを作ってくださったことに感謝致します。私は大変マイルドな新興宗教にいました。信徒の皆さんも優しく熱心な方が多かったので、統一教会ほどではありませんでしたが、それでも月々の献金や勧誘のプレッシャーはずっとありました。特に、2歳から家族入信しまして、信仰の自由が実質全くなかった子供時代を過ごすことになってしまったことは、とても残念でした。幸い親が子どもの学力に高い関心があったため、自分で自立することができました。そのお陰で脱会することができました。どの家庭で生まれても、子どもの権利は守られて欲しいと強く願います。

●高校生の頃、部活の後輩から要件を告げられずマク

ドナルドまで呼び出された事があります。現地に着くと、隣には知らないおばさんも一緒でした。いわゆる宗教勧誘というやつです。話を聞くと後輩は顕正会の信者で、その当時教団と顕正会の関係の悪さを知らなかった無知な自分は、教団の悪さをこれでもかというほど聞かされ、逆に顕正会に関しては良い情報ばかりを聞かされることになりました。早く逃げたらよかったのに、怖くて逃げられず、本部まで連れていかれてしまいました。帰宅後、親の前で怖くて泣き出してしまい、全て話したところ教団の信者の方が脱会の申請書を手に入れてくれたおかげで、脱会する事が出来ました。なんで宗教が理由でこんなに怖い思いをしなければいけないんだろう。ただ、自分は仲のいい先輩と後輩の関係でいたっただけなのに……。何故理解できない価値観というだけで、自分の家の宗教を馬鹿に出来るのか……。教団の事ではありませんが、宗教関係の事で何よりも傷ついたのはこの1件だったので書かせてもらいました。二世はもちろん、無宗教の人も、誰も傷つかない宗教のあり方を望んでいます。本当はみんな誰しも平和をのぞんでいるはずなのに。

●旧統一教会関連で二世への注目が高まっており、違う宗教ながらも似たような悩みをもつ2世の存在とSNSなどを通じて出会うことが増えました。共感ができる事は良かったと感じますが、結局特定の宗教を持たない大多数の人と一緒に生きていかなければなりませんし、問題を一人で抱えていく事に変わりはないと感じています。私は現在脱会はしていませんが脱会の意思はあり、婚活中です。二世の立場を伏せながら、二世である事を理解してもらえる相手と出会えるのか、安倍元首相襲撃事件以降、新興宗教に対するイメージの悪化の影響を考え、全く実現できないのではないかと絶望しています。

●今後もラジオなど楽しみにしています。

●私は19歳のときにうつ病になりました。本当は14歳から自分自身の心の不調に気付いていて、親にそれとなく相談しましたが、理解がないばかりか「気の持ちよう。毎日ご本尊に祈ったら治る。精神科は変な薬しか処方しないから、あんなところ行くな。」といわれ、こそこそ通院するしかなく、通院しているのがわかると怒鳴られて、嫌味を言われ続けました。そして4年前の妊娠●出産と同時に、私自身が発達障害であることがわかりました。(妊娠●出産時もお金がなく、親にも伝えたくなかったのが、経済状況を立て直す為に1年だけ児童相談所に預けられないか相談しましたが、区の児童相談所の方が「教団の人はみんな良い人多い

よ、嫌でも親に頭下げて支援してもらいなさい。それが嫌なら生活保護貰いなさい。」と言われ、全く取り合ってくれませんでした。今でも恨んでいます。(行政ですら理解もないです。)子育てをしていると過去の自分と向き合いながら、子供を育てていかなければならないので、とても辛いです。あんな親にならないようにびくびくしながら、生きています。もし早い内に適切な医療に繋がっていたら、カウンセリングを受けていたら何か変わっていただろうかといつも感じています。祈るだけでは何も変わりません。強制的に信者にされた子供達のメンタルケアがより一般的になってほしいです。

●今回の統一教会の論争を発端に、政教一致について誤解が広まっており、支持政党を応援する一個人として本当に傷ついています。宗教者が政治参加してはいけないのでしょうか？政治家による宗教団体の利用こそ政教分離で正されるべき事例なのではないでしょうか。社会の誤解や偏見による批判に傷ついています。また、宗教をしていると、なぜ批判され、なぜ真っ当に見てもらえないのか、悔しくてたまりません。宗教と切り離して、支持政党が何をしているのか、正しく評価していただきたいと願っています。

●新興宗教ではないところの二世です。LGBTへの理解が昔はなかったと思います。そこが、私の生きづらさにつながりました。今は、多分、少し、許されてきているのだろうと感じます

●実情を把握した設問と選択肢で驚きました！応援しています。

●このような取り組み感謝いたします。この問題を消したくない。活動を応援しております！

●古今東西、どのような宗教団体であれ、人が増え、組織が拡大していけば、その組織を運営し、維持することに力点が置かれ、やがて開祖の理念や精神が時代や環境に合わせて変化できず形骸化し、場合によっては曲解され、組織が衰退、分裂していく傾向にあると思います。一方で人にとって「信じる」ことは、他人から止めると言われても抑えることのできない行為でもあります。ゆえに宗教は、個人だけでなく家族、社会、国家、歴史にまで影響を与える危険な因子を孕みつつも、ヒトが人らしく他人を受容し、尊重し、調和し、社会を平和に導いていくのも宗教ができることだと考えております。

●私のように苦しんでいた人々に焦点を当ててくださってありがとうございます。ずっと苦しかったです。今でも母は信じていますので、もう諦めています。生

まれ変わったら、宗教二世にはもう二度となりたくありません。平凡な家庭に憧れます。我が子にそんな想いをさせないように、自分は自分の人生を生きようと思います。

●強要はされていないけれど、教団や親の意向に沿わなければ大変なことになると考えて行動したり、自分で選択肢を狭めたりしたことも多かったので、強要されたかされなかったか、と聞かれても答えづらかったです。

●わたしの数年後に家族みんな脱退しています。聖書は良い本で、母が家族への愛でそれを学び、父も家族への愛であとに続いたと理解しています。そんな心に入り込み子供が悪いことしたら叩くよう強制した指導者のことは許したくないです。校歌禁止、お寺遠足は偶像崇拜で禁止、カヌーが楽しみだった林間学校もキャンプファイヤーがあるから禁止、騎馬戦は見るのも禁止、世の人との交わり禁止、テレビも漫画もゲームも禁止、テスト勉強より奉仕、など色々ある禁止を楽しんでるみんなを羨ましく思ったり、校歌を歌わないのがバシなよう口パクでごまかしたり、騎馬戦のあいだ暗い教室にポツンといることが不安で寂しくなる自分はサタンの誘惑に負けたから滅びてしまうんだ〜と罪悪感だらけで夜中に風の音がするだけで終わりの日が来た！私滅びる！と怖がりまくる子供でした。とはいえ、遠足の代わりに水族館に連れて行ってくれ 林間学校の代わりにディズニーランドでカヌーに乗せてくれた両親のおかげで、友達と出かけたりゲームボーイに熱中した記憶はなくても家族でピクニックしたりトランプやオセロで遊んだ記憶はたくさんあるし、怖くて寝れない夜は母が手を握ってくれました。はじめて集会に行かないと反抗した日は滅びる覚悟でしたがw 親は受け入れてくれ、教団から色々言われたり辛い思いをしても私を否定せず守ってくれました。長くてひどい反抗期も見捨てず愛情を与えてくれた両親に恨みなどないし、あの経験や傷が家族の絆を強くしたと思える私は困難の少ない2世だと思っていますが、それでも母は自分のせいでごめんねと後悔し 父も祖父のお葬式に出なかったことを後悔し 姉も私も当時の気持ちを忘れません。小さな心と身体でいるんなことを我慢したり傷ついたり嘘をつくしかなかった幼い自分を思うと涙が出ちゃいます。人には話にくいことをこのアンケートに吐き出せて良かったです。ありがとうございます。もっともっと厳しい道を歩まざるを得なかった2世の方たちも救われますように。

●こうやって調べようとしてくれるだけでも嬉しいで

す。

●被害者の事を思うと胸が痛みます。カルトの解散と被害者救済を切に願います。

●取り上げてくださってありがとうございます。

●最近 Twitter で、宗教2世であったことをつぶやいたらすごく読んでくれる人が増えてびっくりです。人に話してはいけない事だと思っていた。こんなふうに表示できる世の中でありたいです。しかし幼い頃からのいろいろな影響のためか根っこがしっかりしてなくて、大人になりおばさんな歳になってから精神的に病み、つらいです。子どもにとって親が全てなんです。子どもを偏った思想から守れる社会になって欲しいです。

●助けが必要な宗教2世はたくさんいると思います。旧に外の世界へ出て自分の力では上手くいかず悩んでいる人がたくさんいます。支援や法整備が一つでも増える事を望んでいます。そしてこのようなアンケートにも深く感謝します!!ありがとうございました。

私は(今の日本で)大きな社会的トラブルを抱えた宗教団体の信者ではありませんが今回アンケートに答えさせていただきました(2世です)。カトリックやプロテスタント、他仏教系など、とても古くからあるいわゆる正統的な宗教でさえも、親や身近な大人、指導者(神父や牧師など)から言われ続けた言葉は、'宗教'というフィルターが通されると、ある種の恐怖と共に子どもの心に植え付けられ、その後の人生に大きな影響を及ぼします(だからこそ、宗教なのでしょうが...)。今回問題になっている新興宗教系の問題の根底には、老舗宗教の悪意のない(?) そういった伝え方や姿勢の応用であるとするならば、老舗宗教もそれを見直すべきだと思います。2000~3000年続く宗教は、たしかに普遍であるのかもしれませんが、時代が進む中で、宗教だけが普遍でありうることはないと思っています。どんな宗教も、決して個人の心の問題でなく、その人が接している社会問題(最小単位だと家族という社会問題)だと捉える見方が必要だと思います。

●母親は今も宗教家です。でももう私に求める事はなくなりました。恐らく、一貫して宗教活動を行わなかった事と、実家を出てしまい母親の手の及ぶ範囲から脱した事が理由と思われる。自分を守る為、最初は宗教を否定したりしましたが、彼女のメンタルが安定するならと母親が宗教活動をする事を否定しなくなった事で多少軋轢が減ったと思います。未だに私を「神の子である。特別である。」と捉えている節があり、そう言った発言をする事もありますか緩く否定し、流す



事で話しを終えてしまいます。今は母も思考がだいぶ穏やかになり、色々な面で支えた事により私という個を認めたので関係は良好と言えます。"

●宗教2世で問題を抱えている方を対象としたアンケートであれば除外して欲しいが、自分のように本人の意志を尊重していただける宗教もあるため、親は親、自分は自分として強制のない宗教の存在も現実としてあり、その白黒ははっきりさせないで家族が上手くいっているケースもあることも踏まえてほしいと思いました。

●いわゆるカルトでなくても、信仰を親から強制されることで苦しい思いをしている子供がいることを知ってほしい。一般的に認められているだけに、子供が信仰を持たないことで否定し、バカにして、独立を妨げる。親が死んで本当に楽になりました。姉は今でも「なんちゃってクリスチャン」です。

●自分のアイデンティティを崩壊させられたり学業への妨害をしてくる宗教など存在価値はありません。一刻も早くカルトを撲滅してほしいです。

●日本の正統なキリスト教信者が1%に満たない中、統一協会がキリスト教とは全く違う教えなのにキリスト教系と報じられると嫌な気持ちになります。また「宗教二世」という言葉は、親と同じ信仰を持つこと自体が否定されているような気持ちになります。カルトやカルト化した宗教や親と、正統な信仰の宗教を分けて考えるようにしなければ、ますます宗教の話はタブーになりそうだと懸念します。

●神様が見てる、じゃなく、人様がみてる。日本人は倫理的だとされてますが、ほんとうなんでしょうか。

●自分の思い出せること、記憶に蓋をしていたこともありましたが精一杯思い出しました。

●私の場合、脱会の意味はありませんが、集団が苦手であり、一人で静かに宗教を学びたいと思っています。教団は、そういうニーズにも応えられる団体へ変わって欲しいです。

●日本はカルトを野放しにしすぎなので法的に規制して取り締まるべきだと思う。最近では2世問題が世の中に知られてきているのでこの調子で改善されてほしい。

●引用リツイートを見て、(真っ当な方だと思われる)キリスト教徒、あるいは仏教徒、氏子であろうとも、自分の意志で入っていない時点で、宗教〇世と言えるのかもね、と想っての回答参加でした。戦中に結核を患い、そこから色々あって入信した祖父に始まり、(祖父を基準に) その子、孫(私世代)、孫の子(まだ乳児

なので当然自分の意志ではない。幼児洗礼)ということになるのでしょうか。ふわっとした、そういうものだという感じでしょうか。祖父の子に割と一線を引いている人が一人いますが、拒絶しているわけでもない。そういう家系です。各配偶者はそれぞれ。祖父を1代目とすると、回答者は3世、聞かれたら、ルター派のなんちゃってキリスト教徒、と答えます。敬虔ではないし、色々混ざっている感じ。日本的多神教というか。でも、カトリックではない。マリア様推しが理解できない。幼児洗礼と(自分の意志でもってうける)洗礼があり、私は後者を自分の意志で受けておらず、今のところはそのつもりもありませんが、全てを強要される環境には全くありません。物心つく前から日曜学校=礼拝に行くことを半ば強制されていたことぐらいでしょうか。献金もお賽銭レベルぐらいですし(献金袋に名前書かないし。書くものもありますけど)成人してからはそういうこともなく、クリスマスとお正月に行くぐらいです。(もうちょっと来てほしいような雰囲気はありますが)。人間関係に限られ、狭いコミュニティであるためか、(→これが結局は様々な問題につながってくるのでしょうか。熱狂さとか)親も長くクリスマスとお正月くらいしか礼拝に行きません。「自分は無宗教です」と答える人と違い、宗教を持っていると思うが、そのアイデンティティは割とふわっとしており、人によってまさに濃淡あるのだと思います。親がそうだったから自分も自動的に入ってはいっても、それが救いになることもあるでしょうし、呪いになることもあるでしょうし、ある意味、ガチャの一つなのでしょう。「神とは」「宗教とは」というタイトルだけでも論じることが出来るものであり、人により、内容により、救いにも呪いにもなるものかもしれません。真っ当と思われる宗教だって容易にカルト化し得ます。どこに一線を設けるか、というのは難しい問題だと思いますが、その一線を探っていくべきなのだと思います。長々すみません。他の方の自由記述欄、読んでみたいなあ、と持っている時点で、気楽な方なのではないでしょうか？

●現在の教団は、「入会希望者が未成年の場合は親権者の承諾が必要」となっています。ですがこれを逆手に取り、何の判断も出来ない赤ん坊が親権者が「入会を希望している」として勝手に入会させられています。私は紙面上生後9ヶ月で入会を希望したことになっていますが、私自身は入会を望んでしてません。法整備をして頂けるのはとても嬉しいですが、このように抜け道が存在することがないように願います。貴重な場

を設けて頂きありがとうございました。

●私にとっては今さら何も望むことはありません。問題提起が30年遅かったですね。

●今回このような機会をつくってくださりありがとうございます。ずっと死にたくて生きてくてもうわかりませんが、私は経済面で親に苦勞させられたことはありません。だれか助けてと子どもの私は叫んでいたのかもしれない。子どもの頃、無表情でいることを選んでいた時期がありました。何も感じないようにしていたのかもしれない。大学で自分のことを見つめようという就職へのステップが怖くて仕方ありませんでした。今になって思えば宗教家庭の自分を見ないように傷つけないようにしたかったのかもしれない。こんなことが言える日が来ると思いませんでした。ずっと胸にぽっかり穴が空いて感情がなくなったり逆に怒ったり泣いたりしている日々です。宗教二世による韓国への差別や性差別、職業差別なども嫌です。自助グループで差別行為があったらどうしようと思って行けません。安全な場所がほしいです。だれか、今つらい子どもたちが救われるといいと思います。

●私の場合、現在メンタルの問題から体調を崩しているため先のアンケートに対する回答となりましたが、それは宗教によりというより、母子家庭で母が働きつつ宗教の活動を熱心に行い、私に家事の負担がかかっていた上に、疲れ果てた母からのプチ虐待が原因によるところが大きいので、メンタル面でのアンケート部分はあまり役に立たないかもしれません。ただ宗教活動を熱心に行っていなければ、もう少し母にも余裕があったかもしれないので、宗教活動を熱心に行う事が一つの原因になっている可能性は大いにあります。宗教活動を熱心に行えば功德を得られるというのが、強弱はありますがどの団体でも共通していたので、熱心に行っていたのだと思います。

●私の周囲には、良い人が多く、差別される必要はない人たちばかりなのに、ネットでは、教団を叩く人(偏見)が多くて生きづらい。信者かを問わず、悪い事をしたら然るべき対応をとられるのは当然なのに、教団だから〇〇とか言われるのはやめてあげてほしい。この事があるので、私は同級生などに信者とは言っていない。

●実家の信仰は5代くらい前からですが、祖父が教会を建てたきっかけは幼い頃の私の姉の死でした。理由が理由なだけに、教会を無碍にすることはできない、しかし今後教会を存続させていくことに人生を縛られると思うと逃げ場のない虚しさのため息が出る毎日で

す。比較的好意的に思われている天理教ですが、教え云々以上に、教会の存続(ほぼ世襲)に悩まされている2世さんたちはたくさんいるのではないのでしょうか。今回このようなアンケートを企画して下さり、ありがとうございます。世の中の2世の方々が少しでも心穏やかに慣れる日々が訪れることを願ってやみません。

●父が信仰の中心になっている家族でした。父が入会し、家族全員が信者にされました。

父は元々何かのにめり込む性質があり、先の事を考える想像力に欠けていましたが祖母も同じような性質で、抑止せず助長するばかり。

●嫁である母は巻き込まれた被害者だと思います。実家との縁も切られて一時はマインドコントロール状態でした。多額の献金…というほどの犠牲は無かったと思いますが生活全ての事が信仰に結びつけられて、活動の為に仕事をおろそかにしたりしたので、普通の家に生まれたかったなと思います。父のような性質の人や判断力が弱く騙されやすい人も一定数いると思うので、小学校のうちから授業などで注意喚起して教えて欲しいです。

●この問題が起きてセッションやその他のメディアで様々な報告を聞き、このような調査に参加して、今まで少しばかり生きづらいつ感じていたことの要因の一つが宗教2世だったことによるのかもしれない、と考えるにいたりしました。最初期から宗教に対しても親の在り方にしても懐疑的で、影響も「かもしれない」程度のごく軽微なものであり、自活もできていますが、濃淡のごく薄いところにも問題は存在しうることをお知らせできればと思います、参加いたしました。

●信教の自由は厳に保護されるべきだし、特定の宗教団体を弾圧すべきではない

あくまで本人の問題として救済すべきと考える。

●実態把握ということでしたが、宗教に対して否定的な質問が多く(中立的ではない)、出会えて良かったと思っている人もいるかとおもいます。アンケートを答えさせていただきましたが、出会えて良かったと思っている2世の方などは、アンケート途中で気分がわるくなってやめてしまうのではないかと思う質問でした。最初から宗教を悪者扱いばかりするメディアは嫌いです。

●インタビューが必要なときは声をかけてください。宗教2世への「可哀想」の固定概念に嫌気が差しています。肯定する気持ちはありませんが、そこには様々な利害関係と愛が絡まり合い営みが存在しています。だからこそ根が深い。脱会2世同士の集いにも参加し

たことがあります、自身の経験とそこでの話も踏まえて思うに、一般社会に適合し、2 世元信者であることにアイデンティティを求めず、なんとか自分をやりくりしている声なき2 世元信者の存在が基層にあること知って欲しいです。

●チキさんのエッセーやラジオがとても好きです。少しでも調査の参考になれば幸いです。今後もご活動応援しています。

●私の家は母が信者になりました。(私の2 歳くらいの頃) 母に連れられてずっと活動に参加していましたが、小学6 年生のときに辞めたいと伝えました。2 歳上の兄がすでに辞めていてその選択肢があることに気がつきました。そこで辞めていなければ中学高校大学は全く楽しくなかったと思います。宗教をやるやらないで両親が派手な喧嘩を何回かしていたことを覚えています。喧嘩や不仲の理由になることって果たして良いことなのか?? が純粋に疑問でした。また、信者の方たちの特権意識が苦手でした。信者以外の人のことを世の人とよび少し蔑んでいる感じがしましたが、私は世の人のほうが楽しそうだなと思っていました。今でも母は信者ですが、家族の意識的にはカルチャースクールに通っている感覚です。輸血は必要ならすると伝えていますがお葬式はどうするのかわかりません。

●このような機会を与えてくださってありがとうございました。多くの方が救われて欲しいです。

●継続的な試みが必要なものと思います。これからも期待しています。

●教会に関する動画をいくつか持っています。内容は、献金集会、党関係者と教会、信者に向けた教義の講演等になります。

●親から受けた虐待は宗教による物でないが組織の在り方には疑問を持っているので一人で信仰している

●宗教2 世の問題は本当に難しいと思います。カルト宗教に限らず、家庭が問題を抱えてしまう場合、それぞれのケースは本当に個別的で一般的な言葉では言い尽くせないものだろうと思います。わたしはカルト宗教(教団) 的価値観を子どものころから信じていませんでしたが、「ぼくがいま(宗教から) 離れたらお母さんがかわいそう」と思っていました。そして、おそらくわたしがそのとき(子どものころに) 宗教から離れたら家庭の状況はもっとひどいものになっていたと思います。信者になってしまわざるをえない人もいる、そして、(それがカルトだろうが自分が本当にその教えを信じているなら) とうぜん子どもにもそうなって(信じて) 欲しいと思うものだろうと思います。ただだか

らと言って子どもの人権(教団では子どもへの両親の輸血拒否問題もありました) や教育の機会を奪っている理由には決してなりません。宗教2 世にかかわるさまざまな問題はどうかしたら解決できるのか、わたしもよく考えます。「家族」「親と子ども」「夫婦」「信仰と科学」「私的領域と公権力」問題はほんとうにさまざまです。

これからも考えていきたいと思います。このアンケートを知れただけでよかったです。もし少しでもご参考にさせていただければ幸いです。

●結局、私は宗教をやめることはしていません。私なりの解釈の方が、世間の解釈よりも都合がよい感じがしています。苦しい時は仏様に祈りますし、楽しい時は神に感謝しています。でも、私のこのような宗教感を理解できる人は誰もいないでしょう。(もう超個人的な妄想に近い状態になっている) 地元では薬物依存になり HIV にも感染して自己破産もしたあと、東京の薬物依存の施設に入れられてから人生が変わりました。普通の人でも、セクシャリティーの問題とか大変なのに、自分は良く生きてきたなあ…と不思議な感じがします。薬物の12 ステップのプログラムに「自分で理解している神」という考え方、そして「その神との関係性を日々更新していく」という考え方があります。その言葉にとっても救われていて、恐らく、子供の頃の「神」と、私が今理解している「神」は、同じものですけど、関係性がとても変わりました。私は今では信仰があってよかったなと思っていますが、それは、もしかしたら自分で努力して、親から強制されたものではない、自分なりの宗教観を確立することができたという、努力の結果なのかな? と思いました。このアンケートのお陰で、過去を振り返ることができました。ありがとうございました!

●教団の政治活動の禁止を求める

●悩める宗教二世を救うための社会的支援は重要だと思ふ。

●私は、大きくなるにつれて父が協会にどっぷりではなくなったので、大学も行けたし一般の人と結婚する時も父は喜んでくれました(母はショックだったと思いますが)。あと子供の頃は、親戚による経済的且つ精神的支援があったので、祝福2 世の中でも恵まれた方だとは思っています。ただこういう支援が受けられない2 世はたくさんいると思うので、彼らが自分の人生を生きられるよう支援の拡大を願っています。

●教団は、日常生活において何かを禁止することはほとんどない。だが、「理想像」という形で人生観を大

きく左右すると思う。人間関係の広がりや、活動の中でいろいろな場所を訪れるなど、楽しい思い出も多い。だが、もうちょっと冷静であったらという後悔がある。特に政治活動は熱心になっていた分、思い出すと複雑な思いだ。単なる「毒親」「強制」といった切り口だけでは語れない。教団のあり方は決して良くないと思うが、面倒見の良さなどは、なかなか今の社会制度で太刀打ちできないなあとも思う。

●私が当該する新宗教の二世として一番ショックだったのは、国政選挙のとき、信者であり私を入信させた母から『元首相さんも信者なんだって』と暗に投票を誘導させるような言い方をされた時です。その時は少し口論になりました。「元首相さんが信者だから」そんな理由だけで大事な一票を託しても良い人物とは限らないだろうと。以降は政治と宗教についての話題は殆どしなくなりました。母も悪気はないと思いますが、その想いは政教分離の観点から見た場合おおいに問題があります。今回の旧統一教会の一件で政治と宗教の関係を払拭できる法案が作られて欲しいと願っています。

●事件以降、宗教と日本人の関係について考え続けています。幸い私は子どもの頃から信仰心がなかったため、「セッション」に登場する宗教2世の方達のようなつらい経験はありません。ただ、いまだに「みことのり」はそらんじることができず、教会内の馬鹿げた情景や、夕食時の母の叔母との凍りつくような時間は思い出されます。数億円に値する土地を売り払って教会に寄進した母の叔母、追い出された私の家族。その後も信仰を続けた今は亡き母。父の死後に見つけた土地売買に関する裁判記録。思考停止によってかりそめの幸福を約束する宗教と、それによって巻き起こされる周囲の不幸。さまざまなことを思い出し、本を読み、ラジオを聴きながら考えています。昨年、私は住まいを追い出された母と父があてがわれた小さな家をようやく建て直すことができ、今はそこで夫婦二人で暮らしています。その地鎮祭は、神社の宮司さんをお願いしました。母が死ぬまで信仰していたので、母のためにと。事情をよく知っている配偶者は「これでようやく区切りだね」と言ってくれました。たぶん、これから先は、この教会とはあまり関わることなく暮らしていけるのだと思います。思えば長い道のりでした。ただ、宗教と人間については、考え続けていきます。

●荻上さんの番組で自分と同じように悩んでいる人がいると知り、ほっとしたと同時に自分だけではない、

自分のせいではないとわかり初めて夫にこの問題を話すことができました。番組に関わる皆さんの暖かい気持ちに感謝しています。ありがとうございました。

●親から自立するために教育の支援と心理サポート必要だった

●宗教二世問題に取り組んでくれてありがとうございます！

●いつもラジオ、荻上チキセッションを拝聴しています。今回、宗教2世についてのアンケートがあるとのこと回答しました。キリスト教信者2世として大きなトラブルもなく過ごせてきました。ただ、統一協会や教団などキリスト教というくりにされると仲間外れや偏見などが生まれてしまいます。宗教とはどういうものか？無宗教が当たり前なのか？地方にいけば行くほど神社とお寺の力は強いと感じます。

●自分は幼稚園の頃から所属していたようなのですが、母がそこに所属していること、霊友会の存在や活動に参加し、知ったのは大学生からです。また一人暮らしをして母と離れている、その母自身も他人に信仰を強制しない人物だったため（合宿には来てほしいと言われますが）そのため宗教2世問題においては当事者とは言い難いです。しかし私が宗教の合宿に参加しなければならぬと特定の信仰のないパートナーに伝えるのは気持ち悪いと思われるのではないかと怖かったです。今回の調査は、私より深刻な2世にとって、自分を守るきっかけになり得る大切な調査だと思います。ありがとうございます。

●二世に生まれなければどうなっていたか考えることは未だにあるけど、意味がないので考えないようにしている。ネットで見る二世のエピソードからしたら自分はかなりマシなんだと思うが、それでも思春期とかはとても辛かったし、その辛さは結局は自分でしか分かってあげられないと思う。教団中高に進んで友人の多くは信者で、結局今はほとんど関わりがないし、数少ない友人とも自分が信心していないことについては伝えられておらず話を合わせてしまう。教団大に進まずに別の大学に入学したが、すぐにカルトに気がつけようみたいな講義があって、他の学生が教団の話をしてるのを見てから信者であることがバレたらどうしようと思って不安でたまらなくなった。実家から逃げたくて大学から一人暮らしをしていたけど、その頃からうつ病を繰り返して結局お金も生活も厳しくて実家に戻ってきてしまった。信者の母と揉めるのも疲れたので、母が死ぬまで脱会もしないつもり。それより先に自分が死ぬかもしれない。教団形式の葬式で送られた

くないと思う。日頃母親とニュースの話をするのに、一連の統一教会の話題については触れられない。今の流れをきっかけに社会が変わったらいいと思うのに、母親は何も変わらないことだけは確かなのですぐ無気力になる。

●子供の頃埋め込まれたこの変な概念みたいな価値観や考え方が何十年もたった今も頭を持ち上げて来るのは、本当にたまらないです。これは違うんだといくら考えようとしても消えないこの訳の解らない変な頭の中の一角。でも、こういう事をこうしてここに投稿させて頂いて少し頭の中の整理がついたかもしれません。初めてちゃんと変な事でした、と言えたかもしれません。

●教団は、コロナ禍で半減したとは言っても、その前まで何十年も年間4000億円以上、年末に集金してきました。考えられない金額です。

●お疲れ様です。脱会云々の問いに関しては、多分、私が面倒な人間と認識されて、教団側から接触されないだけ。の期間が30年以上経過している為、何となく脱会。な気分だけで、正式には教団側の名簿(?)からは削除されていない(手続きをした覚えが無い)と思いますので、「脱会していない」にチェックを入れています。両親は生前に購入した教団の墓苑に納骨し墓参もしていますが、教団からの連絡等は何もありません。家族では母親だけが熱心だったのですが、私の信仰への意見に対しては、いつも、とても悲しそうな顔をしていました。彼女自身、長年の病気(菌状息肉腫~悪性リンパ腫)の為、63歳で亡くなりましたが、その信仰と、仲間はメンタル(教団リーダーより、「あなたの支部にはこんな病気で苦しんでいる方(母親)が居るようですか?」と言及されたとの支部長の作り話を含め)に於いて随分と助けになっているようでした。彼女の宗教的活動で迷惑を掛けたのは選挙時の親類縁者くらいだと思います。どちらかと云えば、母は新聞を2部買う事が徳を積む事だと信じていた、善人でした。私のはいわゆる「福子」ですが、洗脳と云うより、逆に弾けてしまった例だと思います。だから分かりませんが、カルトに関しては、簡単に入信したり、その教えにすぎるひとの、そのココロの隙間の形がどんなものなのか想像が出来ません。が、信仰を得てしまったひとを改心させるのは容易では無い事はとても理解出来ます。

●私自身の入信、脱会手続きというようなものがあつたか不明。日常の一部として両親にならって行っていた物が、実家が教会と離れたところに引っ越したこと

をきっかけに薄れ、私の一人暮らしで私に関わらなくなった。実家に祭壇はまだあるため、年一ぐらいの関わりはあるのではないか。父が体が悪かったため、信仰に頼った面がありそうだが、父自身、通っていた分教会の長に議論をふっかけることがあるなど少し変わった関わり方だったように思う。

●このような調査をしてくださり、ありがとうございます。書き込みながら、何が嫌だったのかを思い出し、少し整理することができてよかったです。調査結果が、世の中を少しでも良い方向に変えてくれるよう、切に願います。カルト宗教の宗教2世問題が広く明るみに出されることを願うのはもちろんのこと、伝統宗教や世界三大宗教のような、メジャーで特に問題のないと思われているような宗教でも、宗教2世の問題は存在することを、多くの人に知ってもらいたいです。宗教の問題は、人の心の弱さととても関係があると思います。弱いことは悪いことではないのですが、弱さをどうケアし合うかということについて、人類の知見はまだまだ足りないのかもしれませんが。カルト問題と精神医学とのますますの連携も望んでいます。

●私の宗教は伝統宗教ですが、実情として、体罰や理不尽な指導などが横行していると感じています。住職資格を得るためには、僧堂(修行道場)に数年間滞在しないと行けません。先輩の言うことは絶対であり、逆らったり間違ったことをすると暴力が振るわれる。そして、その理由として「住職はつらい人の相談を受ける。しかし、つらい経験のないものがそのような相談に乗れるわけがない。だから、先輩が暴力を振るうことでつらい経験をさせてあげているんだ」と(言い訳でなく)純粹に話す。また、僧堂滞在中はほぼ外出が認められず、外の環境を知ることや外に助けを求めることができない。まさに荻上チキさんが書かれた『いじめを生む教室』におけるいじめを生みやすい「不機嫌な教室」の環境だと思います。また、そのような僧堂に行かないと実家や職(寺で勤務している場合)が奪われるという現実があります。アンケートで脱会という話が出てきましたが、実家や職が脅しの材料として使われている以上、そこから抜け出すことは中々難しいところです。

●現時点ではほぼ教団の活動には参加していないものの、両親は教団の幹部職であり自身も文化的な(金銭的な面ではなく)恩恵を受けてきたと感じており、人生観は今も教団の教えに影響を受けていると認識している(盲従しているとは思わないか)。統一教会の、生活ができなくなるほどの献金には心を痛めるが、お金の価値

は多分に個人の価値観に依るところが大きく、簡単に献金に制限をかけるべきとも思えない。自身の教団もフランスでカルト認定をされていることもあり、宗教の自由が制限される流れには賛成しづらい。宗教に纏わる議論をしたいと思うことも偶にあるが、社会的影響を考えるとそのような機会はとても得づらい。本アンケートは自身の宗教体験を振り返る良い経験となった。

●私はアルコール依存症で5年前に入院し、現在は断酒も続き仕事も家庭も入院前と同じで人生で一番穏やかに暮らしていますが入院時のプログラムでアダルトチルドレンである事や人生の振り返りを行い、子供の頃からお祈りで私は悪い子で赦し導いてください。と言っている事が自己肯定感の低い生きにくさに繋がっているのでは。と考えました。

●今回の事件をきっかけに宗教二世のことを知る人が増え、今まで苦しんできた二世、今もなお苦しんでいる二世たちの心が救われ、深い傷が少しでも癒されればと思います。また、これから苦しむ二世を増やさないためにも行政はしっかり行動にうつしていくことを願います。だれかに強制された人生ではなく、一人ひとりが歩みたい人生を歩んでいってほしいです。

●ありがとうございます。支援体制が1日も早く整いますように

●現在、宗教による母親の借金で悩んでおります。そんな中、宗教に対する考えを変えようと、動いて下さっている方がいるということを知り、嬉しくなりました。ありがとうございます。

●緊急帝王切開で出産した私と娘の面倒を実家で見ると申し出ながら、退院予定日が教会の年一回の集会で休めないため退院日を早めると言われました。

●振り返って考えると、家庭内で宗教行事への参加をめぐって母と口論するのが本当に心身両方ともに疲れしました。親から独立して、理解のあるパートナーに恵まれて今はとても幸せです。そうなれていない人のためになりますようにと願っています。

●3ヶ月前に結婚。その直後に安倍氏の事件が起きました。宗教3世であることを夫には相談できましたが、「教団も統一教団も同じようなもの」と忌避する義父母には伝えていません。入信は誕生後すぐに行われており、自分の意思で脱会の行動を起こすことで、かえって勧誘を受けるのではないかと考えるとそれもできません。両親は、大石寺との一件以来、宗教活動と距離を置いているので、特に何も言われません。今のままずっと何事も無いのなら、それでいいのかとも思

います。自分自身は信じていなくとも、親戚の信仰を否定する気もありません。ただ、今後、葬儀などの機会に義父母に知られることになるのでは？偏見にさらされるのでは？と恐怖心はあります。

●親が熱心な信者で生きてる間は脱会ができそうにない。つらい。生き方を制限されてつらい。どうか、苦しむ人が少しでも救われてほしい。

●祖父の代から入っていた教団で、入会とか退会とかいう手続きは無かったと思います。禁じられた食品があり、そういう所から、友人や恋人との付き合いの中で、宗教に入っているのがバレたら嫌だという気持ちが強くなり、自然に離れました。親戚はまだ入っていて、御守りやお札を送ってきますが、断っています。そんなに強烈な教団ではありませんが、分別がつかない年齢の子どもにとっては「バチが当たる」とかそういう概念は恐ろしいものです。

●自分は教団に対して信仰心は持っていませんし、教団がいい宗教とも思いません。しかし世の中に宗教は不必要とは思いません。日本人は宗教自体を気持ち悪いと思う人が多く、宗教アレルギーがあると感じています。それが逆に、宗教という名前ではないカルトにハマる原因にもなると思っています。(一部のオンラインサロンや、政治団体、過激なナチュラル系の団体など) 宗教とカルトはイコールではないし、カルト的な宗教以外の団体も多くあります。必要以上の宗教への拒絶は、逆に自分がカルトにハマった時に助けられないことにもつながるように思います。人は人、自分は自分、という感覚を信者も信者以外の人々も持ってほしいと思います。

●黙って引っ越しても教団の人にうちに来られたりした時期が昔はありましたが、今はありません。抜け出せないと言うよりも抜けさせない包囲網のような体制があったのだと思います。そう言う点から抜け出す面倒さや困難さをもう少し知ってもらえるといいなと思うところもあります。

●私は単立プロテスタント系のキリスト教会だったが、皆でカトリック系の教会への交流へ行ったり、牧師の話で仏教の教義の話があったりとかかなり寛容であった。私の件は家族の私個人への理解もあり、おそらく問題としては軽い例かと思われます。自我を自身の意識を取り戻し、自分の意思で選択する人(脱会する、しないに関わらず)が増えてくれる事を願います。母のみ教団です。父は反対派だったので、子供達が信者で居たくない無い選択がしやすい環境だったと思う。でも、普通の家族では無いから、常に夫婦喧嘩が絶えなかつ

た。両親二人とも、いい人ではある。深く洗脳されてしまった人は、簡単には戻ってこない。

"教団の信条は否定しないし、基本いい人たちだと思いますが、2世は選択肢がなく刷り込まれていくので、そう思うのかもしれませんが。2世の脱退は、家族との関係がしがらみになることが多いと思います。

●山上容疑者と同世代ですが、お話聞いてくださって、ありがとうございました。ツイッターもしていますが、精神疾患も抱えており、スマホに慣れない為、同世代の自助グループに是非参加してみたいなあなので、教えていただけたらとても嬉しいです。

●私はいわゆる「主流派」のプロテスタント信者なので、もしかしたらアンケートの対象とは違ったかもしれませんが。伝統宗教の3世の体験ということですので、よろしくおねがいします。

●一緒に旅行に行ったり買い物したり、仲の良い親子を見ていると羨ましくなる。私は支持政党を支持していないので両親と顔を合わせると喧嘩になる。信仰も支持する政党も自由と憲法にも保証されているが、親子関係には憲法が及んでいない。ただの親子になれないのがとても悲しくつらい。教団は支持政党を支持するしないは自由と言っているが、実際は全く違う。自公政権に意見を言うと役職を外され頭がおかしい人扱いされる。なのでおかしいと思っても皆決して口には出さない。信仰と政党支援がガッチリ噛み合っているので支持政党を支持できないというのは信心が足りないと言われる。教団は支持政党支持を強制しないでほしいと強く強く願う。

●にわかに宗教二世三世が注目されるようになり、少なくとも自分は初めてと感じています。「今更か」「やっとか」というのが率直なところですが、きっかけとなったのが起きてはならない事件だったというのも複雑な思いがあります。今までほとんど誰にも何も明かさず生きてきましたが、Sessionを22の時期から毎日の習慣として聴き続けており、その信頼と少しでも恩返しできればとの思いもあり回答しました。なおかつ、積極的に宗教二世のことを複数回取り上げてくれて、初めて自分は大なり小なり精神的な虐待を受けてきていたのだ、大袈裟に言えば虐待サバイバーの一人だったのだ、そんなことにも気づけなかったと思い至りました。自分の場合はそこまで制限は受けませんでした。教団でない家庭に生まれたかったと思ったことは一度ではありませんでしたし、この自分の苦しみて何なんだろうとはずっと考え続けてきました。この苦痛には意味がない、とする捉え方は二重に辛い

と養老孟司さんの本で読んだことがあります。もし私の経験を今回の調査でほんの少しでも役に立ててもらえるならば、これまでの苦悩はその分緩和されます。その点も本当に心の底から感謝申し上げます。ありがとうございます。おかげさまで現在は教団とは距離を保ち、差し迫った状況とは無縁ですが、同じような悩みや苦しみを抱えている人たちのためにも、自分ができることも模索すべきタイミングがきているのかもしれませんが。引き続き、この問題も注視していきたいと私も思っています。

●3世で祖父と、叔父2名が牧師、親族は大体信者。キリスト教系私学の幼稚園、中高と通いどっぴりな宗教的環境で育っています。よかったことはキリスト教の文化を知っているので欧米の美術や文学の理解がしやすい事。また生き方について考える機会が多かったので倫理やほかの宗教にも興味を持てたこと。そこから国際問題や社会問題にも興味をもって考えられるようになったと思います。思春期に入り自分で考えはじめ聖書などに疑問を持ち、議論を身内である牧師と十分にできたことが良かったと思います。科学で考えると宗教はいらないと考えていましたが、生きているうえで心のよりどころとして必要だと感じ20歳ごろ洗礼を受けました。いまは実家に帰った時しか礼拝に行きませんが自分なりに信仰しています。パプテストは聖書がすべてというスタンスなので、進化論、同性愛等ではエクストリームなところがあります。この辺は完全に信じないし他にも聖書では禁忌とされたものが今の社会では許容されていることも多くどう解釈するかは自分で考えていくしかないと思っています。宗教は悪い事ばかりではないので、子どもたちが自分でよく考えて、疑問をぶつけられる人がいる環境が重要だと思います。日本では過去の事件の影響からも大人も子供も宗教を否定し知る考える機会が少なく、触れることを恐れている。逆にそれが勧誘されやすい、洗脳されやすい人間を多く生み出しているのではないかと思います。また無宗教という割に人生の節々はすべて宗教がらみお守りや崇りなど信心は根強いので信じやすいという側面もあります。日本も多様な文化と共存していくようになり、差別防止の意味でも小学生高学年からの宗教教育が必要だと思います。(一般的な世界の宗教の紹介、お話など)

●私は宗教3世でいまはキリスト教本場のドイツで暮らしていますが、こちらでは宗教というと5大宗教のみをさすようです。カルト(セクト)に対する法律も厳しくあり、統一教会、教団、マルチ勧誘なども犯罪

になります。1 番日本で辛かったのは自分で宗教を選べなかったこと、キリスト教はいい宗教だと思うが日本においては確実にマイノリティーであうこと、それによって差別や偏見があったと思う。子供に対して宗教を押し付けることは大反対です。

●親が宗教3世で、いいことも、わるいことも沢山ありました。信仰心がないこともあり、独り立ちした頃から教団とは距離を置くことにしましたが、なくなってほしいとは思っていません。子どもの頃、遠い国の紛争地域にいる子どもたちのことを学んだり、彼らのことを思い募金や物品を送る活動したことは、今でも自分の人を思いやる気持ちを育ててくれたと感謝しています。体罰や金銭をむしり取るような、他人に強い迷惑を掛けるカルト宗教はなくなるべきだと思いますが、すべての宗教団体は悪のように言われることは、悲しく感じることもあります。

●反社会的な活動こそ無かったけれど、人間関係構築の難しさは、そこに居たことが大きいと思う。得たものが無いわけではないけれど…。

●内容次第で宗教2世が問題視されて然るべきとも思うが、自分の宗教はほとんど問題視されるようなことはしておらず、自分の(親含めた)宗教に対してネガティブなイメージはほとんどない。よって、宗教2世はみんな大変で宗教はすべて問題がある(例えば他宗教の輸血拒否や多額の献金など)と思われて世間に偏見を持たれるのは、宗教の信者として困り、宗教や宗教絡みの学校卒業生への偏見を助長すると考える。その偏見が、いじめや無意識でも差別に繋がると考えられるため、全ての宗教●教派が問題視されるようなものではないということも併せて啓発されると幸いである。このアンケートに答えているのも、宗教2世の被害者がほとんどだと考えられるため、あえて私は回答した。宗教自体にはさほど被害を受けておらず信仰を強いられない宗教2世が多くいることも知ってもらえれば幸いである。(兄弟は無宗教として生きており、親にも親戚にもそれに関して何も言われていない。また、自分と同年代の宗教2世で真面目な信者として、宗教によって選択肢が狭まることなく伸び伸びと人生を歩んでいる人も多く周りにいるためそのことは知ってほしい。)宗教2世で困っている人も恐らく存在するため、その方を助ける活動は社会に必要であると考えられ、応援している。私は宗教は無関係で母親から虐待を受けて生きてきたため、宗教が理由でもそうでなくても、子どもが親(の虐待)から離れて3食が食べられて住めるシェルターは全国に必要だと考えている。簡

潔にまとめると、宗教2世がみんな困っているという偏見の払拭、仏教以外の宗教は危ないという世間のイメージの払拭、理由は問わず親(の虐待)から逃げて安全に子どもだけで逃げ込める場所の整備を望む。このアンケートの募集の言い方では宗教2世で困っている人のみ回答することが考えられるため、宗教2世の実態把握としては困っていない人も回答するようなものが必要ではないかと考える。活動自体は応援している。

●私が関わっていた教団という団体はわりとゆるゆるで親によっても"行きなくなれば行かなくていいよ"と小学生位で離れる2世も沢山いました。ですが家族全員で熱心に信仰を持っていたり真面目な親ほど子供をしっかりと導き育てたいと思い、2世本人も親の期待に応えたいと思いズルズルと離れられない場合も多いです。結局は親次第なのですが、未成年で親の元にいるうちはどうにもできない事が多く本人が特に望んでいない時間をたくさん過ごす事になります。学校と部活やクラブ、宿題と習い事に加えて更に宗教活動の集会や奉仕活動や講演の予習や割り当てがありかなり疲れていた時期があったのを覚えています。何をどう言い訳して集会をサボろうか、当時色々考えていました。私はその程度の適度な感じでしたが、もっと生活全体が犠牲になるような制約や負担の多い宗教もあると思います。せめて学生のうちは学生らしい生活を送れるように規制があればいいかもしれませんが若い2世を守り救済する事はなかなか難しい問題だと思います。

●なかなか自分からこのようなことは発信しづらいので、このような機会を設けていただきありがとうございます。

●ありがとうございます。統一教会に限らないかもしれませんが、カルトと呼ばれる宗教のなかでも、信仰できる部分と、この部分は飲めないな、盲信できないなということが個々人の信者の中にあると思います。それを、全飲みを強要されるのが辛いと思います。カルト規制法に関しても、教義のあり方に対してではなく、信者の内心の自由を阻む行動要請について、社会と厳しい齟齬が生じる部分について法律で規制することで、変な信仰宗教がカルト化せずに変なだけのほのぼの宗教であり続けられる可能性が高まると思います。●宗教二世について、元々日本で宗教と言うと悪いイメージが持たれる人が多い。特に勧誘の話など、私が属している宗教はインターネットで悪い話で持ち切りだと思う。インターネットは色んな意見があってもいいものだが、悪い話の方が広まり安い。そのせいで、宗



教のいい面(私は宗教に入っていて、ほとんどマイナスな体験をしたことは無い)に着目されることが無く、私自身宗教二世であるということを隠して生活しなければいけないのが辛い。周りの人達は私くらいの子も含め、大体普通の人達だ。宗教に属しているからと言って、余計な偏見を持たれない、もう少し海外のように宗教に対して寛容な世の中になって欲しい。(統一教会のように宗教絡みで事件の被害写真になっている方のためになにか対策は考えるべきだと思う。)

●私の所属している宗教の実態が、ほとんど反社会組織になっているのでしっかり調査した方がよい。献金の件については、旧統一教会のことを笑ってはいられない。

●カルト宗教は、キリスト教に由来すると言っている団体が多いので、まとめて語られている事がとても不愉快です。カルトとは、聖書も違うものです。公の場所で語る時には、よく調べて欲しいです。キリスト教会では、互いに愛する事を勧められています。愛するとは、相手を尊重する事です。何かを強制する事は、あり得ません。

●教団は全世界の敵だ

●正直、自分は2世といってもそんなに制限はなく被害は少ない方だと思うが、実家を出て、母親の宗教に対して、自分で気持ちの落とし所が出来るまで、非常につらかった。母が宗教にのめりこんだのも、父が若くして病気で死ぬ、とわかってからだし、強く言うこともできなかった。勝手に入会させられており、いまだ退会していない。会費は母が勝手に払っているようだけど(常識的な金額で)、もうそれで母の心の平安が買えるのならいいと思い、ほっとしています。メディアに出てる2世たちほど大した被害もないけれど、なにか調査の役に立てばと思い、回答しました。

●両親が入信していた団体の教義は特に不審な点はなく、心の弱い母を支えてくれた感謝の方が強いです。しかし、自分自身にどうかとなるとまったく不要な存在のため、ただ厄介な経歴だけが残っている、という印象です。

●宗教が悪いというイメージが根強いので、少しでも払拭出来れば良いと思う。

●自身は入信しており、妻、子供は未入信です。今後も、互いの意志を尊重しながら支え合って生きていきたいと思っています。また、そのような関係でも良きパートナーとしてやっていける世の中にしていきたいと強く思っています。宗教に対する様々な意味での偏見や被害を少しでも減らすことに、今回のアンケート

が活用されることを願います。

●熱心な信者ではなくそうしていた方が面倒では無い為入信している。なのでなんの活動もしていない。定期的に会合などへの参加を求める声が掛かるが興味ありません、と言えば相手もまた来ますと帰る。選挙も投票を求められるがその場ではわかりました、と返事をして自分で考えて別の人に投票している。親族はみんな信者なのでその手前やっている、と繕っておいた方が楽なのでそうしている。ただ葬儀の際に亡くなった人を知っている人がお経をあげてくれるのは知らない人がするよりいいと思う。お布施も必要ない所も。全額教団に持っていかれお布施も支払う必要があると他方で言われているのを見た事が多々あるが私が知る限りそのような事はなかった。その辺は世間とのズレを感じる。私自身は神社仏閣が好きなのでお参り行くし、お腹が痛くなったら神様！と祈る。実に適当で気軽な祈りだ。親族が聞けばひっくり返り驚かれそして切々と信心について語られる事だろう。それについて分かったフリが出来るので今のところ問題を感じた事がない。

●わたしは30代過ぎてからようやく親と宗教について向き合って話せるようになりました。というか親がようやくわたしをひとりの人間として認め、話しを聞いてくれるようになりました。そのためにたくさん本を読んだり、いろんな人と会話したりする中で研鑽して、どうやったら自分の思っていることを言語化して相手(親)に伝えられるかと悩んできたように思います。今回安倍さんの事件があって、あの犯人の方がもしかしたら自分だったかもしれないと母親には言いました。母は黙って聞いていました。わたしはあなたたち(親)の人生や活動を否定はしない、その代わりにわたしの宗教観(脱会はしないけども活動もしない)を否定しないでほしいと伝えました。今はそれでお互いにバランスを取ってやれています。でも子供の頃のことを振り返ると、親はわたしの話は聞いてくれなかったし、家にもいなかったし、神社のお祭りに行ったらいけないとかいう訳の分からないことで怒られたりしましたし、家に勝手に来るお姉さんと無理やり話しをさせられたりと言いつつキリがないですが、そんな経験はしたくなかったです。もっともっと酷い経験をしている他の宗教の2世さんたちの言葉をTwitterなどで拝見すると、まだ自分はマシな方なのかな、などと思いますが、それでもやっぱり嫌なものは嫌で、辛かった気持ちは消えません。こういう話を出来る場所がもっとあったらいいなと思います。2世の数だけ

物語があります。分かり合えることもあれば、分かり合えないこともあると思います。それは宗教は関係ないと思います。それでもいろんな人の声を聞いてみたいとわたしは思っています。

●宗教2世、3世の人の中には「やめたいけれど今は信者親と揉める」ために幽霊信者のまま、やめる機会を伺っている人もいます。やめてないなら信じているのだろうと思ってほしくないです。

●私は宗教3世ですが、ちょっとした疑問はなくはないですが、おおむね満足してかなり積極的に活動しています。反対に宗教2世で苦しむ人の気持ちも何となくですが分かりますし(実際にそういう方も周囲にいます)その方々への救済や支援はあってしかるべきだと思いますし、今回のアンケートもそういう趣旨だと思います。ただ、どうしても私のような2世3世でも比較的満足している者に対する視線が欠けているなとも感じました。

●チキさんのポッドキャストいつも楽しんで聞いてます ありがとう。

●私はおそらく赤ちゃんの時に入会しましたが、ずっと自分の意思関係なく入会はおかしいと思っていました。でも最近は宗教ってそういうもんだよなと思うようになりました。脱会はしたいですが、親とも仲が良いので関係が悪くなるくらいならこのままで良いと思っています。でも親の選挙に対する考え方が許せなくて、(ある一つの党しか眼中にないなど)親の考え方を変えたいと思いつつ選挙の話をするといつも喧嘩になりそうなのが悩みです。2世の方々の悩みは大小様々なものがあると思いますが、このように実態を知ろうとしてくれる方がいて嬉しいです。もっと2世の方々の色んな意見を聞ける場があるといいなと思います。

●文章だと伝えるにくいので、何か質問があればご連絡ください。一時期は活動家だったので、ある程度の質問には答えられると思います。

●突然の父の病死から立ち直れず一家心中まで考えた母の救いとなった宗教でもあり、信教の自由が定められてもいるので、母の入信も今となっては致し方ないとは考えられるようになった。しかし、幼い子どもだった私たちに一緒に入信しないなら家を出るよう脅されて、渋谷集会所に行かねばならなかった記憶があり、やはり人権侵害甚だしい宗教団体であるとの怒りしか湧いてこないし、母がそんなものに洗脳されてしまったことが悔やまれる。

カルト宗教の取り締まりと共に、そうしたことがきっかけで宗教にハマってしまう弱者の人たちが社会的に

取り残されないような日本社会にすることも大事だと思う。

●このような機会を設けてくださり、どうも有難うございました。今まで話したくても話せなかった、話しても耳を傾けてくれる土壌がなかった、そんな問題と思います。また、これは提起させていただきたいですが、宗教の善悪は抜きに、社会的に弱い人や困った方の受け皿や居場所の役割を宗教こそ果たしてきた背景はあるのではないのでしょうか。昭和平成の時代は特にその機能があったのではと思いますが、時代は変わって、組織も変わって、やはり内部からも変わっていく方がいいという風潮がそれぞれの組織で出来ているのではないかと、それが望ましいなと思います。ともかく何のための信仰なのか、それで人は幸せなのかを考えなくてはなりません。自分で選び取った方は良いですが、選択の余地のない2世3世は、心に燻りを持つ方も多いのだと思います。

●三世に該当すると思いますが熱烈な信者というより生活の側に宗教があった感覚です。個人的には祖母が1人暮らしをしながら長生きできたのは宗教があったからだと思うので、感謝しかないです。特に布教したこともありませんが、不安や孤独を抱える人には必要なものなんだろうと思います。でも宗教が側になく育った人には今話題の宗教も、政党を持つ宗教も、私の所属する宗教も同じようにみえるだろうなとも思います。尋ねられたときは献金の強要、物品の強制購入、交友関係の断絶の強要 などがあある宗教は、まともじゃないよ、と話していますが。

●宗教がある事で学校で嫌な思いをしてきました。先生は宗教を学ぶべきだし、子供は小さい頃からいろんな宗教を知って、宗教がある子を特別視したり、禁忌がある事で意地悪を言われたりしない世の中になるようにして欲しい。私は自分に自信があるけど、ハーフな事、宗教がある事を胸を張っていられる世の中になって欲しい。(小学校に入るまでは、宗教がある事も、ハーフな事も誇りに思っていました)

"母にとって信仰は生きるために必要でした。母が今も元気で父と共に暮らしているのは信仰のおかげだと思っています。私は信仰心がないことを伝える時、親に嫌われてしまうと思っていました。結婚する時に宗教の話しをいつ相手に伝えるかは兄弟で相談していました。信仰宗教の信者の家族である事は、犯罪者のような気持ちです。これで終わりになるかもしれないといつもビクビクしていました。常識的な宗教法人でもこの気持ちです。ニュースになっている宗教法人の2世

の方たちを思うと胸が締め付けられ動悸がします。子は親の支配下で生きなければならないある期間に信仰を植え付けられると、そこから抜け出すのはとても大変です。母は今信仰を強要する事はなくなりましたが、子どもの時から言われ続けたことはしっかり残っています。

●私の場合、宗教3世で入信理由も意思もないまま産まれて間もなく入信しました。脱会について正式に手続きをしていますが、信仰は全くしていません。信仰の自由は憲法に規定されていますが、意思のない子供を無条件で入信させる事は憲法違反なのではと考えています。成人になるまでは子供の意思を無視して入信させる事を規制する仕組みを作った方が、子供の人権を尊重出来るのではないかと私個人は考えています。アンケートを通して、何かお役に立てれば幸いです。

●脱会していないにしましたが、特に手続きをした訳ではないためこの選択肢にしました。ずっと教会に行っていない為、世間的にはおそらく脱会したことになるのだらうと思いますが、親や教会は脱会していないことになると思います。

●信仰心を持っていないために母の望む子になれなかったこと、私では駄目なんだという強い思いからうつ病になり今現在も心療内科クリニックに通院しています。人生を母に、宗教に壊されたと思っています。山上容疑者に対しては人を殺すのはもちろんいけないことだけど、私だけじゃなかったんだ、一人じゃなかったんだと思いました。殺してやりたいくらい母を憎んだこともあります。教団をぶっ壊してやりたいとも思ったことがあります。父について何も書いていませんが、父は無宗教です。教団がどんなものか知らず結婚したのではないかと思います。母に宗教を強要されていることを父には話せませんでした。家族がバラバラになると思ったからです。今も父には話していません。母は私が本気で信仰心を持ち、自分から父に入会すると話せばうまくいくというような考えがあったそうです。母に私を入会させるよう勧めた人がいたそうですが、その人のことを母は覚えていないらしくそんな人のせいでこんな人生を歩むことになったのかと思うと虚しくなります。教団がどのくらい嫌われているか知っていたのでまともに恋愛もできず、結婚も諦めました。宗教を信じている人とははっきり言って話が通じません。でも教団信者はたくさんいて、警察も市も助けてくれない、死ぬしかないと思いました。今現在苦しんでいる人たちを助けて欲しいです。私のように病まないように、死を選ぶことがないように。宗教団体対

しても厳しく取り締まって欲しいです。関係がある政治家は全員辞めて欲しい。国はどうせ何もしてくれないだし助けてくれないんだから。正直私もまだまだ母にされたことが許せなくて苦しいので助けて欲しいです。

●回答の機会をありがとうございました。回答してみて、自分で思っている以上に傷が癒えていないことに気が付きました（自由記述欄に記入ができなかったのはそのせいです）。私は他に発達障害などの問題もあり、心理的にはかなり立ち直ったのですが、まだまだ支援が必要な方が沢山いらっしゃると思います。その方達が必要とする支援が充実することを願っています。

●私は信仰に対して、プラスに考えているが、そうではない人もいるし、マイナスになっている人もいます。また、信仰がなかったら、私は存在していないので、なんとというか複雑な気持ちになる。私の宗教は割とオープンで、おおらかな宗教だと思うが、献金はあるにはあるので、しんどい面もある。

●私の場合、親がそんなに熱心な信者ではなかったのでそこまで大きな問題はありませんでした。献金と言われるものも年に一万円程度でした。

●私自身の状況についてコメントさせていただきます。脱会をするには親族と絶縁せざるを得ず、結婚も諦めています。今はかろうじて経済的に自立できたため、必要以上に連絡をとらず、距離を置いています。有事に相談できる方がいないため、相談窓口を探していますが、別の宗教団体や詐欺関連の組織が関与しているのでは無いかと思い信頼できず、相談できません。

●これは私自身ではなく幼なじみの友人のことです。今日の彼自身のことは分からず全て無回答にしました。無効になるかもしれませんが、ずっと苦しみ今も苦しんでいる友人をみているの回答をさせていただきました。彼が救われる事はこの先無いかもかもしれませんが、彼のような子どもが救われる世の中となりますよう。

●親や教団の強制力以上に社会の偏見が恐ろしいため、宗教二世は潜伏化し、表向きにはわかりません。まず、在日、LGBTQ、障害者などと似ており、宗教を異質なものとして奇異の目で見ると、あるいはヘイトを感じるからです。宗教は家の慣習のようなものでもあり、いうならばルーツとも似ています。ルーツには誇りを持ちたいと願うのが人間の心理です。真に多様性を受け入れられる社会になれば、宗教二世が潜伏化することなく面に出てきて、問題や葛藤があれば悩みや疑問を周りの人にも話すことができるようになります。潜伏化する教団側だけの問題ではなく、宗教リテラシーの

低い日本社会の側にも問われている問題だと思います。

●よく考えたら3世だったので気が滅入った。

●日本会議が話題になった時、青木理さんの「日本会議の正体」で、自分の団体が出来ていく過程が書いてあったので、最近になってそういう団体だったのかと知れました。

●団体自体はそんなにカルトというよりは思想が強いという印象の団体でした。総本山も何度も小さい頃行きましたが、当時は広くて綺麗、特に金を巻き上げるような団体では無かったと思いますが、あんなに大きな本山を持てる団体だったんですね。両親もある時期で辞めたようでしたが、信仰持ってたほうがまだマシだったかも、酒に暴力とかなって行って益々最悪でした。さっさと見切りつけて家を出てバリバリ楽しく仕事してた私はまだマシなほうだったと思います。でもあんな家庭を見てきたら、結婚に肯定的になれず未婚のまま。ハッキリと入信していなくても(というか会費払い始めたら入信ったのかな?)子供の頃に見聞きしたり、親の考えに振り回されたり、家庭問題(大きい)や経済的問題で影響してる2世●3世は多いと思います。「入信未滿2世」とでも言うのでしょうか、そういう人も含めて調査お願いしたいです。応援しています。

●宗教なんて、所詮人間が集まってやっているものだから、ろくでもないものだ、と思っています。この世から無くなればいい。

●夫は自称無宗教で、宗教嫌の私のどうしようもない気持ちを受け止めたり、受け流したりしてくれて本当に感謝しています。教団のイベントに悪気なく連れていこうとするので、両親と私の子だけにすることはできません。脱会について親と衝突することに疲れ、仏壇や書籍は捨てて、本尊はタンスの奥に保管しています。万が一親が宗教を夫や私の子に強要することがあれば、人質のように使えるかもしれないと思っているからです。親が亡くなったとき、本尊を返して正式に脱会したいと思っています。兄弟は教団大学に行き、教団三世の方と結婚して親の願いを叶えたので、私は教団活動について親から強く言われなくなり、兄弟にはある意味感謝しています。兄弟の子は宗教三世になりますが、成長しても脱会したいとなったら力になれるか考えてしまうことがあります。私は親と直接対峙することを諦めて、グレーなままにしています。

●当時の教団としては珍しく私はいったん短大に入学しました(海外での奉仕活動もあるから)。しかし、脱会するために家を出て、短大も退学しました。その後、

精神的な安定、経済的な自立を得て、結婚して今に至るまで、あまりにも人生のあまりにも多くの時間が犠牲になりました。その時間は戻りません。また、第2人は精神病を発症し、現在も働くどころか、病気に苦しみながら日々を過ごしています。しかし、第2人に向けられる視線は冷たいもので、何重にも苦しんでいます。私はいい加減な人間でしたが、真面目で親にコントロールされやすかった2人の弟の方が、今でも苦しみの中にいます。私も、大学に行ける時に行きたかった。自分の人生を精いっぱい生きてみたかった。数年前からようやく通信制の大学で勉強を始めましたが、時折り、いわゆる学生時代に懸命に学んでいるんなことにチャレンジしてみたかったという気持ちで悲しくなってしまう。一番最初に、入信したのは母ですが、母を責める気持ちはありません。母も十分に自分自身を責めて生きてきたので。ただ、私たち家族の間に、教団だったと言う事実があり、その話に触れたくない感じで、家族での普通の、他愛もない時間が無かったのは、悲しいことです。母は慣れない子育てとモラハラ暴力気味で外向きの顔はいい夫、干渉気味の義母との間で、それでも優しい人間でいたいとか社会の役に立ちたいという気持ちのと葛藤で入信したようです。動機は良かったし、真面目すぎでした。教団は、政治的な活動や極端な献金などないので社会問題化しにくい側面がありますが、一般社会とはかなり隔絶した生活をするので、2世の脱会後の社会生活への順のうが困難です。比べるものでは無いかもしれませんが、その困難さもしかしたら他宗教より深刻かもしれませんが、すっかり一般の生活をしている私でも、どこかで、一般の人と自分が違う感じがします。確かに、子供の頃に特殊な体験をしていたという意味では違うのですが、もっと感覚的な部分で何か違う(優劣でなく)、というか、自分がぼんとしていて、切り離されてる感じがします。何より将来について現実味をもって考えるのがうまくできない。一般の人の捉える未来や将来の感覚、死の感覚、時間の感覚というものがわからず、自分のそれと同じなのか違うのかわかりません。そもそも、そんなことを、考えること自体が多分、私元宗教2世だからだと思います。いつも、別の世界があるような、いま夢の中にいるような気がしていて、いつになったら「ここ」以外の世界がない感覚になれるのかな、死ぬ時までわからないのかな、と思います。こんな気持ちは私だけなんですか?いまはインターネットがあるので、教団で脱会しようかどうか迷っている人たちの背中を押す情報を

得ることができると思います。あまり日本政府には期待できません。宗教 2 世問題以前の、宗教への理解、人権を尊重しない態度・があるからです。本当は政府がやるべきことはあるのですが、むしろ、こうしたインターネットをうまく利用した市民の取組の方が期待できます。

●人により置かれている立場の差が激しいので、よく聞いてあげてほしいです。

●両親が教団の結婚式で結婚、2 世として産み出された人間なので、産まれてきた意味や理由に幼い頃からずっと疑問や劣等感等の良くない感情しかなく、あまり人とも多く関わりを持たなかったです。今でも、疑問ですし、この事は匿名以外で誰にも言うつもりもなく、また誰かと一緒になったとしても受け入れてもらえる事とは思っていません。結婚できるとは思っていないので独身を貫くつもりです。自分のきょうだいはたくさんいますが、この血筋を、被害者を増やして欲しくないのです。誰も子供を産んで欲しくないです。母親には、時々「本当は違う人と婚約までしてた」と自慢のように聞かされた事がありますが、(なら、その人と一緒になったら、そもそも入信しなければ自分は産まれてこなくて良かったの)にってずっと思っていました。産まなきゃ良かったのにって親に言った事もあります。産まれた時から貧しく、漠然とずっと地獄で、何の為に生きているのかすらわからない時に、今回の安倍元首相の事件で、2 世が明るみになり、複雑な気持ちです。正直に言えば、子供が産まれてから両親が入信したのと、産まれる前から両親が入信しており、その後にもうけた子供では、同じ 2 世でもとても意味は違うと思います。産まれてきた意味が違います。前者であれば愛はあるかと思いますが、後者に愛はないです。そこを一括りにして欲しくないです。いつも両親が喧嘩しかしていなかったのもずっと疑問で、今でも考えられないですが、もし選べたなら好き同士で愛し合っている両親の元に産まれたかったです。「2 世を量産する」為に産まれたくなかったです。産まれて来た時から刷り込まれたこの教えが正しいのか正しくないのか、今でもわかりません。被害者がこれ以上出ない事を切に祈っています。

"私は大学で宗教社会学を学び、毎夜母と議論しました。彼女を論破するために学んだような気がします。母は亡くなるまで信者でしたが、母にとっては必要なコミュニティだったと今ならわかります。ただ母の病気の具合が悪くなる度に、私たちの不信心のせいだという信者たちを論破するのは、さすがに疲れるときがあり

ました。前述のように、母にとっては大切な場だと思っています。経済的な問題はこの宗教団体に関してはあまりありませんでした。だから、私の教団はカルトかという疑問です。ただ薬を飲むことに対してかなり否定的で、喘息持ちの妹は発作が出る度に苦しんでいました。見かねた祖父母や父との争いは、信者 2 世として、どちらが正しいのか悩みました。妹はもっと大変だったと思います。妹も遅れて 20 代半ばで距離をとるようになりました。今は喘息発作を止める薬を利用しているようです。

●自分の場合、宗教自体ではなく 親(と周りの大人●風土)の偏った考え方●方針が問題だったと思います。回答はほぼ親や周りの大人について考えて答えたい、教団がどうだった、という話では無い事な気がします。正しい回答が出来てないかも知れません。

●私が入っていた教団は金銭的奉仕を求められる事はほぼなく、政党との関わりも皆無な宗教団体でした。信者は教義に沿って善人であるよう日々努力する人の集まりであり、活動動機は純粋に信仰心によるものでした。それゆえに排他的な狭いコミュニティを大事にするのですが、その中で育ったことで友だちと遊ぶ、買い物をする、塾に行く、部活をする、旅行に行く、恋愛をする、親に反抗するといった多くの子どもが成長過程で当たり前のように経験する事の大半を経験する事ができませんでした。これが私自身の感じる一番の弊害です。独立し親元を離れて就職した際、人間関係の構築、友だちや恋人との会話や距離の取り方など、一から身につけていった記憶があります。それでも子どもの頃にしか経験できないもの、取り戻せないものが多過ぎました。信仰心は人を救う事もあり、社会に迷惑をかける物でなければ、法に反する行為をしているのでなければ、憲法で保障されているように信教の自由は確保されるべきと考えます。信仰心から今も教団に身を置く母も教団も否定する気持ちは全くありません。では親の庇護下にある子どもの信教の自由を保障するにはどうしたらいいのか。当事者であった私は 20 年以上答えを探していますが、未だに解決策がわかりません。

●安倍元総理の銃撃事件の犯人の事をメディアでしるにつれ、気の毒な気持ちになりました。幼い子供の頃から親が入信していると、自分の家が普通の家とは違うという事に気が付きにくいです。そして、それを誰かに相談した所で何も解決しない事も知っていました。(なので学校の先生や身近な大人に話してみようと思った事はありませんでした。)自分の人生についても諦

めていました。選択肢が親が、教団が許す範囲内にしかなかったのです。今も母親は入信したままです。関係はほそぼそとありますが、教団についてなど踏み込んだ話は腫れ物に触るようにはしません。あの彼は、母親の多額の献金のせいで生活や人生が破綻し、何とか、何とかしたいという気持ちでいっぱいだったのだと思います。程度の違いはあれど、私も同じだったのだと思います。今、親の新興宗教問題で苦しんでいる子供たちに何ができるのか。。私のような諦めた気持ちでいる子供がいるとすれば、どうしたらいいのか…考えてしまいます。

●いつも選挙の時期は憂鬱なので、政教分離を徹底してほしい。

●私自身は信仰心はないが親兄弟も今は会合などには出ていないがお経は唱えているので心の拠り所なのかと思う。貧困家庭だったのでそういうものに頼ったのかもしれないが実際は分からない。脱退も大切だけど叶うか分からないものに頼らなくても生きていける社会になればいいと思う。

●教団は今はどうかわかりませんが、地域によってかなり厳しさが違ったと思います。個人の決定、過程の決定に委ねられている部分もあり、恋愛や交友関係に関しては自分はゆるめの感覚でいました。法律や世間の道徳観をかなりしっかり守る程度、の感覚。小さい頃からの環境なのでそれが当たり前で普通だと思い、学生になってからはこの世(世間一般)の様子も自分なりに捉え、差もわかってきていいところは残しつつ、という感じで生活していました。ネットが普及してから同じ境遇の方の話をよく見るようになり、もっとつらい状況の方も知り、心を痛めました。安心したのも本心です。

●既存マスメディアは安倍元首相を射殺した犯人の手のひらの上で踊らされている失態を演じていることに、もうそろそろ気づけ。既存マスメディアの言葉の毒が、日本社会をギスギスしたものにしている。

●親は不安の強い人で、それ故に宗教での心の支えを欲しがっていた。が、自分に向き合い内省することがなく、結局は自分の機嫌で家族に暴力的に関わるなどを繰り返していた。家族は私を含めそれに疲弊していた。支配被支配の構図が家庭内にあると何をしても無駄だ、という無力感をに襲われ続ける。健全な子供時代が欲しかったな、と、ただそれだけです。

●こちらこそありがとうございました。

●メンタルヘルスの項目はその他要因と思われるものもいくつかあるのであまり参考にならないかもしれま

せん…

●私は脱会したいが、親との関係を壊さない為、未活動で留まっている。ただ本当にこの呪縛から離れるために結婚を機に移住もして、子どもは入会もさせず経済的独立をした。今回(自民と統一教会)の件で支持政党と教団の在り方など、うすらうすら親も疑念を感じている雰囲気だったが、焦りからかより教義を強める口調やメールが増えてた(沖縄選挙の依頼)。宗教の否定は信じていた自分の否定ではなく、宗教との距離感を見つめ直して欲しいと心から思う。

●職場の同期だった人が別の宗教2世で、同じ仏教を信仰する者同士意志が通づると思いましたが、先方の信者集め(勧誘)が度を越している。宗教2世以降は生まれながらにして、その宗教の教義しか知らない。「正解はこれだ」というように潜在的に刷り込まれてるので、科学的根拠に基づかない超人的な現象や、側から見たらおかしいと思われる内容についても、「これはおかしいのでは」という気づきは生まれてこないんだと思います。今の時代 SNS が普及し自分の宗教はどう思われているのか確認できる方法はいくらかもあると思いますが、信仰心が強ければ強いほど、目を背ける傾向にあると思います。憲法上思想信条の自由が明記されているので、脱会に向けた働きというのは難しいと考えますが、何か民事上刑事上の事件は勃発しない限りその宗教団体を弾圧したり、取り締まったりは難しいので、個人で何か動くのは無力であると思います。"

●新宗教でもカルト宗教ではないですし、宗教に対して肯定的な方なので答えても良いものか迷ったのですが…こんな人でも答えて良かったのでしょうか？

●私は元々無宗教です。当時そんなに活動を熱心にしてるわけではない主人と結婚しました。お付き合い中に宗教に関する問題は、主人からはあまり無かったです。親に従い信仰していますが、私にあまり強制はしません。が、義両親が熱心な為円滑な義両親との交流の為入会しました。私の感覚では席だけ置いて、義両親の話は軽く受け流せばいい。気持ちです。

あれは、ダメはもちろんありますし、選挙になると押しが強くなり、家族みんなで投票に行くのは恒例で、道中も誰にどの党に入れるかをはなしてきます。結婚で、信仰の自由が害される事もある。と言うことも知っていただきたいです。会については、悪い噂もたくさんききますし、いい人達にも出会った事もあり、否定的立場にはならず、熱心な信者の義両親と離れて暮らしているので、あまり熱心に活動せず、中立な目で

冷静な気持ちで向き合うようにしています。

●中間管理職の人が、教義を勝手に解釈して信者を増やしている場合がある。数が力になり、上の人も忠告が出来なくなる。そうやって少しずつ教団の方向が変わる。分かりやすい言葉を言う人に皆ついていく。教団そのものがカルトでなくても末端がカルトになっても教団が放置する場合がある。

●母が学生時代に入信し熱心で、私は物心つく前に洗礼を受け、母に連れられ長年礼拝に参加していたので宗教二世として回答しました。行かないという態度をとることで教会から離れることができ、金銭的な搾取もないので、苦しんでいる二世の方とは異なるかもしれないですが、アンケート回答と所属教会の下記実情が参考になれば幸いです。■礼拝への参加礼拝自体は強制ではなく、洗礼を受けて全く参加しない信者に対してしつこく連絡をとるようなことはしていないと思います。脱会という制度があるかはわかりませんが私自身は10年近く出席していません。なお、父も母に連れられて洗礼を受け、しばらく離れていましたが、今は週一で礼拝に参加しています。■金銭面献金は聖書に書いてある通りの10分の1とされていますが、家計が厳しいときなどはその限りではなかったはずで、献金をしている姿をみたことがない人もいました。我が家は共働きで父も礼拝に通ってはいますが、母が自身の収入分からだけ献金をしているようです。また、礼拝には一般的な聖書があればよく、借りることも出来るので高額な書籍や物品を買わされることはありません。全国集会も参加費の徴収はありません(献金で気持ちを抱く人もいますが)。ただ各自の交通宿泊費、手配は必要でした。"

/

今のところ報道されているような大きな問題はないし、母が悲しむのが面倒なので脱退はしないでおこうと思うが、活動は全くしたくない(自分には宗教は必要なさそうなので)。ただ、そんなことを思っていたり、正直このアンケートを書くということにいつかバチが当たるんじゃないかなと心のどこかで思っている自分もいます。

●"私の祖父母や両親は、洗脳や狂信といった意味ではなく、信仰によって本当に幸せを感じていました(いる)し、友人である信者の中にもそういう人は大勢います(あくまで私の主観ではありますが)。ですから、宗教や信仰そのものを否定する気持ちはありません。しかし、教義や教団組織が全ての人に合うわけでは当然なく、適合できない人は必ずいます。

私は、教義よりも組織に適合できない部分があり、信者の籍はそのまま、活動をしなくなりました。私のように、退会したいのではなく、教団や信仰と適度に距離を取りたい宗教二世は少なくないのではないかと考えています。私の場合は、仮に退会を選ぼうとすると母との深刻な摩擦を起こし、家族崩壊の危機になることは確実だと思います。熱心に信仰する家族を心から愛していますし、教団に疑問は持ちつつも、全否定する気持ちもありません。宗教二世と一口に言っても、状況や悩みは千差万別です。信仰にまつわる問題は多々あるのですが、旧統一教会のような問題は、反社会的行為、違法●脱法行為として解決を図るべきで、宗教二世問題の代表のように語られることには違和感を覚えます。

●私は統一教会などの宗教二世の方々よりは、大変な思いをしていますが、それでも、宗教二世の大変な環境については容易に想像できます。児童虐待の一つのカテゴリーとしても良いと思っています。今回の事件が、せめて今後たくさんの宗教二世の方を救う方向に向かうきっかけになってほしいと思っています。日本ではまだまだ、宗教についてオープンに話することがタブーとされているのですが、もっと宗教について自由に話することができる社会になれば、変わることもあるのではと思っています。私の宗教に対する考えは、宗教自体の考えや教義は正しくても、それを解釈し運用するのが不完全な人間である以上、多かれ少なかれ問題が生じる、というものです。私は自分なりの神を信じ、組織には属さずにその神の考えに従って行動していこうと思いますし、今でも教信者である両親の信仰を尊重しています。

●教団を離れて何年か経ちますが、今回、回答させてもらうなかでいろいろ思い返したり思いだしたりすると、涙が出てきました。やはり完全には割りきれないし辛い体験だったんだと改めて感じました。

●甘いかもしれませんが、少なくとも私の周りの信者の方は良い方だったと思います。両親も宗教抜きならとても良い親で、娘息子の事を第一に考えてくれる人です。特に母は私たちの事なら宗教の事は二の次にします。最近は悲しいニュースが多く、そこに教団を含む宗教が関わっていると心が痛い。信仰心が迷惑をかけることが多いと思います。でも全員が全員ひどい人ではないと理解が広がれば良いな。と思います。

●私は伝統仏教を信仰しています。幼い頃に家族入信をしましたので、強要と言われればそうかもしれませんが、私は否応なく教団の影響を受けて育ちました。人

によっては洗脳と思われるでしょう。しかし、私はそれを感謝しています。なぜなら戦争、自然災害、感染症などで大変な思いをしている方の1日も早い心の安穩を仏様に祈ることができるからです。信仰がなければ「自分は何も出来ない」とただ悲しんでいたと思います。私の娘は3世になります。入信していますが、強要はしていません。誘えば行事には参加します。中高は彼女が制服のデザインで選んだ私立のカトリック校に入学しました。娘には多くの文化に触れ、自分の頭でしっかりとものを考える人になって欲しいです。彼女は多少信仰心を持っているようですが、勉強と友達付き合いを優先しています。「人に勧めるな」という意見をSNSで見ますが、宗教には「布教」という概念があります。正しい宗教は世界平和や、他の幸せを本気で考えています。その為に護摩を焚いたり、灯笼を流したりします。もちろん、信仰の有無に関係なく、自分の仕事を精一杯やるとか、周りの人を喜ばすとか、そういうことの積み重ねで世界は良くなると思います。でも私はそれを仏教の中で、信仰としてやっていきたいと考えています。カルト教団は途中までは伝統宗教と似たような事を言います。例えば「お布施」は修行の一つであり、自分の大切なものを仏様に受け取っていただき、執着の気持ちを取るという意味もあります。しかし、正しい宗教では「感謝の気持ちで出せる分だけを仏様に受け取っていただく。金額ではない。」と言われます。人々の尊い信仰心を利用し、不幸にしているカルトは本当に罪深いです。被害者の救済は必要だと思います。ぜひ、専門家の方に行って欲しいです

●本来信仰は救いです。ネガティブな感情から心を自由にしてくれる素晴らしいものです。信仰をしている人が他より優れているとは少しも思いません。ただ、「信仰を持つ自分は、他のために生きよう」と考え、日々感謝しながら精進しています。

●チキさんならば…とアンケートに参加しました。教会の件では思う所が多々あり、つい、まとまらない話を書き連ねてしまいました。長々と申し訳ありません。広く意見を聞いてくださったこと、感謝します。ありがとうございました。

●虐待され、家族が死んで私も辛かったけど今はいい経験だったと思います。乗り越えられます。

●私自身は宗教に属していて不快な経験をしたことはほとんどありません。(周囲に同じ宗教に属している人が居なかったり、宗教問題などを学校で学ぶと宗教＝あまり良いものではない、という認識を示され肩身が狭いと感じたことはあります。)しかし宗教によって苦

しむ人が居る事実を知り、そのような人達が自由に生きる選択肢を選べるようになればいいなと感じています。

●私の場合、両親や兄、そして親戚が頭の硬い人が多く宗教による洗脳などの問題よりも家庭の問題のほうが大きかったのかもしれない。その上貧しかったのに献金や会費は安かったとは言え無理して払い続けていたのが良くなかったのですね。そういう点では両親は真面目だったのだらうなとは思いますが。ちなみに親戚には記憶している限り信者はいませんでした。それぞれ別の信仰をしているか、日本的な無宗教だったように思います。

●もし必要とあればインタビュー等も対応します。同じような苦しみを味わう子供たちがいなくなることを望みます。

●今現在本当に苦しんでいる子供は声を上げられません。声を上げる自由も力も情報もありません。親権によって困り込まれ、逃げる術もなく絶望しています。その子供たちをどうしたら助けられるか、私は小学校の頃から考えてきましたが今も分かりません。子供なりに考えたのは「両親を殺す」ことでしたが実行できませんでした。正直に言って今でもときどき「殺せばよかったな」と思います。

●わたしは生まれた時から教団に入っていました。活動内容について納得できたことが一度もないため、大人になったら離れる決意をしていました。でも脱会すると両親が悲しむので親孝行だと思って名前だけはこしてあります。選挙期間は問答無用で支持政党に投票するよう強要されています。貧困や性に対するおかしな指導は受けたことはありませんが、入信の自由が欲しかったです。

●宗教自体は、心の拠り所としては必要だと思います。先祖への感謝や悪事に対する恐れで自律心や自制心が育つと思います。ただ、行き過ぎた過信と現状生活の困窮を招かないようにするための、宗教との距離感も大事だと思っています。

●日本でも歴史があるプロテスタント教会に通っていますが、教会といっても人の集まりなので、完璧ではありません。でも、「弱さ」「欠け」を持った人でも生きていてもいい、祝福されている、集まってもいい、というのが私が通い続ける教会です。現実問題、活動にはお金がかかりますが、献金の強要はありません。まして身の破滅をしてまでお金を集めることは絶対にありません。それは宗教の皮を被った反社会的組織です。どんな宗教も、人の弱さにつけこむのではなく、



祝福する、救うものであるべきだと思っています。

●私は宗教2世（実際には3世）としては自由に幸せに大事に育てられたほうです。しかしながら、生まれたときから信仰が決まっており、信仰することが当然のなかで育つのは息苦しいものでした。そんな中で心に光がさしたのは、小学校6年生か中学生になってから日本国憲法を授業で学び信教の自由を初めて知ったときでした。信仰しないことは悪じゃない、個人の自由なのだ、私は信仰しないことを社会から許されるんだと思えたからです。それでも、信仰できないことに対する両親への罪悪感は成人して長らくたった今でもあります。2世、3世の方たちが少しでも心穏やかに過ごせるよう、「信仰しなくてもいいんだよ」「自由でいいんだよ」というメッセージが受け取れる世の中になればいいなと思い、アンケートに回答させてもらいました。

●脱会したいが方法が分からない。インターネット上で検索しても、有効なものが見つからない。

●自分は二世といっても過度な干渉を親から受けたりしたことはないですし、現在は教会側の書類上は信者ということになっていますが、信仰心は子供の頃からかけらも持ったことはありません。ただ中学生のころは自分の家が宗教をやっているということで周りの目を気にしていました。そういう人は多いと思います。このアンケート解答が何かの役に立ちますように。

●脱会したいと言ったら実父に損はないから入っておけと言われ、結婚してから居場所も苗字もバれてないので、結局そのままズルズルと今に至る、実家に被害が及んでいなければそれで良いが。夫にも入信していることは話していない。

●私が所属していたのは社団法人であり、宗教かどうかは意見が分かれると思います。私はこの団体はカルト宗教に近いと思っていますが、調査の主旨に反するようでしたら回答を除外してください。母親が無私の心で会の教えを実践し、毎朝の集会やその他の集まりに参加し、各戸を回って団体が発行する月刊誌を配ること＝布教活動を行っていれば、子供は自然とその母の姿に感化され立派に育っていく、というものです。この会は主婦が多いのですが、このように子供を置いて会の活動に参加することを推奨しています。子供は母親が活動しているあいだは放置です。それが「親の愛」なのだそうです。また、伝統的な家族の形を重んじ、家父長制度を強く推奨しています。大きな集まりには保守系の政治家が出席しているので「xx先生も認めた素晴らしい会」として信者の結束に利用していま

す。（野党の政治家や地元の市議なども参加しています）選挙の時には「会に集ってくださるxx先生に投票しましょう」という指示（？）がくるので、私は自民党の集票団体なんだと思っていました。（選挙ボランティアを出しているかまでは知りません）。結果的に家族が崩壊しても罪悪感は削がれますのでさもありなんという感じです。家庭が上手くいかないのは自分の精進（＝信仰）が足りないからと一層家族を放置して宗教にのめり込むだけです。何事にも「夫」と「長男」が優先され、私は長男である弟をサポートする「良い姉」であることを強いられました。弟が一番で私は常に一歩下がって弟に仕えなければなりません。今でも男尊女卑の考え方が抜けず、自己評価が非常に低いです。誰かに仕えることに喜びを感じてしまう自分が嫌ですが、この年になっても自分を変えることに難しさを感じます。また、弟も歪んだ愛情に過度な期待と責任を負わされ苦しんでいたようで、自分を上手くコントロールできず罪を犯してしまいました。靈感商法や常軌を逸した献金まではありませんが、教義や政治家との距離の取り方など旧統一教会との類似点を強く感じ、報道等を目にするたび自分の家族や人生はなんだっただろうと苦しくなります。二世信者と呼ばれる方の苦しみに比べるべくもありませんが、一日も早くなんらかの救済が行われることを願っています。尚、私の所属していた会についてですが、今般会長が代替わりして随分マシになったとは聞きます。信者も高齢女性が多いですし、新規信者も増えることはないと思うので廃れていくのではないのでしょうか。以上、長々と失礼いたしました。もし何らかの参考になればうれしいです。

●自分は今の宗教からは離れるつもりでいるが、ここで学んだ事、ここで出会った人々には感謝しているし結局のところ死ぬまで聖書を通して教えられてきた価値観からは離れる事は出来ないしそのつもりもあまりない。問題のない宗教などないが自分が所属している宗教に関しては根拠がなかったり確実に嘘と分かる情報が出回っていたりする。そういった情報や報道は無くならないとは思いますが正しい事も発信して欲しいと思う。

●度を越したカルトに関しては厳しく管理する必要はあると思う。それ以外は、同じ教団でも地域差や役職者の影響が大きい部分も多い。宗教や信仰自体への知識は日本人は浅すぎるのでいいとか悪いとか簡単に決めるべきものではないし、それは浅はか。

●宗教と政治が癒着することは国全体の利益に反する

結果を招くので、大変大きな問題だと感じています。しかし権力を持った新興宗教団体関係者を排除するのは宗教差別という別の人権問題へと繋がるため、非常に複雑な難しい問題であるため、容易には解決できないでしょう。

●宗教は生活に根付くものであるため、信仰の自由は保証されるべきではあるが、信仰をやめる自由や必要な救済を社会的に整備出来たら良いと思います。

●子どもの権利は大人社会がまもらねば。親に守られず虐待すらされている子どもをみんなで助ける社会にせねば！チキさん応援しています。

●教団への憎しみはあるものの、人生の多くを信仰に費やしてきた母から信仰をとりあげたら、自殺をしかねないとおもう。信仰者の近辺者が不幸になることは対策をしたいが、信仰者本人から信仰をとりあげて絶望させるのも望まない。すべての信仰者が狂信者のようにイメージされるような報道などされるのは心苦しい。信仰以外で救われる人が一人でも多いことを望むものの…。

●宗教が、普遍的価値を求めてカルトに陥るという不幸は、どこでも起こりやすい、ということに注意深く、自覚的であることが必要と思います。世間も似たようなものですが、自分たちは正しいのだと思って、繊細さ注意深さが欠けると、宗教は、より残酷に作用すると思います。宗教組織の側を正しいとすると、そこについて行けない私は正しくない、と、自尊感情を自ら削り続けた若い頃が、しんどかったです。でも信仰があってよかった、という思いも本当なので、教団二世であるという人生のなりゆきは、肯定したいと思います。

●自分は現在も教団の信者で、仏壇に向かい手を合わせ亡くなった親や祖先友人への題目は上げています。しかし、教団の活動にはほぼ参加せず支持政党も支持していません。

教団はいつ辞めても良いと思っていますが、仏壇に手を合わせる事は続けたいと思うのでその時はお寺を訪ねることになると思います。教団はカルト教団とは違うかも知れませんが集団が何らかの社会的権威を獲得した時、方向性を間違えて守りに入るように思います。

●私が自身の「信教の自由」を気付くきっかけとなったのは小学生の時習った憲法です。当時、教師は様々な事を教えてくれました。公教育に救われた部分もあるので、今の現状には危機感があります。子どもたちが家族だけの狭い世界に縛られることなく、社会とつながっていけるような仕組みに期待したいです。

●自分の人生は自分で決める。自立する。それを教えてくれたのが信仰でした。宗教はその人の人生に寄り添うものであり、何よりも辛い時、苦しい時に1人ではない、大きな味方がいるよと教えてくれるものだと感じています。宗教を捻じ曲げて、人を否定と恐れでコントロールし、間違った方向に連れて行ってしまうカルトは宗教ではないと思いますし、法で規制すべきだと思います。

●仏教の中でも檀家ではなく寺の家系というのは、日本においていわゆる「ちゃんとした宗教」の中では束縛が強い方ではないかと思っています。特に祖父の寺は山中の小さな集落にありましたので、「お寺さんとこの〇〇(嫁、長男、孫、等々)」という田舎特有の残酷な程の監視的な視線、噂話、嫌味が、責任と混ざり合っていました。父は寺を継がなかった長男として自責の念を抱き、寺の手伝いを欠かしませんでした。それを妻や子にも求めて、盆、暮れ、正月、彼岸の大きな行事とは別に、日々の祖父の仕事スケジュールに私達も振り回されました。祖父の事は尊敬していましたので「苦痛で仕方がない」と思いきれない分、部活に行きたい、友人と遊びたい、さらに「面倒だと感じる事」さえ後ろめたさがありました。上京してしばらくも盆と正月は奈良に帰省して寺の手伝いをし、立地が山中のため同窓生が大阪で集まるといった場に出かけて行くのは心身に体力がないと叶いません。子どもの頃の「部活に行きたい」などもそうでしたが、他の人と同じ事をするためにはエネルギーが要るのです。距離だけでなく心で父を手放す事によって寺へ帰省する事はほとんどなくなりましたが、家族や親戚達は変わらない生活を続けているので「サボっている」後ろめたさが今でもあります。現在の宗教二世の話題に触れるたびに、うちは新興宗教やカルトではないから、同列にしんどさを語ってはいけないと感じていたため、このような調査の対象になって「私のつらさは存在するんだ」と自分を肯定する機会になりました。ありがとうございます。"

私は宗教3世ですが、発達障害もあり、機能不全家庭の中で育ったためか、強い宗教観を持つことを期待されていなかったのが逆に功を奏して、自分の信仰は自分で考えるようになっていきました。逆に仲の良いご家族や絆を重んじるご家庭だと、2世3世はいろいろ苦しむことになるかと想像します。成人して仕事やパートナーと出会いながら自分の道を選ぶように、信仰も自由に改宗できる空気というのも元からあると感じていますが、今回、明らかになったさまざまなことは大

変ショックでした。またこのアンケートに答えることで、ほとんど被害らしい被害を自分は受けていないことがよく分かりました。重い被害を受けている方たちが、一刻も早く救済されることを心からお祈り申し上げます。このような機会を与えてくださり、誠にありがとうございました。

●行政には基本的に従い違法行為はしないという「教団」の2世でした。品行方正には育ちましたが、大人になってから親がうるさく言わなくなったのでフェードアウトしました。離れて結構経つのに未だに収入を得る事が下手で、人が多いところは嫌いです。

●私は教団の家庭で育ちました。現在は脱会しているかどうかはわかりませんが、教団とは距離を置き、家族には信仰しないと伝えています。自立してから距離を置けるようになりましたが、子供の頃からそういう判断ができればよかったです。いま現在も望まない信仰を強要されている子がいると思うと同情してしまいます。子供であっても信仰を選択できる、信仰を強要するのは違反である、など宗教に関わるルールが決まればよいと思います。

●この話題が風化せずに多くの悩んでる2世がいるという状況は見過ごせない問題であると認識してもらえたらと思います。

●親の宗教を子供が受け継ぐことが「当たり前」ではないということがもっと知られてほしいです。

●宗教2世の本当の声を、ぜひ届けてください。

●脱会していないと回答しました。最初は母親の家族信者として入団し、大学入学後、自分で会費を納める純正信者となりました。その後、疑問を感じ、現在は母親の家族信者を継続しています。(母親が家族信者費を払い続けている。)退会はあなたの人生だから自由にしていっていいといわれていますし、最近は教祖からの情報もチェックはしていません。しかし教祖から学ぶことも多かったため、家族信者をなんとなく継続したままの状況です。

●宗教2世の声というと一般的に脱会者の声ばかりが大きく取り上げられているように感じます。普通にそのまま活動している方はどの教団でも一定数いらっしゃると思いますので、そういう方の声も均等に拾い上げて欲しいと願います。私はいわゆる宗教2世と言われる立場であり子供たちは宗教3世に当たりますが、別にその事を嫌だと思った事はありませんし、何かを強要された事ありません。納得の上で信心している人間も私以外にもいるのではないのでしょうか。

●親が信仰するのは自由。拠り所になるなら黙認し

ているが、今でも頻繁に手紙や招待状が届き迷惑。何を言ってもやめてくれない。人としては良い人が多いので糾弾もしにくい。宗教の話抜きで話してみたかったと思う。

●宗教と今までの自分について客観的に振り返ることができてよかったです。宗教二世問題はなかなか周りから理解されにくく難しい問題だとは思いますが、自分と同じように悩む方が少しでも減ることを心から願っています。何かお力添えできればと思い参加させて頂きました。今回はありがとうございました。

●色々考えるきっかけになりました僕と同じ教団でも、所属した年代、地域の違いによっては外部の支援の手が必要と感じる人もいるかもしれません。宗教二世で括するには体験があまりにも違いすぎる気がしていて、宗教二世のグラデーションの解像度を上げる必要を感じます。宗教にかぎらず、人の弱さに付け込む人間がいる以上、身体の安全の確保、心の安全の確保、金銭の安全!の確保が必要な人を見つけ出す方法もいりませんが、具体的に思い浮かびませんでした。人間は環境におもいきり振り回されるので、信仰の自由がいくら憲法で保障されていても信仰の自由があるとは思えません。自分がしゃべった言葉、とった行動が何の影響を受けたものなのか?それを考えたうえで、じゃあ自分はどう生きたいのか?生きたい生き方をするのに支払うコストは?とか。まだちょっと言葉にできるほどまとまっていませんでした。宗教二世の抱える問題というより「人の弱さ」に焦点をあてて、弱いなりにどう工夫できるか考えているんですが、簡単には解決できない問題だからこそ多様なコミュニケーションの場をデザインするというか、人によってタイミングによって、独りの時間が必要な人もいて、がっつり一対一でカウンセリングが必要な時があれば、ハンバーグこねながらとか、ドーナツの穴あけながら複数人で対話するような、法整備には組み込みづらいけど、重要な事もあったりするんじゃないかと思いました。ありがとうございました。

●親に喜んでほしいだけの気持ちで頑張っていました。就職、結婚を機に脱会しようとしたのですが、どうしてもできません。精神的に追い詰められ、毎日自殺を考えるようになり、父母の前に奇声をあげてガタガタ震え出したら、「お父さんもお母さんもお前を追い詰めたくてやっているわけではない」「お前に幸せになってほしくてやっている」「今まで生きてきてすごくつらかったときも宗教があったからどうにかできた、だからお前にも宗教を続けてほしい」「でも今のお前はそう

ではないようだ」「脱会させてあげる」とは私に話しましたが、脱会させてくれませんでした。私のような人はいると思います。子供にとって親は世界です。自分の世界の神様であり、すべて。そんな人から宗教を理由に自身の居場所、存在をことあるごとに左右させられていたら、盲目にならざるを得ません。子供の頃に入信させるのは間違っています。

●ぎりぎりになりましたがお役に立てたら幸いです！活動ありがとうございます、今後も何かあれば参加していきたいと思います。

●前の回答にも書きましたが、私は元々それほど熱心な信者ではなかった分、宗教から離脱した後の社会復帰などもそれほど支障がありませんでした。私の妹二人は信者と結婚し、夫は収入の少ない仕事にしか就けず、生活も苦しいようです。下の妹夫婦は脱会したのですが生活の苦しさは変わっていません。私もどうしたらいいかわからない状態です。荻上さんの番組が宗教二世について取り上げてくださって本当に感謝しています。これからもよろしくお願いします。

●カルトでない宗教の信者もいるのだということ、教会の対応に疑問を持ちつつも、批判することも信仰を保つこともできるのだということが理解されると良いなと思い、場違いかとは思いますが回答しました。社会的に問題のある団体、人の尊厳を踏み躪る団体や教えには厳重に対処すべきだとは思いますが、「宗教」に対する一面的な見方も見直すべきだと思います。

●私自身の人生と信仰は不可分のものであり、教団の信仰をしている家庭に生まれ、己も信仰をしてきて良かったと思っている。しかし、教義の矛盾、信者同士の振る舞いや言説への違和感は拭いきれないものがあり、先細りしゆく教団の来し方行く末を思うと、非常に大きな不安を禁じえない。組織のために人や祈りが存在しているのではない。この当たり前のことが当たり前に認識される団体であって欲しい。この度の出来事や潮流が、個人と組織、政治と宗教など、個人と社会をめぐる信仰のあり方についての、冷静な議論を生み出す契機になってほしいと感じている。

●子どもの頃に親に言われるがまま入信した2世です。わたしに信仰心がないことは両親に話し理解してもらっていますが、親を深く傷つけることになるので現在も脱会できていません（御霊＝おみたま という、神様の魂入ったペンダントのようなものをもらうのですが、それを返すことで脱会できます）。親が亡くなった後に脱会するつもりです。親は熱心な信者ですが、わたしにはほとんど信仰を強要せず育ててくれました。

（親は周りの信者から、子どもが冬眠＝入信したのに活動しない ことについていろいろ言われているようです。母には、信仰しないことが悪いことかのように何度も言われましたが、自分はキリスト教信者であると何度も伝え（実際はそうではありませんが）納得してもらえました）私自身、教団のことは周りの誰にも一切話さずに過ごしています。ただ、私と同じく子どものころに入信した兄が、両親の信仰をきっかけに2年ほど間、親と絶縁しました。わたしは当時兄に「教団について、どれだけ酷いか宗教家の本を読むべきだ。両親とずっと一緒にいるとわからない。俺は生まれたばかりの自分の子どもたちに親を近づけたくない」というようなことを言われました。絶縁したので両親は兄のもとに生まれた子どもにはまったく会っていません。ただわたしは兄と連絡は取れるので母に「どうか兄と孫に会えるように取り繕ってほしい」と言われ、現在、両者の中間点を探って絶縁状態を解消できるよう、きっかけや手法を探すために教団について調べている最中です。そこで意図せぬところで自分が教団の教えにより、子どもを持つことが怖かったり、自己肯定感が著しく低かったりしていることに気づき、教団の影響をモロに受けていることを知りとてもショックを受けました。子どもの頃から知らぬ間に教団の影響を受ける2世は、気づきと強い意思がないとなかなか軌道修正が難しいと思っています。ですが、親が信仰を捨てることなく、絶縁した兄とまた会うことができるように対応したいと思っています。とりとめのない話を長く記載してしまいましたが、チキさんにはぜひ、絶縁した2世と親が復縁に至ったケースがあるか？またそれは、何をした結果復縁できたか？親から歩み寄った場合、信仰を捨てる以外に手立てはあるのか？大変難しいとは思いますが、もしそのようなケースがあれば参考にさせていただきたく、ご紹介いただくと助かります。これからもセッションをはじめ、チキさんの活動を応援しています&興味深く拝聴、拝読させていただきます。

●宗教に限らない部分の権威的だったり、依存的だったりする親子問題が絡むケースも多いと感じる。純粹に信仰している同い年の人には、宗教的背景があつての心の清らかさやバイタリティを感じることも多い。

●問題なく社会と折り合えている宗教もあるのだと知ってほしくてアンケートに答えました。新宗教全般への不信や弾圧にならないような、はっきりとした「やってはいけないことリスト」が必要だと思います。

●無宗教と無神論の違いを区別できていない人がいて、

広く知られてほしい。西洋人は信仰があるという過去の言説がいまだに根付いているが、西洋人も無宗教や日本の仏教徒みたいなキリスト教信者は多いことは知られて欲しい。シューキョー怖いという人は多いが、先祖供養や葬式、お祓いも宗教です。シューキョーという偏見は嫌だ。また、カルトに限らず伝統宗教でも親による押し付けなど問題はあります。

●自分に信仰心はないが、親と退会について話をすることを避けてきた。退会すると言い出すと家族以外の人が出てきて困り込まれそうで面倒臭いのでそのままにしている。一度話すべきだが二の足を踏んでいる。私自身はおそらく他の宗教2世の方より恵まれていると思う。家や宗教から逃れるために計画的に大学進学と同時に家を出て、今は収入も一人の生活を立てるには十分にある。ただ、掛けられてる呪いは結構強力で、何か大病でもすれば戻る可能性もあるかもしれない。信仰心はなくても、倫理観や私を形作ったものとして宗教は欠かせなくて、宗教の全部が悪いとは思わないし、影響もある。学問としてなら他の宗教含めて興味はある。ただ、自分のメンタル的な部分は宗教だけが問題かは謎だが悪影響もあったと思う。私の家族は宗教のせいで良くも悪くも長続きしたと思っている。私の家族は機能不全で、家にいる間は宗教絡みの話しか会話が成り立たない雰囲気すらあり、不健全だと思っていた。宗教2世に関するフィクションを10代のうちに読みたかった。星の子は本当にそう思ったし、あの頃の私をちょっと救ってくれた。遠藤周作は大学の頃にお弁当屋のおばちゃんがたまたま勧めてくれて良かった。宗教2世の物語ではなかったが、フィクションで救われる子もいるかもしれないので、他にあればお聞きしたい。"

●今まで2世であることは誰にも話さずに生きてきたので少し気持ちを吐露できて良かったです。

●偏って古臭い、民主主義に反する時代遅れの思想の団体に所属する議員がいる限り、その影響力があるうちは、この問題はほとんど改善されないだろうと絶望しかない。宗教と関わりが深い与党、ゆ党、野党は解散してほしい。関わった議員は二度と政治に関与できない様にしてほしい。戦前の大日本帝国の様な家父長制、男尊女卑、基本的人権や表現の自由の制限、徴兵制の復活もありえる内容なので、マスコミはこの事も絶対に取り上げるべきだと思う。鬱病や発達障害、宗教や親のせいで傷ついた心の悪い奴らにつけ込まれ、お金を騙し取られたりモラハラ受けたりしなかったかもしれない。安全な場所で心身共に健康で、経済的に

も豊かで安心して生きれた人生があったかもしれない…そう思うと悔しくて、親と宗教と詐欺が憎くて、恨めしくてたまらない。感謝料を10億円以上もらったって癒されない心の傷の部分もあると思う。今、徹底的に膿を出してほしい。今やらないと、私たちは理不尽な迷惑を被ったまま、長年の苦しみが癒やされないまま、報われないまま死ぬ事になる。そんなのは嫌。

●昨今、宗教二世問題がメディアに登場することが増えてありがたい気持ちもありますが、一過性の色物扱いで終わらないよう真剣な議論が続いてほしいです。あと大変な思いをしたとは言え、多くの元二世信者にとって教団やそこで出会った信者はバックボーンであり、故郷のようなものでもあるので、言葉を選ばない過激な批判は辛く感じることもあります。批判は必要ですが、配慮は忘れず言葉も選んでいただきたい。

●脱会の質問があり、正式に脱会になっているか不明のため「脱会していない」と回答しましたが、実質的には23歳で実家を出た際に、ご本尊様はいただきなくていいと親に告げました。引っ越し先に地域の女子部の信者が何度も訪ねてきたため（母親が連絡したものだと思います）、ずっと居留守を使いました。1年ほどで訪問は止まりました。私自身は実質的には脱会していますが、父の葬儀や親戚の法事などでは、教団式に参列者も皆、読経するため、私も読経はします。読経自体には特に嫌悪感等はありません。信仰に基づく虐待の質問がありました。虐待は受けましたが、特に信仰に基づくものではなかったため、虐待は受けていないと回答しました。実際は虐待を受けたのに該当する回答の選択肢がなく、虐待を受けていないと回答するのは心理的負荷がありました。宗教2世としては、私はそれほど大きな被害は受けていませんが、母親が友人の親に選挙で支持政党候補に投票するよう啓蒙したことで失った交友関係もあったかと思います。また、寺社仏閣の参拝を禁じられていたため、修学旅行などは苦労しました。今思えば、真面目に守っていたのがバカみたいです。

●チキラボの活動やメディアを介して伝わる荻上さんのお人柄を通して、今回のアンケートに参加しました。「答えたくない」選択肢も非常に良かったですし、質問傾向も普段話したいけど気軽に話せない事を伝えられる良い機会を与えていただいたと感じています。私のように割と早い時期から違和感を覚え、疑問に思い、親に抵抗できる性格の方ばかりではないと思います。宗教はあくまで個人の自由選択ですが、そんな

考えさえ知らずに削られる 2 世 3 世は大きな課題だと思っています。このようなアンケートの機会を設けてくださりありがとうございます。

●1世が2世に祝福を受けさせてしまったのに、祝福を受けたことに対するすべての責任は2世に100%責任をとらせる、こういったことを出来ないように規制していただきたい

●すいません、自身の体験を少し共有させてください。幼少期に通わされていた、プロテスタント系の教会は牧師が怒鳴るように説法するので怖かったです。世紀末論でよく煽られました。教会企画の子供サマーキャンプなどのイベントでも、大人達に祈る事を強制されて違和感を持ちました(皆生まれながらの罪人、早くイエスキリストの十字架を受け取りなさいって言われまくって、ピンとこない祈りの言葉を暗唱して場をやり過ごしました)この世の終わりが近いと脅され、地獄の描写を聞かされ、今思うとトラウマです。子供心に、母は私がクリスチャンじゃないと、愛してくれない、とも思っていました。また、父の多額の負債が発覚した時出費の中に相当額の献金があったり、両親がクリスチャンに貸したお金は数百万単位で踏み倒された事もありました。宗教を利用する人も多いです。日本では宗教=怪しい、と言うイメージもあるので、このモヤモヤを相談できる相手はいませんでした。(親に相談する>祈れ、です。思考停止状態) 信教の自由、は幼少期から守られるべきです。また、宗教自体は社会にあるもの、文化の一部なので、色々な宗教を早期に解説する授業もあっていいと思います。(カルト宗教の見分け等も含め)早めに取り入れて、多様性への理解を深めてあげられる社会になってほしいです。そして宗教自体は悪くないけど、教義を利用する羊の皮を被ったエセ宗教人は早くこの世からいなくなしてほしいです。

●信心により何か良いことがあって、信じ込んで洗脳された人はなかなか解放できないと思う。

●私は親の宗教に関しては気持ち悪いか呆れる程度で、ひどい目にはあっていませんが、こういう企画をしてくれたことがうれしくてアンケートに記入しました。なにかを強要する理由として「家族なんだから」とよく言われましたが、私はそういう思考ではありません。

●「宗教2世」の実態把握と支援ニーズ調査と題しながらも、所属している教団から離れる事を前提としたアンケートの様に思えて、アンケートの中立性が疑わしいと感じた。むしろ信仰を理由に「宗教2世」を社会の側が疎外する事で、「宗教2世」が苦しめられてい

る(信仰が買けない)ケースも多く、それを支援するニーズ調査も視野に入れないと問題解決に至らないと思う。

●二世問題に関する網羅的な研究(特に量的なもの)は少ないと思われますので、今回の調査が現状把握の一助になればと思います。

●物心つく前から宗教について教えこむのは悪影響しかないと思う。フランスのように一定の年齢になるまでは活動を法で制限すべき。

●アンケート全般にいえることですが、「組織活動にはコミットしていないけれど信者であることはやめていない程度の二世」の教団と社会双方への違和感のニュアンスを汲み取るような設問にはなっていないかと思っています。

●妹の結婚を機に親が脱退し、私もその流れで脱退となりました。誠成公倫会は、多額の献金や差別思想などの、カルト性は少なかったと思います。

●私は生まれてすぐに教団に入会させられました。当時はまだ教団でいうところの宗門の信者団体で、寺にも行った事があります。その後、教団は破門されますが、その頃から教団トップを神格化したような指導が増え、信者以外は愚かで救うべき存在で批判疑問を持つ者は信心が足りない、脱会者は地獄へ落ちるなどの煽り決め付け洗脳が加速した気がします。信者の親は教団のいう事は全て正しいと信じていて、尚且つ知識も教養もない人物ですので信心さえしていれば全て上手く行くし幸せになると盲信していました。結果無年金、貯蓄ゼロであれほど虐待した子供にたかる人生です。私たち二世三世の失われた時間はあまりに長く深刻で取り返しがつきません。教団は一家和楽を掲げていますが、崩壊している家族はうちだけではありません。それすらも、現役信者は祈りが足りない等として絶対に非を認めません。

●親が活動熱心でなかったら、子供時代の思い出は随分違うものだったと思う。取り戻せない子供時代が本当に残念。親の視野が狭く、思考能力や判断力が乏しいのは宗教に浸かりすぎた為だと感じる。金銭的な破綻が生じたのは信仰心が厚かったからなのか、今でも疑念が続き、親とは疎遠になってしまった。

●自分は宗教2世ではありますが、あまりネガティブな経験がないためこのアンケートに参加するのが良いのかどうか正直迷いました。ただ、おそらくチキさんはじめ皆様が解析したいことは、自分のような者も含めた公明正大な客観的な調査なのだろうと思い参加しました。母は離婚後、20代から看護師として私と弟を

ずっと一人で育ててくれたのですが、わが家にとって宗教活動が母の心の支えになっていたと感じています。確かに活動のおかげであり家族で外に遊びに行った記憶がなかったり、贅沢をしたこともありませんが、私自身は母子家庭なので当たり前くらいにしか思っています。今も母は真面目な信者ではありますが、私を大学院まで行かせてくれたり、独立後に母は自分で住む家まで購入していたので自ら動く奉仕活動には積極的でも、お布施については意外とカッチリしているタイプなのかもしれません。あえてネガティブな事を探すなら、離婚後も別に結婚願望が無かったわけではない母が、60 を過ぎた今まで結局未婚のままだったのは信仰があったり、その真面目すぎる性格が影響したのでは？と今は少し思っています。そんな私自身が昨今の社会状況から心配しているのは、そんな母が私の知らないところで肩身の狭い思いや悩んでいたりしないだろうか、という事です。

●信仰はまったく自由で構わないと思っていて、実際に専業主婦だった母親も信仰によって、孤独から救われていた点があった。しかしながら、孤独になったときの救い手として、宗教しかないという環境は、どうにかしないといけないと思う。あと、何か上手くいったことがあっても「祈りまたはお祓い」のおかげにされるのが嫌だった。手柄は全部神様にもっていかれるんだな、と思いつつ、お母さんが喜ぶから、子どもながらに神様を信じている発言をしていた。お母さんを神様にとられた気分だった。父親は何も言わずに放置していて、とくにあつく信仰していることもなかった。どういう気持ちだったのか気になる。母親はいまは別の宗教を信仰している。

●遺産相続の放棄をする際、最終的には家庭裁判所から電話で連絡があり、「相続放棄の理由は何ですか」と聞かれた。そのとき、どうしても宗教の問題が理由だと言うことができず、口ごもっていると、家裁の担当者が「もうかかわりたくないということですね」とクローズドに問いかけたので、「はい、そうです」と言うしかなかった。宗教関連のこうした問題は、なかなか人に話しにくい相談する場もないように思える。結局私は今も、死んだ父親を「送る」ことができていない。

●このよう機会を設けていただきありがとうございます。

●宗教2世には人権がないと感じます。その事への法整備、サポートをお願いしたいと思います。過去の献金を返してもらいたいとおもいます。教団は壺を売り

ませんが、献金すると福運がつくと言われ献金させる同調圧力があります。その他様々な物を買わされます。私は二十代で親が勝手に申し込んだ教団の墓苑を買わされました。人生で初めてのローンが自分のお墓でした。あと、無償の労働があります。これも活動すれば福運がつくと言われ、やめました。役職がつくと逃れるのは難しいです。最近選挙の活動が法戦と位置付けられています。支持政党に投票するよう強制されます。やめたくてもやめられない人達が大勢いるので、この事を世の中に広くお知らせしたいと思います。このような機会をもうけていただき感謝申し上げます。

●親が死んだら脱会予定

●団体問わず、宗教活動家の多くは、真面目だったり、優しかったりと思う。一部の極端な団体、人が取り上げられ、宗教活動に対するネガティブな部分を強調され、真面目な方々が心苦しい思いをされるのは悲しい。自分自身は現在宗教活動から距離を置いているのですが、以前活動している時には、社会的にはマイノリティだと感じ、少々生きづらさを感じていました。信者、3世のレッテルを外せたらいいのにと今も考えてしまっていますが、逆にレッテルに対して社会がもう少し寛容であってもらいたいとも思います。そんなに嫌な思いをしたことはないのですが、自分自身の意識しすぎなのかもしれません。何であれさらに多様性、寛容性のある社会であってもらいたいと願っていますし、自分自身もそうありたいと心掛けています。多様な人々の繋がりが強くなることで、宗教に限らず極端な思想、活動等の歯止めになるのではと考えています。

●宗教2世には「入信させられた(本人の意思有り/無し)」「親は宗教に入信しているが入信せず、生育歴に影響を受けた(本人が入信を拒んだことによって暴力を受けた/受けなかった)」という属性の違いもあると考えている。性暴力とも強烈にリンクしている問題で、どんな支援、どんな回復が本人にとって必要で有益かは人それぞれだとも思う。社会の過激な暴力的精神論が消え失せることが第一に必要で、人権についてきちんとした理解が促進されないことにはこれらの問題は永遠に改善しないとも思う。上っ面ではなく、根治に向けて必要なのは人権意識の向上ではないだろうか、と思う。家族という言葉自体にある種の暴力性、凶悪性、宗教性が介在しやすいことも考慮すると、考えないといけないことはとてつもなく多いように思う。厳しい家族状況にある子ほど、他人の家族を美化しがちだし、己の環境への劣弱意識も、受けるストレスも大

きくなり、精神を磨耗しやすい。成人する頃には擦り切れた老人のような気分だった。そのまま死ぬなら本望だと思うくらいだった。家族神話が何よりの害悪で宗教を含めた虐待がいつまで経っても残存し、再生産され続けているようにも思う。トラウマが大きく、フラッシュバックを起こしやすい人ほど声は出せない、どう表現したらいいか、どうしたら伝わる言葉かわからないことも多いように思う。宗教との関わり度合いにもスペクトラムがあり、大区分のパターンであってさえ、他にもあるかもしれないと思う。このアンケートの結果でそれが示されたなら、必要な支援は人それぞれ…がはっきり示されることになっていいな、と思う。

●新興宗教関連対策の法整備や、昭和前後創業の新興宗教を一網打尽にするには今しかないと思います。山上容疑者は信者ではないそうですが、新興宗教の被害者の一人です。

●私の団体は一般社団法人で、今回自分はお呼びでないのはわかっています。今回の宗教法改正の際に私を苦しめた団体がこのまま野放しなのかと思うと悔しいです。親が未熟なせいで子供が潰されてしまうのを防ぐには、日本にも義務教育留年制度とギフト支援学校ができればいいなと思っています。

●宗教2世当事者でなくとも私達の問題を気にかけて支援しようとするような活動をして下さる方々がいる、つまり私達には味方がいる、そのことにどんなに癒され救われているか、とても言い表せません。ありがとうございます。

●自分の体験を文字にしてみても冷静に振り返ることができました。このような機会があって良かったです。今回の事件がきっかけで「宗教はぜんぶ危ない」というムードができるのが嫌です。誰もが自由に信仰を選べ、それによって搾取されたり疎外されたりすることのない社会を望みます。

●小学生中学生だった私は自分の身の上で起きている事を理解できなかった。家族に対する不信と恐怖は母の信仰と深く結びついている。

●荻上さんの言説は信用している為、このアンケートに協力しました。小さい時に夜の集まりで興味のない話を二時間くらい座って聞かされて、当然に睡魔が襲ってくると、トイレに連れて行かれて尻をベルトで何回も叩かれる体験は、40歳を超えた今でもたまにフラッシュバックします。入信していた母を許す気にもならず、過去には何もなかった顔をして接するのに、自分は心理的に許すことが出来ず、12年ほど実家に

は帰っていません。私の娘にも普通の顔をして接するのが許せなくて、コロナ禍もあり、その事情から初めて、3年前に生まれた娘を、両親には未だに会わせていません。おそらく、宗教二世の不合理で抑圧された経験のない方には理解が難しいかと思いますが、家庭という逃げられない環境で、不合理に抑圧され、小学校中学生で、やりたかったスポーツへの入部も制限され、自分の可能性にも挑戦できなかった過去と、不合理な尻をベルトで打たれるという体罰を、「親だから」という理由で、過去のこととして何も無い顔されても、許すことはできません。子を持つ立場になり、子の選択としても、経済的にも、子供の可能性の制限だけではないように、生きていこうと思っています。

●アンケートの内容、質問や回答をもっと細かくしたほうが悩んでいる人の助けになると思ったが、現代の宗教問題を社会に問うという意味で大変有意義な試みだと思う。人間の心情は複雑でデリケートなので、今回の試みは統一教会など反社会的な集団を政治や教育の場に浸透させないためにも大きな社会運動に繋がると思う。

●宗教2世に否定的な質問ばかりで、なぜこのアンケートをとったのかが理解しかねます。報道を見るだけで、現役2世にとってはとても辛い気持ちになるのです。

●宗教2世の信じる自由も、信じない自由も、どちらも保証してほしい。今は信じてない脱会2世が注目されていて、教会に通う2世の自由は無視されています。「脱会支援するよー」という大人たちは、教会に通う2世を見ていません。マインドコントロールされると偏見をもつのはやめてください。

●こういう話って誰も聞いてくれなかったのが嬉しいです。誰かが聞いてくれるという姿勢を見せてくれること自体が、自分が悩んできたことは個人的な迷いやくらだないこと、罰されるべきこと、嫉妬やおかしさの表れではなく、社会的に価値あることだ、と思えるからです。献金の上限規制は悩みます。例の事件はひどいと思いましたが、一方で、喜捨は自由なものであるとも思うからです。ある程度の金額を超える場合はトラブルがないかどうか等慎重に手続きするなどしてほしいと思います。信者（活動家、非活動家）～元信者の悩みやスタンスのグラデーションがあると思います。敵か味方かの二者択一世界観を迫られ張り裂けるような決断や家族からの絶縁などを経験される方があると思います。脱会しないと生きられないわけではないし、盲目的に活動しないと生きられないわけでは



ない。物語がまだまだ少ない気がします。どのような立場の人も自分の人生を大切に語るの共有の場を望みます。

●アンケートへは家族で信仰している教派について回答しました。そこでの強要はほぼありませんが、教会に行かないと親が残念がる、他の人に心配される、奉仕している人が評価されがち(あの人は敬虔だなど)なので行きたくない時も結局行くことになります。また別件で、中学～高校時代は日曜は家族と同じ教会に通い、学校は別の教会のチャーチスクールに通っていました。この教会の牧師が学校の実質トップで、金銭の不正、DV、不倫など様々な問題を起こし、逃亡し続けています。牧師に権力が集中し、カルト化していました。10年程経ちますが、まだ自分の中に影響があると思います。学校は幼稚園から高校、神学校まであり、学校だけではなく教会の信徒として深く関わっていた神学生や給料未払いでも信じて働いていた先生達がよりダメージを受けていると思います(そうでない人もいます)。また、牧師の娘は同級生でしたがもうどこにいるかもわかりません。入学時はそのようなことはなかったと思いますが、中3くらいからおかしい(強制的、意見を言う先生を辞めさせる、その教会の生徒には再臨があるから学校の勉強は大事ではないと言う)と感じ始め、高3のときに問題が噴出しました。牧師と同じ立場になれば、誰も同じようになり得るので、権力が集中しすぎていないか、おだてない、など今の教会でも個人的には気をつけています。

●■献金について：収入の何%かを月極で献金することが求められるらしいが、就職後や結婚後など、いつからそれが始まるのかはその前に脱会したので不明。アルバイト代から一定額の献金を求められることはなかった。しかし、ミサの最中に献金袋が回ってきて、子供でもお小遣いの中からいくらか献金することが求められる(十円などを献金した)。これが幼い頃から教団に献金させるための洗脳となっていると離脱後に感じた。■道徳的観念について：カトリックの信徒として育ったことで唯一の利点は、親が子育てするにあたり、道徳的な観念を宗教的教えを抛り所にしてきたことだった。親の性格的な資質に、癩癩持ち、短気、暴力的、頑固、依存的、思慮深さの欠如、曖昧な空気が読めない、識別能力の欠如、などの固有の問題がある場合、宗教的な教えによって、ある程度子供への悪影響が軽減されることもある。核家族化が進んだ今の日本には、人類が長年脈々と積み上げてきた共通の叡智という共有財産が受け継がれることなく、学校教育に

おいても、道徳的なものの考え方を養う機会が非常に少ないように見受けられる。人間的に未熟なものが親になると、子育ての基準が成人してからたった数年の個人的な狭い知識●経験が全てになってしまうことには問題を感じる。そういった脈々と受け継がれた叡智●知識●経験を補う機会、例えば哲学など、過去の叡智を知り、考える力を養う教育を深める必要性を感じる。

●私自身は教団が大嫌いですが、社会的にも有害な存在だと思っていますが、半生を教団への信仰に捧げてきた高齢の両親はそれなりに幸せそうに見えます。今さら脱会して人生をやり直して欲しいとは全く思いません。しかし自分に不信仰が両親の不幸につながるという不要な罪悪感を二世に与えて心理的に縛り付ける教団のやり方には本当に憤りを覚えます。幸せな現役信者と共に、静かに教団が減んでいくことを望みます。

●私は宗教二世ではありますが幸い教団の有害性が低く、親も別居後に色々強要してくることもなかったので(私の中では色々トラブルによる傷や遺恨が残ってはいますが)、普通の暮らしをできています。親も献金のしすぎで生活が破綻するようなことまではありませんでした。しかしニュースで統一教会のことを読むたびに、他人事とは思えず心を痛めています。子供時代は親がすべてのルールです。人権を奪うような交際制限や人の不幸につけ込んだ献金要求など、到底許せません。脱会希望者への支援拡充を願うとともに、カルト団体規制法が定められることを希望しています。

●私は真如苑に心酔する母を持ち、振り回された家庭におりました。幸い経済的な余裕があり、生活を侵害するものではありませんでした。父親の浮気など家庭に問題がある度、教えにのめり込む様に同情もしており、無理に辞めさせようとは思いませんでした。ただ家族を巻き込むなど…。結局諸々積み重なり、母とは関係を断ち今に至っています。家庭不和の原因が宗教とは思っていませんが、率直に余計な存在だと思っています。

●私は一般的な宗教二世ではないかもしれませんが、宗教によって家庭内がズタズタになり、障害などに対し非道な言葉を浴びせられ、自らの意思に反する活動を強要され、家族と縁を切る羽目になり、母が殺されました。反社会的なカルト宗教を野放しにしてはならないと感じているために回答しました。この度は質問調査をしてくださりありがとうございます。応援しています。

●アンケートありがとうございます。この問題を抱え

ている者がまずは少しでも楽に、安全に生活できることを望みます。ネットや実生活での誹謗中傷もやむことを望みます。

●日本では宗教2世というのら腫れ物です。ずっと何十年も見て見ぬふりされてきました。私たちの苦しみや耐えて生き抜いてきたこと全て、誰も知りません。今回山上さんが殺人を犯しましたが、私には責める気持ちは湧きません。彼が事件を起こさなかったら宗教2世が取り上げられることもなかったし、安倍氏が長年続けてたビデオメッセージなど誰も問題視しなかったでしょう。私たちはずっとずっと人権を奪われてきました。それが本当に納得いきません。今日本社会で特に不自由なく暮らしてる想像力のかけらもない人々にとっては、信者の家庭に生まれたのも自己責任なんでしょう。本当に悔しいし、行き場のない怒りをずっと抱えています。早く死んでしまいたい。

●私が所属している教団は分裂騒動があり、お互いを「悪魔」「地獄に落ちる」などと激しく憎み合うようになりました。激しくショックを受け、どちらに付こうという気になれませんでした。親は本部側に付いていき、今でも信仰を続けています。祖父母世代はもう亡くなっており、本人が望む形で弔いをしてあげたいと思い、礼拝へはごくたまに行っています。私自身は信仰が無いという訳ではありませんが、きわめて曖昧な状態にあります。

●自分の内面と向き合うことが出来ました。このような機会をありがとうございます。

●まじめな教団、他の宗教団体とも平和会議などしたり、NGOなどでも貢献している宗教団体などは、逆に評価のお知らせをするなど、区別してほしい。他の国の政治状況で、批判されるが実態のない批判ではないか、現在公的な法人で認められているか、公的に評価されているか被害の訴えが悪意がないかも検証される体制を保障してほしい。もちろん旧統一教会のような、異常な献金、霊感商法など許してはなりません。しかし便乗して、無責任な宗教差別がおこらないか、危惧します

●よろしくをお願いします

●現況の「リベラル」な知識人がイスラム教への偏見や差別を口にしつつ、オウム真理教以降個別の新宗教を評価することを恐れ、カルトという言葉をつかって実質的には新宗教総体を社会問題的にしかとらえることしかできないのであれば偽善のそしりを免れ得ないのではないか。(ハラールメニューによる配慮は素晴らしいと教団の献血禁止は社会問題という扱いの違い

は何か?天皇はOKでムハンマドの絵画は配慮の理由(は?))ちろんそこには本人の意志に反して強いられている人もいますのでそういう二世こそ救わなければならないと思います!私がかつて左派政党ばかり投票してきたが、今回の一件で「リベラル」知識人が信仰者二世への差別を平然とスルーしそうな風潮をみて今後は「リベラル」政党支持とは距離をおき、右派政党支持に切り替えようかと考えている。

●私の実家が信仰している宗教はあまり縛りが激しいというわけではなかったのですが、それでも実家との関わりを避けるために現在のパートナーと結婚することができないなどの困難があったり、父の兄に対する子供時代の執拗なマインドコントロール行為によるストレスや埋め込まれた女性蔑視が原因で私と妹は兄から性暴力を受けたり、自己肯定感がとても低い状態で大人になり元夫からの酷いモラハラやマインドコントロールにもとても鈍く10年ほど耐えてしまい(「私が悪いのだ」と思わされる事に慣れすぎていた)、やっと離婚してもその後10年ほどメンタルを患い治療しています。sessionや他のメディアでの宗教二世三世のお話を聞いて「私なんかがこのアンケートに答えて良いのだろうか?」と思ったのですが、こうしたライトな状況下で真綿で首を絞められるように育った人もいるのでは…と思いアンケートに答えようと思いました。最後になりますが、いつもsessionでは宗教二世や政治と宗教の関係についての特集を公正にしてくださりありがとうございます。これからもsession聴き続けます。

●積極的に宗教活動はしていませんが、産まれたときから入信していることもあり、何かあったときに心の中で祈ったりします。それを日本では洗脳と呼ぶのかもしれませんが、私の宗教は高額献金を要求したり、反社会的なことはしてないと思うので、特に脱会もしていない状態です。このアンケートもそうですが、統一教会問題が明るみになったことで、全ての宗教がダメという風潮を感じます。法律や社会通念上で問題がある宗教とそうでないものをきちんと分けて考えてほしいです。また無宗教だと言う人も、初詣になぜ行くのか、どこにお参りするのか、きちんと考えてほしいです。

●このようなアンケートを実施くださり感謝いたします。

●旧統一教会の報道ばかりがされている現状ですが、教団も特に選挙支援に関してはほとんどやっていることに差がない(なんならもう大々的に大っぴらにやっ

てる)ことや「真心の寄付」の財務は、その上限もなく青天井です。教義的な制限や縛りはそこまでではないですが、親の妄信度合いによっては信仰から離れることや疑うことそれ自体に罪悪感や恐怖も根強くあるのが実情です。この問題への関心が一時的なトレンドで終わることなく、今現実に苦しんでいる子どもたちを一人でも多く救うきっかけ●一助になることを心から願っています。

●このアンケートへの私の回答だと教団がそんなに問題ないような組織に思われるかもしれませんが、御存知の通りかなりの問題のある組織なので、支持政党も含めきちんと整理されて対応される社会を望みます。

●今回統一教会は他人事と思っていましたが二世信者さんの声を聞いていると中には同じ気持ちだと感じる事があり、辛さを共有できると思いました。神がどこからでも見て、心の中も見てと言われて宗教として正しい教えで洗脳された上に誰からもフォローがないと真面目な性格の人には幸せの為の宗教ではなく辛い辛い信仰になります。多くのある程度不真面目でいられる人が道を踏み外さない為にはこの教えがあっても良いかも知れませんが、私は人のために生きるという事が大事、と言われ続け自分を大切にできなくなり、家族の為に尽くしすぎて精神が保てなくなりました。未だに自分が本当はどんな人なのか良くわかりません。自分を大事にしてね、などと声をかけられてもその事自体やり方がわからなかったり自分の為だけに時間を使う事に抵抗感があり罪悪感が湧きなかなか思い通りに生きることができません。カウンセリングを受けて多くの事から距離を置き少しずつを探し始めていますが既に50代中盤で、虚しくなります。自由に楽しく若い時から生きたかったなあと思います。性的な事も悪いことと思って育ちましたし誘惑してるのは自分の方だから何かされたら自分が悪いといつも警戒して男性には恐怖感がありました。会話をするのも悪い。生理の事さえ親と話すのは大変でした。タブー感がありました。そんな自分を隠しながら普通に振る舞って生きていましたが、外面より、神は私の内面を見てると思うと休まらなかったです。カトリック信者はこんな事を感じない人がほとんどなのかもしれません。私は信者の登録は消えていませんが寄付もしませんし教会へも行かなくなりました。その事だけでも自分を許すのにかなりの年数かかりました。統一教会やその他のカルトなどの2世の方々にはまずは矛盾や疑問を感じる事が許されるという事を受け入れるところからゆっくり始めないと自己否定につながり本当に辛いこと

と思っています。日本がこんなにも統一教会に乗っ取られてると驚いています。私はキリスト教なので洗脳の程度が違うのでこのアンケートに答えてら事自体悪いことしてる気持ちになってしまいますが…。宜しくをお願いします。

●私は祖母の死によって母のマインドコントロール的なものが解けたように思います。祖母が亡くなる前は熱心に集会や教団のイベントに参加していましたが、亡くなった後は全く信じなくなりました。そのため、幼少期の早い段階から教団の活動には参加していません。

●宗教にハマっている人の一番悪いところは善意でやっている、ことです。子どもは親の善意から100%入信させられます。子どもの頃は親が全てで親の信じるものを信じるからです。信教の自由は認めても、子どもの信教の自由は子どものものです。カルトはもってのほかですが、すべての宗教には入信するのに自分で判断がつくまで年齢制限を求める必要があるとおもいます。

●私はたまたま健全な組織に縁することができたので問題を感じていないですが、同じ宗教組織であっても人によっては健全ではない組織に属してしまうこともあると思うので、駆け込み寺になるようなシステムは社会にあったほうが良いと思います。どんな宗教であっても、その人にとって幸せにならない方向に導かれるのであれば逃げ出す権利は保証されるべきだと思います。そうでなければ信心している信徒達のモラルも維持されないでしょう。下手に強要して脱会されたら、それは人を見ずにそういう行為をした人の責任だと思っています。

●アンケートの内容を見ていて、もしかしたら意図する宗教2世じゃないかもしれないなと思いつつ、いつも荻上チキさんのsessionを聞いてまして、宗教2世の特集を聴くとザワザワもやもやするところがあり解答しました。経歴・背景について。まず、意見を書く前に私の背景について書かせてもらいます。私はバプテスト系のクリスチャンの2世です。ただ、あまり熱心ではないと思います。いまだに日曜に教会は行きますが、主な理由としては友達に会えるからですし、友達がいなくなれば行かないくらいの距離感です。なので教会の中では比較的薄い関わりしかありませんが、離脱をしていないという意味では濃い関係だと思っています。また、大学院で宗教社会学の先生に指導して頂いたので多少は他の宗教にも知識があります。ただ、学問の特性上で新興宗教に偏っているとは思いますが。周囲

との関係で思うところについて。sessionの宗教2世の特集の自助グループの会でもあったのですが、日本の場合、仏教や神道が主流なのでそれ以外の宗教というのは周りに打ち明けにくいと思います。(私自身、外部に打ち明けたのは付き合っていた彼女とアメリカに留学していた時と他にクリスチャンがいた時でした。)別に打ち明ける必要はないのですが、ちょっとしたイベントで打ち明けるかそれに近い行為がある思います。例えば、初詣に行こうとか観光地で神社に行った時にお賽銭をする時になんとなくの後ろめたさを感じますし、そこを断るといのはかなり勇気のあることでもあります。(断る=なんらかの事情がある=普通とは違う感じになるので)他方で、宗教的に善いとされることも難しい気がします。例えば、いただきますの感覚で食事の前にお祈りすることがありますが、それをレストランですれば怪しい集団と見られるのではとも思います。話が逸れてしまいますが、統一教会をキリスト教系と言われると疑問を感じます。少なくともイエスキリストが失敗したと主張しているあたりその時点でキリスト教としては怪しい気がします。なんていうか、その主張が問題ならイスラーム教もキリスト教系ではとってしまいます。起源を考慮すると全部ユダヤ教系になるのではと思いますが、希望することについて。以上、徒然と書いてきましたが、周囲の理解を考えるのも難しい気がします。そもそも、クリスチャンというだけでマイノリティですし、他方で文化的な背景も考えると全くの無宗教で生活するというのも難しいと思います。初詣や観光地の神社やお寺に行かないというのも難しいでしょう。個人的な希望としては、自分の宗教を明かさなくていいではなく、明かしても特に問題がないという社会ならいいのかなとは思いますが。実際、私が明かした時はそういう空気があったので明かしましたし、それで問題になった事もなかったです。ただ難しいのは、聖書や宗教的に善いとされるところと科学的に検証されることや歴史的に積み上げられた事象とのバランスを取るのが難しいので、2世の中でもグラデーションがあり、それを共有できる環境ではないところかなとも思います。宗教に限ったことではないですが、社会的にマイノリティの人にとって心理的に安全な空間が広がっていくのがいいのかなと思います。また、教会内部に対しての希望でいえば子供に対して過剰な期待や教育もない方がいいと思います。ただこれも難しいのは、キリスト教の場合伝統的な宗教なので、日本以外では当たり前なことだとしても日本では例外のことになることだとも思います。これ

に対して、日本の常識と摩擦がおきるから止めるべきなのか、海外の普通を日本が受け入れるべきなのか、上手く言えないところが難しいです。

●二世の問題は個人的な体験な上に話せる場所がなく、自分で抱え込まないといけないので、こういう機会に感謝します

●宗教と見せかけて反社会的行為を行う犯罪組織を規制してほしい。強くそう望みます。

●教団の場合、輸血問題を除いて。統一教会のような献金●政治活動への参加など、世間から迫害される分かなりやすい要素が少ないため、見過ごされてしまいがちであるが、学校生活をはじめ、あらゆる機会に信仰を試される2世たちは、尋常ではない精神的ストレスにさらされていることを多くの人に知ってほしいと思う。信仰の自由は心の中の自由であり、自分の子供であっても基本的人権の侵害が許されないことを政府は明言してほしいと考える。

●私は未だに在籍していますが母や家族がまだ熱心にやっているので脱会はしていません。距離を置くことで今は落ち着いています。産まれてすぐの頃の私の体の不調を理由に墓をも継ぎたいで入信した母のおかげもあってか当時の不調の影響もなく大人になりました。そんな流れも知っている施設の人の元に行けば引き込まれてしまう気もして戻れません。

2世として育ち、教えを血肉のように擦り込まれているので、自分のどこかにまだ教えが残っています。前にも述べたように自分に起こることへの罪の意識、常にお詫びする心、自分が悪いから反省をし、どんな事にも感謝をするという教えが時折狂気じみたりところもあり、自分の中で拒絶反応が起きます。嘘をつく癖は今でこそなくなりましたが、人に嘘をついてまで神様を優先することが正しいとされていたことへの違和感が未だに拭えません。世の中には色々な宗教があると思います。全てが悪だとは思っていませんし、中には必要な人もいます。ただ、2世として幼い頃からだと、何も分からない中でそれが全て正しいと教えられて育ち、学校や世に出てから困ることが出てきます。どうか宗教は成人して自分の意思で物事を考えられるまで入信ができないだとか、親が結局マインドコントロールされているので仕方ないですが、子供へ教えの強要は子供の成長に影響があることをより多くの大人に理解していただきたいです。

●自分のアイデンティティに深く関わる問題と感じています。このような機会を頂きありがとうございます。

●家(親=宗教)から逃げ出した後の人生は、幸多いも

のでした。そもそも親は家族の幸せを願って信仰を持ったのだらうと思うと、一所懸命信仰した結果が家族の離散とは“皮肉”以外の何物でもありません。私は生まれたときから信者とされ(「福子(ふくし)」と呼ばれます)、逃げようにも逃げられない、今で言う「パワハラ」や「モラハラ」を毎日のように受けながら育ったように思います。すべて、親が宗教を持っていたから、その価値観で育てられたからであることは、疑いありません。宗教は精神に入り込むものだけに、「自分の意思で選ばない限り、信者と見なしてはいけない」といったことを法律で縛ることは不可能な気がしますが、二世●三世であっても、親の信教にかかわらず自ら選択する権利が守られる世の中であって欲しいと願います。しかし一方で、自分の幼い頃に現在のような問題意識が社会全体にあったとして、本当に自分で選択できたか?と問われれば、おそらく、できなかったと思います。子どもは弱い立場です。社会全体の意識を変えることが必要だと思います。

●今まで親の宗教に関して家族間以外で話をする機会が無く、今回この調査に参加できた事に感謝しています。祖父が母親が3歳の時に他界した為、中学卒業後に住込みで働き始めました。その店の店主が教団信者でした。母親はその店の一番弟子として入店後、入信させられ、それ以降の弟子は全員入信する事を求められてきたようです。私は高校卒業後、その店に半ば強制的に弟子入りさせられました。私の姉はハンディキャップがあり、姉を支える為にも家業を継ぐよう求められました。入店後直ぐに入信するように求められ、朝晩の読経を唱える事や集会への参加も強いられました。それでも入信しない事で、強情だとか言われましたが断り続けてきました。ところが、いつの間にか母親を通して入信の手続きがなされていました。その後、私が事故に遭い店を辞める事になりましたが、今でも入信したままなのか良く分からない状態です。私は母親との幼少期からのさまざまな確執もあり、逃げる様に実家を離れ東京で再就職、結婚をし現在に至っています。母親は熱心な信者ではなかったようですが、私が小中学生の頃は何度か大本山に師匠達と連れ立って出掛けたり、お布施をする事で何かか叶うとも思っていたのか、そこは熱心だったようです。姉の障害の事もあったかと思われませんが、後に1億円近い借金が発覚し、自己破産に追い込まれました。個人間の借金や数年間の生活費の補填を私の夫に助けてもらう事になりました。現在は実家に教団の仏壇は無くなりましたが、脱会したのかどうかの確認はしていません。

母親は何事もなかったかのように過ごしていますが、私はずっと消えないわだかまりを抱えたままです。チキさん達の活動で法整備も含めて、偏りのない信仰が必要な人にもたらされるようになって欲しいと願っています。ちなみに私は無宗教でありながら、お天道様にもお月様にも感謝したり、お願いしたりと、やっぱり信者です。チキさんの分かりやすいお話しに色々な事に関心を持つ事ができ、感謝しています。ブックレット付き配信も視聴させていただきます。これからも心から応援しています。ありがとうございます。

●脱退したと認識していますが、おそらく教団の名簿にわたしの名前はまだ残っているんだと思います。二世というだけで入信したことになり、煩雑な手順を踏まないと正式に脱退できない。こんな宗教団体と直結している政党が与党を担っている。日本という国に絶望しか感じません。

●私は親が信者ですので山上徹也氏と同じ二世に該当します。ただ、祝福二世なのか、信仰二世なのかかわからないほど親は私とコミュニケーションを取りませんでした。罵られるか、殴る蹴る、または学校や職場などに電話で嫌がらせをするだけの人でした。ご飯を作ってくれた事も幼少期からほとんどありません。そういう事例もあるという事を世間に知っていただき、救済してほしい。(私ではなく今の子供達を)

●自分は信仰を人に強要しようとは全く思わない。そもそも「信仰」という精神性は立場や年齢によってもかなり形が異なる物だと思う。社会のルールから逸脱し人に害を与えるような集団は、社会のルールによって裁かれて、一刻も早く解散するべきだと思う。日々、宗教によって人生を狂わされた人々の現実を知り、胸が痛む。責任を感じる。信仰という物差しを持つ人も、持たない人も、理不尽な目にあうことなく、あたりまえの日常を過ごせる世界になって欲しい。

●私たちが一番欲しいのは、宗教を全く知らない人達からの理解です。話だけでも聞いて欲しいです。

●今も宗教的虐待にあっている子どもがいると思います。家庭の問題と片付けず、なにか救いの手を差し伸べてあげられたらと思います。

●宗教二世が悲劇のヒロインのように報道するメディア、やめてください。そうだと思って生きてきていない人にとって自分は不幸なのか?と思う原因を作っています苦しいです。

●私はキリスト教だが、熱心な信者ではないし、でも心の拠り所になっている。歴史を見た時、キリスト教は

戦争しているし、人を殺しているし。悪いことをたくさんしている。でも身近の神父様やシスター、信者の方は皆良い人です。利権が絡んだような人とはまた違うでしょう。設問をしていて思ったが、カルト宗教はおかしい。私はキリスト教とカルト宗教が違うことを実感を持ってわかっていると思うが（おそらく大半のきちんとした？宗教の人も同じだろう）、宗教に関わったことのない（と思っている大半の人）が、カルトも既存の宗教も同じに考えているのではないかという不安はある。一緒にしないでくれと思うと同時に、苦しんでいる人は救済されてほしいと思う。

●母親は児童虐待をしていた犯罪者ですが、裁きを受けずにのうのうと生きていることが許せません。懲役など重い罰則を与えられれば良いのですが、児童虐待には時効があるらしく告発するメリットがありません。子に信仰を強要する親に罰を与えられるような法整備を希望します。

●私は母に強制的に入会させられていましたが、信仰心はなく寧ろ嫌悪していました。ただ、近しい親類はみな入会しており、友人にも打ち明けられる話ではなく、自分の中で感情を処理する●呑み込むしかない状況でした。同じように一人で苦しんでいる宗教2世が大勢いると思います。そういった人たちが気持ちを吐露できたり、自立を支援してくれる場が、もっと広まって欲しいと思います。

●生まれた時から宗教の中にいる宗教2世にとって、家庭内で起きる人権抑圧に自覚的になることはかなり困難だと言わざるを得ない。行動や思考の枠組みが教義に沿ったものでなければ、家庭内での居場所を失う。ただ、憲法が親に義務づけている期間で「あなたの家庭とは違う価値基準で社会は動いている」ということを子供自身が知ることで、外に居場所を見つけようとする勇気が出るかもしれない。

●このようにアンケートを書くと、自分の経験があまり深刻でないような気もしてきますが、思春期時代に親や宗教に対して抱いた疑問や不安、不満は現実でした。信じてない神を信じるように強制されたり、集会に参加させられることは本当に嫌な思い出として残っています。この回答が何かの役に立てば幸いです。

質問文	選択肢
<p>【調査依頼文】・この調査は、いわゆる「宗教2世」と呼ばれる人が、どのような経験を重ねてきたのかを明らかにするためのものです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「宗教2世」とは親が信仰してきた宗教・教団への入信・入団を求められた子ども世代（3世以降の方も含まれます）を指しています。</li> <li>・このフォームはどなたでも回答できますが、「宗教2世」の方にご回答のご協力をいただくことを想定しております。現在信者の方だけではなく、脱会した元信者の方でもご回答いただけます。</li> <li>・回答はお一人につき一回限りをお願いします。</li> <li>・この調査の所要時間は、およそ10～20分ほどです。設問数は最大で42問です。</li> <li>・スマートフォンですと、横に広がった選択肢を見逃す可能性があるため、ご注意ください。</li> <li>・調査をまとめたものは、研究、出版、報道、政治家などへの要望の場面に活用する予定です。また、「社会調査支援機構チキラボ」のウェブサイトでも公開されます。</li> <li>・この調査では、お名前、メールアドレス、電話番号、その他、個人の特定に繋がるような情報は取得されません。</li> </ul> <p>・年齢層や性別など、個人の属性に関する質問は含まれますが、公表する結果をもとに第三者が個人を推測できないよう、選択式の回答項目には統計的な処理を行うほか、自由記述についても、必要に応じて情報を削除、または匿名化するなどの処理をします。</p> <p>・なお、自由に記述回答できる箇所が多数ありますが、名前などの個人情報を記入しないようご注意ください。</p> <p>・この調査では、宗教に関わる暴力・虐待や、ジェンダー、セクシュアリティの差別などデリケートな質問をしております。そのため、全ての項目に「答えたくない」といった選択肢も設けております。また、ストレスなどを感じた場合、ご自身の心理的安全性を優先し、アンケートを中断して下さって構いません。中断した場合、それまで入力した回答が収集されることはありません。</p> <p>以上の内容を理解し、調査へご協力いただける方は「同意する」をチェックし、回答へとお進みください。</p> <p>問い合わせ（チキラボリサーチチーム） chiki.labo.research@gmail.com</p>	<p>同意する 同意しない（画面を閉じる）</p>
<p>Q1 あなたの現在の年齢についてあてはまる年代をチェックしてください。</p>	<p>答えたくない／14歳以下／15-19歳／20-24歳／25-29歳／30-34歳／35-39歳／40-44歳／45-49歳／50-54歳／55-59歳／60歳以上</p>
<p>Q2 あなたが最後に卒業した学校はどれですか。学生の方は、現在通っている学校段階にチェックしてください。「その他」を選択した方はその内容を具体的に記入ください。</p>	<p>答えたくない／1. 小学校／2. 中学校／3. 高校／4. 専門学校／5. 大学（高専・短大含む）／6. 大学院／その他（FA）</p>
<p>Q3 あなた自身が認識している性別はどれですか。あてはまる項目にチェックしてください。「その他」を選択した方はその内容を具体的に記入ください。</p>	<p>答えたくない／1. 男性／2. 女性／3. Xジェンダー／その他（FA）</p>
<p>Q4 あなたは現在、どのような形で働いていますか。あてはまる項目すべてにチェックしてください。「その他」を選択した方はその内容を具体的に記入ください。</p>	<p>答えたくない／1. 正規雇用／2. 非正規雇用（アルバイトも含む）／3. 自営業・フリーランス／4. 専業主婦・夫／5. 無職／6. 学生／その他（FA）</p>
<p>Q5 現在、あなたはどのような形態で暮らしていますか。あてはまる項目にチェックしてください。「その他」を選択した方はその内容を具体的に記入ください。</p>	<p>答えたくない／1. 実家から独立して暮らしている／2. 実家暮らし／その他（FA）</p>
<p>Q6 仮に日本社会を5つの層に分けるとすれば、現在のあなた自身の暮らし向きはどこに入ると感じますか。あてはまる項目にチェックしてください。</p>	<p>答えたくない／1. 上／2. 中の上／3. 中の下／4. 下の下</p>
<p>Q7 あなたの親が入信し、自身も入信していた宗教は、どれですか。あてはまる項目にチェックしてください。「その他」を選択した方はその内容を具体的に記入ください。※複数教団への入信経験がある方は、入信期間が最も長かった教団についてお答えください。また、Q8以降の教団に関連する質問は、ここで回答した教団のことについてお答えください。もし他の教団のことについても回答したい部分があれば、各質問の「その他」の自由記述欄でその旨お書きください。</p>	<p>答えたくない／1. 仏教系／2. 神道系／3. キリスト教系／4. イスラム教系／5. 山岳信仰系／その他（FA）</p>
<p>Q8 Q7で回答した教団名について、差し支えなければ具体名を教えてください。お答えできる方は「その他」に記入してください。答えたくない方は「答えたくない」を選択してください。</p>	<p>答えたくない／その他（FA）</p>
<p>Q9 教団に入信している、もしくは入信していた親は誰ですか。あてはまる項目ひとつにチェックしてください。一人親の方は、「2」か「3」を選択してください。「その他」を選択した方はその内容を具体的に記入ください。</p>	<p>答えたくない／1. 両親とも入信している／2. 母親のみ入信している／3. 父親のみ入信している／その他（FA）</p>
<p>Q10 あなたの親が入信し、自身も入信していた宗教へは、どの代から入信が始まりましたか。あてはまる項目にチェックしてください。「その他」を選択した方はその内容を具体的に記入ください。</p>	<p>答えたくない／1. 親（またはそれに代わる保護者）の代（あなたは宗教2世）／2. 祖父母の代（あなたは宗教3世）／3. それ以前の先代（あなたは宗教4世以上）／その他（FA）</p>

質問文	選択肢
Q11 あなたは現在、どの地域に居住していますか。あてはまる項目にチェックしてください。	答えたくない/47都道府県/海外/その他
Q12 あなたが未成年の時、最も長く居住していた地域はどちらでしたか。あてはまる項目にチェックしてください。	答えたくない/47都道府県/海外/その他
Q13 教団から求められたことについてうかがいます。以下の行為について、教団はどのくらい求めてきたことがありましたか。あてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [A. 儀式や集会、研修などの教化・教学活動への出席]	答えたくない/ 1. 何度も求められた/ 2. たまに求められた/ 3. あまり求められなかった/ 4. まったく求められなかった
Q13 教団から求められたことについてうかがいます。以下の行為について、教団はどのくらい求めてきたことがありましたか。あてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [B. 教団への献金]	答えたくない/ 1. 何度も求められた/ 2. たまに求められた/ 3. あまり求められなかった/ 4. まったく求められなかった
Q13 教団から求められたことについてうかがいます。以下の行為について、教団はどのくらい求めてきたことがありましたか。あてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [C. 社会奉仕活動への参加]	答えたくない/ 1. 何度も求められた/ 2. たまに求められた/ 3. あまり求められなかった/ 4. まったく求められなかった
Q13 教団から求められたことについてうかがいます。以下の行為について、教団はどのくらい求めてきたことがありましたか。あてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [D. 教団の関連団体への所属、就労、奉仕]	答えたくない/ 1. 何度も求められた/ 2. たまに求められた/ 3. あまり求められなかった/ 4. まったく求められなかった
Q13 教団から求められたことについてうかがいます。以下の行為について、教団はどのくらい求めてきたことがありましたか。あてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [E. 選挙集会への動員や選挙ボランティアへの参加]	答えたくない/ 1. 何度も求められた/ 2. たまに求められた/ 3. あまり求められなかった/ 4. まったく求められなかった
Q13 教団から求められたことについてうかがいます。以下の行為について、教団はどのくらい求めてきたことがありましたか。あてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [F. 選挙時における友人や知人への投票呼びかけ]	答えたくない/ 1. 何度も求められた/ 2. たまに求められた/ 3. あまり求められなかった/ 4. まったく求められなかった
Q13 教団から求められたことについてうかがいます。以下の行為について、教団はどのくらい求めてきたことがありましたか。あてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [G. 街中や個別訪問による勧誘]	答えたくない/ 1. 何度も求められた/ 2. たまに求められた/ 3. あまり求められなかった/ 4. まったく求められなかった
Q13 教団から求められたことについてうかがいます。以下の行為について、教団はどのくらい求めてきたことがありましたか。あてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [H. 友人や知人への勧誘]	答えたくない/ 1. 何度も求められた/ 2. たまに求められた/ 3. あまり求められなかった/ 4. まったく求められなかった
Q13 教団から求められたことについてうかがいます。以下の行為について、教団はどのくらい求めてきたことがありましたか。あてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [I. 毎日、折りや読経の時間を確保すること]	答えたくない/ 1. 何度も求められた/ 2. たまに求められた/ 3. あまり求められなかった/ 4. まったく求められなかった
Q13 教団から求められたことについてうかがいます。以下の行為について、教団はどのくらい求めてきたことがありましたか。あてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [J. 自分の身体を酷使する修行 (例：冷水を浴びる、火の上を歩く、長時間同じ姿勢をとる) ]	答えたくない/ 1. 何度も求められた/ 2. たまに求められた/ 3. あまり求められなかった/ 4. まったく求められなかった
Q14 家族から求められたことについてうかがいます。以下の行為について、家族はどのくらい求めてきたことがありましたか。あてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [A. 儀式や集会、研修などの教化・教学活動への出席]	答えたくない/ 1. 何度も求められた/ 2. たまに求められた/ 3. あまり求められなかった/ 4. まったく求められなかった
Q14 家族から求められたことについてうかがいます。以下の行為について、家族はどのくらい求めてきたことがありましたか。あてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [B. 教団への献金]	答えたくない/ 1. 何度も求められた/ 2. たまに求められた/ 3. あまり求められなかった/ 4. まったく求められなかった
Q14 家族から求められたことについてうかがいます。以下の行為について、家族はどのくらい求めてきたことがありましたか。あてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [C. 社会奉仕活動への参加]	答えたくない/ 1. 何度も求められた/ 2. たまに求められた/ 3. あまり求められなかった/ 4. まったく求められなかった
Q14 家族から求められたことについてうかがいます。以下の行為について、家族はどのくらい求めてきたことがありましたか。あてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [D. 教団の関連団体への所属、就労、奉仕]	答えたくない/ 1. 何度も求められた/ 2. たまに求められた/ 3. あまり求められなかった/ 4. まったく求められなかった



質問文	選択肢
Q14 家族から求められたことについてうかがいます。以下の行為について、家族はどのくらい求めてきたことがありましたか。あてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [E. 選挙集会への動員や選挙ボランティアへの参加]	答えたくない／1. 何度も求められた／2. たまに求められた／3. あまり求められなかった／4. まったく求められなかった
Q14 家族から求められたことについてうかがいます。以下の行為について、家族はどのくらい求めてきたことがありましたか。あてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [F. 選挙時における友人や知人への投票呼びかけ]	答えたくない／1. 何度も求められた／2. たまに求められた／3. あまり求められなかった／4. まったく求められなかった
Q14 家族から求められたことについてうかがいます。以下の行為について、家族はどのくらい求めてきたことがありましたか。あてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [G. 街中や個別訪問による勧誘]	答えたくない／1. 何度も求められた／2. たまに求められた／3. あまり求められなかった／4. まったく求められなかった
Q14 家族から求められたことについてうかがいます。以下の行為について、家族はどのくらい求めてきたことがありましたか。あてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [H. 友人や知人への勧誘]	答えたくない／1. 何度も求められた／2. たまに求められた／3. あまり求められなかった／4. まったく求められなかった
Q14 家族から求められたことについてうかがいます。以下の行為について、家族はどのくらい求めてきたことがありましたか。あてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [I. 毎日、祈りや読経の時間を確保すること]	答えたくない／1. 何度も求められた／2. たまに求められた／3. あまり求められなかった／4. まったく求められなかった
Q14 家族から求められたことについてうかがいます。以下の行為について、家族はどのくらい求めてきたことがありましたか。あてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [J. 自分の身体を酷使する修行(例：冷水を浴びる、火の上を歩く、長時間同じ姿勢をとる)]	答えたくない／1. 何度も求められた／2. たまに求められた／3. あまり求められなかった／4. まったく求められなかった
Q15 教団の教えや活動のなかで、「男性はこうあるべき」「男性はこうあってはならない」と言われた、あるいは見聞きしたことはありましたか。あてはまるところにチェックしてください。	答えたくない／1. 頻繁にあった／2. たまにあった／3. あまりなかった／4. まったくなかった／5. わからない、おぼえていない
Q16 教団の教えや活動のなかで、「男性はこうあるべき」「男性はこうあってはならない」と言われたことを見聞きしたことについて、可能な範囲で具体的に教えてください。無回答も可能です。	FA
Q17 教団の教えや活動のなかで、「女性はこうあるべき」「女性はこうあってはならない」と言われたこと、あるいは見聞きしたことはありましたか。あてはまるところにチェックしてください。	答えたくない／1. 頻繁にあった／2. たまにあった／3. あまりなかった／4. まったくなかった／5. わからない、おぼえていない
Q18 教団の教えや活動のなかで、「女性はこうあるべき」「女性はこうあってはならない」と言われたことを見聞きしたことについて、可能な範囲で具体的に教えてください。無回答も可能です。	FA
Q19 教団の教えや活動のなかで、同性愛やトランスジェンダーなどの性的マイノリティについて、何か否定的なことを言われた、あるいは見聞きしたことはありましたか。あてはまるところにチェックしてください。	答えたくない／1. 頻繁にあった／2. たまにあった／3. あまりなかった／4. まったくなかった／5. わからない、おぼえていない
Q20 教団の教えや活動のなかで、同性愛やトランスジェンダーなどの性的マイノリティについて、何か否定的なことを言われたことを見聞きしたことについて、可能な範囲で具体的に教えてください。無回答も可能です。	FA
Q21 教祖や教団の信者から言われたことについてうかがいます。以下の項目それぞれについて、教祖や教団の信者からどれくらいの頻度で言われていましたか。それぞれにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [A. 信者でない人々よりもあなたは優れているのだと言われた]	答えたくない／1. 頻繁にあった／2. たまにあった／3. あまりなかった／4. まったくなかった／5. わからない、おぼえていない
Q21 教祖や教団の信者から言われたことについてうかがいます。以下の項目それぞれについて、教祖や教団の信者からどれくらいの頻度で言われていましたか。それぞれにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [B. あなたは神や教祖に選ばれた特別な子だと言われた]	答えたくない／1. 頻繁にあった／2. たまにあった／3. あまりなかった／4. まったくなかった／5. わからない、おぼえていない
Q21 教祖や教団の信者から言われたことについてうかがいます。以下の項目それぞれについて、教祖や教団の信者からどれくらいの頻度で言われていましたか。それぞれにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [C. 他の信者も頑張ってるから君もがんばれと言われた]	答えたくない／1. 頻繁にあった／2. たまにあった／3. あまりなかった／4. まったくなかった／5. わからない、おぼえていない
Q21 教祖や教団の信者から言われたことについてうかがいます。以下の項目それぞれについて、教祖や教団の信者からどれくらいの頻度で言われていましたか。それぞれにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [D. 教義に反することはしてはいけないと言われた]	答えたくない／1. 頻繁にあった／2. たまにあった／3. あまりなかった／4. まったくなかった／5. わからない、おぼえていない



質問文	選択肢
Q22 家族から言われたことについてうかがいます。以下の項目それぞれについて、家族からどれくらいの頻度で言われていましたか。それぞれにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [J. 「不信心だから、思ったような結果にならなかったのだ（受験や就職の失敗など）」と言われた]	答えたくない／1. 頻繁にあった／2. たまにあった／3. あまりなかった／4. まったくなかった／5. わからない、おぼえていない
Q22 家族から言われたことについてうかがいます。以下の項目それぞれについて、家族からどれくらいの頻度で言われていましたか。それぞれにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [この項目は不正入力を防ぐためのものです。「あまり言われていない」にチェックしてください。]	答えたくない／1. 頻繁にあった／2. たまにあった／3. あまりなかった／4. まったくなかった／5. わからない、おぼえていない
Q23 家族や教祖・教団の信者からの肯定的、あるいは否定的な声かけで、印象に残っていることがあれば、可能な範囲で教えてください。無回答も可能です。	FA
Q24 信仰に関連する行事などへの参加を、家族はあなたに強要していましたか。していた場合、どの時期でしたか。あてはまるところをすべてチェックしてください。	答えたくない／1. 0-5歳（小学校入学以前）／2. 6-9歳（小学校低学年の頃）／3. 10-12歳（小学校高学年の頃）／4. 13-15歳（中学生の頃）／5. 16-19歳／6. 20歳以降／7. 強要されたが時期は覚えていない／8. 強要されたことはない
Q25 Q24で「1」～「7」のいずれかを選択した方にうかがいます。あなたが受けた「行事参加への強要」はどのような内容で、あなたはその時どう思ったかを、可能な範囲で教えてください。無回答も可能です。	FA
Q26 信仰を理由にした体罰を、家族はあなたに強要していましたか。していた場合、どの時期でしたか。あてはまるところをすべてチェックしてください。	答えたくない／1. 0-5歳（小学校入学以前）／2. 6-9歳（小学校低学年の頃）／3. 10-12歳（小学校高学年の頃）／4. 13-15歳（中学生の頃）／5. 16-19歳／6. 20歳以降／7. 強要されたが時期は覚えていない／8. 強要されたことはない
Q27 Q26で「1」～「7」のいずれかを選択した方にうかがいます。あなたが受けた「信仰を理由にした体罰」は、どのような内容で、あなたはその時どう思ったかを、可能な範囲で教えてください。無回答も可能です。	FA
Q28 信仰を理由にして、あなたの恋愛や交友関係の制限を、家族はあなたに行っていましたか。行っていた場合、どの時期でしたか。あてはまるところをすべてチェックしてください。	答えたくない／1. 0-5歳（小学校入学以前）／2. 6-9歳（小学校低学年の頃）／3. 10-12歳（小学校高学年の頃）／4. 13-15歳（中学生の頃）／5. 16-19歳／6. 20歳以降／7. 強要されたが時期は覚えていない／8. 強要されたことはない
Q29 Q28で「1」～「7」のいずれかを選択した方にうかがいます。あなたが受けた「恋愛や交友関係の制限」はどのような内容でしたか。また、家族から、「恋愛や結婚のあるべき形」「あってはならない形」などについても言われたことがあれば、可能な範囲で教えてください。無回答も可能です。	FA
Q30 信仰を理由に、あなたの学業や職業選択の自由を、家族は制限していましたか。制限していた場合、どの時期でしたか。あてはまるところをすべてチェックしてください。	答えたくない／1. 0-5歳（小学校入学以前）／2. 6-9歳（小学校低学年の頃）／3. 10-12歳（小学校高学年の頃）／4. 13-15歳（中学生の頃）／5. 16-19歳／6. 20歳以降／7. 強要されたが時期は覚えていない／8. 強要されたことはない
Q31 Q30で「1」～「7」のいずれかを選択した方にうかがいます。あなたが受けた「職業や学業の制限」はどのような内容で、あなたはその時どう思ったかを、可能な範囲で教えてください。無回答も可能です。	FA
Q32 信者であることが理由で、学校や友人、恋人や会社・職場などから、理不尽な対応をされたと感じたことはありましたか。あてはまる項目にチェックしてください。	答えたくない／1. 頻繁にあった／2. たまにあった／3. あまりなかった／4. まったくなかった／5. おぼえていない
Q33 信者であることが理由で、学校や友人、恋人や会社・職場などから、理不尽な対応をされたと感じたことについて、可能な範囲で具体的な状況や思ったことなどを教えてください。無回答も可能です。	FA
Q34 以下の項目それぞれについて該当する時期はいつでしたか。あてはまるものをチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [A. 「2世信者」になった時期]	答えたくない／12歳以下／13-18歳／19-22歳／23歳以上 ／あてはまる時期はない
Q34 以下の項目それぞれについて該当する時期はいつでしたか。あてはまるものをチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [B. はじめて教団の教えや活動に疑問を抱いた時期]	答えたくない／12歳以下／13-18歳／19-22歳／23歳以上 ／あてはまる時期はない
Q34 以下の項目それぞれについて該当する時期はいつでしたか。あてはまるものをチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [C. はじめて家族や他人に教団への疑問を口にした時期]	答えたくない／12歳以下／13-18歳／19-22歳／23歳以上 ／あてはまる時期はない

質問文	選択肢
<p>Q34 以下の項目それぞれについて該当する時期はいつでしたか。あてはまるものをチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [D. はじめて信仰をやめようと思った時期]</p>	<p>答えたくない/12歳以下/13-18歳/19-22歳/23歳以上 /あてはまる時期はない</p>
<p>Q35 教団の教えや活動について疑問を抱いたり矛盾を感じたことがある方にうかがいます。そのきっかけは何ですか。可能な範囲で具体的に教えてください。無回答も可能です。</p>	<p>FA</p>
<p>Q36 あなたが教団から脱会した時期はいつでしたか。あてはまるところをチェックしてください。 ※なお、何度か教団への脱会と入団を繰り返したことがある方ははじめて脱会した時期を回答してください。 ※何度か脱会経験があるものの、現在は再入団中という方も、はじめて脱会した時期を回答してください。</p>	<p>答えたくない/1. 12歳以下/2. 13-18歳/3. 19-22歳/4. 23歳以上/5. 脱会はしたが時期はおぼえていない/6. 脱会をしていない</p>
<p>Q37 実際に脱会する際に、どのような問題がありましたか。以下のうち、あてはまる項目すべてにチェックしてください。</p>	<p>答えたくない 1. 家族との関係が悪化した 2. 家族の心身が不安定になった 3. 友人など人との繋がりが減った 4. 経済的自立が困難だった 5. 宗教的価値観が残っているため、一般社会で生きることに罪悪感や背徳感を味わうことがあった 6. 親の入信理由が自分に関することで、その思いを裏切る気がした 7. あたらしい世界観や社会常識、自己の価値をつくり出すことが難しかった 8. 教団関係者から脅迫・非難・暴力を受けた 9. 家族から脅迫・非難・暴力を受けた 10. 教団や家族から何度も再入団を求められた 11. 行政に相談に行ったが十分な対応をしてもらえなかった 12. 警察に相談に行ったが十分な対応をもらえなかった 13. 上記の項目以外で困ったことがあった (→Q38で具体的に記入してください) 14. 特に問題に感じることはなかった/おぼえていない</p>
<p>Q38 Q37で「1」～「13」に回答した方にうかがいます。脱会に至った時に、あなたが特に感じた困難はどんなことでしたか。可能な範囲で教えてください。無回答も可能です。</p>	<p>FA</p>
<p>Q39 実際に脱会に至ったあとに、宗教的価値観が残っているせいで、次のような気持ちを抱くことはありましたか。あてはまる項目すべてにチェックしてください。</p>	<p>答えたくない 1. 自身の性意識や性行動に対し、罪悪感や背徳感を味わうことがあった 2. 恋愛をすることに対し、罪悪感や背徳感を味わうことがあった 3. 恋愛関係、夫婦関係などの性的な関係を含む人間関係のつくり方に難しさを感じたことがあった 4. 性的マイノリティや同性愛をタブー視するような感情をおぼえたことがあった 5. 宗教団体が勤めていた政党や政治観への共感をおぼえたことがあった 6. 「自分は選ばれた人間だ」という感情をおぼえたことがあった 7. 異なる宗教の行事（クリスマスや神社の参拝、おみくじや占いなど）に抵抗感をもったことがあった 8. 上記以外で宗教的価値観が残っていると感じることはあった 9. 宗教的価値観が残っていると感じることはほとんどなかった</p>
<p>Q40 Q39で「1」～「8」のいずれかを選択した方にうかがいます。あなた自身が、「脱会した後も、宗教的価値観の影響が残っているな」と感じたことがあれば、可能な範囲で具体的に教えてください。無回答も可能です。</p>	<p>FA</p>
<p>Q41 この2週間、以下のような問題にどのくらいの期間悩まされましたか。それぞれについてあてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [物事に対してほとんど興味がない、または楽しめない]</p>	<p>答えたくない/1. 全くない/2. 1週間未満/3. 1週間以上/4. ほとんど毎日</p>
<p>Q41 この2週間、以下のような問題にどのくらいの期間悩まされましたか。それぞれについてあてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [気分が落ち込む、憂うつになる、または絶望的な気持ちになる]</p>	<p>答えたくない/1. 全くない/2. 1週間未満/3. 1週間以上/4. ほとんど毎日</p>
<p>Q41 この2週間、以下のような問題にどのくらいの期間悩まされましたか。それぞれについてあてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [寝付きが悪い、途中で目がさめる、または逆に眠り過ぎる]</p>	<p>答えたくない/1. 全くない/2. 1週間未満/3. 1週間以上/4. ほとんど毎日</p>

質問文	選択肢
Q41 この2週間、以下のような問題にどのくらいの期間悩まされましたか。それぞれについてあてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [疲れた感じがする、または気力がない]	答えたくない／1. 全くない／2. 1週間未満／3. 1週間以上／4. ほとんど毎日
Q41 この2週間、以下のような問題にどのくらいの期間悩まされましたか。それぞれについてあてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [あまり食欲がない、または食べ過ぎる]	答えたくない／1. 全くない／2. 1週間未満／3. 1週間以上／4. ほとんど毎日
Q41 この2週間、以下のような問題にどのくらいの期間悩まされましたか。それぞれについてあてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [自分はダメな人間だ、人生の敗北者だと気に病む、または自分自身あるいは家族に申し訳がないと感じる]	答えたくない／1. 全くない／2. 1週間未満／3. 1週間以上／4. ほとんど毎日
Q41 この2週間、以下のような問題にどのくらいの期間悩まされましたか。それぞれについてあてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [新聞を読む、またはテレビを見ることなどに集中することが難しい]	答えたくない／1. 全くない／2. 1週間未満／3. 1週間以上／4. ほとんど毎日
Q41 この2週間、以下のような問題にどのくらいの期間悩まされましたか。それぞれについてあてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [他人が気づくぐらいに動きや話し方が遅くなる、あるいは反対に、そわそわしたり、落ちつかず、ふだんよりも動き回ることがある]	答えたくない／1. 全くない／2. 1週間未満／3. 1週間以上／4. ほとんど毎日
Q41 この2週間、以下のような問題にどのくらいの期間悩まされましたか。それぞれについてあてはまるところにチェックしてください。 ※スマートフォンですと、選択肢がすべて映らない可能性があります。横にスクロールして選択肢を確認してください。 [死んだ方がましだ、あるいは自分を何らかの方法で傷つけようと思ったことがある]	答えたくない／1. 全くない／2. 1週間未満／3. 1週間以上／4. ほとんど毎日
Q42 「宗教2世」やその家族のための支援や法整備について、以下のうち、あなたが必要と思うものはどれですか。希望するものすべてにチェックください。「その他」を選択した方はその内容を具体的にご記入ください。	答えたくない 希望することはとくにない 1. 献金の上限規制 2. 社会問題を起こした宗教団体への解散命令や法人格の取り消し 3. カルト団体について定義し、規制するための法律作り 4. 宗教的被害に対する社会一般の理解を促すための啓発活動 5. 信者・元信者に対する偏見をなくすための啓発活動 6. 支援職、医療者、行政関係者に対する宗教的知識の研修 7. 脱会した・したい信者のための自助グループ 8. 脱会した・したい信者に対する経済的な生活支援 9. 脱会した・したい信者に対する学び直しや学歴取得のための教育的支援 10. 子どもでも親や教団から安全に離れられる制度の整備 11. 宗教的トラウマに関する医療的支援の拡充 12. 宗教関連トラブルについての法律相談の拡充 13. その他 (FA )
質問は以上です。回答へのご協力、ありがとうございました。 最後に、ご自由にご意見・ご感想をお書きください。無回答も可能です。	FA

宗教二世調査 集計表		性自認				入信宗教タイプ			教団名				何世		
		全体	男性	女性	Xジェンダー・その他	仏教系	神道系	キリスト教系	創価学会	エホバの証人	旧統一教会	その他	2世	3世	4世以上
		n=1131	n=343	n=741	n=32	n=611	n=100	n=345	n=428	n=168	n=47	n=335	n=604	n=431	n=65
Q1年齢段階	14歳以下	0.1%	0.0%	0.0%	3.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%
	15-19歳	1.1%	0.9%	1.3%	0.0%	1.3%	2.0%	0.6%	1.2%	0.0%	0.0%	1.5%	0.7%	1.2%	4.6%
	20-24歳	3.5%	2.9%	3.8%	6.3%	2.6%	2.0%	5.2%	2.6%	1.8%	12.8%	3.3%	2.8%	3.7%	9.2%
	25-29歳	12.6%	10.5%	13.9%	6.3%	13.9%	17.0%	8.1%	13.1%	4.2%	17.0%	12.8%	10.4%	15.8%	9.2%
	30-34歳	15.7%	12.2%	17.1%	15.6%	13.6%	17.0%	19.1%	13.6%	19.0%	27.7%	17.0%	14.7%	15.5%	26.2%
	35-39歳	19.5%	19.5%	19.3%	21.9%	18.5%	24.0%	20.3%	19.9%	22.0%	12.8%	19.4%	17.7%	21.1%	26.2%
	40-44歳	17.1%	19.5%	15.8%	21.9%	15.5%	13.0%	20.3%	15.0%	25.0%	23.4%	14.6%	18.0%	16.7%	12.3%
	45-49歳	13.8%	16.0%	12.8%	12.5%	14.6%	14.0%	12.5%	14.0%	15.5%	4.3%	13.4%	15.6%	12.5%	4.6%
	50-54歳	8.5%	8.2%	8.9%	3.1%	10.3%	7.0%	6.4%	11.7%	4.8%	2.1%	8.7%	9.3%	8.1%	3.1%
	55-59歳	4.6%	6.1%	4.0%	3.1%	4.9%	2.0%	5.8%	4.9%	6.0%	0.0%	5.1%	5.8%	3.2%	4.6%
	60歳以上	3.2%	3.8%	2.8%	3.1%	4.3%	2.0%	1.7%	4.0%	1.8%	0.0%	3.9%	5.0%	1.2%	0.0%
無回答	0.4%	0.3%	0.1%	3.1%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.7%	0.0%	
Q2最終学歴	小学校	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	中学校	2.6%	2.3%	2.4%	9.4%	1.8%	5.0%	2.9%	2.3%	3.6%	2.1%	3.0%	2.8%	1.6%	3.1%
	高校	20.5%	19.2%	20.6%	28.1%	20.0%	17.0%	23.5%	20.8%	35.1%	17.0%	16.1%	26.5%	14.4%	10.8%
	専門学校	11.3%	9.0%	12.3%	12.5%	12.8%	7.0%	8.4%	12.9%	11.9%	8.5%	9.0%	11.1%	11.1%	9.2%
	大学（高専・短大）	52.6%	50.1%	54.5%	46.9%	54.5%	58.0%	48.4%	53.5%	35.7%	53.2%	57.0%	48.5%	57.8%	60.0%
	大学院	11.2%	16.3%	9.0%	0.0%	9.8%	12.0%	13.9%	9.8%	9.5%	19.1%	12.8%	8.9%	13.7%	16.9%
	その他	1.2%	2.9%	0.5%	0.0%	0.5%	1.0%	2.6%	0.5%	4.2%	0.0%	1.5%	1.7%	0.9%	0.0%
	無回答	0.5%	0.0%	0.5%	3.1%	0.7%	0.0%	0.3%	0.2%	0.0%	0.0%	0.6%	0.5%	0.5%	0.0%
Q3性別	男性	30.3%	100.0%	0.0%	0.0%	30.1%	30.0%	33.6%	33.4%	36.3%	34.0%	26.6%	32.1%	28.3%	27.7%
	女性	65.5%	0.0%	100.0%	0.0%	66.8%	66.0%	61.2%	63.6%	59.5%	59.6%	67.8%	63.4%	68.4%	67.7%
	Xジェンダー	1.8%	0.0%	0.0%	62.5%	1.5%	1.0%	2.0%	1.4%	1.2%	2.1%	2.7%	2.0%	1.4%	1.5%
	その他	1.1%	0.0%	0.0%	37.5%	0.5%	2.0%	1.7%	0.5%	1.2%	2.1%	2.1%	1.2%	0.9%	0.0%
	無回答	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	1.0%	1.4%	1.2%	1.8%	2.1%	0.9%	1.3%	0.9%	3.1%
Q4_1（労働形態）正規雇用	選択	46.0%	63.0%	39.5%	28.1%	47.5%	46.0%	45.5%	47.2%	45.8%	38.3%	44.8%	43.9%	49.7%	43.1%
Q4_2（労働形態）非正規雇用・アルバイト	選択	22.2%	10.2%	27.1%	31.3%	21.6%	23.0%	21.7%	22.7%	26.8%	19.1%	22.7%	23.8%	19.7%	24.6%
Q4_3（労働形態）自営業・フリーランス	選択	14.1%	14.9%	13.1%	25.0%	13.3%	15.0%	15.4%	14.5%	14.3%	10.6%	12.8%	12.1%	17.4%	13.8%
Q4_4（労働形態）専業主婦・夫	選択	8.7%	0.6%	12.7%	0.0%	8.5%	5.0%	10.4%	6.8%	10.7%	14.9%	8.7%	10.6%	5.8%	9.2%
Q4_5（労働形態）無職	選択	6.4%	7.6%	5.5%	15.6%	6.5%	5.0%	5.8%	7.0%	4.2%	6.4%	8.1%	6.5%	6.3%	3.1%
Q4_6（労働形態）学生	選択	3.5%	3.5%	3.4%	6.3%	3.3%	3.0%	3.8%	3.5%	0.6%	6.4%	3.9%	2.6%	3.5%	12.3%
Q4_7（労働形態）その他	選択	1.8%	1.5%	1.9%	3.1%	1.8%	2.0%	1.4%	1.9%	1.2%	2.1%	1.8%	2.2%	0.9%	1.5%
Q5暮らし	実家から独立して	74.4%	74.6%	75.0%	59.4%	72.7%	74.0%	79.1%	73.4%	77.4%	78.7%	74.6%	75.8%	72.2%	76.9%
	実家暮らし	19.9%	21.0%	19.2%	25.0%	21.3%	24.0%	15.9%	21.3%	16.1%	19.1%	18.2%	17.1%	24.1%	16.9%
	その他	5.0%	3.5%	5.5%	12.5%	5.2%	2.0%	4.6%	5.1%	6.5%	2.1%	6.3%	6.3%	3.2%	4.6%
	無回答	0.7%	0.9%	0.3%	3.1%	0.8%	0.0%	0.3%	0.2%	0.0%	0.0%	0.9%	0.8%	0.5%	1.5%
Q6暮らし向き自己評価	上	1.5%	2.3%	0.9%	6.3%	0.8%	3.0%	2.3%	0.9%	0.6%	4.3%	2.1%	1.7%	1.2%	3.1%
	中の上	26.0%	25.1%	26.9%	15.6%	24.5%	26.0%	28.4%	24.3%	25.6%	34.0%	25.4%	24.7%	27.6%	29.2%
	中の下	39.1%	42.0%	38.6%	25.0%	42.2%	36.0%	36.2%	42.3%	36.9%	21.3%	37.9%	37.1%	41.8%	43.1%

宗教二世調査 集計表		性自認				入信宗教タイプ			教団名				何世		
		全体	男性	女性	Xジェンダー ・その他	仏教系	神道系	キリスト 教系	創価学会	エホバの 証人	旧統一 教会	その他	2世	3世	4世以上
		n=1131	n=343	n=741	n=32	n=611	n=100	n=345	n=428	n=168	n=47	n=335	n=604	n=431	n=65
	下の上	25.7%	22.4%	26.5%	37.5%	25.0%	27.0%	25.5%	24.3%	29.8%	31.9%	26.6%	28.1%	22.5%	23.1%
	下の下	5.6%	7.3%	4.6%	12.5%	5.2%	5.0%	5.8%	6.1%	6.0%	6.4%	6.3%	7.0%	3.5%	1.5%
	無回答	2.1%	0.9%	2.6%	3.1%	2.1%	3.0%	1.7%	2.1%	1.2%	2.1%	1.8%	1.5%	3.5%	0.0%
Q7入信宗教タイプ	仏教系	54.0%	53.6%	55.1%	38.7%	100.0%	0.0%	0.0%	98.1%	0.0%	0.0%	34.0%	39.9%	76.3%	36.9%
	神道系	8.8%	8.7%	8.9%	9.7%	0.0%	100.0%	0.0%	0.2%	0.0%	2.1%	20.6%	7.0%	8.8%	27.7%
	キリスト教系	30.5%	33.8%	28.5%	41.9%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	98.2%	89.4%	30.7%	46.4%	8.8%	27.7%
	イスラム教系	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	山岳信仰系	0.1%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.2%	0.0%
	その他	5.9%	3.2%	7.0%	9.7%	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	1.8%	8.5%	13.7%	6.5%	5.3%	7.7%
	無回答	0.5%	0.3%	0.4%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.3%	0.5%	0.0%
Q8教団名_4区分	創価学会	37.8%	41.7%	36.7%	25.0%	68.7%	1.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	59.2%	16.9%
	エホバの証人	14.9%	17.8%	13.5%	12.5%	0.0%	0.0%	47.8%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	26.7%	0.9%	0.0%
	旧統一教会	4.2%	4.7%	3.8%	6.3%	0.0%	1.0%	12.2%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	7.5%	0.5%	0.0%
	その他	29.6%	25.9%	30.6%	50.0%	18.7%	69.0%	29.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	29.1%	23.9%	63.1%
	無回答	13.5%	9.9%	15.4%	6.3%	12.6%	29.0%	10.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.8%	15.5%	20.0%
Q9入信していた親	両親とも入信して	61.5%	66.8%	59.4%	59.4%	69.1%	66.0%	49.0%	73.4%	26.8%	80.9%	58.5%	53.3%	72.4%	66.2%
	母親のみ入信して	29.2%	25.4%	31.2%	21.9%	20.6%	25.0%	47.0%	16.6%	69.0%	17.0%	27.8%	40.9%	15.1%	18.5%
	父親のみ入信して	1.9%	1.7%	1.6%	3.1%	2.6%	1.0%	1.2%	2.6%	0.0%	0.0%	2.4%	1.2%	2.6%	3.1%
	その他	7.0%	5.5%	7.4%	15.6%	7.4%	8.0%	2.3%	7.5%	3.6%	2.1%	10.7%	4.6%	9.5%	10.8%
	無回答	0.5%	0.6%	0.4%	0.0%	0.3%	0.0%	0.6%	0.0%	0.6%	0.0%	0.6%	0.0%	0.5%	1.5%
Q10何世	親の代（あなたは	53.4%	56.6%	51.7%	59.4%	39.4%	42.0%	81.2%	35.3%	95.8%	95.7%	52.5%	100.0%	0.0%	0.0%
	祖父母の代（あなた	38.1%	35.6%	39.8%	31.3%	53.8%	38.0%	11.0%	59.6%	2.4%	4.3%	30.7%	0.0%	100.0%	0.0%
	それ以前の先代（	5.7%	5.2%	5.9%	3.1%	3.9%	18.0%	5.2%	2.6%	0.0%	0.0%	12.2%	0.0%	0.0%	100.0%
	その他	2.5%	2.3%	2.3%	6.3%	2.8%	2.0%	2.3%	2.6%	1.2%	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.3%	0.3%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.0%	0.6%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%
Q13_A（教団要求行為）儀式等への出席	何度も求められた	63.6%	58.6%	66.3%	62.5%	61.7%	54.0%	71.6%	67.3%	88.1%	72.3%	49.0%	69.2%	60.3%	43.1%
	たまに求められた	18.9%	21.3%	17.8%	12.5%	23.1%	22.0%	10.4%	22.7%	3.0%	6.4%	22.1%	14.6%	23.0%	29.2%
	あまり求められな	7.3%	7.3%	6.9%	12.5%	6.5%	10.0%	6.7%	4.2%	1.8%	10.6%	11.6%	6.8%	6.5%	12.3%
	まったく求められ	8.2%	11.1%	6.9%	12.5%	7.4%	11.0%	8.1%	4.9%	2.4%	6.4%	14.9%	6.8%	8.8%	15.4%
	無回答/おぼえて	2.0%	1.7%	2.2%	0.0%	1.3%	3.0%	3.2%	0.9%	4.8%	4.3%	2.4%	2.6%	1.4%	0.0%
Q13_B（教団要求行為）教団への献金	何度も求められた	22.8%	16.6%	25.1%	37.5%	17.8%	24.0%	30.4%	17.5%	20.8%	61.7%	27.8%	27.3%	17.6%	18.5%
	たまに求められた	17.9%	18.7%	18.1%	9.4%	17.3%	16.0%	20.9%	17.3%	27.4%	8.5%	16.7%	18.9%	17.2%	18.5%
	あまり求められな	26.6%	28.9%	25.5%	18.8%	24.7%	27.0%	29.6%	24.3%	30.4%	19.1%	23.3%	26.7%	26.5%	27.7%
	まったく求められ	27.9%	31.5%	26.6%	25.0%	34.9%	27.0%	15.4%	36.0%	16.1%	4.3%	28.1%	21.9%	34.3%	32.3%
	無回答/おぼえて	4.8%	4.4%	4.7%	9.4%	5.2%	6.0%	3.8%	4.9%	5.4%	6.4%	4.2%	5.3%	4.4%	3.1%
Q13_C（教団要求行為）社会奉仕活動への参加	何度も求められた	18.8%	13.1%	20.9%	25.0%	12.6%	19.0%	27.8%	8.4%	36.3%	36.2%	20.6%	23.7%	12.5%	18.5%
	たまに求められた	15.6%	13.7%	16.5%	18.8%	15.7%	25.0%	13.3%	13.8%	6.0%	25.5%	19.4%	14.4%	17.2%	21.5%
	あまり求められな	23.8%	27.1%	21.7%	37.5%	26.7%	24.0%	20.6%	29.2%	15.5%	17.0%	22.1%	21.5%	27.1%	20.0%
	まったく求められ	37.4%	43.7%	35.5%	18.8%	40.3%	27.0%	35.1%	43.7%	38.7%	12.8%	33.4%	35.8%	39.0%	36.9%

宗教二世調査 集計表		性自認				入信宗教タイプ			教団名				何世		
		全体	男性	女性	Xジェンダー・その他	仏教系	神道系	キリスト教系	創価学会	エホバの証人	旧統一教会	その他	2世	3世	4世以上
		n=1131	n=343	n=741	n=32	n=611	n=100	n=345	n=428	n=168	n=47	n=335	n=604	n=431	n=65
	無回答/おぼえて	4.3%	2.3%	5.4%	0.0%	4.7%	5.0%	3.2%	4.9%	3.6%	8.5%	4.5%	4.6%	4.2%	3.1%
Q13_D (教団要求行為) 教団関連団体への所属等	何度も求められた	25.6%	21.6%	27.5%	25.0%	22.3%	27.0%	31.3%	21.0%	43.5%	29.8%	23.0%	31.0%	19.3%	18.5%
	たまに求められた	15.6%	15.2%	15.8%	21.9%	15.1%	16.0%	15.9%	15.2%	11.3%	25.5%	17.0%	13.9%	17.6%	16.9%
	あまり求められな	20.2%	19.0%	20.2%	21.9%	20.5%	22.0%	19.4%	20.6%	15.5%	19.1%	18.8%	20.7%	19.3%	23.1%
	まったく求められ	34.5%	40.5%	32.3%	28.1%	38.1%	30.0%	29.6%	38.8%	24.4%	17.0%	38.2%	30.0%	39.9%	38.5%
	無回答/おぼえて	4.2%	3.8%	4.2%	3.1%	4.1%	5.0%	3.8%	4.4%	5.4%	8.5%	3.0%	4.5%	3.9%	3.1%
Q13_E (教団要求行為) 選挙集会への動員	何度も求められた	20.7%	19.5%	21.5%	18.8%	33.9%	4.0%	3.8%	41.8%	1.8%	14.9%	6.0%	16.9%	27.8%	10.8%
	たまに求められた	10.1%	10.8%	9.6%	15.6%	15.9%	4.0%	2.6%	17.8%	0.6%	10.6%	4.8%	7.3%	14.6%	6.2%
	あまり求められな	16.6%	14.3%	17.8%	18.8%	15.1%	29.0%	16.5%	13.8%	17.9%	29.8%	15.8%	17.9%	15.3%	13.8%
	まったく求められ	49.2%	52.8%	47.6%	40.6%	32.1%	59.0%	74.5%	23.8%	76.8%	38.3%	69.3%	53.8%	39.9%	66.2%
	無回答/おぼえて	3.4%	2.6%	3.5%	6.3%	3.1%	4.0%	2.6%	2.8%	3.0%	6.4%	4.2%	4.1%	2.3%	3.1%
Q13_F (教団要求行為) 知人への投票呼びかけ	何度も求められた	26.3%	25.4%	27.3%	25.0%	46.2%	5.0%	1.4%	58.4%	0.0%	12.8%	4.2%	19.2%	39.2%	12.3%
	たまに求められた	8.4%	9.6%	7.6%	15.6%	12.1%	7.0%	2.0%	13.8%	0.0%	10.6%	5.4%	6.0%	12.1%	4.6%
	あまり求められな	14.7%	10.5%	16.7%	15.6%	11.3%	27.0%	16.5%	8.9%	19.0%	21.3%	16.7%	16.9%	11.4%	13.8%
	まったく求められ	47.7%	51.6%	45.5%	43.8%	27.3%	59.0%	78.3%	16.1%	79.2%	48.9%	69.9%	54.8%	34.8%	66.2%
	無回答/おぼえて	2.9%	2.9%	3.0%	0.0%	3.1%	2.0%	1.7%	2.8%	1.8%	6.4%	3.9%	3.1%	2.6%	3.1%
Q13_G (教団要求行為) 街中や戸別訪問の勧誘	何度も求められた	24.0%	23.0%	24.3%	25.0%	12.3%	17.0%	47.2%	14.5%	81.0%	19.1%	12.8%	35.6%	10.9%	12.3%
	たまに求められた	9.5%	7.6%	10.1%	15.6%	9.3%	14.0%	8.4%	8.6%	6.5%	17.0%	9.3%	9.8%	9.0%	7.7%
	あまり求められな	17.7%	15.7%	18.5%	25.0%	21.1%	24.0%	9.0%	19.6%	3.0%	17.0%	19.7%	15.7%	19.7%	21.5%
	まったく求められ	44.9%	49.9%	43.0%	34.4%	52.9%	42.0%	31.9%	52.8%	4.2%	42.6%	55.2%	34.8%	56.6%	55.4%
	無回答/おぼえて	3.9%	3.8%	4.0%	0.0%	4.4%	3.0%	3.5%	4.4%	5.4%	4.3%	3.0%	4.1%	3.7%	3.1%
Q13_H (教団要求行為) 友人・知人への勧誘	何度も求められた	28.1%	27.4%	28.5%	31.3%	28.8%	15.0%	31.9%	29.9%	52.4%	14.9%	17.6%	34.4%	23.2%	6.2%
	たまに求められた	18.4%	15.7%	19.2%	25.0%	19.5%	18.0%	17.1%	19.6%	16.7%	10.6%	16.7%	19.2%	18.3%	16.9%
	あまり求められな	19.1%	17.5%	20.2%	15.6%	18.5%	29.0%	18.8%	18.7%	15.5%	23.4%	20.6%	17.1%	19.5%	30.8%
	まったく求められ	30.9%	36.4%	28.3%	28.1%	30.0%	35.0%	28.4%	28.5%	9.5%	46.8%	42.4%	25.3%	36.2%	43.1%
	無回答/おぼえて	3.4%	2.9%	3.8%	0.0%	3.3%	3.0%	3.8%	3.3%	6.0%	4.3%	2.7%	4.0%	2.8%	3.1%
Q13_I (教団要求行為) 祈りの時間確保	何度も求められた	58.3%	52.2%	61.0%	65.6%	57.4%	47.0%	64.3%	61.2%	83.9%	66.0%	43.0%	65.7%	52.9%	32.3%
	たまに求められた	16.0%	18.7%	14.6%	12.5%	17.5%	22.0%	13.3%	17.8%	5.4%	14.9%	17.6%	13.6%	17.9%	24.6%
	あまり求められな	9.5%	10.8%	8.9%	9.4%	9.7%	15.0%	7.2%	8.6%	2.4%	4.3%	14.0%	7.0%	11.6%	16.9%
	まったく求められ	12.9%	15.5%	11.9%	12.5%	13.1%	13.0%	10.4%	10.3%	1.8%	10.6%	21.8%	9.8%	15.1%	23.1%
	無回答/おぼえて	3.4%	2.9%	3.6%	0.0%	2.3%	3.0%	4.6%	2.1%	6.5%	4.3%	3.6%	4.0%	2.6%	3.1%
Q13_J (教団要求行為) 自分の身体を酷使する修	何度も求められた	6.6%	5.2%	6.7%	18.8%	5.9%	5.0%	7.2%	5.6%	6.0%	23.4%	7.5%	9.3%	2.8%	6.2%
	たまに求められた	4.9%	3.8%	5.1%	9.4%	3.4%	10.0%	4.6%	2.8%	3.6%	23.4%	5.7%	6.1%	3.7%	3.1%
	あまり求められな	20.9%	16.6%	22.8%	28.1%	19.6%	28.0%	22.0%	17.1%	27.4%	17.0%	20.0%	23.0%	17.9%	18.5%
	まったく求められ	64.5%	72.0%	61.7%	43.8%	67.6%	54.0%	64.1%	71.0%	61.3%	29.8%	63.3%	57.8%	72.9%	72.3%
	無回答/おぼえて	3.2%	2.3%	3.6%	0.0%	3.4%	3.0%	2.0%	3.5%	1.8%	6.4%	3.6%	3.8%	2.8%	0.0%
Q14_A (家族要求行為) 儀式等への出席	何度も求められた	68.9%	60.6%	72.3%	78.1%	63.7%	62.0%	80.9%	64.7%	92.9%	80.9%	62.7%	75.8%	61.9%	52.3%
	たまに求められた	19.8%	25.1%	17.9%	9.4%	24.9%	19.0%	10.7%	25.5%	3.6%	12.8%	22.4%	14.6%	26.5%	26.2%
	あまり求められな	6.1%	7.3%	5.4%	6.3%	6.5%	12.0%	4.1%	5.8%	0.6%	4.3%	7.8%	5.1%	6.3%	10.8%



宗教二世調査 集計表		性自認				入信宗教タイプ			教団名				何世		
		全体	男性	女性	Xジェンダー・その他	仏教系	神道系	キリスト教系	創価学会	工ホバの証人	旧統一教会	その他	2世	3世	4世以上
		n=1131	n=343	n=741	n=32	n=611	n=100	n=345	n=428	n=168	n=47	n=335	n=604	n=431	n=65
	まったく求められ 無回答/おぼえて	3.9% 1.3%	6.4% 0.6%	2.6% 1.8%	6.3% 0.0%	3.9% 1.0%	4.0% 3.0%	2.9% 1.4%	3.0% 0.9%	1.2% 1.8%	0.0% 2.1%	5.7% 1.5%	2.8% 1.7%	4.6% 0.7%	9.2% 1.5%
Q14_B (家族要求行為) 教団への献金	何度も求められた たみに求められた あまり求められな まったく求められ 無回答/おぼえて	17.3% 16.0% 24.8% 39.2% 2.7%	11.4% 15.7% 25.1% 46.1% 1.7%	19.6% 16.3% 24.6% 36.4% 3.1%	31.3% 9.4% 25.0% 31.3% 3.1%	14.1% 15.2% 22.4% 45.0% 3.3%	23.0% 14.0% 25.0% 36.0% 2.0%	21.2% 18.8% 29.6% 28.7% 1.7%	12.1% 15.0% 21.3% 48.6% 3.0%	9.5% 17.3% 32.7% 36.9% 3.6%	42.6% 21.3% 27.7% 8.5% 0.0%	25.4% 17.0% 22.1% 33.4% 2.1%	19.9% 15.4% 26.2% 35.4% 3.1%	13.2% 16.5% 23.9% 44.5% 1.9%	24.6% 16.9% 20.0% 36.9% 1.5%
Q14_C (家族要求行為) 社会奉仕活動への参加	何度も求められた たみに求められた あまり求められな まったく求められ 無回答/おぼえて	16.3% 13.2% 22.7% 45.1% 2.7%	10.2% 14.6% 22.2% 52.8% 0.3%	18.2% 12.4% 22.9% 42.4% 4.0%	31.3% 15.6% 25.0% 28.1% 0.0%	10.6% 13.3% 24.1% 49.3% 2.8%	20.0% 18.0% 26.0% 33.0% 3.0%	24.6% 11.0% 21.2% 40.9% 2.3%	7.2% 11.0% 24.5% 54.7% 2.6%	33.9% 7.7% 16.1% 39.9% 2.4%	27.7% 17.0% 23.4% 27.7% 4.3%	19.1% 16.1% 22.7% 38.8% 3.3%	21.9% 13.2% 20.9% 40.2% 3.8%	9.5% 12.3% 23.9% 52.7% 1.6%	12.3% 20.0% 27.7% 40.0% 0.0%
Q14_D (家族要求行為) 教団関連団体への所属等	何度も求められた たみに求められた あまり求められな まったく求められ 無回答/おぼえて	24.0% 14.7% 19.9% 39.3% 2.2%	17.8% 13.4% 20.1% 47.8% 0.9%	26.6% 15.0% 20.0% 35.8% 2.7%	34.4% 25.0% 12.5% 25.0% 3.1%	19.3% 14.4% 22.7% 41.4% 2.1%	26.0% 21.0% 18.0% 34.0% 1.0%	30.4% 13.0% 17.4% 36.8% 2.3%	17.8% 13.6% 22.7% 44.2% 1.9%	40.5% 9.5% 14.3% 32.7% 3.0%	29.8% 25.5% 19.1% 21.3% 4.3%	24.5% 16.4% 16.4% 40.6% 2.1%	29.5% 14.2% 17.4% 35.9% 3.0%	17.4% 15.1% 23.0% 43.6% 0.9%	20.0% 16.9% 21.5% 40.0% 1.5%
Q14_E (家族要求行為) 選挙集会への動員	何度も求められた たみに求められた あまり求められな まったく求められ 無回答/おぼえて	14.2% 8.2% 21.2% 54.6% 1.7%	11.7% 6.7% 17.8% 63.3% 0.6%	15.0% 8.8% 23.2% 50.9% 2.2%	25.0% 15.6% 18.8% 37.5% 3.1%	22.4% 12.4% 21.9% 41.1% 2.1%	7.0% 3.0% 30.0% 60.0% 0.0%	3.2% 2.3% 18.3% 75.1% 1.2%	27.3% 15.4% 20.8% 35.3% 1.2%	0.6% 1.2% 18.5% 78.6% 1.2%	17.0% 8.5% 25.5% 44.7% 4.3%	6.3% 3.6% 20.3% 67.5% 2.4%	12.3% 6.1% 20.9% 58.6% 2.2%	17.6% 11.8% 22.0% 47.6% 0.9%	9.2% 4.6% 20.0% 66.2% 0.0%
Q14_F (家族要求行為) 知人への投票呼びかけ	何度も求められた たみに求められた あまり求められな まったく求められ 無回答/おぼえて	18.6% 8.3% 19.9% 51.5% 1.7%	14.9% 8.2% 18.7% 57.4% 0.9%	20.0% 8.4% 20.9% 48.6% 2.2%	28.1% 12.5% 15.6% 43.8% 0.0%	31.3% 14.1% 19.3% 33.4% 2.0%	4.0% 3.0% 32.0% 60.0% 1.0%	2.0% 0.3% 17.7% 78.8% 1.2%	39.0% 18.0% 17.8% 23.6% 1.6%	0.6% 0.0% 19.0% 79.2% 1.2%	12.8% 2.1% 25.5% 55.3% 4.3%	4.8% 2.7% 20.0% 70.7% 1.8%	14.7% 4.6% 21.0% 57.5% 2.2%	25.3% 13.7% 18.8% 41.1% 1.2%	9.2% 7.7% 16.9% 66.2% 0.0%
Q14_G (家族要求行為) 街中や戸別訪問の勧誘	何度も求められた たみに求められた あまり求められな まったく求められ 無回答/おぼえて	20.6% 5.7% 19.6% 51.6% 2.5%	18.7% 5.8% 16.6% 57.1% 1.7%	21.5% 5.0% 21.3% 49.3% 3.0%	21.9% 15.6% 18.8% 43.8% 0.0%	8.2% 4.1% 23.2% 61.5% 2.9%	13.0% 9.0% 30.0% 46.0% 2.0%	44.6% 7.0% 9.9% 36.5% 2.0%	9.1% 3.7% 22.2% 62.1% 2.8%	79.2% 8.9% 3.6% 6.0% 2.4%	10.6% 8.5% 25.5% 53.2% 2.1%	12.2% 3.9% 22.1% 59.4% 2.4%	32.3% 6.3% 17.9% 40.7% 2.8%	6.7% 5.3% 21.6% 64.0% 2.3%	7.7% 1.5% 23.1% 67.7% 0.0%
Q14_H (家族要求行為) 友人・知人への勧誘	何度も求められた たみに求められた あまり求められな まったく求められ 無回答/おぼえて	18.1% 14.5% 23.0% 42.1% 2.3%	14.0% 14.0% 21.9% 49.3% 0.9%	19.3% 14.6% 24.6% 38.5% 3.1%	31.3% 21.9% 6.3% 40.6% 0.0%	14.7% 15.1% 25.2% 42.6% 2.5%	9.0% 12.0% 26.0% 50.0% 3.0%	26.7% 14.2% 20.3% 36.8% 2.0%	15.0% 15.9% 23.4% 43.5% 2.3%	41.7% 16.7% 19.0% 19.6% 3.0%	8.5% 8.5% 25.5% 55.3% 2.1%	13.7% 13.1% 21.2% 49.9% 2.1%	24.2% 16.6% 22.7% 33.8% 2.8%	11.6% 13.7% 23.2% 49.9% 1.6%	6.2% 6.2% 26.2% 60.0% 1.5%
Q14_I (家族要求行為) 祈りの時間確保	何度も求められた たみに求められた	59.9% 19.9%	54.5% 23.0%	62.2% 18.4%	62.5% 21.9%	57.4% 22.1%	47.0% 24.0%	67.5% 16.2%	61.9% 22.7%	82.7% 10.7%	76.6% 12.8%	48.1% 19.7%	64.6% 17.1%	56.4% 23.7%	41.5% 18.5%

宗教二世調査 集計表		性自認				入信宗教タイプ			教団名				何世		
		全体	男性	女性	Xジェンダー ・その他	仏教系	神道系	キリスト 教系	創価学会	エホバの 証人	旧統一 教会	その他	2世	3世	4世以上
		n=1131	n=343	n=741	n=32	n=611	n=100	n=345	n=428	n=168	n=47	n=335	n=604	n=431	n=65
	あまり求められな まったく求められ 無回答/おぼえて	9.3%	9.0%	9.4%	9.4%	11.3%	12.0%	4.1%	9.6%	1.2%	4.3%	11.3%	7.6%	10.4%	15.4%
Q14_J (家族要求行為) 自分の身体を酷使する修	何度も求められた たまに求められた あまり求められな まったく求められ 無回答/おぼえて	7.8%	6.1%	8.0%	21.9%	6.4%	8.0%	8.7%	5.6%	7.1%	27.7%	9.0%	10.6%	4.2%	6.2%
Q15 男らしさに関わる教団の教えや活動	頻繁にあった たまにあった あまりなかった まったくなかった わからない、おぼ 無回答	22.4%	20.4%	22.8%	31.3%	11.8%	15.0%	41.4%	12.1%	57.1%	53.2%	17.3%	29.3%	14.2%	10.8%
Q17 女らしさにかかわる教団の教えや活動	頻繁にあった たまにあった あまりなかった まったくなかった わからない、おぼ 無回答	29.6%	20.4%	33.2%	43.8%	20.5%	20.0%	47.5%	18.7%	63.7%	55.3%	25.4%	37.3%	21.3%	15.4%
Q19 性的マイノリティに関する教団の教えや活	頻繁にあった たまにあった あまりなかった まったくなかった わからない、おぼ 無回答	16.6%	16.3%	15.8%	31.3%	1.1%	4.0%	47.5%	0.9%	66.7%	57.4%	9.3%	27.2%	3.5%	6.2%
Q21_A (教団の声かけ) 信者でない人々よりもあ	何度も言われた たまに言われた あまり言われなか 全く言われなかつ 無回答/おぼえて	25.8%	24.5%	25.8%	40.6%	21.8%	11.0%	35.7%	24.5%	47.0%	59.6%	18.5%	33.3%	19.5%	4.6%
Q21_B (教団の声かけ) あなたは神や教祖に選ば	何度も言われた たまに言われた あまり言われなか 全く言われなかつ 無回答/おぼえて	16.7%	15.5%	16.6%	28.1%	12.3%	15.0%	22.3%	13.8%	16.1%	70.2%	16.7%	22.2%	10.9%	7.7%
Q21_C (教団の声かけ) 他の信者も頑張ってるか	何度も言われた たまに言われた あまり言われなか	30.2%	28.0%	31.0%	34.4%	28.6%	17.0%	34.5%	32.0%	53.0%	40.4%	21.5%	35.9%	24.4%	13.8%
		18.9%	18.4%	18.8%	21.9%	20.8%	21.0%	17.1%	19.2%	12.5%	17.0%	20.3%	18.7%	19.3%	16.9%

宗教二世調査 集計表		性自認				入信宗教タイプ			教団名				何世		
		全体	男性	女性	Xジェンダー ・その他	仏教系	神道系	キリスト 教系	創価学会	エホバの 証人	旧統一 教会	その他	2世	3世	4世以上
		n=1131	n=343	n=741	n=32	n=611	n=100	n=345	n=428	n=168	n=47	n=335	n=604	n=431	n=65
全く言われなかつ 無回答/おぼえて	26.6%	30.9%	25.0%	21.9%	23.2%	35.0%	28.4%	19.2%	10.1%	17.0%	40.0%	21.0%	30.4%	52.3%	
	3.5%	2.3%	3.6%	12.5%	2.8%	5.0%	4.1%	2.6%	5.4%	6.4%	3.9%	3.8%	2.6%	4.6%	
Q21_D (教団の声がけ) 教義に反することはして	何度も言われた	42.3%	40.8%	42.5%	53.1%	32.6%	25.0%	64.3%	35.0%	88.7%	76.6%	28.1%	53.8%	29.7%	20.0%
	たまに言われた	18.9%	22.7%	17.0%	18.8%	21.6%	15.0%	17.1%	22.7%	6.0%	8.5%	20.6%	17.4%	20.9%	20.0%
	あまり言われなかつ	15.8%	13.4%	17.1%	12.5%	19.0%	26.0%	8.4%	18.9%	1.2%	8.5%	18.5%	12.3%	20.2%	18.5%
	全く言われなかつ	19.0%	19.5%	19.3%	9.4%	23.1%	29.0%	7.2%	19.2%	1.2%	0.0%	28.7%	12.3%	26.0%	35.4%
	無回答/おぼえて	4.0%	3.5%	4.0%	6.3%	3.8%	5.0%	2.9%	4.2%	3.0%	6.4%	4.2%	4.3%	3.2%	6.2%
Q21_E (教団の声がけ) 科学的知識や学校で学ん	何度も言われた	17.9%	16.6%	17.5%	34.4%	3.9%	12.0%	42.0%	3.3%	66.1%	31.9%	14.3%	29.5%	3.9%	6.2%
	たまに言われた	10.9%	10.8%	10.8%	18.8%	5.6%	13.0%	19.1%	6.1%	16.7%	27.7%	10.7%	14.4%	7.0%	7.7%
	あまり言われなかつ	20.2%	18.4%	21.5%	12.5%	23.7%	26.0%	13.9%	22.4%	9.5%	21.3%	22.4%	19.5%	20.4%	18.5%
	全く言われなかつ	46.9%	51.9%	45.1%	31.3%	62.4%	48.0%	20.6%	63.6%	2.4%	10.6%	49.0%	32.1%	64.7%	64.6%
	無回答/おぼえて	4.2%	2.3%	5.1%	3.1%	4.4%	1.0%	4.3%	4.7%	5.4%	8.5%	3.6%	4.5%	3.9%	3.1%
Q21_F (教団の声がけ) 教義を理由に、特定の学	何度も言われた	18.6%	19.2%	17.9%	21.9%	5.6%	2.0%	47.8%	6.3%	89.3%	4.3%	4.2%	31.0%	3.7%	4.6%
	たまに言われた	8.4%	7.9%	8.5%	12.5%	9.2%	7.0%	8.4%	11.7%	4.8%	4.3%	6.6%	8.1%	9.5%	4.6%
	あまり言われなかつ	18.3%	17.8%	18.6%	21.9%	20.9%	30.0%	10.1%	20.6%	1.2%	27.7%	22.4%	16.9%	19.5%	16.9%
	全く言われなかつ	50.6%	52.2%	50.2%	40.6%	60.4%	58.0%	30.4%	57.5%	0.6%	57.4%	62.7%	39.7%	63.3%	70.8%
	無回答/おぼえて	4.2%	2.9%	4.7%	3.1%	3.9%	3.0%	3.2%	4.0%	4.2%	6.4%	4.2%	4.3%	3.9%	3.1%
Q21_G (教団の声がけ) 「信心のおかげで成功で	何度も言われた	46.5%	38.8%	50.1%	59.4%	50.9%	45.0%	39.4%	54.7%	53.0%	42.6%	37.6%	48.2%	47.1%	29.2%
	たまに言われた	22.7%	25.1%	21.9%	15.6%	24.4%	23.0%	19.7%	25.5%	17.9%	23.4%	19.4%	21.5%	26.5%	13.8%
	あまり言われなかつ	11.5%	15.7%	9.9%	3.1%	11.0%	10.0%	14.2%	9.3%	12.5%	21.3%	12.2%	12.1%	10.0%	12.3%
	全く言われなかつ	15.3%	17.2%	14.3%	12.5%	10.5%	17.0%	22.0%	7.0%	11.3%	6.4%	27.2%	13.6%	13.5%	40.0%
	無回答/おぼえて	4.0%	3.2%	3.9%	9.4%	3.3%	5.0%	4.6%	3.5%	5.4%	6.4%	3.6%	4.6%	3.0%	4.6%
Q21_H (教団の声がけ) 「不信心なあなたのせい	何度も言われた	19.5%	15.2%	20.8%	40.6%	17.7%	22.0%	19.4%	16.1%	26.2%	36.2%	20.9%	24.3%	14.8%	4.6%
	たまに言われた	9.7%	10.8%	9.6%	3.1%	10.3%	11.0%	8.7%	11.9%	13.1%	12.8%	6.6%	10.4%	9.3%	6.2%
	あまり言われなかつ	20.3%	18.7%	21.1%	15.6%	21.6%	22.0%	18.8%	21.0%	19.6%	17.0%	17.0%	19.7%	21.1%	18.5%
	全く言われなかつ	46.5%	53.1%	44.1%	34.4%	47.8%	41.0%	47.5%	47.9%	32.7%	25.5%	52.5%	40.2%	52.7%	66.2%
	無回答/おぼえて	4.0%	2.3%	4.5%	6.3%	2.6%	4.0%	5.5%	3.0%	8.3%	8.5%	3.0%	5.3%	2.1%	4.6%
Q21_I (教団の声がけ) 「不信心なままだと、あ	何度も言われた	28.9%	23.0%	30.8%	50.0%	26.7%	27.0%	31.0%	26.9%	46.4%	38.3%	26.3%	34.6%	23.9%	9.2%
	たまに言われた	15.1%	16.3%	14.4%	15.6%	16.2%	12.0%	15.4%	17.5%	14.3%	25.5%	9.9%	16.1%	15.1%	6.2%
	あまり言われなかつ	17.2%	18.7%	17.1%	6.3%	19.5%	18.0%	13.9%	19.2%	13.7%	10.6%	17.6%	15.4%	19.0%	20.0%
	全く言われなかつ	35.1%	39.4%	33.7%	21.9%	34.9%	39.0%	35.4%	32.7%	19.6%	19.1%	43.6%	29.5%	39.4%	61.5%
	無回答/おぼえて	3.7%	2.6%	3.9%	6.3%	2.8%	4.0%	4.3%	3.7%	6.0%	6.4%	2.7%	4.5%	2.6%	3.1%
Q21_J (教団の声がけ) 「不信心だから、思っ	何度も言われた	20.6%	16.6%	22.0%	34.4%	21.1%	20.0%	16.5%	20.8%	21.4%	29.8%	22.4%	24.2%	17.6%	7.7%
	たまに言われた	10.8%	10.8%	10.8%	9.4%	11.5%	13.0%	10.4%	12.4%	13.7%	14.9%	6.3%	12.1%	9.5%	4.6%
	あまり言われなかつ	21.1%	23.9%	20.0%	21.9%	21.4%	20.0%	21.7%	21.5%	24.4%	21.3%	19.4%	22.2%	19.7%	21.5%
	全く言われなかつ	43.1%	46.1%	42.4%	28.1%	42.7%	43.0%	45.8%	41.8%	33.3%	23.4%	48.7%	35.8%	50.6%	63.1%
	無回答/おぼえて	4.3%	2.6%	4.9%	6.3%	3.3%	4.0%	5.5%	3.5%	7.1%	10.6%	3.3%	5.8%	2.6%	3.1%
Q22_A (家族の声がけ) 信者でない人々よりもあ	何度も言われた	18.8%	17.2%	19.6%	25.0%	15.2%	12.0%	24.9%	16.4%	31.0%	48.9%	16.1%	23.8%	14.6%	6.2%
	たまに言われた	15.6%	14.9%	15.7%	18.8%	14.7%	20.0%	16.8%	14.7%	19.0%	17.0%	13.7%	16.6%	15.1%	9.2%

宗教二世調査 集計表		性自認				入信宗教タイプ			教団名				何世		
		全体	男性	女性	Xジェンダー ・その他	仏教系	神道系	キリスト 教系	創価学会	エホバの 証人	旧統一 教会	その他	2世	3世	4世以上
		n=1131	n=343	n=741	n=32	n=611	n=100	n=345	n=428	n=168	n=47	n=335	n=604	n=431	n=65
	あまり言われなかつた	21.0%	19.0%	22.4%	15.6%	22.4%	29.0%	17.1%	22.4%	16.7%	17.0%	20.9%	20.9%	21.6%	16.9%
	全く言われなかつた	42.1%	47.2%	39.7%	34.4%	45.5%	38.0%	37.7%	44.4%	28.6%	10.6%	47.5%	35.6%	46.6%	67.7%
	無回答/おぼえていない	2.5%	1.7%	2.7%	6.3%	2.1%	1.0%	3.5%	2.1%	4.8%	6.4%	1.8%	3.1%	2.1%	0.0%
Q22_B (家族の声かけ) あなたは神や教祖に選ば	何度も言われた	13.6%	12.5%	13.9%	21.9%	8.8%	14.0%	19.1%	9.3%	13.1%	57.4%	16.4%	18.5%	8.4%	6.2%
	たまに言われた	11.1%	12.8%	10.1%	18.8%	9.7%	14.0%	13.3%	9.6%	10.1%	21.3%	11.6%	11.8%	10.0%	12.3%
	あまり言われなかつた	21.4%	21.0%	22.0%	12.5%	20.3%	27.0%	23.2%	18.7%	28.0%	12.8%	21.8%	22.8%	19.0%	20.0%
	全く言われなかつた	51.7%	52.2%	51.6%	43.8%	59.2%	45.0%	41.4%	60.3%	45.2%	4.3%	48.7%	44.5%	60.6%	60.0%
	無回答/おぼえていない	2.1%	1.5%	2.4%	3.1%	2.0%	0.0%	2.9%	2.1%	3.6%	4.3%	1.5%	2.3%	2.1%	1.5%
Q22_C (家族の声かけ) 他の信者も頑張ってるか	何度も言われた	25.2%	21.0%	27.0%	34.4%	22.9%	21.0%	29.9%	25.5%	44.0%	29.8%	20.3%	32.5%	17.6%	12.3%
	たまに言われた	18.3%	16.3%	19.7%	12.5%	18.5%	18.0%	18.6%	20.3%	23.2%	25.5%	11.6%	17.9%	20.2%	13.8%
	あまり言われなかつた	21.1%	22.4%	20.5%	18.8%	23.1%	20.0%	20.0%	20.1%	19.6%	21.3%	20.3%	20.7%	20.9%	21.5%
	全く言われなかつた	33.6%	39.1%	31.0%	25.0%	34.0%	39.0%	29.9%	32.5%	10.7%	19.1%	46.3%	27.0%	39.9%	50.8%
	無回答/おぼえていない	1.8%	1.2%	1.8%	9.4%	1.5%	2.0%	1.7%	1.6%	2.4%	4.3%	1.5%	2.0%	1.4%	1.5%
Q22_D (家族の声かけ) 教義に反することはして	何度も言われた	42.2%	39.1%	42.8%	68.8%	31.1%	27.0%	66.4%	33.4%	86.3%	74.5%	32.5%	53.8%	29.5%	20.0%
	たまに言われた	19.9%	21.9%	19.6%	6.3%	22.6%	22.0%	15.1%	23.1%	8.3%	12.8%	19.7%	18.5%	22.7%	12.3%
	あまり言われなかつた	14.4%	14.0%	14.6%	12.5%	18.2%	25.0%	6.7%	18.0%	0.6%	8.5%	16.7%	9.9%	18.1%	29.2%
	全く言われなかつた	21.9%	23.3%	21.6%	9.4%	26.8%	24.0%	10.1%	24.5%	2.4%	4.3%	29.3%	15.7%	29.0%	33.8%
	無回答/おぼえていない	1.6%	1.7%	1.5%	3.1%	1.3%	2.0%	1.7%	0.9%	2.4%	0.0%	1.8%	2.0%	0.7%	4.6%
Q22_E (家族の声かけ) 科学的知識や学校で学ん	何度も言われた	17.4%	15.2%	17.5%	37.5%	4.9%	15.0%	38.6%	4.7%	59.5%	23.4%	14.0%	27.6%	5.3%	6.2%
	たまに言われた	11.6%	11.4%	11.3%	18.8%	6.4%	11.0%	19.7%	6.5%	20.8%	21.3%	11.6%	15.7%	6.5%	9.2%
	あまり言われなかつた	18.6%	15.2%	20.8%	6.3%	20.6%	26.0%	14.5%	19.9%	9.5%	29.8%	21.2%	18.5%	17.6%	16.9%
	全く言われなかつた	49.9%	56.0%	47.5%	37.5%	65.1%	47.0%	25.2%	66.1%	7.1%	21.3%	51.0%	35.4%	67.5%	67.7%
	無回答/おぼえていない	2.6%	2.3%	2.8%	0.0%	2.9%	1.0%	2.0%	2.8%	3.0%	4.3%	2.1%	2.6%	3.0%	0.0%
Q22_F (家族の声かけ) 教義を理由に、特定の学	何度も言われた	21.0%	21.0%	20.6%	28.1%	9.5%	6.0%	48.1%	11.2%	87.5%	4.3%	6.9%	32.6%	7.4%	4.6%
	たまに言われた	8.7%	7.6%	9.3%	9.4%	10.3%	4.0%	7.8%	12.6%	5.4%	2.1%	6.3%	6.8%	11.6%	9.2%
	あまり言われなかつた	17.9%	15.5%	18.6%	25.0%	20.5%	27.0%	10.7%	20.6%	1.2%	23.4%	21.2%	16.1%	19.3%	18.5%
	全く言われなかつた	50.7%	54.5%	49.4%	37.5%	58.4%	62.0%	32.2%	54.2%	4.2%	68.1%	63.9%	42.2%	60.3%	67.7%
	無回答/おぼえていない	1.8%	1.5%	2.0%	0.0%	1.3%	1.0%	1.2%	1.4%	1.8%	2.1%	1.8%	2.3%	1.4%	0.0%
Q22_G (家族の声かけ) 「信心のおかげで成功で	何度も言われた	38.8%	30.9%	42.1%	56.3%	42.6%	38.0%	30.1%	46.5%	38.7%	34.0%	34.6%	40.4%	39.0%	21.5%
	たまに言われた	22.7%	23.0%	22.8%	15.6%	23.7%	23.0%	21.4%	23.1%	20.2%	27.7%	20.0%	21.4%	26.2%	18.5%
	あまり言われなかつた	14.2%	15.5%	14.2%	6.3%	14.1%	16.0%	15.1%	12.4%	14.3%	23.4%	13.7%	15.6%	12.1%	15.4%
	全く言われなかつた	22.3%	29.2%	18.9%	15.6%	18.0%	21.0%	30.7%	16.4%	23.2%	12.8%	30.1%	20.4%	21.3%	43.1%
	無回答/おぼえていない	1.9%	1.5%	2.0%	6.3%	1.6%	2.0%	2.6%	1.6%	3.6%	2.1%	1.5%	2.3%	1.4%	1.5%
Q22_H (家族の声かけ) 「不信心なあなたのせい	何度も言われた	18.3%	14.0%	19.8%	37.5%	17.0%	14.0%	18.6%	16.8%	25.0%	31.9%	17.6%	23.3%	14.2%	0.0%
	たまに言われた	8.7%	8.7%	8.6%	6.3%	7.2%	17.0%	9.3%	7.2%	14.9%	2.1%	8.7%	10.3%	7.0%	6.2%
	あまり言われなかつた	20.4%	17.8%	21.9%	15.6%	21.1%	24.0%	20.3%	20.8%	20.2%	25.5%	18.8%	20.7%	19.3%	21.5%
	全く言われなかつた	50.4%	57.7%	47.4%	34.4%	53.0%	43.0%	49.0%	53.5%	35.7%	34.0%	53.1%	42.7%	58.5%	70.8%
	無回答/おぼえていない	2.2%	1.7%	2.3%	6.3%	1.6%	2.0%	2.9%	1.6%	4.2%	6.4%	1.8%	3.0%	1.2%	1.5%
Q22_I (家族の声かけ) 「不信心なままだと、あ	何度も言われた	29.8%	23.6%	32.0%	50.0%	29.0%	26.0%	29.9%	29.4%	43.5%	34.0%	26.3%	35.8%	25.5%	9.2%

宗教二世調査 集計表		性自認				入信宗教タイプ			教団名				何世		
		全体	男性	女性	Xジェンダー ・その他	仏教系	神道系	キリスト 教系	創価学会	工ホバの 証人	旧統一 教会	その他	2世	3世	4世以上
		n=1131	n=343	n=741	n=32	n=611	n=100	n=345	n=428	n=168	n=47	n=335	n=604	n=431	n=65
	たまに言われた	13.5%	13.1%	13.5%	18.8%	12.9%	17.0%	14.2%	12.6%	14.9%	17.0%	13.7%	13.6%	13.0%	12.3%
	あまり言われなかつ	17.5%	17.5%	18.2%	3.1%	19.0%	22.0%	15.9%	18.5%	13.7%	21.3%	15.5%	15.6%	19.3%	21.5%
	全く言われなかつ	37.6%	44.9%	34.5%	21.9%	38.3%	33.0%	37.7%	38.6%	24.4%	25.5%	43.0%	32.8%	41.8%	56.9%
	無回答/おぼえて	1.6%	0.9%	1.8%	6.3%	0.8%	2.0%	2.3%	0.9%	3.6%	2.1%	1.5%	2.3%	0.5%	0.0%
Q22_J (家族の声かけ) 「不信心だから、思っ	何度も言われた	22.7%	16.6%	25.0%	46.9%	24.5%	23.0%	17.7%	24.8%	21.4%	25.5%	22.7%	26.0%	19.5%	10.8%
	たまに言われた	10.4%	10.5%	10.4%	6.3%	11.3%	11.0%	9.3%	11.4%	13.1%	10.6%	9.0%	9.8%	12.1%	6.2%
	あまり言われなかつ	19.4%	21.3%	18.9%	12.5%	19.0%	22.0%	20.6%	19.6%	23.8%	21.3%	16.4%	20.5%	17.6%	21.5%
	全く言われなかつ	45.5%	50.7%	43.3%	31.3%	44.2%	42.0%	49.6%	43.2%	36.3%	42.6%	50.4%	40.7%	50.1%	61.5%
	無回答/おぼえて	1.9%	0.9%	2.4%	3.1%	1.0%	2.0%	2.9%	0.9%	5.4%	0.0%	1.5%	3.0%	0.7%	0.0%
Q13_A (教団要求) 儀式出席_2区分	あった	84.2%	81.3%	85.9%	75.0%	85.9%	78.4%	84.7%	90.8%	95.6%	82.2%	72.8%	86.1%	84.5%	72.3%
※「2区分」としたものは、「何度もあった」「たまにあった」を「あった」と、「あまりなかった」と「全くなかった」を「なかった」と再カテゴリー化した数値	なかった	15.8%	18.7%	14.1%	25.0%	14.1%	21.6%	15.3%	9.2%	4.4%	17.8%	27.2%	13.9%	15.5%	27.7%
Q13_B (教団要求) 教団への献金	あった	42.8%	36.9%	45.3%	51.7%	37.1%	42.6%	53.3%	36.6%	50.9%	75.0%	46.4%	48.8%	36.4%	38.1%
	なかった	57.2%	63.1%	54.7%	48.3%	62.9%	57.4%	46.7%	63.4%	49.1%	25.0%	53.6%	51.2%	63.6%	61.9%
Q13_C (教団要求) 社会奉仕活動への参加_2区分	あった	36.0%	27.5%	39.5%	43.8%	29.7%	46.3%	42.5%	23.3%	43.8%	67.4%	41.9%	39.9%	31.0%	41.3%
	なかった	64.0%	72.5%	60.5%	56.3%	70.3%	53.7%	57.5%	76.7%	56.2%	32.6%	58.1%	60.1%	69.0%	58.7%
Q13_D (教団要求) 教団関連団体への所属等_2区分	あった	43.0%	38.2%	45.2%	48.4%	38.9%	45.3%	49.1%	37.9%	57.9%	60.5%	41.2%	47.0%	38.4%	36.5%
	なかった	57.0%	61.8%	54.8%	51.6%	61.1%	54.7%	50.9%	62.1%	42.1%	39.5%	58.8%	53.0%	61.6%	63.5%
Q13_E (教団要求) 選挙集会への動員_2区分	あった	31.8%	31.1%	32.2%	36.7%	51.4%	8.3%	6.5%	61.3%	2.5%	27.3%	11.2%	25.2%	43.5%	17.5%
	なかった	68.2%	68.9%	67.8%	63.3%	48.6%	91.7%	93.5%	38.7%	97.5%	72.7%	88.8%	74.8%	56.5%	82.5%
Q13_F (教団要求) 知人への投票呼びかけ_2区分	あった	35.8%	36.0%	35.9%	40.6%	60.1%	12.2%	3.5%	74.3%	0.0%	25.0%	9.9%	26.0%	52.6%	17.5%
	なかった	64.2%	64.0%	64.1%	59.4%	39.9%	87.8%	96.5%	25.7%	100.0%	75.0%	90.1%	74.0%	47.4%	82.5%
Q13_G (教団要求) 街中や戸別訪問の勧誘_2区分	あった	34.9%	31.8%	35.9%	40.6%	22.6%	32.0%	57.7%	24.2%	92.5%	37.8%	22.8%	47.3%	20.7%	20.6%
	なかった	65.1%	68.2%	64.1%	59.4%	77.4%	68.0%	42.3%	75.8%	7.5%	62.2%	77.2%	52.7%	79.3%	79.4%
Q13_H (教団要求) 友人・知人への勧誘_2区分	あった	48.2%	44.4%	49.5%	56.3%	49.9%	34.0%	50.9%	51.2%	73.4%	26.7%	35.3%	55.9%	42.7%	23.8%
	なかった	51.8%	55.6%	50.5%	43.8%	50.1%	66.0%	49.1%	48.8%	26.6%	73.3%	64.7%	44.1%	57.3%	76.2%
Q13_I (教団要求) 祈りの時間確保_2区分	あった	76.9%	73.0%	78.4%	78.1%	76.7%	71.1%	81.5%	80.7%	95.5%	84.4%	62.8%	82.6%	72.6%	58.7%
	なかった	23.1%	27.0%	21.6%	21.9%	23.3%	28.9%	18.5%	19.3%	4.5%	15.6%	37.2%	17.4%	27.4%	41.3%
Q13_J (教団要求) 自分の身体を酷使修行_2区分	あった	11.9%	9.3%	12.3%	28.1%	9.7%	15.5%	12.1%	8.7%	9.7%	50.0%	13.6%	16.0%	6.7%	9.2%
	なかった	88.1%	90.7%	87.7%	71.9%	90.3%	84.5%	87.9%	91.3%	90.3%	50.0%	86.4%	84.0%	93.3%	90.8%
Q14_A (家族要求) 儀式等への出席_2区分	あった	89.9%	86.2%	91.9%	87.5%	89.4%	83.5%	92.9%	91.0%	98.2%	95.7%	86.4%	91.9%	89.0%	79.7%
	なかった	10.1%	13.8%	8.1%	12.5%	10.6%	16.5%	7.1%	9.0%	1.8%	4.3%	13.6%	8.1%	11.0%	20.3%
Q14_B (家族要求) 教団への献金_2区分	あった	34.2%	27.6%	37.0%	41.9%	30.3%	37.8%	40.7%	28.0%	27.8%	63.8%	43.3%	36.4%	30.3%	42.2%
	なかった	65.8%	72.4%	63.0%	58.1%	69.7%	62.2%	59.3%	72.0%	72.2%	36.2%	56.7%	63.6%	69.7%	57.8%
Q14_C (家族要求) 社会奉仕活動への参加_2区分	あった	30.3%	24.9%	31.9%	46.9%	24.6%	39.2%	36.5%	18.7%	42.7%	46.7%	36.4%	36.5%	22.2%	32.3%
	なかった	69.7%	75.1%	68.1%	53.1%	75.4%	60.8%	63.5%	81.3%	57.3%	53.3%	63.6%	63.5%	77.8%	67.7%
Q14_D (家族要求) 教団関連団体への所属等_2区分	あった	39.5%	31.5%	42.7%	61.3%	34.4%	47.5%	44.5%	31.9%	51.5%	57.8%	41.8%	45.1%	32.8%	37.5%
	なかった	60.5%	68.5%	57.3%	38.7%	65.6%	52.5%	55.5%	68.1%	48.5%	42.2%	58.2%	54.9%	67.2%	62.5%
Q14_E (家族要求) 選挙集会への動員_2区分	あった	22.8%	18.5%	24.3%	41.9%	35.6%	10.0%	5.6%	43.3%	1.8%	26.7%	10.1%	18.8%	29.7%	13.8%
	なかった	77.2%	81.5%	75.7%	58.1%	64.4%	90.0%	94.4%	56.7%	98.2%	73.3%	89.9%	81.2%	70.3%	86.2%

宗教二世調査 集計表		性自認				入信宗教タイプ			教団名				何世		
		全体	男性	女性	Xジェンダー・その他	仏教系	神道系	キリスト教系	創価学会	エホバの証人	旧統一教会	その他	2世	3世	4世以上
		n=1131	n=343	n=741	n=32	n=611	n=100	n=345	n=428	n=168	n=47	n=335	n=604	n=431	n=65
Q14_F (家族要求) 知人への投票呼びかけ_2区分	あった	27.3%	23.2%	29.0%	40.6%	46.2%	7.1%	2.3%	58.0%	0.6%	15.6%	7.6%	19.8%	39.4%	16.9%
	なかった	72.7%	76.8%	71.0%	59.4%	53.8%	92.9%	97.7%	42.0%	99.4%	84.4%	92.4%	80.2%	60.6%	83.1%
Q14_G (家族要求) 街中や戸別訪問の勧誘_2区分	あった	26.9%	24.9%	27.3%	37.5%	12.6%	22.4%	52.7%	13.2%	90.2%	19.6%	16.5%	39.7%	12.4%	9.2%
	なかった	73.1%	75.1%	72.7%	62.5%	87.4%	77.6%	47.3%	86.8%	9.8%	80.4%	83.5%	60.3%	87.6%	90.8%
Q14_H (家族要求) 友人・知人への勧誘_2区分	あった	33.4%	28.2%	35.0%	53.1%	30.5%	21.6%	41.7%	31.6%	60.1%	17.4%	27.4%	41.9%	25.7%	12.5%
	なかった	66.6%	71.8%	65.0%	46.9%	69.5%	78.4%	58.3%	68.4%	39.9%	82.6%	72.6%	58.1%	74.3%	87.5%
Q14_I (家族行為) 祈りの時間確保_2区分	あった	81.0%	78.5%	82.0%	84.4%	80.5%	73.2%	85.3%	85.4%	95.2%	89.4%	69.0%	83.3%	80.6%	60.9%
	なかった	19.0%	21.5%	18.0%	15.6%	19.5%	26.8%	14.7%	14.6%	4.8%	10.6%	31.0%	16.7%	19.4%	39.1%
Q14_J (家族行為) 自分の身体を酷使修行_2区分	あった	13.1%	9.8%	13.3%	40.6%	10.4%	17.3%	13.9%	9.6%	13.4%	44.7%	13.7%	17.7%	7.0%	10.9%
	なかった	86.9%	90.2%	86.7%	59.4%	89.6%	82.7%	86.1%	90.4%	86.6%	55.3%	86.3%	82.3%	93.0%	89.1%
Q15教団の男らしさ規範見聞き経験_2区分	あった	48.5%	46.4%	49.0%	63.6%	34.8%	50.0%	68.4%	34.8%	88.4%	78.0%	41.7%	57.5%	37.0%	32.1%
	なかった	51.5%	53.6%	51.0%	36.4%	65.2%	50.0%	31.6%	65.2%	11.6%	22.0%	58.3%	42.5%	63.0%	67.9%
Q17教団の女らしさ規範見聞き経験_2区分	あった	58.7%	49.6%	61.9%	78.3%	48.2%	54.7%	76.5%	47.3%	92.5%	84.6%	53.0%	66.6%	50.1%	41.4%
	なかった	41.3%	50.4%	38.1%	21.7%	51.8%	45.3%	23.5%	52.7%	7.5%	15.4%	47.0%	33.4%	49.9%	58.6%
Q19教団のセクマイネガ規範見聞き経験_2区分	あった	37.6%	34.4%	37.0%	77.3%	7.1%	25.0%	82.8%	7.2%	94.2%	90.5%	31.8%	54.1%	14.3%	20.4%
	なかった	62.4%	65.6%	63.0%	22.7%	92.9%	75.0%	17.2%	92.8%	5.8%	9.5%	68.2%	45.9%	85.7%	79.6%
Q21_A (教団) あなたは優れている_2区分	言われた	43.6%	40.4%	44.8%	51.6%	38.8%	33.0%	54.1%	43.1%	68.3%	86.0%	34.0%	52.3%	36.8%	15.9%
	言われなかった	56.4%	59.6%	55.2%	48.4%	61.2%	67.0%	45.9%	56.9%	31.7%	14.0%	66.0%	47.7%	63.2%	84.1%
Q21_B (教団) 特別な子だ_2区分 ※「2区分」としたのは、「何度も言われた」「たまに言われた」を「言われた」と、「あまり言われなかった」と「全く言われなかった」を「言われなかった」と再カテゴリー化した数値	言われた	29.8%	28.7%	29.3%	51.6%	23.2%	30.5%	38.7%	24.7%	28.8%	86.7%	31.6%	36.5%	22.5%	19.0%
	言われなかった	70.2%	71.3%	70.7%	48.4%	76.8%	69.5%	61.3%	75.3%	71.3%	13.3%	68.4%	63.5%	77.5%	81.0%
Q21_C (教団) 他信者頑張ってるから頑張れ_2区分	言われた	52.8%	49.6%	54.6%	50.0%	54.7%	41.1%	52.6%	60.7%	76.1%	63.6%	37.3%	58.7%	49.0%	27.4%
	言われなかった	47.2%	50.4%	45.4%	50.0%	45.3%	58.9%	47.4%	39.3%	23.9%	36.4%	62.7%	41.3%	51.0%	72.6%
Q21_D (教団) 教義に反してはだめ_2区分	言われた	63.7%	65.9%	62.0%	76.7%	56.3%	42.1%	83.9%	60.2%	97.5%	90.9%	50.8%	74.4%	52.3%	42.6%
	言われなかった	36.3%	34.1%	38.0%	23.3%	43.7%	57.9%	16.1%	39.8%	2.5%	9.1%	49.2%	25.6%	47.7%	57.4%
Q21_E (教団) 科学的知識まちがってる_2区分	言われた	30.0%	28.1%	29.9%	54.8%	9.9%	25.3%	63.9%	9.8%	87.4%	65.1%	26.0%	45.9%	11.4%	14.3%
	言われなかった	70.0%	71.9%	70.1%	45.2%	90.1%	74.7%	36.1%	90.2%	12.6%	34.9%	74.0%	54.1%	88.6%	85.7%
Q21_F (教団) 学校行事参加の禁止_2区分	言われた	28.1%	27.9%	27.8%	35.5%	15.3%	9.3%	58.1%	18.7%	98.1%	9.1%	11.2%	40.8%	13.8%	9.5%
	言われなかった	71.9%	72.1%	72.2%	64.5%	84.7%	90.7%	41.9%	81.3%	1.9%	90.9%	88.8%	59.2%	86.2%	90.5%
Q21_G (教団) 信心のおかげで成功_2区分	言われた	72.1%	66.0%	74.9%	82.8%	77.8%	71.6%	62.0%	83.1%	74.8%	70.5%	59.1%	73.1%	75.8%	45.2%
	言われなかった	27.9%	34.0%	25.1%	17.2%	22.2%	28.4%	38.0%	16.9%	25.2%	29.5%	40.9%	26.9%	24.2%	54.8%
Q21_H (教団) 不信心なあなたのせい_2区分	言われた	30.4%	26.6%	31.8%	46.7%	28.7%	34.4%	29.8%	28.9%	42.9%	53.5%	28.3%	36.7%	24.6%	11.3%
	言われなかった	69.6%	73.4%	68.2%	53.3%	71.3%	65.6%	70.2%	71.1%	57.1%	46.5%	71.7%	63.3%	75.4%	88.7%
Q21_I (教団) 不信心なままだと家族不幸_2区分	言われた	45.7%	40.4%	47.1%	70.0%	44.1%	40.6%	48.5%	46.1%	64.6%	68.2%	37.1%	53.0%	40.0%	15.9%
	言われなかった	54.3%	59.6%	52.9%	30.0%	55.9%	59.4%	51.5%	53.9%	35.4%	31.8%	62.9%	47.0%	60.0%	84.1%
Q21_J (教団) 不信心だから失敗_2区分	言われた	32.8%	28.1%	34.5%	46.7%	33.7%	34.4%	28.5%	34.4%	37.8%	50.0%	29.6%	38.5%	27.9%	12.7%
	言われなかった	67.2%	71.9%	65.5%	53.3%	66.3%	65.6%	71.5%	65.6%	62.2%	50.0%	70.4%	61.5%	72.1%	87.3%
Q22_A (家族) あなたは優れている_2区分	言われた	35.3%	32.6%	36.2%	46.7%	30.6%	32.3%	43.2%	31.7%	52.5%	70.5%	30.4%	41.7%	30.3%	15.4%
	言われなかった	64.7%	67.4%	63.8%	53.3%	69.4%	67.7%	56.8%	68.3%	47.5%	29.5%	69.6%	58.3%	69.7%	84.6%

宗教二世調査 集計表		性自認				入信宗教タイプ			教団名				何世		
		全体	男性	女性	Xジェンダー・その他	仏教系	神道系	キリスト教系	創価学会	エホバの証人	旧統一教会	その他	2世	3世	4世以上
		n=1131	n=343	n=741	n=32	n=611	n=100	n=345	n=428	n=168	n=47	n=335	n=604	n=431	n=65
Q22_B (家族) 特別な子だ_2区分	言われた	25.3%	25.7%	24.6%	41.9%	18.9%	28.0%	33.4%	19.3%	24.1%	82.2%	28.5%	31.0%	18.7%	18.8%
	言われなかった	74.7%	74.3%	75.4%	58.1%	81.1%	72.0%	66.6%	80.7%	75.9%	17.8%	71.5%	69.0%	81.3%	81.3%
Q22_C (家族) 他信者頑張ってるから頑張れ_2区分	言われた	44.3%	37.8%	47.5%	51.7%	42.0%	39.8%	49.3%	46.6%	68.9%	57.8%	32.4%	51.4%	38.4%	26.6%
	言われなかった	55.7%	62.2%	52.5%	48.3%	58.0%	60.2%	50.7%	53.4%	31.1%	42.2%	67.6%	48.6%	61.6%	73.4%
Q22_D (家族) 教義に反してはだめ_2区分	言われた	63.1%	62.0%	63.3%	77.4%	54.4%	50.0%	82.9%	57.1%	97.0%	87.2%	53.2%	73.8%	52.6%	33.9%
	言われなかった	36.9%	38.0%	36.7%	22.6%	45.6%	50.0%	17.1%	42.9%	3.0%	12.8%	46.8%	26.2%	47.4%	66.1%
Q22_E (家族) 科学的知識まちがってる_2区分	言われた	29.8%	27.2%	29.7%	56.3%	11.6%	26.3%	59.5%	11.5%	82.8%	46.7%	26.2%	44.6%	12.2%	15.4%
	言われなかった	70.2%	72.8%	70.3%	43.8%	88.4%	73.7%	40.5%	88.5%	17.2%	53.3%	73.8%	55.4%	87.8%	84.6%
Q22_F (家族) 学校行事参加の禁止_2区分	言われた	30.2%	29.0%	30.6%	37.5%	20.1%	10.1%	56.6%	24.2%	94.5%	6.5%	13.4%	40.3%	19.3%	13.8%
	言われなかった	69.8%	71.0%	69.4%	62.5%	79.9%	89.9%	43.4%	75.8%	5.5%	93.5%	86.6%	59.7%	80.7%	86.2%
Q22_H (家族) 不信心なあなたのせい_2区分	言われた	27.6%	23.1%	29.1%	46.7%	24.6%	31.6%	28.7%	24.5%	41.6%	36.4%	26.7%	34.6%	21.4%	6.3%
	言われなかった	72.4%	76.9%	70.9%	53.3%	75.4%	68.4%	71.3%	75.5%	58.4%	63.6%	73.3%	65.4%	78.6%	93.8%
Q22_I (家族) 不信心なままだと家族不幸_2区分	言われた	44.0%	37.1%	46.3%	73.3%	42.2%	43.9%	45.1%	42.5%	60.5%	52.2%	40.6%	50.5%	38.7%	21.5%
	言われなかった	56.0%	62.9%	53.7%	26.7%	57.8%	56.1%	54.9%	57.5%	39.5%	47.8%	59.4%	49.5%	61.3%	78.5%
Q22_J (家族) 不信心だから失敗_2区分	言われた	33.8%	27.4%	36.2%	54.8%	36.2%	34.7%	27.8%	36.6%	36.5%	36.2%	32.1%	36.9%	31.8%	16.9%
	言われなかった	66.2%	72.6%	63.8%	45.2%	63.8%	65.3%	72.2%	63.4%	63.5%	63.8%	67.9%	63.1%	68.2%	83.1%
Q22_G (家族) 信心のおかげで成功_2区分	言われた	62.8%	54.7%	66.3%	76.7%	67.4%	62.2%	53.0%	70.8%	61.1%	63.0%	55.5%	63.2%	66.1%	40.6%
	言われなかった	37.2%	45.3%	33.7%	23.3%	32.6%	37.8%	47.0%	29.2%	38.9%	37.0%	44.5%	36.8%	33.9%	59.4%
Q24_1 (家族強要時期) 信仰行事参加_0-5歳	選択	49.7%	43.1%	52.0%	59.4%	43.5%	48.0%	62.6%	45.3%	70.2%	51.1%	49.6%	49.5%	47.8%	58.5%
Q24_2 (家族強要時期) 信仰行事参加_6-9歳	選択	67.1%	63.8%	68.2%	78.1%	64.0%	69.0%	74.8%	68.2%	87.5%	61.7%	62.4%	69.2%	63.8%	69.2%
Q24_3 (家族強要時期) 信仰行事参加_10-12歳	選択	65.9%	64.1%	66.5%	68.8%	62.0%	67.0%	73.0%	65.7%	85.1%	61.7%	62.1%	68.5%	61.7%	67.7%
Q24_4 (家族強要時期) 信仰行事参加_13-15歳	選択	55.6%	50.7%	57.6%	56.3%	52.0%	57.0%	62.0%	52.6%	78.0%	48.9%	53.7%	61.3%	48.7%	53.8%
Q24_5 (家族強要時期) 信仰行事参加_16-19歳	選択	37.8%	29.4%	41.3%	40.6%	37.0%	39.0%	38.3%	35.7%	44.6%	40.4%	40.3%	41.2%	32.7%	40.0%
Q24_6 (家族強要時期) 信仰行事参加_20歳以降	選択	22.9%	16.0%	25.0%	40.6%	23.4%	30.0%	19.4%	22.2%	23.2%	31.9%	24.5%	24.7%	18.8%	29.2%
Q24_7 (行事) 強要されたが時期おぼえてない	選択	1.7%	0.6%	2.3%	0.0%	1.8%	3.0%	0.9%	0.9%	0.0%	4.3%	1.8%	1.8%	1.9%	0.0%
Q26_1 (家族強要時期) 信仰理由の体罰_0-5歳	選択	14.4%	14.9%	13.2%	37.5%	3.9%	3.0%	35.9%	4.2%	63.1%	12.8%	7.8%	22.4%	4.9%	3.1%
Q26_2 (家族強要時期) 信仰理由の体罰_6-9歳	選択	18.2%	20.1%	16.6%	37.5%	5.9%	7.0%	43.8%	7.0%	75.0%	12.8%	10.1%	29.0%	5.3%	3.1%
Q26_3 (家族強要時期) 信仰理由の体罰_10-12歳	選択	14.3%	16.6%	12.6%	34.4%	5.2%	6.0%	32.2%	5.6%	52.4%	10.6%	11.0%	21.9%	5.1%	4.6%
Q26_4 (家族強要時期) 信仰理由の体罰_13-15歳	選択	8.7%	8.5%	7.7%	31.3%	3.4%	4.0%	18.0%	3.7%	29.2%	6.4%	7.2%	13.2%	2.6%	4.6%
Q26_5 (家族強要時期) 信仰理由の体罰_16-19歳	選択	4.7%	3.8%	4.6%	12.5%	2.9%	3.0%	6.7%	3.7%	8.9%	4.3%	5.1%	6.1%	2.8%	3.1%
Q26_6 (家族強要時期) 信仰理由の体罰_20歳以降	選択	1.9%	0.6%	2.2%	6.3%	2.0%	1.0%	1.4%	2.6%	1.2%	4.3%	1.5%	1.8%	1.6%	1.5%
Q26_7 (体罰) 強要されたが時期おぼえてない	選択	1.7%	1.5%	1.8%	3.1%	1.3%	1.0%	2.0%	1.6%	1.2%	4.3%	0.9%	2.0%	1.4%	0.0%
Q26_8 (体罰) 強要されていない	選択	75.0%	72.3%	77.2%	50.0%	89.0%	88.0%	48.1%	87.9%	16.7%	72.3%	83.0%	63.2%	88.6%	92.3%
Q28_1 (家族強要時期) 恋愛・交友の制限_0-5歳	選択	11.5%	10.5%	11.2%	25.0%	2.9%	1.0%	30.1%	2.8%	42.9%	40.4%	5.7%	18.2%	3.9%	1.5%
Q28_2 (家族強要時期) 恋愛・交友の制限_6-9歳	選択	17.6%	16.9%	17.0%	31.3%	4.4%	8.0%	44.3%	4.9%	63.7%	53.2%	8.7%	28.0%	5.6%	3.1%
Q28_3 (家族強要時期) 恋愛・交友の制限_10-12歳	選択	20.2%	19.5%	19.4%	34.4%	5.7%	9.0%	49.3%	6.3%	70.2%	66.0%	9.9%	32.3%	6.3%	3.1%
Q28_4 (家族強要時期) 恋愛・交友の制限_13-15歳	選択	21.4%	19.2%	21.6%	31.3%	6.2%	11.0%	51.9%	6.1%	69.6%	70.2%	11.9%	33.8%	7.0%	6.2%
Q28_5 (家族強要時期) 恋愛・交友の制限_16-19歳	選択	20.0%	18.1%	20.1%	25.0%	6.9%	12.0%	46.4%	6.8%	55.4%	72.3%	13.7%	30.6%	7.2%	9.2%
Q28_6 (家族強要時期) 恋愛・交友の制限20歳以降	選択	14.9%	11.1%	16.2%	21.9%	10.0%	7.0%	26.1%	9.8%	29.2%	55.3%	10.7%	18.7%	11.4%	4.6%

宗教二世調査 集計表		性自認				入信宗教タイプ			教団名				何世		
		全体	男性	女性	Xジェンダー・その他	仏教系	神道系	キリスト教系	創価学会	エホバの証人	旧統一教会	その他	2世	3世	4世以上
		n=1131	n=343	n=741	n=32	n=611	n=100	n=345	n=428	n=168	n=47	n=335	n=604	n=431	n=65
Q28_7 (関係) 強要されたが時期おぼえてない	選択	2.4%	1.7%	2.6%	6.3%	2.0%	2.0%	2.9%	1.4%	1.8%	2.1%	4.2%	3.1%	1.4%	1.5%
Q28_8 (関係) 強要されていない	選択	66.0%	69.7%	65.2%	50.0%	83.1%	79.0%	32.2%	83.9%	16.1%	12.8%	72.8%	52.3%	81.2%	86.2%
Q30_1 (家族強要時期) 学業・職業の制限_0-5歳	選択	6.4%	3.5%	7.0%	18.8%	2.3%	0.0%	15.9%	2.3%	25.6%	6.4%	3.0%	10.3%	2.3%	0.0%
Q30_2 (家族強要時期) 学業・職業の制限_6-9歳	選択	8.0%	7.0%	7.8%	18.8%	2.9%	1.0%	18.8%	3.7%	29.8%	6.4%	4.2%	12.7%	2.3%	3.1%
Q30_3 (家族強要時期) 学業・職業の制限_10-12歳	選択	9.9%	8.7%	9.7%	21.9%	5.2%	1.0%	20.9%	6.3%	33.9%	6.4%	5.1%	14.9%	4.4%	1.5%
Q30_4 (家族強要時期) 学業・職業の制限_13-15歳	選択	13.3%	10.5%	13.8%	25.0%	7.0%	6.0%	26.7%	7.2%	43.5%	8.5%	8.4%	18.5%	6.5%	9.2%
Q30_5 (家族強要時期) 学業・職業の制限_16-19歳	選択	15.0%	14.3%	14.7%	21.9%	8.2%	14.0%	27.5%	8.4%	45.8%	8.5%	10.7%	20.5%	8.6%	7.7%
Q30_6 (家族強要時期) 学業・職業の制限_20歳以上	選択	6.4%	5.0%	6.9%	9.4%	3.6%	2.0%	12.5%	2.8%	20.2%	6.4%	4.8%	9.4%	2.6%	4.6%
Q30_7 (学・職) 強要されたが時期おぼえてない	選択	1.9%	1.5%	1.9%	6.3%	1.1%	0.0%	3.5%	1.6%	4.2%	4.3%	1.2%	2.8%	0.9%	0.0%
Q30_8 (学・職) 強要されていない	選択	76.0%	78.4%	76.0%	56.3%	85.6%	79.0%	58.0%	84.6%	33.3%	87.2%	81.8%	67.5%	86.8%	78.5%
Q32 周囲からの理不尽な対応	頻繁にあった	6.7%	7.3%	6.1%	15.6%	4.7%	2.0%	11.3%	5.1%	19.0%	10.6%	3.0%	9.1%	3.9%	6.2%
	たまにあった	24.7%	26.8%	23.5%	31.3%	24.2%	18.0%	28.4%	27.1%	36.9%	21.3%	17.6%	25.0%	25.1%	18.5%
	あまりなかった	21.7%	22.4%	21.2%	21.9%	21.8%	21.0%	23.8%	23.6%	25.6%	12.8%	18.2%	22.0%	21.1%	20.0%
	まったくなかった	35.3%	35.6%	36.0%	18.8%	37.8%	50.0%	26.1%	33.2%	11.9%	36.2%	48.4%	31.5%	38.1%	47.7%
	おぼえていない	8.9%	6.1%	10.3%	6.3%	8.8%	6.0%	8.1%	9.3%	4.8%	10.6%	10.1%	9.3%	9.5%	4.6%
	無回答	2.7%	1.7%	3.0%	6.3%	2.6%	3.0%	2.3%	1.6%	1.8%	8.5%	2.7%	3.1%	2.3%	3.1%
Q32 周囲からの理不尽な対応_3区分	あった	32.3%	34.7%	30.5%	50.0%	29.7%	20.6%	40.7%	32.8%	57.0%	34.9%	21.2%	35.2%	29.7%	25.4%
	なかった	58.5%	59.1%	59.0%	43.3%	61.2%	73.2%	51.0%	57.7%	38.2%	53.5%	68.4%	55.2%	60.6%	69.8%
	おぼえていない	9.2%	6.2%	10.6%	6.7%	9.1%	6.2%	8.3%	9.5%	4.8%	11.6%	10.4%	9.6%	9.7%	4.8%
Q34_A 「2世信者」になった時期	12歳以下	88.9%	89.5%	89.2%	84.4%	91.0%	92.0%	87.2%	95.6%	94.6%	87.2%	79.7%	88.6%	91.2%	84.6%
	13-18歳	4.0%	2.0%	4.7%	3.1%	3.1%	2.0%	6.4%	1.6%	1.2%	6.4%	6.9%	5.8%	2.1%	1.5%
	19-22歳	1.1%	1.2%	0.9%	3.1%	0.8%	0.0%	1.4%	0.2%	1.2%	2.1%	1.8%	1.7%	0.2%	0.0%
	23歳以上	1.1%	0.9%	1.2%	3.1%	1.3%	0.0%	0.6%	0.5%	0.0%	0.0%	3.3%	1.2%	1.4%	0.0%
	あてはまる時期は	3.6%	5.2%	2.8%	6.3%	2.9%	4.0%	3.5%	1.4%	1.8%	2.1%	6.9%	1.7%	4.4%	12.3%
	無回答	1.2%	1.2%	1.1%	0.0%	0.8%	2.0%	0.9%	0.7%	1.2%	2.1%	1.5%	1.2%	0.7%	1.5%
Q34_B はじめて疑問を抱いた時期	12歳以下	34.0%	28.3%	36.3%	43.8%	32.1%	29.0%	37.7%	34.1%	47.6%	23.4%	32.8%	33.9%	33.2%	35.4%
	13-18歳	35.5%	36.7%	34.8%	40.6%	36.8%	35.0%	35.1%	37.1%	32.7%	48.9%	35.2%	35.4%	36.2%	30.8%
	19-22歳	12.1%	12.8%	12.0%	9.4%	11.8%	15.0%	11.3%	12.6%	7.1%	19.1%	11.9%	12.6%	12.1%	9.2%
	23歳以上	8.2%	10.8%	7.2%	3.1%	9.3%	6.0%	7.2%	8.6%	7.7%	2.1%	8.1%	10.4%	6.7%	0.0%
	あてはまる時期は	8.8%	10.5%	8.4%	3.1%	8.5%	13.0%	7.8%	6.1%	4.2%	6.4%	11.0%	6.0%	10.9%	23.1%
	無回答	1.3%	0.9%	1.3%	0.0%	1.5%	2.0%	0.9%	1.4%	0.6%	0.0%	0.9%	1.7%	0.9%	1.5%
Q34_C はじめて疑問を口にした時期	12歳以下	18.9%	16.0%	19.3%	37.5%	18.0%	12.0%	20.9%	19.4%	22.6%	12.8%	19.4%	17.4%	19.5%	23.1%
	13-18歳	33.8%	35.0%	33.9%	25.0%	34.2%	36.0%	34.5%	37.6%	36.3%	38.3%	29.3%	34.3%	33.9%	30.8%
	19-22歳	16.3%	15.7%	16.6%	12.5%	17.0%	14.0%	14.8%	16.6%	14.9%	25.5%	17.0%	17.4%	15.8%	7.7%
	23歳以上	13.1%	14.6%	12.6%	9.4%	13.7%	17.0%	11.0%	12.1%	11.9%	4.3%	15.5%	15.9%	11.6%	3.1%
	あてはまる時期は	14.9%	16.9%	14.0%	15.6%	13.9%	19.0%	15.4%	12.1%	10.1%	10.6%	17.6%	11.1%	17.4%	32.3%
	無回答	3.0%	1.7%	3.6%	0.0%	3.1%	2.0%	3.5%	2.1%	4.2%	8.5%	1.2%	4.0%	1.9%	3.1%
Q34_D はじめて信仰をやめようと思った時期	12歳以下	14.5%	14.0%	14.6%	15.6%	13.4%	9.0%	16.8%	14.7%	24.4%	10.6%	12.2%	14.6%	13.9%	10.8%
	13-18歳	29.0%	27.1%	29.6%	34.4%	26.7%	32.0%	33.9%	28.7%	44.0%	34.0%	24.2%	32.5%	27.6%	12.3%



宗教二世調査 集計表		性自認				入信宗教タイプ			教団名				何世		
		全体	男性	女性	Xジェンダー・その他	仏教系	神道系	キリスト教系	創価学会	エホバの証人	旧統一教会	その他	2世	3世	4世以上
		n=1131	n=343	n=741	n=32	n=611	n=100	n=345	n=428	n=168	n=47	n=335	n=604	n=431	n=65
	19-22歳	15.5%	14.3%	16.1%	15.6%	16.0%	12.0%	15.4%	15.9%	13.7%	23.4%	17.0%	16.9%	13.2%	15.4%
	23歳以上	16.8%	16.0%	17.4%	12.5%	18.5%	20.0%	13.3%	17.5%	11.9%	12.8%	18.5%	17.2%	18.1%	12.3%
	あてはまる時期は無回答	20.6%	24.8%	19.2%	15.6%	20.6%	23.0%	19.1%	19.4%	5.4%	17.0%	25.1%	15.2%	24.1%	43.1%
	無回答	3.6%	3.8%	3.2%	6.3%	4.7%	4.0%	1.4%	3.7%	0.6%	2.1%	3.0%	3.6%	3.0%	6.2%
Q36 脱会時期	12歳以下	2.8%	2.6%	2.7%	6.3%	1.6%	0.0%	4.9%	1.9%	5.4%	4.3%	3.6%	4.0%	1.4%	0.0%
	13-18歳	12.2%	10.8%	12.6%	15.6%	3.9%	11.0%	28.1%	3.5%	44.6%	8.5%	9.3%	19.5%	4.4%	1.5%
	19-22歳	9.5%	10.8%	8.9%	9.4%	4.9%	13.0%	16.5%	4.7%	19.0%	17.0%	10.7%	12.3%	6.3%	7.7%
	23歳以上	12.3%	9.6%	13.2%	21.9%	10.8%	8.0%	16.5%	8.6%	18.5%	19.1%	14.0%	16.1%	8.1%	6.2%
	脱会はしたが時期	4.2%	4.1%	4.5%	3.1%	4.9%	5.0%	2.6%	4.4%	1.2%	8.5%	5.1%	4.8%	3.9%	3.1%
	脱会していない	56.3%	59.5%	55.6%	40.6%	72.2%	58.0%	28.7%	76.4%	10.1%	34.0%	53.1%	41.2%	73.3%	78.5%
	無回答	2.7%	2.6%	2.6%	3.1%	1.6%	5.0%	2.6%	0.5%	1.2%	8.5%	4.2%	2.2%	2.6%	3.1%
Q34_A「2世信者」になった時期_3区分	12歳以下	90.1%	90.6%	90.2%	84.4%	91.7%	93.9%	88.0%	96.2%	95.8%	89.1%	80.9%	89.6%	91.8%	85.9%
	13歳以上	6.3%	4.1%	7.0%	9.4%	5.3%	2.0%	8.5%	2.4%	2.4%	8.7%	12.1%	8.7%	3.7%	1.6%
	あてはまる時期は無回答	3.7%	5.3%	2.9%	6.3%	3.0%	4.1%	3.5%	1.4%	1.8%	2.2%	7.0%	1.7%	4.4%	12.5%
Q34_B初めて疑問を抱いた時期_4区分	12歳以下	34.5%	28.5%	36.8%	43.8%	32.6%	29.6%	38.0%	34.6%	47.9%	23.4%	33.1%	34.5%	33.5%	35.9%
	13-18歳	35.9%	37.1%	35.3%	40.6%	37.4%	35.7%	35.4%	37.7%	32.9%	48.9%	35.5%	36.0%	36.5%	31.3%
	19歳以上	20.6%	23.8%	19.4%	12.5%	21.4%	21.4%	18.7%	21.6%	15.0%	21.3%	20.2%	23.4%	19.0%	9.4%
	あてはまる時期は無回答	9.0%	10.6%	8.5%	3.1%	8.6%	13.3%	7.9%	6.2%	4.2%	6.4%	11.1%	6.1%	11.0%	23.4%
Q34_Cはじめて疑問を口にした時期_4区分	12歳以下	23.1%	19.7%	23.4%	44.4%	21.7%	15.2%	25.7%	22.6%	26.4%	15.8%	23.9%	20.5%	24.1%	35.7%
	13-18歳	41.2%	43.0%	41.1%	29.6%	41.2%	45.6%	42.5%	43.9%	42.4%	47.4%	36.0%	40.4%	42.0%	47.6%
	19歳以上	35.8%	37.3%	35.4%	25.9%	37.1%	39.2%	31.8%	33.5%	31.3%	36.8%	40.1%	39.2%	33.9%	16.7%
	あてはまる時期は無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Q34_Dはじめて信仰をやめよう時期_4区分	12歳以下	19.1%	19.6%	18.8%	20.0%	18.0%	12.3%	21.2%	19.1%	25.9%	13.2%	17.0%	18.0%	19.1%	21.2%
	13-18歳	38.3%	38.0%	38.1%	44.0%	35.7%	43.8%	42.7%	37.4%	46.8%	42.1%	33.6%	40.0%	37.9%	24.2%
	19歳以上	42.6%	42.4%	43.1%	36.0%	46.3%	43.8%	36.1%	43.5%	27.2%	44.7%	49.4%	42.0%	43.0%	54.5%
	あてはまる時期は無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Q36脱会時期_4区分	18歳以下	15.4%	13.8%	15.7%	22.6%	5.7%	11.6%	33.9%	5.4%	50.6%	14.0%	13.4%	24.0%	6.0%	1.6%
	19歳以上	22.3%	21.0%	22.7%	32.3%	16.0%	22.1%	33.9%	13.4%	38.0%	39.5%	25.9%	28.9%	14.8%	14.3%
	脱会したが時期は無回答	4.4%	4.2%	4.6%	3.2%	5.0%	5.3%	2.7%	4.5%	1.2%	9.3%	5.3%	4.9%	4.0%	3.2%
	脱会していない	57.9%	61.1%	57.1%	41.9%	73.4%	61.1%	29.5%	76.8%	10.2%	37.2%	55.5%	42.1%	75.2%	81.0%
Q34_36 信者/脱会×信仰	信者・信仰への疑	6.3%	6.7%	6.3%	3.1%	6.1%	9.0%	5.2%	4.4%	0.6%	6.4%	8.7%	4.1%	7.9%	16.9%
	信者・信仰への疑	48.8%	51.9%	47.8%	37.5%	64.5%	48.0%	22.6%	70.3%	8.9%	25.5%	44.5%	35.6%	64.5%	60.0%
	脱会者	41.0%	37.9%	41.8%	56.3%	26.2%	37.0%	68.7%	23.1%	88.7%	57.4%	42.7%	56.6%	24.1%	18.5%
Q37_1 (脱会時の問題) 家族関係の悪化	選択	58.3%	58.9%	57.5%	68.8%	52.3%	65.4%	61.5%	50.0%	64.2%	50.0%	60.2%	60.0%	50.0%	87.5%
Q37_2 (脱会時の問題) 家族心身の不安定	選択	25.5%	28.9%	22.7%	50.0%	14.0%	15.4%	32.5%	12.9%	36.6%	22.7%	25.2%	28.9%	14.1%	12.5%
Q37_3 (脱会時の問題) 友人とのつながり減る	選択	19.9%	26.7%	17.0%	25.0%	13.1%	3.8%	27.5%	14.5%	31.3%	13.6%	11.7%	21.8%	12.5%	12.5%
Q37_4 (脱会時の問題) 経済的自立困難	選択	18.2%	24.4%	15.8%	25.0%	9.3%	3.8%	23.5%	11.3%	26.1%	27.3%	14.6%	19.6%	10.9%	25.0%
Q37_5 (脱会時の問題) 宗教的価値観が残り一般	選択	45.9%	55.6%	43.3%	43.8%	25.2%	30.8%	60.5%	19.4%	62.7%	54.5%	37.9%	53.2%	15.6%	37.5%
Q37_6 (脱会時の問題) 親を裏切る気持ち	選択	17.1%	18.9%	16.6%	18.8%	17.8%	15.4%	15.5%	12.9%	17.9%	9.1%	19.4%	18.9%	10.9%	12.5%

宗教二世調査 集計表			性自認				入信宗教タイプ			教団名				何世		
			全体	男性	女性	Xジェンダー・その他	仏教系	神道系	キリスト教系	創価学会	工ホバの証人	旧統一教会	その他	2世	3世	4世以上
			n=1131	n=343	n=741	n=32	n=611	n=100	n=345	n=428	n=168	n=47	n=335	n=604	n=431	n=65
Q37_7 (脱会時の問題) 新しい世界観構築困難	選択	44.5%	50.0%	42.9%	43.8%	18.7%	26.9%	60.5%	14.5%	62.7%	59.1%	35.9%	50.4%	23.4%	12.5%	
Q37_8 (脱会時の問題) 教団関係者から脅迫・避	選択	10.9%	13.3%	10.1%	12.5%	8.4%	11.5%	12.0%	14.5%	12.7%	9.1%	7.8%	11.1%	10.9%	12.5%	
Q37_9 (脱会時の問題) 家族から脅迫・避難・暴	選択	22.4%	15.6%	23.5%	50.0%	14.0%	19.2%	26.0%	14.5%	26.1%	31.8%	23.3%	22.5%	21.9%	12.5%	
Q37_10 (脱会時の問題) 教団や家族から何度も再	選択	35.0%	38.9%	33.2%	37.5%	29.9%	38.5%	39.5%	30.6%	38.8%	45.5%	34.0%	36.8%	29.7%	25.0%	
Q37_11 (脱会時の問題) 行政の相談不十分	選択	2.5%	1.1%	2.0%	18.8%	1.9%	0.0%	1.5%	3.2%	1.5%	4.5%	2.9%	2.5%	3.1%	0.0%	
Q37_12 (脱会時の問題) 警察の相談不十分	選択	1.4%	1.1%	0.8%	12.5%	0.9%	0.0%	1.5%	1.6%	1.5%	4.5%	1.0%	1.4%	1.6%	0.0%	
Q37_13 (脱会時の問題) 上記項目以外で困難あり	選択	12.9%	12.2%	11.3%	31.3%	19.6%	0.0%	9.0%	22.6%	8.2%	4.5%	16.5%	9.6%	26.6%	0.0%	
Q37_14 (脱会時の問題) 困難なし/おぼえていな	選択	23.1%	30.8%	20.3%	11.1%	33.1%	29.7%	15.6%	37.4%	10.1%	18.5%	28.0%	18.1%	38.5%	33.3%	
Q39_1 (宗教の残響) 自身の性意識や性行動への	選択	41.0%	46.2%	38.1%	58.3%	10.2%	18.2%	56.6%	10.6%	58.7%	63.6%	30.3%	45.6%	26.3%	22.2%	
Q39_2 (宗教の残響) 恋愛をすることへの罪悪感	選択	28.3%	26.9%	27.8%	50.0%	3.4%	13.6%	41.0%	2.1%	43.7%	50.0%	18.2%	33.0%	12.3%	11.1%	
Q39_3 (宗教の残響) 性的関係を含む人間関係構	選択	43.1%	44.1%	42.2%	58.3%	21.6%	22.7%	55.1%	14.9%	62.7%	50.0%	32.3%	48.3%	26.3%	22.2%	
Q39_4 (宗教の残響) 性的マイノリティや同性愛	選択	17.8%	28.0%	11.7%	41.7%	3.4%	4.5%	25.4%	0.0%	27.0%	22.7%	15.2%	18.4%	14.0%	22.2%	
Q39_5 (宗教の残響) 宗教団体が支持していた政	選択	8.7%	6.5%	9.4%	16.7%	14.8%	13.6%	4.9%	23.4%	1.6%	18.2%	10.1%	6.5%	19.3%	11.1%	
Q39_6 (宗教の残響) 自分は選ばれた人間だとい	選択	11.1%	10.8%	10.3%	25.0%	12.5%	18.2%	8.3%	10.6%	8.7%	9.1%	16.2%	10.7%	14.0%	11.1%	
Q39_7 (宗教の残響) 異なる宗教行事への抵抗感	選択	51.8%	52.7%	52.0%	50.0%	38.6%	36.4%	60.5%	55.3%	70.6%	4.5%	38.4%	52.1%	49.1%	55.6%	
Q39_8 (宗教の残響) 上記以外で感じることもあり	選択	54.8%	51.6%	55.6%	58.3%	60.2%	68.2%	50.2%	46.8%	50.8%	40.9%	64.6%	55.9%	50.9%	33.3%	
Q39_9 (宗教の残響) 感じることはほとんどなか	選択	28.4%	28.5%	28.1%	33.3%	45.0%	40.5%	13.5%	52.5%	15.4%	18.5%	30.8%	23.7%	45.2%	25.0%	
抑うつ度得点 平均		15.6	14.1	16.0	20.7	14.9	14.3	16.4	14.6	17.1	17.7	16.3	16.3	14.7	13.9	
Q41_A (抑うつ度) 物事に対してほとんど興味が	全くない	62.0%	66.2%	61.1%	46.9%	65.6%	63.0%	58.6%	68.5%	54.2%	53.2%	55.8%	58.1%	66.8%	72.3%	
	1週間未満	18.0%	16.9%	18.2%	25.0%	17.3%	20.0%	17.7%	15.9%	20.2%	21.3%	21.5%	19.0%	17.2%	13.8%	
	1週間以上	7.3%	7.0%	7.0%	18.8%	5.6%	7.0%	9.3%	4.7%	8.3%	8.5%	9.9%	8.1%	6.5%	7.7%	
	ほとんど毎日	8.6%	6.1%	9.6%	6.3%	7.9%	6.0%	9.3%	7.0%	10.7%	14.9%	9.3%	10.3%	6.3%	3.1%	
	無回答	4.1%	3.8%	4.0%	3.1%	3.6%	4.0%	5.2%	4.0%	6.5%	2.1%	3.6%	4.5%	3.2%	3.1%	
Q41_B (抑うつ度) 気分が落ち込む、憂うつにな	全くない	45.5%	53.6%	43.3%	15.6%	50.1%	51.0%	38.6%	52.8%	32.1%	34.0%	42.7%	41.1%	49.7%	61.5%	
	1週間未満	24.0%	20.1%	25.1%	37.5%	22.1%	22.0%	27.8%	20.6%	33.3%	21.3%	23.6%	25.5%	23.2%	18.5%	
	1週間以上	12.6%	11.1%	13.1%	25.0%	12.1%	13.0%	13.0%	12.1%	11.9%	14.9%	14.9%	13.4%	12.3%	6.2%	
	ほとんど毎日	14.9%	12.0%	15.8%	21.9%	12.9%	12.0%	16.8%	11.9%	17.3%	27.7%	16.7%	17.4%	12.3%	9.2%	
	無回答	2.9%	3.2%	2.7%	0.0%	2.8%	2.0%	3.8%	2.6%	5.4%	2.1%	2.1%	2.6%	2.6%	4.6%	
Q41_C (抑うつ度) 寝付きが悪い、途中で目がさ	全くない	48.3%	55.4%	46.2%	25.0%	50.7%	52.0%	45.5%	52.8%	38.1%	53.2%	44.8%	46.0%	51.0%	58.5%	
	1週間未満	17.9%	18.4%	17.9%	12.5%	17.2%	18.0%	18.0%	15.9%	19.6%	12.8%	19.7%	17.7%	19.3%	9.2%	
	1週間以上	11.1%	8.7%	11.9%	21.9%	10.3%	11.0%	12.5%	10.0%	16.7%	2.1%	11.9%	12.6%	9.3%	12.3%	
	ほとんど毎日	19.0%	13.7%	20.5%	37.5%	19.0%	16.0%	18.6%	18.9%	19.0%	29.8%	20.3%	19.7%	17.9%	15.4%	
	無回答	3.6%	3.8%	3.5%	3.1%	2.8%	3.0%	5.5%	2.3%	6.5%	2.1%	3.3%	4.0%	2.6%	4.6%	
Q41_D (抑うつ度) 疲れた感じがする、または気	全くない	38.2%	46.1%	35.9%	15.6%	41.1%	49.0%	32.5%	43.7%	29.2%	31.9%	35.2%	34.9%	41.8%	44.6%	
	1週間未満	22.8%	22.7%	22.7%	21.9%	21.3%	22.0%	24.6%	19.9%	25.6%	23.4%	23.3%	23.2%	23.0%	21.5%	
	1週間以上	14.0%	10.2%	15.4%	25.0%	14.4%	10.0%	14.2%	13.8%	16.1%	8.5%	15.5%	15.2%	12.3%	12.3%	
	ほとんど毎日	22.0%	17.8%	23.1%	37.5%	20.8%	16.0%	24.3%	20.6%	23.8%	31.9%	24.2%	23.3%	20.9%	16.9%	
	無回答	3.0%	3.2%	3.0%	0.0%	2.5%	3.0%	4.3%	2.1%	5.4%	4.3%	1.8%	3.3%	2.1%	4.6%	
Q41_E (抑うつ度) あまり食欲がない、または食	全くない	62.2%	71.7%	59.2%	43.8%	63.8%	69.0%	60.3%	68.0%	57.1%	53.2%	58.5%	58.6%	67.3%	64.6%	

宗教二世調査 集計表		性自認				入信宗教タイプ			教団名				何世		
		全体	男性	女性	Xジェンダー・その他	仏教系	神道系	キリスト教系	創価学会	エホバの証人	旧統一教会	その他	2世	3世	4世以上
		n=1131	n=343	n=741	n=32	n=611	n=100	n=345	n=428	n=168	n=47	n=335	n=604	n=431	n=65
	1週間未満	13.4%	9.0%	15.1%	9.4%	12.8%	12.0%	13.0%	10.5%	14.3%	17.0%	15.2%	13.1%	13.7%	15.4%
	1週間以上	8.6%	8.2%	8.6%	15.6%	8.8%	9.0%	9.3%	8.6%	12.5%	4.3%	8.4%	10.6%	6.5%	4.6%
	ほとんど毎日	12.6%	7.3%	14.3%	28.1%	11.8%	8.0%	13.3%	10.0%	10.1%	23.4%	15.5%	14.4%	10.0%	12.3%
	無回答	3.2%	3.8%	2.7%	3.1%	2.8%	2.0%	4.1%	2.8%	6.0%	2.1%	2.4%	3.3%	2.6%	3.1%
Q41_F (抑うつ度) 自分はダメな人間だ、人生の	全くない	53.8%	58.6%	53.0%	25.0%	57.8%	59.0%	47.2%	61.0%	42.9%	51.1%	49.3%	49.5%	60.3%	61.5%
	1週間未満	18.5%	19.0%	18.1%	28.1%	17.0%	18.0%	21.4%	14.5%	21.4%	19.1%	21.2%	18.9%	17.4%	18.5%
	1週間以上	9.1%	8.2%	9.3%	18.8%	8.7%	9.0%	9.0%	9.3%	11.9%	6.4%	9.0%	10.1%	7.4%	7.7%
	ほとんど毎日	15.1%	10.8%	16.5%	25.0%	13.1%	11.0%	18.3%	11.9%	19.0%	21.3%	17.3%	17.5%	12.5%	9.2%
	無回答	3.4%	3.5%	3.1%	3.1%	3.4%	3.0%	4.1%	3.3%	4.8%	2.1%	3.3%	4.0%	2.3%	3.1%
Q41_G (抑うつ度) 新聞を読む、またはテレビを	全くない	68.2%	73.2%	67.6%	40.6%	71.0%	72.0%	63.5%	73.8%	61.9%	53.2%	63.9%	65.7%	70.5%	76.9%
	1週間未満	13.4%	11.4%	13.6%	25.0%	12.6%	16.0%	13.9%	10.3%	13.7%	10.6%	16.7%	13.7%	13.5%	9.2%
	1週間以上	5.7%	4.4%	5.7%	21.9%	5.1%	4.0%	6.7%	4.9%	8.9%	8.5%	6.6%	6.8%	4.9%	1.5%
	ほとんど毎日	8.8%	7.0%	9.4%	12.5%	7.5%	5.0%	11.3%	7.0%	9.5%	25.5%	9.9%	9.9%	7.9%	6.2%
	無回答	3.9%	4.1%	3.6%	0.0%	3.8%	3.0%	4.6%	4.0%	6.0%	2.1%	3.0%	3.8%	3.2%	6.2%
Q41_H (抑うつ度) 他人が気づくぐらいに動きや	全くない	74.6%	79.3%	73.5%	65.6%	78.6%	77.0%	70.1%	80.6%	66.1%	66.0%	71.0%	71.0%	79.6%	81.5%
	1週間未満	9.8%	7.6%	10.8%	9.4%	9.0%	9.0%	10.4%	7.9%	12.5%	12.8%	10.4%	10.6%	8.6%	9.2%
	1週間以上	5.0%	4.1%	4.9%	18.8%	4.1%	4.0%	7.2%	3.5%	8.3%	2.1%	6.6%	7.1%	3.0%	0.0%
	ほとんど毎日	5.8%	4.7%	6.1%	6.3%	3.9%	4.0%	7.5%	4.2%	7.7%	12.8%	6.6%	6.5%	4.9%	4.6%
	無回答	4.7%	4.4%	4.7%	0.0%	4.4%	6.0%	4.6%	3.7%	5.4%	6.4%	5.4%	4.8%	3.9%	4.6%
Q41_I (抑うつ度) 死んだ方がましだ、あるいは	全くない	66.3%	73.2%	65.0%	34.4%	68.2%	73.0%	64.3%	70.6%	60.1%	59.6%	65.4%	61.3%	72.4%	76.9%
	1週間未満	12.6%	9.6%	13.2%	28.1%	11.8%	12.0%	12.8%	10.5%	16.1%	8.5%	13.1%	13.1%	12.8%	9.2%
	1週間以上	6.9%	5.2%	7.4%	12.5%	6.2%	8.0%	7.5%	4.9%	7.7%	2.1%	8.1%	9.3%	3.9%	4.6%
	ほとんど毎日	8.7%	6.1%	9.3%	12.5%	7.9%	4.0%	9.6%	8.4%	10.1%	23.4%	8.7%	10.4%	6.5%	4.6%
	無回答	5.6%	5.8%	5.0%	12.5%	5.9%	3.0%	5.8%	5.6%	6.0%	6.4%	4.8%	6.0%	4.4%	4.6%
Q42_1 (支援ニーズ) 献金の上限規制	選択	52.6%	49.0%	53.7%	68.8%	52.4%	59.0%	49.0%	52.1%	51.2%	63.8%	56.4%	55.5%	49.9%	40.0%
Q42_2 (支援ニーズ) 問題の宗教団体の解散命令	選択	7191.2%	64.4%	71.1%	90.6%	71.2%	70.0%	65.5%	72.7%	69.6%	57.4%	74.3%	71.2%	68.7%	63.1%
Q42_3 (支援ニーズ) カルト団体の定義化と規制	選択	67.3%	62.1%	69.2%	78.1%	65.1%	68.0%	68.4%	67.1%	67.3%	66.0%	74.6%	70.0%	65.0%	60.0%
Q42_4 (支援ニーズ) 宗教的被害に対する社会一	選択	55.7%	55.1%	55.5%	65.6%	53.8%	55.0%	57.7%	57.9%	58.3%	57.4%	58.2%	57.3%	54.3%	49.2%
Q42_5 (支援ニーズ) 信者・元信者に対する偏見	選択	51.2%	57.4%	48.2%	59.4%	51.4%	50.0%	51.0%	55.4%	46.4%	63.8%	48.4%	48.3%	55.5%	44.6%
Q42_6 (支援ニーズ) 支援職・医療者・行政関係	選択	45.3%	45.8%	43.5%	81.3%	39.8%	43.0%	54.8%	41.8%	56.0%	53.2%	48.1%	46.7%	42.5%	43.1%
Q42_7 (支援ニーズ) 脱会した・したい信者のた	選択	59.8%	53.9%	61.9%	68.8%	58.3%	58.0%	62.0%	62.4%	64.9%	59.6%	61.8%	61.1%	57.5%	58.5%
Q42_8 (支援ニーズ) 脱会した・したい信者のた	選択	50.4%	49.9%	49.9%	65.6%	47.0%	48.0%	54.8%	49.8%	57.7%	51.1%	53.7%	53.5%	45.0%	52.3%
Q42_9 (支援ニーズ) 脱会した・したい信者のた	選択	55.8%	51.3%	56.7%	71.9%	50.6%	51.0%	64.6%	52.8%	73.8%	42.6%	59.1%	59.1%	51.3%	49.2%
Q42_10 (支援ニーズ) 子どもが親・教団から離れ	選択	73.0%	66.8%	75.0%	93.8%	72.0%	66.0%	75.4%	74.3%	81.0%	66.0%	75.5%	75.0%	71.0%	72.3%
Q42_11 (支援ニーズ) 宗教的トラウマに対する医	選択	55.9%	50.7%	57.4%	75.0%	53.7%	51.0%	60.0%	54.7%	66.7%	55.3%	57.9%	58.8%	52.4%	50.8%
Q42_12 (支援ニーズ) 宗教関連トラブルに対する	選択	62.5%	56.9%	64.2%	78.1%	63.7%	63.0%	60.3%	63.8%	61.9%	57.4%	65.1%	61.4%	63.8%	63.1%
Q42_13 (支援ニーズ) その他	選択	11.5%	12.0%	10.9%	18.8%	12.1%	7.0%	10.7%	13.8%	9.5%	8.5%	12.5%	10.4%	13.0%	6.2%
Q42_14 (支援ニーズ) 希望なし	選択	3.4%	5.5%	2.6%	0.0%	2.8%	7.0%	3.5%	2.3%	3.0%	4.3%	2.4%	2.6%	4.2%	6.2%